四街道市出口・鐘塚遺跡

— 物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書II —

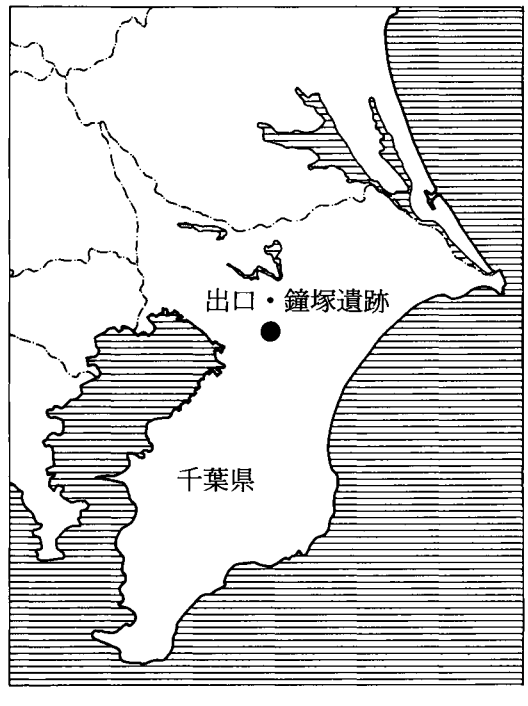
平成11年3月

住宅・都市整備公団

財団法人　千葉県文化財センター

四街道市出口（でぐち）・鐘塚（かねづか）遺跡

— 物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書II —



垂飾様石製品・斧型石器

序　文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告書第357集として住宅・都市整備公団の物井地区土地区画整理事業に伴って実施した四街道市出口・鐘塚遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、日本最古級の垂飾様石製品や局部磨製石斧が出土するなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成11年３月31日

財団法人千葉県文化財センター

理事長　中村　好成

凡　例

1．本書は、住宅・都市整備公団による物井地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2．本書に収録した遺跡は、四街道市物井字出口1404-1ほかに所在する出口・鐘塚遺跡（遺跡コード228-009）である。

3．発掘調査から報告書作成に至る業務は、住宅・都市整備公団首都圏開発本部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4．発掘調査に係る各年度の組織及び担当職員は、下記のとおりである。

昭和61年度

組織	調査部長	鈴木道之助
	部長補佐	岡川宏道、古内　茂
	班　長	矢戸三男
	担当職員	加藤正信、渡辺政治

昭和62年度

組織	調査部長	堀部昭夫
	部長補佐	岡川宏道、古内　茂
	班　長	大原正義
	担当職員	今泉　潔、糸川道行、渡辺政治

5．整理作業及び報告書作成作業に係る各年度の組織及び担当職員は、下記のとおりである。

平成5年度

組織	調査研究部長	高木　博彦
	事業課長	西山　太郎
	所　長	深澤　克友
	担当職員	矢本　節朗

平成9年度

組織	調査部長	西山　太郎
	調査課長	古内　　茂
	所　長	藤崎　芳樹
	担当職員	岡田　誠造

平成10年度

組織	調査部長	沼澤　　豊
	調査副部長	古内　　茂
	調査課長	上野　純司
	所　長	折原　　繁
	担当職員	岡田　誠造

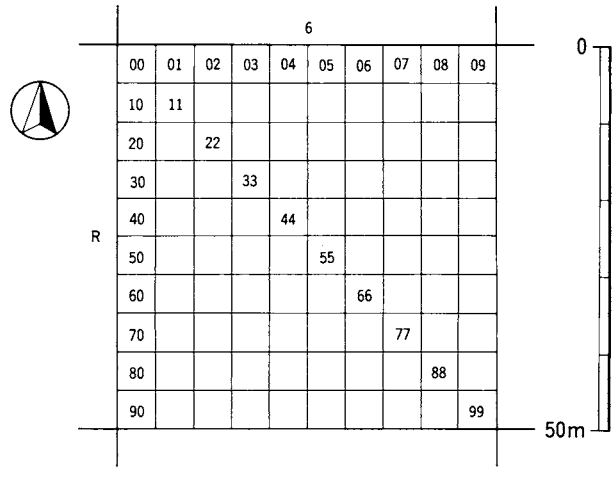
6．本書の執筆は、岡田誠造が行った。

7．発掘調査から本書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課をはじめ、住宅・都市整備公団首都圏開発本部、同千葉北部開発事務所、四街道市教育委員会から御指導、御協力を得た。

8．本書で使用した地形図のうち、第1図は国土地理院発行の1：25,000「佐倉（ＮＩ-54-19-14-2）」を使用した。

9．本書で使用した図面の方位は、座標北を示す。

10．航空写真は、京葉測量株式会社の撮影（昭和50年）によるものを使用した。



大グリッドと小グリッド

目　　次

序　文
凡　例
第1章　はじめに……1
　第1節　調査の概要……1
　　1　調査の経緯と経過……1
　　2　調査の方法……1
　第2節　遺跡の位置と環境……5
第2章　検出された遺構と遺物……8
　第1節　旧石器時代……8
　　1　概　要……8
　　2　基本層序について……8
　　3　文化層とその概要……9
　　4　第1文化層……17
　　5　第2文化層……139
　　6　第3文化層……149
　　7　第4文化層……176
　　8　第5文化層……181
　第2節　縄文時代……190
　　1　概　要……190
　　2　遺構と遺物……190
　　3　グリッド出土遺物……192
　第3節　古墳時代及び古墳時代以降……199
　　1　概　要……199
　　2　古墳時代……199
　　3　古墳時代以降……202
　第4節　その他の遺構
　　1　概　要……207
　　2　遺構と遺物……207
　　3　グリッド出土遺物……216
第3章　まとめ……218
報告書抄録

挿図目次

第１図　出口・鐘塚遺跡の位置と周辺遺跡……２
第２図　物井地区内遺跡分布図……３
第３図　上層遺構配置図……４
第４図　旧石器本調査範囲……６
第５図　土層柱状図……９
第６図　各集中分布図……11
第７図　５Ｒ・６Ｒグリッド石材別分布……13・14
第８図　５Ｒ・６Ｒグリッド器種別分布……15・16
第９図　第１文化層集中１　出土石器（１）……19
第10図　第１文化層集中１　出土石器（２）……20
第11図　第１文化層集中１　出土石器（３）……21
第12図　第１文化層集中１　出土石器（４）……22
第13図　第１文化層集中１　出土石器（５）……23
第14図　第１文化層集中１　出土石器（６）……24
第15図　第１文化層集中１　母岩別分布……25・26
第16図　第１文化層集中１　器種別分布……27・28
第17図　第１文化層集中１　遺物垂直分布図……29
第18図　第１文化層集中２　遺物垂直分布図……35
第19図　第１文化層集中２　出土石器（１）……36
第20図　第１文化層集中２　出土石器（２）……37
第21図　第１文化層集中２　出土石器（３）……38
第22図　第１文化層集中２　母岩別分布……39・40
第23図　第１文化層集中２　器種別分布……41・42
第24図　第１文化層集中２　出土接合資料……43
第25図　第１文化層集中３　遺物垂直分布図……53
第26図　第１文化層集中３　出土石器（１）……54
第27図　第１文化層集中３　出土石器（２）……55
第28図　第１文化層集中３　出土石器（３）……56
第29図　第１文化層集中３　出土石器（４）……57
第30図　第１文化層集中３　母岩別分布……59・60
第31図　第１文化層集中３　器種別分布……61・62
第32図　第１文化層集中４　遺物垂直分布図……68
第33図　第１文化層集中４　出土石器（１）……69
第34図　第１文化層集中４　出土石器（２）……70
第35図　第１文化層集中４　出土石器（３）……71
第36図　第１文化層集中４　出土石器（４）……72
第37図　第１文化層集中４　出土石器（５）……73
第38図　第１文化層集中４　出土石器（６）……74
第39図　第１文化層集中４　出土石器（７）……75
第40図　第１文化層集中４　出土石器（８）……76
第41図　第１文化層集中４　出土石器（９）……77
第42図　第１文化層集中４　母岩別分布……79・80
第43図　第１文化層集中４　器種別分布……81・82
第44図　第１文化層集中５　出土石器……92
第45図　第１文化層集中５　器種別分布……93
第46図　第１文化層集中５　母岩別分布……94
第47図　第１文化層集中５　遺物垂直分布図……94
第48図　第１文化層集中６　出土石器……97
第49図　第１文化層集中６　母岩別分布……98
第50図　第１文化層集中６　遺物垂直分布図……98
第51図　第１文化層集中６　器種別分布……99
第52図　第１文化層集中７　出土石器……102
第53図　第１文化層集中７　母岩別分布……103
第54図　第１文化層集中７　器種別分布……104
第55図　第１文化層集中７　遺物垂直分布図…104
第56図　第１文化層集中８　出土石器……107
第57図　第１文化層集中８　母岩別分布……107
第58図　第１文化層集中８　器種別分布……108
第59図　第１文化層集中８　遺物垂直分布図…108
第60図　第１文化層集中９・10　出土石器……111
第61図　第１文化層集中10　出土石器……112
第62図　第１文化層集中９　器種別分布……113
第63図　第１文化層集中９　母岩別分布……114
第64図　第１文化層集中９　遺物垂直分布図…114
第65図　第１文化層集中10　母岩別分布……116
第66図　第１文化層集中10　器種別分布……117
第67図　第１文化層集中10　遺物垂直分布図…117
第68図　第１文化層集中11　出土石器……119

第69図　第1文化層集中11　母岩別分布……120
第70図　第1文化層集中11　遺物垂直分布図…120
第71図　第1文化層集中11　器種別分布……121
第72図　第1文化層集中12　母岩別分布……123
第73図　第1文化層集中12　出土石器（1）…124
第74図　第1文化層集中12　出土石器（2）…125
第75図　第1文化層集中12　出土石器（3）…126
第76図　第1文化層集中12　器種別分布……127
第77図　第1文化層集中12　遺物垂直分布図…127
第78図　第1文化層集中13　出土石器……130
第79図　第1文化層集中13　母岩別分布……131
第80図　第1文化層集中13　遺物垂直分布図…131
第81図　第1文化層集中13　器種別分布……132
第82図　第1文化層集中14　出土石器……135
第83図　第1文化層集中14　遺物垂直分布図…135
第84図　第1文化層集中14　母岩別分布……136
第85図　第1文化層集中14　器種別分布……136
第86図　X層炭化物検出状況……137
第87図　第2文化層集中15・16　出土石器……140
第88図　第2文化層集中15　母岩別分布……140
第89図　第2文化層集中15　器種別分布……141
第90図　第2文化層集中15　遺物垂直分布図…142
第91図　第2文化層集中16　母岩別分布……144
第92図　第2文化層集中16　器種別分布……144
第93図　第2文化層集中16　遺物垂直分布図…144
第94図　第2文化層集中17　出土石器……146
第95図　第2文化層集中17　母岩別分布……147
第96図　第2文化層集中17　器種別分布……147
第97図　第2文化層集中17　遺物垂直分布図…147
第98図　第3文化層集中18　出土石器……150
第99図　第3文化層集中18　母岩別分布 151・152
第100図　第3文化層集中18　器種別分布 153・154
第101図　第3文化層集中18・19　出土石器……172
第102図　第3文化層集中19　母岩別分布……173
第103図　第3文化層集中19　器種別分布……174
第104図　第3文化層集中19　遺物垂直分布図…174
第105図　第4文化層集中20　出土石器……177
第106図　第4文化層集中20　母岩別分布……178
第107図　第4文化層集中20　器種別分布……178
第108図　第4文化層集中20　遺物垂直分布図…180
第109図　第4文化層集中21-(1)・(2)出土石器……183
第110図　第4文化層集中21-(3)出土石器 ……184
第111図　第5文化層集中21-(1)母岩別分布 ……185
第112図　第5文化層集中21-(1)器種別分布 ……185
第113図　第5文化層集中21-(2)母岩別分布 ……186
第114図　第5文化層集中21-(2)器種別分布 ……186
第115図　第5文化層集中21-(2)遺物垂直分布図 186
第116図　第5文化層集中21-(3)母岩別分布 ……187
第117図　第5文化層集中21-(3)器種別分布 ……187
第118図　第5文化層集中21-(3)遺物垂直分布図 187
第119図　SK-008・009・010・014 ……191
第120図　SK-014出土土器……192
第121図　縄文土器拓影（1）……194
第122図　縄文土器拓影（2）……195
第123図　縄文土器グリッド別出土状況……196
第124図　縄文石器（1）……198
第125図　縄文石器（2）……199
第126図　SX-001……201
第127図　SX-001出土遺物……202
第128図　SX-002……204
第129図　SX-003……204
第130図　SX-004……205
第131図　SX-005……206
第132図　SX-006……206
第133図　グリッド出土遺物（1）……207
第134図　SX-007……207
第135図　SK-001……208
第136図　SK-002・005・006……210
第137図　SK-007……211
第138図　SK-011……211
第139図　SK-011出土鉄製品……211
第140図　SK-013……212
第141図　SK-015……212
第142図　SD-002出土鉄製品……213

第143図　溝状遺構（ＳＤ-001・002・003）……215
第144図　溝状遺構（ＳＤ-004・005・006・007）
……216
第145図　ＳＤ-004出土遺物……216
第146図　ＳＫ-003・004・012……217
第147図　グリッド出土遺物（１）……218
第148図　グリッド出土遺物（２）……219
第149図　各集中接合関係……221
第150図　各集中間の石器接合関係……222
第151図　物井地区環状ブロック検出遺跡……228
第152図　環状を構成する遺構の規模……229
第153図　第１文化層集中４　遺物出土状況に基くクラスターの設定 ……231

表　目　次

第１表　第１文化層集中１　石器属性表……29
第２表　第１文化層集中１　石器組成表……33
第３表　第１文化層集中２　石器属性表……44
第４表　第１文化層集中２　石器組成表……50
第５表　第１文化層集中３　石器属性表……63
第６表　第１文化層集中３　石器組成表……64
第７表　第１文化層集中４　石器属性表……83
第８表　第１文化層集中４　石器組成表……89
第９表　第１文化層集中５　石器属性表……95
第10表　第１文化層集中５　石器組成表……95
第11表　第１文化層集中６　石器属性表 ……100
第12表　第１文化層集中６　石器組成表 ……100
第13表　第１文化層集中７　石器属性表 ……105
第14表　第１文化層集中７　石器組成表 ……105
第15表　第１文化層集中８　石器属性表 ……109
第16表　第１文化層集中８　石器組成表 ……109
第17表　第１文化層集中９　石器属性表 ……115
第18表　第１文化層集中９　石器組成表 ……115
第19表　第１文化層集中10　石器属性表 ……118
第20表　第１文化層集中10　石器組成表 ……118
第21表　第１文化層集中11　石器属性表 ……120
第22表　第１文化層集中11　石器組成表 ……121
第23表　第１文化層集中12　石器属性表 ……128
第24表　第１文化層集中12　石器組成表 ……128
第25表　第１文化層集中13　石器属性表 ……133
第26表　第１文化層集中13　石器組成表 ……133
第27表　第１文化層集中14　石器属性表 ……138
第28表　第１文化層集中14　石器組成表 ……138
第29表　第２文化層集中15　石器属性表 ……142
第30表　第２文化層集中15　石器組成表 ……142
第31表　第２文化層集中16　石器属性表 ……143
第32表　第２文化層集中16　石器組成表 ……143
第33表　第２文化層集中17　石器属性表 ……148
第34表　第２文化層集中17　石器組成表 ……148
第35表　第３文化層集中18　石器属性表 ……155
第36表　第３文化層集中18　石器組成表 ……170
第37表　第３文化層集中19　石器属性表 ……175
第38表　第３文化層集中19　石器組成表 ……175
第39表　第４文化層集中20　石器属性表 ……179
第40表　第４文化層集中20　石器組成表 ……180
第41表　第５文化層集中21-(1)　石器属性表……188
第42表　第５文化層集中21-(1)　石器組成表……188
第43表　第５文化層集中21-(2)　石器属性表……188
第44表　第５文化層集中21-(2)　石器組成表……189
第45表　第５文化層集中21-(3)　石器属性表……189
第46表　第５文化層集中21-(3)　石器組成表……189
第47表　各グリッド出土縄文土器一覧表 ……193
第48表　各グリッド出土縄文石器等一覧表 ……193
第49表　縄文時代石器等観察表 ……193

図版目次

巻頭（カラー）垂飾様石製品・斧型石器

図版１　出口・鐘塚遺跡周辺航空写真

図版２　調査前風景

図版３　旧石器時代　石器集中

図版４　旧石器時代　石器集中

図版５　旧石器時代　石器集中

図版６　旧石器時代　石器集中

図版７　縄文時代　ＳＫ―014

図版８　古墳時代　ＳＸ―001

図版９　歴史時代　ＳＸ―002、003、004

図版10　歴史時代　ＳＸ―005、006、007

図版11　歴史時代　ＳＫ―001、002、005

図版12　歴史時代　ＳＫ―006、007、011

図版13　歴史時代　ＳＫ―013、ＳＤ―002

図版14　歴史時代　ＳＤ―003、004

図版15　歴史時代　ＳＤ―004、005、006、ＳＫ―012

図版16　グリッド出土遺物

図版17　第１文化層 集中１出土石器（１）

図版18　第１文化層 集中１出土石器（２）

図版19　第１文化層 集中２出土石器

図版20　第１文化層 集中３出土石器（１）

図版21　第１文化層 集中３（２）・集中４（１）出土石器

図版22　第１文化層 集中４出土石器（２）

図版23　第１文化層 集中４出土石器（３）

図版24　第１文化層 集中４（４）・集中５出土石器

図版25　第１文化層 集中６・集中７・集中８出土石器

図版26　第１文化層 集中９・集中10・集中11・集中12出土石器

図版27　第１文化層 集中12出土石器（１）

図版28　第１文化層 集中12（２）・集中13・集中14出土石器

図版29　第２文化層 集中15・集中16・集中17出土石器

図版30　第３文化層 集中18・集中19・第４文化層 集中20出土石器

図版31　第５文化層 集中21-（１）・（２）・（３）出土石器他

図版32　縄文土器（１）

図版33　縄文土器（２）

図版34　縄文土器（３）

図版35　縄文土器（４）
縄文石器（１）

図版36　縄文石器（２）

図版37　SX001 出土遺物

図版38　ＳＤ―002・004，ＳＫ―011グリッド出土遺物

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　調査の経緯と経過

四街道市は、千葉市に隣接し東京都心と新東京国際空港を結ぶＪＲ総武本線・成田線、東関東自動車道が整備され、その地理的な立地と交通アクセスの充実により近年人口増加が著しい地域である。

住宅・都市整備公団では、ＪＲ総武本線物井駅と既存の「千代田団地」の間の約95.7ヘクタールの地域において土地区画整理事業を計画した。土地区画整理事業の施行に当たり、開発区域内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて、千葉県教育庁文化課と住宅・都市整備公団との間で度重なる協議が行われ、事業地内に緑地や公園として現状保存する区域を定め、現状変更を伴う開発区域については記録保存とし、事業計画との整合を図りつつ発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、財団法人千葉県文化財センターが実施することとなり、昭和59年から調査が開始された。

物井地区の台地上には多くの遺跡の所在が確認されており(第１図)、記録保存の対象とされたのは、出口・鐘塚遺跡のほか、既にその一部が報告書として刊行された御山遺跡（註１)、棒山・呼戸遺跡、新久遺跡、清水遺跡、出口遺跡、高堀遺跡、小屋ノ内遺跡、館ノ山遺跡、稲荷塚遺跡、郷遺跡、北ノ作遺跡、嶋越遺跡など14の遺跡がある。また、保存される予定の遺跡としては遺存状態の良好な古墳を含む出口遺跡の一部と古屋城跡がある。

本書で報告する出口・鐘塚遺跡の発掘調査は遺跡面積22,100㎡のうち、19,700㎡の範囲を対象として実施された。調査は、昭和61年８月１日から昭和62年１月20日までの間、上・下層の確認調査2,758㎡を行い、引き続いて３月31日まで3,000㎡についての上層本調査を行った。

下層については、昭和62年４月１日から昭和63年１月14日まで、3,850㎡の本調査を実施した。

調査の結果、縄文時代の陥穴、後期加曽利Ｂ式期の土坑、古墳等の遺構が検出され、隣接する棒山・呼戸遺跡に分布の主体がある方形周溝状遺構なども検出された。

下層からは垂飾様石製品２点を含む2,700点余に及ぶ石器群が出土した。下層本調査に当っては、御山遺跡や池花南遺跡の例から、環状の分布形態をとることも想定されたため、台地上の遺物の広がりと分布状況に留意しながら調査を進めた。

註１　渡辺修一　1994『四街道市御山遺跡(１)』(財) 千葉県文化財センター

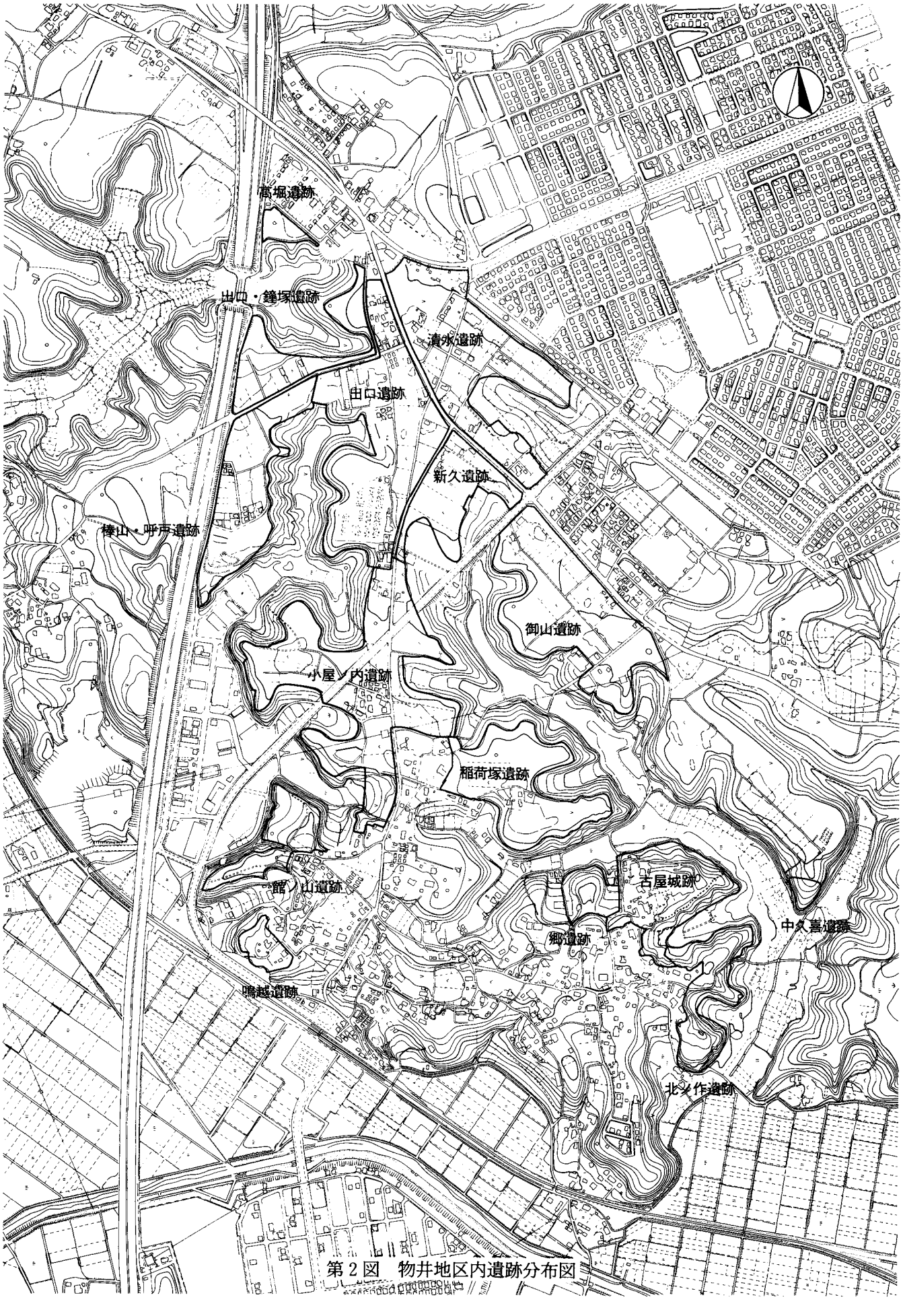
2　調査の方法

調査区の設定　全調査対象範囲内に公共座標に合わせて50m×50mの方眼網を設定し、大グリッドとした（第２図)。大グリッドの呼称法は、北西を起点として西から東へ１、２、３・・・とし、北から南へA、Ｂ、Ｃ・・・としてこれを組み合わせて５Ｒグリッドというように呼称する。大グリッド内を５ｍ×５ｍのグリッドに100分割し、北西隅を起点に00、01、02・・・として南東隅を99とする。これにより最小グリッドの表記は、５Ｒ-00、６Ｒ－31のようになる。

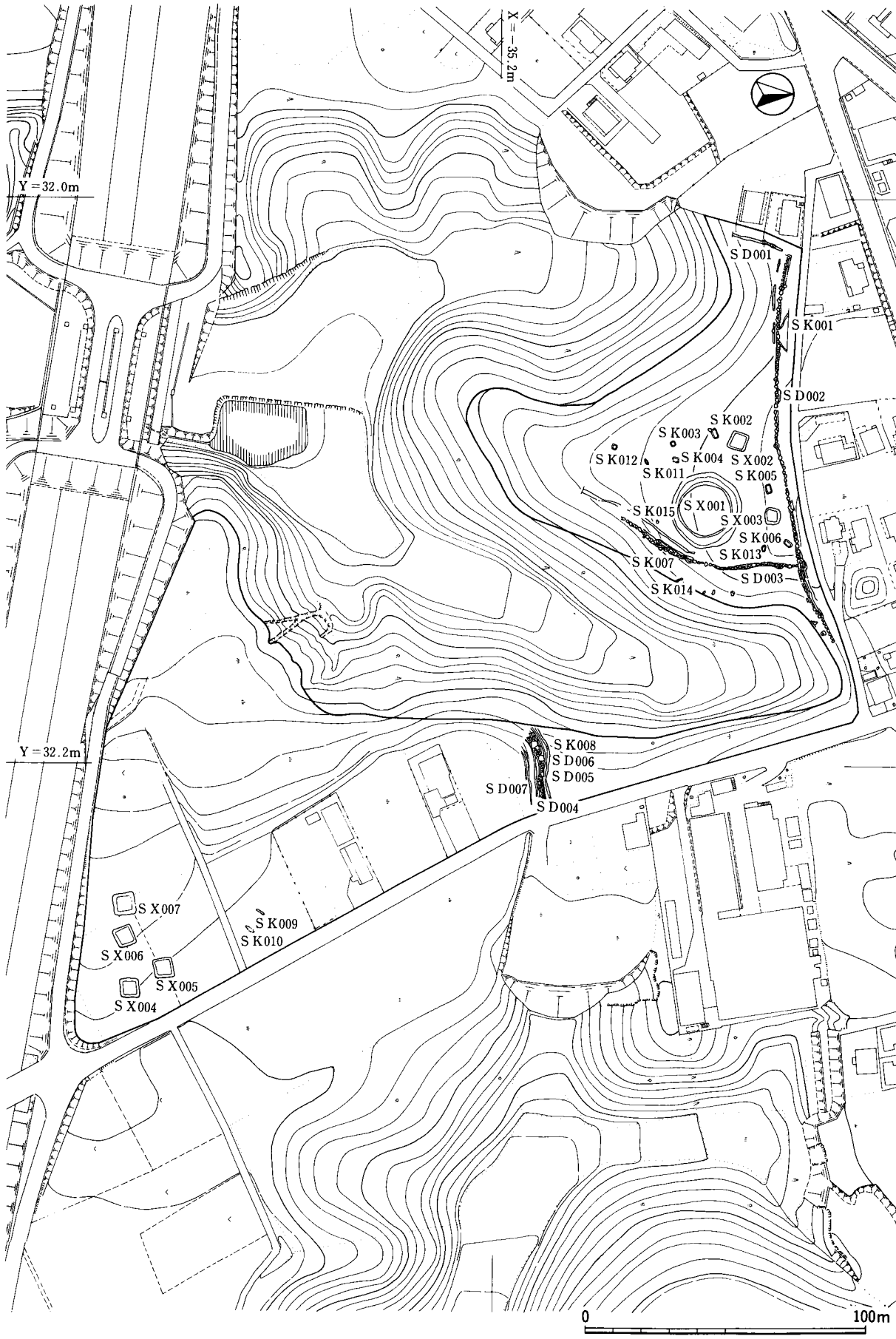
(１)上層確認調査　縄文時代以降の上層確認調査は、グリッドの方位を基本とし調査区内の地形をも考慮

第１図　出口・鐘塚遺跡の位置と周辺遺跡　（「１／25,000　佐倉」）

1．出口・鐘塚遺跡
2．高堀遺跡
3．新山遺跡
4．大割遺跡
5．池花古墳群
6．池花（池花南）遺跡
7．畔田台No.４遺跡
8．千代田遺跡Ⅲ区
9．千代田遺跡Ⅱ区
10．千代田遺跡Ⅰ区
11．生谷古新山南遺跡
12．生谷古新山北遺跡
13．畔田八斗台北遺跡
14．畔田台口遺跡
15．吉見古台遺跡
16．吉見古海道南遺跡
17．殿台遺跡
18．鍛治内遺跡
19．下台遺跡
20．千代田遺跡Ⅶ区
21．千代田遺跡Ⅵ区
22．千代田遺跡Ⅴ区
23．八木原貝塚
24．千代田遺跡Ⅳ区
25．御山遺跡
26．古屋城跡
27．稲荷塚（新田）遺跡
28．馬場No.２遺跡
29．小屋ノ内遺跡
30．新久遺跡
31．清水遺跡
32．後山遺跡
33．入ノ台遺跡
34．西向井遺跡
35．相ノ谷遺跡
36．川戸No.１遺跡



第２図　物井地区内遺跡分布図



第３図　上層遺構配置図　（１／2,000）

して、南北方向あるいは東西方向に８ｍおきに２ｍ幅のトレンチを設定して遺構、遺物の分布を確認し、遺構、遺物が確認された範囲について本調査を実施した（凡例参照）。

（２）下層確認調査　旧石器時代（ローム層中）の確認調査は、調査区全域に２ｍ×２ｍの調査坑を調査対象面積の４％設定し、石器等の遺物が出土した地点についてはその周囲を拡張し、遺物集中の存否と広がりを確認し本調査に移行した（第４図）。

（３）遺構番号　調査時点では、検出された遺構を調査した順に001号跡、002号跡・・・のように一連番号を付した。本書では、調査時の遺構番号を踏襲し、遺構番号の頭に遺構の種別を示す記号を追加した。ＳＸは古墳及び方形周溝状遺構、ＳＫは土壙及び土坑、ＳＤは溝状遺構を意味する。したがって、各遺構については、ＳＸ－001(001)、ＳＫ－008(023)のように（　）内に調査時の遺構番号を付記し、表記する。また、遺構調査段階では番号を付したがその後、耕作に伴う根切り溝や風倒木などの撹乱等、明らかに遺構でないことが判明したものについては欠番とした。

第２節　遺跡の位置と環境

出口・鐘塚遺跡は、北流して印旛沼に注ぐ鹿島川の支流の小名木川の源流と、手繰川によって深く開析された台地の最奥部に位置する。遺跡はこれらの河川によって東西から開析された台地の平坦部が一番狭まる、舌状に張り出した標高29.5m前後の台地上に立地している。東側の台地平坦部と現水田面の比高差は15m～20mほどである。

出口・鐘塚遺跡周辺の台地上には多くの遺跡の存在が確認されており、その一部が発掘調査されているものもある。

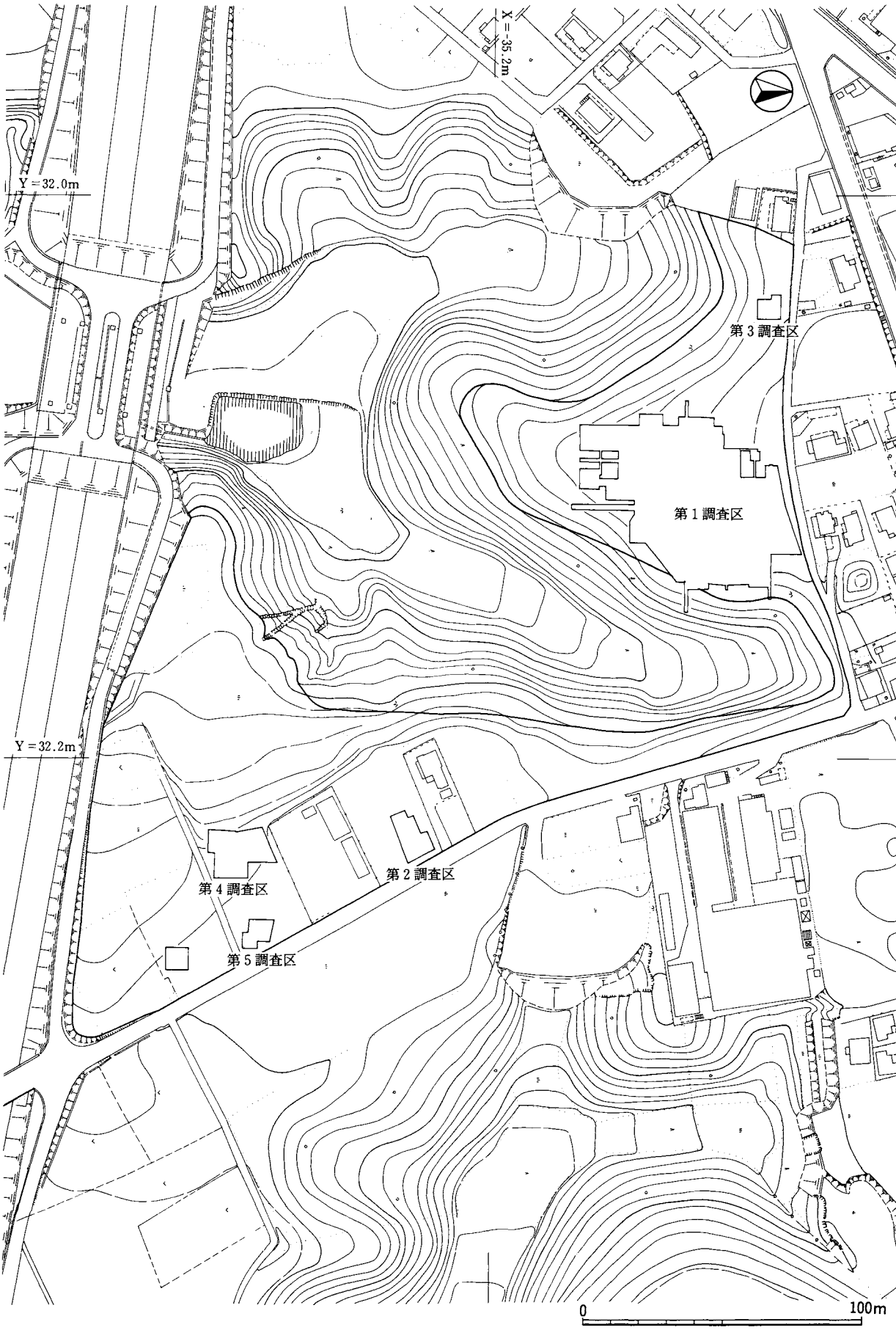
旧石器時代では、周辺の多数の遺跡から遺構、遺物が検出されている。物井地区内の遺跡でも、これまで調査が実施されている棒山・呼戸遺跡、御山遺跡、清水遺跡、小屋ノ内遺跡などで豊富な資料が得られている。特に小屋ノ内遺跡では環状ブロックから1,800点以上に及ぶ資料が得られている。各遺跡における旧石器の検出層位は立川ロームＸ層からIII層までと幅広く、何枚にもわたる文化層が確認されている。隣接地域では大割遺跡、池花遺跡、池花南遺跡、和良比遺跡などでも重要な成果が得られている。特に池花遺跡Ⅸ層出土の環状ブロック一括資料740点は平成７年に県指定有形文化財となっている。

これらの遺跡の立地上の特徴としては、いずれも河川に面した舌状の台地あるいは河川支流域の樹枝状に伸びた小支谷の最奥部や小支谷を取り巻く台地上にあることを挙げることができる。

縄文時代では、縄文時代後期の遺構、遺物がまとまって検出された八木原貝塚を含む千代田遺跡群Ⅳ区、後～晩期の包含層が確認された御山遺跡などが所在する。

弥生時代では、中期の須和田式土器のまとまった包含層が検出された内黒田地区の池花南遺跡や、小名木川を隔てた南側の台地で検出された中期後葉の山梨相ノ谷遺跡などが確認されている。また、後期初頭の集落跡も相ノ谷遺跡に隣接した西向井遺跡で確認されている。物井地区内にはまとまった弥生時代の集落跡は今のところ確認されていないが、清水遺跡、小屋の内遺跡で遺構・遺物が検出されている。また、鹿島川の東岸には著名な佐倉市大崎台遺跡や寺崎向原遺跡が知られる。

古墳時代になると、物井地区内に所在する古墳群、内黒田地区内に所在する古墳群と物井地区に隣接する千代田遺跡群内の古墳群を一連のものとして捉え、これらの支群の集合として「物井古墳群」の存在が近年提唱されている（註１）。物井地区内の新久遺跡、清水遺跡、出口遺跡、小屋ノ内遺跡、御山遺跡、棒



第 4 図　旧石器本調査範囲　（1／2,000）

山遺跡で6世紀後半から8世紀にかけて築造されたと考えられる古墳が調査されている。物井地区周辺には、栗山古墳群、亀崎古墳群、鹿島川をはさんで南側の台地上に展開する山梨古墳群などの小規模な古墳群が分布している。

古墳時代の集落跡としては、物井地区内では小屋ノ内遺跡や北ノ作遺跡C区で古墳時代前期の集落跡が調査されている。平成9年度調査の館ノ山遺跡では、古墳時代後期の集落跡が調査されている。事業地の南側に隣接して所在する入ノ台遺跡や千代田遺跡群IV区でも古墳時代後期の集落跡が調査されている。

奈良時代には、物井地区から内黒田地区においては古墳時代の墓域を踏襲して小規模な方墳が築造されている。稲荷塚遺跡や小屋ノ内遺跡では、奈良時代から平安時代にかけての大規模な集落跡が調査され、竪穴住居跡百数十棟、掘立柱建物跡80棟以上が調査されている。小屋ノ内遺跡は、一般的な集落跡を越えた、この地域の中心的な遺跡、例えば地方の役所である郡家の可能性も指摘される。

註1　渡辺修一　1991「補論4『物井古墳群』の構造的把握に向けて」『四街道市内黒田遺跡群』（財）千葉県文化財センター

周辺遺跡の主要参考文献

1　栗本佳弘ほか　1970『東関道自動車道（千葉－成田線）関係埋蔵文化財発掘調査報告書』　千葉県文化財保護協会

2　米内邦雄・宮内和博　1972『千代田遺跡－千葉県印旛郡四街道町－』　四街道千代田遺跡調査会

3　米内邦雄　1973『大崎台遺跡』　大崎台遺跡発掘調査団

4　田川良・千田利明　1978『太田・大篠塚』　日本文化財研究所

5　新井和之ほか　1982『北総線』　東京電力北総線遺跡調査会

6　田村言行・高橋健一ほか　1983『岩富漆谷津・太田宿』　佐倉市教育委員会

7　柿沼修平ほか　1985～1987『大崎台遺跡発掘調査報告Ⅰ～Ⅱ』　佐倉市大崎台B地区遺跡調査会

8　渋谷興平ほか　1987『千葉県佐倉市寺崎遺跡群発掘調査報告書』　佐倉市寺崎遺跡群調査会

9　石戸啓夫　1987『中久喜№2遺跡』　（財）印旛郡市文化財センター

10　渡辺政治　1989「物井地区出口・鐘塚遺跡出土の垂飾様石製品について」『研究連絡誌』24（財）千葉県文化財センター

11　新井和之・中西克也　1990『千葉県四街道市入ノ台第2遺跡発掘調査報告書』　四街道市教育委員会

12　四街道市教育委員会　1990「物井小屋ノ内遺跡調査略報」『四街道市の文化財』16

13　渡辺修一　1991『四街道市内黒田遺跡群』　（財）千葉県文化財センター

14　渡辺修一　1994『四街道市御山遺跡（1）』　（財）千葉県文化財センター

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　旧石器時代

１　概　要

旧石器の本調査は、５つの地点で行われた(第４図)。これらの調査地点をそれぞれ第１調査区から第５調査区と呼称する。検出された遺物の総数は2,700点余りを数える。そのうち、最も遺物が集中して検出された地区は５Ｒ、６Ｒを中心とした第１調査区で、2,500㎡ほどの平坦部をもつ南へ延びる舌状台地上に位置している。台地の基部から先端部にかけて、平坦部のほぼ全域から遺物が検出された（第７・８図)。この台地の西側の谷頭に当たる第３調査区で１か所、南東側の谷を挟んだ広い平坦面をもつ台地からも第２、第４、第５調査区とした３か所で遺物の出土があった。この舌状台地は印旛沼へ注ぐ河川の一つである鹿島川の支流の最奥部に当たり、支谷間で台地の最もすぼまっている部分の幅は30mほどである。

台地の標高は30mで谷との比高差は15m～20mほどである。西側と比較して東側ではやや急峻な傾斜をなす。

本報告では遺物出土層位を基準として下層検出石器群を第１文化層とし、順次第５文化層まで区分してそれぞれの文化層ごとに報告する。そのうち、第１文化層は本遺跡の中心をなす時期であり、遺物の密集する地点と散漫に出土する地点が複合するなど様相は複雑である。このため出土層位とある程度の範囲のまとまりをもった石器群を便宜的に「集中」と呼称し、第１文化層では14か所の集中（集中１～14)、第２文化層では３か所の集中（集中15～17)、第３文化層では２か所の集中（集中18,19)、第４文化層では１か所の集中（集中20)、第５文化層では３か所の集中（集中21－1,2,3）を設定する（第６図)。なお、本遺跡では、遺物の浮き沈みが著しい地点や、セクションベルトの設定位置の関係から第１文化層集中５や第２文化層集中17のように垂直投影図の状況が実態を反映していない地点などもある。そうした場合は、調査時の記録に基づいて遺物の出土層準の判断を行った。

２　基本層序について（第５図)

下総台地における立川ローム層の層序区分については、田村(註１)の提唱した層序区分に立脚した渡辺らの考察がある(註２)。本遺跡周辺の標準土層については既に『四街道市御山遺跡（１)』の第１分冊中で渡辺がふれたところであるが(註３)、本遺跡における基本層序はこの標準土層と一致している。

Ⅰ層：表土層で、黒色土である。

Ⅱ層：ｂ、ｃ層に分けられる。Ⅱｂ層は新期テフラ層を含む層。かなり黒色がかった色調を呈する。Ⅱｃ層は黒褐色土。Ⅱａ層については、耕作が深くまで及んでいるため調査では確認できなかった。

Ⅲ層：ソフトローム層

Ⅳ層：ハードローム層であるが全般的にソフトローム化が進み、ソフトロームとハードロームブロックが混在しており、最下部においてわずかに硬質部が層状に発達している。色調はやや赤みを帯びた明色で有色の細粒スコリアを含む。

Ⅴ層：第１黒色帯に相当する褐色から黄褐色の硬質ローム。色調はⅣ層と比較してわずかに暗い程度の

色調であり、IV層との分層は難しい場合が多い。

VI層：明褐色の硬質ロームである黄白色のATがブロック状に含まれる。

VII層：第2黒色帯上部に相当する褐色の層である。赤色、黒色のスコリアがやや多く含まれる。

IXa層：第2黒色帯下部の上半の暗褐色のロームで赤色、黒色、暗緑色のスコリアを含む。

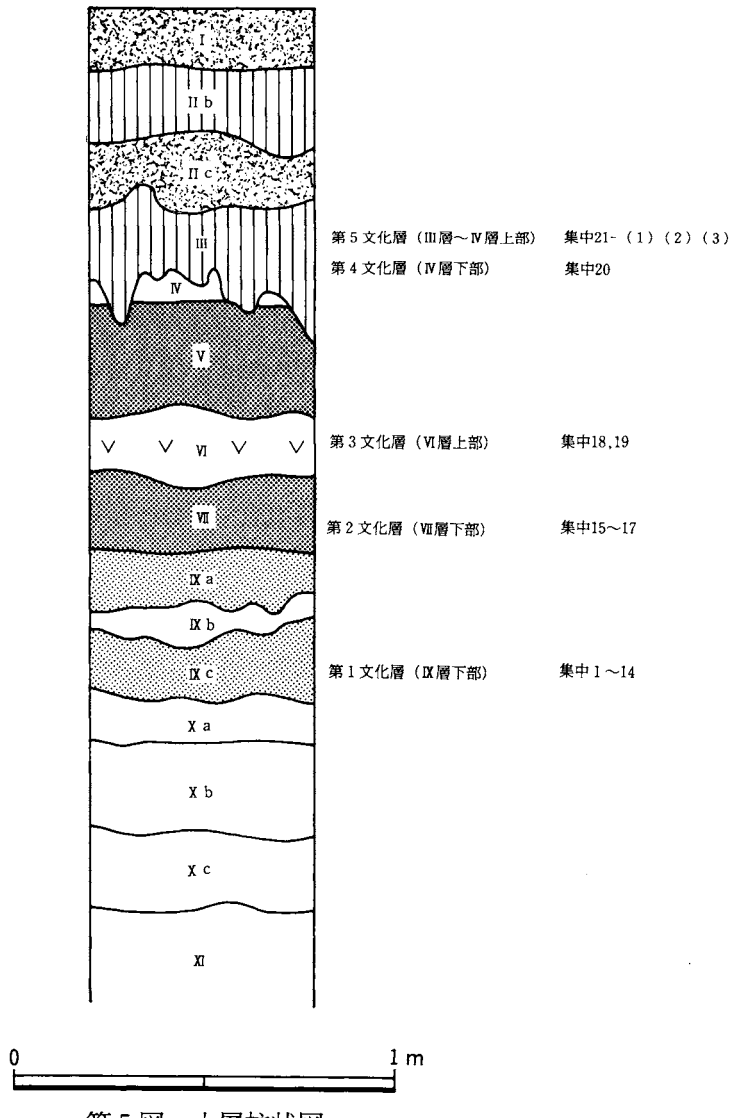
IXb層：第2黒色帯下部の間層帯。褐色を呈するロームで上下の層よりも明るい色調である。

IXc層：第2黒色帯下部の下半で立川ローム層中で最も暗色。有色スコリアを多く混入する。

Xa層：褐色を呈するローム。比較的明色で、有色の細粒スコリアを含む。

Xb層：暗褐色を呈するローム。上下の層よりも暗色である。

Xc層：褐色のローム。色調はXa層に近いがスコリア粒はほとんど含まない。



第5図　土層柱状図

XI層：粘性を帯びた灰褐色ロームである。クラック帯となる。本層から武蔵野b－n層とされている。

註1　田村隆　1987「III－1－E－a　下総台地西縁部の立川ローム層」『松戸市彦八山遺跡』(財)千葉県文化財センター

註2　渡辺修一・新田浩三・島立桂　1992「下総台地における立川ローム層の層序区分」『研究連絡誌』24　(財)千葉県文化財センター

註3　渡辺修一　1994「I－1　ローム層中の調査と基本層序」『四街道市御山遺跡（1）』第1分冊(財)千葉県文化財センター

3　文化層とその概要（第6図）

本遺跡からは21か所の遺物集中地点が検出された。これらを産出層準に基づき大きく5枚の文化層に振り分けた。各文化層と産出層準の関係は以下のとおりである。

第1文化層　　立川ローム層IX層中位を産出層準とするもの

第2文化層　　立川ローム層VII層を産出層準とするもの

第3文化層　　立川ローム層VI層を産出層準とするもの

第4文化層　　立川ローム層IV層下部を産出層準とするもの

第5文化層　　立川ローム層IV層上部からIII層を産出層準とするもの

各文化層石器群の分離は比較的容易であったが,一部分離が難しい部分があった。また、文化層内での時間的先後関係の存在も当然考慮しなければならないが、産出レベルによるこれ以上の細分は困難であった。

第1文化層　本遺跡の主体をしめる文化層であり、多量の遺物が含まれている。遺物の分布は第1調査区の平坦面から緩斜面部を広く覆い、さらに第2，第3調査区にも小規模な分布が認められる。本報告では14か所の集中を区別したが、詳しく見ると少なくとも27か所のスポット（限定的集中分布域）が識別される。これらのスポットの多くは石材の消費地点（剥片生産・石器製作・石器補修等）であり、これらのスポットの周辺に低密度の遺物分布域がひろがっている。したがって、数段階に及ぶ断続的な石材消費と、それらのエピソードを介在する各種生産＝消費行動がかなり長期的に展開され,その間に廃棄物が累積的に堆積していった過程を想定することができる。

石器群の特徴は、当地域のIX層中部石器群の特徴を過不足なく備えている。まず、使用石材はチャートや頁岩など珪化岩類と黒色緻密安山岩が主体であり、これに少量の黒曜石,メノウ,凝灰岩,流紋岩,砂岩などが加わる。これらの石材の選択的使用も当該期石器群の特徴である。

石器生産の基盤である剥片生産は、その全過程を復元しうる資料が少なく、必ずしも明確ではないが、打面と作業面とが固定されず、また両者の位置関係が過程的に相対化される手法が一般的である。もちろん、その位置関係によって一層細かい分類に進むことができるが、本来こうした相対化手法はその時々の、時に偶発的な打面と作業面との関係によって決定されることから、特定段階の石核形態や剥片属性に立脚した分類組織を帰結し、石器群の静態的把握への途を開く要因となり適切ではない。また、比較的多くの楔形石器があり、この一部が両極石核であった可能性は指摘しておきたい。

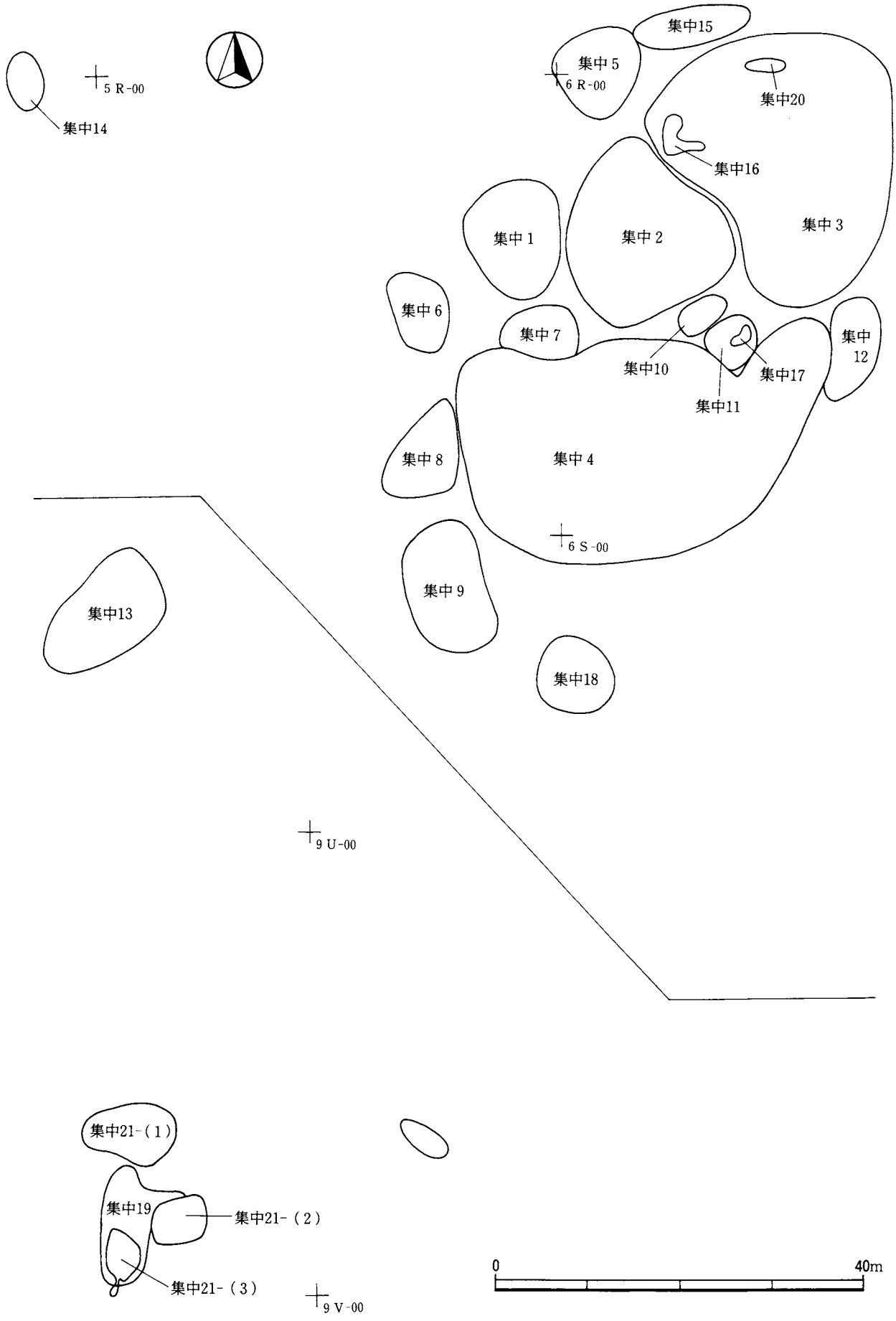
剥片中には石刃と分類可能な資料が少量ではあるが含まれている。これらの資料を石刃と認定しうるか否かは意見の分かれるところであり、また、限定された資料によっては判断不能なことが多い。従って、本報告においては形態学的に石刃の属性を満足するものについては石刃という用語を使用しているが、この用語についてはこれ以上の無益な議論は差し控えたい。

細部加工のある石器は必ずしも豊富ではないが台形石器、ナイフ形石器、削器などの小型剥片石器と石斧や礫器などの大型石器とがある。台形石器には横打剥片製の特徴ある一群が含まれ(第19図43、第51図170等)、広域的な様式対比が可能であろう。ナイフ形石器には基部加工、一側縁加工、部分加工などが区別されるが,いずれも第2黒色帯中部石器群に一般的な形態学的特徴を示している。

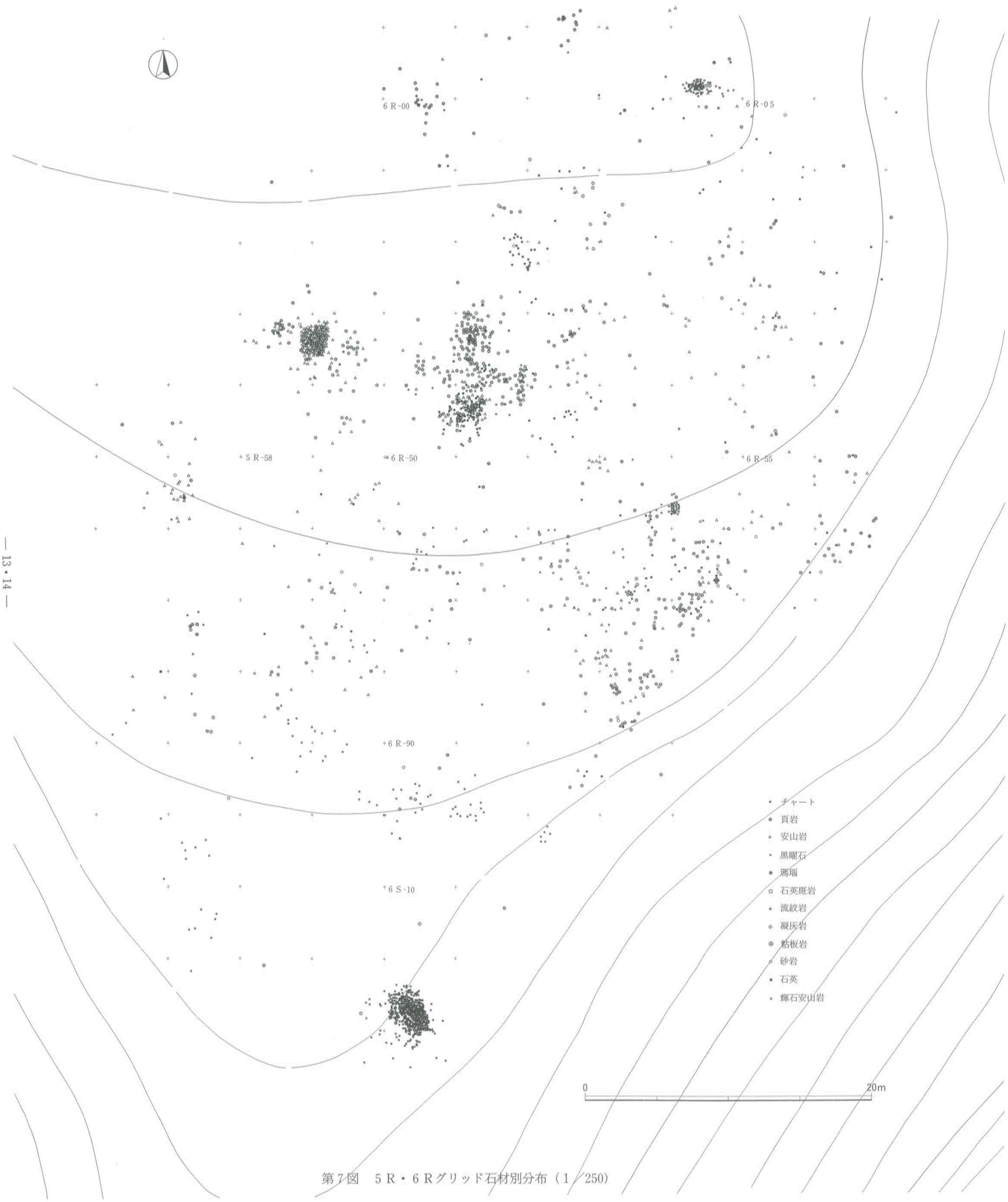
他に、垂飾用石製品が2点ある(第47図164、165)。これに関しては既に詳しく紹介されているが(渡辺19)、汎世界的に見ても後期旧石器時代にこのようなエレガントな意匠を示す類例を見いだすことはできない。また、今のところこれ以降にも類例がない。

第2文化層　第1調査区のやや北側に小規模な集中地点が3か所並存する。第2黒色帯上部が遺物産出層準と推定されている。資料数は少ないが、珪質頁岩と良質の黒曜石を多用する石刃石器群である。

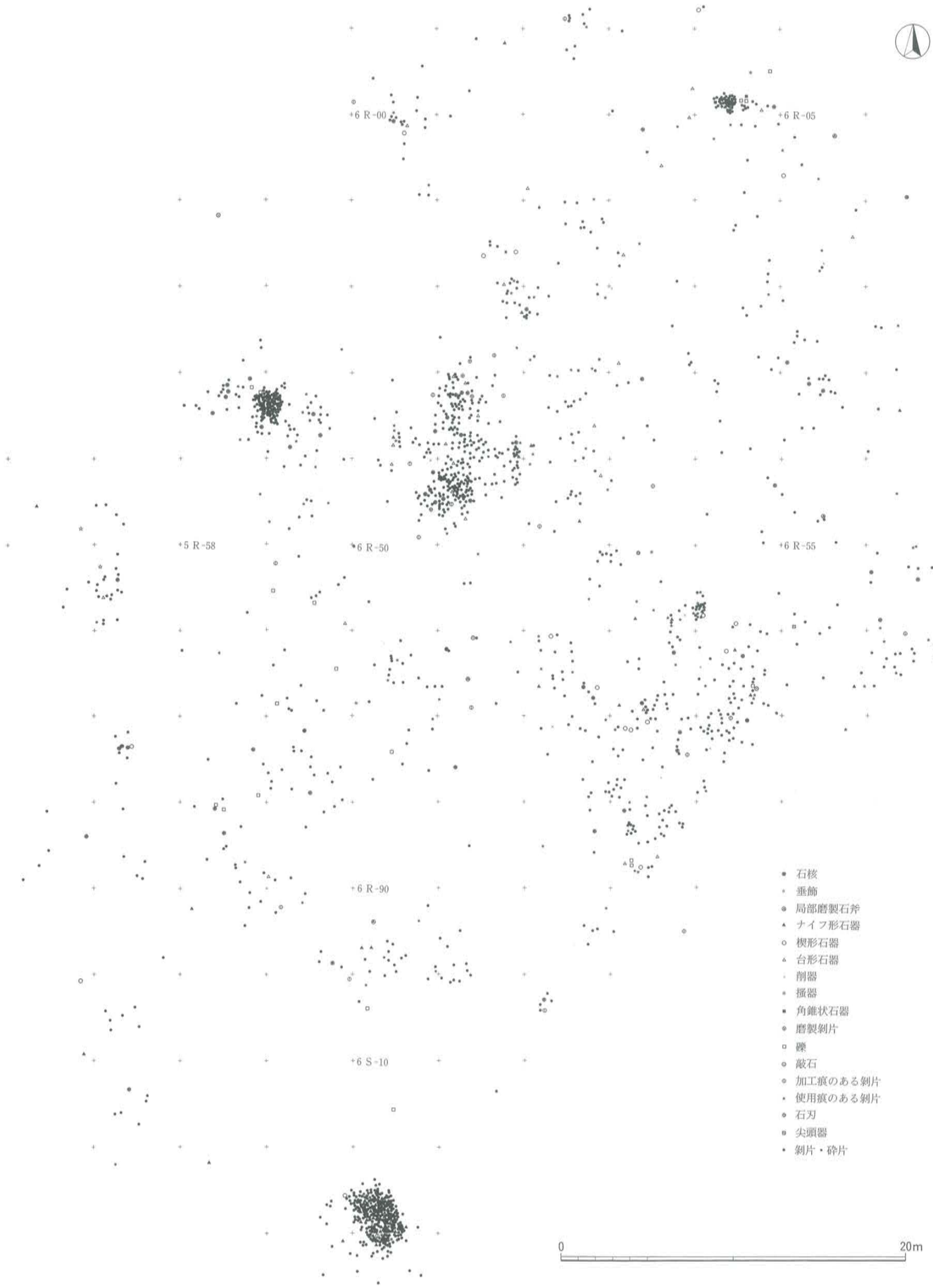
第3文化層　第1調査区に1か所(集中18)、第2調査区にも1か所(集中19)の集中地点を検出した。集中18には1,056点にも及ぶ資料が高密度で分布していた。これらの大半は黒曜石の小剥片であり、小型の黒曜石製ナイフ形石器およびナイフ形石器破損品が多く混在していることから、ナイフ形石器を集中的に生産した場所であると推定される。小型ナイフ形石器は諸種の小型剥片を素材としており、サイズの限定さ



第6図　各集中分布図（1／600）



第7図　5R・6Rグリッド石材別分布（1／250）



第８図　５Ｒ・６Ｒグリッド　器種別分布（１／250）

れた原石(黒曜石亜角礫)から生産された小型剥片の一部を選択利用する過程が想定される。これにやや大型の石刃も共存する。この不定形剥片素材の小型ナイフ形石器の存在は、石材補給と生業との間に生じた激しいタイムストレスの存在を示唆しよう。

一方、集中19においては黒曜石以外に黒色緻密質安山岩、チャート、頁岩など各種の石材を素材とする不定形小型剥片を主体としている。本地域のVI層石器群が黒曜石・珪質頁岩を素材とする石刃石器群と、各種石材からなる非石刃石器群の相補構造をもつことが指摘されて久しいが、本遺跡における二つの石器群によってそれは如実に示されていると評価すべきであろう。

第4文化層　第1調査区に1か所の集中が検出されたにとどまる。黒曜石を多用し,ナイフ形石器、台形石器、角錐状石器(厚形複刃削器)、削器など当該期の典型的な石器が含まれている。

第5文化層　第4調査区に3か所の集中地点が近接して存在する。黒色緻密質安山岩、頁岩、黒曜石など各種の石材が使用されている。また、有樋尖頭器、ナイフ形石器、削器など各種の石器が含まれている。有樋尖頭器はいわゆる男女倉タイプである。

4　第1文化層

第1文化層は本遺跡を代表する時期の文化層である。層序的には武蔵野台地のIX層の中部に当たる。この文化層の石器群は多様な石器類から構成されている。この遺跡の他の文化層は比較的単純な石器組成を示すが、第1文化層は石器の種類がことさら多いことが注目される。多様な行動の累積した遺跡であるといえよう。また発掘区に広がる遺物集中区は、その分布からも一回性のものではなく、旧石器人の長期にわたる行動の重なりを示すものとして理解される。それは石器組成の多様度の高さとも矛盾しない。

記述を行うに当たり、第1文化層の遺物の集中を14の分布としてまとめた。従来、旧石器遺物集中地点の記述に当たっては、「ブロック」あるいは「ユニット」という調査者による任意の空間分割が行われてきた。そして、この分割が以後の諸分析の基本的単位とされるのも一般的な風潮であるが、本来、「ブロック」や「ユニット」は種々の空間分析の結果として再設定されるべきものであり、ここには概念形成と運用との逆立した関係を指摘することができるであろう。本報告ではこうした混乱を熟知した上で、あくまでも記述原理として「集中」という用語を採用している。そして、最終的に「集中」の内容を再吟味し、遺跡形成過程についても言及することにしたい。これらの集中は主として第1調査区で検出されたものであるが、第2・第3調査区でも検出されている。なお遺物集中4は環状ブロックとして従来から着目されたものの一種である可能性もある。以下、各集中ごとに石器の記述を進める。また、この文化層は石器の量が多いため、集中ごとに主に石材別にその剥離技術の傾向や石器の説明を行うこととする。

(1)　集中1 (第9～17図第1、2表　図版3、5)

位　置

第1調査区の舌状台地平坦部の中央やや西寄り、南西に緩やかに傾斜する位置で検出された。5R－38,39,49グリッドを中心に東西10m、南北12mほどの範囲を集中1とした。安山岩を主体とした石器群によって構成される。

遺物分布状況

集中1の遺物は合計254点である。5R－38、39グリッドにかけての2m×2mの範囲に最も遺物が集中

する地点があるほかは、数点ずつの分布のまとまりが5か所程度認められる。石器組成では、石核は頁岩が5点、安山岩が4点、メノウが単体で1点含まれるほかは、使用痕のある剝片が12点、剝片が227点であることから石材消費の行われたことを窺わせる。接合資料も16点ほどある。

遺物の垂直分布では、およそ0.9mの上下幅をもっている。土層への投影図はVI層からX層にかけて分布しているように見えるが、IX層の上層から中層にかけての層から遺物が集中して出土し、最も遺物の集中するレベルはIX層の中位とすることができよう。

母岩別分布

当集中の出土遺物は、頁岩が15種と最も多く、次いで安山岩8種、チャート2種、砂岩1種、メノウ1種の計27母岩から構成されている。このうち、石材別では安山岩が突出しており、硬質で暗いグレーの色調の安山岩6として分類した母岩では石核3点を含めて21点が5R—38、39グリッドを中心として分布しているほか、安山岩8とした母岩も安山岩6に重なるように分布している。

石　材

頁岩15種45点、安山岩8種200点、砂岩1種5点、メノウ1種1点、チャート2種3点の計254点で構成される。これらの内、頁岩1は表皮が青みがかった灰色で内面が淡い褐色のもの、3は表皮が赤褐色で内面が青みがかった灰褐色で黒色鉱物を含むもの、灰色に近いものなどがあり、安山岩1は淡い灰色で風化の著しいもの、3は淡い褐色の鉱物を粒状に含むもの、6は暗い灰色を呈するものなどが含まれる。チャート1は淡い灰色の地に濃い灰色の部分を斑紋状に混入するもの、2はくすんだ褐色を呈するものである。メノウ1は乳白色やくすんだ赤褐色の部分が混在し、節理が複雑に入る質的には悪い素材のものである。

器　種（第2表）

石核10点、礫5点、使用痕のある剝片9点、剝片・砕片225点で構成される。この内、石核は頁岩が4種5点、安山岩が2種4点、メノウ1種1点である。頁岩にはチャートとの識別が難しいものが含まれている。ただし、一般に安山岩の場合、表面の風化が著しく使用痕の観察が困難であり、使用痕つき剝片の出現頻度の評価は慎重であらねばならない。

集中1の石器（第9～14図　図版17,18）

・頁岩・メノウ・チャートの石器(第9～12図)

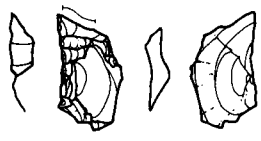
1～3は使用痕のある剝片である。4は石核である。自然面打面で、分厚い剝片を素材としている。5は加工痕のあるは剝片である。6は円礫から中型の剝片を剝離している接合資料である。第10図の7～13は、頁岩製の剝片の資料であるが、これには7、8のように側縁部に使用痕と思われる微細剝離痕の残るものが多い。第11図の14～22は、求心的な剝離痕をもつ剝片である。24は小型の石刃である。硬質頁岩を素材としている。25は円礫を用いた石核から剝離された剝離作業初期段階の剝片の接合資料である。26は石核である。メノウを素材としている。27はチャートの小型剝片である。

・安山岩の石器(第12図23、第13図28～第14図42)

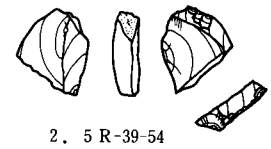
第12図の23は小型石刃を生産する石核である。黒色の安山岩を素材としている。28、29は原礫面を残す剝片で、円礫から剝離された剝離作業初期の剝片である。30は石刃の接合資料である。5R—39、49と隣接するグリッドから出土した3点が接合した。打面は平坦打面である。31は剝片素材の石核もしくは彫刻刀形石器である。大型の平らな剝片を素材にしている。2つに割れているが、折り取りの可能性がある。正面の左側に接合する大きな剝片の左側辺は、下方から側方剝離を行っている。右側辺にも背面に平らな

面をつくるような剝離を行う。左側辺の打面は折り取りの面、右側辺の打面は素材剝片のヒンジフラクチャーの面を利用している。32は小型の石核である。33は打面再生剝片と石核が接合している。

34と36は剝片の接合資料である。35は34の接合を剝がした単体である。37～43は小型剝片の資料である。41は円礫を素材として厚い剝片を剝離している資料で、隣接する５Ｒ—38と49グリッド出土のものの接合である。剝片の一部が石核として使われている。42は石核である。

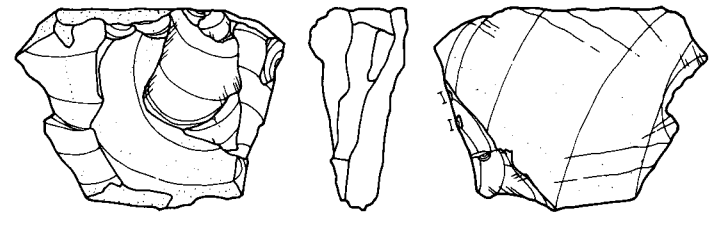


1．５Ｒ-39-57

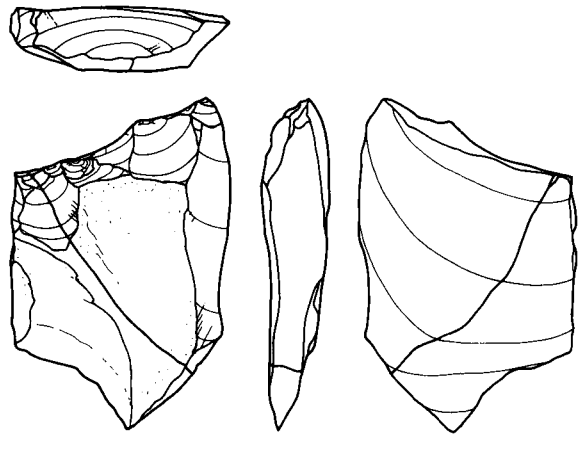


2．５Ｒ-39-54

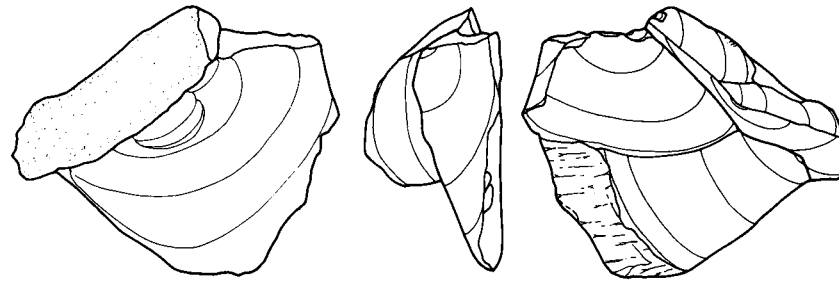
3．５Ｒ-39-34



4．５Ｒ-38-66

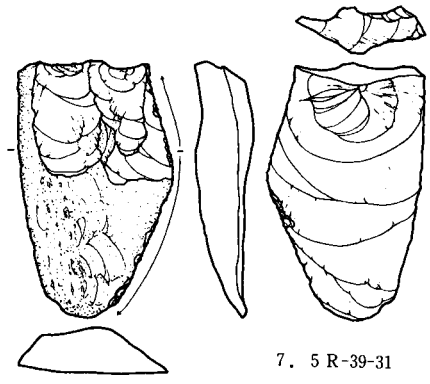


5．５Ｒ-38-61
39-4

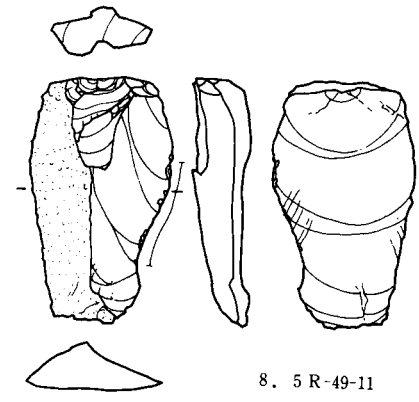


6．５Ｒ-38-8,10

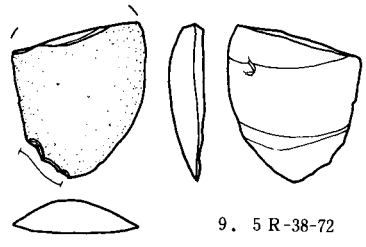
第９図　第１文化層集中１　出土石器（１）（２／３）



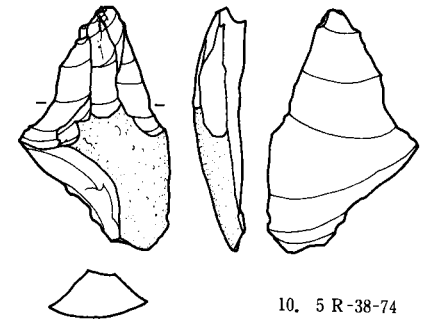
7．5 R-39-31



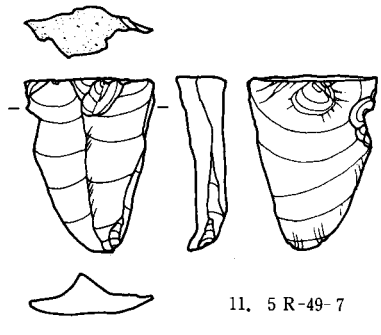
8．5 R-49-11



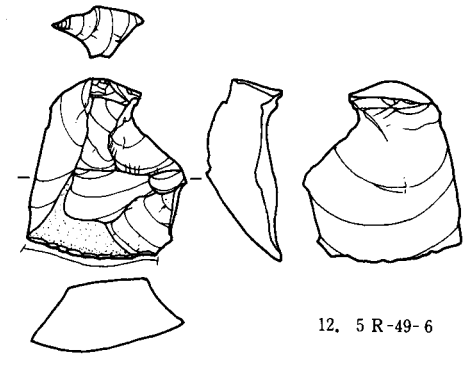
9．5 R-38-72



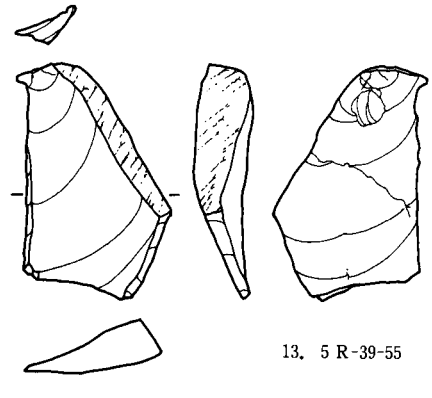
10．5 R-38-74



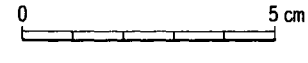
11．5 R-49-7



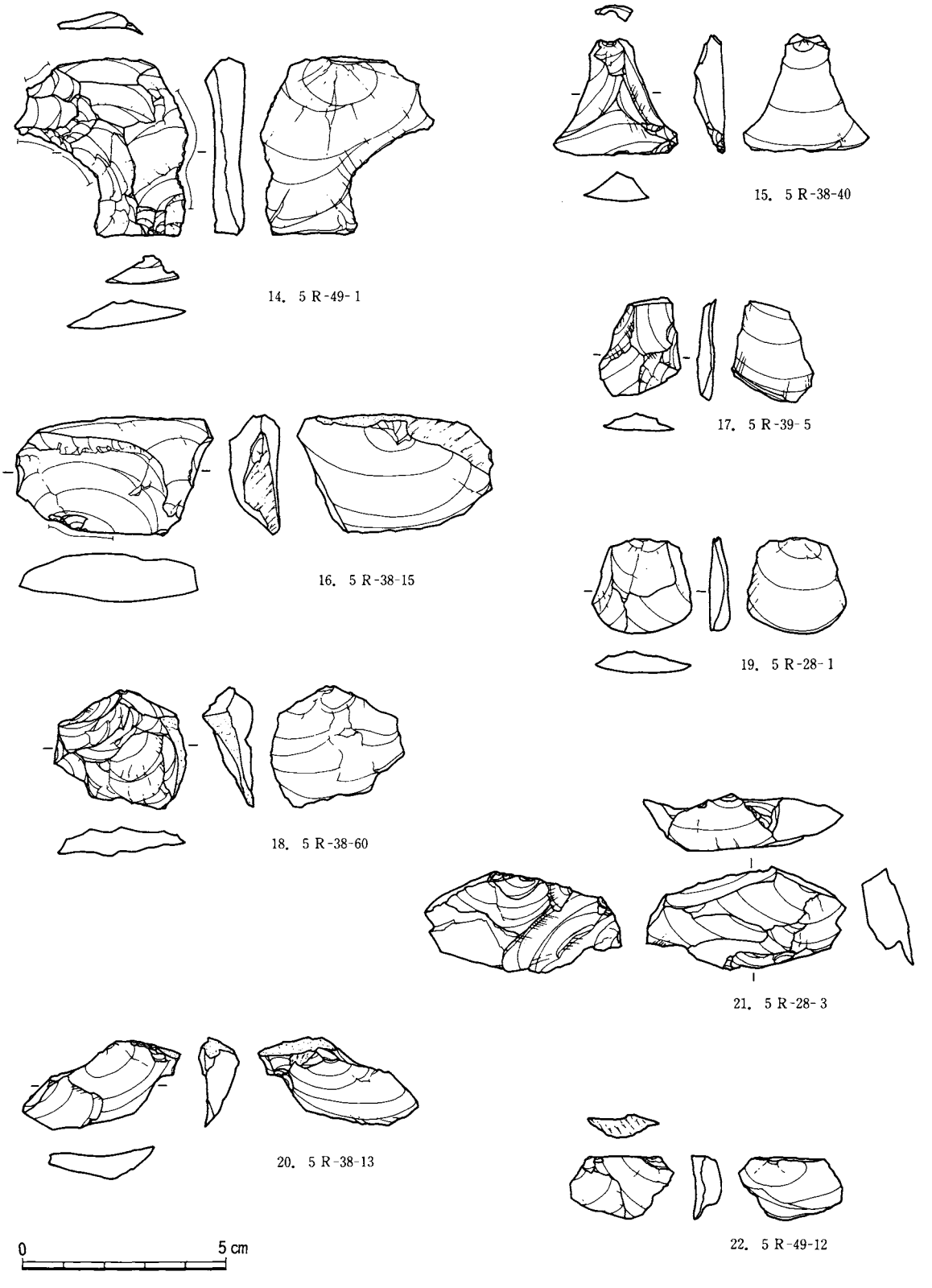
12．5 R-49-6



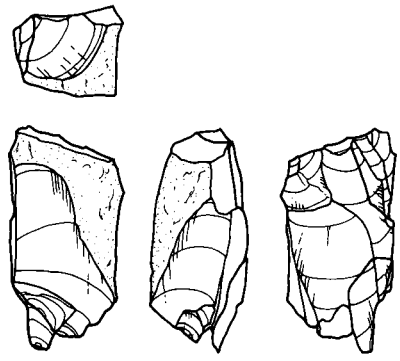
13．5 R-39-55



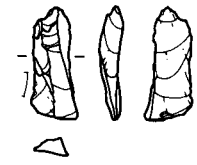
第10図　第１文化層集中１　出土石器（２）（２／３）



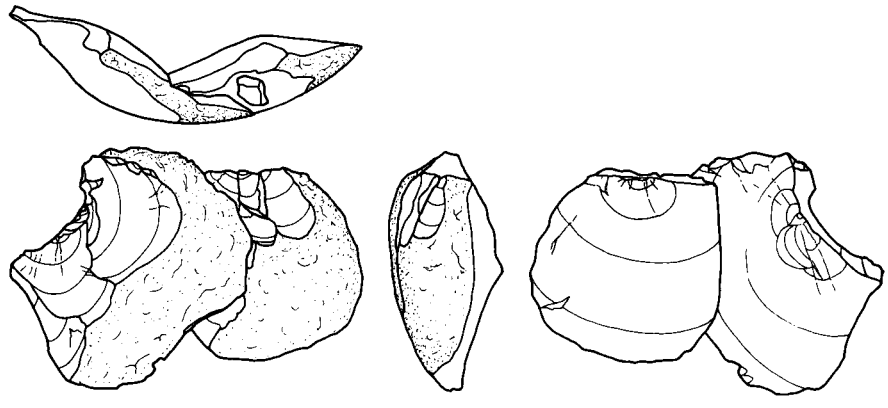
第11図　第１文化層集中１　出土石器（３）（２／３）



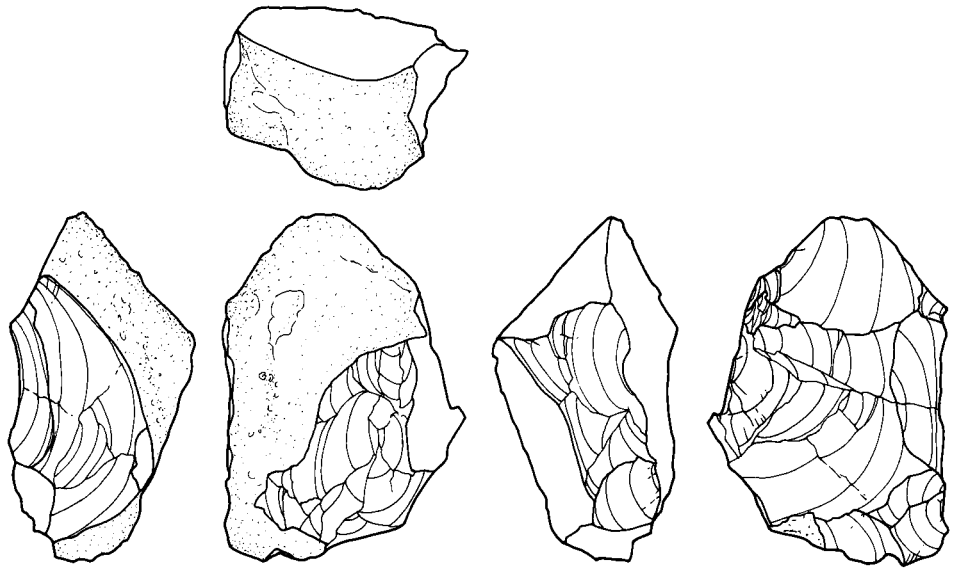
23. 5 R-38-16,98
39-63



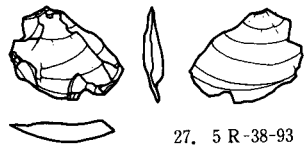
24. 5 R-38-4



25. 5 R-28-2
38-71



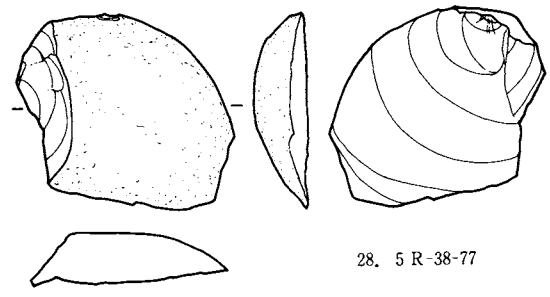
26. 5 R-38-73



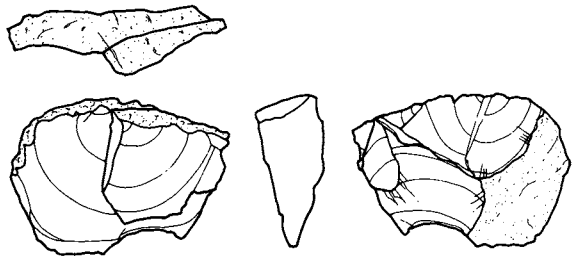
27. 5 R-38-93

0 5 cm

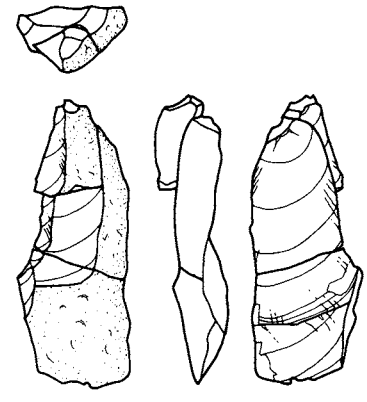
第12図　第１文化層集中１　出土石器（４）（２／３）



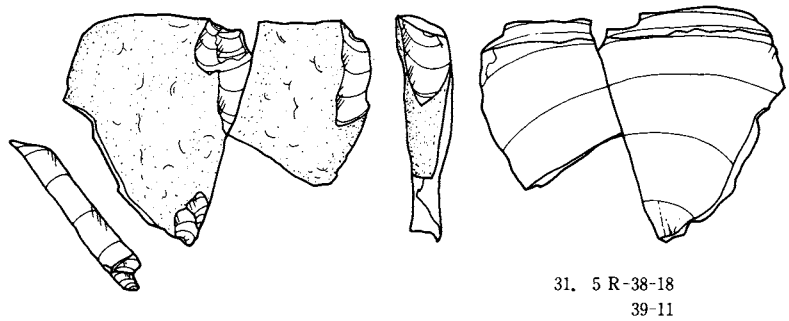
28. 5 R-38-77



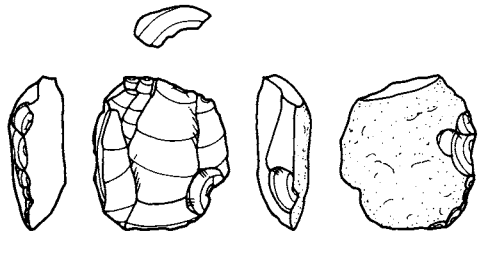
29. 5 R-38-7，9



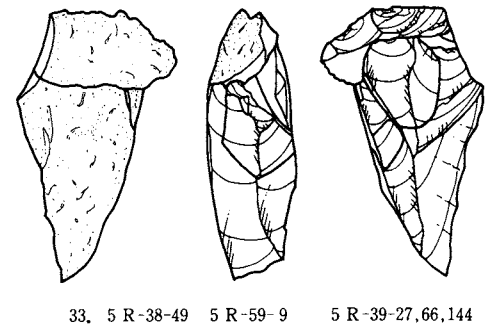
30. 5 R-39-12,21
49-5



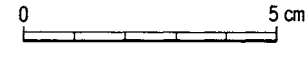
31. 5 R-38-18
39-11



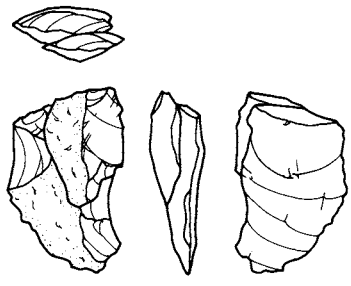
32. 5 R-38-88



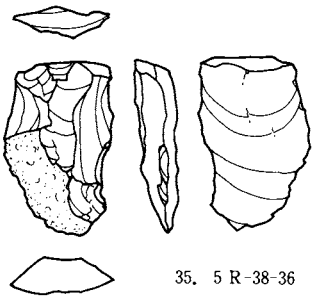
33. 5 R-38-49　5 R-59-9　5 R-39-27,66,144



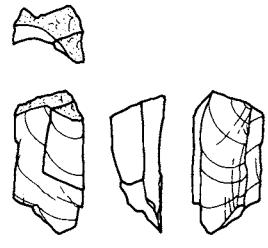
第13図　第１文化層集中１　出土石器（５）（２／３）



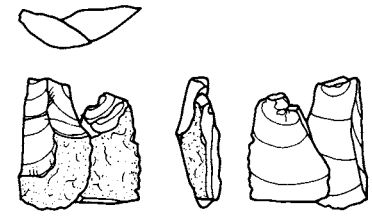
34. 5 R-38-36
6 R-50-2



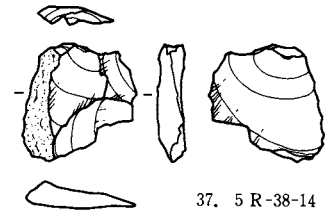
35. 5 R-38-36



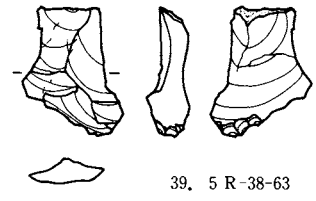
38. 5 R-38-59,76



36. 5 R-39-10,28

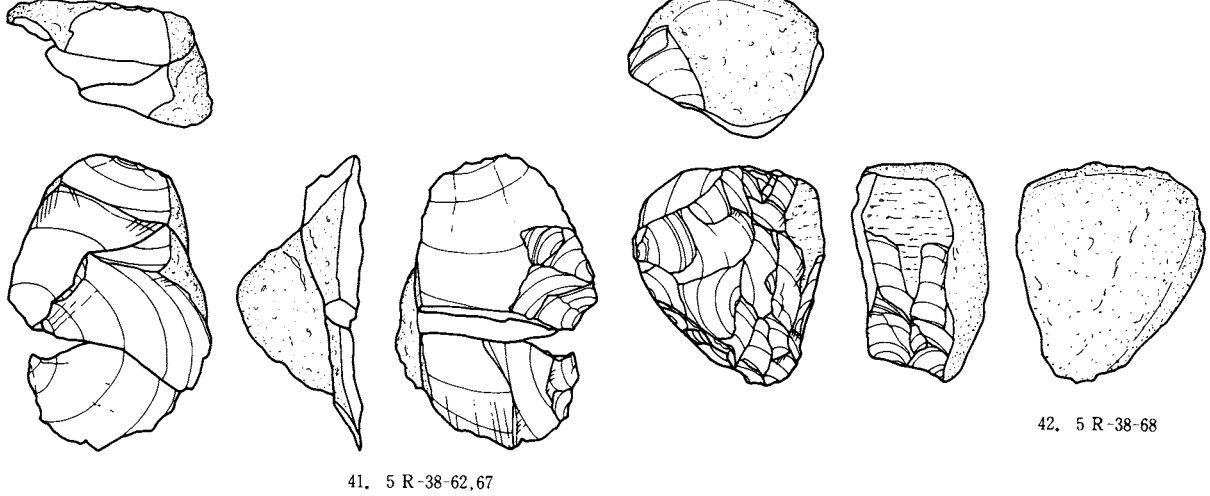


37. 5 R-38-14



39. 5 R-38-63

40. 5 R-38-43
39-18

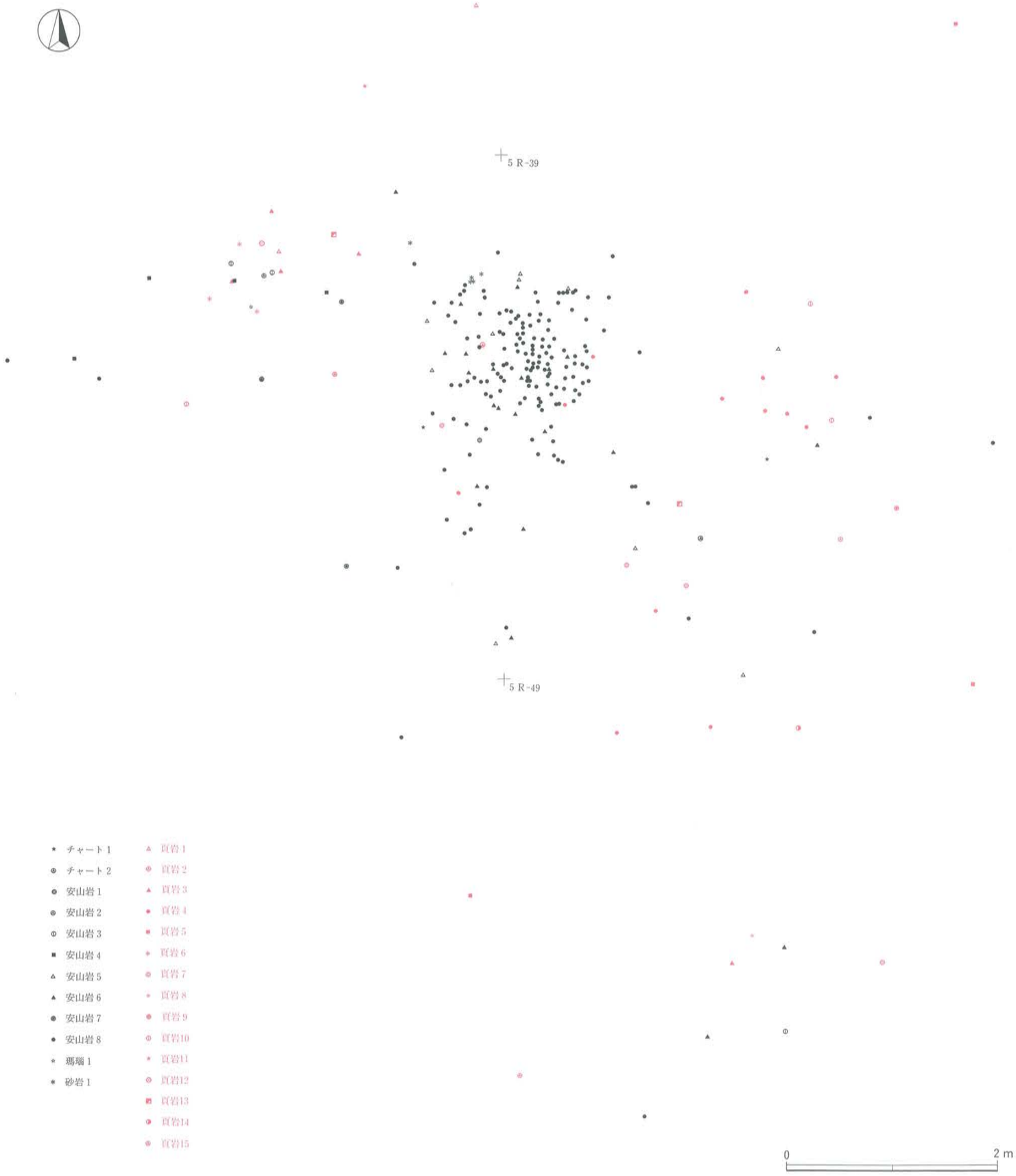


41. 5 R-38-62,67
49-4

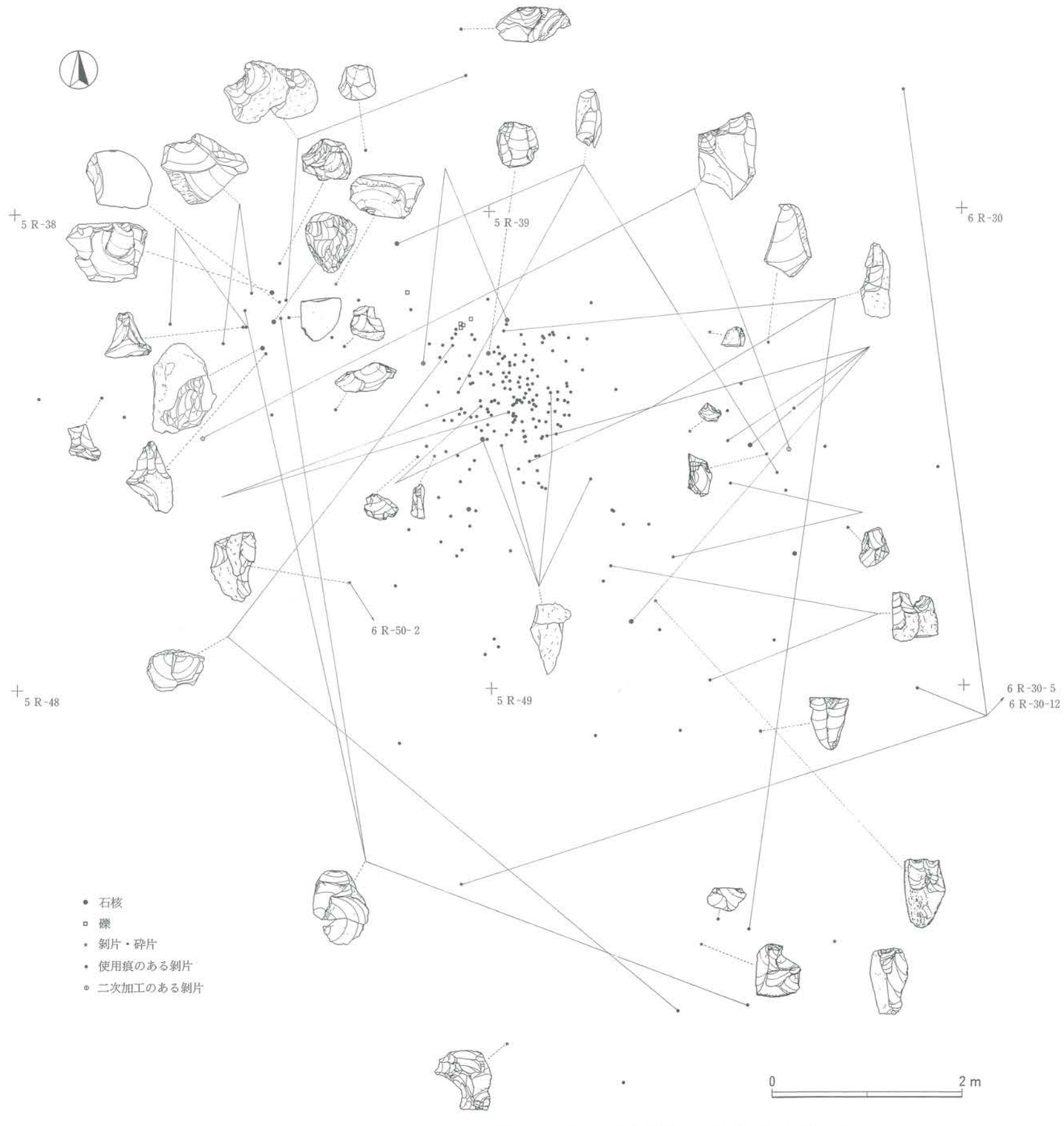
42. 5 R-38-68

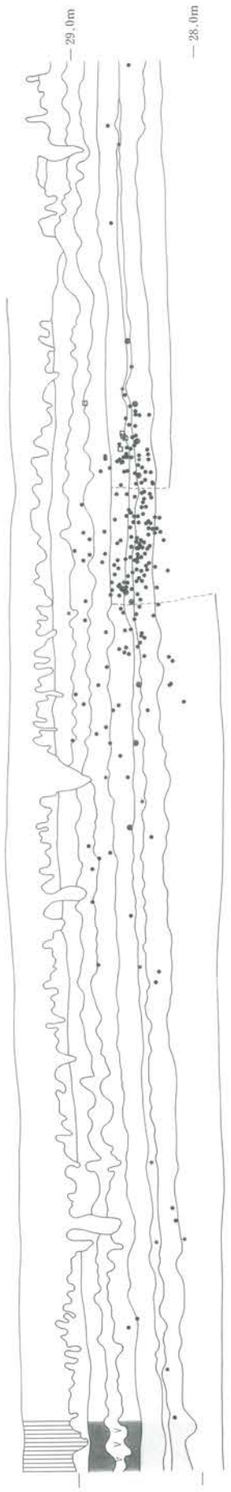
0 5 cm

第14図　第１文化層集中１　出土石器（６）（２／３）

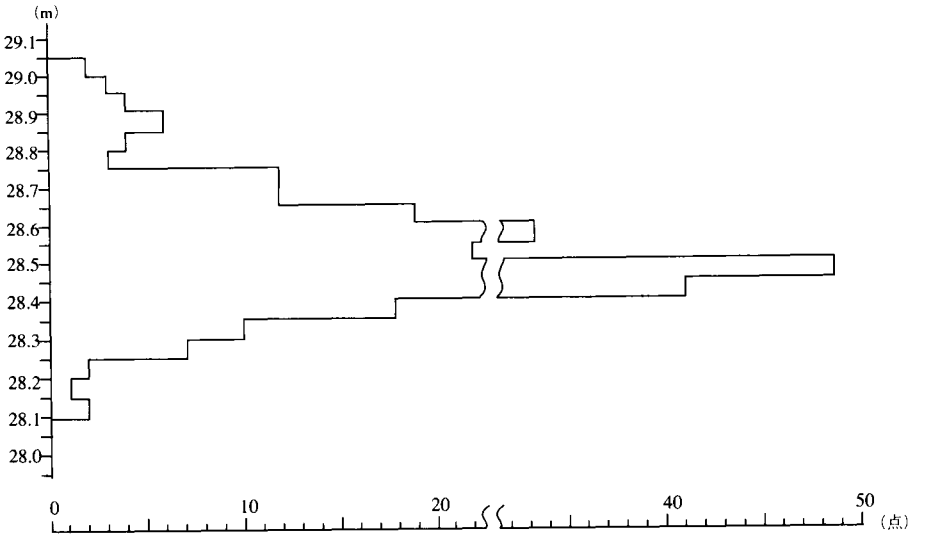


第15図　第１文化層集中１　母岩別分布（１／40）





第16図　第１文化層集中１　器種別分布（１／50）



第17図　第１文化層集中１　遺物垂直分布図

第１表　第１文化層集中１　石器属性表

図版No	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No
11-19	F	5R-28-1	23.3×24.3× 4.4	2.90	線	I				頁岩	11
12-25	F	2	37.4×38.5×14.0	19.81	平	I,Ⅳ				頁岩	1
11-21	F	3	31.9×45.4×14.8	13.79	平	I,II				頁岩	6
	UF	5R-29-1	51.1×17.5× 9.1	6.32	剝	I				頁岩	5
	F	5R-38-1	8.5×11.2× 3.4	0.24	欠	I,II			H～M	安山岩	8
	F	2	15.4×15.9× 6.5	1.47	平	I,II				頁岩	4
	F	3	12.6× 9.3× 3.1	0.37	平	I,Ⅳ				安山岩	8
12-24	石刃	4	22.8× 9.4× 4.9	0.78	点	I,Ⅳ		L,M		頁岩	7
	F	5	13.4× 6.1× 1.9	0.14	線	II			L,R	安山岩	8
	CH	6	5.7× 5.4× 1.7	0.05	平	I				安山岩	8
13-29	F	7	22.5×23.4× 6.6	2.59	自	II			R	安山岩	4
9-6	F	8	48.1×56.2×15.2	24.52	平	I,II				頁岩	6
13-29	F	9	29.6×40.2× 8.9	10.07	－	I,II				安山岩	4
	F	10	31.0×48.3×12.2	17.88	剝	I				頁岩	6
32-106	F	12	15.2×21.4× 4.8	1.38	剝					安山岩	7
11-20	F	13	22.7×34.8× 9.3	3.39	自	I				頁岩	9
14-37	F	14	21.0×24.6× 5.6	2.42	剝	I,II				安山岩	7
11-16	UF	15	28.7×47.9×11.7	18.58	自	III				頁岩	13
12-23	石核(石刃石核)	16	40.5×24.9×20.4	19.56	－					安山岩	6
	礫片	17	10.7×15.1× 6.3	1.29	－					砂岩	1
13-31	彫刻研磨器	18	44.7×35.5× 8.6	15.55	欠	Ⅳ			L	安山岩	5
	F	19	6.5×10.1× 1.9	0.11	平	I				安山岩	8
	F	20	8.0×15.4× 2.5	0.32	線	I				安山岩	8
	CH	21	2.5× 6.8× 1.3	0.01	点	I				安山岩	8
	円礫片	22a	20.2×13.2× 6.2	1.55	－					砂岩	1
	礫片	22b	5.0× 8.5× 4.1	0.15	－					砂岩	1
	礫片	22c	4.9× 4.5× 2.9	0.06	－					砂岩	1
	礫片	23	9.5× 6.1× 3.4	0.24	－					砂岩	1
	CH	24	6.6× 3.8× 1.7	0.04	線	I				安山岩	8
	CH	25	6.6× 8.5× 2.2	0.08	平	I,Ⅳ				安山岩	8
	F	27	7.5× 6.6× 3.8	0.39	自	I,Ⅳ				安山岩	5
	CH	28	6.1× 8.3× 1.5	0.05	平	I				頁岩	15
	CH	30	3.1× 4.7× 1.3	0.02	欠	I			H	安山岩	8
	CH	32	5.8× 5.6× 1.6	0.04	点	I				安山岩	8
	F	33	17.4× 8.2× 3.4	0.51	平	I				安山岩	5
	F	35	15.0×11.9× 7.5	1.17	欠	I			H,B	安山岩	8
14-34.35	F	36	34.9×21.4× 8.7	5.77	平	I,II				安山岩	7
	CH	38	8.4× 3.8× 1.5	0.02	自	I			B	安山岩	8
	F	39	10.6×11.3× 3.9	0.39	欠	I			H	安山岩	8
11-15	F	40	29.8×30.5× 7.6	4.25	平	I,II				頁岩	3
	F	41	6.5×15.5× 5.5	0.59	平	I				安山岩	8
	F	42	13.0× 9.9× 4.4	0.54	剝	I			B	安山岩	6
14-40	F	43	11.2× 7.5× 4.3	0.92	平	I			M～B	安山岩	6
	F	44	16.2×11.2× 5.4	0.71	平	I			B	安山岩	8
	F	45	16.6× 8.7× 3.7	0.44	線	I				安山岩	8
13-33	石核	49	42.6×26.5×17.9	14.81	－					安山岩	6
	F	50	17.0×12.3× 4.1	0.87	平	I,Ⅳ				安山岩	8
	F	51	13.2× 7.0× 2.2	0.16	点	I				安山岩	8
	F	52	13.7×13.1× 1.8	0.24	欠	I			H～M	安山岩	8
	CH	53	3.1× 4.0× 1.4	0.01	自	I				安山岩	8

図版No	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No
	CH	54	4.9× 6.7× 0.9	0.01	線	I				安山岩	8
	F	55	26.4× 6.3× 5.7	0.99	点	II				安山岩	5
	CH	56	8.2× 5.5× 2.2	0.07	平	I				安山岩	8
	CH	57	4.8× 5.2× 2.6	0.07	平	I,II				安山岩	8
	F	58	13.3×10.4× 4.8	0.36	欠	I			H	安山岩	8
	F	59	26.4×14.2× 6.5	2.07	自	I,II				安山岩	6
11-18	F	60	32.1×29.7×11.4	6.41	平	I				頁岩	3
9-5	RF	61	50.1×40.0×12.9	24.16	−					頁岩	10
14-41	F	62	31.9×22.8× 8.9	5.12	線	I,II,IV				安山岩	3
14-39	F	63	25.3×21.7× 6.8	2.05	自	I				安山岩	4
	CH	64	6.4× 3.5× 1.1	0.03	自	I				安山岩	8
9-4	石核	66	39.9×53.9×17.2	31.51	−					頁岩	12
14-41	F	67	33.0×37.4×12.3	13.96	線	I,II,III				安山岩	3
14-42	石核	68	38.5×45.8×27.1	55.33	−					安山岩	2
	CH	69	2.8× 4.9× 0.7	0.01	点	I				安山岩	8
	CH	70	7.2× 4.0× 1.4	0.03	点	I				安山岩	8
	F	71	42.0×51.1×11.6	19.85	平	I				頁岩	1
10-9	F	72	27.7×26.8× 6.8	5.45	欠				H～M	頁岩	3
12-26	石核	5R-38-73	49.0×69.0×36.3	108.29	−					メノウ	1
10-10	F	74	58.5×29.1×10.6	9.40	線	I,IV			H	頁岩	11
	CH	75	5.6× 1.9× 0.8	0.01	欠	I				安山岩	8
14-38	F	76	15.6×10.0× 5.4	0.80	自	I			M～B	安山岩	6
13-28	F	77	41.8×43.2×11.2	17.86	平	I				安山岩	1
	F	78	20.2×13.0× 6.3	0.96	平	I				安山岩	8
	F	79	9.8× 9.7× 2.8	0.37	自	I				安山岩	8
	CH	80	8.0× 2.7× 1.4	0.02	線	I				安山岩	8
	CH	81	4.1× 8.0× 2.7	0.07	点	I				安山岩	8
	CH	82	3.2× 4.0× 1.0	0.01	線	I				安山岩	8
	F	83	12.6× 1.2× 4.3	0.47	自	I				安山岩	8
	F	84	24.9×25.4× 6.9	2.95	平	I,II			M～B	安山岩	6
	CH	85	8.2× 7.2× 1.3	0.05	線	I				安山岩	8
	CH	86	5.5× 4.1× 1.0	0.01	欠	I			H	安山岩	8
	CH	87	8.8× 7.0× 1.5	0.07	線	I				安山岩	8
13-32	石核	88	30.1×27.3×11.5	9.90	−					安山岩	6
	CH	89	3.8× 2.9× 0.7	0.01	欠	I			H	安山岩	8
	CH	90	4.9× 4.9× 3.3	0.07	平	I				安山岩	8
12-25	F	91	4.4× 2.7× 1.5	0.01	欠	I,II			H	安山岩	8
	F	92	16.5×10.2× 3.2	0.35	線	I,II				安山岩	4
12-27	F	93	17.8×21.6× 4.3	1.04	線	I,II				チャート	1
	F	94	13.7×14.6× 3.3	0.45	欠	I,II			H	頁岩	3
	F	95	6.9×11.1× 2.5	0.11	欠	I			H～M	安山岩	8
	CH	96	7.9× 7.5× 3.2	0.13	自	I				安山岩	8
	CH	97	6.0× 5.1× 3.6	0.07	点	I				安山岩	8
	F	98	19.1×12.9× 4.8	1.00	剝	I,IV				安山岩	6
	F	5R-39-1	10.6×22.9×17.4	1.03	自	I				安山岩	8
	F	2	18.5×14.5× 4.7	1.02	平	I,IV				安山岩	8
	F	3	13.2×16.9× 4.3	0.64	欠	I			H～M	頁岩	4
	F	4	54.8×21.9× 9.9	10.40	平	III			H	頁岩	10
11-17	F	5	22.5×20.0× 4.4	1.61	欠	I,II			H	頁岩	9
	F	6	25.7×22.4× 0.8	2.83	自	I,III				安山岩	8
	F	7	17.1×14.8× 4.8	0.77	自					チャート	2
	CH	8	9.4× 5.7× 2.0	0.06	線	I				頁岩	13
	F	9	10.4×23.3× 6.6	0.99	平	II				安山岩	8
14-36	F	10	22.5×16.6× 6.8	2.09	平	I			M～B	安山岩	5
13-31	石核もしくは彫刻研磨器	11	25.9×32.3× 7.3	10.06	欠	III			H	安山岩	5
13-30	石刃	12	29.1×18.2× 9.5	5.08	平	I			M～H	安山岩	6
	F	16	16.8×18.4× 4.4	1.01	平	I				安山岩	8
	CH	17	4.5× 6.1× 1.3	0.03	線	I				安山岩	8
	CH	18	6.5× 6.8× 3.6	0.19	線	I			B	安山岩	8
	F	20	30.3×23.8×13.1	10.50	−					安山岩	6
	F	21	19.8×13.6× 8.8	1.91	平	I			B	安山岩	6
	F	22	11.3× 6.9× 2.1	0.15	欠	I			H	安山岩	8
	F	23	17.5×11.3× 3.1	0.40	点	I				安山岩	8
	F	24	20.6×20.7× 7.1	2.17	−	I,III,IV				安山岩	8
	F	26	12.5× 6.5× 2.7	0.14	欠				H～M	安山岩	6
	F	27	21.4×14.4× 5.3	1.32	平	I				安山岩	6
14-36	F	28	26.2×14.3× 5.9	2.19	平	I				安山岩	5
	石核	29	27.7×26.5×15.5	11.81	−					頁岩	4
10-7	UF	31	52.8×30.7×11.7	17.54	平	I			LH,RH～B	頁岩	7

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	32	17.9× 7.1× 8.8	0.8	線	I				チャート	1
	F	33	17.9×14.9× 6.1	1.50	平	I,III				頁岩	4
9-3	UF	34	14.8×17.2× 4.8	1.15	自	I,IV			B	頁岩	4
	F	35	21.4×18.9× 5.2	2.16	自				B	安山岩	5
	F	36	10.2×16.4× 3.2	0.41	欠	I			H～M	安山岩	8
	石核	37	29.0×57.0×28.7	40.27	−					頁岩	2
	CH	39	8.9× 8.4× 3.4	0.26	平	I				安山岩	8
	F	40	18.5× 6.9× 4.8	0.52	土				H	安山岩	8
	CH	41	8.4× 7.4× 4.7	0.25	平	I				安山岩	8
	F	42	10.4×14.8× 3.4	0.49	平	I,IV			B	安山岩	8
	F	43	16.9×16.5× 7.5	1.43	自	I,II				頁岩	4
	CH	44	8.6× 5.4× 1.0	0.04	−	I				安山岩	8
	F	45	13.5× 5.9× 2.5	0.15	線	I				安山岩	8
	F	46	15.5×10.8× 3.5	0.64	−	I			B	安山岩	8
	CH	47a	8.1× 9.1× 2.0	0.01	自	I				安山岩	8
	CH	47b	5.4× 1.7× 0.9	0.13	欠	I			H	安山岩	8
	CH	48	8.7× 6.2× 1.9	0.07	平	I				安山岩	8
	F	49	10.9× 6.9× 2.6	0.17	平	I				安山岩	8
	CH	50	8.1× 5.2× 1.9	0.07	点	I				安山岩	8
	CH	5R-39-51	4.2× 6.0× 1.4	0.04	点					安山岩	8
	CH	52	5.6× 8.1× 2.5	0.10	自	I				安山岩	8
	F	53	17.5×17.2×17.4	3.91	欠	I,II			H	安山岩	6
9-2	UF	54	13.0×10.8× 4.4	0.47	平	I		L		頁岩	4
10-13	F	55	44.9×29.4×11.0	9.26	平	I,II			B	頁岩	10
	CH	56	8.7× 9.0× 2.8	0.14	自	I				頁岩	4
9-1	UF	57	13.0×22.9× 5.2	0.98	線	I				頁岩	4
	F	58	17.2× 7.6× 5.0	0.53	欠	I			H～M	安山岩	8
	石核	59	21.2×27.8×17.0	9.37	−					頁岩	4
	F	60	16.1× 6.9× 2.2	0.09	線	I,II				安山岩	8
	CH	61	8.0× 3.4× 1.7	0.05	自	I,IV				安山岩	8
	CH	62	4.7× 5.6× 1.2	0.03	線	I				安山岩	8
	F	63	19.4× 8.9× 3.5	0.52	自	I,IV				安山岩	6
	F	64	14.6× 9.2× 2.7	0.27	平	IV				安山岩	8
	CH	65a	6.1× 9.2× 2.5	0.17	平	II				安山岩	8
	CH	5R-39-65b	3.3× 4.1× 0.6	0.01	線	I				安山岩	8
	F	66	19.3×17.4× 5.9	1.63	平	I				安山岩	6
	CH	67a	7.5× 8.8× 2.4	0.14	平					安山岩	8
	CH	67b	3.8× 4.4× 1.0	0.01	線	I				安山岩	8
	CH	68	3.2× 3.3× 0.7	0.01	欠	I			H	安山岩	8
	F	69	20.6×13.3× 7.6	1.30	平	I,IV				安山岩	8
	F	70	10.3×10.1× 2.9	0.14	線	I,III			R	頁岩	7
	CH	71	12.0× 5.3× 2.2	0.12	点	I				安山岩	8
	CH	72	6.6× 2.8× 1.2	0.02	点	I				安山岩	8
	F	73	12.6× 8.1× 2.7	0.21	点	I				安山岩	8
	CH	74	5.0× 8.2× 1.6	0.06	線	I				安山岩	8
	CH	75	2.8× 3.2× 1.5	0.01	欠	I			H	安山岩	8
	F	76	12.9×12.0× 1.5	0.14	線	I				安山岩	8
	CH	77	5.4× 3.1× 1.5	0.02	自	I				安山岩	8
	F	78	13.9× 8.1× 2.8	0.25	線	I			L	安山岩	8
	CH	79	10.2× 3.5× 2.0	0.05	平	I				安山岩	8
	CH	80	5.4× 3.5× 1.7	0.02	点	I				安山岩	8
	F	81	12.0× 3.5× 3.2	0.10	平	I,II				安山岩	8
	CH	82	4.3× 5.4× 0.7	0.02	線	I				安山岩	8
	CH	83	3.5× 5.0× 1.0	0.02	平	I				安山岩	8
	CH	84	2.3× 4.2× 0.7	0.01	平	I				安山岩	8
	F	85	12.2× 5.1× 2.4	0.09	平	I				安山岩	6
	CH	86a	7.5× 9.5× 3.2	0.13	自	I				安山岩	8
	CH	5R-39-86b	3.3× 4.2× 0.8	<0.01	欠	I			H	安山岩	8
	CH	87	3.0× 3.8× 0.9	0.03	線	I				安山岩	8
	CH	88	2.6× 2.0× 0.8	<0.01	線	I				安山岩	8
	CH	89	3.6× 4.2× 1.2	<0.01	平	I				安山岩	8
	CH	90	6.0× 2.9× 0.8	0.01	点	I				安山岩	8
	CH	91	3.0× 5.2× 1.3	0.01	点	I				安山岩	8
	F	92	9.8× 9.6× 3.8	0.18	平	I				安山岩	8
	CH	93	6.2× 8.8× 1.9	0.08	平	I,IV				安山岩	8
	CH	94	4.0× 9.8× 3.9	0.10	自	I				安山岩	8
	CH	95	4.9× 2.9× 1.5	0.02	平	I				安山岩	8
	CH	96a	8.5×12.9× 2.2	0.19	平	I				安山岩	8
	CH	5R-39-96b	3.6× 5.1× 1.1	<0.01	線	I				安山岩	8
	CH	97	3.2× 2.2× 1.1	0.01	平	I				安山岩	8
	F	98	10.3× 7.4× 2.4	0.17	平	I				安山岩	8

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	99	8.5× 4.3× 1.0	0.03	欠	I			H	安山岩	8
	CH	100	9.4× 7.5× 2.0	0.11	自	I,Ⅳ				安山岩	5
	CH	101	6.8× 3.0× 1.7	0.03	平	I				安山岩	8
	CH	102	3.9× 4.0× 1.5	0.01	線	I				安山岩	8
	CH	103	7.7× 2.4× 1.4	0.02	欠	I			H	安山岩	8
	CH	104	3.7× 1.8× 1.1	<0.01	点	I				安山岩	8
	CH	105	2.6× 2.9× 0.8	<0.01	平	I				安山岩	8
	CH	106	5.6× 3.1× 0.8	<0.01	欠	I			H	安山岩	8
	F	107	12.4× 7.5× 5.5	0.29	平	I,II				安山岩	8
	CH	108	2.8× 3.0× 0.8	<0.01	点	I				安山岩	8
	CH	109	5.5× 7.4× 0.9	0.04	自	I				安山岩	8
	CH	110	10.2× 4.5× 3.5	0.15	平	II				安山岩	5
	CH	111	7.7× 3.8× 2.0	0.04	線	I,Ⅳ				安山岩	8
	CH	112	2.8× 4.1× 0.6	<0.01	線	I				安山岩	8
	CH	113	4.1× 3.9× 0.7	<0.01	線	I				安山岩	8
	F	114	13.4× 8.9× 2.3	0.13	平	I				安山岩	8
	CH	115	3.5× 4.2× 1.5	<0.01	点					安山岩	8
	F	117	11.6×10.8× 2.8	0.28	自	I				頁岩	4
	CH	118	9.5× 8.0× 3.5	0.19	点	I				安山岩	8
	CH	119	6.6× 6.8× 3.3	0.11	欠	I,II			H	安山岩	8
	CH	5R-39-121	3.6× 5.1× 1.5	0.03	欠	I			H,B	安山岩	8
	CH	122	4.5× 2.2× 0.6	<0.03	欠	I				安山岩	8
	CH	123	3.0× 3.8× 0.9	<0.01	線	I				安山岩	8
	CH	124	4.5× 2.0× 1.4	0.01	自	I				安山岩	8
	F	125	15.6× 7.4× 3.1	0.18	自	I				安山岩	8
	CH	126	9.5× 7.2× 3.9	0.03	平	I				安山岩	8
	F	127	10.7×14.3× 3.6	0.36	平	I				安山岩	8
	CH	128	9.2× 5.3× 2.0	0.08	平	I				安山岩	8
	CH	129	9.1× 4.5× 2.3	0.08	線	I,II				安山岩	8
	CH	130	9.2×10.3× 2.7	0.23	平	I			B	安山岩	8
	CH	131	5.3× 7.2× 2.7	0.13	欠	I,II			H,B	安山岩	8
	CH	132	7.9× 6.3× 1.3	0.06	線					安山岩	8
	CH	133	4.0× 6.9× 2.0	0.05	平	I			B	安山岩	8
	CH	134	3.0× 3.0× 0.8	<0.01	線	I				安山岩	8
	CH	135	3.6× 4.4× 1.0	<0.01	線	I,Ⅳ				安山岩	8
	CH	136	1.7× 3.7× 0.7	0.01	欠	I			H	安山岩	8
	CH	137	3.6× 8.1× 1.1	0.06	欠	I			H	安山岩	8
	CH	138	2.2× 2.0× 0.6	0.01	線	I				安山岩	8
	CH	139	9.8× 6.7× 3.1	0.14	平	I				安山岩	8
	CH	140	4.8× 2.5× 0.8	0.01	線	I				安山岩	8
	CH	141	7.1× 2.5× 2.0	0.05	欠	I			H	安山岩	8
	CH	142	6.3× 4.7× 1.5	0.03	線	I				安山岩	8
	CH	143	3.5× 4.0× 1.1	0.03	欠	I			H	安山岩	8
	F	144	13.5× 9.0× 3.5	0.40	平	I,Ⅳ				安山岩	6
	CH	145	5.2× 6.3× 1.5	0.04	線	I				安山岩	8
	F	146	12.0× 5.7× 2.0	0.13	線	I				安山岩	8
	CH	148	9.0× 4.5× 1.3	0.03	線	II				安山岩	8
	F	149	13.0× 3.9× 1.7	0.08	点	II				安山岩	8
	CH	150	8.6× 5.2× 2.6	0.10	平	I				安山岩	8
	F	151	21.2× 7.5× 5.1	0.40	平	I				安山岩	8
	F	5R-48-1	15.4×14.4× 4.3	1.05	平	I				安山岩	8
	UF	2	48.5×52.1×16.8	39.22	−					頁岩	5
11-14	UF	49-1	44.2×42.0× 8.5	11.65	平	I,Ⅲ,Ⅳ		R,M		頁岩	2
	F	2	14.1×10.0× 3.5	0.41	平	I				安山岩	8
	F	3	18.2×22.2×14.2	6.45	平	I,II				安山岩	6
14-41	F	4	34.1×34.5×15.2	10.50	線	I,Ⅳ				安山岩	3
	F	5	23.8×25.3× 8.7	6.11	欠	I			H	安山岩	6
10-12	UF	6	36.5×34.9×15.6	13.78	平	I,II,Ⅳ				頁岩	3
10-11	F	7	34.3×26.3× 9.5	6.50	自	I		L,H		頁岩	14
	F	8	24.2×10.5× 4.1	0.92	欠	I			H,B	頁岩	4
	F	9	14.0×21.2× 6.0	0.98	平	I				頁岩	4
	F	10	18.6×11.5× 9.0	0.97	節	C				頁岩	5
10-8	UF	11	50.5×28.7×12.0	12.98	平	I		R		頁岩	7
11-22	F	12	15.3×25.3× 6.5	2.25	節	I				頁岩	8

第２表　第１文化層集中１石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート	1																			2		2	1.84
	2																			1		1	0.87
頁岩	1																			2		2	39.66
	2	1												1								2	51.92
	3													1						4		5	30.34
	4	2												2						9		13	31.14
	5													2						1		3	46.51
	6																			3		3	56.19
	7													2					1	1		4	31.44
	8																			1		1	2.25
	9																			2		2	5.00
	10												1							2		3	43.82
	11																			2		2	12.30
	12	1																				1	31.51
	13													1						1		2	18.64
	14																			1		1	6.50
	15																			1		1	0.05
安山岩	1	1																				1	17.86
	2	1																				1	55.33
	3																			3		3	29.58
	4																			4		4	15.06
	5														2					8		10	34.20
	6	3																	1	17		21	90.71
	7																			3		3	9.57
	8																			157		157	31.67
メノウ	1	1																				1	108.29
砂岩	1																				5	5	3.29
総計		10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	2	0	0	0	2	225	5	254	805.44
%		3.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	3.5	0.8	0	0	0	0.8	88.6	2	100	

（2）　集中2（第18～23図、第3、4表　図版3、4、5）

位　置

第1調査区の舌状台地の中央部に当たる6R—30、31、41グリッドを中心とした南北20m、東西20mの範囲を集中2とした。安山岩とチャートを主体とした石材構成の集中である。

遺物分布状況

集中2の遺物は合計447点である。6R—11、12,23グリッド、と6R—30、31、40、41グリッドで遺物の集中する地点が見られるほかは、散漫な分布を示している。特に頁岩では6R—30、31、40、41グリッドを中心とした範囲に遺物が集中して出土している。

遺物の垂直分布では集中1と同様に0.7mほどの上下幅をもっている。土層への投影図ではVI層からX層までの出土が見られるが集中して検出された層準はIX層の中位である。

母岩別分布

当集中の出土遺物は頁岩が39種、チャート、安山岩が17種、黒曜石4種、メノウ2種、砂岩が2種、石英、凝灰岩が各1種で、頁岩が最も多いが、各母岩別では単体や数点の出土が多い。器種別分布図中のチャート1は7cm×7cm×8cmほどの円礫で、節理面が多く剝片剝離作業の早い段階で石器製作には不向きと判断されたためか、廃棄されたものと考えられる。石材ごとでは頁岩と安山岩が6R—31、41グリッドを中心に重なるように分布し、チャートは上記各グリッドと6R—21、22、43グリッドにまとまって分布している。このことは、頁岩と安山岩、チャートの剝片剝離作業がほぼ同一の場所で行われ、チャートは別地点で剝離作業が行われたことを示している。従って、本集中は複数の母岩消費空間とその外縁の遺物散布域とによって構成されていることになる。

石　材

頁岩39種186点、チャート17種121点、安山岩17種95点、黒曜石4種32点、凝灰岩2種6点、メノウ2種4点、砂岩1種1点、石英1種1点の計446点で構成される。頁岩には灰色がかった褐色のものや淡い褐色のものがある。チャート1,2は節理面が多いもの、3が暗い灰色に黒色脈が線状に入るもの、9は淡い褐色で透明感のあるもの、11は乳白色のものである。安山岩1は淡い灰色、3は暗い灰色、12は濃い灰色に白色鉱物を混入するものなどがある。黒曜石2は透明に近く薄く均一なくすんだ色彩がつくもの、3は濃い黒色で淡い灰色の鉱物を混入するものである。凝灰岩1はくすんだ淡い褐色の地に暗い藍色の鉱物を混入するもの、2は青みがかった灰色のものなどが含まれる。メノウ1は透明感があり淡い褐色斑を混入するもの、2は灰色がかった斑紋を混入するものである。

器　種（第4表）

石核15点、ナイフ形石器3点、楔形石器1点、台形石器10点、削器3点、二次加工のある剝片5点、使用痕のある剝片22点、石刃1点、斧形石器1点、剝片・砕片377点である。

集中2の石器

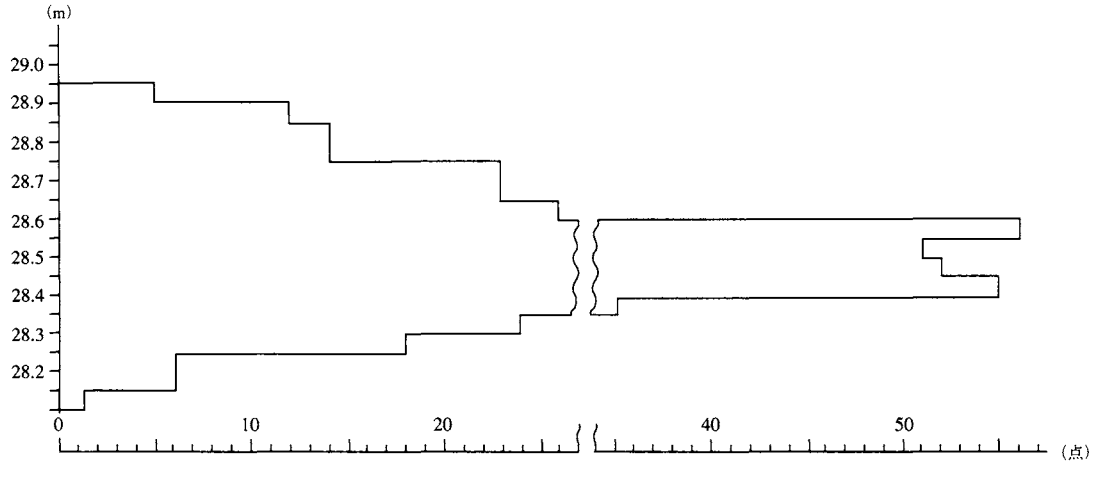
・頁岩の石器（第18、19図・20図　図版19）

43は基部加工のナイフ形石器である。いわゆる「ペン先型」と呼ばれるものに相当する。44は使用痕のある石器である。やや黒色の頁岩を素材としている。45は剝片である。46は円盤状石核に類似した石核であるが、石核を素材とする削器である可能性もある。47はやや厚い縦長剝片を素材にして、抉入削器の可能性がある。48は使用痕の残る石器である。素材は剝片だが、石核の底面まで剝離が抜けている。左側辺

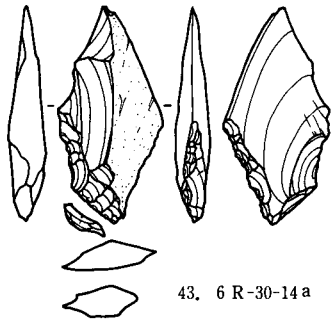
の表裏に使用痕、右側辺にも使用痕が観察できる。49は裏面に刃こぼれのある縦長剝片である。50～52、54は刃こぼれが縁辺に残る石器である。53,55,56は剝片である。56は打面を横に転位している資料で3点が接合した。

・チャート、安山岩、凝灰岩、黒曜石、砂岩、蛇紋岩の石器(第21図)

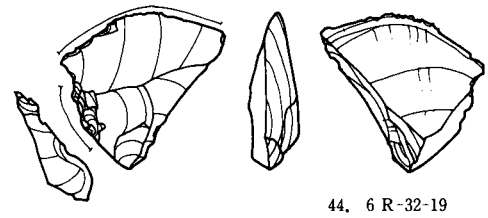
57、58はチャート製の台形石器である。横長剝片を素材とし、背面に整形加工をしている。先端は尖るが、素材の形態のままである。58は貝殻状剝片の打面を折り取り、腹面に整形加工をしている。59は二次加工のある石器である。石刃を素材とし、左側辺に刃潰し加工をしている。右側辺が鋭い縁辺となり、微細な不規則剝離が見られる。60は安山岩を素材とした台形石器である。剝離された横長剝片を素材とし、腹面に整形加工をしている。先端はやや尖り、右側辺は鋭い。石器の基部は潰れている。61は凝灰岩製の石刃である。62は黒曜石製の剝片である。63は砂岩製の斧形石器の製作剝片である。64は蛇紋岩製の刃部磨製斧形石器の刃部破片である。磨痕が観察される。



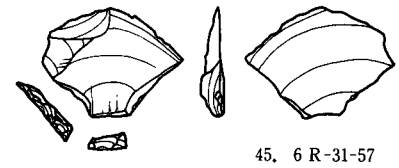
第18図　第1文化層集中2　遺物垂直分布図



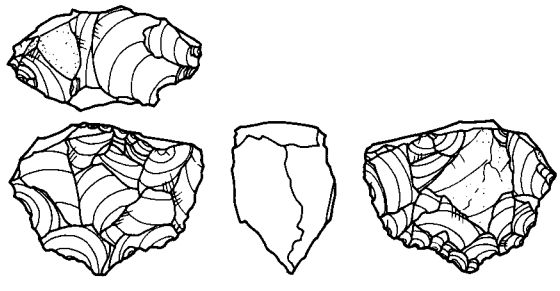
43. 6 R-30-14 a



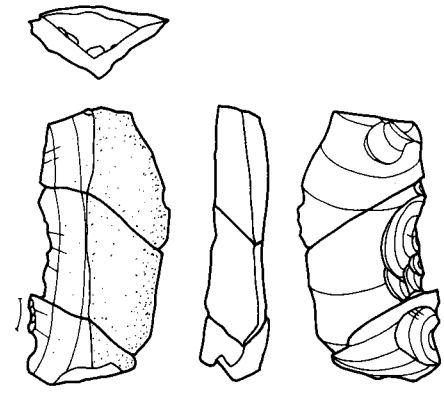
44. 6 R-32-19



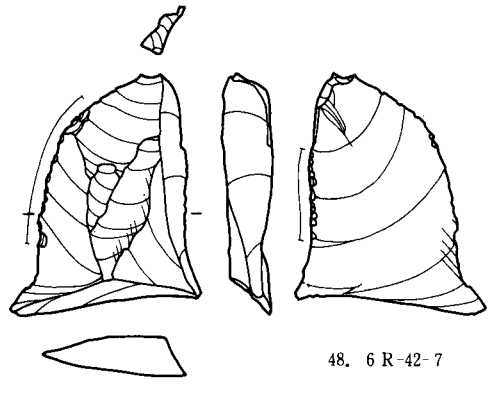
45. 6 R-31-57



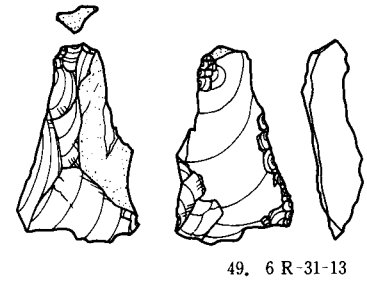
46. 6 R-31-84



47. 6 R-31-41,60
40-2

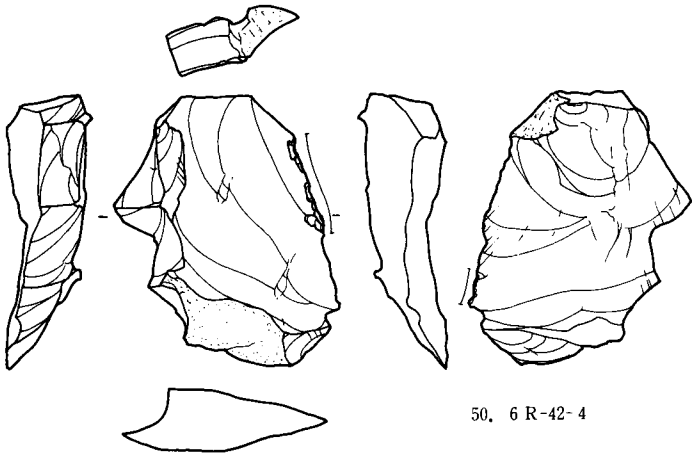


48. 6 R-42-7



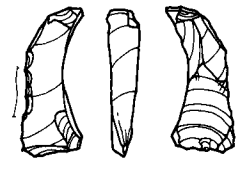
49. 6 R-31-13

第19図　第１文化層集中２　出土石器（１）（２／３）

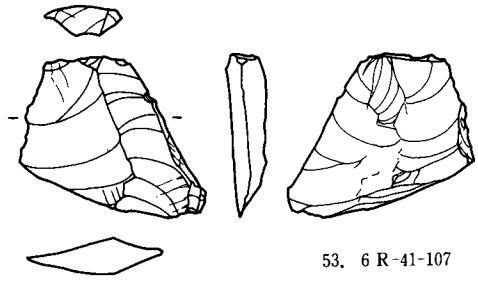


50. 6 R-42-4

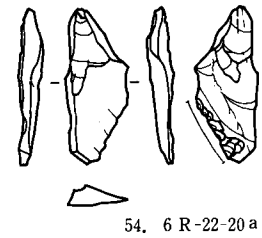
51. 6 R-31-105



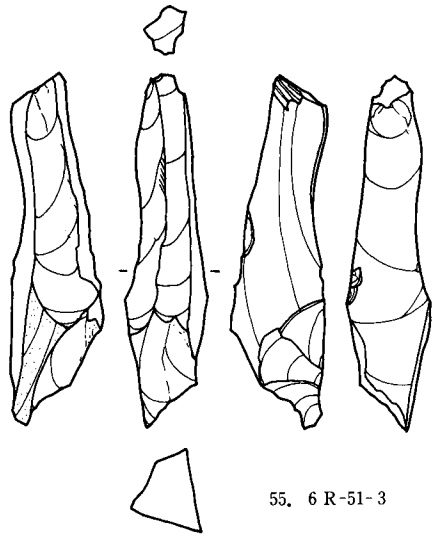
52. 6 R-11-5



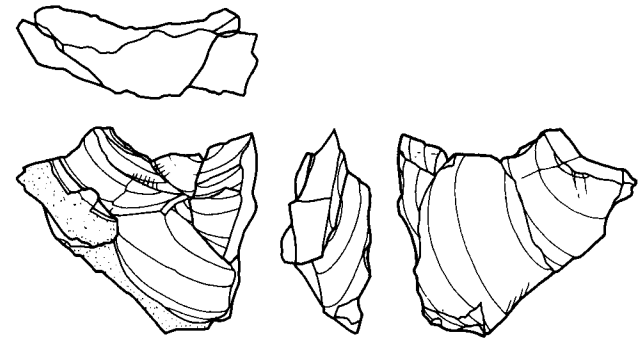
53. 6 R-41-107



54. 6 R-22-20a



55. 6 R-51-3

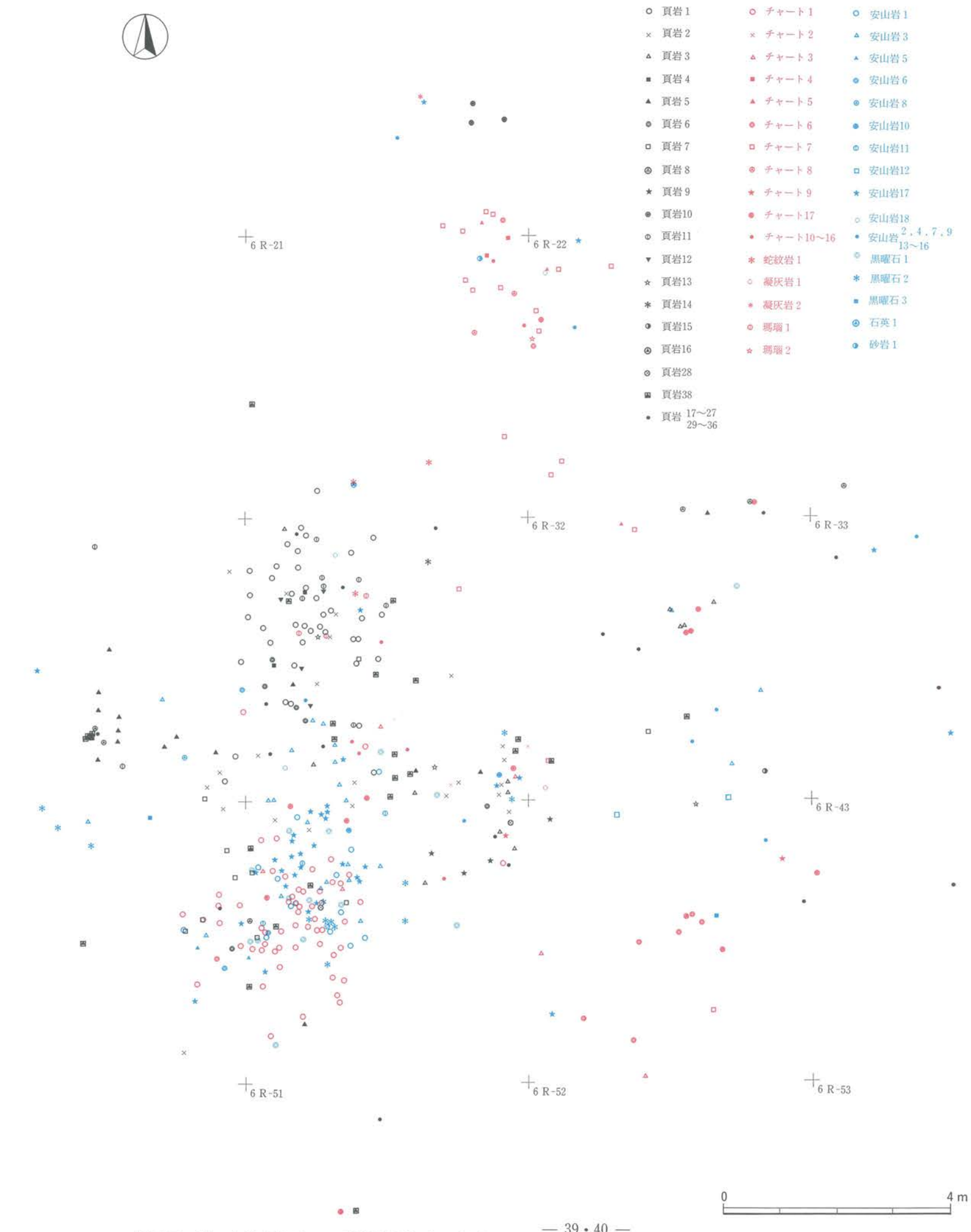


56. 6 R-32-15　6 R-41-102,105

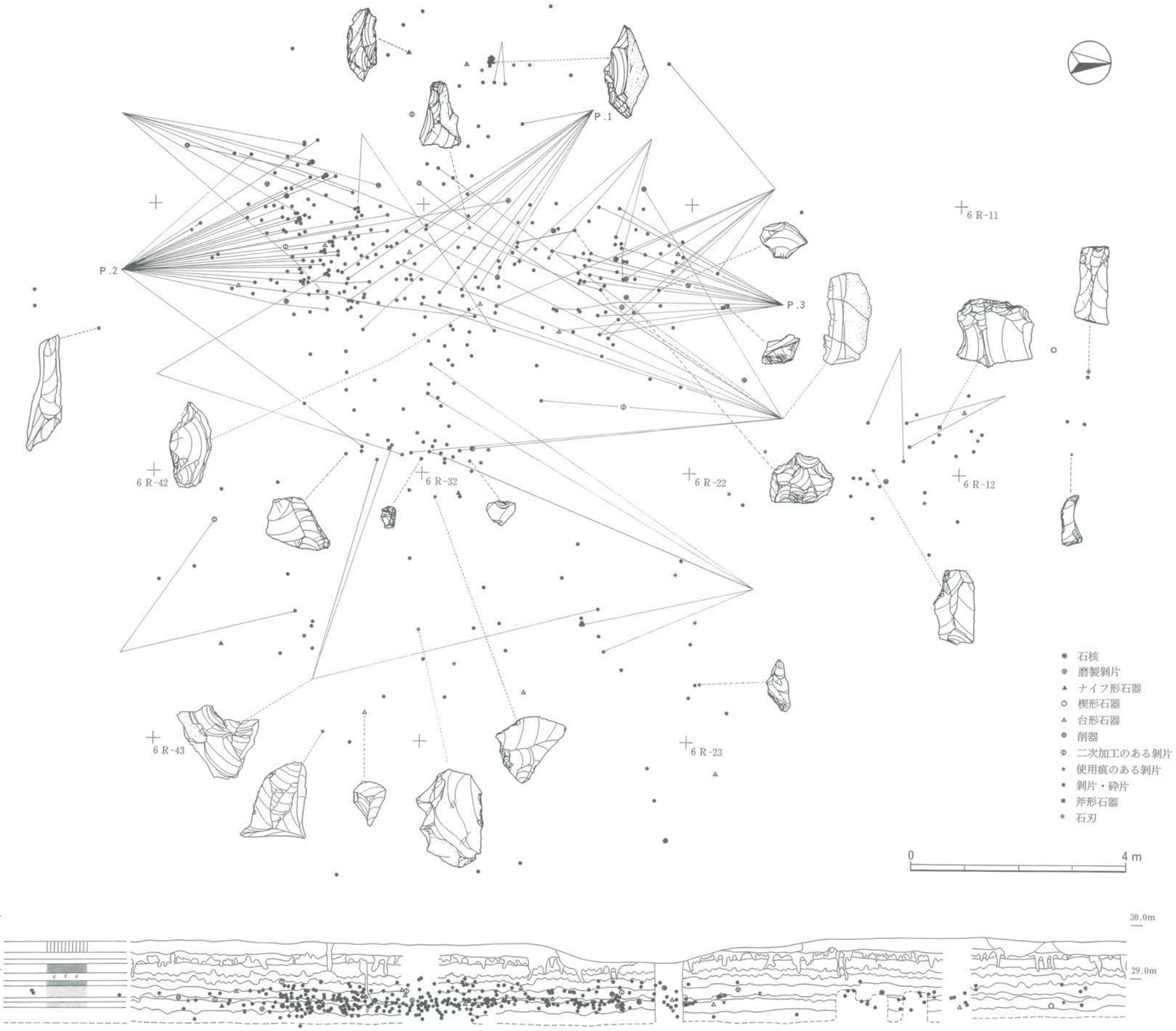
0　5 cm

第20図　第１文化層集中２　出土石器（２）（２／３）

第21図　第１文化層集中２　出土石器（３）（２／３）



第22図　第１文化層集中２　母岩別分布（１／80）



第23図　第１文化層集中２　器種別分布（１／80）

全体的にくすんだ褐色の頁岩（頁岩７）で、長さ７cm、幅５cm、厚さ3.5cmほどの接合資料で８点が接合した。一部に原礫の礫面を残している。原形は円礫と考えられ、一端に打撃をあたえて打面とし、縦に分割した後、剥片を剥離している。石材は均質ではなく、剥離作業の中途で廃棄されたようである。

褐色部分と青灰色部分が混在するチャート（チャート１）の円礫で55点が接合し、原形が確認できるほどに接合した。円礫を大きく二分割し、比較的扁平な礫面を打面として剥離を加えている。石材には節理が縦横に入り、石器として使用するには不向きと判断されたようである。

青灰色を呈する頁岩（頁岩１）で39点が接合した。一部に円礫の原礫面が残る。Ｐ１と同様に礫の一端に打撃を加えて打面とし、連続して剥離作業を行っている。

第24図　第１文化層集中２　出土接合資料

第3表　第1文化層集中2　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	F	6R-11-1	30.5×34.0×16.3	10.34	平	II				チャート	7
	楔形石器	2	30.2×38.8×11.1	15.14	－					安山岩	7
20-61	石刃	3	45.2×20.2× 9.4	8.48	平	I			B	凝灰岩	2
	F	4	13.2× 6.4× 2.5	0.15	線	I,II				頁岩	10
19-52	UF	5	27.9×16.8× 6.9	1.59	－					頁岩	10
	F	6	22.9×15.3× 5.4	1.86	平	I				チャート	7
36-135	UF	7	21.3×19.6× 7.0	1.84	－					チャート	7
	F	8	18.4×15.1× 6.9	1.86	平	I,III		L	R	チャート	6
	CH	9	5.0× 6.8× 2.5	0.06	点	I				安山岩	17
	F	10	14.0× 9.7× 1.9	0.14	平	I				頁岩	10
	UF	11	33.6×27.2× 8.3	5.34	平	I,II		L		チャート	7
	F	12	17.6×21.5× 5.4	1.44	平	I,III,IV				チャート	5
	磨製剝片	6R-21-1	15.9×17.8× 2.0	0.69	－					蛇紋岩	1
20-64	磨製剝片	2	16.5×22.5× 5.4	1.99	－					蛇紋岩	1
	F	3	29.6×51.3× 9.5	11.78	線	I			B	凝灰岩	1
	F	4	17.1×17.4× 4.5	0.90	－	I				頁岩	39
20-63	斧形石器	5	40.0×35.4×10.1	12.15	－	I,IV			M～B	砂岩	1
	F	6	33.4×29.3×10.2	10.25	平	I,III,IV				チャート	4
	F	7	31.5×28.4×14.8	10.73	平	I,IV				チャート	7
	F	8	19.0×32.0× 9.2	4.56	欠	I,II			H～M	チャート	8
	F	9	23.7×19.3×15.2	4.60	自	I				チャート	7
	F	10	30.7×26.7× 6.9	4.99	平	I,II				チャート	7
	F	11	18.3×28.0×10.0	4.59	平	I,II			M～B	チャート	8
	UF	12	26.0×25.0× 7.5	4.09	平	I,IV				チャート	7
20-59	UF	13	34.9×19.7× 6.4	4.73	－					チャート	13
	F	14	28.4×22.0× 6.9	4.03	平	I,II	LB			チャート	12
	CH	15	7.5× 8.7× 4.7	0.32	平	I			B	石英	1
	UF	16	27.3×27.0× 8.3	4.74	平	I,II		L,B		チャート	4
	F	6R-22-1	17.1×26.6× 9.7	3.56	平	I				頁岩	15
	F	2	14.8×17.3× 5.8	0.79	自	I,III				頁岩	28
	F	3	16.6×17.2× 5.2	0.76	平	I,II			R	頁岩	5
	F	4	29.2×24.9×10.1	6.51	平	IV				チャート	7
	F	6	35.9×22.9× 9.3	7.32	平	I,III			RB	チャート	7
	F	7	19.6×22.6× 4.6	1.69	欠	I,II			H	チャート	5
	F	8	26.1×29.9× 6.5	4.41	剝	I				安山岩	14
	CH	10	9.6× 7.2× 3.2	0.18	欠	I,II			H	安山岩	17
	石核	11	30.6×36.9×17.3	18.05	－					チャート	7
	CH	12	8.0× 8.5× 1.7	0.08	線	I,II				チャート	17
	F	13	24.0×14.0× 5.5	1.86	平	IV				チャート	7
	F	14	13.7×13.3× 1.9	0.28	点	I				瑪瑙	2
	F	15	29.5×22.9× 7.5	3.62	平	II				チャート	6
	UF	16	19.1×24.2× 6.4	1.82	平	I,IV				頁岩	17
	UF	18	33.1×22.5× 9.3	5.70	平	I,II				チャート	7
	UF	19	40.0×46.0×13.2	25.88	自	I,II		R,B		チャート	7
19-54	UF	20a	29.2×12.1× 4.2	1.35	点	I		R,B		安山岩	17
	CH	6R-22-20b	4.5× 3.6× 0.7	0.01	線	Id				チャート	17
	台形石器	6R-23-7	26.2×13.6× 9.0	2.22	－					頁岩	8
	石核	6R-30-1	38.4×49.8×19.8	41.83	平	I				頁岩	2
	F	2	13.8× 7.1× 2.3	0.25	－	I				頁岩	5
	F	3	23.2×14.2× 5.4	1.18	欠	I,II			H	頁岩	5
	UF	4	27.5×38.2×11.9	10.65	平	I				頁岩	5
	F	5	38.9×32.0×14.0	16.19	平					頁岩	5
	F	6	28.2×32.6× 7.1	5.42	平	II				安山岩	3
	F	7	14.2×20.7× 6.1	2.38	自	I			B	頁岩	11
	石核	8	53.9×70.4×36.5	130.77	－					チャート	1
	F	9	13.5× 9.4× 3.4	0.50	点	I				頁岩	5
	F	10	42.2×48.8×14.3	26.88	平					安山岩	8
	UF	11	11.0×27.7×10.6	3.03	平	I				頁岩	5
	F	12	31.8×24.5×14.3	8.88	－					頁岩	5
	F	13	15.6×12.3× 4.9	0.99	点	I			B	頁岩	5
18-43	ナイフ形石器	14a	42.7×20.6× 6.4	4.55	－					頁岩	18
	CH	14b	4.2× 5.4× 1.4	0.03	平	I,II				頁岩	39
	CH	14c	3.5× 4.4× 0.5	0.02	緑	I				頁岩	39
	CH	14d	2.6× 2.9× 0.2	0.01	欠	I				頁岩	39
	CH	14e	3.8× 4.8× 0.8	0.01	平	I				頁岩	39
	CH	14f	3.7× 5.6× 0.7	0.02	平	I				頁岩	17
	台形石器	15	18.0× 5.0× 4.5	0.82	－					頁岩	5
	F	16	5.7×13.5× 4.3	0.19	平	I				頁岩	11
	F	17	19.5×16.7× 3.5	0.84	－	I				頁岩	1

第3表　第1文化層集中2　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-30-18	25.8×12.2× 9.5	1.41	平	I				頁岩	2
	F	19	26.9×31.5×14.2	8.68	平	I,II				頁岩	1
	F	20	11.7×10.5× 2.0	0.20	線	I				安山岩	6
	F	21	11.5× 8.0× 3.2	0.22	平	I				頁岩	1
	F	22	13.2× 9.0× 6.1	0.69	欠	I,II				安山岩	17
	F	23	37.0×43.0×20.9	29.65	自	I,II,III				頁岩	2
	UF	24	40.6×29.4×10.4	10.06	自	I,IV				頁岩	8
	F	25	10.7×13.5× 4.2	0.31	線	I,II				頁岩	7
	CH	26	8.5× 7.5× 2.1	0.08	線	I				頁岩	5
	F	6R-31-2	14.1× 7.4× 1.8	0.20	線	I				頁岩	1
	F	3	66.1×14.4×12.1	7.76	平	I,III				頁岩	1
	CH	4	7.2× 9.1× 2.2	0.12	平	I			B	頁岩	1
	F	5	9.7×17.5× 5.3	0.88	欠	I			H～M	頁岩	1
	F	6	22.3×28.3×10.0	5.71	欠	I			L	頁岩	12
	F	7	14.4×13.3× 3.5	0.74	平	I			M～B	頁岩	1
	F	8	21.9×18.1× 6.2	1.91	欠	IV			H	頁岩	1
	F	9	16.2×17.5× 8.2	2.00	平	I				頁岩	6
	F	10	23.2×20.6× 4.0	0.94	線	I,II				頁岩	6
	UF	11	23.3×36.2× 9.0	7.25	自	I,III				頁岩	35
	F	12	35.3×45.7×16.1	17.11	平	I				頁岩	2
18-49	UF	13	38.2×23.8× 9.8	6.44	－					頁岩	25
	F	14	23.7×26.0× 7.2	3.95	欠	I,IV			H	安山岩	3
	F	15	22.0×36.3×13.7	8.83	自				B	安山岩	3
	F	16	22.1×13.8× 2.8	0.69	線	I				頁岩	3
	F	17	14.7×19.6× 6.2	1.27	平	II				安山岩	3
	F	18	20.7×21.3× 3.5	0.94	自	I,III				頁岩	2
	F	19	13.5×13.6× 4.0	0.74	平	I				安山岩	3
	F	20	4.6×11.2× 1.6	0.08	平	I				チャート	17
	F	21	10.7× 5.5× 1.7	0.10	欠	I			H	頁岩	39
	F	22	19.5×13.2× 7.8	1.30	平	I,II				頁岩	3
	F	23	5.6×10.3× 2.2	0.09	欠	I,d			H	黒曜石	1
	F	24	15.7× 9.5× 4.5	0.68	平	II				頁岩	13
	F	25	12.6× 7.1× 2.5	0.21	平	I				頁岩	5
	CH	26	6.4× 3.0× 1.2	0.03	欠	I			H	頁岩	39
	F	27	10.7×14.0× 4.3	0.51	平	I				頁岩	39
	F	28	23.5×27.3× 5.9	3.19	平	I				安山岩	1
	F	29	10.3×16.9× 6.5	0.68	剝	II,IV				黒曜石	1
	F	30	13.7×11.3× 5.2	0.46	平					チャート	3
	F	31	21.4×28.7× 7.2	3.59	平	I,II				頁岩	1
	F	32	20.0×15.9× 6.0	1.28	欠	II			H～M	チャート	10
	F	33	11.6×19.3× 3.3	0.60	線	I,III			RB	安山岩	3
	F	34	38.3×38.4×11.9	13.85	剝	III				安山岩	3
	F	35	6.4×10.4× 1.3	0.03	線	I				頁岩	39
	F	36	9.4×11.5× 1.2	0.08	線	I				頁岩	39
	CH	37	7.2× 5.8× 1.1	0.03	線	I				頁岩	39
	台形石器	38	24.6×34.2× 8.0	5.79	－					頁岩	1
	F	39	17.7×13.9× 4.6	1.00	自	I,II				頁岩	7
	F	40	24.4×26.9× 5.8	2.74	平	I				チャート	11
	F	41	28.4×23.1×10.7	6.00	節	III				頁岩	2
	F	42	33.9×24.6× 9.3	6.30	平	I,II				頁岩	1
	F	44	30.9×32.4×14.0	10.55	剝	I,II,III				頁岩	1
	F	45	9.6×11.4× 3.0	0.29	点	I				頁岩	5
	F	46	29.4×18.3× 9.9	2.98	欠	III				頁岩	2
	F	47	34.3×23.9× 7.9	6.93	自				R	頁岩	12
	CH	48	9.8× 7.1× 2.8	0.12	欠	II			H	頁岩	1
	F	49	29.9×15.5× 6.4	2.62	点	I			L	安山岩	3
	F	50a	43.1×73.9×10.1	35.08	剝	I,II				頁岩	1
	F	50b	8.0×25.1× 3.9	0.38	剝	I				頁岩	1
	F	51	20.3×27.9× 5.1	3.39	欠	II			H	頁岩	
	F	53	28.1×26.2× 6.7	2.33	自	I,II				メノウ	1
	F	54	29.1×23.4×11.0	7.84	欠				H～M	頁岩	11
	F	55	15.4×11.0× 4.4	0.75	線	I				頁岩	1
	CH	56	9.8× 8.9× 1.4	0.15	欠	I			H	頁岩	1
18-45	F	57	21.3×28.0× 5.8	2.30	－					頁岩	18
	F	58	24.1×17.8× 8.8	2.84	自	II				頁岩	11
	F	59	37.0×19.7× 9.5	8.85	欠	I,IV			H	頁岩	12
	F	60	16.7×15.6×13.1	3.38	欠				H	頁岩	2
	F	61	25.5×19.1× 6.7	1.61	点	I				頁岩	4

第3表　第1文化層集中2　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	F	6R-31-62	33.0×15.1× 4.3	1.66	線	I				頁岩	1
	F	63	22.1× 9.0× 5.6	0.60	平	I				頁岩	1
	F	64	9.2×18.3× 4.1	0.73	平	III				頁岩	1
	F	65	17.1×12.2× 4.1	0.55	自	I				頁岩	3
	磨製剝片	66	9.3×11.5× 1.7	0.20	欠	I			H	蛇紋岩	1
	F	67	17.2×14.3× 7.5	1.52	欠	I,III				頁岩	15
	F	68	35.7×26.5× 9.8	4.55	剝	I,II				頁岩	21
	F	69	13.3×12.2× 3.5	0.49	線	I,II				頁岩	14
	RF	70	25.4×29.0× 6.5	4.39	剝	I	R			チャート	7
	F	71	14.8× 8.9× 4.5	0.37	自	I				頁岩	2
	F	72	17.9×20.2×17.8	5.44	自	I,III				頁岩	2
	F	73	40.3×45.0×18.5	22.44	自	I				チャート	2
	F	74	34.8×35.8× 6.8	8.62	線	I,III				チャート	2
	F	75	23.9×17.7× 8.0	2.43	線	I				頁岩	2
	F	76	16.1×12.8× 7.1	1.58	自	I				頁岩	11
	石核	77	59.5×47.6×35.1	86.21	−					頁岩	2
	台形石器	78	21.0×19.0× 6.1	1.90	−					頁岩	26
	F	79	12.9× 6.8× 3.8	0.28	欠	I			H	頁岩	1
	F	80	28.6×25.6×11.1	7.28	欠				H	頁岩	11
	F	81	29.6×35.3×14.6	11.40	平	I,III,IV				頁岩	2
	石核	82	38.2×33.5×24.0	32.55	−					頁岩	11
	石核	83	24.2×30.6×27.8	25.60	−					頁岩	11
10-46	石核（削器）	84	30.0×38.0×20.0	20.30	−					頁岩	24
	磨製剝片	85	16.1×16.5× 5.8	1.31	線	I,II				蛇紋名	1
	F	86	14.4×10.8× 3.8	0.70	平	IV				頁岩	11
	F	87	18.2×20.6× 7.1	1.95	剝	II				頁岩	1
	F	88	12.9×26.6× 7.6	2.20	平	II			L	頁岩	1
	F	89	14.2×13.2× 3.2	0.61	線	I			B	頁岩	1
	F	90	14.5× 8.5× 4.7	0.65	自	I				メノウ	1
	F	91	30.8×15.6×10.4	2.60	平	I,II				頁岩	1
	F	92	7.4×16.5× 2.9	0.26	線	I				頁岩	13
	F	93	34.1×12.0×11.7	3.47	−	I				メノウ	1
	F	94	10.8×17.3× 3.5	0.63	−	I				頁岩	1
	F	95	23.5×13.5× 8.3	1.79	−	I				頁岩	1
	石核	96	45.2×33.8×22.1	32.22	平					頁岩	4
	UF	97	20.5×31.6× 6.4	2.71	欠	I,II			H	頁岩	12
	F	98	33.4×28.1× 7.0	6.36	平	I			L	頁岩	1
	F	99	27.6×22.6× 6.4	2.00	点	I,III			B	チャート	15
	F	100	14.5× 7.6× 2.6	0.21	線					頁岩	39
20-57	台形石器	101	19.8×39.3× 6.7	3.00	−					チャート	14
	F	102	41.1×44.9×12.1	17.29	平	I				頁岩	1
	F	103	16.2×32.7× 7.4	2.33	欠	I			H～M	安山岩	3
	CH	104	7.0× 2.2× 3.3	0.15	欠	I				チャート	17
19-51	UF	105	12.7×17.2× 3.5	0.61	平	III				頁岩	39
	F	106	29.2×14.5×11.3	3.26	節	III				頁岩	2
	F	107	30.3×26.8×15.3	8.49	平	I,III				頁岩	2
	CH	108	8.5× 9.5× 2.7	0.11	点	I				頁岩	5
	F	109	13.6× 7.7× 3.4	0.25	平	II				安山岩	17
	F	110	19.6×20.1× 4.8	1.89	剝	I				安山岩	10
	F	111	53.5×35.2×26.5	36.76	平	I,II				頁岩	1
	CH	112	9.0× 7.8× 2.9	0.12	平	I,II				頁岩	39
	CH	113	6.2× 3.8× 2.2	0.04	欠	I			H	安山岩	17
	F	114	30.3×14.3× 8.5	2.74	平	II				頁岩	1
	F	115	19.5×25.8× 6.4	3.45	平	I				頁岩	1
	CH	116	4.2× 8.5× 1.5	0.06	欠	I			H	頁岩	39
	F	117	44.4×36.4×13.6	12.20	平	I				頁岩	1
	F	118	28.5×11.0× 2.7	0.56	線	I				頁岩	1
	F	119	21.1×13.9× 4.6	1.21	平	III				頁岩	1
	F	120	17.1×16.2× 6.6	1.78	平	I			M～B	頁岩	1
	F	121	13.6×21.0× 6.2	1.16	平	I				頁岩	1
	F	122	14.1×24.2× 5.3	1.94	欠	I			H	安山岩	4
	F	123	15.7×20.5× 5.5	1.40	自	I,II				頁岩	6
	石核	124	51.3×30.0×18.2	32.30	−					安山岩	3
	F	125	17.0×17.9× 9.1	2.46	平	I			M～B	チャート	1
	CH	126	24.1×11.9× 6.0	1.39	平	I			R	安山岩	17
	CH	127	5.9× 4.2× 2.2	0.05	−					黒曜石	2
	F	128	14.9× 7.3× 4.4	0.36	欠	I			H,B	頁岩	39
	F	129	26.5×22.3×12.7	4.99	平	I				頁岩	34
	CH	130	9.0× 9.2× 3.5	0.29	−	I,II				安山岩	17

第３表　第１文化層集中２　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	F	6R-31-131	12.2×11.8× 6.2	0.80	平	I,II				頁岩	3
	F	132	23.9×16.4× 5.8	1.21	平	I				頁岩	3
	F	133	16.3×22.8× 6.2	1.77	点	III			R	頁岩	2
	F	134	17.4×24.1×12.5	4.54	－	I			B	頁岩	6
	CH	135	7.3× 8.4× 2.8	0.12	欠	I			H	頁岩	39
	F	136	28.8×12.0× 7.7	2.25	－	I				チャート	3
20-62	F	137	11.9× 8.8× 4.0	0.29	－					黒曜石	2
	UF	6R-32-3	17.5×29.5× 7.9	3.34	平	I			R,B	チャート	7
	F	4	6.8×22.2× 5.3	0.56	平	I,II				チャート	5
	F	5	24.0×14.2× 8.8	1.76	点	I			B	頁岩	37
	F	6	11.2× 5.3× 3.8	0.21	欠	I			H,B	黒曜石	1
	CH	7	9.5× 9.7× 3.9	0.22	平	I,III				チャート	17
	台形石器	8	30.2×24.0×13.0	6.75	－					安山岩	3
	F	9	45.7×14.6× 9.0	4.45	自	I			B	安山岩	15
	CH	10	6.0× 4.0× 2.4	0.32	平	I				頁岩	39
	F	11	32.5×22.1×16.4	6.60	自	III			B	安山岩	9
	UF	12	36.8×14.8× 5.4	2.24	欠	I,III			H	安山岩	3
	F	13	45.1×38.2×13.2	18.52	平	I,II,III				頁岩	16
	F	14	17.5×18.0× 9.6	3.22	自	I,III				安山岩	12
	F	15	27.3×10.2× 9.2	2.77	欠	I,II			H	頁岩	3
	F	16	16.8×16.6× 8.7	2.19	平	I,II				頁岩	36
	F	17	15.6×11.2×10.4	1.45	欠				H	頁岩	7
	ナイフ形石器	18a	22.1×11.0× 4.9	1.31	－					チャート	7
	F	18b	19.0×11.7× 2.2	0.37	平	I				頁岩	39
18-44	UF	19	33.4×25.4× 9.5	6.83	剝	I			RH～M	頁岩	23
	F	20	36.5×15.0× 9.2	4.28	平	I				頁岩	3
	F	21a	31.9×31.0×10.5	7.24	平	I,II				頁岩	3
	CH	21b	7.2× 3.8× 1.6	0.04	平	II				チャート	17
	CH	21c	5.8× 6.0× 1.6	0.03	平	I				チャート	17
	F	22	43.6×15.5× 7.0	5.09	欠	I,II			H～M	頁岩	3
	F	6R-33-1	17.5×11.3× 5.3	1.00	平	I			L	頁岩	38
	CH	3	7.8× 6.6× 4.4	0.25	平	I				安山岩	17
	石核	4	78.5×76.9×48.4	392.73	－					安山岩	13
	F	5	19.6×24.3× 6.1	2.81	剝	I,III				頁岩	27
	CH	6	4.9× 3.6× 2.6	0.05	平	I				安山岩	17
18-47	削器	6R-40-2	20.7×26.5×12.0	7.88	節		L			頁岩	2
	F	3	12.9× 9.9× 3.9	0.28	欠	I			H	安山岩	17
	F	4	13.2×11.7× 6.1	0.92	自	I				チャート	1
	磨製剝片	5	30.6×29.2× 3.7	3.49	線	I,II				安山岩	6
	F	6	23.5× 6.8× 4.3	0.51	平	I,II				チャート	6
	CH	7	20.3×26.2× 6.6	3.25	平	I				安山岩	1
	石核	8a	61.2×56.1×29.9	71.77	－					頁岩	7
	F	8b	12.2× 6.4× 3.3	0.22	平	I				チャート	1
	F	9	17.0×13.2× 7.0	1.26	平	I,II				チャート	1
	F	11	9.7×20.7× 4.9	0.75	欠	III			H～M	安山岩	5
	F	12	15.4× 5.5× 4.7	0.35	平	I			B	安山岩	3
	F	13	16.9×14.4× 8.3	1.85	平	I				チャート	1
	F	14	23.9×22.0× 6.4	3.32	剝	I,III				頁岩	29
	F	15	28.7×16.9× 9.1	2.24	欠	I			H	頁岩	7
	石核	16	66.6×53.9×28.1	82.70	－					頁岩	7
	CH	17	9.7× 3.9× 2.5	0.07	平	I				黒曜石	2
	CH	18	5.7× 7.0× 1.5	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	19	10.8× 6.5× 3.6	0.24	自	I				頁岩	6
20-60	台形石器	20	17.1×42.3× 7.9	4.81	－					安山岩	3
	CH	21	6.7× 8.8× 1.6	0.06	線	I				安山岩	17
	削器	22	40.5×43.3×11.7	20.92	－					頁岩	2
	CH	23	8.9× 7.4× 3.6	0.27	欠	I				頁岩	39
	F	25	26.8×17.1× 6.2	1.84	平	III				チャート	1
	RF	26	13.3× 5.1× 4.6	0.39	欠	I			H	黒曜石	4
	F	27	33.7×33.6×13.8	13.01	平	I				頁岩	7
	石核	28	50.1×38.0×25.0	61.32	－					チャート	1
	石核	30	54.2×38.3×22.8	38.84	－					チャート	1
	F	31	23.3×18.5×12.6	5.61	自	III				チャート	1
	CH	32	6.3× 8.3× 1.3	0.05	線	I				黒曜石	2
	F	6R-41-1	24.5×16.5×12.2	4.13	欠	I			LH	チャート	1
	CH	2	4.5× 7.3× 1.2	0.04	線	I				頁岩	39
	F	3	8.7×16.9×12.9	1.25	平					チャート	1
	F	4	7.9×13.3× 1.8	0.17	線	I				安山岩	17

第３表　第１文化層集中２　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-41-5	17.5×32.0× 8.8	2.87	平	I,III				安山岩	5
	F	6	55.1×52.3×22.8	42.19	平	I				チャート	1
	CH	7	5.3× 8.8× 1.3	0.06	線	I				黒曜石	1
	F	8	26.7×10.6×11.8	3.37	平	I				チャート	1
	F	9	13.2×17.5×13.2	2.56	自	I,II				チャート	1
	RF	10	19.1×11.6× 6.8	1.17	欠	I	LM		H～M	チャート	1
	CH	11	4.2× 8.7× 2.6	0.08	点	I				安山岩	11
	台形石器	12	24.0×28.3× 8.2	4.57	－					チャート	1
	CH	13	6.5× 5.9× 1.6	0.04	線	I				黒曜石	2
	F	14	11.8×17.3× 3.2	0.46	平	I				頁岩	5
	F	15	19.5×23.0×16.0	2.24	平	I				チャート	1
	F	16	10.2× 9.2× 5.2	0.34	平	I,II				チャート	1
	F	17	11.5× 9.8× 8.6	0.85	平	I				チャート	1
	F	18	18.5×14.3× 3.9	1.41	平	I,III				チャート	1
	F	19	8.4×10.4× 2.9	0.12	平	I,II				黒曜石	2
	CH	20	4.0× 7.4× 1.6	0.04	線	I				安山岩	1
	F	21	25.3×13.9× 3.8	1.53	平	I			B	安山岩	3
	F	22	25.7×18.0×14.0	4.19	平	I				チャート	1
	CH	23	5.7× 9.0× 3.2	0.09	平	I				黒曜石	2
	F	24	19.1×11.9×11.1	1.85	平	I,III				チャート	1
	F	25	5.5×11.4× 2.7	0.20	欠	I			H	安山岩	17
	F	26	14.2× 8.3× 5.7	0.26	線	I				チャート	1
	CH	27	6.4× 7.1× 2.0	0.09	平	I				黒曜石	1
	F	28	18.6× 4.1× 6.7	1.16	平	I,IV				チャート	1
	UF	29	35.0×17.2× 9.3	5.93	自	I			RM～B	チャート	3
	CH	30	6.7× 5.5× 1.2	0.05	点	I				安山岩	17
	F	31	18.8×19.8× 5.9	1.68	平	I				頁岩	3
	F	32	35.1×14.6×12.5	5.77	平	I,II,III				安山岩	3
	F	33	17.3×10.4× 4.1	0.59	線	II,IV				安山岩	17
	F	34	10.6× 4.1× 1.6	0.03	線	I				安山岩	17
	F	35	24.6×25.1×13.0	8.50	自	I,II				チャート	1
	F	36	31.7×29.7×13.1	11.19	平	I,IV			B	安山岩	3
	F	37	17.9×13.5× 6.0	1.07	自	II			B	チャート	1
	台形石器	38	20.3×41.7×10.5	8.54	－					安山岩	1
	F	39	43.8×23.0×18.2	13.33	平	I,II				チャート	1
	CH	40	9.7× 8.2× 2.5	0.15	線	I,II				黒曜石	2
	CH	41	9.8× 6.1× 2.5	0.11	線	I,II				頁岩	9
	CH	42	3.7× 4.4× 1.0	<0.01	欠	I			H	安山岩	17
	F	43	10.9× 4.3× 2.3	0.08	欠	I			H	安山岩	1
	F	44	10.5× 5.1× 2.5	0.11	平	I,IV				安山岩	17
	CH	45	6.6× 9.2× 3.0	0.12	点	I				チャート	17
	CH	46	6.7× 2.6× 0.8	0.02	欠	I			H	安山岩	17
	CH	47	8.8× 3.0× 2.0	0.05	欠	I			H	安山岩	17
	F	48	13.4× 9.4× 2.7	0.19	線	I				安山岩	17
	F	49	7.4×12.5× 3.4	0.14	平	I				安山岩	17
	F	50	7.7× 3.5× 1.9	0.15	線	II				頁岩	39
	F	51	9.7×15.0× 8.2	0.59	自	I				チャート	1
	CH	53	7.3× 4.7× 2.2	0.07	平	I,II				安山岩	17
	CH	54	9.8× 5.0× 3.1	0.14	平	I				チャート	17
	F	55	10.8× 7.6× 2.7	0.20	欠	I			H	安山岩	1
	F	56	39.9×28.8× 9.5	9.26	自	I,III				頁岩	2
	F	57	11.8× 7.6× 3.7	0.28	自	I				安山岩	17
	F	58	29.9×40.8×26.5	37.92	平					チャート	1
	CH	59	4.6× 9.5× 2.2	0.08	平	I,III				チャート	17
	台形石器	60	19.6×23.1× 6.3	2.28	－					安山岩	1
	CH	61	6.2× 4.2× 1.8	0.03	平	I				安山岩	17
	F	62	19.5×14.6× 6.6	1.52	平	I,IV				安山岩	17
	CH	63	6.1× 5.6× 1.9	0.06	平	I				安山岩	17
	F	64	31.4×33.2× 8.8	7.92	自	I				頁岩	2
	F	65	8.2×11.3× 2.2	0.07	線	I				安山岩	17
	CH	66	4.5× 2.6× 0.9	0.02	線	I				安山岩	17
	F	67	10.5× 9.4× 3.5	0.21	欠	I,IV			H	黒曜石	1
	F	68	14.6× 8.0× 4.4	0.39	平	I				頁岩	39
	CH	69	4.3× 3.7× 4.1	0.05	平					安山岩	17
	F	70	21.9×30.0× 8.1	3.23	線	I,II				チャート	16
	F	71	5.5×16.1× 4.3	0.25	剝	I				黒曜石	1
	F	72	15.5×14.5× 2.1	0.25	線	I				頁岩	9
	F	73	11.5× 9.7× 4.7	0.52	自					チャート	1
	F	74	17.6×10.7× 6.8	1.45	平	I				頁岩	30

第３表　第１文化層集中２　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-41-75	46.5×36.5×12.5	19.35	平	I,II				安山岩	2
	石核	76	58.9×31.4×17.3	19.88	−					安山岩	1
	UF	77	34.5×21.2×14.0	6.74	平	III		L		黒曜石	1
	F	78	36.2×37.0×22.3	28.05	平	I				チャート	1
	CH	79	8.4× 9.2× 4.9	0.24	平	I				チャート	1
	CH	80	8.8× 7.7× 9.1	0.29	平	I				チャート	1
	F	81	18.8× 6.7× 4.1	0.28	点	I				黒曜石	1
	F	82	5.0×12.2× 6.6	0.27	欠	I				黒曜石	1
	F	83	39.9×33.0×16.4	22.08	平					チャート	1
	F	84	20.1×11.7× 3.3	0.42	平	I				安山岩	1
	F	85	59.7×39.9×18.2	54.29	平	I				チャート	1
	F	86	15.5×22.1×17.2	1.51	平	II				チャート	1
	F	87	34.9×26.4×16.5	15.80	剝					頁岩	8
	F	88	28.0×31.7×20.8	22.14	平	I,II				チャート	1
	CH	89	7.0× 8.0× 3.0	0.13	欠	I			H	安山岩	17
	F	90	40.6×34.8×20.7	27.06	平	I,IV				チャート	1
	F	91	29.2×20.0× 6.1	2.38	点	I,IV				安山岩	1
	F	92	14.8×14.5× 2.7	0.53	平	II,IV				安山岩	11
	F	93	8.4×11.2× 7.3	0.49	欠	I			H	チャート	1
	F	94	54.3×17.0× 9.5	7.58	平	I				安山岩	3
	F	95	29.9×16.1× 6.5	2.64	−	I,II				頁岩	7
	F	96	10.9×24.0× 5.1	1.06	平	II				安山岩	17
	F	97	30.6×22.2× 7.7	4.87	平	I,II,III				安山岩	3
	F	98	18.2×14.4× 4.6	1.08	平	I,IV				安山岩	10
	F	99	13.5×22.6× 7.2	1.44	自	I				頁岩	2
	CH	100	9.4×12.0× 2.8	0.24	線	I				黒曜石	1
	F	101	24.9×19.8× 7.8	2.12	欠	I			H	頁岩	2
19-56	F	102	45.7×33.6×18.3	18.84	平	I,II				頁岩	3
	F	103	15.0×15.5× 5.6	1.14	自	I				チャート	9
	F	104	59.4×35.1× 8.1	18.28	自				R	頁岩	22
19-56	F	105	21.9×12.9× 4.8	1.05	平	I				頁岩	3
	F	106	10.7×17.9× 2.2	0.36	線	I				頁岩	9
19-53	F	107	31.6×37.4× 7.6	6.91	平	I,III				頁岩	20
	F	108	19.8×11.5× 4.3	0.86	自	I,II				頁岩	3
	F	109	12.7× 7.6× 5.5	0.31	欠	I			H	黒曜石	1
	CH	111	5.1× 9.0× 1.6	0.07	線	I				安山岩	17
	F	112	20.2×24.4× 5.5	2.16	剝	I,II				安山岩	6
	F	113	25.4×23.3× 8.6	4.93	−	I,II				チャート	1
	F	114	13.6× 9.9× 5.0	0.46	線	I				チャート	1
	F	115	15.7×30.4× 7.3	3.08	自	I,II				チャート	1
	F	116	7.8× 3.5× 1.6	0.16	線	I				安山岩	1
	CH	117	7.2× 4.6× 5.2	0.11	−	I				安山岩	3
	F	118	16.4×22.9× 8.9	1.93	欠	I			H	頁岩	6
	F	119	20.5×22.5× 8.1	2.86	−	I,III				頁岩	7
	F	120	17.5×14.6× 5.4	1.35	自	I				チャート	1
	CH	121	3.6× 6.2× 1.2	0.03	欠	I			H	安山岩	1
	F	122	8.3×20.0× 3.2	0.45	−	III				安山岩	1
	石核	123	45.5×75.5×50.8	194.22	−					チャート	1
	F	124	28.5×22.7×14.1	7.19	平					チャート	1
	F	125	10.1×15.4× 4.6	0.57	平					頁岩	30
	F	126	8.7×21.8× 5.8	0.71	平	I				頁岩	7
	F	127	15.6×24.2× 7.6	2.40	欠	I			H	チャート	1
	CH	128	4.6×11.3× 2.3	0.10	線	I				黒曜石	2
	F	129	11.1×13.5× 8.5	0.96	平					チャート	1
	F	130	24.5×27.8×12.1	6.48	−	I,II			H	チャート	1
	F	131	29.9×14.0× 9.0	2.53	平	I				チャート	3
	F	132	12.1× 6.4× 4.8	0.39	自	I				チャート	1
	F	133	32.5×16.8×11.5	6.77	剝	I				チャート	1
	F	134	39.6×29.3×11.2	12.67	平					安山岩	3
	CH	135	7.5× 6.2× 3.0	0.19	平	I				安山岩	3
	F	136	9.5×17.5× 2.9	0.26	点	I				黒曜石	1
	F	137	9.6×13.2× 3.9	0.47	平	I				チャート	1
	CH	139	10.4× 9.8× 3.7	0.20	平	I				黒曜石	1
	CH	140	8.0× 4.3× 1.7	0.04	線	I				黒曜石	1
	F	141	31.8×14.7×10.7	4.03	平				L	チャート	1
	CH	142	3.1× 7.6× 1.2	0.02	線	I				黒曜石	2
	F	143	20.2×16.1×14.8	4.21	平	I,II				チャート	1
	F	144	28.8×13.3× 5.1	1.41	平	I				安山岩	1
	CH	145	4.4× 5.0× 1.4	0.02	欠	I			H	安山岩	17

第3表　第1文化層集中2　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-41-146	8.3×12.0× 1.9	0.15	線	I				安山岩	17
	CH	147	9.9× 6.7× 4.1	0.19	平	I,II				頁岩	39
	F	148	12.8×10.2× 4.0	0.49	欠	I,II			H	黒曜石	1
	CH	150	8.3× 5.2× 1.8	0.05	点	II				チャート	1
	F	151	16.9×14.9× 8.8	2.04	平	I,II				チャート	1
	CH	152	8.5× 5.7× 1.9	0.07	平	II				安山岩	17
	CH	153	4.0× 8.1× 1.8	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	154	5.4× 4.4× 0.9	0.02	線	I				黒曜石	2
	F	155	12.0×13.8× 2.9	0.35	平					安山岩	1
	CH	156	5.2× 6.6× 1.6	0.04	線	I,II				黒曜石	2
	CH	157	5.7× 4.3× 2.7	0.07	欠	I			H	安山岩	17
	F	6R-42-3	25.0×20.7×10.3	3.40	自	I				チャート	3
19-50	UF	4	57.5×39.0×12.3	25.08	平	I		R		頁岩	13
	F	5	11.2×14.1× 8.3	1.01	自	I,II				安山岩	12
20-58	台形石器	6	26.3×20.3× 6.1	1.87	−					チャート	9
18-48	UF	7	44.5×37.7×10.2	12.76	平	I,II		L,RM		頁岩	19
	F	9	21.2×19.9× 4.2	1.50	欠	I,II			H	黒曜石	3
	F	10	10.6×14.7× 4.7	0.70	平	I				チャート	17
	F	11	13.7×15.3× 5.0	0.63	欠	II,IV			H	チャート	6
	RF	12	34.2×35.5×12.1	10.91	点	II	LB			チャート	6
	CH	13	5.9× 6.9× 1.6	0.07	点	I				安山岩	17
	F	14	22.4×21.1× 5.4	2.52	自	I,II				チャート	3
	F	15	18.8×10.0× 4.6	0.61	点	IV			RB	頁岩	9
	F	16	16.9×20.4× 9.8	2.39	剝	II,III				安山岩	16
	CH	17	7.3×10.2× 4.8	0.33	平	I				チャート	17
	ナイフ形石器	18	34.0×18.8× 6.2	3.46	−					チャート	7
	F	19	13.2×11.2× 4.2	0.47	平	I				チャート	6
	F	20	13.1×12.9× 5.7	1.33	欠	II				チャート	6
	F	21	10.0×11.1× 3.0	0.26	−	I,IV				チャート	6
	CH	22	7.6× 9.1× 3.5	0.23	平	II				チャート	6
	CH	6R-43-2	7.8× 6.6× 3.6	0.23	自	I				チャート	17
	F	3	26.1×32.2× 8.5	5.78	平	I	RH			頁岩	32
	F	6R-51-1	10.5×15.3× 3.0	0.29	剝	I				チャート	17
	CH	2	6.4× 5.5× 1.6	0.04	平	I				頁岩	39
19-55	F	3	69.1×16.2×18.8	16.09	平	I,II,IV				頁岩	33

第4表　第1文化層集中2石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1	4											1							51		57	768.88
2																			2		2	31.06
3													1						5		6	17.09
4													1						1		2	14.99
5																			3		3	3.69
6												1							8		9	19.82
7	1		2									1	6						8		18	121.61
8																			2		2	9.15
9					1														1		2	3.01
10																			1		1	1.28
11																			1		1	2.74
12																			1		1	4.03
13													1								1	4.73
14					1																1	3.00
15																			1		1	2.00
16																			1		1	3.23
17																			14		14	3.30
頁岩 1					1														39		40	185.41
2	2					2													18		22	272.21
3																			13		13	46.36
4	1																		1		2	33.83
5					1								2						12		15	44.40
6																			6		6	11.05
7	2																		8		10	178.69
8					1								1						1		3	20.08

第4表　第1文化層集中2石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
	9																			4		4	1.33
	10													1						2		3	1.88
	11	2																		7		9	80.96
	12													1						3		4	24.20
	13													1						2		3	26.02
	14																			1		1	0.49
	15																			1		1	18.52
	16													2						1		3	3.19
	17			1																		1	4.55
	18													1								1	12.76
	19																			1		1	6.91
	20																			1		1	4.55
	21																			1		1	18.28
	22						1															1	20.30
	23													1								1	6.44
	24					1																1	1.90
	25																			1		1	2.81
	26																			1		1	0.79
	27																			1		1	3.32
	28																			2		2	2.02
	29																			1		1	5.78
	30																			1		1	16.09
	31																			1		1	4.99
	32													1								1	7.25
	33																			1		1	2.19
	34																			1		1	1.76
	35																			1		1	1.00
	36													1						23		24	5.07
安山岩	1	1				2														12		15	42.66
	2																			1		1	19.35
	3	1				2								1						18		22	129.97
	4																			1		1	1.94
	5																			2		2	3.62
	6		1																	2		3	5.85
	7				1																	1	15.14
	8																			1		1	26.88
	9																			1		1	6.60
	10																			2		2	2.97
	11																			2		2	0.61
	12																			2		2	4.23
	13	1																				1	392.73
	14																			1		1	4.41
	15																			1		1	4.45
	16																			1		1	2.39
	17																			38		38	8.84
	18																			3		3	7.38
黒曜石	1													1						15		16	10.42
	2																			13		13	1.09
	3																			1		1	1.50
	4												1									1	0.39
メノウ	1																			3		3	6.45
	2																			1		1	0.28
石英	1																			1		1	0.32
蛇文岩	1		4																	1		5	15.97
凝灰岩	1													1								1	6.83
	2																		1			1	8.48
砂岩	1															1						1	12.15
総計		15	3	3	11	10	3	0	0	0	0	0	4	24	0	1	0	0	1	379	0	446	2834.89
%		3.3	0.7	0.7	2.5	2.2	0.7	0	0	0	0	0	0.9	5.4	0	0.2	0	0	0.2	85.0	0	100	

※この局部磨製石斧は刃部欠損部の欠損剝片である。

（3）　集中3（第25～31図　第5、6表　図版3、4）

位　置

第1調査区の舌状台地基部の東寄り、台地平坦部から斜面部にかけて東西25m、南北25mほどの範囲（6R—12、13、25グリッド）でやや遺物の分布のまとまりを見るが、全般に散漫な分布である。これらをまとめて集中3とする。この集中は、頁岩、安山岩、チャートなどから構成される。

遺物の垂直分布では0.8mほどの上下幅をもっている。土層への投影図ではVI層からX層での出土が見られるが、IX層の中位から下位にかけて最も集中して遺物が検出されていることから、出土層準はIX層の中位としてとらえておく。なお、石器の項でも触れるが、本集中の石器群の一部は第2文化層に帰属する可能性もあるが、厳密な分離は困難であるため一括して記述している。

遺物分布状況

集中3の遺物は合計123点である。6R—04、12、24、25、35グリッドにやや遺物のまとまる傾向はあるものの全体的には散漫な分布状況を示し、頁岩28、安山岩3、4が数点ずつ近接して検出されている程度であり、各母岩では単体での出土が多いという傾向が読み取られる。

母岩別分布

当集中の母岩は頁岩が28種と最も多いが、頁岩2と28にまとまりがある他は、ほとんど単体の剥片の出土であり、集中内に散漫な分布を呈する。この傾向は他の母岩でも同様である。

石　材

頁岩28種41点、チャート18種30点、安山岩16種30点、黒曜石4種7点、凝灰岩4種9点、砂岩1種2点、流紋岩1種1点の計123点で構成される。この内、チョコレート色をした頁岩6は第2文化層の遺物の可能性がある。また、頁岩3は淡灰色のもの8は縞状や斑点状に白色鉱物を混入するもの、13は灰色で節理が多く石器素材には適さないものなどがある。チャートは単体が多く、母岩別に見ると複数の出土があっても2～3点である。1は淡灰色のもの、4は淡灰色に暗色鉱物を縞状に混入するものである。安山岩は風化面が淡灰色を呈するものが多く、黒曜石1は黒色で乳白色の不純物を混入するもの、2は透明感のある不純物を混入しないものである。砂岩1はやや青みがかった色調の石質である。

器　種（第6表）

石核5点、斧形器3点、ナイフ形石器2点、楔形石器1点、台形石器2点、削器2点、掻器1点、礫器1点、使用痕のある剥片15点、剥片・砕片88点である。

集中3の石器（第26～29図　図版20、21）

・頁岩の石器（第26図）

65は硬質頁岩製のナイフ形石器であるが、素材の変形度が高いため本来の素材の形状はよくわからない。二次加工は背面左側辺に腹面側からの急角度剥離、腹面は平坦剥離である。先端部が欠損する。背面左側の剥離は欠損に伴う剥離で、折れ面から発生している。基部がこの集中3から出土し、先端部は集中4から出土した。本資料は第2文化層に帰属する可能性がある。

66はナイフ形石器の基部の可能性もある。背面左側辺の加工は背・腹両面からの通常の剥離で、右側辺は腹面側からの刃潰し加工である。67は石刃で打面は砕けている。背面左側辺に微細な剥離痕が見られる。68は硬質頁岩製の石刃石核で、大きな石刃を素材に、素材の側辺に側方剥離で小石刃を剥離している。打

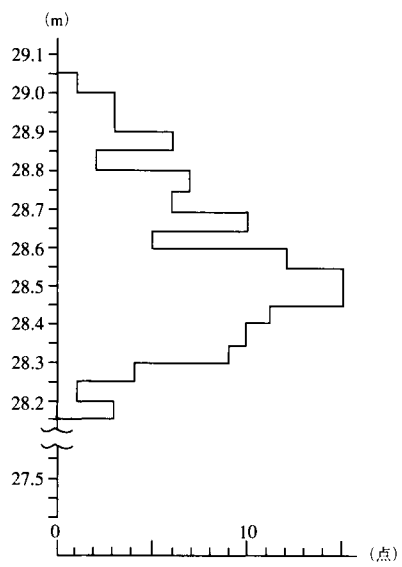
面調整も観察できる。69～74は剝片である。これらの資料も第２文化層に帰属する可能性がある。したがって、頁岩の大半は第２文化層からの混入である可能性が高い。

・頁岩・チャートの石器（第26図）

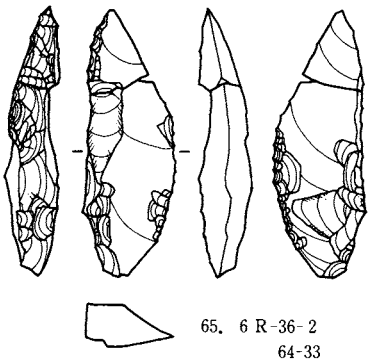
75は円礫素材の片刃礫器である。円礫の平坦面を打面とし、強い力で垂直に剝片を剝ぎ取っている。石核である可能性もある。76は横長剝片を用いた台形石器である。打面を折り取り、剝片の末端部（図の左側辺）に鋸歯状の剝離痕が観察できる。77は左側辺に微細な剝離痕がある剝片である。78は素材の厚い部分にノッチをいれている石器である。下見通し図は加工の面だけリングを入れた。79は打面の折れている縦長剝片である。打面は節理から折れている。80は縦長剝片である。左下の角に微細な剝離が見られる。81は小形の石刃状の剝片である。

・ホルンフェルス、安山岩、凝灰岩、黒曜石の石器（図12）

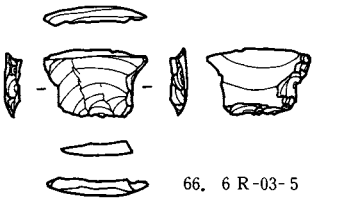
82は石刃である。基部は折れているが、左の角に一部加工痕が残っている。83は平坦打面の縦長剝片である。84は横長剝片で、打面は自然面である。85は石核である。86、87は使用痕の残る剝片である。88は石核である。89、90は黒曜石の剝片である。91、92は斧形石器である。91は砂岩製で、背面に自然面を残す分厚い剝片を素材としている。側辺の二次加工は、強い力で剝片を剝ぎ取る通常の剝離である。敲打は行われず、剝離面及び原礫面に直接研磨を行っている。研磨面は鏡面状の光沢がある。92は細粒凝灰岩の円礫素材で、平滑な自然面から強い力で通常の剝離を行っている。肉眼的には研磨痕は観察できない。折損後の刃部の再生が観察される。



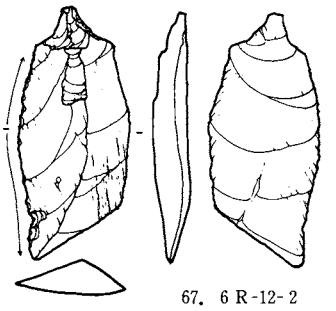
第25図　第１文化層集中３　遺物垂直分布図



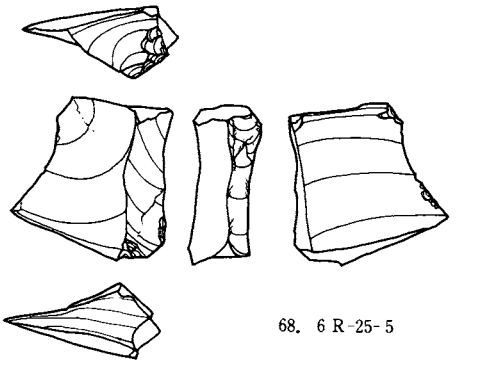
65. 6R-36-2
64-33



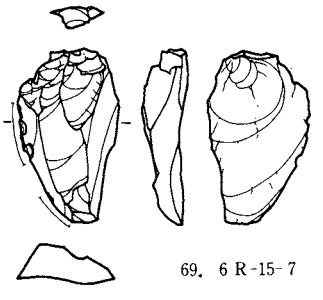
66. 6R-03-5



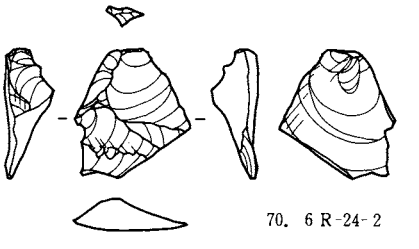
67. 6R-12-2



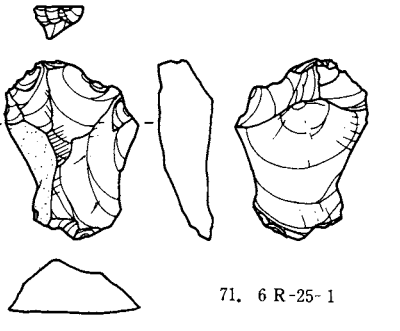
68. 6R-25-5



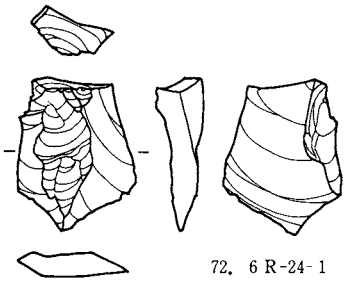
69. 6R-15-7



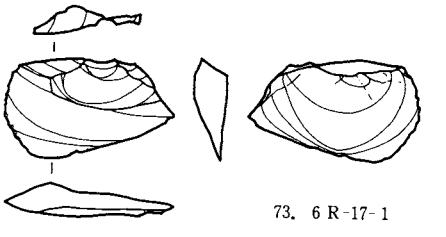
70. 6R-24-2



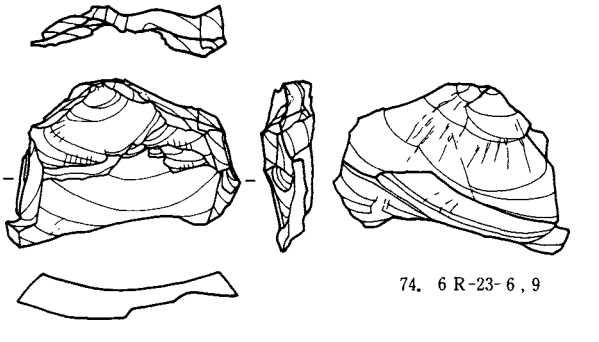
71. 6R-25-1



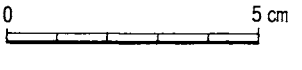
72. 6R-24-1



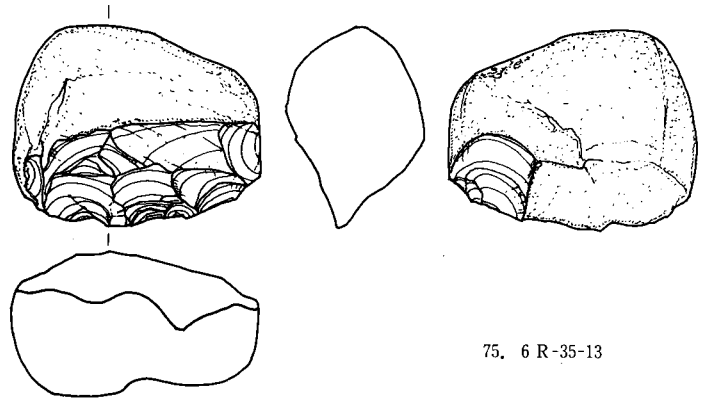
73. 6R-17-1



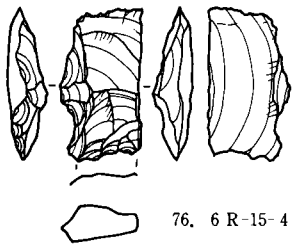
74. 6R-23-6, 9



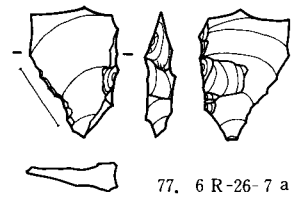
第26図　第1文化層集中3　出土石器（1）（2／3）



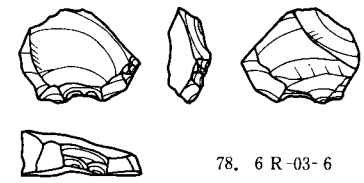
75. 6R-35-13



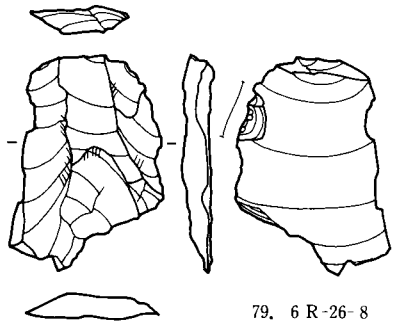
76. 6R-15-4



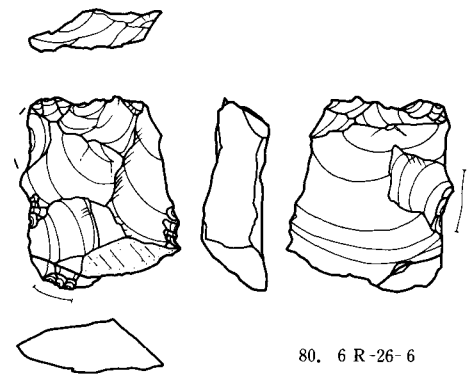
77. 6R-26-7a



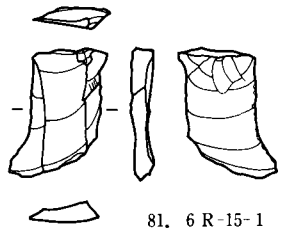
78. 6R-03-6



79. 6R-26-8

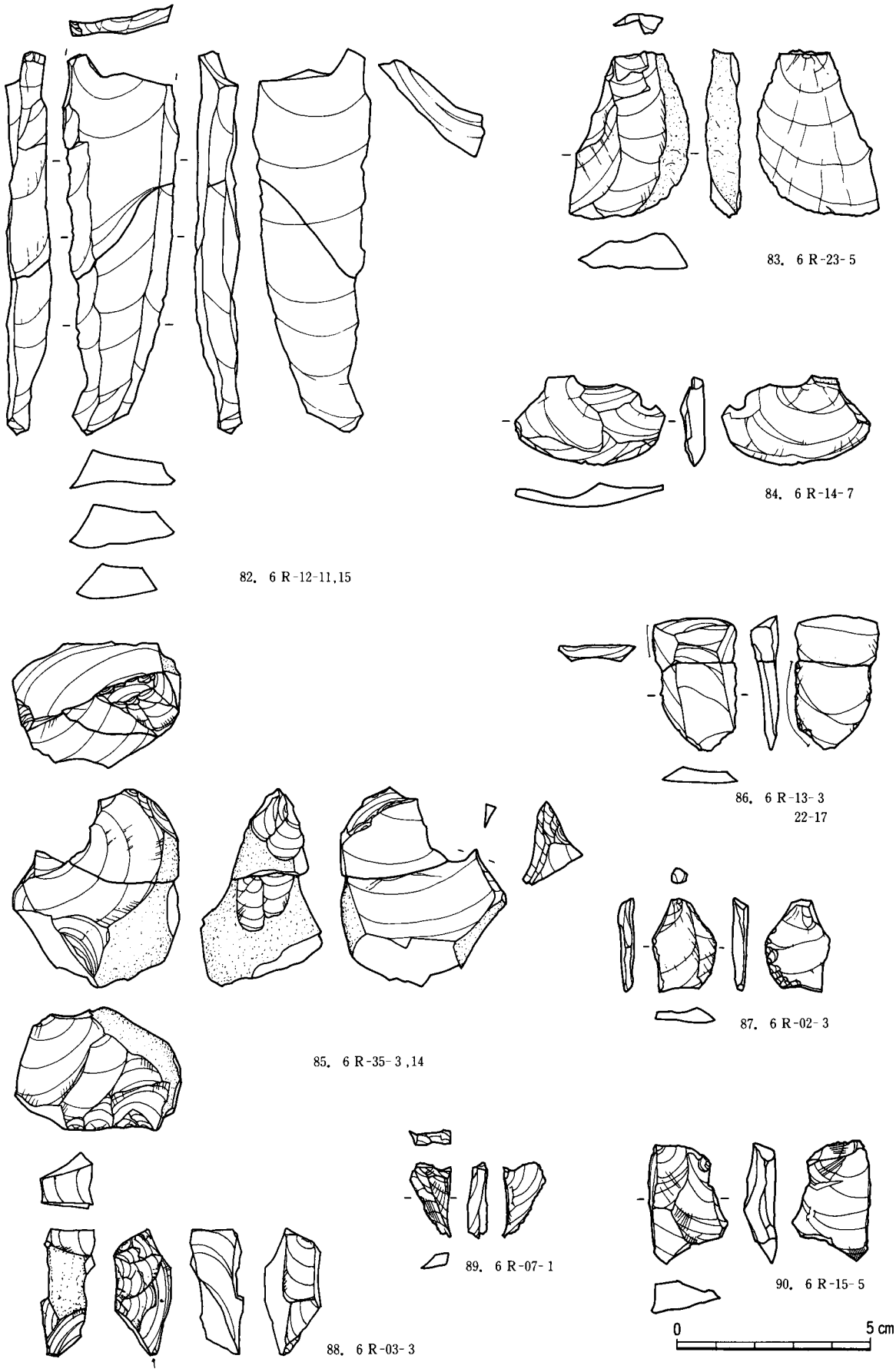


80. 6R-26-6

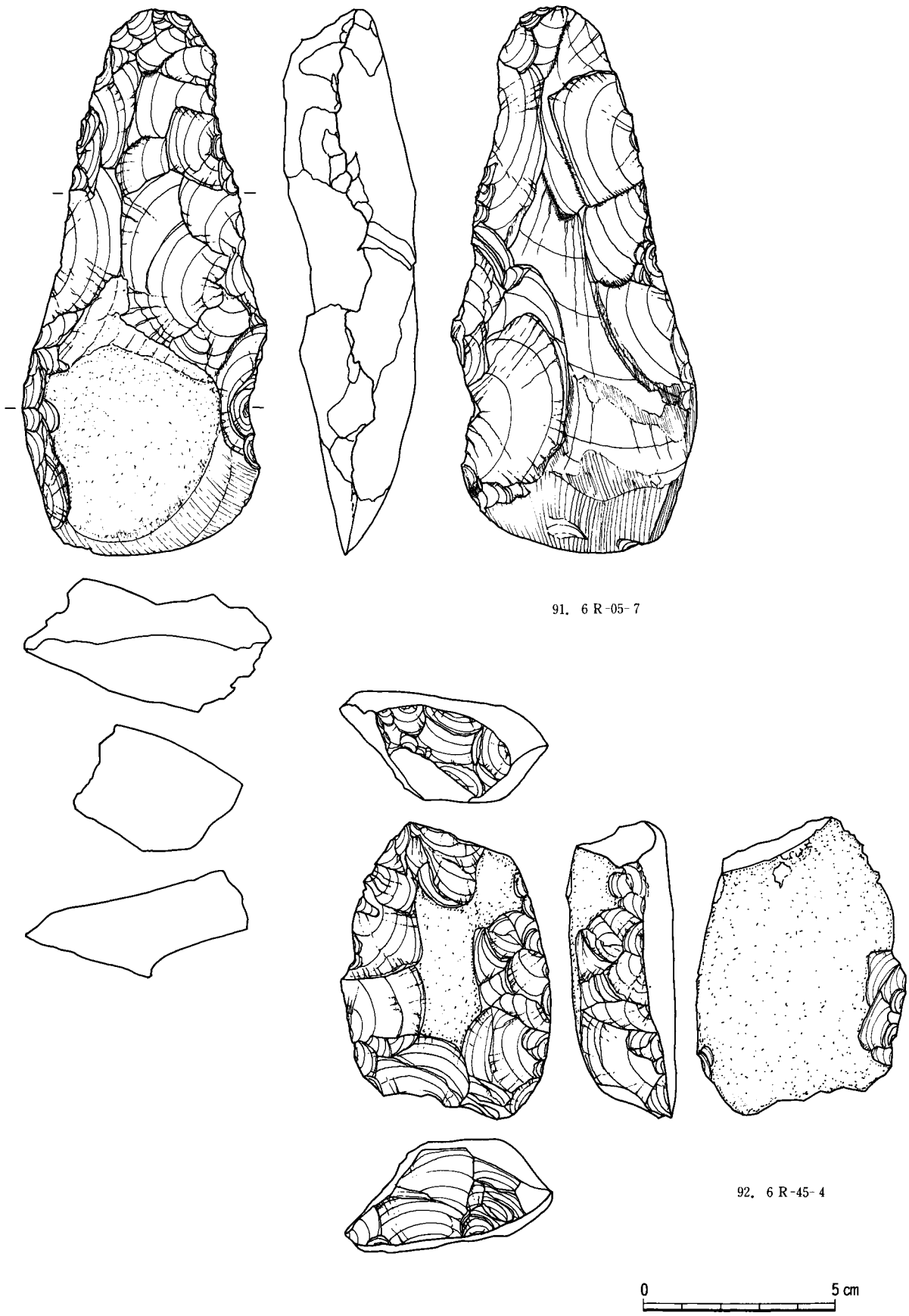


81. 6R-15-1

第27図　第1文化層集中3　出土石器（2）（2／3）



第28図　第１文化層集中３　出土石器（３）（２／３）



第29図　第１文化層集中３　出土石器（４）（２／３）

第30図　第１文化層集中３　母岩別分布（１／120）

第31図　第１文化層集中３　器種別分布（１／120）

第５表　第１文化層集中３　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	台形石器	6Q-93-3	17.2×17.8× 4.9	1.67	平					チャート	2
	F	4	17.3×20.1× 3.6	1.63	欠				H	チャート	16
	掻器	6Q-94-2	35.7×32.9×13.1	11.53	平	I,Ⅳ	B	L・M		頁岩	4
	F	3	23.1×20.7× 5.2	2.81	自					メノウ	3
	F	12	9.1×11.1× 8.7	0.79	自	I,II				チャート	18
	円礫	18	40.1×34.2×21.9	40.37	－					チャート	17
26-87	UF	6R-02-3	23.4×16.8× 4.2	1.30	－					凝灰岩	1
	UF	4	20.2×23.0× 5.5	2.18	剝					チャート	7
	F	6R-03-2	9.0×15.3× 2.6	0.24	平	I			LM～B	チャート	1
26-88	石核	3	15.3×33.5×15.3	5.74	－					メノウ	2
	UF	4	18.5×25.9× 7.1	2.35	欠	I			H～M	チャート	2
24-66	ナイフ形石器	5	13.7×20.7× 3.3	0.90	－					頁岩	5
25-78	ノッチ入石器	6	21.2×21.5× 8.8	3.31	－					チャート	2
	UF,RF	6R-04-3	23.1×25.5× 6.0	1.77	節	I,III		B,R		チャート	12
	F	4a	27.7×42.7× 7.8	4.75	平	I,Ⅳ				頁岩	6
	CH	4b	5.8× 6.5× 1.7	0.05	線	I				頁岩	28
	CH	5	8.2×13.6× 3.8	0.34	欠	I,II				黒曜石	2
	UF	6	12.2×11.9× 5.7	0.48	平	III,Ⅳ		B		黒曜石	1
	F	7	29.8×30.5×10.1	6.96	自					頁岩	1
	F	8	19.4×20.1× 4.6	1.39	点					流紋岩	1
	CH	9	10.2× 8.6× 2.6	0.17	線	I				安山岩	15
	F	6R-05-1	15.4× 8.7× 3.5	0.82	線	I,III				砂岩	1
	UF	3	36.0×17.4× 9.2	3.79	自	I,II,III		R		頁岩	1
	F	4	21.0×31.2×11.8	6.93	欠	I			H～M	チャート	14
	楔形石器	5	11.6×10.6× 4.9	0.39	－					黒曜石	2
	UF	6	22.4×24.0× 6.5	2.55	平	I		B		頁岩	7
27-91	局部磨製石斧	7	139.7×63.2×33.8	317.77	－					砂岩	1
	石核	6R-06-1	46.1×21.2×20.5	20.78	－					頁岩	8
26-89	F	6R-07-1	12.2×20.9× 6.0	0.75	剝	I,III		L		黒曜石	4
24-67	UF	6R-12-2	49.2×22.2× 7.3	6.06	平	I				頁岩	15
	F	8	15.5×11.2×13.6	0.36	自	I,II				凝灰岩,流紋岩	1
	F	10	33.5×16.9×17.0	9.40	平	I,II,III				チャート	6
26-82	石刃	11	97.2×29.6×10.8	29.46	欠	I			H,M	ホルンフェルス	1
	F	12	8.3×13.6× 6.2	0.38	線	II				凝灰岩	1
	F	14	12.5×13.0× 3.1	0.36	線	I				凝灰岩	1
26-82	石刃	15	64.6×29.9×11.1	29.53	－	I			H,M	ホルンフェルス	1
	F	16	18.0×24.7× 9.5	2.43	欠	II,Ⅳ			H,M	凝灰岩	1
26-86	UF	6R-13-3	12.8×21.5× 7.3	2.03	欠	I,II			H,R	凝灰岩	29
	F	5	20.3×10.6× 6.6	1.18	剝	I,II				頁岩	9
	F	7	6.6×17.1× 4.6	0.51	欠	I,II			HM	チャート	3
	CH	8	9.3×11.0× 2.2	0.17	線	I				チャート	18
	F	6R-14-2	12.6×19.2× 3.5	0.74	線	I,III				チャート	4
	F	4	34.6×21.3× 8.8	5.17	(平)	I		R		チャート	4
	F	6	5.5×10.9× 1.5	0.13	線	III		M～H		頁岩	2
26-84	F	7	23.7×38.7× 6.2	4.48	自	I,II				安山岩	8
	CH	8	10.1× 6.6× 1.6	0.08	欠	I			H～M	チャート	1
26-81	F	6R-15-1	24.7×19.7× 3.8	1.91	平	I				チャート	8
	削器	2	32.5×40.3×11.7	9.00	－		R			メノウ	1
25-76	台形石器	4	29.4×15.3× 7.5	3.68	－					チャート	10
26-90	F	5	30.1×19.2× 7.9	3.99	平	I			L,B	黒曜石	1
	F	6	23.5×21.6× 4.0	1.72	欠	I			H	頁岩	10
24-69	UF	7	33.5×20.5× 8.4	4.63	剝	I		LH,LB		頁岩	11
24-73	F	6R-17-1	19.4×33.3× 6.5	3.07	平	I,III				頁岩	12
	F	6R-22-5	13.0× 5.8× 2.1	0.16	欠	I,II			H	チャート	18
26-86	UF	17	22.0×19.8× 3.6	1.95	欠	I		RB	H～M	凝灰岩	2
	F	6R-23-1a	17.7×22.2× 4.3	1.89	欠	I			H	頁岩	3
	CH	1b	3.3× 3.3× 1.5	0.02	平	I				頁岩	28
	CH	1c	2.9× 3.0× 0.8	0.01	平	I				頁岩	28
	CH	1d	9.4× 4.0× 1.5	0.03	欠	I			H	頁岩	28
	CH	1e	3.0× 2.9× 0.8	0.01	平	I				頁岩	28
	CH	1f	3.1× 3.5× 1.5	0.02	平	I				頁岩	28
26-83	F	5	43.8×31.8× 7.7	12.31	平					安山岩	10
24-74	F	6	23.2×43.9× 7.2	3.87	剝	I,II				頁岩	16
	削器	8	30.5×25.3× 7.6	4.19	欠	I	R			安山岩	9
24-74	F	9	32.3×47.2× 6.2	7.35	平	I,II				頁岩	16
24-72	F	6R-24-1	29.1×23.8× 9.1	3.99	平	I				頁岩	2
24-70	F	2	24.6×23.3×10.7	3.33	平	I,Ⅳ			B	頁岩	2
	F	3	13.6× 6.7× 1.7	0.16	線	I,II				頁岩	2
	UF	4	39.5×13.0× 7.5	2.79	点	II	B			頁岩	17
	F	6	18.3×12.4× 6.2	1.29	欠				H	凝灰岩	2

第5表　第1文化層集中3　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-24-7	12.5×19.8× 4.5	0.95	平	I			B	黒曜石	3
	CH	8	7.3× 9.5× 4.2	0.24	平	I				黒曜石	3
24-71	F	6R-25-1	36.2×27.2×11.8	8.68	剝	I,II				頁岩	18
	F	2	24.8×14.4× 5.0	1.69	欠	I			H	安山岩	4
	F	3	21.7×68.0×13.2	31.46	剝					安山岩	4
	CH	4a	7.1× 7.5× 3.2	0.10	欠	I				頁岩	28
	CH	4b	4.7× 7.1× 1.0	0.05	欠	I				頁岩	28
24-68	石核	5	29.7×30.7×12.0	9.94	−					頁岩	13
	F	6	24.3×23.8× 4.9	2.18	剝	I,II				チャート	11
	F	7	19.7×14.7× 6.2	1.97	平	I,IV				安山岩	4
	F	6R-26-3	18.1×34.6× 9.0	5.22	平	I				チャート	13
	F	4	30.2×32.0×10.2	9.17	平	I,II				チャート	13
	F	5	46.6×39.5×15.5	18.81	−					頁岩	14
25-80	F	6	37.8×30.0×12.4	13.64	剝					チャート	5
25-77	UF	7a	24.0×16.9× 5.6	1.81	−					チャート	5
	CH	7b	5.5× 7.5× 1.8	0.07	欠	I				チャート	18
25-79	F	8	42.1×31.7× 6.0	7.29	平	I,II,III				チャート	13
	F	6R-34-3	21.7×20.5× 6.5	2.11	平	II				安山岩	2
	F	4	20.2×17.5× 7.7	2.58	平	I				安山岩	13
	F	5	19.9×20.2× 8.0	2.42	剝	I,III				安山岩	3
	F	6	14.4×14.5× 2.8	0.44	線	I				安山岩	3
	F	7	27.0×21.0× 7.7	3.75	欠	I			H	安山岩	2
	F	8	15.2×18.5× 4.4	0.95	線	I				安山岩	3
	F	6R-35-1	17.9× 9.5× 4.3	0.81	自	I				チャート	15
	F	2	26.6×28.2× 6.8	3.52	剝	I				安山岩	3
26-85	F	3	14.0×28.1×23.2	8.82	節	I,III				安山岩	7,1
	CH	4	7.3× 9.3× 2.0	0.16	平	I			B	安山岩	3
	F	5	33.7×22.6× 5.9	4.52	線	I			L	頁岩	22
	F	6	19.9×27.6×11.7	3.44	点	I,II				安山岩	6
	F	7	13.0×19.5× 5.7	1.05	自	I			M～B	安山岩	6
	F	8	17.7×22.8× 6.0	2.43	自					頁岩	3
	F	9	42.6×44.0× 4.3	20.82	平	I,III				安山岩	5
	F	10	11.6×30.6× 6.2	1.69	平	I				安山岩	4
	F	11	36.6×21.9× 4.9	3.41	剝	II,IV				安山岩	5
	F	12	24.5×21.9× 6.7	3.04	点	II			B	安山岩	6
25-75	礫器	13	48.3×38.0×26.6	65.45	−					頁岩	24
26-85	石核	14	43.1×34.9×32.1	39.26	−					安山岩	7,1
	F	15	27.9×19.8× 4.6	3.54	自	I				チャート	15
24-65	ナイフ形台形	6R-36-2	38.7×17.4× 9.3	6.16	−					頁岩	20
	F	3	24.5×31.2× 7.2	6.98	剝	I				頁岩	19
	F	4	23.2×36.3× 8.9	6.22	剝	I				頁岩	21
	F	6R-44-1	20.8×12.6× 6.0	1.14	−	I,II				チャート	5
	F	2	57.6×22.9×19.2	20.35	自	III				頁岩	1
	F	3	16.6×19.6× 6.4	2.07	平	I			B	安山岩	2
	石核	4	29.6×34.1×15.7	16.78	−					安山岩	11
	CH	5	12.2× 7.5× 2.4	0.16	平	II				チャート	18
	F	6R-45-1	29.9×32.4× 7.8	4.73	平	I				安山岩	16
	F	2	42.3×16.3× 7.5	4.19	欠	I			H	頁岩	25
	F	3	33.5×31.4×13.1	11.96	平	I				安山岩	12
27-92	局部磨製石斧	4	70.5×55.2×26.5	144.49	−					凝灰岩	1
	F	5	29.7×13.9× 7.4	3.46	平					安山岩	14
	F	6	36.9×54.2×12.7	19.33	平	I				頁岩	26
71-198	UF	6R-46-3	29.4×66.3×15.2	28.56	平	I,IV		L,R		頁岩	27

第6表　第1文化層集中3石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1																			2		2	0.32
2					1							1	1								3	7.33
3																			1		1	0.51
4																			2		2	5.91
5													1						2		3	16.59
6																			1		1	9.40
7													1								1	2.18
8																			1		1	1.91
10					1																1	3.68

第6表　第1文化層集中3石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
	11													1						1		1	2.18
	12																					1	1.77
	13																			3		3	21.68
	14																			1		1	6.93
	15																			2		2	4.35
	16																			1		1	1.63
	17																				1	1	40.37
	18																			5		5	1.35
頁岩	1													1						1		2	10.75
	2																			4		4	7.61
	3																			2		2	4.32
	4							1														1	11.53
	5			1																		1	0.90
	6																			1		1	4.75
	7													1								1	2.55
	8	1																				1	20.78
	9																			1		1	1.18
	10																			1		1	1.72
	11													1								1	4.63
	12																			1		1	3.07
	13	1																				1	9.94
	14																			1		1	28.81
	15													1								1	6.06
	16																			2		2	11.22
	17													1								1	2.79
	18																			1		1	8.68
	19																			1		1	6.98
	20			1																		1	6.16
	21																			1		1	6.22
	22																			1		1	4.52
	23																			1		1	20.35
	24										1											1	65.45
	25																			1		1	4.19
	26																			1		1	19.33
	27													1								1	28.56
	28																			8		8	0.29
	29													2								2	3.98
安山岩	1																			3		3	7.93
	2																			5		5	7.49
	3																			4		4	36.81
	4																			2		2	24.23
	5																			3		3	7.53
	6																			1		1	4.48
	7						1															1	4.19
	8																			1		1	12.31
	9	1																				1	16.78
	10																			1		1	11.96
	11																			1		1	2.58
	12																			1		1	3.46
	13																			1		1	0.17
	14																			1		1	4.73
黒曜石	1		1											1								2	4.47
	2				1															1		2	0.73
	3																			2		2	1.19
	4																			1		1	0.75
メノウ	1						1															1	9.00
	2	1																				1	5.74
	3																			1		1	2.81
流紋岩	1													1						1		1	1.39
	2																			4		5	4.83
凝灰岩	1		1																			1	144.49
	2																			1		1	1.29
砂岩	1		1																	1		2	318.59
粘板岩	1	1																		1		2	48.08
ホルンフェルス	1																		2			2	58.99
総計		5	3	2	1	3	2	1	0	0	1	0	1	14	0	0	0	0	2	89	1	123	1182.41
%		4.1	2.4	0.8	0.8	1.6	1.6	0.8	0	0	0.8	0	0.8	11.4	0	0	0	0	1.6	72.4	0.8	99.9	

（4）　集中4（第32～43図　第7、8表　図版3、4）

位　置

第1調査区の舌状台地の先端部に近く、緩やかに南へ向かって傾斜する位置に所在する。

遺物分布状況

東西35m、南北25mほどの範囲に分布し、台地の等高線に沿うように、一見すると遺物が環状に分布しているようにも見える。東側の谷部側で遺物が集中する傾向が見られるほか、全体としては楕円形に遺物が分布する。分布する中央部には東西10m、南北6mほどの遺物が検出されない空間が存在する。石材は頁岩、黒曜石、チャートが多い構成となっている。

母岩別分布

チャート15種、頁岩57種、安山岩21種、黒曜石18種、メノウ1種、流紋岩5種、凝灰岩4種、砂岩8種、石英2種、輝石安山岩1種、遺物数401点で構成される。頁岩は集中の全域に分布がみられるが、東側に分布の偏りが指摘できる。ここでは多くの接合関係が認められる。このことから集中の東側で頁岩の母岩消費が行われたと解釈できよう。他の集中と同様に本集中も限定された母岩消費空間と、それに接する希薄な分布域から構成されていることになる。チャートは東側に分布する傾向が見られる。黒曜石は北側に多く分布する傾向を指摘できるほか、南側の6S—02グリッドでは黒曜石のみで構成されるまとまりも存在する。

石　材

頁岩57種140点、黒曜石18種129点、安山岩20種71点、チャート15種31点、砂岩8種11点、流紋岩5種11点、凝灰岩4種4点、メノウ1種1点、輝石安山岩1種1点、石英斑岩2種2点の計401点で構成される。なお、頁岩については珪質な頁岩の一部はチャートと識別が困難なものがあるが便宜的に頁岩に含めてある。従って、頁岩とチャートとを合わせて「珪化岩類」と分類すべきであったのかもしれない。頁岩1は青灰色で黒色細粒不純物をごま塩状に混入する。頁岩3は淡灰白色で黒色細粒不純物を混入する。頁岩10は淡灰色で縞模様のものである。頁岩24は灰色がかった地に縞状に乳白色の脈を混入する。頁岩27は淡褐色と青灰色の部分が互層になっている。黒曜石3は黒色で灰白色不純物を混入する。黒曜石4は不純物のほとんど入らない透明な石材である。黒曜石6は灰色がかった色調である。黒曜石8は薄墨を流したような地に黒色細粒不純物を混入する。安山岩1は灰色の色調のものである。安山岩5は青灰色を呈する。安山岩8は淡灰色でいわゆるトロトロ石に近い石材である。チャート1は青みがかった色調で灰白色鉱物を脈状に混入するもの。チャート4は青みがかった灰色を呈する。チャート9は暗い色調の灰色の石材である。流紋岩1は青灰色の地に暗色鉱物を脈状に混入する。流紋岩2は灰色を呈し脈状の縞模様が特徴的なものである。凝灰岩1は淡灰白色のものである。砂岩3は淡い青灰色のものである。

器　種（第8表）

石核19点、ナイフ形石器5点、楔形石器7点、台形石器2点、削器3点、掻器1点、礫20点、敲石8点、二次加工のある剝片10点、使用痕のある剝片27点、石刃3点、尖頭器1点、剝片・砕片291点である。

集中4の石器（第32～40図　図版21～24）

(a)　頁岩の石器（第32～34図）

93は、集中3出土の65と同一個体である。この集中からはこの石器の先端部が出土し両者は接合した。94は二次加工のある石器で、素材は円盤状の石核から剝離された剝片である。95は石核もしくは鋸歯縁削

器である。96は石核である。図は石片が接合した状態である。97は使用痕の残る石器である。97は剝片の末端部に、先の尖る工具を押しつけるようにして急角度の剝離で加工をしている。石器の基辺（剝片の末端部）は正方向の剝離、右側辺は反方向の剝離で加工がなされている。98は分厚い剝片の打面に刃潰し加工状の急角度の刃部をつくる二次加工のある石器である。99は剝片で、最低3回の打面転移が観察され、最終打面から剝離された小型の剝片が腹面に接合している。100は使用痕のある石器である。厚い縦長剝片の末端部に急角度の剝離痕が観察される。101は典型的な楔形石器である。102は使用痕のある剝片である。背面は大きなポジ面に平らなネガ面がつく。103は楔形石器の可能性もある石器である。石器は最終的に2つに折れている。104は楔形石器である。105は楔形石器の剝片である。両極剝離によって正面・裏面が形成されている。正面左側辺は鋭いエッジとなり、使用痕の可能性もある微細な剝離痕が観察できる。106は角礫素材の石核である。角柱状をしており、各稜に沿って横長貝殻状の剝片を連続的に剝離している。角礫は嶺岡層群産と推定される。107は石刃である。打面は線状を呈する。108は小型の石刃である。剝片の末端にある背面の剝離面には原石分割段階の打点が観察できる。109は先の尖る形状の剝片である。110は大きな横長剝片である。剝離軸に対して打面が大きく傾いている。111、113、117、118は剝片である。111の左側縁には微細な剝離痕が見られる。112は使用痕のある剝片である。剝片の末端に微細な剝離痕が観察できる。114は使用痕付きの剝片である。115は石核である。剝片を素材とし、主要剝離面を底面としている。打点は背面の稜上にある。117は使用痕のある剝片である。118は両極打法によって生産された剝片である。

(b) チャート、流紋岩の石器（第35図）

119は鋸歯縁石器である。120は剝片である。121も剝片である。122は石刃である。腹面左側縁に微細な刃こぼれが認められる。123は正面右側辺に微細な剝離痕が見られる剝片である。124は剝片である。末端部に微細な剝離痕がみられる。125は横長剝片である。剝片末端形状はヒンジフラクチャーである。126は剝片である。

(c) 安山岩の石器（第36・40図）

127は尖頭器のような形態を持つ石器である。便宜的に本集中に含めたが産出層準はIII層であり、明らかな混入遺物と考えられる。128は石核である。129は石核に3点の剝片が接合している。130は側削器と剝片の接合資料であるが、剝片は小型の石核に転用されている。側削器は素材剝片の腹面・背面に細部加工が施されている。131は打面の厚い剝片である。

132は剝片である。縁辺部に細かな刃こぼれがあるが、意図的なものかどうかは不明である。153は大きくて重量感のある石核である。154は縁辺部に加撃痕のある扁平な円礫である。石材は花崗斑岩の可能性もある。

(d) 砂岩・凝灰岩・石英斑岩の石器（第37・39図）

133、134は砂岩製の剝片である。135は珪化凝灰岩製の剝片で、右側辺に微細な剝離痕が観察できる。136は石英斑岩製の礫器である。円礫をスタンプ形石器のように成形している。半割し、その半割面を両側からさらに剝離を加えている。平らな面に鋭い稜線の残る刃部に仕上げている(上面)。刃部には細かな剝離痕が多数観察され潰されているように見える。また、原礫面には4か所の被加撃痕が認められる。

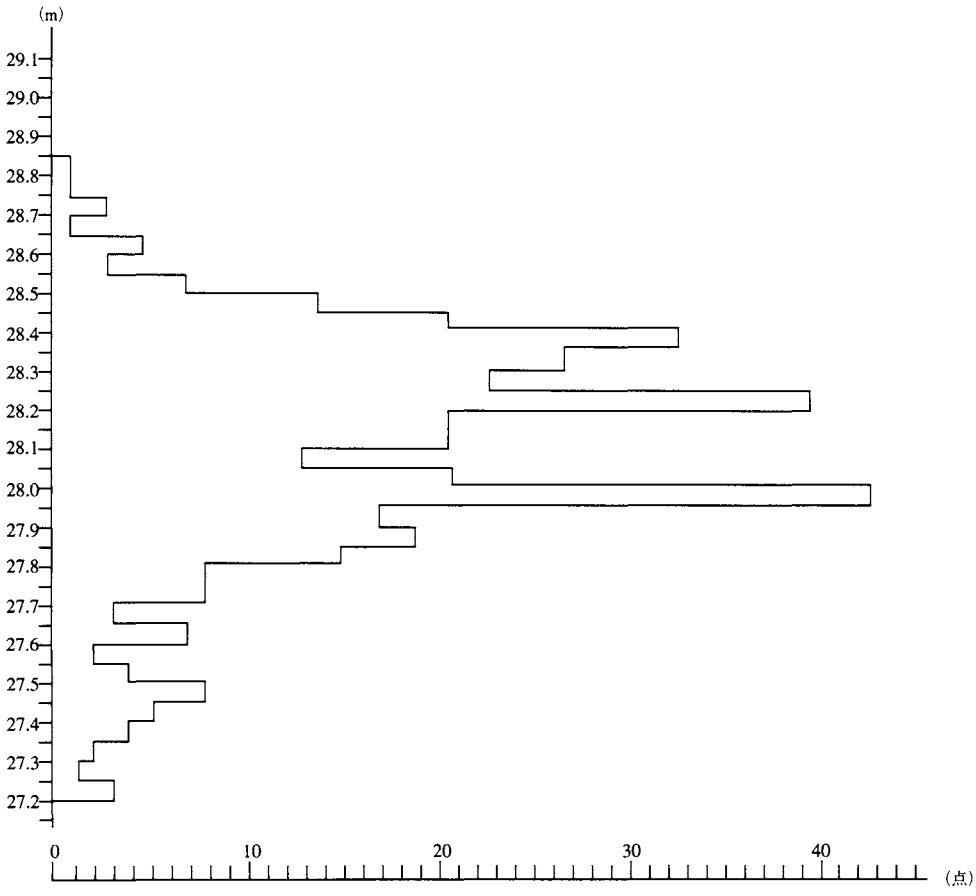
151は礫素材の斧型石器である。部厚い剝片を素材とし、刃部は両面から入念に研磨されている。研磨痕には鏡面状の光沢がある。152は剝片を素材としている。背面は自然面を研磨している。先端は尖刃になる

ように研磨されている。研磨痕に光沢はない。151、152ともに砂岩製である。

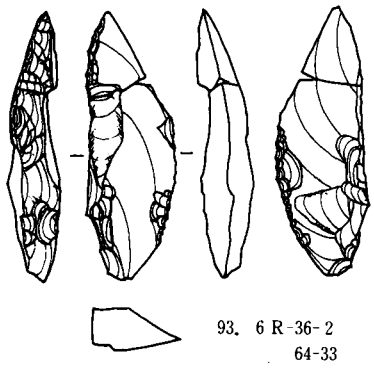
(e) 黒曜石の石器（第37図）

137はナイフ形石器である。透明良質の黒曜石を素材としている。背面左側縁部に細部調整が認められる。138はナイフ形石器である。平坦打面の縦長剝片を素材とし、裏面基部側に二次加工をしている。139はナイフ形石器の先端である。二次加工は急角度剝離がなされている。140は石核である。141は使用痕の残る剝片である。横長剝片の打面部に急角度の剝離で刃部をつくっている。

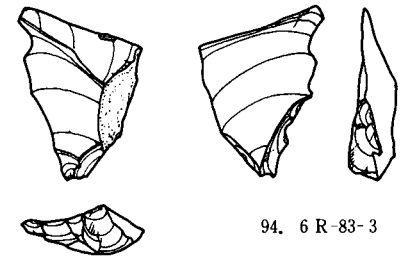
142は両極石核(楔形石器)から剝離された剝片である。143は小型剝片と石核の接合資料である。144、145は使用痕のある剝片である。146は縦折れの剝片、147～150は剝片である。147の左側辺には微細剝離痕がみられる。150は両極剝片と見られる。



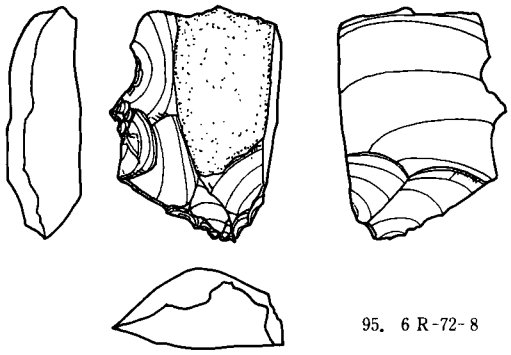
第32図　第１文化層集中４　遺物垂直分布図



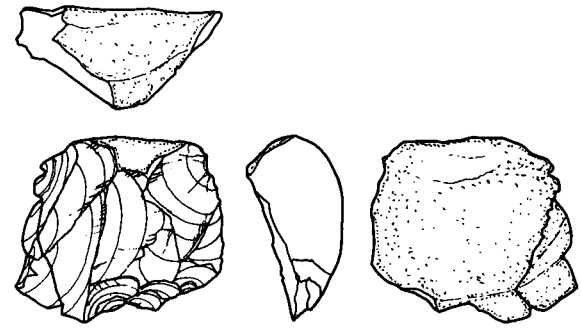
93. 6 R-36-2
64-33



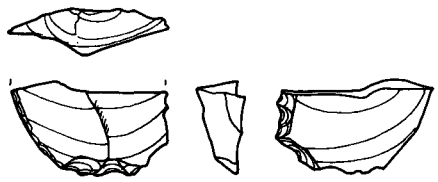
94. 6 R-83-3



95. 6 R-72-8

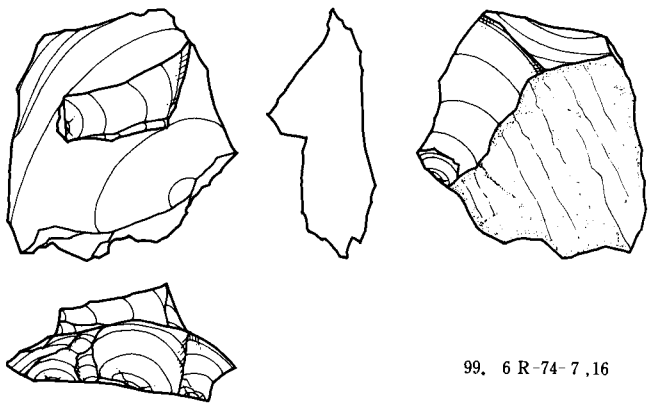


96. 6 R-82-4, 6

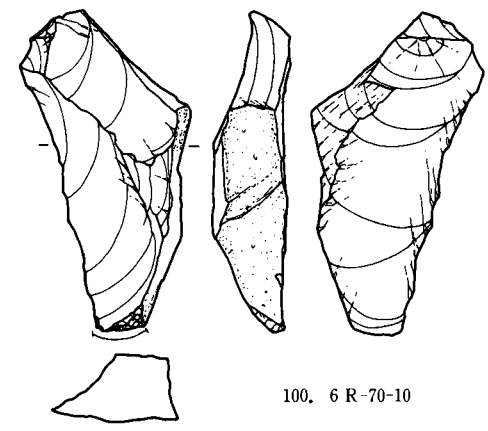


97. 6 R-73-5

98. 6 R-60-1



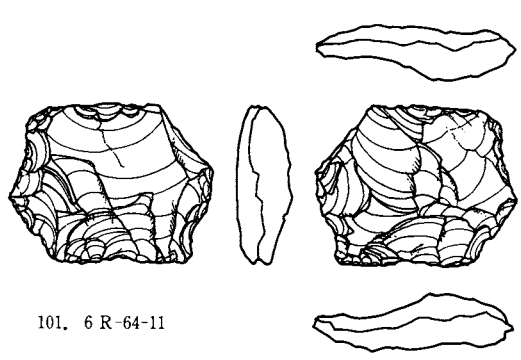
99. 6 R-74-7, 16



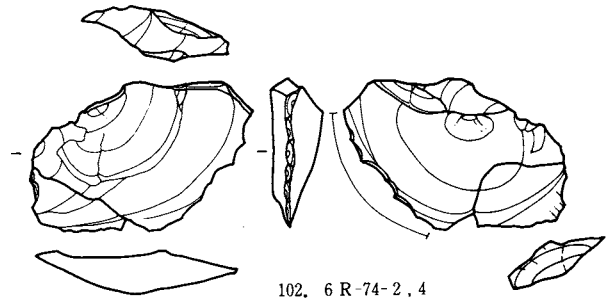
100. 6 R-70-10

0 5 cm

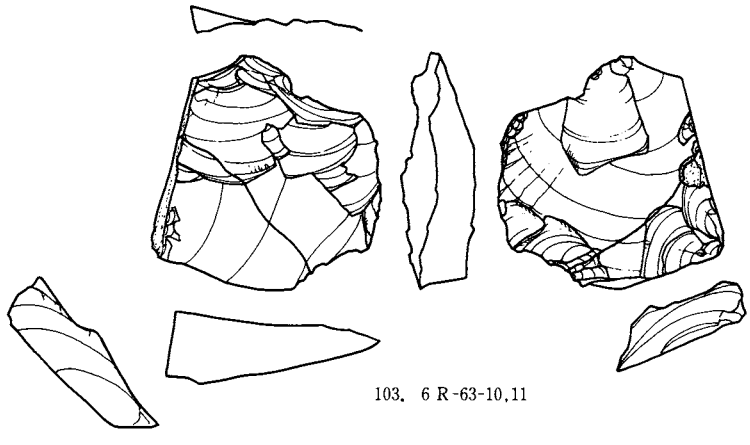
第33図　第１文化層集中４　出土石器（１）（２／３）



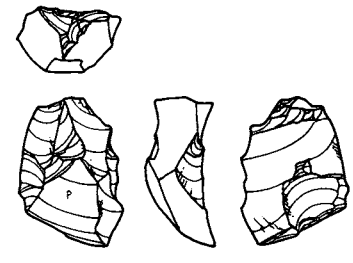
101. 6 R-64-11



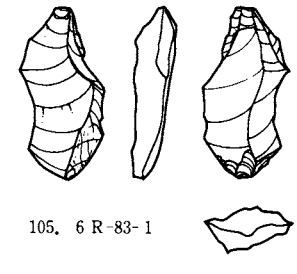
102. 6 R-74-2, 4



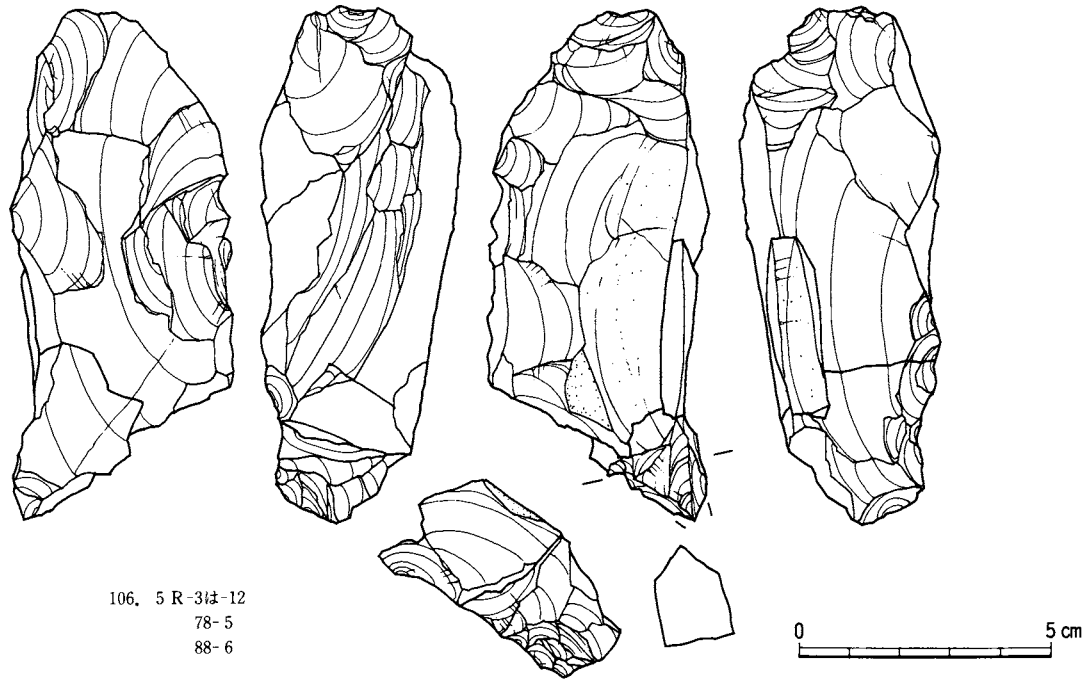
103. 6 R-63-10,11



104. 6 R-73-22



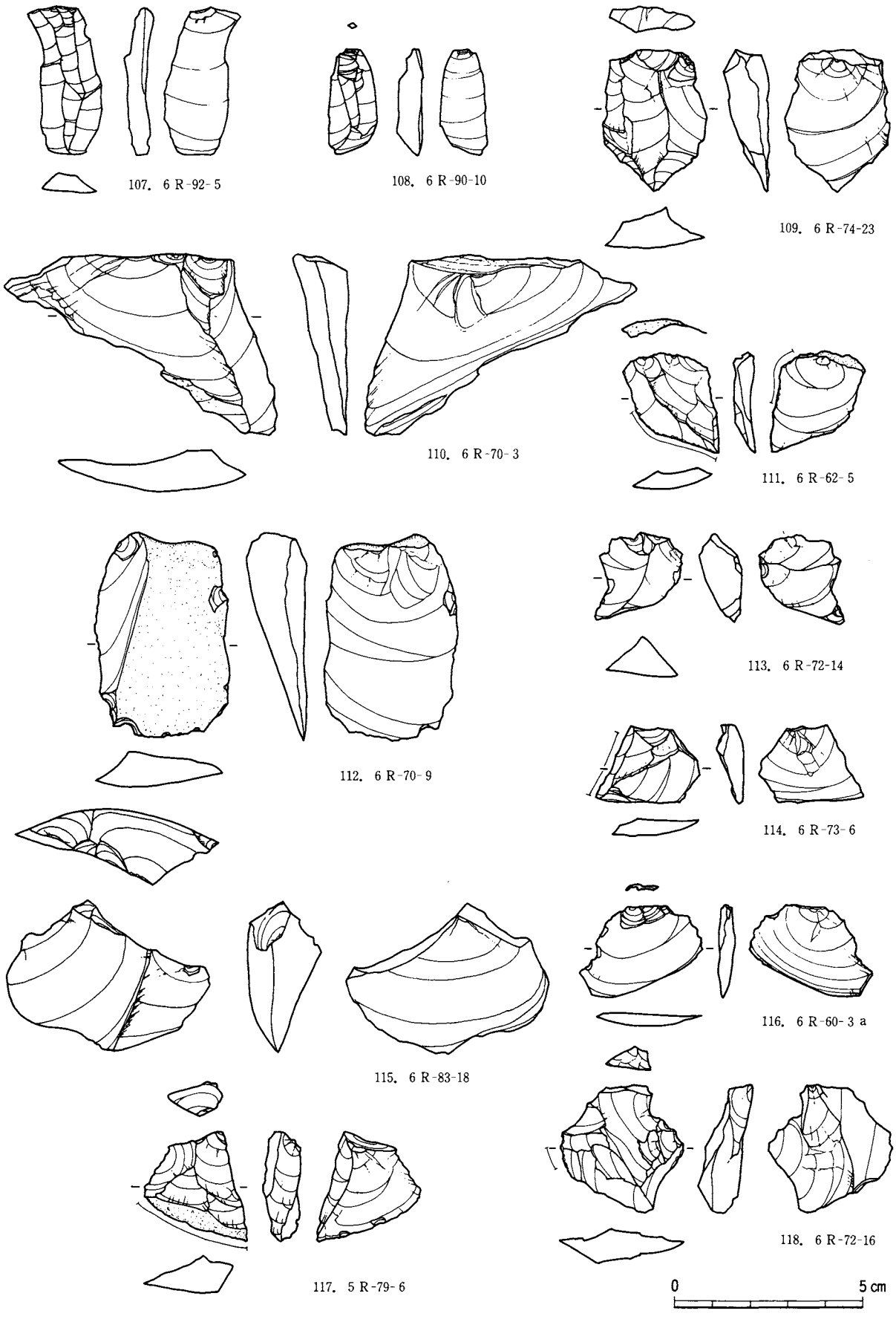
105. 6 R-83-1



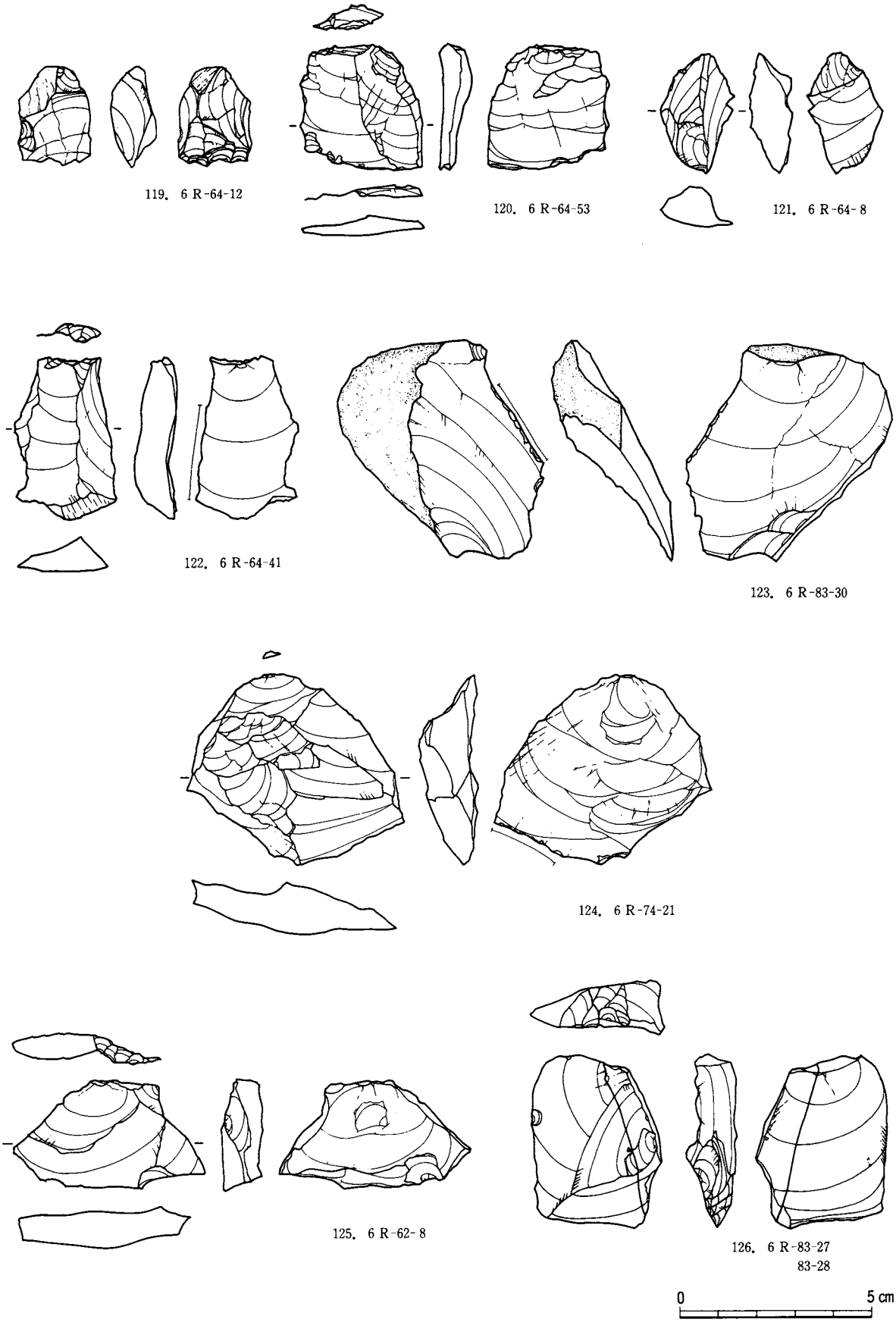
106. 5 R-3は-12
78-5
88-6

0 5 cm

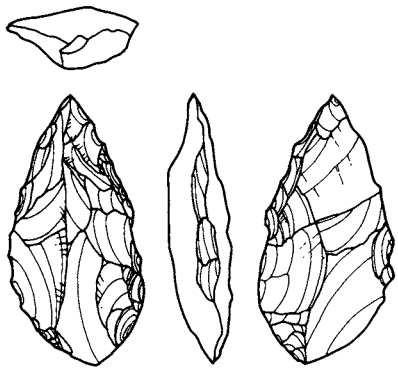
第34図　第1文化層集中4　出土石器（2）（2／3）



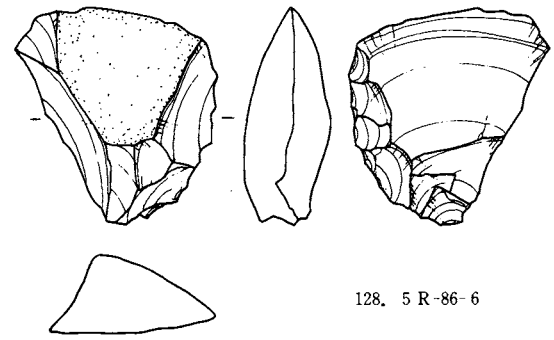
第35図　第１文化層集中４　出土石器（３）（２／３）



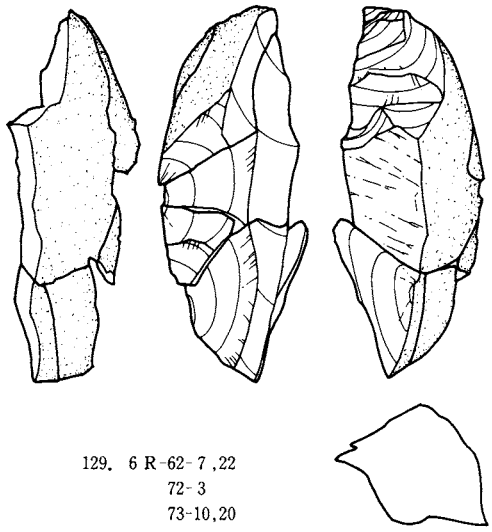
第36図　第１文化層集中４　出土石器（４）（２／３）



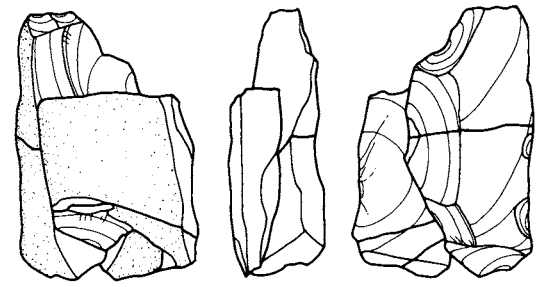
127. 6 R-55-4



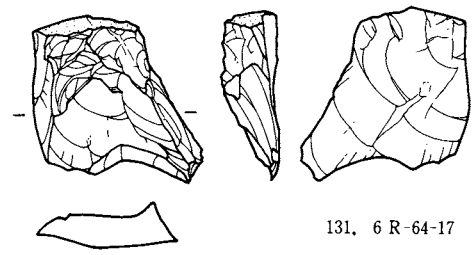
128. 5 R-86-6



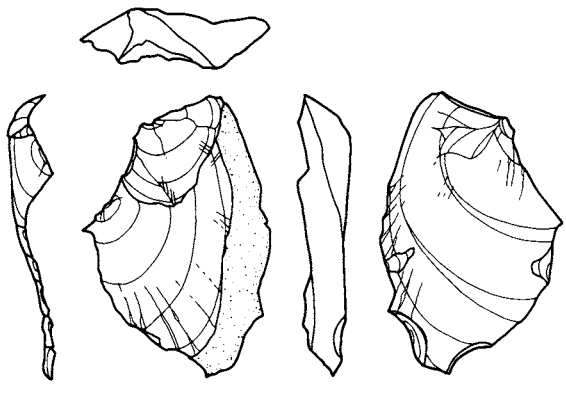
129. 6 R-62-7,22
72-3
73-10,20



130. 6 R-72-1,9,10
73-21
83-26

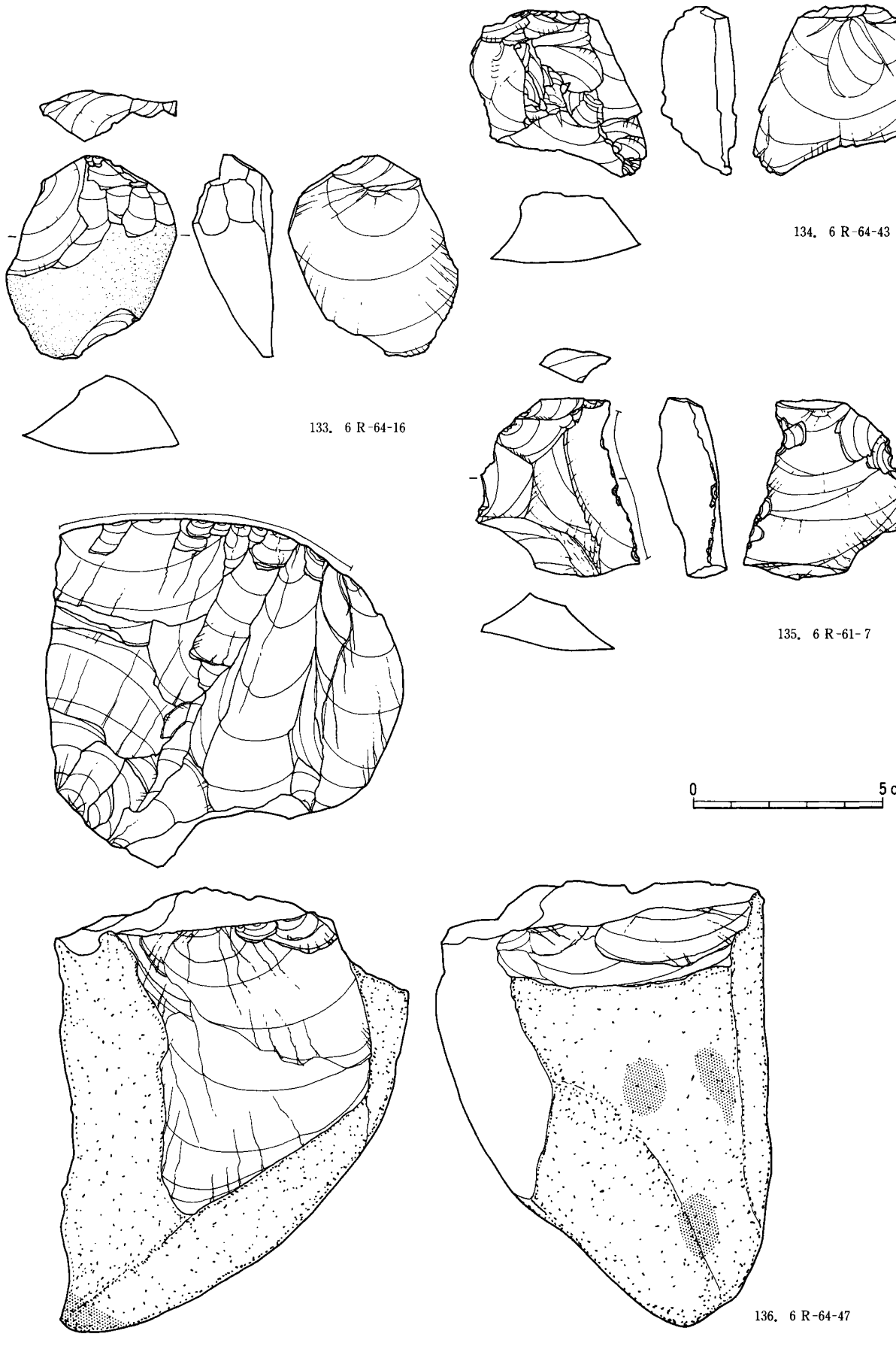


131. 6 R-64-17

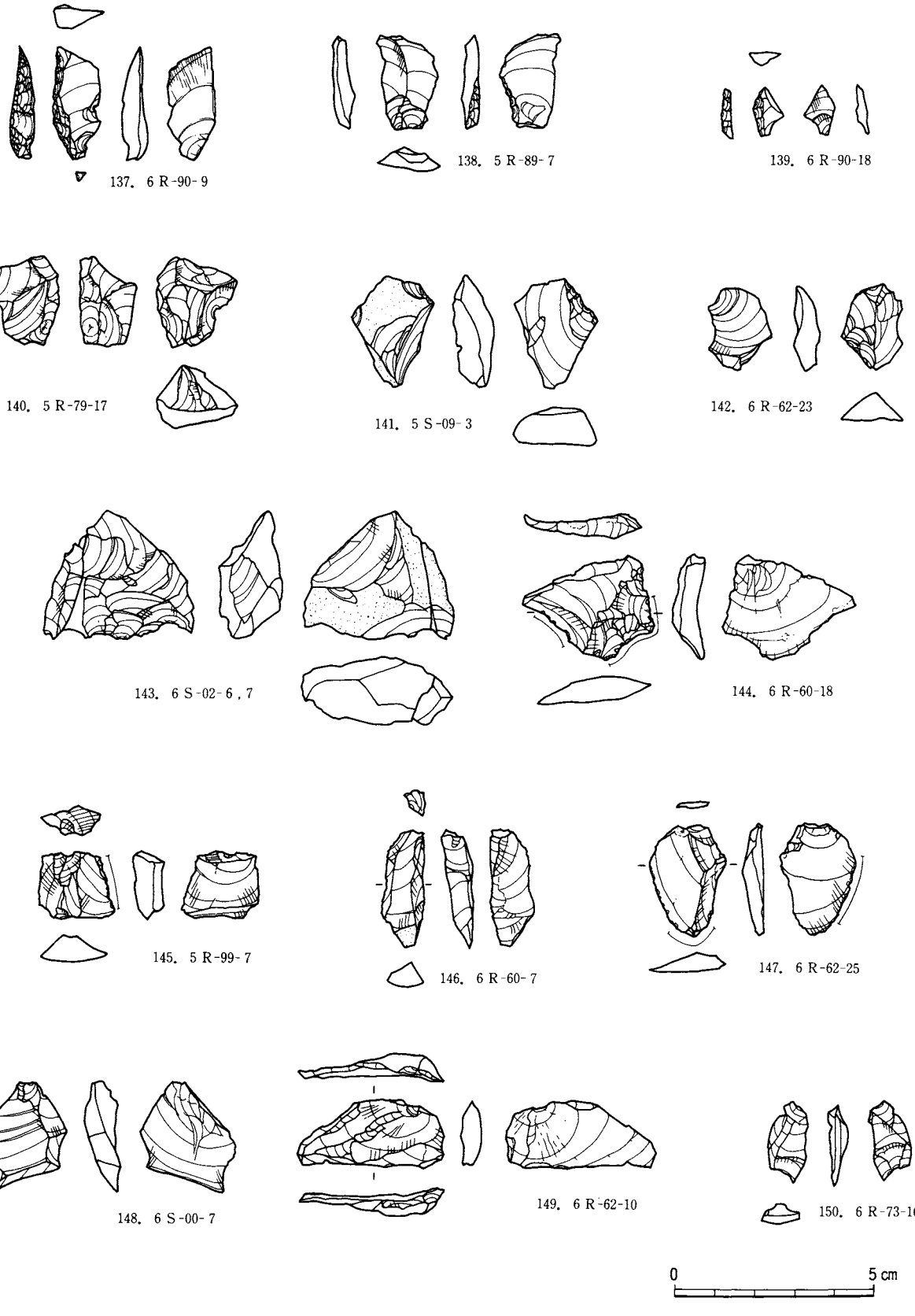


132. 6 R-73-2

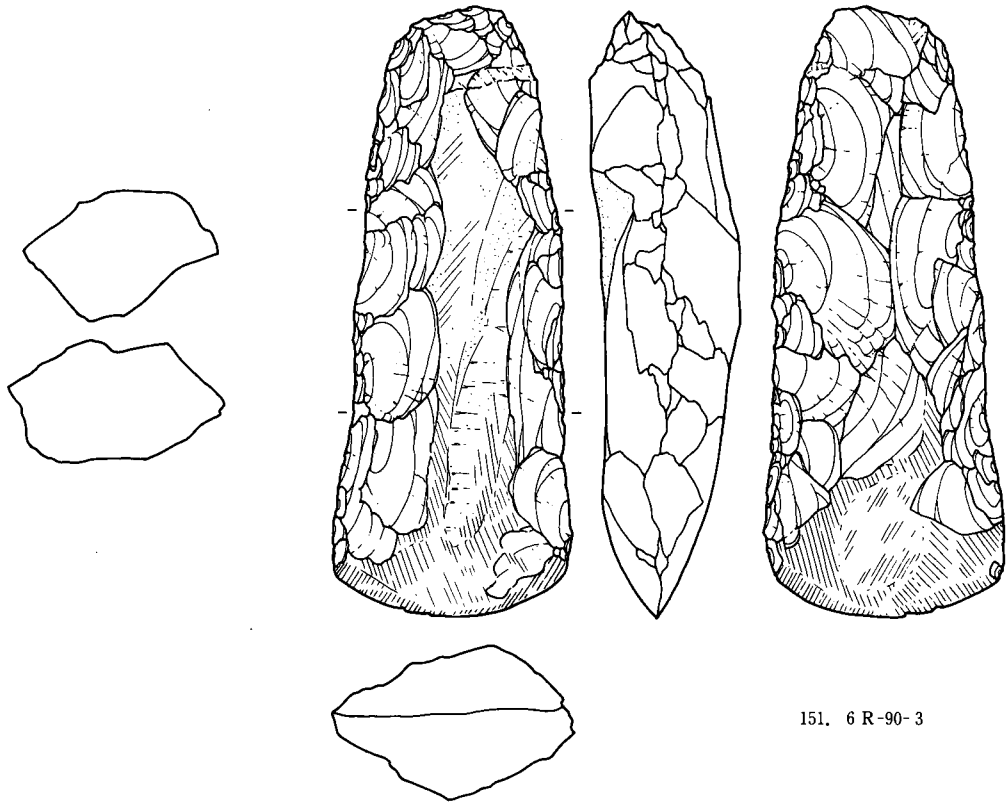
第37図　第１文化層集中４　出土石器（５）（２／３）



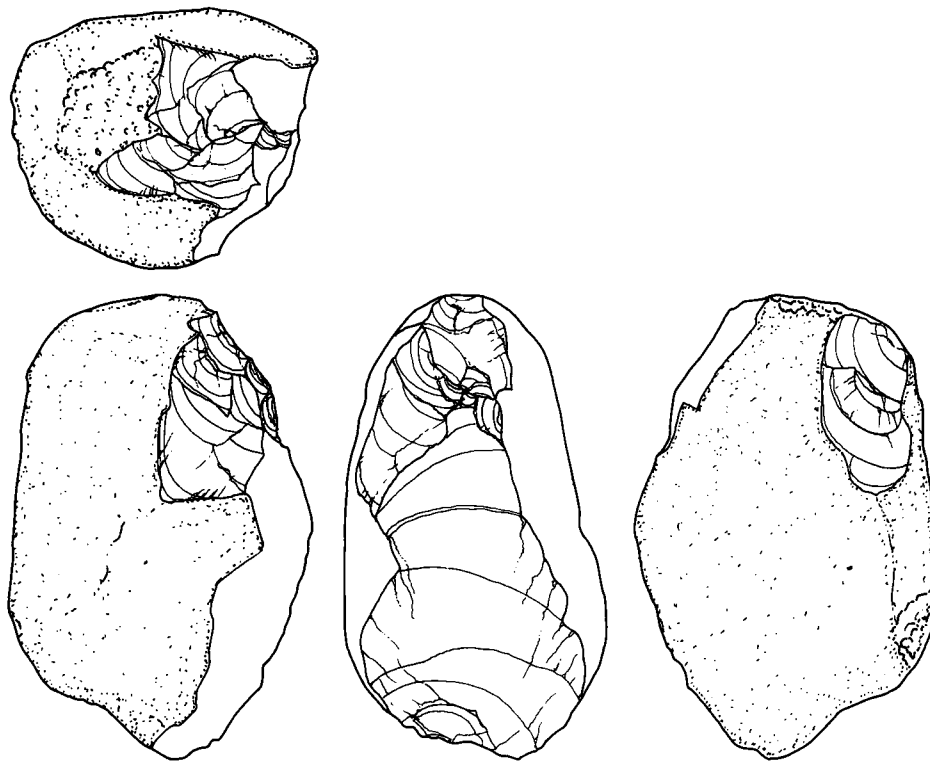
第38図　第１文化層集中４　出土石器（６）（２／３）



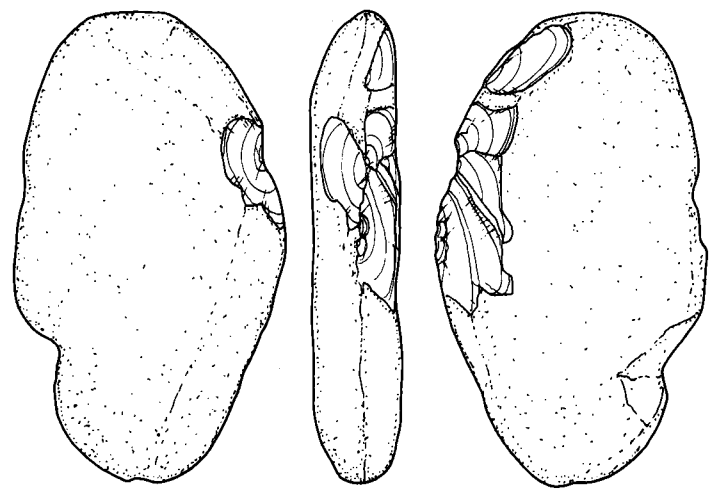
第39図　第１文化層集中４　出土石器（７）（２／３）



第40図　第１文化層集中４　出土石器（８）（２／３）



153. 6 R-64-46



154. 6 R-83-24

0 5 cm

第41図　第１文化層集中４　出土石器（９）（２／３）

第42図　第１文化層集中４　母岩別分布（１／100）

第43図　第１文化層集中４　器種別分布（１／120）

第7表　第1文化層集中4　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	5R－68-3	18.6×20.1×14.2	4.12	点	Ⅰ,Ⅱ				安山岩	2
	UF	4	27.5×25.0× 8.7	3.60	平	Ⅰ		L		黒曜石	3
	F	5	20.7×15.4× 4.3	1.15	平	Ⅰ			L	安山岩	1
	F	6	18.3×10.4× 4.7	0.99	点	Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ				頁岩	21
	F	5R-69-1	12.2× 8.4× 3.1	0.16	線	Ⅳ			R	黒曜石	2
	礫	2	47.3×15.5×13.9	11.65	－					凝灰岩	3
	F	3	14.8× 8.2× 1.9	0.14	線	Ⅰ				チャート	15
	CH	4a	11.1× 8.2× 2.7	0.20	線	Ⅰ				頁岩	55
	CH	4b	4.8× 5.1× 1.2	0.02	点	Ⅰ				黒曜石	18
	F	5	22.6×32.8× 8.7	3.95	平	Ⅰ			R	砂岩	2
	F	6	17.5×22.8× 6.1	1.52	欠	Ⅰ			H～M	黒曜石	12
	F	7	18.0×33.2× 5.9	2.60	平	Ⅳ				砂岩	2
	円礫	8	55.3×30.3×22.0	50.90	－					砂岩	6
	F	9	25.7×11.1× 6.3	0.89	点	Ⅰ,Ⅲ				黒曜石	18
	F	10	14.8×27.5× 4.5	2.29	欠	Ⅰ			H	黒曜石	13
	F	5R-78-3	21.7×23.0× 8.0	3.36	平	Ⅰ				チャート	1
	F	4	19.3×17.4× 8.6	1.83	平	Ⅱ,Ⅳ				安山岩	2
32-106	石核	5	43.8×86.8×38.8	167.76	－					頁岩	3
	F	6	24.9×14.5× 5.0	1.53	自	Ⅱ				安山岩	1
	円礫	7	20.2×32.2×18.7	13.20	－					頁岩	54
	F	5R-79-1	23.0×24.5× 9.7	3.95	欠	Ⅳ				安山岩	1
	F	2a	27.7×17.5× 9.7	3.22	平					頁岩	1
	F	2b	27.7×15.8× 6.7	2.05	平					頁岩	1
	F	3	12.6×15.4× 3.3	0.52	平	Ⅰ				凝灰岩	2
	F	4	40.0×21.9×10.5	6.64	平	Ⅰ,Ⅲ				頁岩	1
	F	5	16.7×24.9×11.0	2.77	欠	Ⅰ,Ⅱ			H	黒曜石	6
33-117	UF	6	30.2×25.8×10.5	5.64	欠	Ⅰ			R	頁岩	1
	F	7	14.2×19.0× 6.5	0.92	点	Ⅰ				黒曜石	6
	CH	8	11.1× 7.1× 3.7	0.16	平	Ⅰ				黒曜石	15
	石核	9	27.3×26.5×17.5	10.61	－					黒曜石	6
	F	10	13.3×20.7×12.9	1.81	平	Ⅰ,Ⅳ				黒曜石	6
	F	11	8.8×13.0× 6.7	0.59	平	Ⅰ,Ⅱ				黒曜石	6
	F	13	13.1×16.9× 6.0	0.90	平	Ⅰ			B	黒曜石	6
	CH	14a	7.3× 4.3× 3.1	0.10	欠	Ⅰ,Ⅱ			H	チャート	15
	CH	14b	6.6× 4.1× 2.4	0.06	欠	Ⅰ				チャート	15
	F	15	8.6×14.5× 2.9	0.24	欠	Ⅰ			H,R	黒曜石	7
	F	16	26.5×31.3× 9.1	6.76	欠	Ⅰ,Ⅳ			H,M	安山岩	1
37-140	石核	17	17.7×23.2×18.4	4.14	－					黒曜石	6
	F	18	13.2×28.1× 9.1	3.03	線	Ⅰ,Ⅱ			L	頁岩	1
	F	5R-88-3	13.0×15.3× 3.3	0.50	欠	Ⅱ			H～M	安山岩	20
	石核	4	28.5×23.1×14.2	8.86	－					安山岩	2
	F	5	38.2×29.3×14.9	12.95	平	Ⅰ,Ⅳ				安山岩	2
32-106	石核	6	28.7×31.5×21.8	17.35	－					頁岩	3
	礫	7	35.2×51.6×41.6	97.11	－					頁岩	12
	礫	8a	28.6×23.1×19.6	8.11	－					頁岩	12
	礫	8b	31.6×19.0×20.1	10.22	－					頁岩	12
	礫	8c	8.9× 5.2× 5.7	0.17	－					頁岩	12
	礫	8d	8.4× 7.1× 3.0	0.09	－					頁岩	12
	礫	8e	6.5× 2.9× 2.4	0.04	－					頁岩	12
	F	9	8.9×14.2× 4.3	0.32	平	Ⅰ,Ⅱ				黒曜石	18
	F	10a	24.3×11.6× 7.4	1.46	平	Ⅱ,Ⅲ		LM,RM	RH,B	黒曜石	2
	CH	10b	9.1×10.1× 2.3	0.13	点	Ⅰ				黒曜石	15
	F	11	15.3×10.7× 3.4	0.43	欠	Ⅰ			H	黒曜石	8
	F	12	11.7×11.2× 3.1	0.29	点	Ⅰ,Ⅱ				黒曜石	8
	CH	13	6.8× 8.1× 2.3	0.11	平	Ⅰ				黒曜石	6
	F	14	1.11× 7.8× 5.5	0.55	平					安山岩	2
	F	15	12.7×36.3× 5.7	3.07	平	Ⅲ				頁岩	3
	CH	16	9.6× 5.6× 2.7	0.09	点	Ⅰ				黒曜石	2
	F	5R-89-1	9.7×13.3× 4.5	0.45	点	Ⅰ				安山岩	20
	F	2	14.1×16.0× 4.8	0.76	自	Ⅰ				安山岩	1
	F	3	9.7×11.0× 1.9	0.18	欠	Ⅰ			H	安山岩	20
	F	4	12.1× 9.8× 2.9	0.24	欠	Ⅱ,Ⅲ			H	頁岩	19
	F	5	11.5×18.7× 3.1	0.37	欠	Ⅰ,Ⅲ	H		H	黒曜石	8
	F	6	17.0×15.0× 6.1	1.03	線	Ⅰ,Ⅲ				黒曜石	2
37-138	ナイフ形石器	7	24.5×14.3× 5.0	1.26	－					黒曜石	3
59-182	UF	5R-98-3	17.0×20.8× 7.6	1.52	－					黒曜石	2
	F	4	11.4× 9.9× 2.5	0.17	欠	Ⅰ			H	黒曜石	8
	F	5	10.0×15.4× 3.3	0.40	欠	Ⅰ,Ⅱ	LB		LH	黒曜石	2
	F	6	9.4×16.0× 3.4	0.42	欠	Ⅰ,Ⅱ			H	黒曜石	2

第7表　第1文化層集中4　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	5R-98-7	10.5×16.2× 2.1	0.23	欠	I			H	黒曜石	8
	F	5R-99-3a	20.4×14.7× 5.7	1.11	平	I,II				黒曜石	1
	CH	3b	8.9× 7.8× 2.9	0.14	平	I,II				黒曜石	1
	石核	4	16.0×33.8×15.7	5.68	−					黒曜石	3
	F	5	11.9× 5.6× 3.8	0.19	点	I,II				黒曜石	18
	F	6	9.5×16.1× 3.0	0.25	欠	I			H	黒曜石	3
37-145	UF	7	17.0×19.0× 7.8	2.02	平	I		R	B	黒曜石	2
	F	8	28.2×22.7× 7.0	3.25	平	II				黒曜石	3
	RF	9	12.8× 7.6× 4.4	0.24	欠		H		H	黒曜石	7
	CH	10	5.6×10.5× 2.0	0.12	点					黒曜石	10
	F	6R-54-2	24.7×19.9× 6.0	3.25	欠	I			H	安山岩	3
	F	20	10.2×13.3× 2.1	0.23	自					安山岩	20
	楔形石器	21	23.0×20.1× 9.1	4.11	−					黒曜石	2
	F	24	12.3×12.5× 4.2	0.80	欠				H	安山岩	20
	F	6R-55-1	33.0×44.5×11.8	13.55	平	I,II				安山岩	3
	F	2	22.3×12.4× 3.6	1.15	欠					安山岩	3
	F	3	14.0×19.3× 2.9	0.83	平	I				安山岩	20
35-127	尖頭器	4	52.4×25.6×11.6	13.54	−					安山岩	0
	F	5	30.2×22.2× 3.5	1.89	線					頁岩	37
	掻器	6R-60-1	27.3×16.7× 9.7	4.51	−					頁岩	45
33-116	F	3a	23.4×33.0× 3.5	2.66	平	I				頁岩	38
	F	3b	10.2× 9.2× 2.8	0.21	欠	I,IV			H	黒曜石	10
	UF	4a	26.0×27.5× 9.6	7.09	平	I				頁岩	2
	F	4b	17.0× 8.8× 2.7	0.44	平	I				安山岩	20
	F	5	8.2×21.9× 4.2	0.55	剝	II				黒曜石	3
	F	6	13.1× 9.7× 4.9	0.50	剝	III				黒曜石	6
37-146	F	7	29.1×10.6× 6.8	1.91	平	I,III				黒曜石	16
	F	8	37.0×34.7×10.5	10.74	平	I				頁岩	44
	F	9	9.4×12.2× 5.2	0.39	点	I	R		H～M	黒曜石	3
	F	10	18.0× 8.1× 1.9	0.30	−					黒曜石	8
	CH	12	10.2×12.7× 3.1	0.26	平	I				頁岩	6
	F	13	26.3×25.0× 6.1	3.63	平	I,IV				頁岩	2
	F	14	20.6×11.4× 5.7	1.40	平	I			R	頁岩	4
	F	15	13.3×19.9× 5.2	1.03	平	I				頁岩	8
	F	16	13.7×13.2× 4.2	0.72	欠	I,IV			H	黒曜石	3
	F	17	27.6×24.1×11.5	5.03	剝	I,II				黒曜石	2
37-144	UF	18	25.8×33.0× 6.8	3.93	平	II,III,IV		R,LB		黒曜石	2
	F	19	20.0×30.5× 8.7	4.84	欠	I,II			H～M	黒曜石	5
	F	6R-61-3	35.6×17.9×14.3	8.02	自	I				頁岩	57
	石核	4a	24.6×35.1×16.2	11.80	−					黒曜石	2
	CH	4b	8.2× 9.8× 3.0	0.33	点	II				黒曜石	2
	敲石	5a	26.9×33.8×17.6	17.15	−					安山岩	11
	F	5b	19.7× 8.6× 3.8	0.48	線	I				黒曜石	18
38-152	局部磨製石斧	6	51.4×42.1×16.5	40.83	−					砂岩	7
36-134	RF	7	47.1×39.8×11.8	23.34	平	II,IV	R,LH			凝灰岩	1
	F	8	17.1×15.9× 5.6	1.22	剝	I,II,IV				黒曜石	3
	UF	9	37.8×52.8×12.2	25.75	自	I				流紋岩	1
	F	10	16.2×17.7× 5.6	1.22	欠	II,III			H	黒曜石	3
	UF	11	19.5×17.2× 4.7	1.37	平	I				黒曜石	3
	F	6R-62-3	12.3× 7.4× 5.8	0.53	平	I,IV				黒曜石	18
	F	4	29.5×15.2× 7.9	2.53	自	I,IV				安山岩	6
33-111	UF	5	29.2×21.3× 5.0	2.84	自	I,II,IV				頁岩	19
	F	6	15.1×21.0× 3.9	1.56	自	I				安山岩	6
35-129	石核	7	50.4×27.3×17.4	24.24	−					安山岩	7
34-125	F	8	39.1×46.3× 9.6	12.87	平	I				流紋岩	1
	石核	9	43.6×29.2×12.2	17.82	−					安山岩	6
37-149	F	10	37.7×17.1× 6.9	2.88	−					黒曜石	6
	F	11	12.4× 7.8× 4.8	0.29	点	I,III				黒曜石	6
	F	12	16.4×13.7× 5.4	0.86	欠	I			R,H	黒曜石	3
	CH	14	7.8×13.0× 2.0	0.18	自					安山岩	8
	CH	15	10.5×12.7× 3.9	0.47	欠				H	頁岩	55
	CH	16	12.0×10.1× 2.0	0.24	平	II				頁岩	8
	UF	17	34.7×39.0×15.5	12.61	剝	I,IV				頁岩	16
	F	18	10.3×11.6× 2.8	0.49	平	I				頁岩	52
	F	19	21.4×10.3× 3.4	0.66	平	I				黒曜石	3
	F	20	13.6×14.8× 4.0	0.78	剝	I,IV				黒曜石	7
	F	21	11.6×17.4× 5.8	0.99	平	I			R	頁岩	16
	F	22	17.0×16.0× 4.3	0.95	欠	I			H	安山岩	7
37-142	F	23	14.5×21.2× 5.8	1.52	−					黒曜石	2

第7表　第1文化層集中4　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-62-24	18.2×10.9× 6.9	0.77	欠	I			H	頁岩	11
37-147	UF	25	26.8×18.4× 4.9	1.83	平	I,II				黒曜石	8
	F	26	10.0× 6.0× 3.2	0.20	平	I			B	黒曜石	3
	F	27	17.4×11.1× 5.3	0.64	−					黒曜石	10
	ナイフ形石器	6R-63-2	36.6×16.7× 6.0	2.88	−					黒曜石	3
	F	3	7.6×14.2× 2.5	0.23	線	I				安山岩	20
	F	4	19.5× 8.3× 2.3	0.31	欠	I,II			H	頁岩	55
	台形石器	5	12.7×11.5× 2.4	0.28	欠	II		H	H	黒曜石	3
	石核	6	34.1×18.0×16.2	7.26	−					黒曜石	2
	CH	7	3.4× 4.9× 1.2	0.04	線	I				黒曜石	8
	CH	8	11.6× 4.0× 1.4	0.08	点	I			R	黒曜石	8
	F	9	15.7× 7.2× 4.6	0.31	線	I				黒曜石	2
32-103	楔形石器	10	30.9×21.6×14.0	10.41	自	I,II,IV				頁岩	10
32-103	楔形石器	11	46.9×32.0×11.1	15.43	平	I,II,IV				頁岩	10
	F	12	27.1×18.1×11.0	3.91	剝	I,II				流紋岩	1
	F	13	6.9×17.0× 6.6	0.62	欠	I			H	黒曜石	1
	F	14	18.5×32.3× 4.8	2.96	平	I,III				チャート	1
	CH	15	4.3× 3.3× 0.6	0.02	点	II				黒曜石	15
	F	16	9.4×15.0× 2.0	0.26	線	I				チャート	11
	F	21	16.2×12.0× 4.1	0.70	平	I,IV				黒曜石	2
	F	22	11.7×12.4× 6.9	0.90	平	I,III				黒曜石	2
	F	23	28.8× 7.3×12.3	2.72	平	I				安山岩	4
	F	26	16.0× 7.3× 3.1	0.41	平	II				黒曜石	18
	F	27	15.3×11.4× 2.4	0.53	線	I,II,III				黒曜石	18
	F	6R-64-4	17.0×20.8× 4.0	1.36	平	I				チャート	4
	F	5	19.9×13.9× 7.4	1.90	線	I,III				頁岩	24
	F	7	9.1×15.2× 2.1	0.25	剝	I,III,IV				チャート	3
	F	8	30.5×18.9× 9.8	4.83	欠	I,II			H	チャート	4
	F	9	12.5×19.8× 4.9	1.14	剝	I,II				頁岩	20
	F	10	15.3×19.4× 3.3	0.74	平	I				頁岩	48
32-101	ピエスエスキューユ	11	38.4×33.5× 9.1	11.46	−					頁岩	24
34-119	鋸歯縁石器	12	26.5×19.1×11.2	6.45	−					チャート	9
	F	13	18.7×17.9× 6.2	1.61	点	I,II				頁岩	49
	F	15	30.8×17.0× 6.4	2.96	点	I				黒曜石	1
36-133	F	16	54.5×45.2×22.5	42.70	平	I,III				砂岩	3
35-131	F	17	35.7×31.0× 9.6	9.37	自	I,II				安山岩	12
	UF	18	33.1×27.0× 6.6	4.67	平	I				頁岩	47
	CH	19a	12.1× 4.8× 3.4	0.15	点	I				安山岩	20
	F	19b	16.7× 7.7× 4.0	0.63	剝	I				安山岩	20
	F	20	31.3×20.9× 9.0	5.66	平	I,IV				チャート	1
	F	21	13.5×16.5× 4.6	1.13	平					流紋岩	4
	F	22	29.4×27.6× 7.5	3.39	線	I,IV				頁岩	7
	CH	23	7.7× 4.1× 3.0	0.26	欠	IV				黒曜石	18
	UF	24	18.7×19.3× 8.7	2.37	点	I		B		チャート	4
	F	25	15.6× 6.6× 2.8	0.27	線	I				頁岩	23
	F	26	48.2×49.6×15.1	31.85	自	II,III,IV			R	安山岩	3
	F	27	19.1×12.6× 3.2	0.66	線	I				頁岩	23
	F	28	14.4×17.0× 6.3	1.32	平	I,II				チャート	4
	CH	30	3.6× 2.3× 0.1	10.01	欠	I			H	凝灰岩	4
	F	31	15.8×13.4× 3.5	0.58	欠	I,II,IV			H	頁岩	8
	F	32	16.7× 7.5× 5.3	0.64	平	I				頁岩	2
24-65	ナイフ形石器	33	15.4×11.3× 6.4	0.93	−				H～M	頁岩	56
71-199	R・UF	34	32.9× 8.0× 4.2	1.25	平	I			R	頁岩	48
	F	35	18.5×18.0×13.1	4.25	平	I,IV				チャート	1
	CH	36	11.7× 7.3× 2.2	0.25	平	IV				頁岩	19
	CH	37	5.8× 3.2× 1.7	0.03	欠	I				黒曜石	8
	石核	38	27.1×25.1×13.4	12.06	−					チャート	13
	F	39	18.0×13.2× 4.0	1.05	−	I,IV		R,M		頁岩	51
	F	40	18.2×12.8× 7.2	1.60	剝	I				チャート	2
34-122	石刃	41	41.0×26.2×11.3	10.36	平	I,IV				チャート	1
	F	42	24.2×41.3× 5.6	5.25	剝	I				砂岩	4
36-134	F	43	42.8×40.5×19.1	34.56	平	I,II				砂岩	3
	CH	44	10.5× 5.1× 8.0	0.46	自	I				安山岩	20
	F	45	16.7×11.7× 7.8	1.33	欠	I,IV				チャート	2
39-153	敲石	46	89.7×60.2×51.5	322.25	−					安山岩	18
36-136	礫器	47	114.8×93.4×88.8	1090.20	−					石英斑岩	1
	F	48	13.8× 9.8× 1.0	0.13	線	I				頁岩	23
	F	49	13.3×10.0× 1.6	0.24	線	I				頁岩	23
	CH	50	8.7×10.2× 2.9	0.25	欠	I			H	安山岩	20

第7表　第1文化層集中　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	UF	6R-64-51a	23.0×22.1× 4.2	1.54	平	I,IV				頁岩	46
34-121	F	51b	24.9×10.3× 3.1	1.24	−					チャート	4
	F	52	16.7×18.3× 6.9	2.89	線	I				安山岩	20
34-120	F	53	31.9×32.0× 8.0	8.31	平	I				チャート	1
	CH	6R-65-1	7.6×11.8× 7.8	0.63	欠	I			H	頁岩	7
	F	2	23.0×23.7× 5.8	2.71	−	I,IV				砂岩	4
	F	7	36.3×24.5×11.3	10.96	平	I				頁岩	31
33-110	F	6R-70-3	45.9×69.5×11.6	19.99	−	I				頁岩	28
	円礫	4	37.7×21.0×19.9	24.46	−					頁岩	53
	CH	5	9.8× 6.7× 1.7	0.14	線	I				安山岩	20
	F	6	14.4×18.6× 2.1	0.59	点	I			LH	チャート	10
	F	8	22.4×16.6× 5.5	1.93	平	I				安山岩	13
33-112	UF	9	54.5×35.2×14.9	23.84	自	I		L,RB		頁岩	25
31-100	UF	10	61.5×29.4×14.3	20.97	平	I				頁岩	17
	F	11	18.6×29.6× 7.3	3.88	剝	I,III,IV				黒曜石	4
	石核	6R-71-1	30.1×29.4×13.1	11.13	−					頁岩	30
35-130	側削器・石核	6R-72-1	29.4×30.8×10.6	11.66	平	II				安山岩	8
	F	2	18.7×34.1× 7.3	4.92	欠	I			H	安山岩	6
	F	3	39.8×15.9× 8.6	3.75	欠	I			H	安山岩	7
	F	4	23.9×16.2× 7.1	2.50	平	I				安山岩	8
	F	5	29.5×19.2×10.3	4.11	点	I,II				流紋岩	1
	F	6	23.7×15.0× 5.5	2.17	平	IV				流紋岩	1
31-95	石器もしくは鋸歯状の削器	8	44.8×33.0×15.9	23.74	−					頁岩	27
	F	9	31.0×11.7× 7.3	1.99	平	I				安山岩	8
	F	10	26.1×31.1×14.1	8.92	自	I,IV				安山岩	8
	F	11	27.5×22.6× 7.8	3.97	平	I				流紋岩	1
	CH	12	10.8× 9.8× 3.8	0.41	点	I				安山岩	8
	CH	13	8.9× 4.7× 2.9	0.13	平	I				黒曜石	2
	F	14	26.1×21.1×11.3	3.75	平	I				頁岩	7
	F	15	30.0×26.9×10.5	8.15	平	I,IV				頁岩	50
33-118	F	16	30.5×30.4×10.5	6.84	平	I,IV		LB		頁岩	9
	F	6R-73-1	13.7×10.2× 3.8	0.44	自	I				頁岩	55
35-132	F	2	50.2×37.5× 9.2	16.73	剝	I				安山岩	5
	F	3	26.5×19.2× 7.9	3.09	欠	I,III			H	メノウ	1
	F	4	23.0×18.1× 7.1	1.68	欠	I			H～M	安山岩	5
31-97	F	5	17.5×30.5× 8.7	3.85	欠	I	L,R			頁岩	33
33-114	UF	6	19.6×26.6× 5.1	2.37	平	I,IV				頁岩	9
	F	7	22.6×19.2× 8.4	1.57	剝	I				頁岩	11
	F	8	23.5×34.2× 8.6	4.48	剝	I,III				頁岩	13
	F	9	19.7× 8.6× 3.8	0.30	欠	I			H～M	頁岩	11
	F	10	30.4×10.8×13.9	6.08	欠	I			H～M	安山岩	7
	F	11	21.2×30.5× 3.7	2.36	平	I				黒曜石	17
	F	12	16.2×11.5× 3.1	0.56	点	I,IV				黒曜石	2
	F	13	24.0×20.8× 3.7	2.15	平	II				安山岩	15
	楔形石器	14	13.0×14.0× 6.1	1.02	−					黒曜石	2
	CH	15	8.8×10.6× 1.4	1.08	線	I				安山岩	20
37-150	F	16	15.9× 9.7× 4.6	0.69	−					黒曜石	18
	F	17	14.9× 7.1× 4.0	0.50	欠	J,IV				頁岩	11
	F	18	34.0×21.4×12.6	11.77	平	I			B	頁岩	18
	F	19	13.9× 7.5× 3.2	0.40	線	I,II				頁岩	17
	F	20	20.1×14.6× 5.9	1.41	平	IV				頁岩	18
	CH	21	6.3×10.2×11.5	0.46	欠				H	安山岩	8
32-104	楔形石器	22	26.6×20.7×12.1	6.60	−					頁岩	14
	F	23	29.2× 9.1× 2.1	0.59	欠	IV			H～M	黒曜石	1
	UF	24	24.2×26.7× 6.5	4.39	−	I		LB		頁岩	11
	F	25	18.3×22.7× 5.0	2.29	自	I			R	安山岩	14
	F	26	19.9×23.1× 4.5	2.9	自	I			LB	安山岩	7
	F	27	18.3×36.7× 7.9	5.88	自	IV				安山岩	6
	UF	28	27.1×27.6× 7.9	6.14	平			B		チャート	7
	F	29	32.5×22.5×10.1	5.76	欠	I			H	安山岩	6
	F	30	35.6×15.6× 6.8	3.13	欠	I			H	安山岩	6
	F	31	23.4×27.5×12.2	6.27	平	I,III			B	黒曜石	2
	CH	32	6.4× 9.7× 2.6	0.21	平	I				安山岩	20
	石核	33	36.6×28.4×24.7	21.19	−					頁岩	22
	石核	34	41.1×27.9×17.2	20.89	−					頁岩	18
32-102	U・F	6R-74-2	20.4×13.4× 3.9	0.90	欠	I,II			H	頁岩	35
	F	3	18.9×31.5×32.2	7.16	平	I,II,IV				頁岩	40
32-102	削器	4	29.7×44.2× 9.0	9.01	平	I	R,B			頁岩	35

第7表　第1文化層集中4　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-74-5	21.2×15.8× 4.2	0.83	線	II,IV				頁岩	7
	F	6	12.2×14.4× 4.3	0.58	平	I,IV				頁岩	7
	F	7	24.9×19.3× 7.7	2.38	平	I,IV				頁岩	7
	F	8	16.1× 7.7× 1.7	0.34	点	I				チャート	8
	CH	9	12.1× 9.0× 3.7	0.33	点	I,II				頁岩	14
	F	10	12.6× 8.2× 4.8	0.64	平	I				頁岩	7
	F	11	14.5×21.5× 4.6	1.59	平	I				安山岩	9
	F	12	30.0×16.2× 8.4	3.27	平	I,II				チャート	6
	F	13	25.0×48.6× 9.7	11.83	自	I				チャート	8
	F	14	18.7×13.8× 6.6	1.26	欠	I			H	安山岩	9
	石核	15	28.8×23.5×13.5	9.16	−					安山岩	16
	F	16	44.5×47.6×12.2	25.20	剝	I,II,IV				頁岩	7
31-99	CH	17	13.0× 7.2× 2.4	0.31	点	IV				頁岩	23
	UF	18	32.5×27.6× 6.4	7.15	平	I,IV		R		頁岩	23
	F	19a	26.5×14.5× 8.3	2.64	自	I,II,III				頁岩	5
	F	19b	15.6×13.4× 3.4	0.96	欠	I,II,III			H	頁岩	5
	F	20	21.6×16.0× 5.1	1.44	欠	II,IV			H	頁岩	11
34-124	F	21	48.3×55.5×12.9	25.06	剝	I,II		L,B	B	流紋岩	2
	F	22	19.5×11.0× 3.0	0.42	点	I				頁岩	5
33-109	F	23	36.8×27.2×11.5	9.38	平	I				頁岩	2
	CH	24	7.7× 8.0× 1.2	0.09	平	I				チャート	6
	F	25	26.6×36.2× 9.1	10.60	自					頁岩	32
	F	26	20.0×26.6× 3.7	1.75	平	I,II				頁岩	7
	F	27	54.0×29.5×17.2	21.16	点	I,II,III				頁岩	7
	F	28	36.5×39.1×11.4	13.20	平	I				頁岩	7
	F	29	25.5×22.0×15.7	7.21	欠	II,IV				頁岩	7
	RF	30	15.2×23.0× 5.7	2.21	欠	I,II	H			頁岩	23
	F	6R-81-1	24.3×21.2× 6.7	3.82	平	I			M～B	黒曜石	10
	UF	6R-82-3	26.2×26.8× 5.8	2.86	−					頁岩	13
31-96	石核＋F	4	14.0×21.0× 9.3	2.16	平					頁岩	29
	F	5	16.7×10.5× 5.4	0.86	平	I,II				安山岩	6
	石核	6	36.2×37.4×18.9	24.35	−					頁岩	29
32-105	楔形石器	6R-83-1	33.5×16.2× 7.2	3.55	−					頁岩	41
	F	2	18.5×20.3× 5.3	1.95	−	I				頁岩	39
31-94	RF	3	29.6×25.4× 7.8	4.22	−					頁岩	42
	台形石器	4	30.3×15.5× 4.6	1.95	−					頁岩	4
	CH	5	9.0×10.9× 1.7	0.18	−	I			H	安山岩	20
	F	6	22.5×25.0× 6.7	3.33	−	I,II				安山岩	5
	敲石	7	72.5×56.6×26.1	120.89	−					砂岩	1
	F	8	16.4×20.2× 7.7	2.26	平	I				頁岩	6
	F	9	32.8×14.6× 5.3	2.32	平	I		RM,LM		頁岩	6
	F	10	42.8×25.2× 7.9	9.09	平	I,IV				頁岩	6
	F	11	30.2×22.7× 7.3	4.25	平	I				安山岩	4
	F	12	26.2×15.0× 2.9	0.82	欠	I,IV			H	頁岩	6
	F	13	33.3×12.0× 3.5	1.43	平	I				安山岩	10
	F	14	24.9×20.2× 3.4	1.54	線	I				頁岩	6
	F	15	42.3×46.4×11.3	21.67	自	III				チャート	14
	F	16	20.5×24.6× 4.9	2.66	自	I,III				頁岩	6
	F	17	20.1× 5.4× 2.5	0.28	欠				H～M	頁岩	6
33-115	石核	18	39.5×52.5×18.5	23.35	−					頁岩	6
	F	19	16.8×25.1× 8.1	2.69	剝	I				頁岩	11
	F	20	15.0×11.3× 2.3	0.34	平	I,II				頁岩	14
	F	21	41.8×33.3×16.8	19.82	平	I,II				頁岩	43
34-126	CH	22	7.6× 7.0× 6.3	0.42	平	IV				頁岩	15
	F	23	13.2×15.6× 8.2	1.91	欠	II			H～M	頁岩	15
39-154	円礫	24	92.7×54.2×18.7	128.01	−					安山岩	19
	F	25	16.2× 8.5× 9.4	1.86	−				H	頁岩	15
	RF	26	8.8×24.9×27.5	7.95	欠	I	L		H	安山岩	8
34-126	F	27	43.2×29.3×10.9	11.19	平	I,II		L		流紋岩	3
	F	28	40.4×13.3× 7.7	3.98	平	I			M～B	流紋岩	3
	F	29	37.1×43.4×14.9	13.01	剝	II		B		頁岩	6
34-123	UF	30	57.0×51.2×16.4	41.85	自	II		RM		チャート	12
	円礫	31	60.2×42.1×17.1	66.30	−					石英	2
	円礫	32	55.4×39.2×22.8	60.76	−					砂岩	5
	F	33	15.4×10.3× 7.0	1.00	自	I				頁岩	15
	UF	34	25.3×25.6× 6.2	3.14	平	II,IV		LH		黒曜石	13
	CH	35	12.9× 8.0× 3.8	0.41	欠	I			H	頁岩	13
	F	36	40.2×35.8×10.8	15.12	平	I,II				頁岩	13
	F	37	13.4× 9.8× 4.7	0.52	平	IV			H	黒曜石	3

第７表　第１文化層集中４　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	F	6R-83-38	18.0×11.1× 5.5	1.18	平	Ⅰ,Ⅳ				頁岩	6
	UF	39	36.2×49.1×15.2	19.54	平	Ⅰ		RB		安山岩	10
	F	40	17.4×16.0× 4.8	1.19	自					輝石安山岩	1
	CH	41	9.0×12.1× 2.8	0.30	平	Ⅰ				頁岩	55
	F	6R-84-3	34.7×31.3×10.4	9.08	平	Ⅰ				頁岩	6
38-151	局部磨製石斧	6R-90-3	120.7×47.7×27.0	193.87	－					砂岩	8
	UF	4	20.5×20.0× 4.8	1.53	点	Ⅰ,Ⅳ		B		頁岩	23
	F	5	20.2×13.3× 5.5	1.26	平	Ⅰ				頁岩	21
	CH	6	4.0× 6.8× 0.7	0.03	線	Ⅰ				黒曜石	9
	CH	7	4.5×10.2× 1.6	0.08	欠	Ⅰ			H	黒曜石	9
	CH	8	7.1× 4.4× 1.5	0.05	平	Ⅰ				黒曜石	9
37-137	ナイフ形石器	9	26.9×11.3× 5.3	1.38	－					黒曜石	7
33-108	石刃	10	27.7×12.4× 5.7	2.12	平	Ⅰ			L	頁岩	26
	F	11	49.3×30.0×21.5	11.22	線	Ⅰ,Ⅲ				黒曜石	14
	CH	12	6.6×11.3× 2.1	0.20	点	Ⅰ				黒曜石	15
	CH	13	4.7× 5.0× 1.7	0.07	線	Ⅰ				黒曜石	15
	F	14	16.8×13.2× 4.2	0.68	点	Ⅰ				黒曜石	11
	CH	15	6.6× 6.1× 1.9	0.08	欠	Ⅰ			H	黒曜石	18
	UF	16	14.9×11.0× 3.4	0.38	平	Ⅰ		R		黒曜石	8
	CH	17	8.1× 9.2× 1.2	0.11	線	Ⅰ				頁岩	22
37-139	ナイフ形石器	18	12.2× 6.7× 1.9	0.17	－					黒曜石	4
	CH	20	12.7× 9.3× 1.5	0.19	線	Ⅰ				黒曜石	9
	F	21	9.1×12.0× 2.0	0.24	欠	Ⅰ,Ⅳ				頁岩	20
	F	6R-91-1	28.6×15.4× 7.5	2.52	平	Ⅰ,Ⅲ			RH～RM	黒曜石	3
	UF	2	24.6×26.6× 6.5	3.54	平	Ⅰ,Ⅲ		L		黒曜石	2
	CH	3	3.9× 1.8× 0.5	0.01	欠	Ⅰ			H	黒曜石	8
	F	4	12.3×19.2× 3.2	0.74	欠	Ⅰ,Ⅱ			H,B	黒曜石	18
	F	5	12.7×10.8× 2.8	0.38	欠	Ⅰ			H,B	黒曜石	8
	F	6a	13.8×16.8× 4.7	1.19	－					黒曜石	2
	CH	6b	8.0× 9.0× 2.1	0.15	欠	Ⅰ			H	黒曜石	2
	F	6R-92-1	23.2×38.0×11.1	8.63	平	Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ				安山岩	17
	F	2	30.2×23.1× 9.2	4.98	平	Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ				頁岩	13
	F	3	50.9×26.2× 6.6	12.14	自	Ⅰ				チャート	5
	UF	4	30.2×20.7× 8.4	4.32	平	Ⅰ				頁岩	36
33-107	石刃	5	39.8×17.5× 6.7	4.56	線	Ⅰ,Ⅲ				頁岩	34
	F	6	44.5×30.5×19.5	22.45	自	Ⅰ				チャート	5
	F	6R-93-1	23.8×15.2× 3.4	1.41	自	Ⅰ				チャート	5
	RF	4	26.9×22.2× 6.4	1.95	平	Ⅰ				頁岩	7
37-141	UF	5S-09-3	19.9×26.6× 9.1	4.28	欠	Ⅲ			L	黒曜石	3
	F	6S-00-3	12.9×23.1× 4.4	1.25	線	Ⅰ			M～B	黒曜石	18
	F	4	20.8×14.2× 4.5	0.87	線	Ⅰ,Ⅱ			L	黒曜石	2
	円礫片	5	38.3×27.6×21.9	26.18	－					流紋岩	5
	F	6a	13.4×15.2× 3.7	0.61	平	Ⅰ,Ⅳ				黒曜石	8
	F	6b	11.4×10.2× 3.1	0.39	平	Ⅰ,Ⅳ				黒曜石	2
37-148	F	7	23.7×23.9× 6.5	2.93	点	Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ		B		黒曜石	3
	F	6S-01-1	8.7×11.4× 1.2	0.13	平	Ⅰ				黒曜石	8
	F	2	12.3×14.6× 2.2	0.45	平	Ⅰ				黒曜石	9
	CH	3	9.5× 9.7× 1.9	0.16	平	Ⅰ,Ⅳ				黒曜石	8
	F	4	12.6×18.1× 6.9	1.65	平	Ⅰ			M～B	黒曜石	1
	CH	5	11.7×11.9× 2.4	0.35	平	Ⅰ				黒曜石	8
	F	6	22.6×27.7×12.1	6.29	平	Ⅰ,Ⅲ				黒曜石	2
	RF	6S-02-3	15.0×16.9× 4.7	0.83	剝	Ⅰ				黒曜石	18
	F	4	15.0×12.3× 3.3	0.57	点	Ⅰ,Ⅲ				黒曜石	2
	F	5	13.4×20.9× 5.2	1.12	点	Ⅰ				黒曜石	3
37-143	石核	6	31.5×33.0×16.6	13.45	－					黒曜石	2
37-143	F	7	23.5×11.8× 6.3	1.54	平	Ⅰ				黒曜石	2
	CH	8	5.9× 6.8× 1.5	0.08	平	Ⅰ				黒曜石	18

第8表　第1文化層集中4石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート	1																		1	5		6	34.90
	2																			2		2	2.93
	3																			1		1	0.25
	4													1						4		5	11.12
	5																			3		3	36.00
	6																			2		2	3.36
	7													1								1	6.14
	8																			2		2	12.17
	9									1												1	6.45
	10																			1		1	0.59
	11																			1		1	0.26
	12													1								1	41.85
	13	1																				1	12.06
	14																			1		1	21.67
	15																			3		3	0.30
頁岩	1													1						3		4	20.58
	2													1						3		4	20.74
	3	2																		1		3	188.18
	4					1														1		2	3.35
	5																			3		3	4.02
	6	1																		11		12	65.85
	7												1							12		13	82.67
	8																			3		3	1.85
	9													2								2	9.21
	10				2																	2	25.84
	11													2						5		7	11.66
	12																				6	6	115.74
	13													1							4	5	27.85
	14				1															2		3	7.27
	15																			4		4	5.19
	16													1						1		2	13.60
	17													1						1		2	21.37
	18	1																		2		3	34.07
	19													1						2		3	3.33
	20																			2		2	1.38
	21																			2		2	2.25
	22	1																		1		2	21.30
	23													2						6		8	12.50
	24				1															1		2	13.36
	25													1								1	23.84
	26																		1			1	2.12
	27						1															1	23.74
	28																			1		1	19.99
	29	2																				2	26.51
	30	1																				1	11.13
	31																			1		1	10.96
	32																			1		1	10.60
	33																			1		1	3.85
	34																		1			1	4.56
	35						1							1								2	9.91
	36													1								1	4.32
	37																			1		1	1.89
	38																			1		1	2.66
	39																			1		1	1.95
	40																			1		1	7.16
	41				1																	1	3.55
	42												1									1	4.22
	43																			1		1	19.82
	44																			1		1	10.74
	45							1														1	4.51
	46													1								1	1.54
	47													1								1	4.67
	48												1							1		2	1.99
	49																			1		1	1.61
	50																			1		1	8.15

第8表　第1文化層集中4石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
	51																			1		1	1.05
	52																			1		1	0.49
	53																				1	1	24.46
	54																				1	1	13.20
	55																			5		5	1.72
	56			1																		1	0.93
	57																			1		1	8.02
安山岩	1																			5		5	14.15
	2	1																		4		5	1.72
	3																			4		4	49.80
	4																			2		2	6.97
	5																			3		3	21.74
	6	1																		8		9	42.46
	7	1																		4		5	37.92
	8						1						1							6		8	34.07
	9																			2		2	2.85
	10													1						1		2	20.97
	11											1										1	17.15
	12																			1		1	9.37
	13																			1		1	1.93
	14																			1		1	2.29
	15																			1		1	2.15
	16	1																				1	9.16
	17																			1		1	8.63
	18											1										1	128.01
	19																				1	1	9.65
	20																			17		17	43.54
	21								1													1	13.54
黒曜石	1																			6		6	7.07
	2	3			2									4						22		31	78.95
	3	1		2		1							1	1						15		21	35.70
	4			1																1		2	4.05
	5																			1		1	4.84
	6	2																		9		11	25.52
	7			1									1							2		4	2.64
	8												2							15		17	5.79
	9																			5		5	0.80
	10																			4		4	4.79
	11																			1		1	0.68
	12																			1		1	1.52
	13													1						1		2	5.43
	14																			1		1	11.22
	15																			5		5	0.58
	16																			1		1	1.91
	17																			1		1	2.36
	18												1							14		15	8.03
メノウ	1																			1		1	3.09
流紋岩	1																			6		6	52.78
	2																			1		1	25.06
	3																			2		2	15.17
	4																			1		1	1.13
	5																				1	1	26.18
凝灰岩	1												1									1	23.34
	2																				1	1	0.52
	3											1										1	11.65
	4																				1	1	0.01
砂岩	1											1										1	120.89
	2											2										2	6.55
	3											2										2	77.26
	4																			2		2	7.76
	5																				1	1	60.76
	6																				1	1	50.90
	7		1																			1	40.83
	8		1																			1	19387.00
石英	1										1											1	1090.20
	2																				1	1	66.30
輝石安山岩	1																				1	1	1.19
総計		19	2	5	7	2	3	1	1	1	1	8	10	27	0	0	0	0	3	291	20	401	4040.10
%		4.7	0.5	1.3	1.8	0.5	0.8	0.2	0.2	0.2	0.2	2	2.5	6.7	0	0	0	0	0.8	72.6	5	100	

（5）　集中5（第44～47図　第9、10表　図版4）

位　置

第1調査区の舌状台地の基部の台地平坦部に位置する。6R—00グリッドを中心とした東西7m、南北7mほどの範囲に分布する。

遺物分布状況

集中5の遺物は合計27点である。6R—00グリッドから6Q—90グリッドにかかる2m×2mほどの範囲に分布の中心があるが、全体に散漫な分布状況を示す。セクション投影図ではIX層下部からX層にかけての出土となっている。

母岩別分布

6Q—90に頁岩1、頁岩3及び黒曜石1がまとまって出土しているほかは散漫な分布を示す。接合関係では隣接して出土した頁岩3の剝片が1点接合した。

石　材

頁岩5種17点、チャート3種3点、メノウ2種2点、黒曜石1種3点、安山岩1種1点、凝灰岩1種1点の計27点で構成される。集中内での接合資料は1点である。頁岩1は暗い灰色のもの、5は灰白色の地に褐色、灰色の鉱物を混入するものなどがある。メノウ1は透明感のある乳白色で部分的に黄白色がかった不純物層が混入するもの、2は乳白色の地にピンクがかった不純物が混入するものものである。黒曜石1は透明感のある不純物をほとんど含まないものである。凝灰岩1は乳白色で褐色の鉱物が点在するものである。

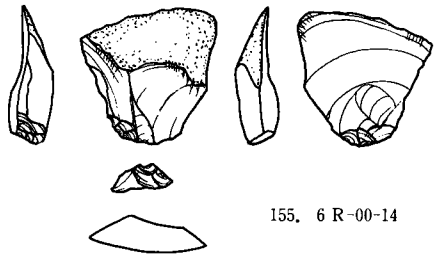
器　種（第10表）

メノウの石核1点、楔形石器1点、使用痕のある剝片3点、剝片・砕片21点が含まれる。

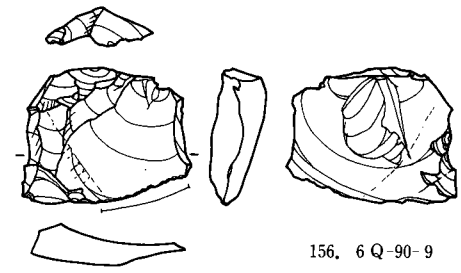
集中5の石器（第44図　図版24）

(a)　頁岩、チャート、メノウの石器

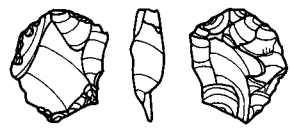
155～160は頁岩製の石器である。155は使用痕つき剝片である。156も使用痕つき剝片である。157は楔形石器である。158は剝片で、背面右側縁に微細剝離痕が認められる。159は石刃である。160は背面を礫面におおわれた小型の剝片である。161はチャート製の小型剝片である。162はメノウの角礫を素材とする小型石核である。



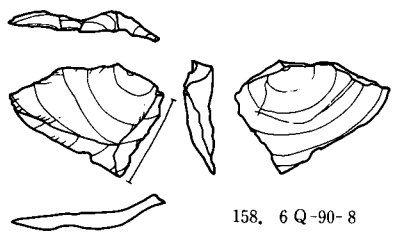
155. 6 R-00-14



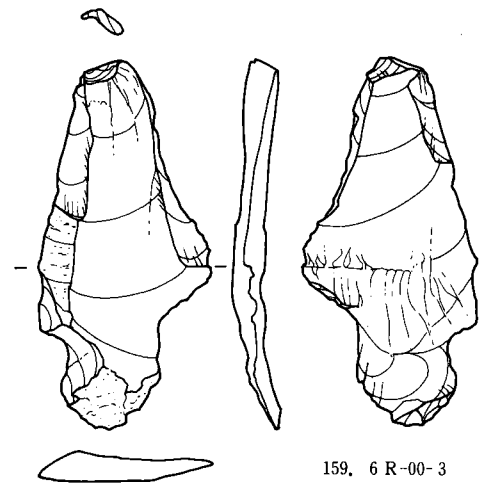
156. 6 Q-90-9



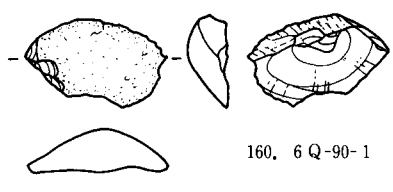
157. 6 R-00-8



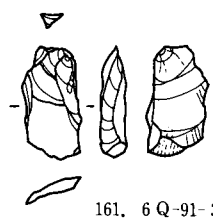
158. 6 Q-90-8



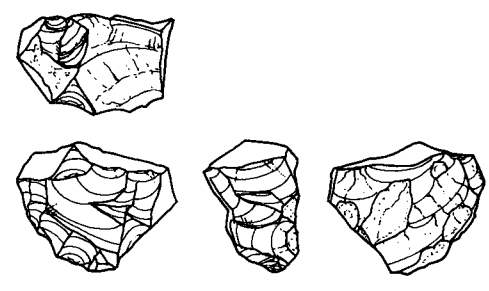
159. 6 R-00-3



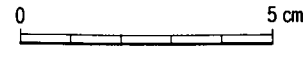
160. 6 Q-90-1



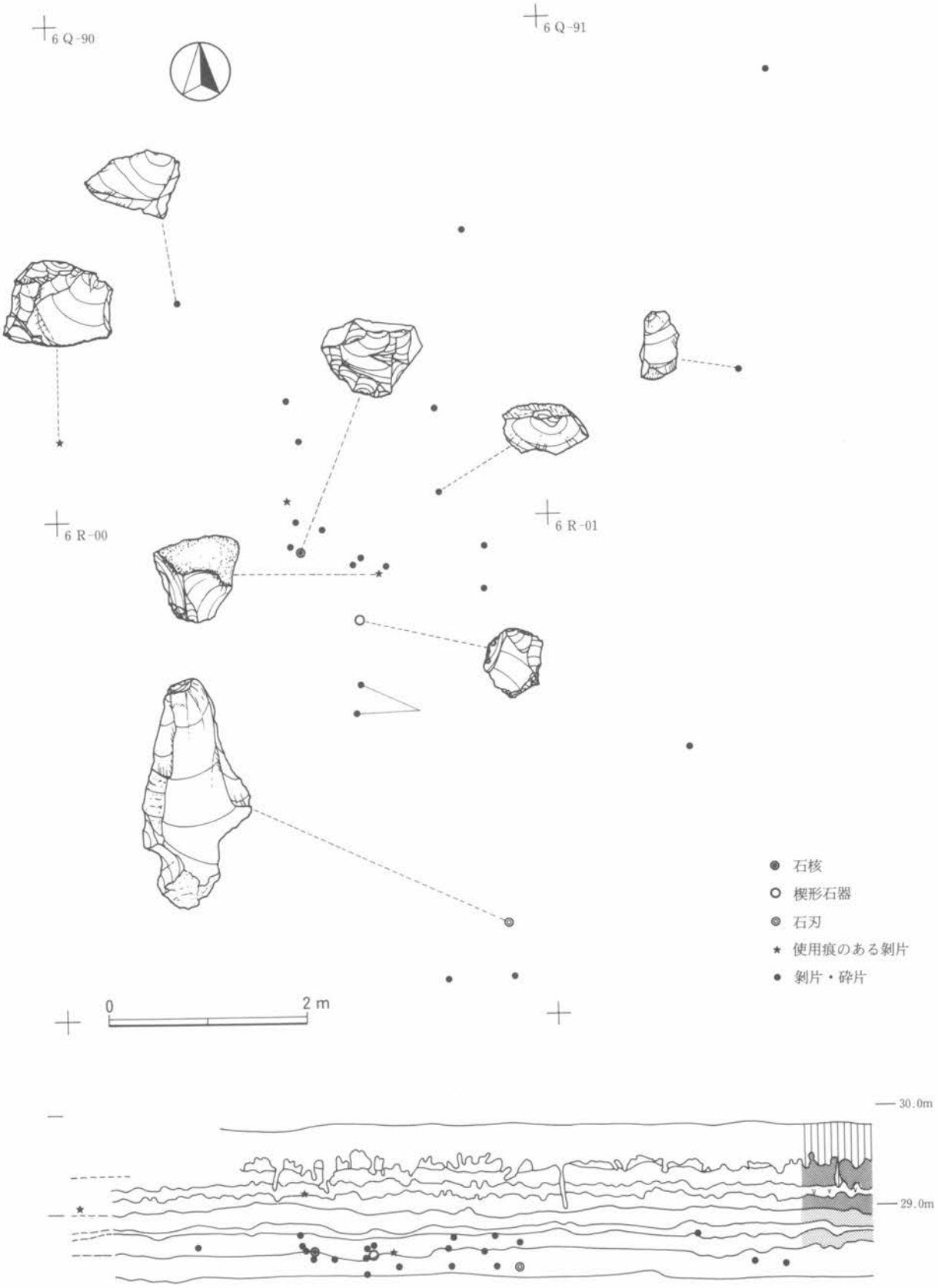
161. 6 Q-91-3



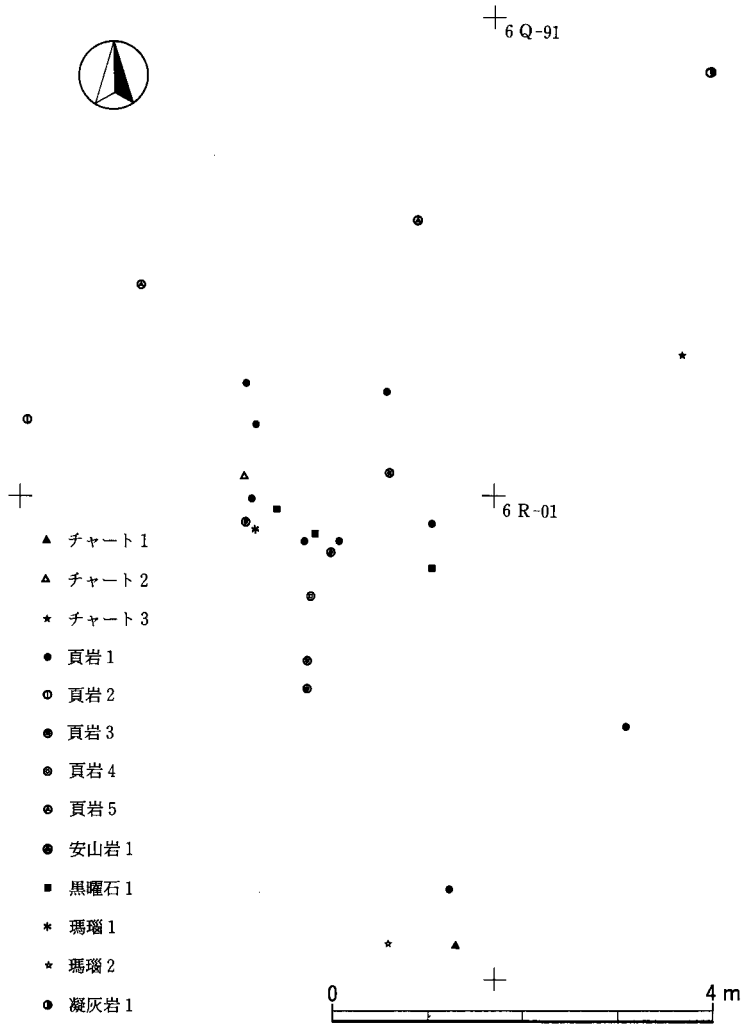
162. 6 R-00-12



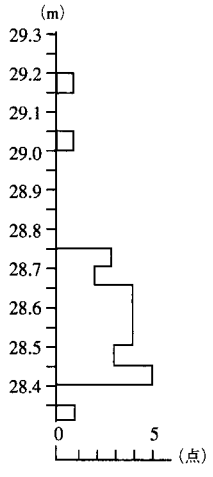
第44図　第１文化層集中５　出土石器（２／３）



第45図　第１文化層集中５　器種別分布（１／60）



第46図　第１文化層集中５　母岩別分布（１／80）



第47図　第１文化層集中５
遺物垂直分布図

第9表　第1文化層集中5　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
43-160	F	6Q-90-1	24.0×21.9× 8.3	3.43	節					頁岩	3
	UF	6Q-90-2	13.2× 7.6× 1.0	0.13	線	I,II				チャート	2
	F	4	10.8× 7.0× 3.3	0.23	平	I				頁岩	1
	F	6	25.4×17.8× 4.1	1.48	欠	I,II,IV			H	安山岩	1
	F	7	5.7×12.9× 1.6	0.14	点	I,II				頁岩	1
43-158	F	8	21.9×30.5× 5.3	2.16	剝					頁岩	5
43-156	UF	9	27.3×33.6× 9.0	7.83	剝	I,II,III	L,B	B		頁岩	2
	F	10	11.0×12.5× 3.5	0.40	節	I				頁岩	1
	ナイフ形石器	6Q-91-1	68.9×19.8× 8.0	10.07	−		L,RB			頁岩	1
	F	6Q-91-2	19.6×16.2× 9.0	1.72	自	II			R	凝灰岩	1
43-161	F	3	21.0×11.6× 4.8	1.15	平	I,IV				チャート	3
	F	6R-00-2	14.9×18.7× 6.0	1.11	平	I				チャート	1
43-159	石刃	3	70.0×37.5× 9.9	13.49	平	I,IV				頁岩	1
	F	4	8.2×14.7× 5.5	0.47	平					メノウ	2
	F	5	8.0× 8.1× 2.1	0.07	線	I		L		黒曜石	1
	CH	6	9.6× 9.8× 3.6	0.30	点	I,II				頁岩	1
	F	7	8.4× 9.4× 2.4	0.12	線	I		B	B	黒曜石	1
43-157	楔形石器	8	20.6×21.2× 7.7	2.27	−					頁岩	4
	F	9	17.0×17.9× 6.4	1.43	平	I,II				頁岩	3
	F	10	16.1×18.0×12.8	0.50	欠	I			H	頁岩	3
	F	11	7.5×11.5× 2.3	0.16	欠	I			H	頁岩	1
43-162	石核	12	25.4×32.4×18.0	14.42	−					メノウ	1
	F	13	19.1×10.7× 3.8	0.30	線	I,III				黒曜石	1
43-155	U・F	14	27.8×27.9× 8.1	4.77	平	I,II				頁岩	3
	F	15	8.8×21.4× 8.1	1.64	自	I				頁岩	3
	F	16	13.0×15.5× 3.9	0.51	線	I				頁岩	1
	F	17	13.7×13.0× 4.3	0.38	平	I,IV				頁岩	1
	F	6R-01-2	10.6×16.6× 3.3	0.34	平	I				頁岩	1

第10表　第1文化層集中5石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1																			1		1	1.11
2													1								1	0.13
3																			1		1	1.15
頁岩 1																		1	8		9	15.95
2													1								1	7.83
3													1						4		5	11.77
4				1																	1	2.27
5																			1		1	2.16
安山岩 1																			1		1	1.48
黒曜石 1																			3		3	0.49
メノウ 1	1																				1	14.42
2																			1		1	0.47
凝灰岩 1																			1		1	1.72
総計	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	21	0	27	60.95
%	3.7	0	0	2.7	0	0	0	0	0	0	0	0	11.1	0	0	0	0	3.7	77.8	0	100	

（6）　集中6（第48～51図　第11、12表　図版4、5）

位　置

第1調査区の舌状台地の台地西側縁辺部の5R—57グリッドを中心に分布する。東西6m、南北7mほどの範囲に分布する。また、この集中からは5R—46、57グリッドで各1点ずつ砂岩製の垂飾様石製品が出土した。石材は安山岩を主体に黒曜石、チャートから構成される。

遺物分布状況

集中6では32点の遺物が検出され、そのうち5R—57を中心に安山岩1とした母岩から剥離した剥片21点がこの集中の主体となっている。このうち2点が接合した。垂直分布では約1m程のレベル差があるが、IX層下部から主に出土している。南西へなだらかに傾斜が始まる台地縁辺部での出土である。

母岩別分布

母岩別分布では安山岩1が5R—57グリッドを中心に3m×3mほどの範囲に集中している。接合関係も2個体に認められ、母岩消費が行われたことを窺わせる。他の母岩は安山岩2の分布にまとまりがみられる。

石　材

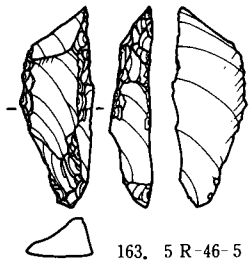
安山岩3種25点、砂岩2種2点、頁岩2種3点、黒曜石1種1点、メノウ1種1点の計32点で構成される。安山岩1は暗い灰色のもの、3は淡い灰色のものでいわゆるトロトロ石に近いものである。砂岩1は暗い灰色のもの、2は淡い褐色のものである。頁岩1は暗い色調の灰色のもの、2は淡い褐色と乳白色を混ぜたような色調で点状に褐色の鉱物を混入するものである。黒曜石1は灰色がかった不純物を均一に混入するものである。メノウ1は透明度の低い乳白色のものである。

器　種（第12表）

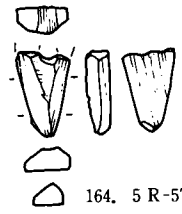
石核1点、垂飾様石製品2点、ナイフ形石器1点、台形石器1点、剥片・砕片27点で構成される。このうち頁岩2として分類した母岩から製作されたナイフ形石器が単体で1点集中の北西の隅から出土しているほか、後で詳述するが垂飾様石製品2点も約1mほど離れた位置出土した。

集中6の石器（第48図　図版25）

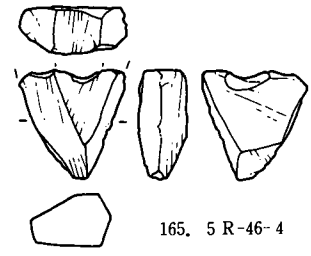
163は硬質頁岩製のナイフ形石器である。素材は縦長剥片で、二次加工は背面右側辺に急角度の刃汚しが、左側辺に細かな二次加工がある。基部にも細調整が認められる。164は垂飾様石製品である。上部を欠損しているため全体の形態は不明である。現存部は三角形の扁平な板状で、表面に研磨によるY字状の稜線がみられる。側面にも平滑な面取りがみられ、全面に亘って研磨されており擦過痕を留める。穿孔部と考えられる部分には平行で密な条線が残る。黒色に近い色調で安山岩製である。現存長16.91㎜、幅10.65㎜、厚さ4.83㎜、重さは0.7gである。165は164と比較してやや粗雑な作りであるが遺存部の形態や製作の手法は同一の特徴を示している。現在長22.55㎜、幅10.65㎜、厚さ4.83㎜を測り、重さは2.96gである。色調は赤褐色で砂岩製である。166は縦長剥片と小型の横長剥片を剥離する石核の接合資料である。黒色緻密安山岩である。167は頁岩の剥片、168は安山岩の剥片、169はチャートの剥片である。



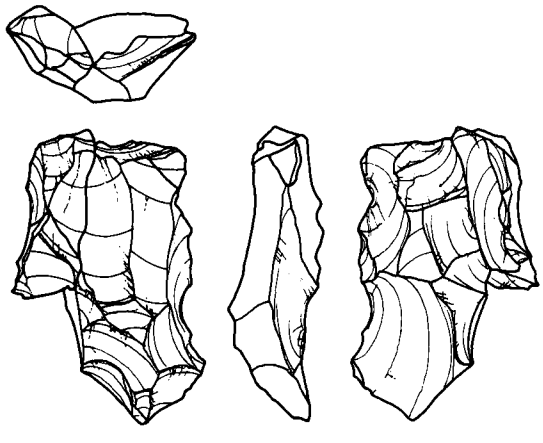
163. 5 R-46-5



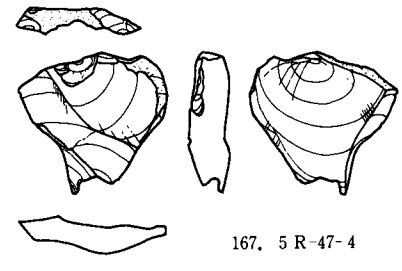
164. 5 R-57-8



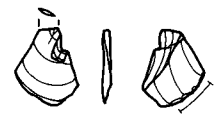
165. 5 R-46-4



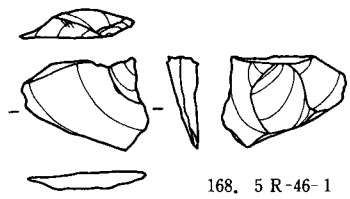
166. 5 R-57-3 a , 3 c , 4



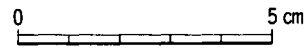
167. 5 R-47-4



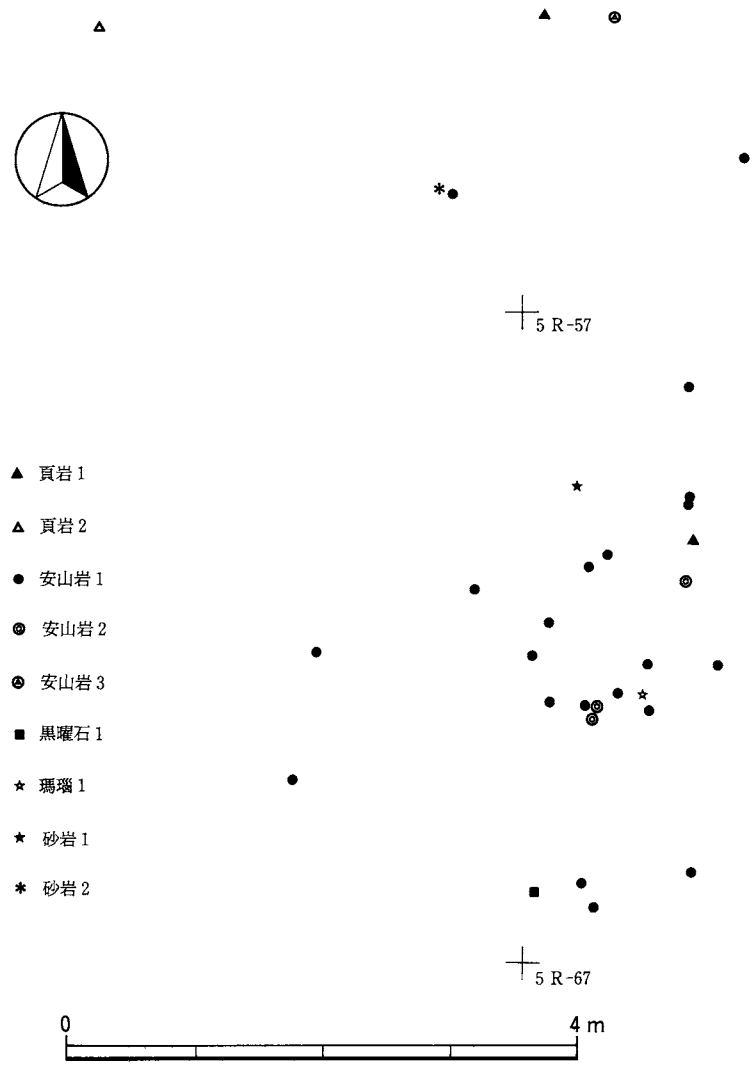
169. 5 R-57-16



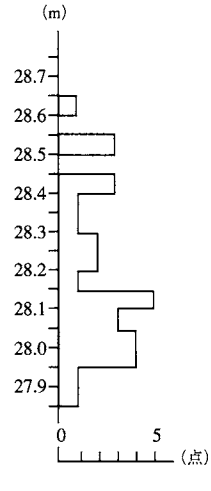
168. 5 R-46-1



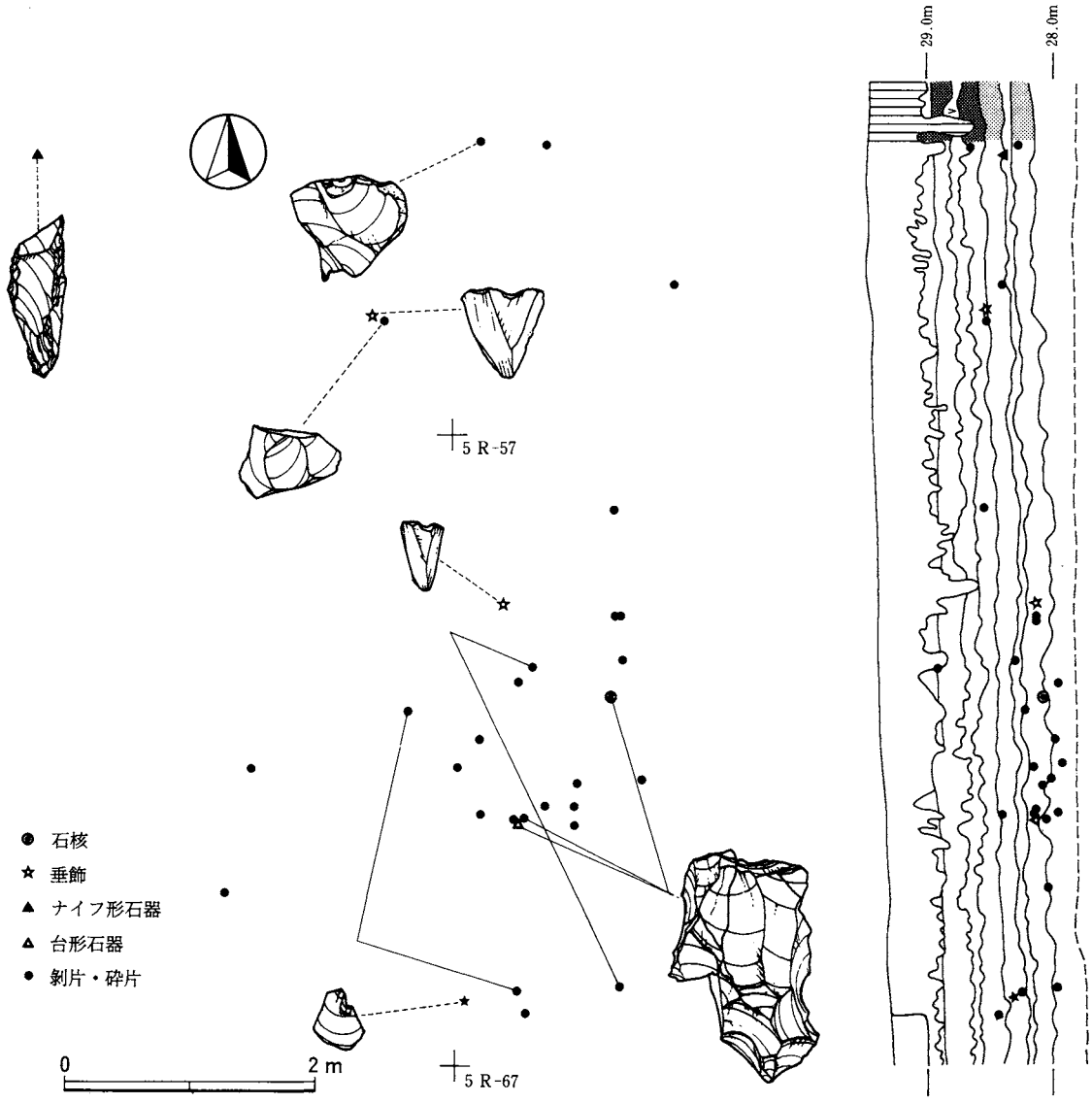
第48図　第１文化層集中６　出土石器（２／３）



第49図　第１文化層集中６　母岩別分布（１／60）



第50図　第１文化層集中６
遺物垂直分布図



第51図　第１文化層集中６　器種別分布（１／60）

第11表　第１文化層集中６　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
47-168	F	5R-46-1	17.6×23.0× 6.5	2.10	剝	Ⅰ,Ⅱ				安山岩	1
47-165	垂飾様石製品	4	22.6×20.8× 8.8	2.96	－					砂岩	2
47-163	ナイフ形石器	5	40.3×14.9× 8.7	3.55	－					頁岩	2
	CH	5R-47-1	6.9× 8.0× 3.1	0.12	平	Ⅰ				安山岩	1
	CH	3	8.1× 9.2× 3.8	0.31	自	Ⅰ,Ⅱ				安山岩	3
47-167	F	4	26.5×28.8× 7.4	5.87	自	Ⅰ,Ⅲ,Ⅳ				頁岩	1
	F	5R-56-1	13.8×16.4× 5.4	1.39	平	Ⅳ				安山岩	1
	F	4	8.1×13.4× 1.9	0.17	線	Ⅰ				安山岩	1
	CH	7	4.1× 5.6× 2.6	0.03	平					安山岩	1
	F	5R-57-1	12.0×14.5× 5.5	0.63	欠	Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ			H	安山岩	1
	F	2	12.4× 9.6× 4.4	0.84	平	Ⅰ			L	安山岩	1
	F	3a	29.4×19.0× 8.9	4.64	平	Ⅰ,Ⅱ			L	安山岩	2
	F	3b	16.9×20.5× 2.1	0.15	線	Ⅰ				安山岩	1
	台形石器	3c	15.4×19.4× 4.6	1.23	－					安山岩	2
47-166	石核	4	55.1×32.0×16.3	22.93	－					安山岩	2
	F	5	8.5×31.1×34.7	7.28	－					頁岩	1
	F	6a	10.8×15.8× 4.4	0.61	欠	Ⅰ			H～M	安山岩	1
	CH	6b	6.9× 6.7× 1.7	0.08	平	Ⅰ				安山岩	1
	F	7	10.5×24.5× 4.1	0.77	欠	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ			H	安山岩	1
47-164	垂飾様石製品	8	16.9×10.7× 4.8	0.70	－					砂岩	1
	F	9	16.5×12.1× 3.3	0.51	－		R		H～M	安山岩	1
	F	10	12.1× 6.9× 3.1	0.19	平	Ⅳ				安山岩	1
	F	11	13.7×14.3× 3.6	0.50	平	Ⅰ,Ⅱ				安山岩	1
	F	12	10.1×21.0× 6.0	0.91	点	Ⅰ				安山岩	1
	F	13	15.6× 8.0× 3.7	0.40	平	Ⅰ			R	安山岩	1
47-169	F	16	15.4×13.4× 2.1	0.24	点	Ⅰ,Ⅱ				黒曜石	1
	F	17	12.6×16.9× 4.2	0.43	点	Ⅰ,Ⅱ				安山岩	1
	F	21	19.1×21.5× 3.1	1.20	自	Ⅲ			R	安山岩	1
	F	27	16.2×18.4× 4.6	1.06	平	Ⅰ				安山岩	1
	F	28	12.6× 8.9× 3.4	0.29	自	Ⅲ			L,RB	安山岩	1
	F	29	12.5×12.5× 3.6	0.54	自	Ⅰ			R	メノウ	1
	F	30	13.5×15.6× 5.0	0.90	点	Ⅰ				安山岩	1

第12表　第１文化層集中６石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
頁岩 1																			2		2	13.15
2			1																		1	3.55
安山岩 1																			21		21.00	13.28
2	1				1														1		3	28.80
3																			1		1	0.31
黒曜石 1																			1		1	0.24
メノウ 1																			1		1	0.54
砂岩 1																1					1	0.70
2																1					1	2.96
総計	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	27	0	32	63.53
%	3.1	0	3.1	0	3.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6.3	0	0	84.4	0	100	

（7）　集中7（第51～55図　第13、14表　図版3）

位　置

第1調査区の集中1と集中4の間にあり、5R—59グリッドを中心に東西8m、南北5mほどの範囲に分布する。舌状台地の平坦部先端にあたり、穏やかに南に向かって低くなってゆく。安山岩を主体とした集中である。

遺物分布状況

16点からなる集中である。5R—59グリッドで安山岩1の剥片が4点隣接して出土している他は、すべて母岩を異にする単体での出土である。

母岩別分布

安山岩6・安山岩7は北側に隣接する集中1との間で接合関係が認められ、図示してはいないが、安山岩6については小円礫を母岩とした素材から剥離された剥片であり、自然面が一部残る。この集中は、安山岩が主体を占めており、7母岩に分類したが安山岩15が5R—59グリッドで4点近接して出土した他は、各石材とも単体での出土が主体である。

石　材

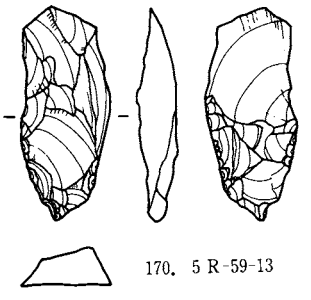
チャート2種2点、安山岩7種11点、黒曜石2種2点、石英斑岩1種1点から構成される。安山岩1は淡い灰色で平行して筋状の黒色に近い色調の鉱物が線状に走るもので石質は脆い。6は暗い灰色のもの、7は明るい灰色を呈するものでる。黒曜石1は黒色鉱物を薄墨を流したように濃く混入し、乳白色の微小粒子をわずかに混入する。チャート1は光沢があり水色の混ざった乳白色の地に褐色の縞目が筋状に混入している。

器　種（第14表）

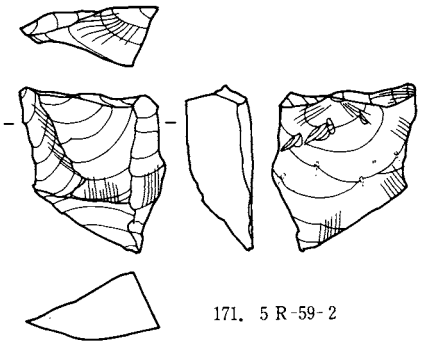
台形石器1点、礫2点、二次加工のある剥片1点、剥片・砕片12点で構成される。

集中7の石器（第52図　図版25）

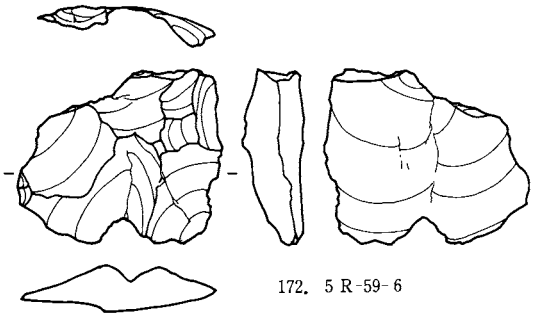
170は黒色安山岩製の台形石器である。背面に底面を残した横長剥片を素材にして裏面に平らな剥離で基部を整形している。171は黒曜石の剥片である。172～175は安山岩の剥片で、172～174は同一母岩の資料である。



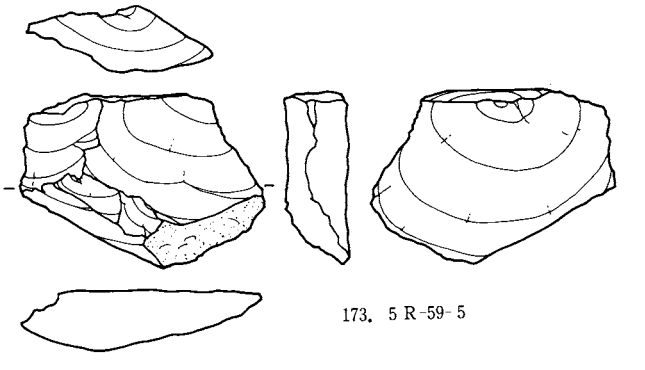
170. 5 R-59-13



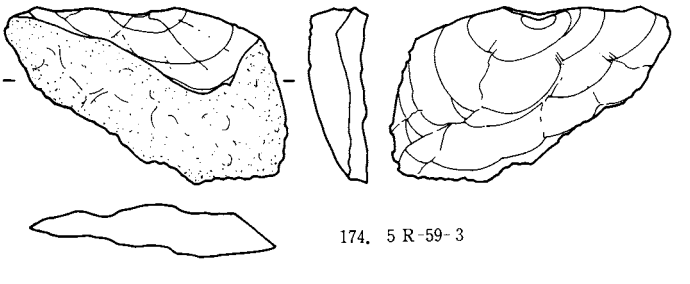
171. 5 R-59-2



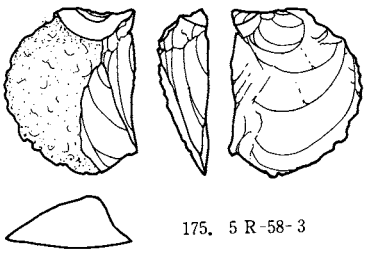
172. 5 R-59-6



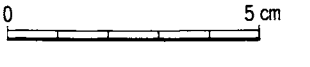
173. 5 R-59-5



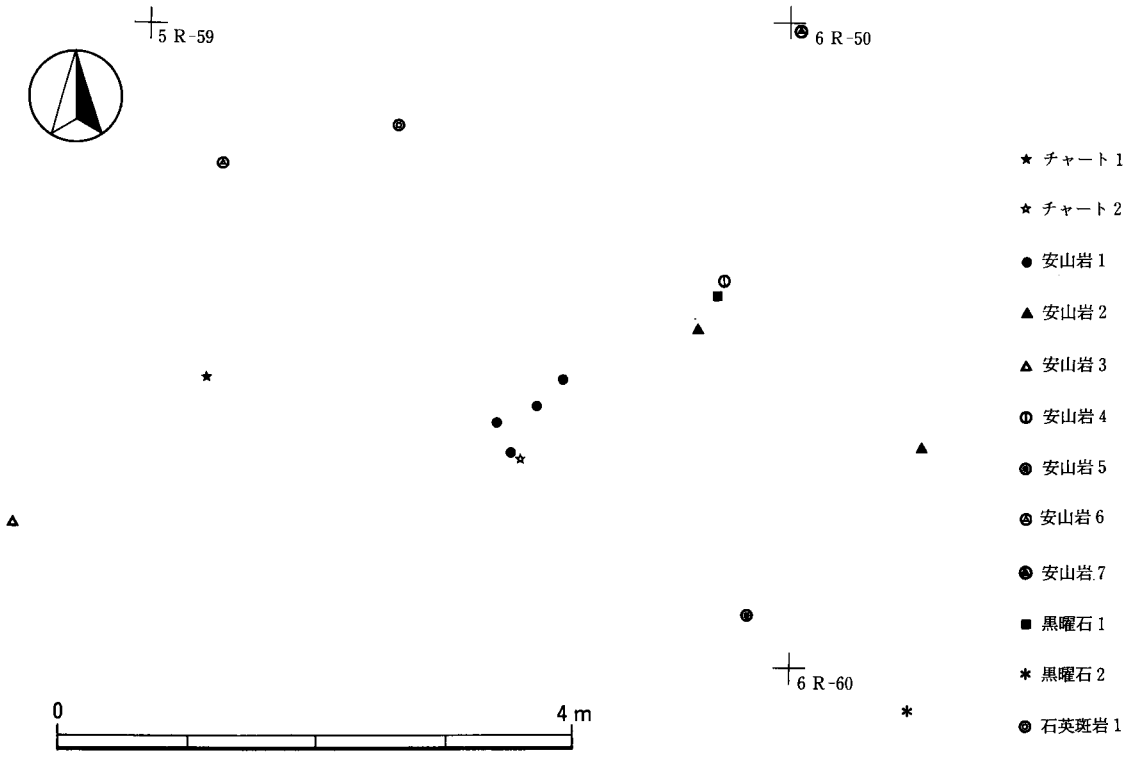
174. 5 R-59-3



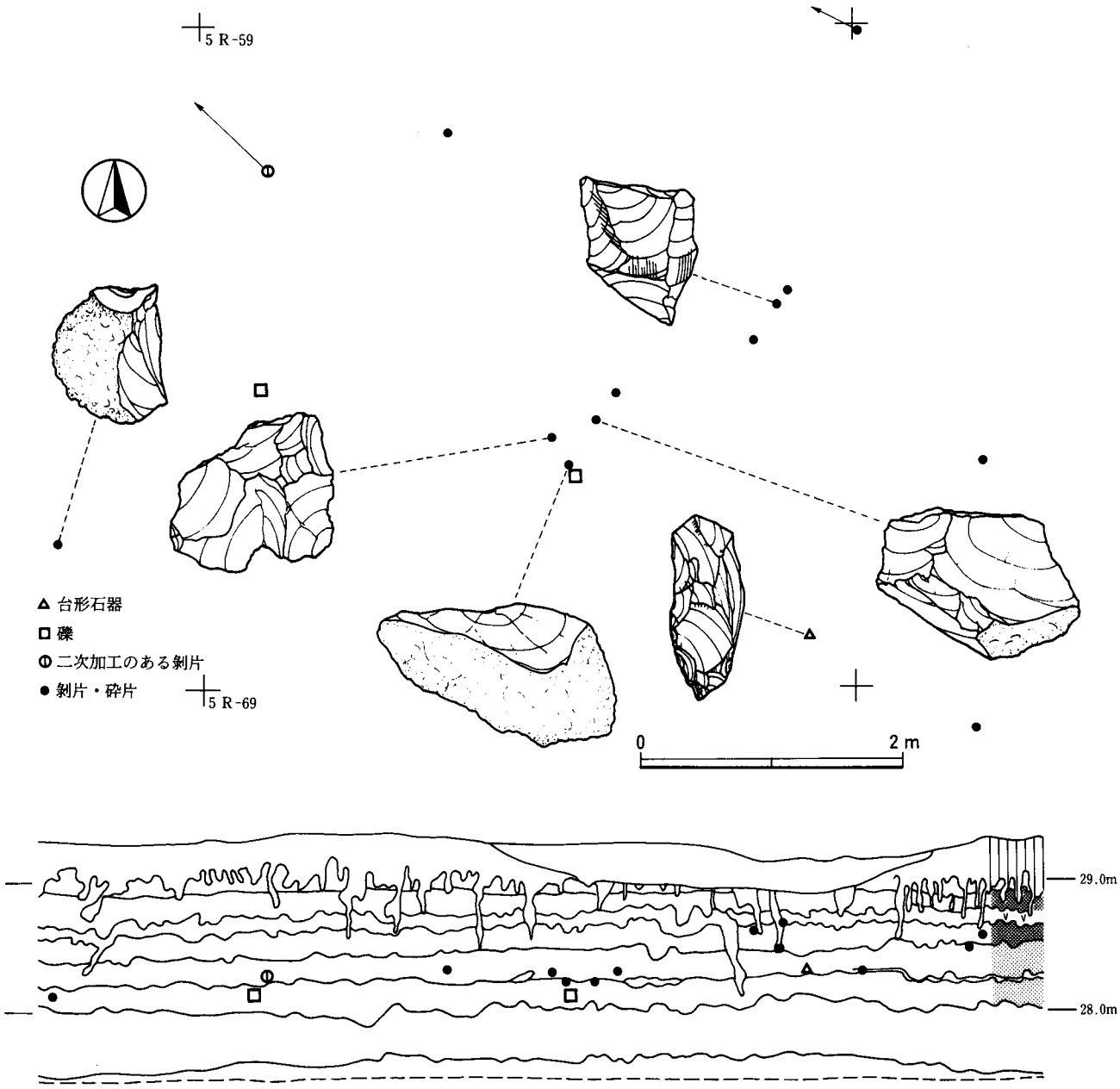
175. 5 R-58-3



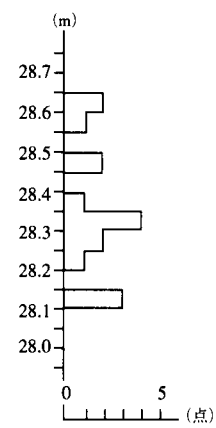
第52図　第１文化層集中７　出土石器（２／３）



第53図　第１文化層集中７　母岩別分布（１／60）



第54図　第１文化層集中７　器種別分布（１／50）



第55図　第１文化層集中７
遺物垂直分布図

第13表　第１文化層集中７　石器属性表

図版№	器種	遺物番号	長×幅×厚 (㎜)×(㎜)×(㎜)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩№
51-175	F	5R-58-3	34.2×30.6×11.8	8.42	平	I,II				安山岩	3
	F	5R-59-1	9.3×11.6× 1.9	0.15	欠	I			H	安山岩	2
51-171	F	2	30.5×32.7×12.9	10.13	平	I				黒曜石	1
51-174	F	3	34.2×55.8×11.7	19.08	平	I				安山岩	1
	F	4	9.8×10.3× 4.0	0.36	欠	I			H～M	安山岩	1
51-173	F	5	34.9×48.4×13.4	21.83	平	I				安山岩	1
51-172	F	6	35.4×40.3×11.5	13.51	平	I,II				安山岩	1
	F	8	13.6×26.1×10.7	2.97	平					石英斑岩	1
	RF	9	28.7×16.9× 9.1	4.47	平		L			安山岩	6
	円礫	10	28.8×14.4× 9.3	6.20	－					チャート	1
	円礫	11	16.5×11.1× 9.9	2.38	－					チャート	2
	F	12	15.7× 9.5× 3.9	0.77	欠	I			H	安山岩	4
51-170	台形石器	13	42.7×17.8× 6.9	5.77	－					安山岩	5
	CH	6R-50-1	10.8× 7.7× 2.3	0.20	点	I				安山岩	2
14-34	F	2	23.0×16.4× 6.2	2.00	平	I				安山岩	7
	F	6R-60-3b	10.2× 9.2× 2.8	0.21	欠	I,IV			H	黒曜石	2

第14表　第１文化層集中７石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1																				1	1	6.20
2																				1	1	2.38
安山岩 1																			4		4	54.78
2																			2		2	0.35
3																			1		1	8.42
4																			1		1	0.77
5					1																1	5.77
6												1									1	4.47
7																			1		1	2.00
黒曜石 1																			1		1	10.13
2																			1		1	0.21
石英斑岩 1																			1		1	2.97
総計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12	2	16	98.45
%	0	0	0	0	6.2	0	0	0	0	0	0	6.2	0	0	0	0	0	0	75	12.5	99.9	

（8）　集中8（第56～59図　第15、16表　図版3）

位　置

第1調査区の舌状台地先端部西側の台地縁辺部の斜面に位置し、北側の集中6、南側の集中9、東側の集中4にはさまれた集中である。

遺物分布状況

5R—77に頁岩・安山岩・黒曜石・凝灰岩からなる8点がまとまりを示す他は、散漫な分布状況を呈する。

母岩別分布

集中内での接合関係は、頁岩の石核と剝片が6m北に離れた地点で出土したものが接合したほか、安山岩1の石核、剝片が集中内で1点接合した。

石　材

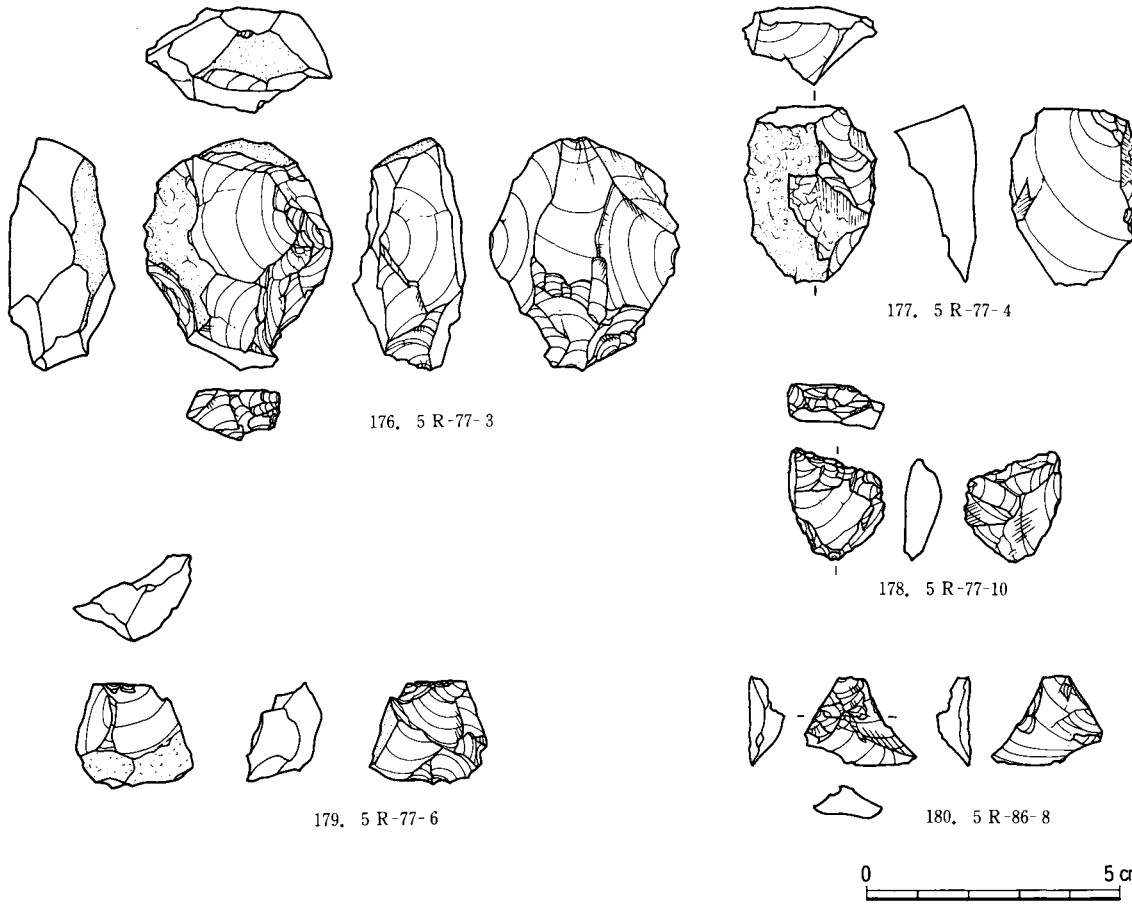
頁岩4種5点、黒曜石2種6点、安山岩2種3点、凝灰岩2種5点、石英1種1点の計20点で構成される。頁岩2は硬質で淡い褐色から暗い灰色まで混在しているものである。黒曜石1は透明度が薄く褐色の鉱物粒子を多く混入する。凝灰岩1は淡い青灰色を呈するものである。

器　種（第16表）

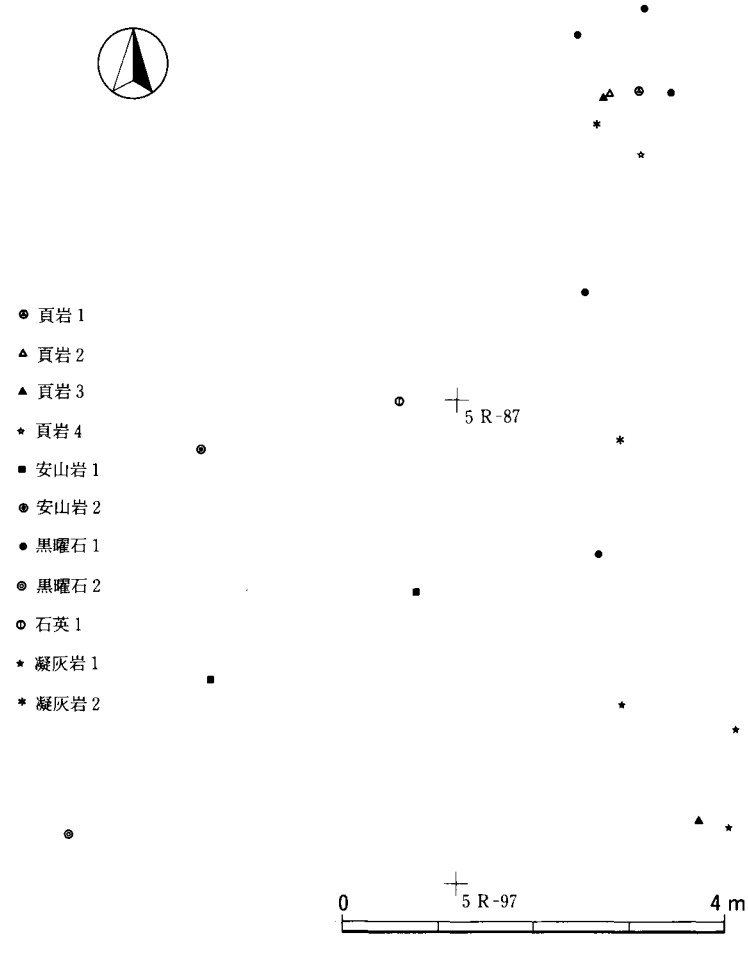
石核4点、楔形石器1点、剝片・砕片15点で構成される。

集中8の石器（第56図　図版25）

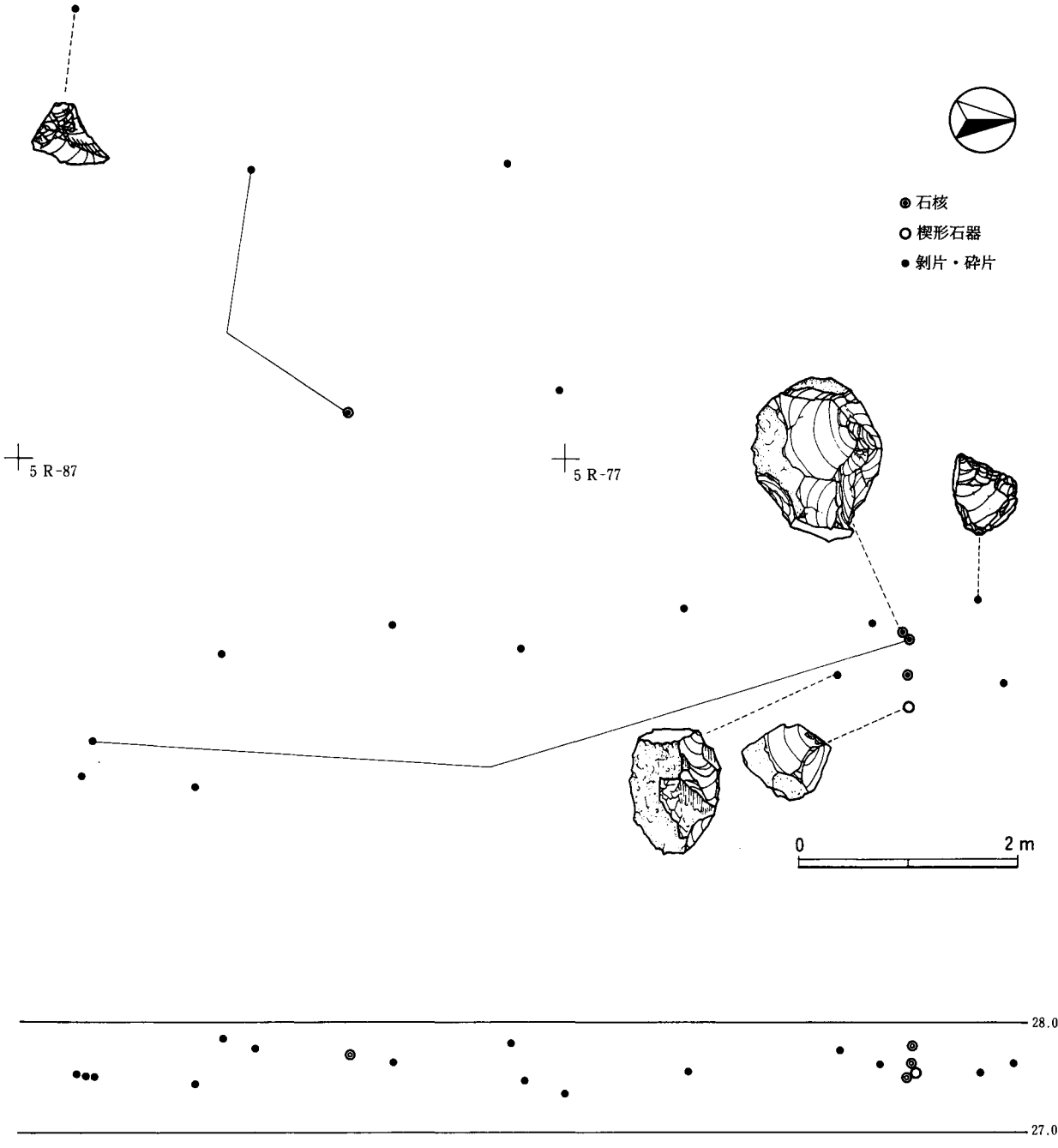
176は頁岩製の石核である。右側辺に残るコーンとバルブは石核の素材となった剝片の主要剝離面の残りの面で、原礫の分割段階のものである。裏面中央の面は石核素材の剝片の主要剝離面であり、剝片剝離は周辺から求心的に行われている。177は頁岩の剝片である。178は両極剝離によって剝離された黒曜石の剝片である。179は黒曜石の楔形石器である。180は黒曜石の剝片である。



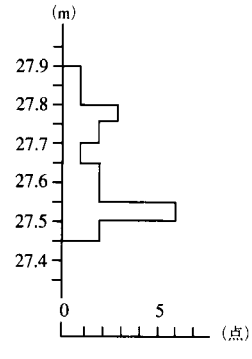
第56図　第１文化層集中８　出土石器（２／３）



第57図　第１文化層集中８　母岩別分布（１／80）



第58図　第１文化層集中８　器種別分布（１／60）



第59図　第１文化層集中８
遺物垂直分布図

第15表　第１文化層集中８　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
55-176	石核	5R-77-3	45.5×37.2×20.5	32.99	－					頁岩	2
55-177	F	4	35.5×26.6×15.0	11.22	平	I				頁岩	4
	石核	5	48.6×33.7×35.4	44.78	－					頁岩	1
55-179	楔形石器	6	21.0×23.2×11.3	4.45	－					黒曜石	1
	F	7	16.9×21.6× 8.8	3.22	－					黒曜石	1
	F	8	9.6×25.7× 9.8	1.47	(平)	I				黒曜石	1
	F	9	16.6×28.2× 5.0	1.49	平	I				凝灰岩	2
55-178	F	10	18.5×22.7× 8.2	3.12	平	I	B			黒曜石	1
	石核	11	26.2×46.3×26.7	28.55	－					頁岩	3
	CH	5R-86-3	5.3× 7.7× 2.0	0.09	線	I				安山岩	2
	F	5	19.0×26.8×11.7	3.12	平	I, II				安山岩	1
35-128	石核	6	41.7×42.4×17.7	20.40	－					安山岩	1
	CH	7	10.8× 5.7× 3.5	0.19	－					石英	1
55-180	F	8	17.2×21.7× 6.4	1.10	線	I				黒曜石	2
	F	5R-87-1	22.7×13.3× 5.0	0.73	線	I, III		B		黒曜石	1
	F	2	21.7×24.0× 7.9	2.99	平	I				凝灰岩	2
	F	3	18.7×12.1× 7.9	1.25	欠	I			H～M	凝灰岩	1
	F	4	20.9×32.7× 8.7	3.65	点	I				凝灰岩	1
	F	5	24.8×18.4×14.2	5.25	欠					頁岩	3
	F	6	15.4×20.1× 6.3	1.49	線	I, III				凝灰岩	1

第16表　第１文化層集中８石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
頁岩 1	1																				1	44.78
2	1																				1	32.99
3	1																		1		2	33.80
4																			1		1	11.22
安山岩 1	1																		1		2	23.52
2																			1		1	0.09
黒曜石 1				1															4		5	12.99
2																			1		1	1.10
凝灰岩 1																			3		3	6.39
2																			2		2	4.48
石英 1																			1		1	0.19
総計	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	20	171.55
%	20	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	100	

（9）　集中9（第60、62～64図　第17、18表　図版3）

位　置

第1調査区の舌状台地先端部西側の集中8の南の5S—07、17グリッドを中心として散漫な分布をしている。

遺物分布状況

集中9の遺物は20点である。全体に散漫な分布状況を呈するが、5S—07と5S—17グリッドの2m×2mほどの範囲にややまとまりを見る。

母岩別分布

母岩別では頁岩1、黒曜石3、砂岩1の5種に分類したが、このうち黒曜石1が10点とこの集中の主体を占める。黒曜石の分布は5S—07と6R—97で4点、5S—17で4点、5S—27で1点と南北9m、東西3mほどの範囲に分布しており、石核と接合はしないが剥片出土地点との関係からは近接した2地点での剥離作業を行ったと考えられる。黒曜石2・3についても黒曜石1と同様の出土を示す。

石　材

黒曜石3種18点、頁岩1種1点、砂岩1種1点の計20点で構成される。黒曜石1は灰色がかった黒色で乳白色の鉱物を混入している。頁岩1は淡い灰色の地に黒色の鉱物を粒子状に混入している。

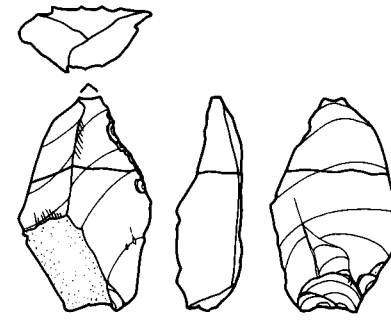
器　種（第18表）

石核1点、ナイフ形石器1点、楔形石器1点、使用痕のある剥片2点、剥片・砕片15点で構成される。

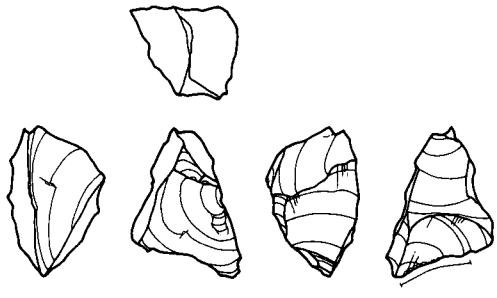
集中9の石器（第60図　図版26）

181は頁岩製のナイフ形石器である。縦長剥片素材で先端及び基部に刃潰し加工が認められる。素材の打面を残している。182は黒曜石製の剥片で背面右側辺に刃こぼれ状の使用痕が観察されるが、横に折れて出土した。183は黒曜石の石核である。184、185は黒曜石の剥片である。184、185には微細な剥離痕がみられる。

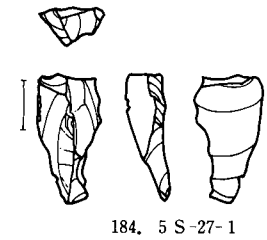
181. 5 S-28-3



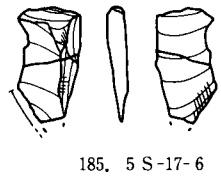
182. 5 S-06-4 a
5 R-98-3



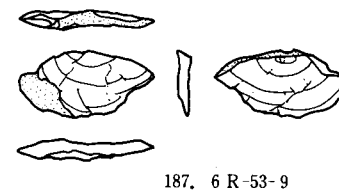
183. 5 S-17-3



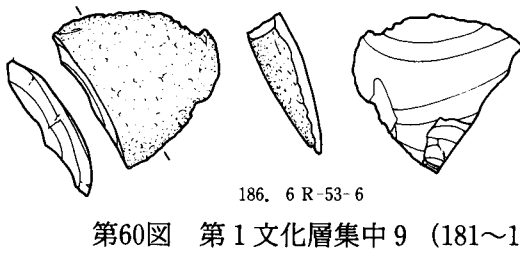
184. 5 S-27-1



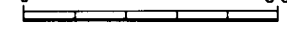
185. 5 S-17-6
7



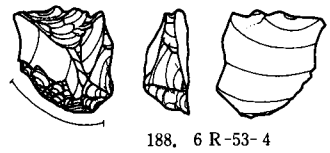
187. 6 R-53-9



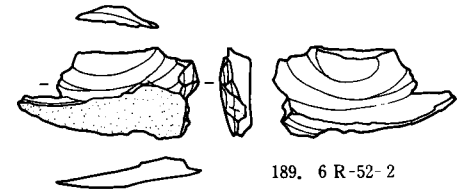
186. 6 R-53-6



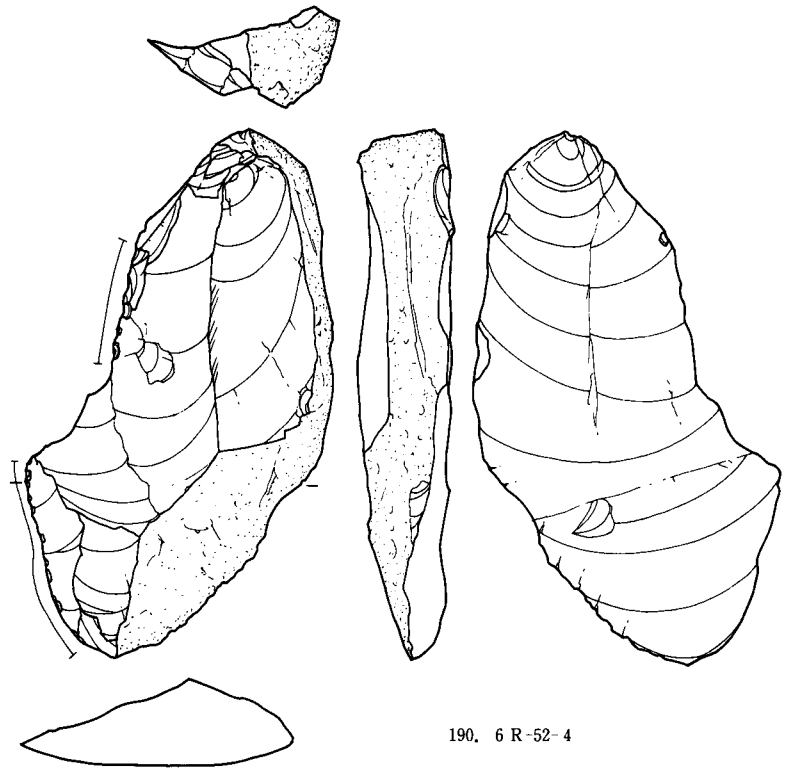
第60図　第１文化層集中９（181～184）・10（186・187）出土石器（２／３）



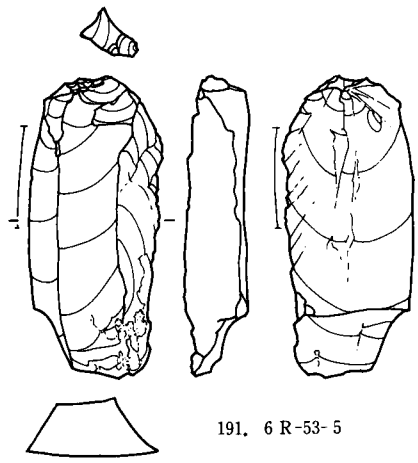
188. 6 R-53-4



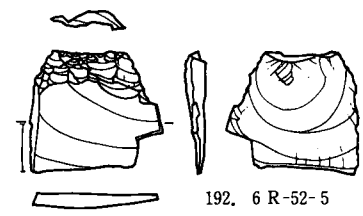
189. 6 R-52-2



190. 6 R-52-4

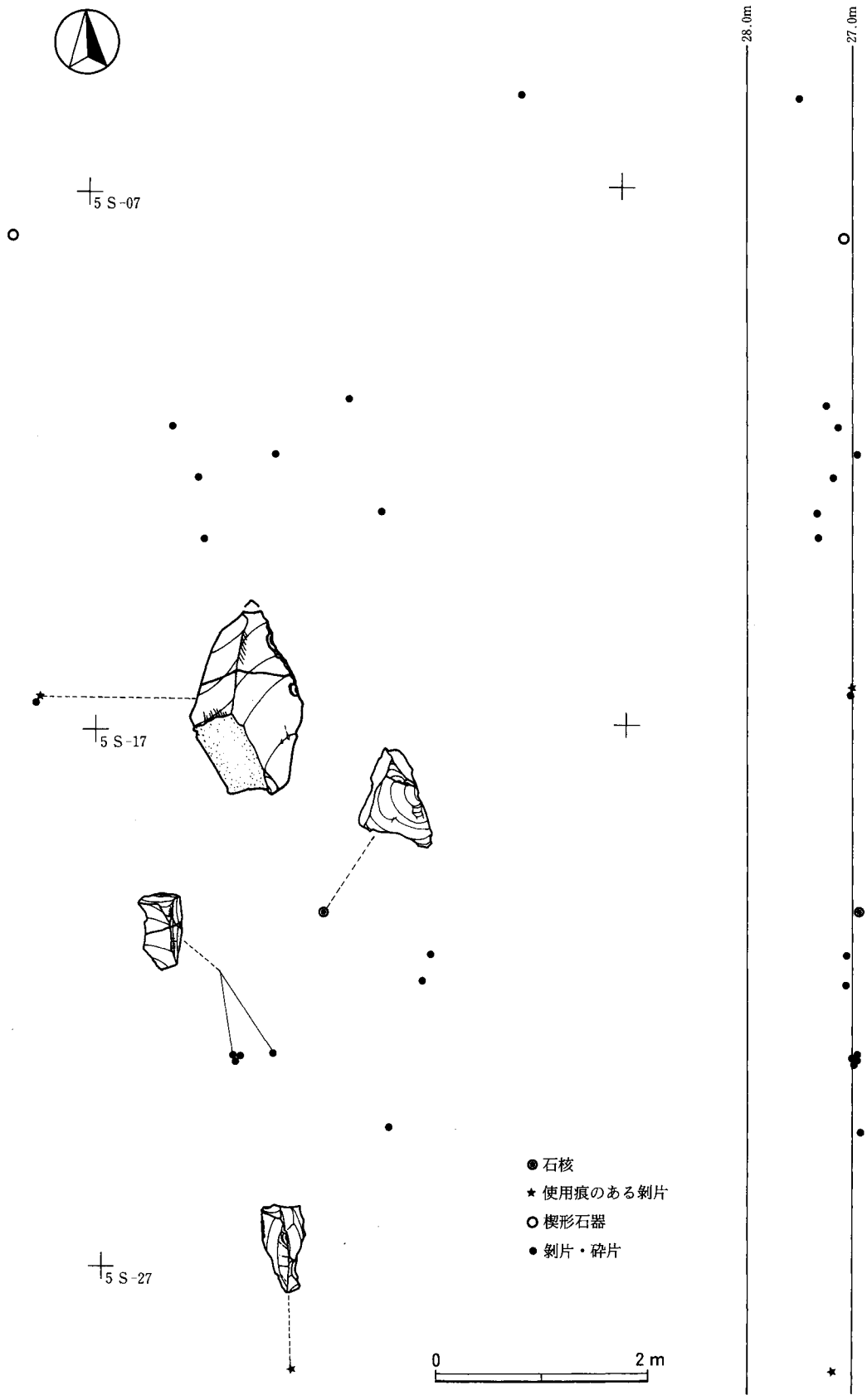


191. 6 R-53-5

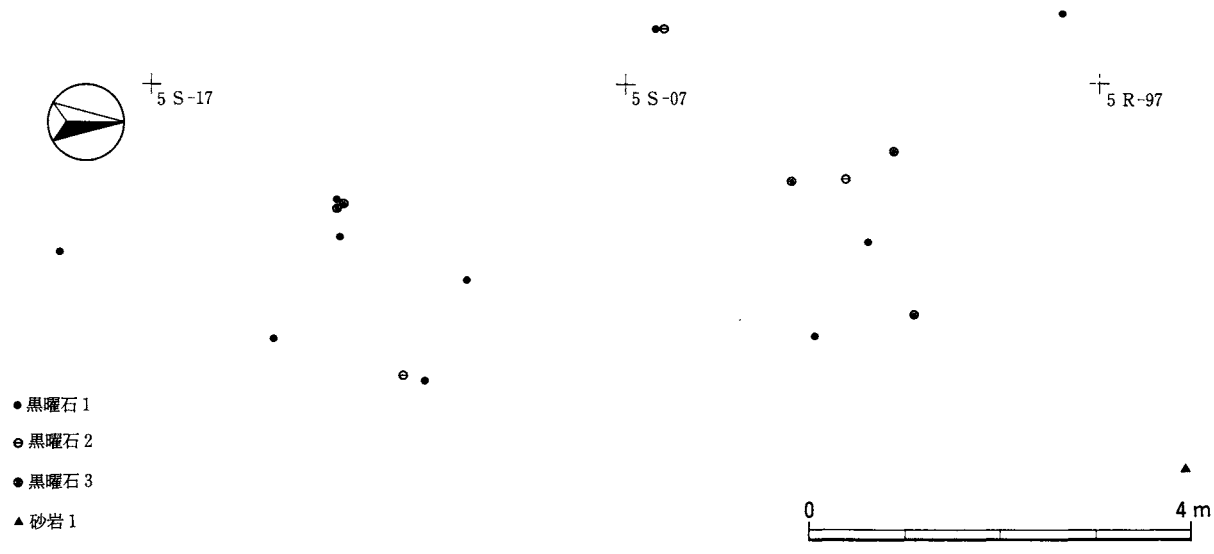


192. 6 R-52-5

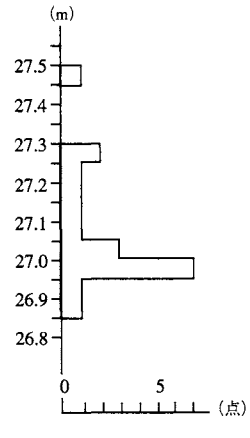
第61図　第１文化層集中10　出土石器（２／３）



第62図　第１文化層集中９　器種別分布（１／60）



第63図　第１文化層集中９　母岩別分布（１／80）



第64図　第１文化層集中９
遺物垂直分布図

第17表　第１文化層集中９　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	F	5R-97-2	58.6×40.4×14.7	42.53	平					砂岩	1
	楔形石器	5S-06-3	14.2× 8.6× 7.3	0.79	－					黒曜石	1
59-182	UF	4a	31.0×24.8×11.8	7.43	剝	I		LR	B	黒曜石	1
	F	4b	10.4×10.5× 3.1	0.32	平	I			B	黒曜石	2
	CH	5S-07-1	9.6× 4.7× 0.8	0.04	線	I				黒曜石	3
	F	2	8.7×13.1× 6.7	0.56	平	I,II				黒曜石	2
	CH	3	7.0× 6.6× 1.1	0.04	欠	IV				黒曜石	3
	F	4	12.4× 6.3× 1.7	0.14	線	I,II				黒曜石	3
	F	5	17.8×12.5× 4.4	0.97	線	I,III,IV				黒曜石	1
	F	6	27.7×17.1× 8.4	2.33	－					黒曜石	1
59-183	石核	5S-17-3	25.8×31.4×25.6	7.25	剝	II,IV		L,B		黒曜石	1
	F	4	16.8×16.2× 3.9	0.88	平	I				黒曜石	1
	F	5	14.3× 3.1×0.35	0.35	欠	I,III			R	黒曜石	2
59-185	F	6	10.8×12.3× 2.9	0.46	欠	I,II			H・B	黒曜石	1
59-185	F	7	12.6×10.3× 2.7	0.33	欠	I,II				黒曜石	1
	CH	7a	8.5× 8.2× 1.5	0.13	点	I				黒曜石	3
	CH	7b	5.5× 7.2× 0.8	0.06	欠	II,IV				黒曜石	3
	F	8	13.5×11.2× 3.2	0.41	剝	II				黒曜石	1
59-184	UF	5S-27-1	24.5×12.1× 7.5	1.60	剝	I,II,III		L,H,B		黒曜石	1
59-181	ナイフ形石器	5S-28-3	37.3×13.1× 5.0	2.41	－					頁岩	1

第18表　第1文化層集中９石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
頁　岩　1			1																		1	2.41
黒曜石　1	1			1									2						6		10	22.45
2																			3		3	1.23
3																			5		5	0.41
砂　岩　1																			1		1	42.53
総　計	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	15	0	20	69.03
%	5	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	75	0	100	

（10）　集中10（第61、65～67図　第19、20表　図版４）

位　置

第１調査区の集中２・４・11に囲まれた台地の平坦部中央部に占地する。

遺物分布状況

遺物は５Ｒ－52･53グリッドを中心とした東西３ｍ、南北３ｍの範囲にあって、出土遺物は12点である。安山岩１が６Ｒ－52と53グリッドにまたがる１ｍ×１ｍほどの範囲で６点まとまって出土しているほかは単体での出土である。接合関係では、安山岩１が集中３の６Ｒ－35グリッドで折れて出土した剝片と接合した。出土層準の投影図ではⅤ層からⅨ層下部まで１ｍ近い上下幅があり、出土石器の項でも触れるが二枚の文化層が重複して混在している可能性を残す。

母岩別分布

チャート１種、頁岩２種、安山岩３種、黒曜石１種の12点から構成される。安山岩２の剝片が６点近接して出土してるほかは、各母岩とも単体の出土である。

石　材

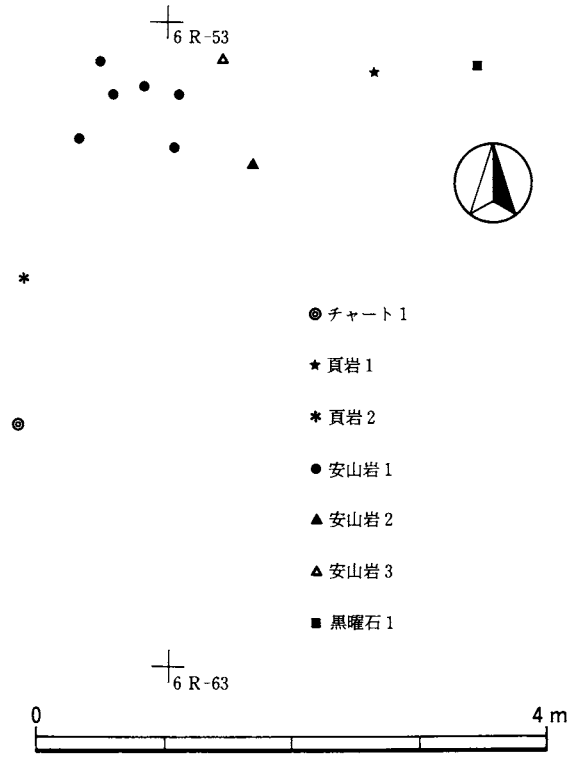
安山岩３種８点、頁岩２種２点、黒曜石１種１点、チャート１種１点の計12点で構成される。安山岩１は灰色地に橙色の鉱物を混入するもの、２は淡褐色で微小な気泡が抜けたような痕跡のあるものがある。頁岩１は淡い青灰色の地に褐色鉱物が点列状に混入するものがある。チャート１は暗い灰色で石質は均質ではなく、節理面が見られるものがある。黒曜石１はにぶくくすんだ黒色で灰色から乳白色の不純物が筋状に入る。

器　種（第20表）

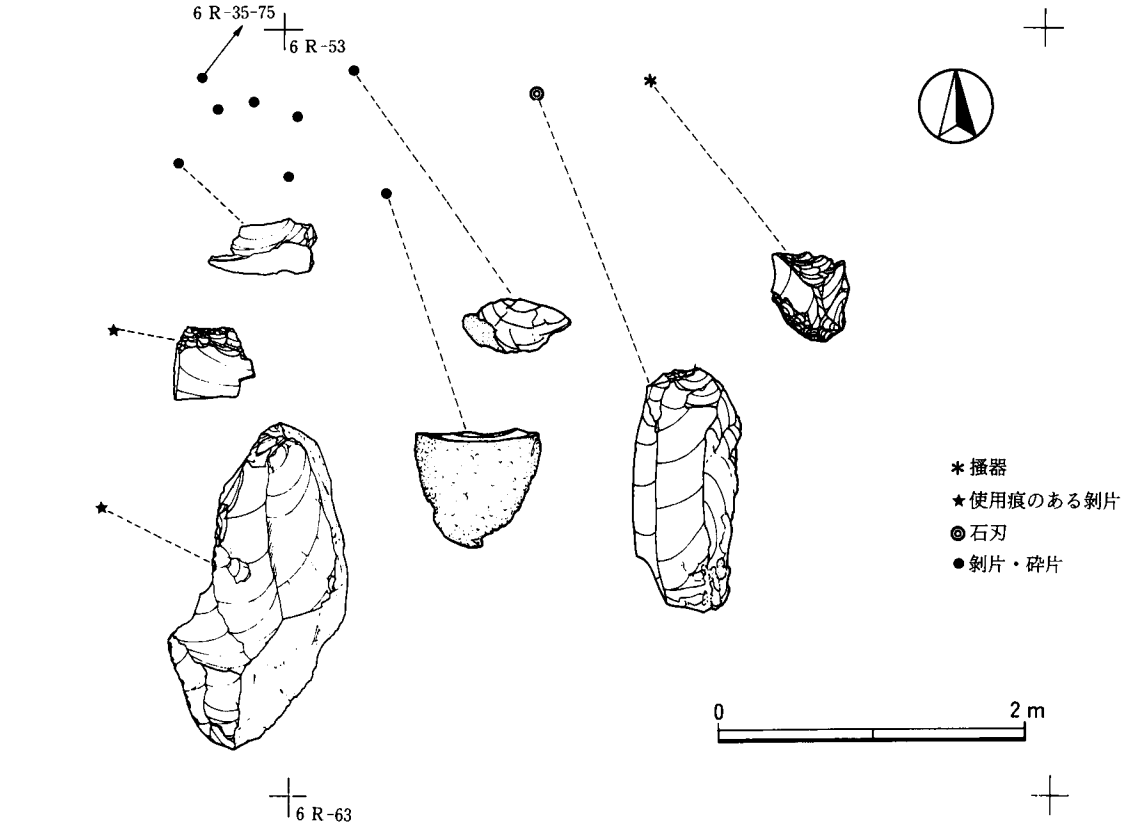
掻器１点、使用痕のある剝片２点、石刃１点、剝片８点で構成される。

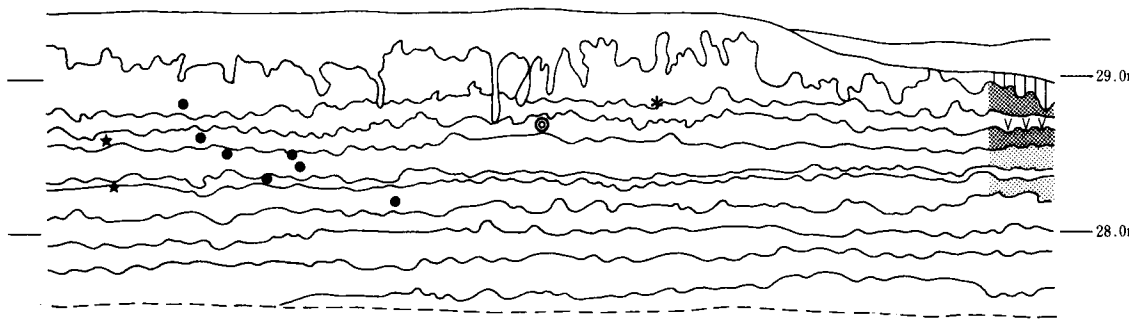
集中10の石器（第59、60図　図版26）

186、187の２点はともに安山岩の自然面を残す剝片である。188は黒曜石製の掻器である。打面を残置する厚手の剝片端部に二次加工が顕著である。産出層準から見て上位の文化層の遺物の混入が疑われる。189は安山岩の剝片である。190はチャート製の大型の縦長剝片である。左側辺に使用痕がみられる。191は頁岩の石刃である。背面左側片に使用痕が認められる。192は頁岩の剝片の頭部破片である。背面左側に使用痕が認められる。

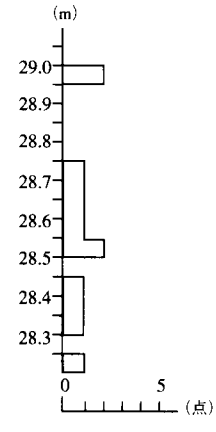


第65図　第１文化層集中10　母岩別分布（１／60）





第66図　第１文化層集中10　器種別分布（１／50）



第67図　第１文化層集中10
遺物垂直分布図

第19表　第１文化層集中10　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	F	6R-52-1	22.9×22.0× 6.9	2.76	欠	I			H	安山岩	1
60-189	F	2	18.3×36.1× 5.3	3.22	平	I				安山岩	1
60-190	UF	4	104.7×53.7×18.8	97.49	自	I			LM	チャート	1
60-192	UF	5	23.7×26.1× 4.1	2.61	平	I				頁岩	2
	F	6	16.2×13.3× 3.5	0.54	平	I			LH	安山岩	1
	F	7	12.8×17.2× 3.5	0.68	欠	I			H～M	安山岩	1
	F	6R-53-1	10.8×14.8× 1.4	0.21	欠	I			H	安山岩	1
	F	2	6.5×13.2× 1.6	0.16	平	I				安山岩	1
60-188	搥器	4	22.8×19.4× 9.9	3.57	平	I	LB			黒曜石	1
60-191	石刃	5	57.6×25.5×11.6	21.14	平	I,IV				頁岩	1
59-186	F	6	30.7×32.1× 8.2	8.18	自				R	安山岩	2
59-187	F	9	13.0×25.9× 3.6	1.00	平	I				安山岩	3

第20表　第１文化層集中10石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	搥器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1													1								1	97.49
頁　岩 1																		1			1	21.14
2													1								1	2.61
安山岩 1																			6		6	7.57
2																			1		1	8.18
3																			1		1	1.00
黒曜石 1							1														1	3.57
総　計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	8	0	12	141.56
%	0	0	0	0	0	0	8.3	0	0	0	0	0	16.6	0	0	0	0	8.3	66.7	0	99.9	

(11)　集中11（第68～71図　第21、22表　図版４）

位　置

第１調査区の舌状台地平坦部の東側の縁辺部に近く、集中４と集中10にはさまれた範囲に分布する。

遺物分布状況

６Ｒ－53・54・65グリッドにまたがる東西４ｍ、南北５ｍほどの範囲に分布する。集中11の遺物は18点である。本集中周辺はIX層を出土層準とする第１文化層とVII層を出土層準とする第２文化層が重複しているため第２文化層のものを集中17として分離して記述した。

母岩別分布

黒曜石２とした母岩から剝離された剝片が２点、６Ｒ－54グリッドで近接して出土している他はすべて単体の資料である。また、６Ｒ－63で頁岩１とした石核が出土した。

石　材

黒曜石２種３点、チャート６種６点、頁岩８種８点、安山岩１種１点の18点で構成される。黒曜石１は細かい気泡状に鉱物を混入するもの、チャート２は黒色に近い色調のものなどがある。

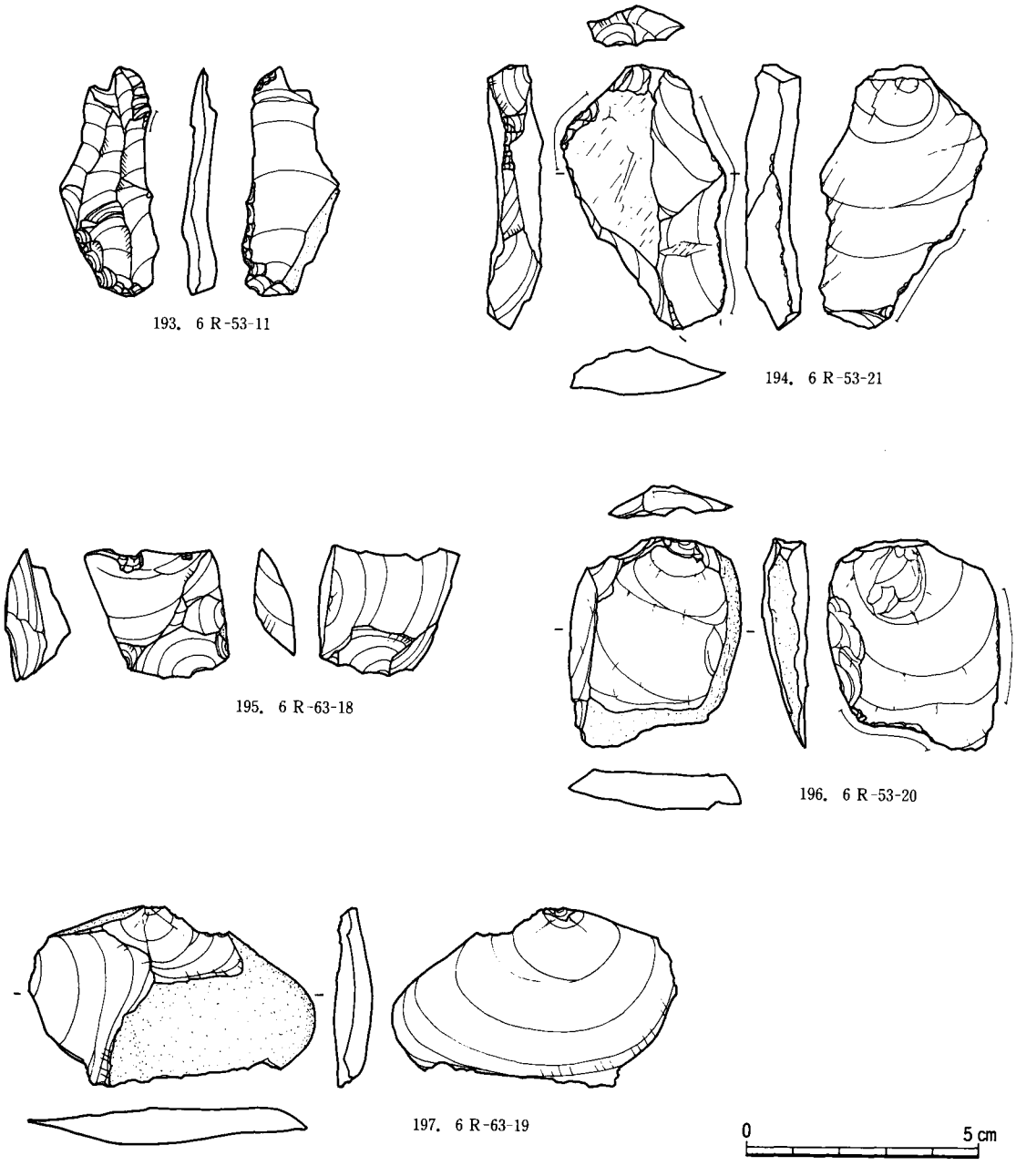
器　種（第22表）

石核１点、二次加工痕のある剝片１点、使用痕のある剝片８点、剝片・砕片８点で構成される。

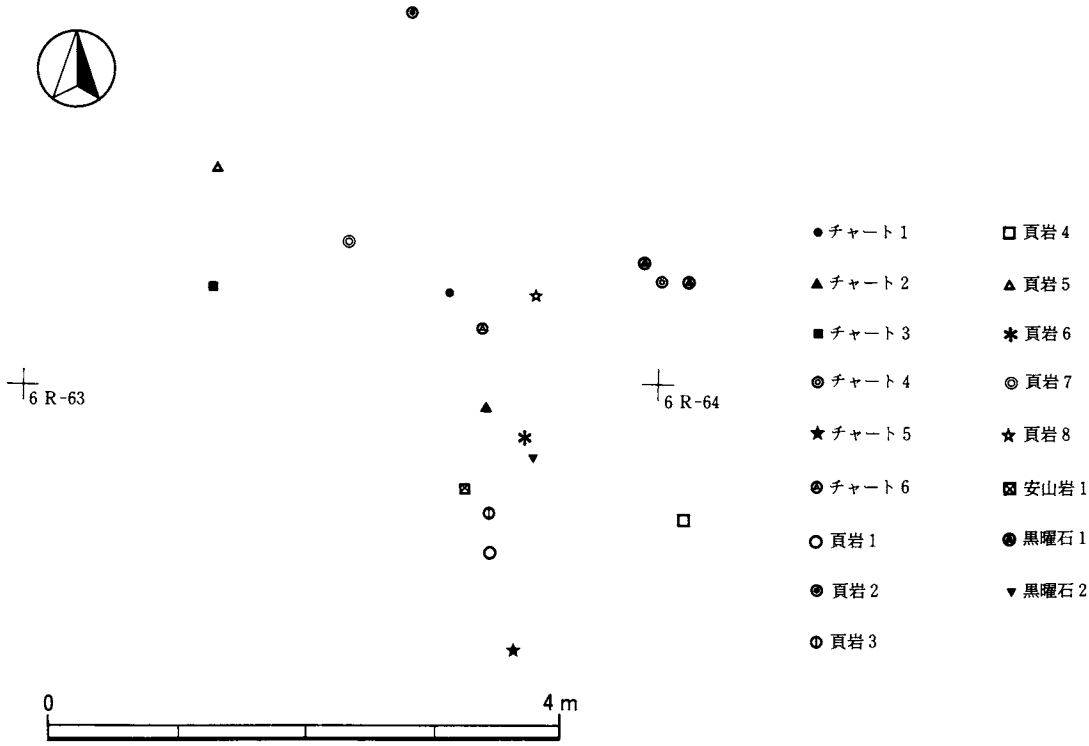
集中11の石器（第68図　図版26）

193はチャート製の二次加工痕のある剝片である。腹面基部左側縁に二次加工が観察される。基部加工のナイフ形石器と分類する向きもあろう。194はチャート製の使用痕つき剝片である。

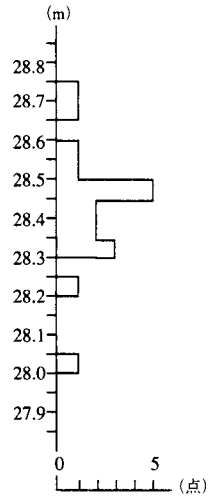
195は頁岩の二次加工痕のある剝片若しくは石核である。196はチャートの使用痕のある剝片である。197は頁岩の薄くて幅広の剝片である。



第68図　第１文化層集中11　出土石器（２／３）



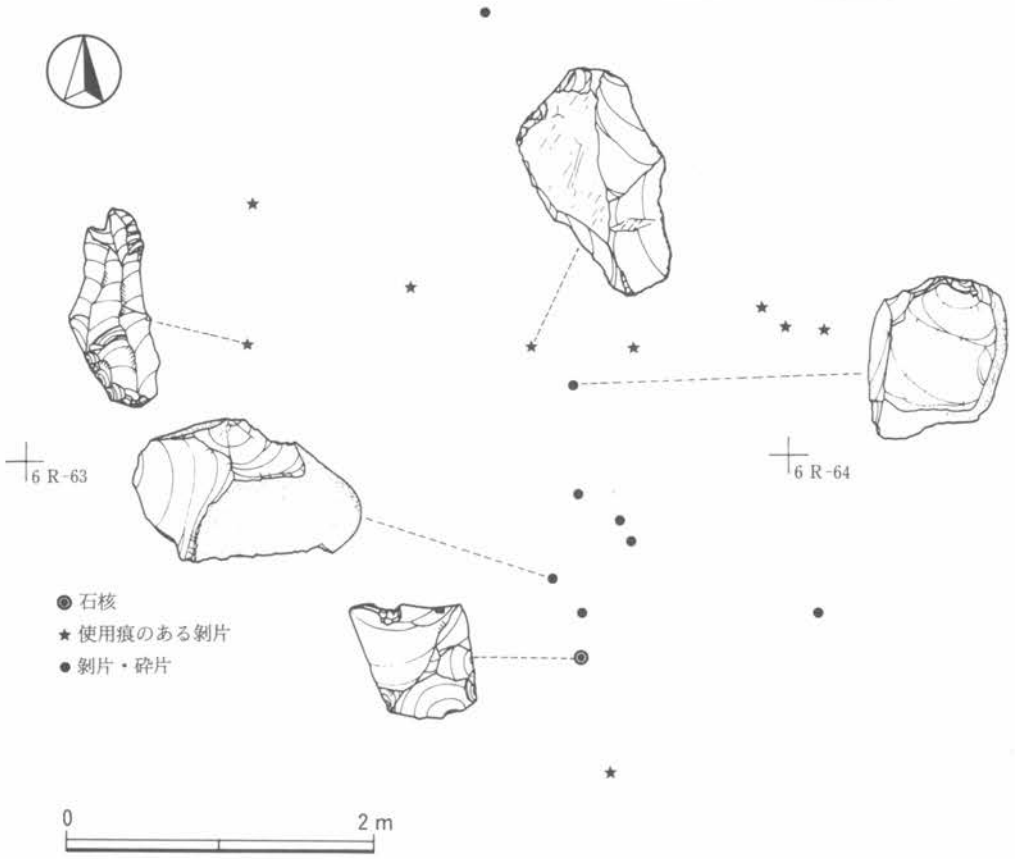
第69図　第１文化層集中11　母岩別分布（１／60）

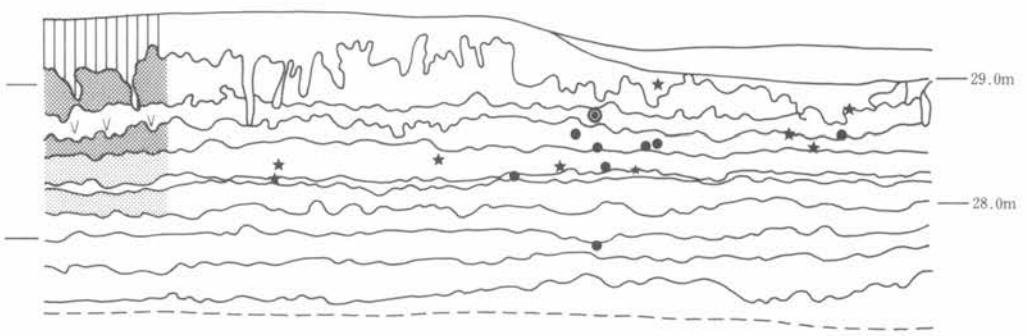


第70図　第１文化層集中11
遺物垂直分布図

第21表　第１文化層集中11　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-53-3	19.5×26.8×11.6	5.48	平	I				頁岩	2
	UF	7	36.1×36.1× 8.9	6.24	平	II		B		頁岩	5
67-193	RF	11	48.0×20.1× 6.1	5.27	−					チャート	3
	UF	12	22.8×28.7× 3.1	1.76	自	I				頁岩	7
	UF	17	8.4×14.0× 4.4	0.47	点	I,IV		R		黒曜石	1
	F	19	8.7×18.7× 1.7	0.40	線	I				チャート	6
67-196	UF	20	46.0×36.4× 7.5	15.46	平	I		B		頁岩	8
67-194	UF	21	55.9×31.3×10.6	18.54	剝	I,II		RB,LB		チャート	1
	UF	6R-54-25	13.7×10.2× 4.7	0.65	−					黒曜石	1
	UF	26	58.2×21.2×10.3	8.38	平					チャート	4
	UF	6R-63-17	42.0×36.7×10.8	17.18	平	II,III		R		チャート	5
67-195	石核	18	31.0×27.9×14.0	10.07	−					頁岩	1
67-197	F	19	38.3×62.1× 8.1	19.06	自	I,IV				頁岩	3
	F	20	29.1×21.5×10.0	6.95	平	I,IV				安山岩	1
	F	24	13.6× 5.4× 2.8	0.20	点	I,III				黒曜石	2
	F	25	16.9×23.0× 4.6	1.61	平					頁岩	6
	F	28	13.3×15.1× 6.6	1.61	平	IV				チャート	2
	CH	6R-64-3	7.9×11.2× 3.3	0.26	平	I				頁岩	4





第71図　第１文化層集中11　器種別分布（１／50）

第22表　第１文化層集中11石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート	1													1								1	18.54
	2																			1		1	1.61
	3												1									1	5.27
	4													1								1	8.38
	5													1								1	17.18
	6																			1		1	0.40
頁岩	1	1																				1	10.07
	2																			1		1	5.48
	3																			1		1	19.06
	4																			1		1	0.26
	5													1								1	6.24
	6																			1		1	1.61
	7													1								1	1.76
	8													1								1	15.46
安山岩	1																			1		1	6.95
黒曜石	1													2								2	1.12
	2																			1		1	0.20
総計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	8	0	18	119.59
%		5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5.6	44.4	0	0	0	0	0	44.4	0	100	

(12)　集中12（第72～77図　第23、24表　図版３）

位　置

第１調査区の集中４の東側の舌状台地東側台地縁辺部の６Ｒ―56,66グリッドを中心に東西５ｍ、南北10ｍの範囲に分布する。

遺物分布状況

集中12の遺物は36点である。６Ｒ―66グリッドに分布の中心をもち、舌状台地の東側の台地縁辺部に近い位置にあって頁岩の占める割合が高い。また、単体のものも多い。垂直分布の投影図ではIX層中位を中心に50cmの高低差がある。

母岩別分布

石核は頁岩２点、安山岩２点の計４点が含まれる。このうち頁岩５と分類した遺物４点には石核と剥片が１点接合した。ほかには頁岩２としたものが西側に隣接する集中４との間で接合した。また頁岩12が集中３との間で20m離れた地点で接合した。頁岩を主体とし、安山岩、チャート、黒曜石、砂岩、凝灰岩で構成される。

石　材

頁岩14種17点、安山岩５種６点、チャート３種３点、黒曜石１種１点、砂岩１種１点、メノウ１種１点、凝灰岩１種１点の計36点で構成される。頁岩１は青灰色で灰色の鉱物が平行に縞状に混入し、５は灰白色の地に淡褐色の鉱物が縞状に混入する。安山岩１は暗い灰色で５は淡い青灰色のものである。チャート２は乳白色で黒色の鉱物が縦横に混入する。黒曜石１は透明感があり、黒色鉱物を均一に混入する。メノウ１は透明感のある乳白色で部分的に黄白色がかった不純物が縞状に混入する。

器　種（第24表）

石核３点、使用痕のある剥片９点、石刃１点、剥片・砕片23点で構成される。

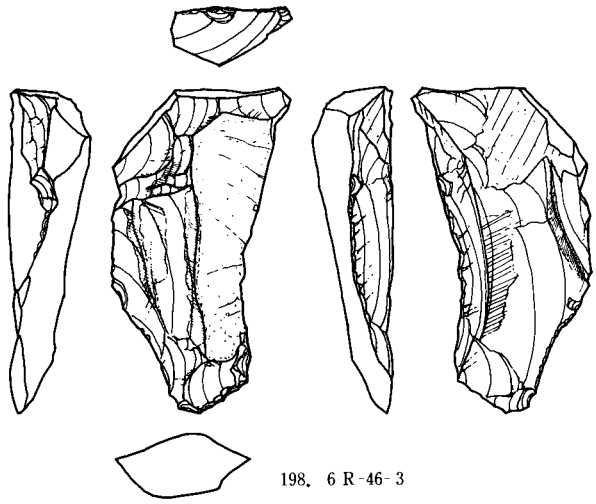
集中12の石器（第72～74図　図版26～28）

198はチャート製の使用痕付き剥片である。分厚い横長剥片を素材とし、両側辺が折り取られる。腹面の右側辺の折り取り面の稜線は特に磨耗がはげしい。そのほかの稜線も油脂状の光沢がある。刃部は正面図の左側辺の真中より手前にある鋭い辺で使用痕がみられる。199は頁岩の縦折れの剥片の接合資料であるが、一方の剥片は縦折れ後に端部周辺に細部加工を加えて先頭部を作出している。刃部には刃こぼれが観察できる。素材の打面は複剥離打面である。200は頁岩の使用痕つき剥片の先端で、背面の稜に稜上の剥離がある。201は頁岩の平坦打面の使用痕つき剥片である。202も頁岩の使用痕つき剥片である。203は石刃で、左右両側縁には微細剥離痕が著しい。204～206は頁岩の剥片で、204、205には使用痕が認められる。207は頁岩の礫表皮の付く大型の剥片で、二辺に使用痕が観察できる。208は使用痕のある頁岩の剥片である。左側縁の尾部側に微細な刃こぼれ状の剥離があり、使用痕とみなせる。

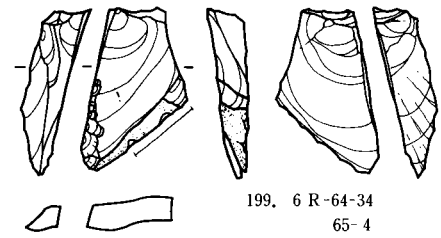
209は頁岩の剥片素材の使用痕つき剥片である。210は頁岩の縦折れの使用痕つき剥片である。211、212は頁岩の小型の剥片である。211には微細剥離痕がある。213は頁岩の貝殻状の剥片を剥離する石核である。214は黒曜石製で、貝殻状の使用痕の残る剥片である。215は安山岩製の表皮の残る大型剥片で、円礫から最初に剥がされた剥片である。216はメノウの微細な剥離痕が観察できる剥片である。

217は安山岩の小型の貝殻状剥片を剥離する剥片製の石核である。このノッチを二次加工とみるか、作業面からの目的的剥離とみるかで石器の見方がわかれる。小型の貝殻状の剥片に使用痕のついたものもあるので、ここでは石核としたが、ノッチの可能性も残しておく。218は安山岩の石核である。219～221は剥片である。219は頁岩、220,221は安山岩である。

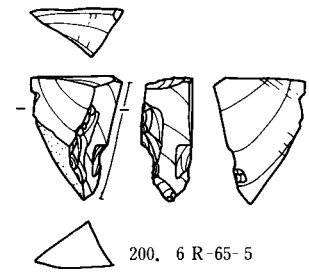
第72図　第１文化層集中12　母岩別分布（１／60）



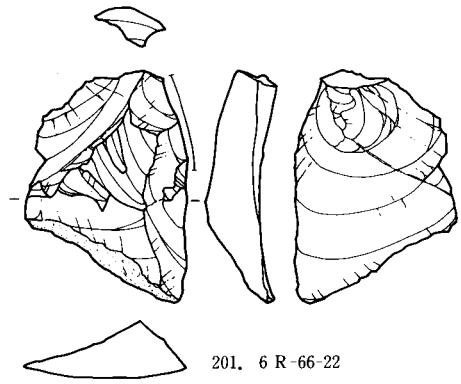
198. 6 R-46-3



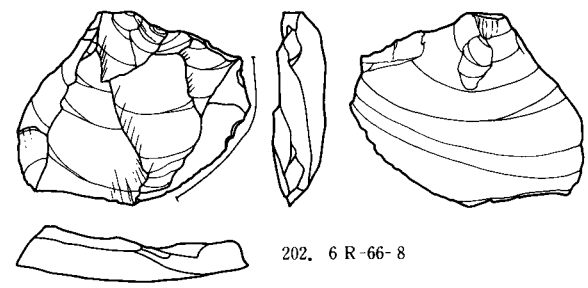
199. 6 R-64-34
65-4



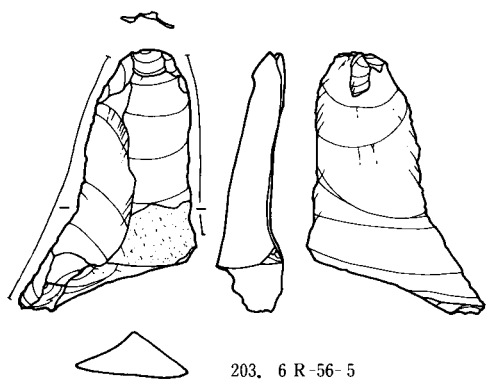
200. 6 R-65-5



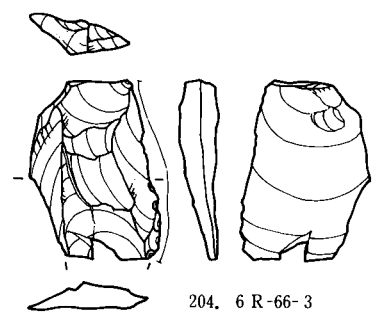
201. 6 R-66-22



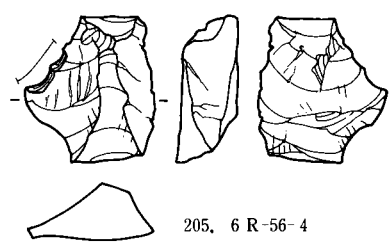
202. 6 R-66-8



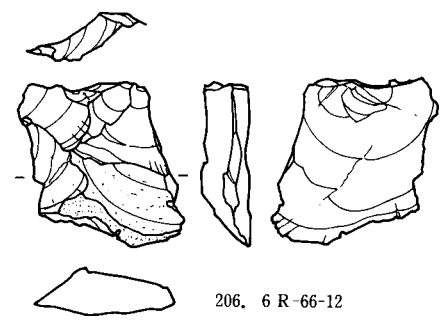
203. 6 R-56-5



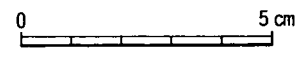
204. 6 R-66-3



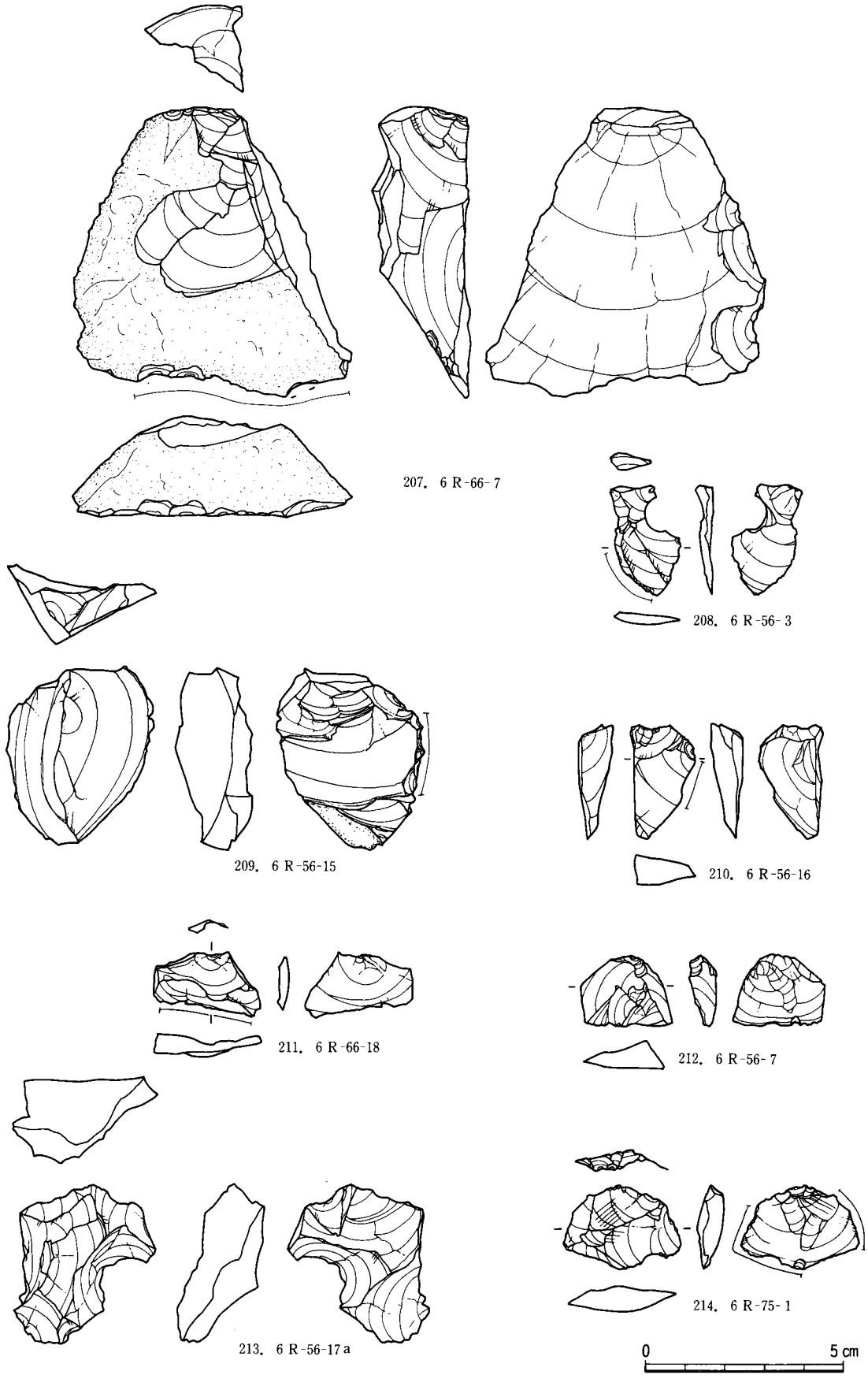
205. 6 R-56-4



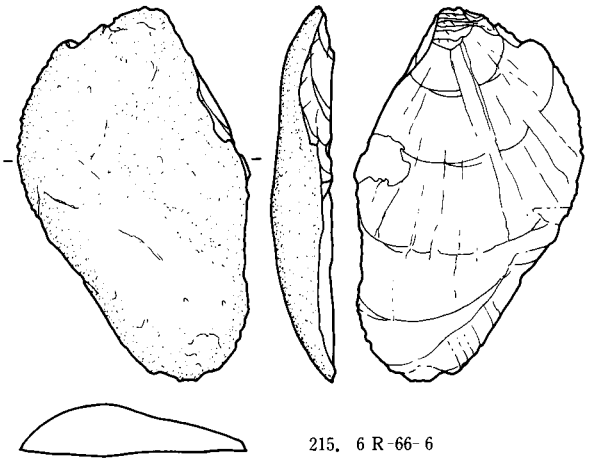
206. 6 R-66-12

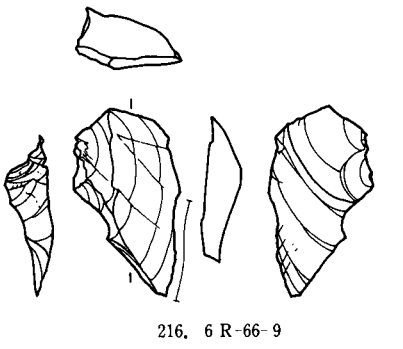


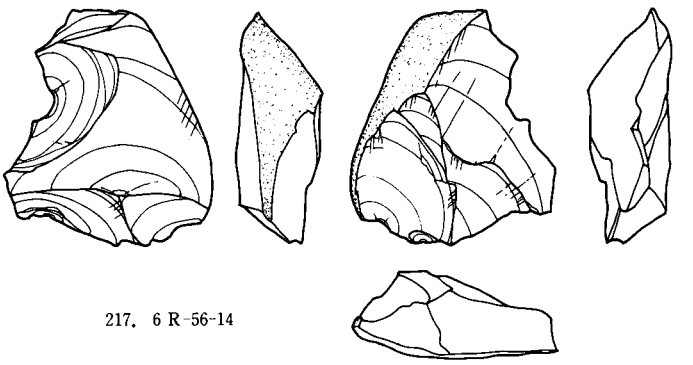
第73図　第１文化層集中12　出土石器(1)（２／３）

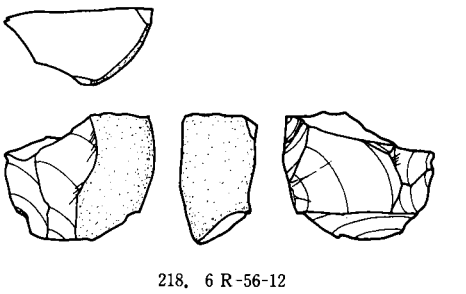


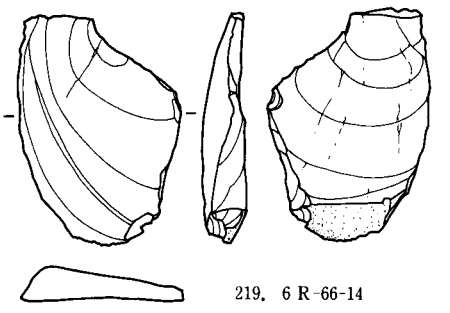
第74図　第１文化層集中12　出土石器（２）（２／３）

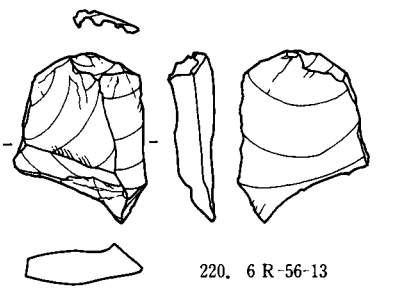


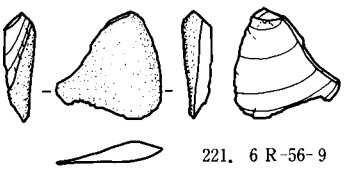




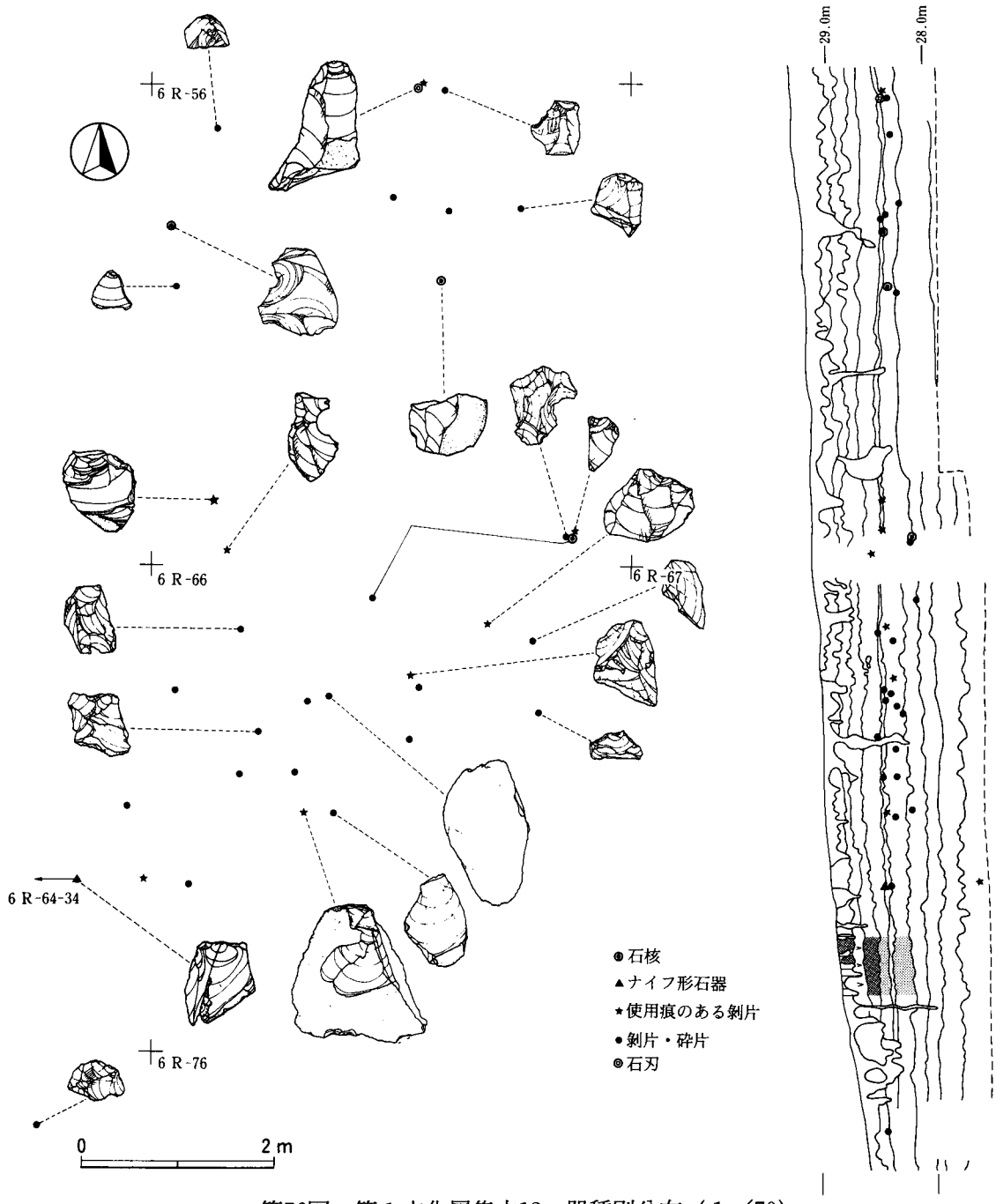




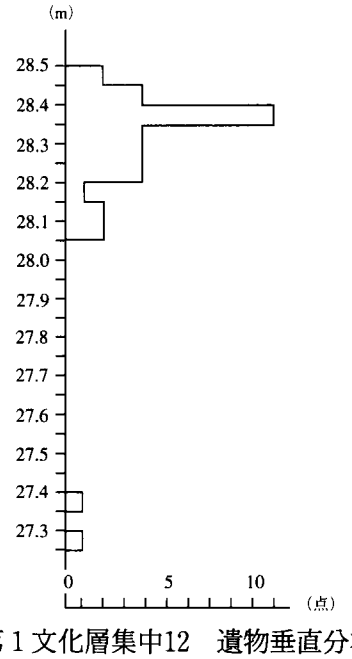




第75図　第１文化層集中12　出土石器（３）（２／３）



第76図　第１文化層集中12　器種別分布（１／70）



第77図　第１文化層集中12　遺物垂直分布図

第23表　第１文化層集中12　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
72-208	UF	6R-56-3	28.1×15.4× 4.6	0.96	平	I				頁岩	3
71-205	F	4	30.2×25.5×10,5	6.56	欠	I				頁岩	10
71-203	石刃	5	51.0×28.4×12.5	10.62	－	I				頁岩	16
	UF	6	29.2×14.8×10.0	2.39	欠					チャート	1
72-212	F	7	16.8×21.9× 6.3	2.13	－	I				頁岩	9
73-221	F	9	20.2×20.4× 5.7	2.05	平				LH	安山岩	2
	F	10	11.6×23.4× 5.5	1.73	欠	I			H～M	頁岩	11
	F	11	25.3×14.6× 8.7	2.51	自	I				凝灰岩	1
73-218	石核	12	25.2×29.8×14.6	11.19	－					安山岩	2
73-220	F	13	30.4×25.8× 8.0	7.15	剝	I				安山岩	5
73-217	石核	14	46.2×40.9×17.7	25.58	－					安山岩	1
72-209	UF	15	44.9×37.2×19.4	19.63	－					頁岩	14
72-210	UF	16	28.0×15.1× 8.0	2.60	平	I			L	頁岩	5
72-213	石核	17a	39.4×36.2×22.0	17.37	－					頁岩	5
	F	17b	10.5×23.8×11.0	2.39	平	II,IV				頁岩	5
71-199	F	6R-65-4	22.9×29.4× 5.2	3.44	－					頁岩	15
71-200	UF	5	24.1×17.8× 9.6	3.07	欠	I		R	H～M	頁岩	6
	UF	6	25.2×14.5× 6.1	1.90	平	I,II		RH	B	チャート	2
71-204	F	6R-66-3	35.1×23.7× 7.5	6.18	剝	I,II,III			R	頁岩	13
73-219	F	4	14.2×16.8× 2.3	0.57	欠	I			H,B	頁岩	2
	CH	5	8.1× 8.7× 1.5	0.13	平	IV				頁岩	2
73-215	F	6	74.1×42.2×10.4	39.97	自					安山岩	3
72-207	UF	7	70.2×66.2×22.3	99.52	平	I			B	頁岩	7
71-202	UF	8	37.4×49.0× 8.9	15.40	平	I,II				頁岩	12
73-216	F	9	20.5×37.6× 8.9	4.89	線	I			RB	瑪瑙	1
	F	10	10.3×16.4× 3.5	0.50	自	I				砂岩	1
	CH	11	9.4×10.5× 2.8	0.29	平					頁岩	1
71-206	F	12	31.7×28.8× 8.7	7.87	剝	I,IV				頁岩	1
	F	13	15.5× 7.1× 2.7	0.28	平	I				チャート	3
	F	14	45.2×32.4× 9.0	14.97	欠	I,III				安山岩	4
	F	15	30.4×14.0×10.7	3.42	平	I,II				頁岩	4
	F	16	19.5×15.6× 2.0	0.59	平	IV				頁岩	3
	F	17	25.1×21.5× 8.5	3.93	平	I				頁岩	5
72-211	F	18	14.2×26.0× 4.7	1.08	平	I				頁岩	4
71-201	UF	22	44.6×32.7×13.4	13.23	平	I				頁岩	8
72-214	F	6R-75-1	20.0×28.8× 5.4	2.67	平	I,II		RH,B		黒曜石	1

第24表　第１文化層集中12石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート	1													1								1	2.39
	2													1								1	1.90
	3																			1		1	0.28
頁岩	1																			2		2	0.70
	2													1						1		2	1.55
	3																			2		2	4.50
	4													1								1	3.07
	5													1								1	99.52
	6													1								1	13.23
	7																			1		1	2.13
	8																			1		1	6.56
	9																			1		1	1.73
	10													1								1	15.40
	11																			1		1	6.18
	12													1								1	19.63
	13																			1		1	3.44
	14																		1			1	10.62
安山岩	1	1																				1	25.58
	2	1																		1		2	13.24
	3																			1		1	39.97
	4																			1		1	14.97
	5																			1		1	7.15
流紋岩	1																			2		2	8.16
	2	1												1						2		4	26.29
黒曜石	1																			1		1	2.67
メノウ	1																			1		1	4.89
凝灰岩	1																			1		1	2.51
砂岩	1																			1		1	0.50
総計		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	1	23		36	338.76
%		11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	2.8	74.4		100	

(13)　集中13（第78～81図　第25、26表　図版６）

位　置

第２調査区の舌状台地と南西から入る小支谷を挟んで対峙する台地縁辺部に近い平坦部に位置する。第２調査区は第１調査区とは谷をはさんで100mほど南東側に位置しており、本遺跡内では立地条件を異にする位置での検出である。

遺物分布状況

東西10m、南北10mの範囲に分布域が認められるが、８Ｔ－46グリッドと８Ｔ－56グリッド、８Ｔ－64グリッドの３地点に特に集中して検出されている。垂直分布ではIX層からＸ層まで60cmの高低差がみられる。

母岩別分布

集中の主体になる石材は安山岩であり、チャート、頁岩は単体での出土である。安山岩１と粘板岩１が８Ｔ－64グリッドにまとまって分布しているほかは、安山岩７が８Ｔ－64グリッドでまとまって出土している。

石　材

安山岩10種26点、頁岩２種２点、チャート１種１点、粘板岩１種６点の計36点で構成される。安山岩１は淡灰色の石材で、７は暗灰色を呈する。チャート１は乳白色の不純物を混入するものである。

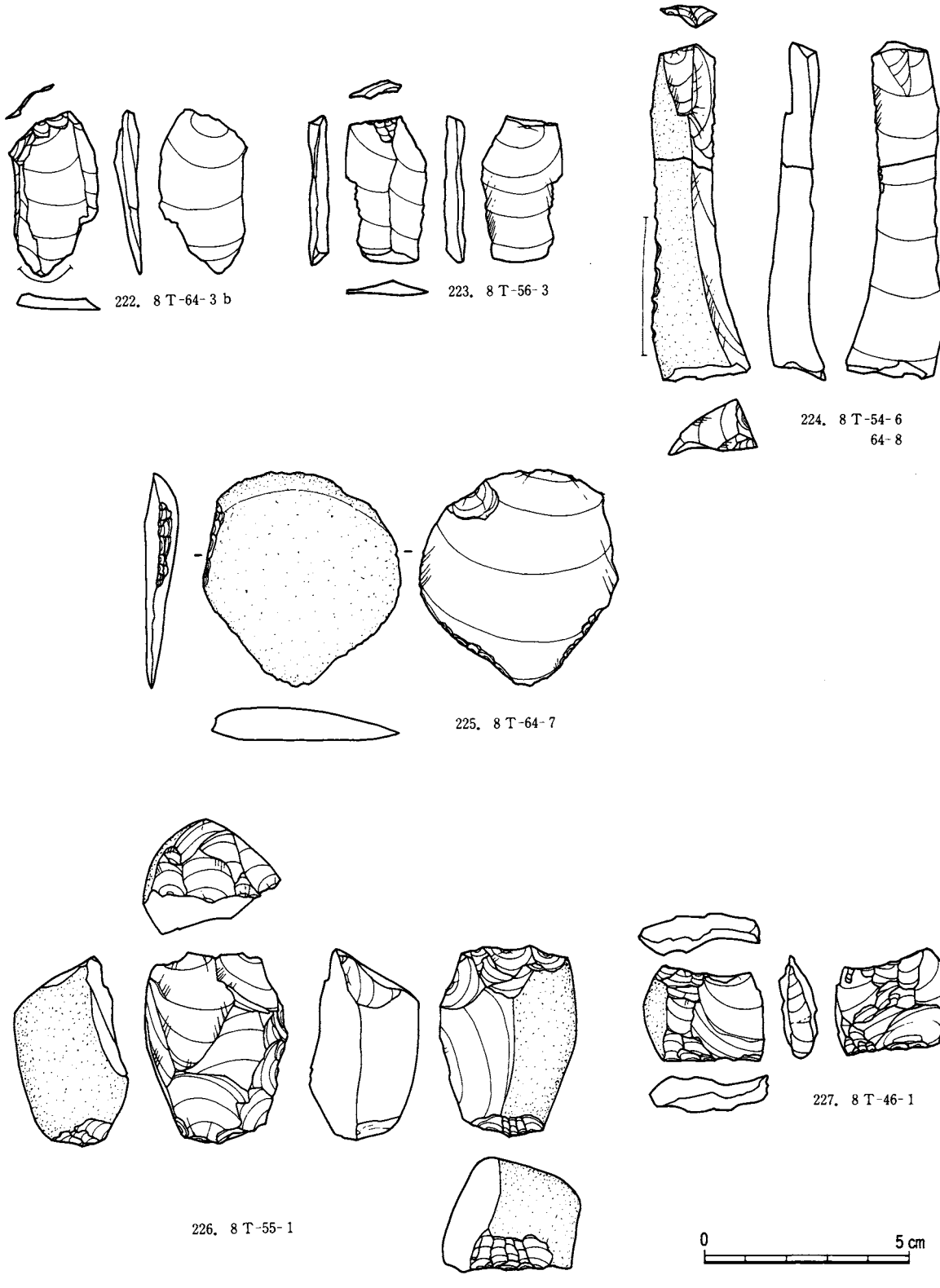
器　種（第26表）

楔形石器２点、削器１点、掻器１点、石刃１点、二次加工のある剥片１点、剥片・砕片29点で構成される。

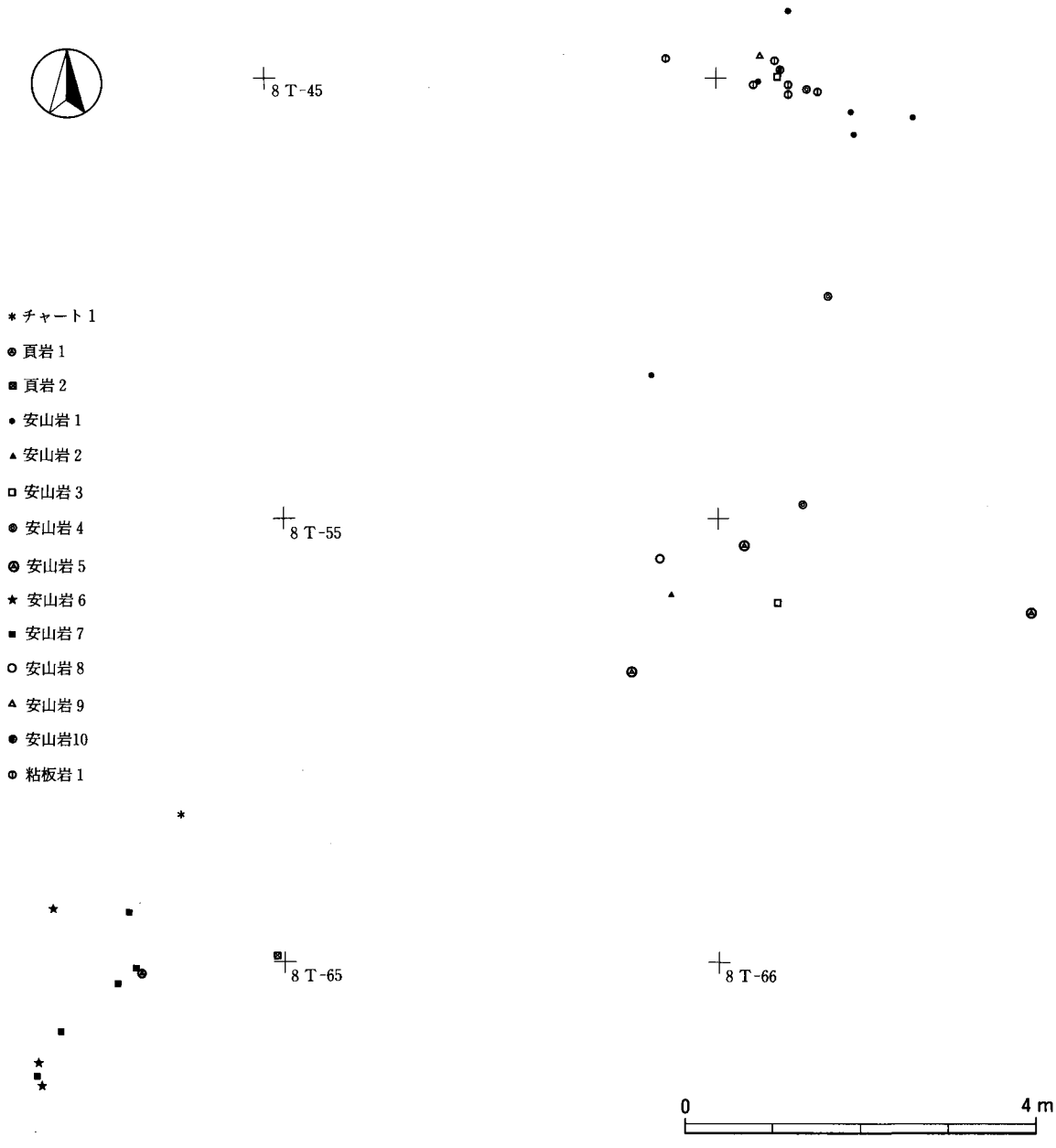
集中13の石器（第78図　図版28）

222は頁岩製の剥片である。剥片末端に微細な剥離痕が認められる。223、224は安山岩製の石刃である。224は両設打面の石核から剥離されており打面は共に調整打面と見られる。

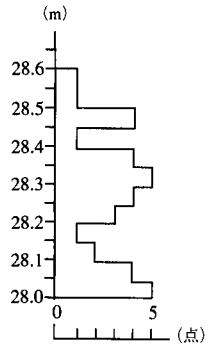
225は安山岩の円礫から最初に剥がされた加工痕つき剥片であり、掻器・削器としての使用が想定される石器である。226は安山岩製の石核素材の掻器であり、端部に急角度の剥離で二次加工が観察できる。227は安山岩製の楔形石器である。



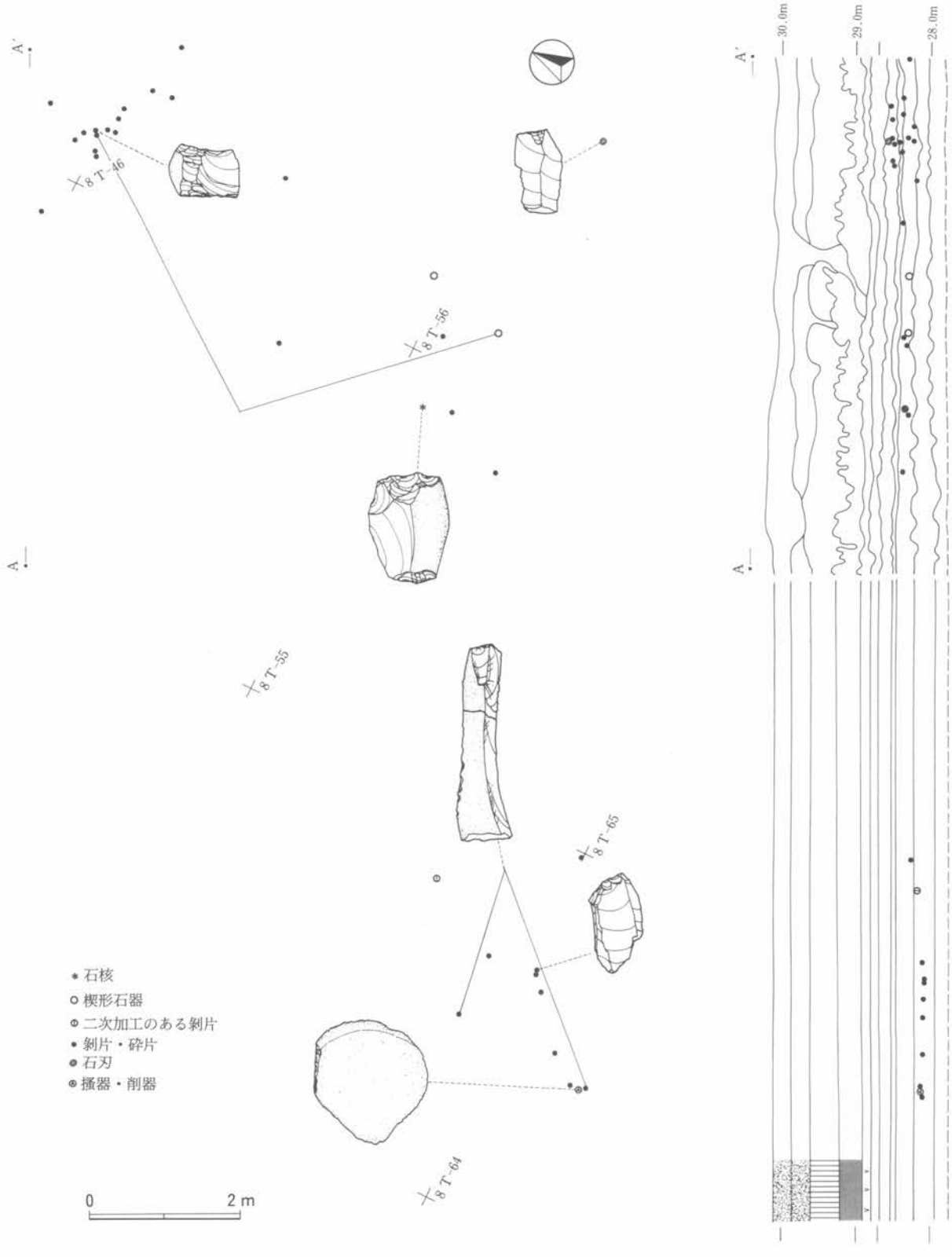
第78図　第１文化層集中13　出土石器（２／３）



第79図　第１文化層集中13　母岩別分布（１／80）



第80図　第１文化層集中13
遺物垂直分布図



第81図　第１文化層集中13　器種別分布（１／80）

第25表　第１文化層集中13　石器属性表

図版No	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No
	F	8T-35-1	27.4×40.5× 4.9	7.69	欠	II			H	粘板岩	1
	F	8T-36-1	20.4×27.2× 7.3	3.88	線	I				安山岩	3
	F	2	40.5×22.0× 9.3	10.25	自					安山岩	9
	F	3	39.7×15.5× 4.5	2.76	線	I				安山岩	1
	F	4	14.7×26.5× 4.2	1.80	線	I,IV				粘板岩	1
	CH	5	4.8× 7.4× 2.1	0.07	点	I				安山岩	10
	F	8T-45-1	20.7×18.8× 4.6	1.78	平	I				安山岩	1
77-227	楔形石器	8T-46-1	28.4×22.7× 8.0	5.65	−					安山岩	4
	F	2	20.6×20.5× 9.8	2.60	自	II,IV				安山岩	4
	F	3	7.4×12.5× 2.2	0.21	線	I				安山岩	1
	F	4	15.9× 7.4× 2.5	0.39	線	I				安山岩	1
	F	5	12.5×15.0× 2.0	0.45	欠	I				安山岩	1
	F	6	19.6×31.1× 4.7	3.01	欠	I				粘板岩	1
	F	7	10.6×21.0× 1.5	0.40	線	I				粘板岩	1
	F	8	23.9×10.9× 3.6	1.05	線	I				粘板岩	1
	F	9	7.5×11.4× 2.4	0.16	欠	I				安山岩	1
	F	10	17.8×19.3× 3.7	1.12	平	I				粘板岩	1
	CH	12	7.7× 4.2× 1.2	0.06	線	I				安山岩	4
	F	8T-54-3	28.6× 3.5×11.6	8.56	欠	I,III				頁岩	2
	RF	4	26.4×28.9× 8.5	6.44	平	I,II	RB			チャート	1
	F	5	21.1×15.8× 5.4	1.56	平	I				安山岩	7
77-224	F	6	30.5×16.0× 8.9	4.44	平	I,IV	B			安山岩	6
77-226	掻器	8T-55-1	46.0×34.5×27.2	41.04	−					安山岩	8
	F	2	34.4×33.7× 6.6	6.03	自	III				安山岩	2
	F	3	27.8×14.9×10.1	3.23	平	I,II				安山岩	5
77-223	石刃	8T-56-3	35.9×19.8× 4.8	3.19	平	I				安山岩	5
	F	4	27.5× 8.3× 9.1	1.59	平	I				安山岩	5
	楔形石器	5	33.2×26.6× 5.5	4.31	−					安山岩	3
	F	3a	39.4×29.0× 7.5	7.54	平	I				安山岩	7
77-222	F	3b	39.0×27.4× 4.8	4.19	線	I,IV				頁岩	1
	F	4	41.3×2.54× 5.4	5.00	平	I,III				安山岩	7
	F	5	35.6×27.7× 4.5	4.29	平	I				安山岩	7
	F	6	22.8×18.5× 8.8	4.05	平	II,IV				安山岩	6
77-225	掻器・削器	7	49.9×46.6× 8.7	22.06	自		LH,RM			安山岩	7
77-224	F	8	53.6×22.4×12.8	14.40	欠	II				安山岩	6

第26表　第１文化層集中13石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1												1									1	6.44
頁岩 1																			1		1	4.19
2																			1		1	8.56
安山岩 1																			6		6	5.75
2																			1		1	6.03
3				1															1		2	8.19
4				1															2		3	8.31
5																		1	2		3	8.01
6																			3		3	338.76
7						1													4		5	40.45
8							1														1	41.04
9																			1		1	10.25
10																			1		1	0.07
粘板岩 1																			6		6	15.07
総計	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	29		35	185.30
%	0	0	0	5.7	0	2.9	2.9	0	0	0	0	2.9	0	0	0	0	0	2.9	82.7		100	

(14)　集中14（第82～85図　第27、28表）

位　置

第3調査区の舌状台地の基部西側で検出された集中で、他の集中からは約30mほど離れて位置している。南から入り込んでくる支谷の谷頭にあたり、台地西側の谷を見渡せる位置にある。

遺物分布状況

遺物は4R—08グリッドを中心に東西4m、南北8mの範囲から散漫に出土した。

母岩別分布

チャート1種、頁岩2種、安山岩3種、流紋岩1種の7点で、すべて単体の出土であり、各々が1mあるいは1m以上離れて散漫に分布している。

石　材

チャート1種1点、頁岩2種2点、安山岩3種3点、流紋岩1種1点である。チャート1は暗灰色で筋状に暗色鉱物を混入するものである。頁岩は暗灰色のものと淡青灰色に乳白色の鉱物を脈状に混入するもの、安山岩は青灰色を呈するものである。

器　種（第28表）

鋸歯縁石器1点、使用痕のある剝片6点、剝片5点で構成される。

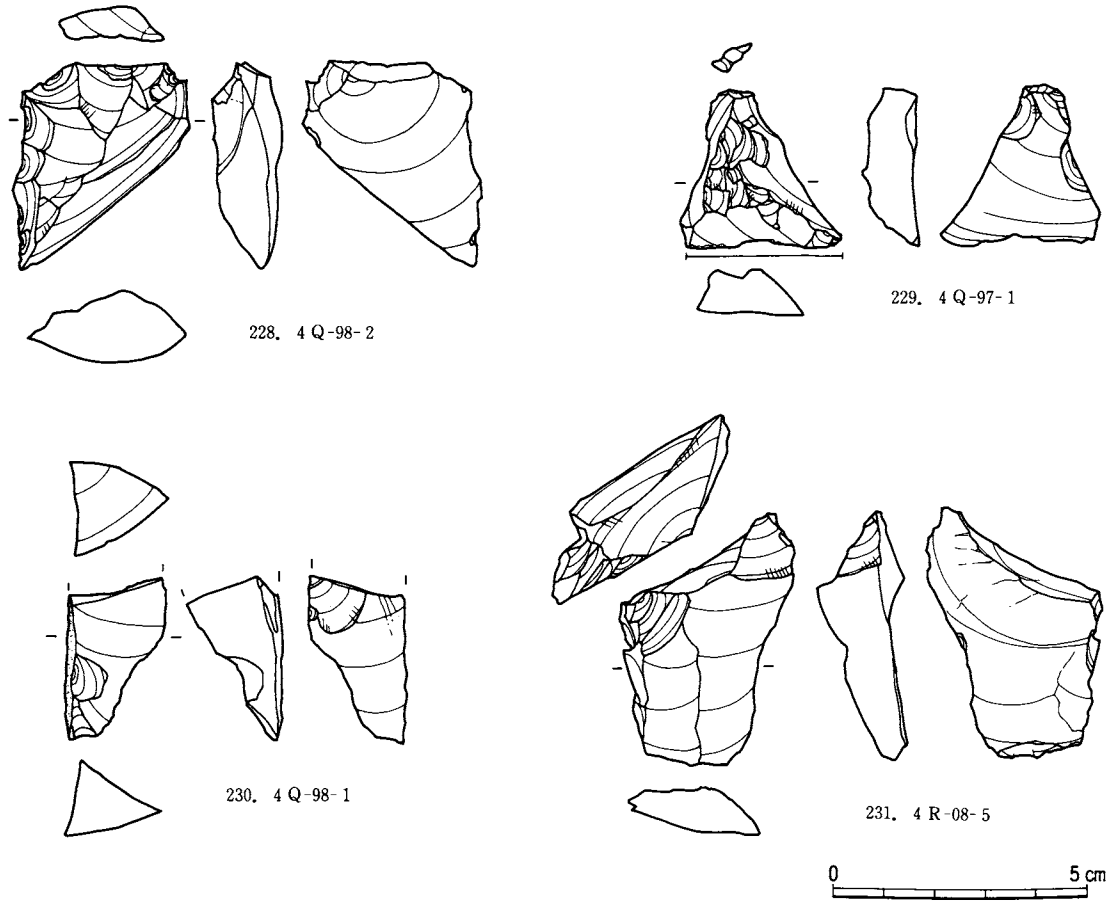
集中14の石器（第82図　図版28）

228は頁岩製の鋸歯縁石器である。幅広の剝片を素材とし、左側辺には鋸歯状の刃部を形成している。

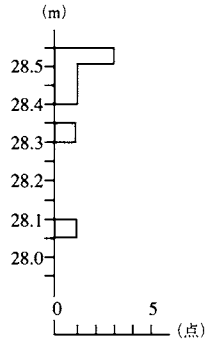
229は頁岩の使用痕つき剝片である。230は流紋岩の剝片である。231は安山岩の剝片である。

(15)　IX層からX層にかけて検出された炭化粒集中地点について（第85図）

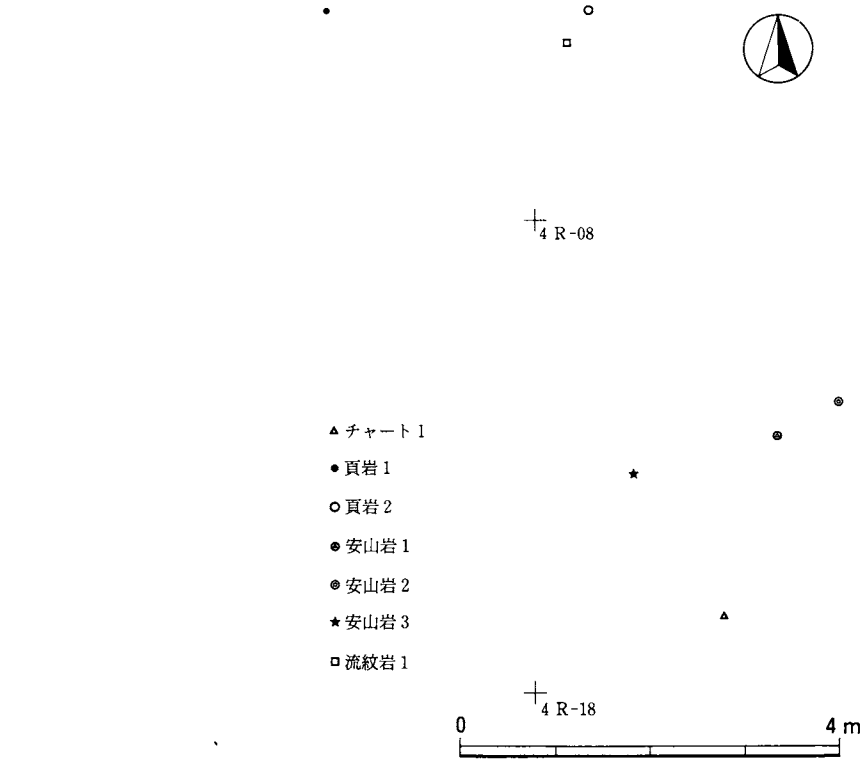
IX層の精査中に炭化粒の集中か所が第1調査区で検出された。検出された地点は6R—42,43,52,53グリッドにわたる東西8m、南北5mの範囲で0.2mほどの厚さで確認されている。特に炭化粒が集中しているか所は6R—42グリッドである。焼粗や焼土粒は確認できなかったが炭化粒の検出された地点は、第1文化層集中2の範囲内の南東部の遺物が疎に分布する箇所に相当している。なお、発掘調査に当たっては、特に入念に炭化物片の遺存に留意したが、本地点以外からはまとまった集中は検出されていない。



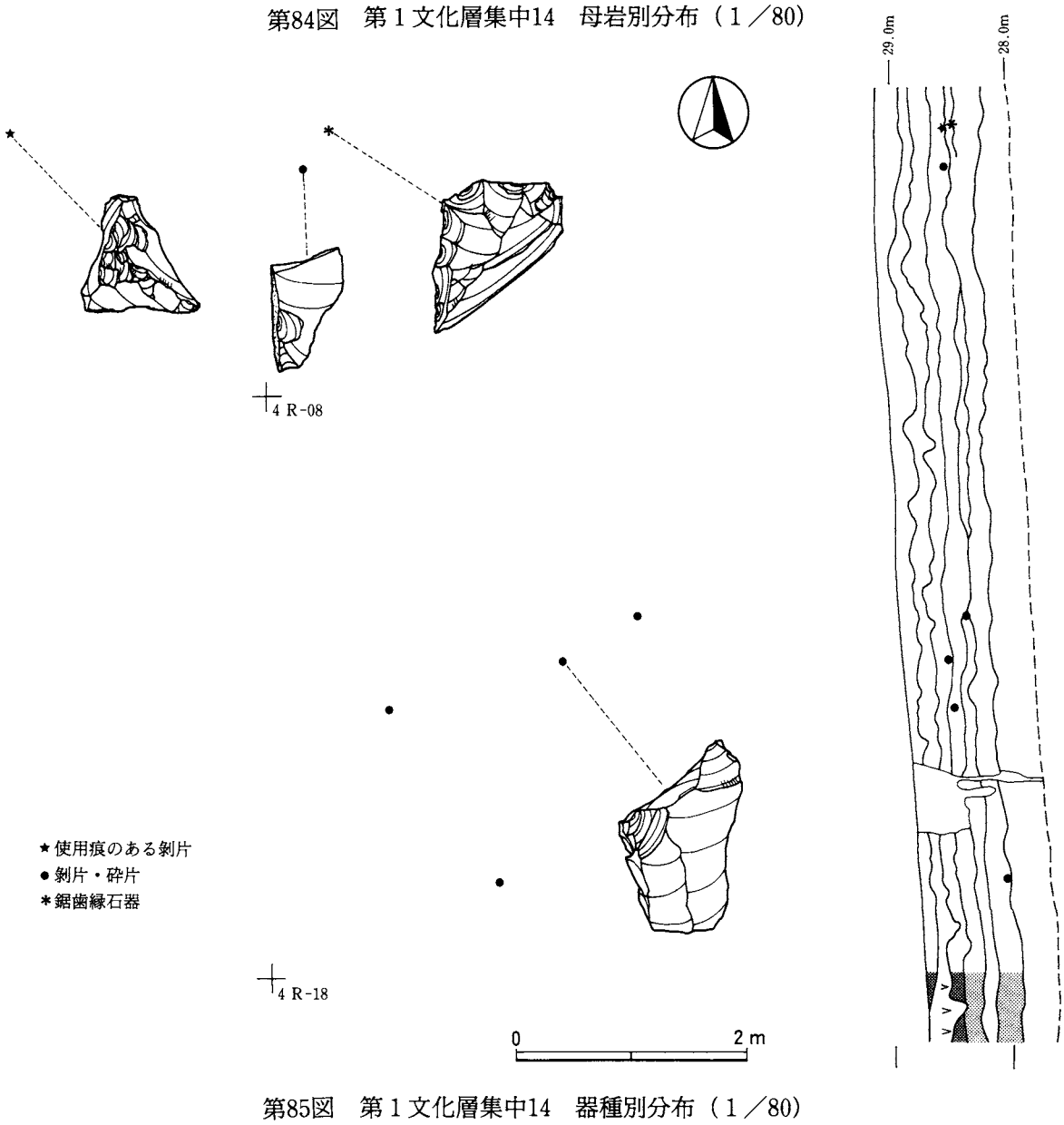
第82図　第１文化層集中14　出土石器（２／３）



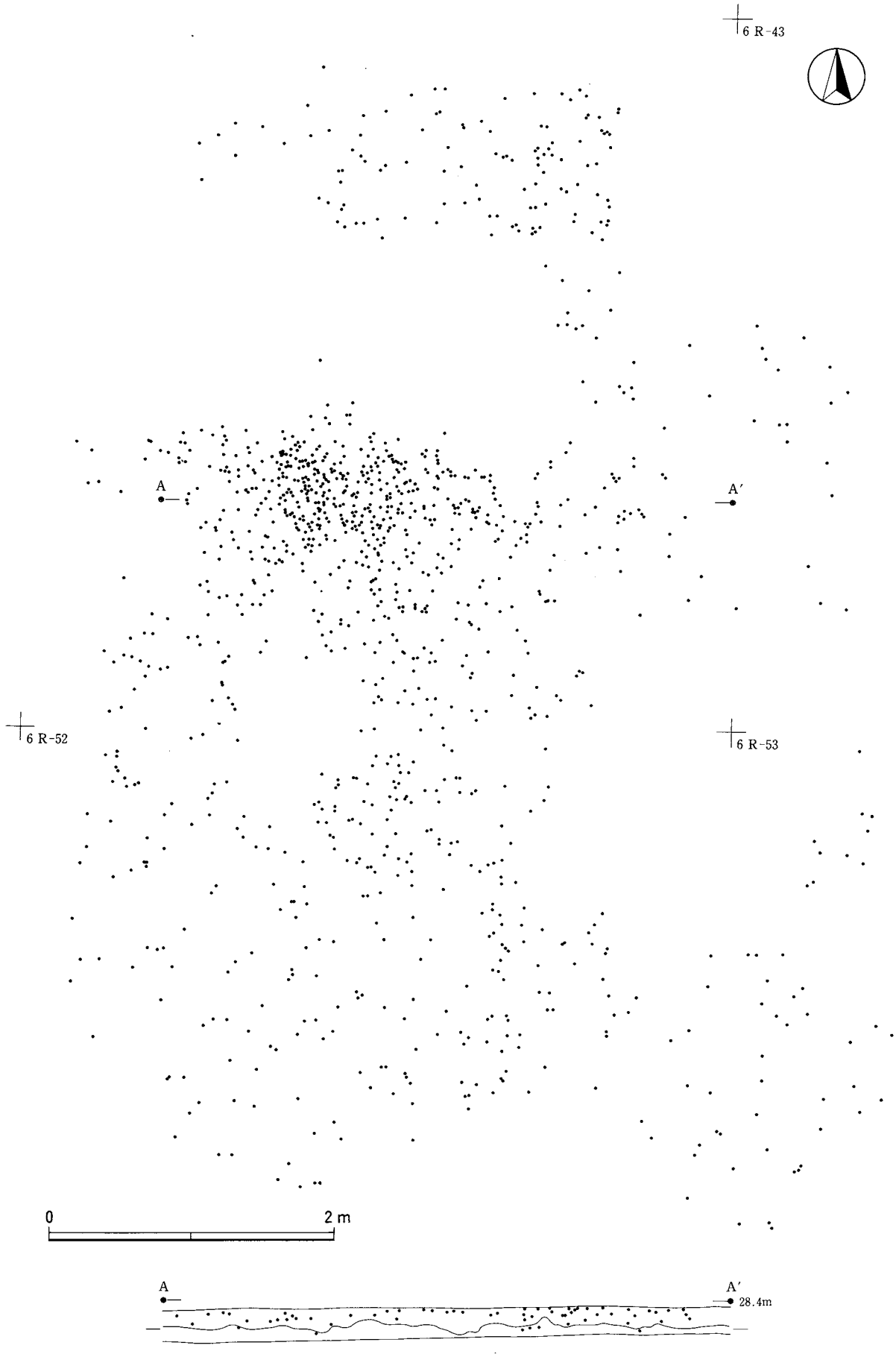
第83図　第１文化層集中14
遺物垂直分布図



第84図　第1文化層集中14　母岩別分布（1／80）



第85図　第1文化層集中14　器種別分布（1／80）



第86図　X層炭化物検出状況（1／40）

第27表　第１文化層集中14　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
81-229	UF	4Q-97-1	31.0×31.6×11.2	6.59	剝	I,II		B		頁岩	1
81-236	F	98-1	32.4×19.6×18.0	6.34	欠					流紋岩	1
81-228	鋸歯縁石器	2	41.5×33.5×14.0	14.43	−					頁岩	2
	F	4R-080-3	30.3×20.3× 6.8	3.92	平	I				安山岩	3
	F	4	19.5×25.1× 4.8	1.52	点	I,III			L	チャート	1
81-231	F	5	50.6×33.5×17.5	17.65	剝	I,II			B	安山岩	1
	F	6	30.7×16.9× 6.9	3.54	剝	I				安山岩	2

第28表　第２文化層集中14　石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1													1								1	1.52
頁岩 1													1								1	6.59
2									1												1	14.43
安山岩 1													1								1	17.69
2													1								1	17.65
3													1								1	3.54
流紋岩 1													1								1	3.92
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	5		7	6.34
%	0	0	0	0	0	0	0	0	14.3	0	0	0	14.3	0	0	0	0	0	71.4		100	54.99

5　第２文化層

第２文化層は、姶良Tn火山灰層直下の層準から出土している石器である。本遺跡の石器群は、Ⅶ層石器群の様相を端的に示している良好な資料群である。特に集中地点ごとのナイフ形石器の製作技法の差異にその資料的価値が見いだされる。第２文化層に含まれる集中は本遺跡では集中15～17の３か所で出土している。

１．集中15（第87～90図　第29、30表　図版４、６）

位　置

第１調査区北側の舌状台地基部にあたり、調査範囲の北限に近い位置で検出した集中である。

遺物分布状況

遺物は16点が出土したが、頁岩１が８点ほど６Ｑ—82・92グリッドにまたがる２ｍ×２ｍの範囲で検出された他は、散漫な分布を呈している。このうち頁岩１の３点が接合した。

母岩別分布

頁岩３種12点、黒曜石１種１点、安山岩３種３点の計16点で構成され、頁岩が主体を占めている。頁岩１、頁岩２は近接して出土している。接合資料を含むものの、集中内での母岩消費は限定的なものであったと考えられる。

石　材

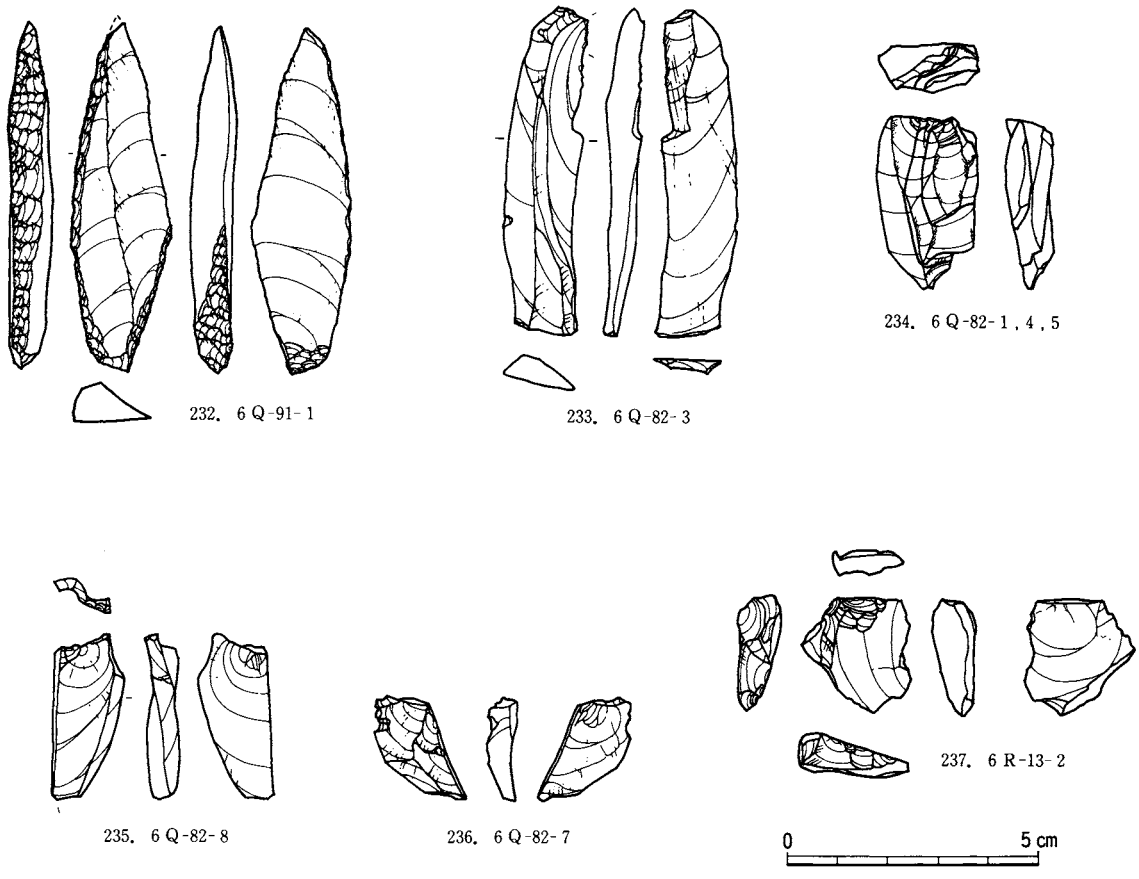
頁岩３種12点、黒曜石１種１点、安山岩３種３点の計16点で構成される。頁岩１は淡い灰褐色、２はチョコレートのような茶色、３は暗灰色を呈する。黒曜石１は透明に近く不純物を含まないもの、安山岩２は淡灰色のものである。

器　種（第30表）

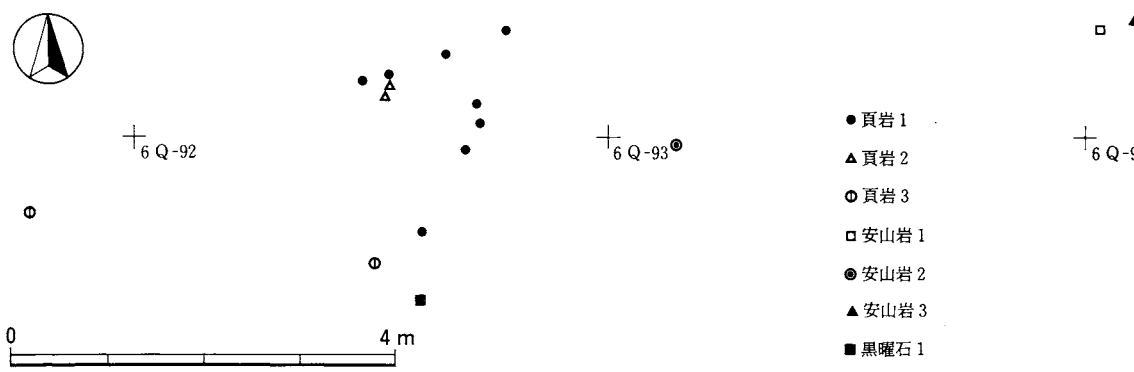
ナイフ形石器１点、楔形石器１点、使用痕のある剝片１点、石刃３点、剝片・砕片10点で構成される。

集中15・16の石器（第87図232～236　図版29）

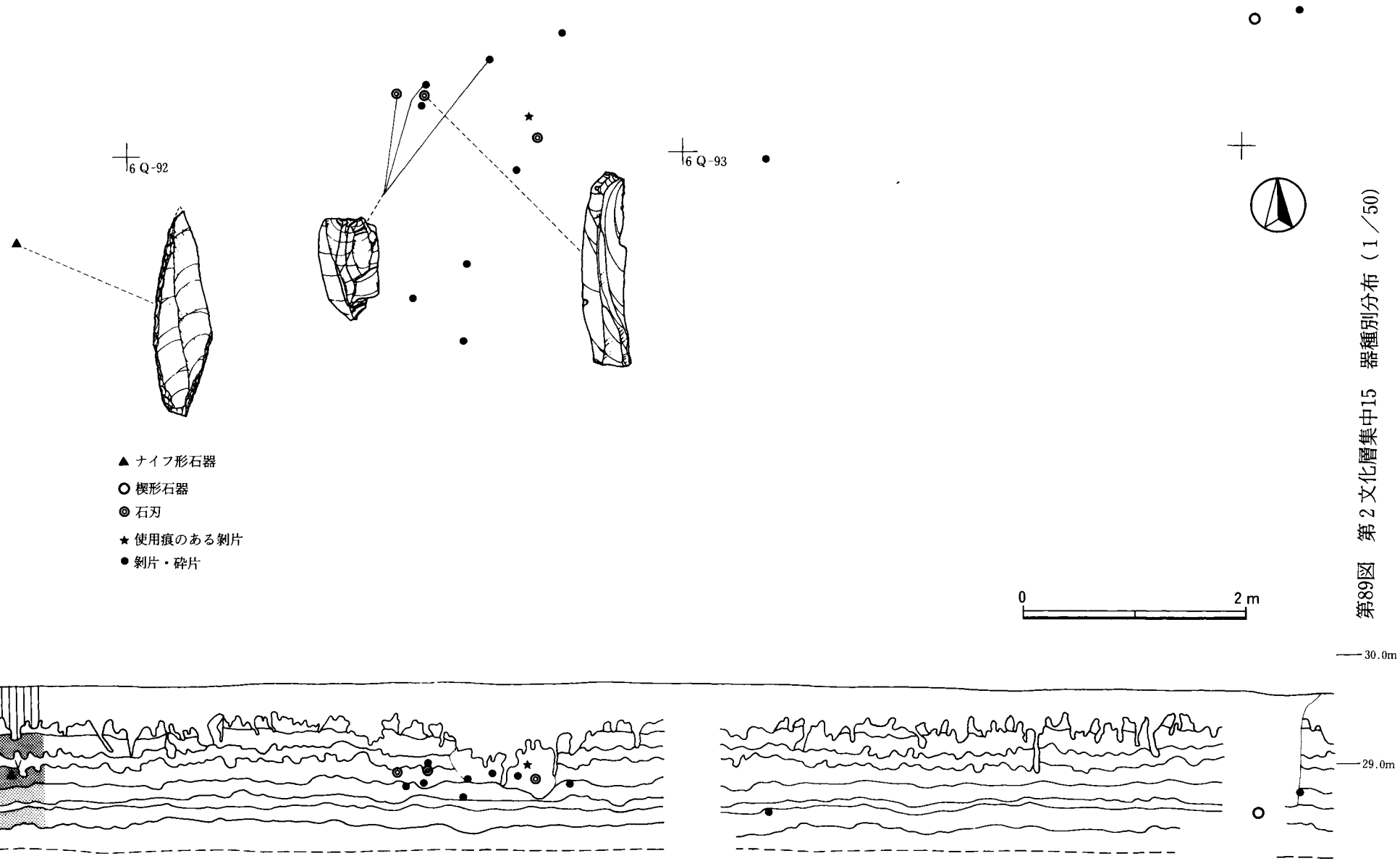
232は頁岩の石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器である。打面側を基部にして、急角度の剝離できれいに整形されている。基部は背面側から平坦な剝離で整形されている。233～235は硬質頁岩製の小型石刃である。234は小型石刃の接合資料で４点が接合しており、幅の狭い板状の石核の小口面を作業面とし、小型石刃が連続的に生産されている。236は硬質頁岩製の剝片である。



第87図　第2文化層集中15（232～236）・16（237）出土石器（2／3）



第88図　第2文化層集中15　母岩別分布（1／80）



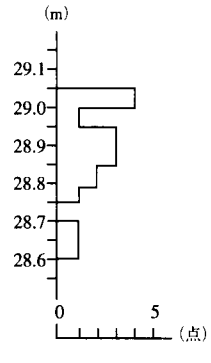
第89図　第２文化層集中15　器種別分布（１／50）

第29表　第２文化層集中15　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
86-234	石刃	6Q-82-1	34.8×17.3× 7.2	3.68	平	I,II				頁岩	1
	F	2	11.2×12.5× 2.5	0.37	欠	I			H～M	頁岩	2
86-233	石刃	3	65.8×16.0× 6.4	5.31	線	I		RH,LM	B	頁岩	2
	F	4	29.4×14.5× 2.5	1.47	平	I,IV				頁岩	1
	F	5	19.9×13.4× 2.7	0.47	線	I,IV			B	頁岩	1
	UF	6	14.1× 8.0× 1.7	0.24	平	I				頁岩	1
86-236	F	7	26.3×12.6× 6.4	1.61	剝	I,II,III				頁岩	1
86-235	石刃	8	33.3×13.9× 7.5	2.32	平	I,II,IV				頁岩	1
86-232	ナイフ形石器	6Q-91-1	68.9×19.8× 8.0	10.07	−		L,RB			頁岩	3
	CH	6Q-92-2	8.4× 8.0× 2.6	0.13	線	I,II				頁岩	3
	CH	3	4.7× 6.9× 0.4	0.01	欠	I			H	黒曜石	1
	F	4	13.6× 4.6× 3.1	0.16	線	II,IV				頁岩	1
	F	5	14.1× 6.9× 2.0	0.17	線	I				頁岩	1
	CH	6Q-93-2	7.3× 8.1× 2.3	0.18	剝	I				安山岩	2
	楔形	6Q-84-1	24.9×21.2× 6.5	3.87	−					安山岩	1
	F	2	28.5×21.4× 5.0	2.32	平					安山岩	3

第30表　第２文化層集中15　石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
頁岩 1													1					2	5		8	10.12
2																		1	1		2	5.68
3			1																1		2	10.20
安山岩 1				1																	1	3.87
2																			1		1	0.18
3																			1		1	2.32
黒曜石 1																			1		1	0.01
総計	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	10		16	32.38
%	0	0	6.2	6.2	0	0	0	0	0	0	0	0	6.2	0	0	0	0	18.7	62.5		99.8	



第90図　第２文化層集中15
遺物垂直分布図

2．集中16（第87図237、第91～93図　第31、32表）

位　置

第1調査区の集中3の西側に重なって検出された集中で6R—02,12,13グリッドを中心に5m×5mほどの範囲に分布する。

遺物分布状況

6R—12グリッドを中心に散漫な分布状況を呈する集中であり、遺物は7点が出土した。

母岩別分布

チャート1が3点の他は単体での出土である。

石　材

チャート3種5点、安山岩1種1点、凝灰岩1種1点の7点で構成される。

器　種（第32表）

二次加工の残る剝片1点、剝片・砕片6点である。

集中16の石器（第87図　図版29）

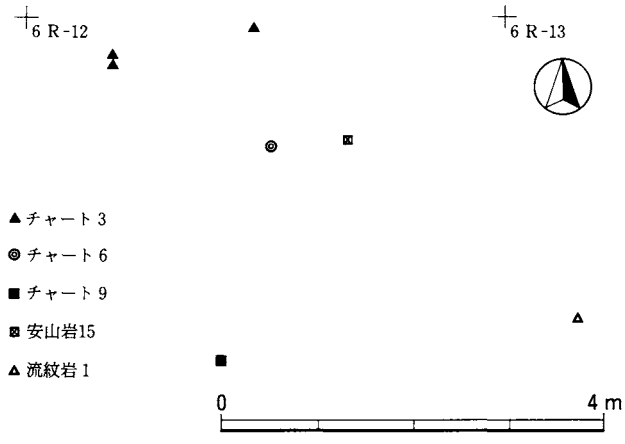
237は凝灰岩の矩形の剝片である。背面左側縁に背面側からの細かい剝離痕が認められ、あるいは腹面を切る二次加工かもしれない。

第31表　第2文化層集中16　石器属性表

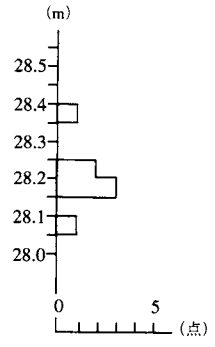
図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	F	6R-12-3a	13.2×20.4× 8.8	2.26	平	I				チャート	3
	F	3b	10.1× 8.5× 4.8	0.42	欠	I			H	チャート	3
	F	4	24.2×12.0× 3.2	0.69	点	II,III				チャート	9
	F	5	9.9×14.2× 4.3	0.60	欠	I			H	チャート	6
	CH	6	6.8× 8.3× 2.6	0.21	自					安山岩	15
	CH	9	6.0× 9.3× 4.5	0.26	自					チャート	3
86-237	UF	6R-13-2	21.7×21.3× 9.8	3.11	−					凝灰岩	2

第32表　第2文化層集中16　石器組成表

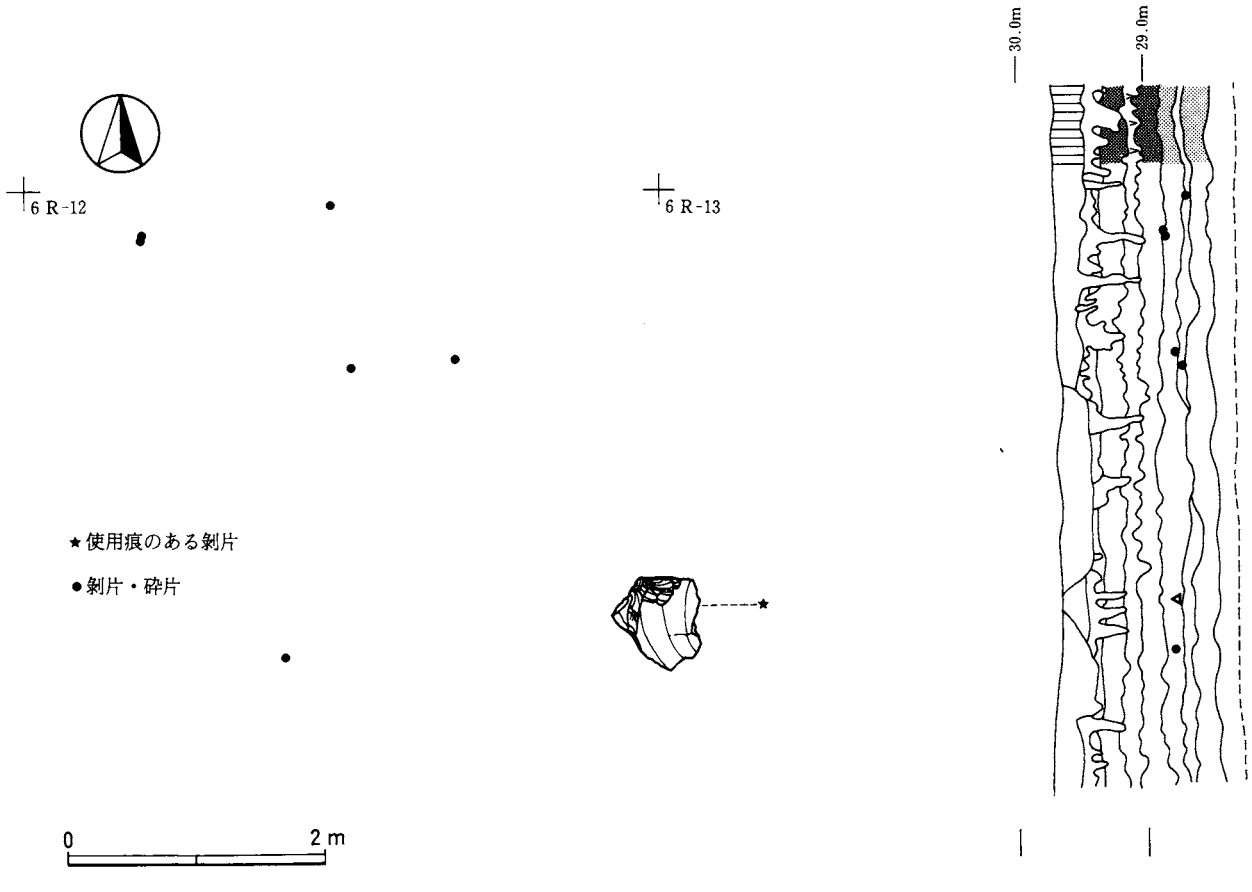
	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1																			3		3	2.94
2																			1		1	0.60
3																			1		1	0.69
安山岩 1																			1		1	0.21
流紋岩 1												1									1	3.11
総　計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	7	7.55
%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14.3	0	0	0	0	0	0	85.7	0	100	



第91図　第2文化層集中16　母岩別分布（1／80）



第93図　第2文化層集中16
遺物垂直分布図



第92図　第2文化層集中16　器種別分布（1／60）

3．集中17（第94～97図　第33、34表）

位　置

第1調査区の舌状台地の中央部やや東よりの谷によった位置で集中11と重複する6R—53・54グリッドで検出された集中で東西2m、南北2mほどの範囲で検出した。

遺物分布状況

遺物出土状況は上記の2m×2mに集中して分布している。

母岩別分布

頁岩と黒曜石から構成され、集中に頁岩は単体で客体的に散在しているのに対して黒曜石1では11点、黒曜石2では2点、黒曜石3では3点、黒曜石4では8点が0.5m×0.5mという狭い範囲内で検出されている。このことから接合はしないものの、黒曜石1と4については剝離作業が行われた可能性はあるが、遺物の遺存状況から見てそれも限定的なものであったと考えられる。

石　材

頁岩3種、黒曜石4種の27点で構成される。

器　種（第34表）

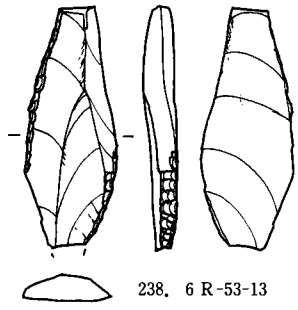
ナイフ形石器3点、楔形石器1点、削器2点、二次加工のある剝片1点、使用痕のある剝片2点、剝片・砕片18点が含まれる。

集中17の石器（第94図　図版29）

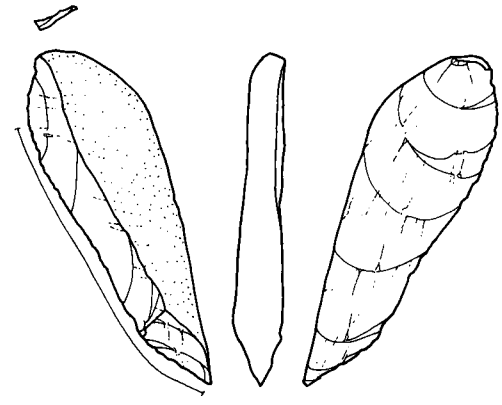
238は頁岩の石刃素材の二側縁斜め整形加工のナイフ形石器である。239は頁岩の石刃である。背面左側縁に微細剝離痕が連続する。240は黒曜石のナイフ形石器である。しかし通常のナイフ形石器と異なり逆三角形状の形態をしており、短く水平な刃部をもつ特異な例で、いわゆるトランケーションである。細部加工は背面左側が急斜な切り取り剝離、左側は細かな整形剝離である。刃部にも微細な刃こぼれが認められる。

241は黒曜石の非常に小型のナイフ形石器としたが、錐かもしれない。素材はいわゆるブランティングチップであり、基部右側に細かい二次加工が観察される。240と同一母岩である。242は黒曜石の加工痕のある剝片であるが、破損しているため詳細は不明である。

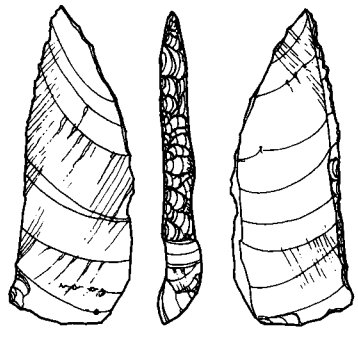
243は黒曜石の石刃素材の石器の断片である。細部加工は腹面側にあり、平坦な剝離痕からなる。244は黒曜石の厚い剝片を素材にした複刃削器である。細部加工は背面両側縁に集中する。245は黒曜石の使用痕つき剝片である。246は黒曜石の両極剝片である。247は黒曜石の小型の剝片である。



238. 6 R-53-13



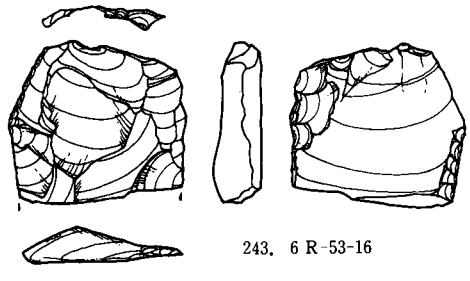
239. 6 R-53-14



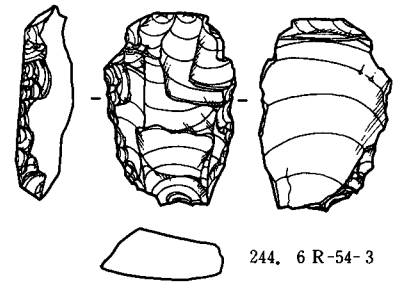
240. 6 R-54-7

241. 6 R-54-18

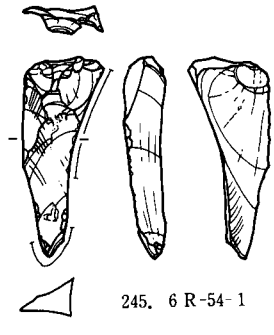
242. 6 R-54-19



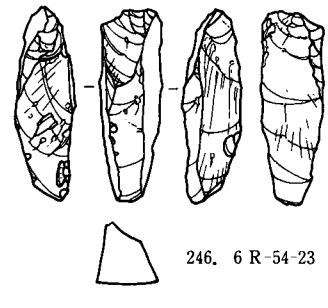
243. 6 R-53-16



244. 6 R-54-3



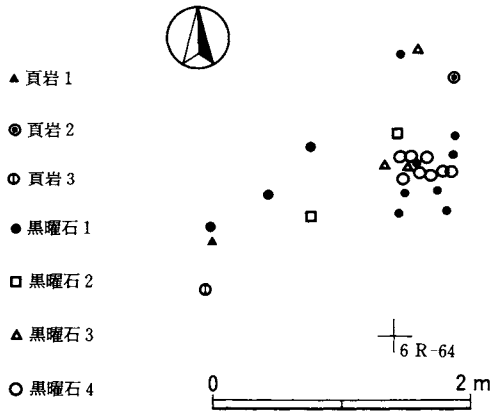
245. 6 R-54-1



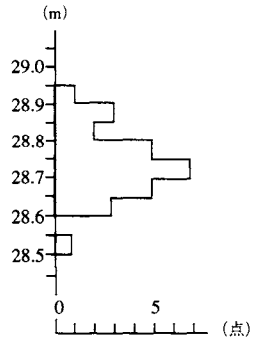
246. 6 R-54-23

247. 6 R-54-10

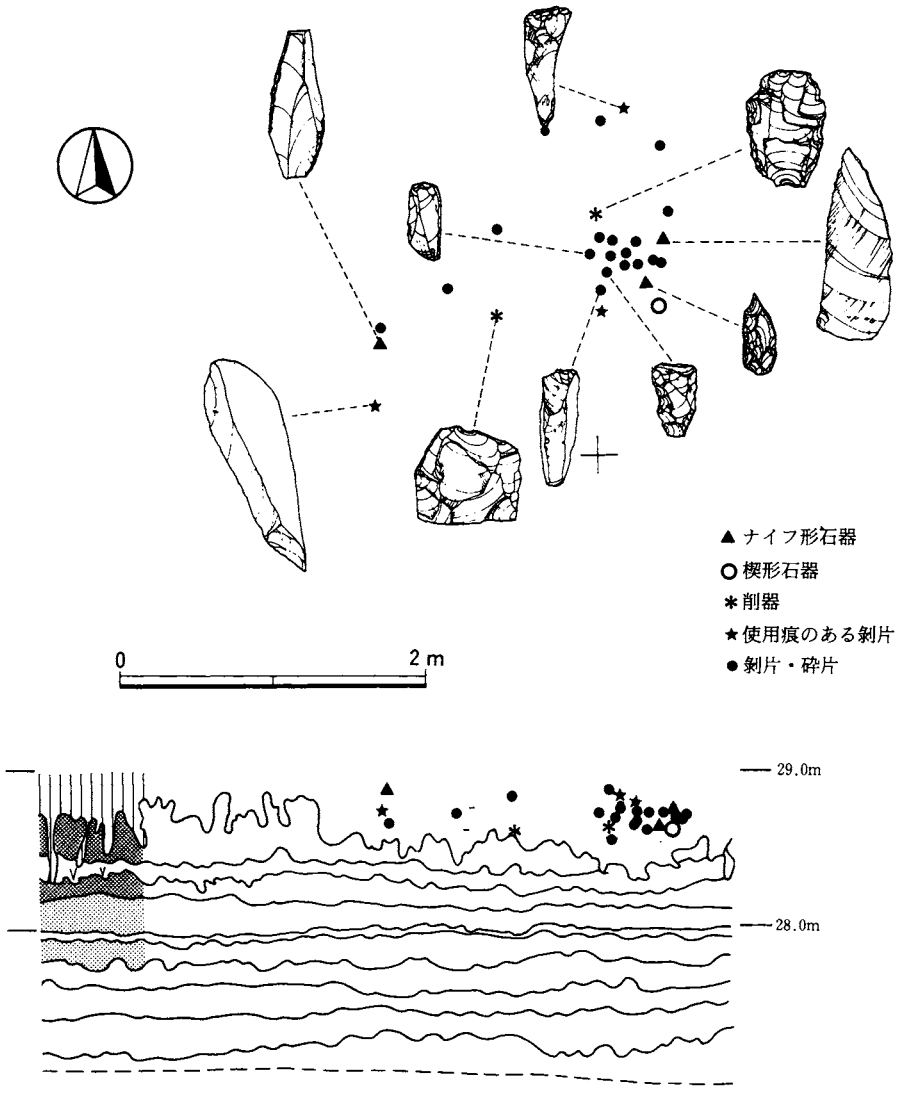
第94図　第２文化層集中17　出土石器（２／３）



第95図　第 2 文化層集中17　母岩別分布（1／60）



第97図　第 2 文化層集中17
遺物垂直分布図



第96図　第 2 文化層集中17　器種別分布（1／40）

第33表　第２文化層集中17　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	6R-53-8	13.0×14.9× 4.0	0.54	平	II				黒曜石	1
	F	10	11.0×16.0× 3.2	0.48	点	I				黒曜石	3
93-238	ナイフ形石器	13	48.2×17.5× 5.8	5.60	−					頁岩	1
93-239	石刃	14	71.7×24.0× 8.2	14.64	平	I				頁岩	3
	F	15	19.4× 6.4× 2.9	0.34	平	I				黒曜石	1
93-243	RF	16	30.0×34.8× 7.5	9.04	平	I	LR		M～B	黒曜石	2
	F	18	18.4× 6.8× 4.2	0.47	平	II				黒曜石	1
93-245	UF	6R-54-1	37.9×16.0× 7.8	3.13	欠	I,III				黒曜石	3
93-244	削器	3	36.8×25.3× 9.3	9.80	−					黒曜石	2
	F	4	12.4×14.5× 3.9	0.71	−	I,II				黒曜石	1
	F	5	19.7×11.5× 3.4	0.77	線	I				頁岩	2
	F	6	20.5× 9.7× 4.7	0.54	平	I,II				黒曜石	1
93-240	ナイフ形石器	7	60.7×22.2× 7.2	8.12	−					黒曜石	1
	CH	8	7.7× 4.2× 0.5	0.04	線	I				黒曜石	4
	F	9	7.1×14.2× 3.4	0.38	点	I			B	黒曜石	1
93-247	F	10	17.2× 7.6× 3.0	0.49	平	I		LB		黒曜石	3
	F	11	6.0×13.0× 2.2	0.16	平	I				黒曜石	4
	CH	12	4.6× 9.5× 1.6	0.09	−	I				黒曜石	4
	CH	13	9.3× 6.6× 1.7	0.11	線	II				黒曜石	4
	CH	14	7.0×11.0× 3.7	0.22	剝	I				黒曜石	4
	CH	15	8.9× 5.3× 2.2	0.08	欠	I				黒曜石	4
	CH	16	5.5× 7.9× 1.0	0.05	点	I				黒曜石	4
	CH	17	6.0× 7.9× 1.3	0.05	線	I				黒曜石	4
93-241	ナイフ形石器	18	19.4× 7.7× 4.1	0.56	−					黒曜石	1
93-242	RF	19	23.5×14.3× 6.3	1.92	−					黒曜石	1
	楔形石器	22	7.0× 8.5× 7.3	0.38	−	I		L		黒曜石	1
93-246	F	23	372.×11.7×11.2	5.00	−	I		L		黒曜石	1

第34表　第２文化層集中17　石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
頁岩	1			1																		1	5.60
	2																			1		1	0.77
	3													1								1	14.64
黒曜石	1			2	1								1							7		11	18.96
	2						2															2	18.84
	3													1						2		3	4.10
	4																			8		8	0.80
総計		0	0	3	1	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	18	0	27	63.71
%		0	0	11.1	3.7	0	7.4	0	0	0	0	0	3.7	7.4	0	0	0	0	0	66.3	0	100	

6　第３文化層　（第98～104図　第35～38表　図版６）

第３文化層は、信州産と推定される黒曜石を用い、石刃と二側縁加工のナイフ形石器を特徴とる石器群である。本遺跡からは２か所（集中18、19）でこの層から遺物が出土したが、うち１か所はナイフ形石器の製作跡と考えられる。

１．集中18（第98～100図　第35、36表　図版30）

位　置

集中18は第１調査区の舌状台地平坦部の先端の東西両側の谷を見渡せる位置にあって、６Ｓ―20グリッドを中心に５ｍ×５ｍほどの範囲から石器、剥片、砕片を含めて黒曜石を主体に構成された集中である。遺物総点数は剥片・砕片を中心に1,056点を数える。石器中にはナイフ形石器が多く含まれ、剥片・砕片はナイフ形石器製作時の二次的産物として捉えることができよう。

遺物分布状況

６Ｓ―20･30グリッドを中心に黒曜石５種を主体として1,056点で構成される集中である。頁岩１はいわゆるチョコレートブラウン色の硬質頁岩製のナイフ形石器（248）であるが１点のみの出土であり、客体的である。

母岩別分布

黒曜石５種、頁岩１種、凝灰岩１種の計1,056点で構成される。本集中は黒曜石が主体をなし、黒曜石１～３が混在して濃密な分布を構成している。

石　材

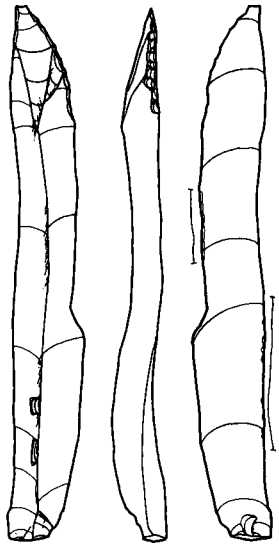
黒曜石５種1,052点、頁岩１種３点、凝灰岩１種１点の計1,056点で構成される。黒曜石１は透明に近く、不純物を含まないもの、２はわずかに黒色を呈するものである。頁岩１はチョコレートブラウン色の硬質頁岩である。

器　種（第36表）

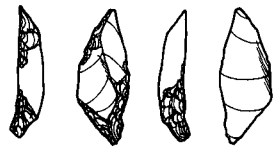
ナイフ形石器19点、楔形石器１点、二次加工のある剥片２点、使用痕のある剥片10点、石刃３点、剥片1,021点から構成される。

集中18の石器

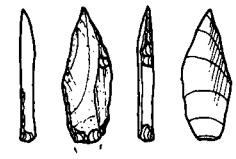
248は東北地方の硬質頁岩(いわゆるチョコレート頁岩)を素材としたナイフ形石器である。基部に素材の打面を残し、先端部に刃潰し加工をしている。249～257は黒曜石のナイフ形石器、およびその断片である。二側縁に刃潰し加工をし、先端を尖らせている。本遺跡のナイフ形石器は、基部を加工によって尖らせるのが特徴である。258は黒曜石のヒンジフラクチャーの強い剥片を折り取り石器をつくろうとしている断片である。図示していないが、左辺はヒンジフラクチャーを除去する加工が観察できる。259、260は黒曜石の小型の石刃である。261は黒曜石の大形の石刃を用いた石器の断片である。両側縁にやや急斜な細部加工があり、削器の仲間かと見られる。262は黒曜石の打面調整のある縦折れの石刃である。背面左側縁に角礫原礫面を留める。263～272は黒曜石製の剥片である。本遺跡では石器製作による多量の剥片類、砕片などが出土した。その剥片類の一部を図化したものである。比較的大きな剥片類を図化し、残りの剥片類は図化したものよりも、かなり小さなものである。ナイフ形石器の製作剥片も観察できた。263～265,267,268には使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。



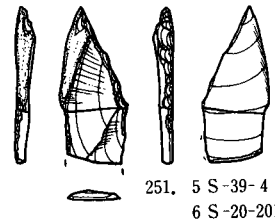
248. 6 S-20-227



249. 6 S-20-40

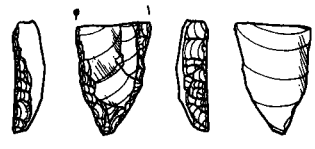


250. 6 S-20-202

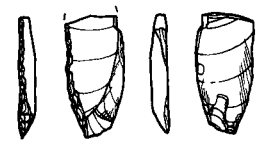


251. 5 S-39-4
6 S-20-201

252. 6 S-20-592



253. 6 S-20-753

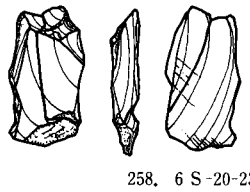


254. 6 S-20-423

255. 6 S-20-829

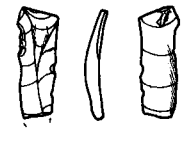
256. 6 S-20-214

257. 6 S-20-275

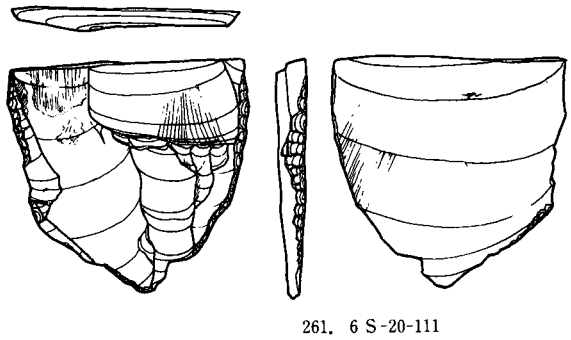


258. 6 S-20-237
5 S-29-10

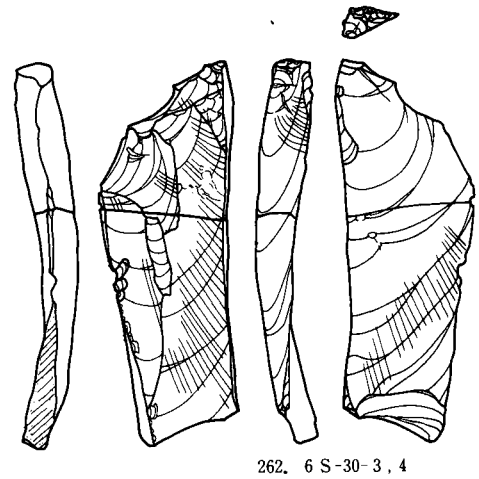
259. 6 S-30-32



260. 6 S-30-9



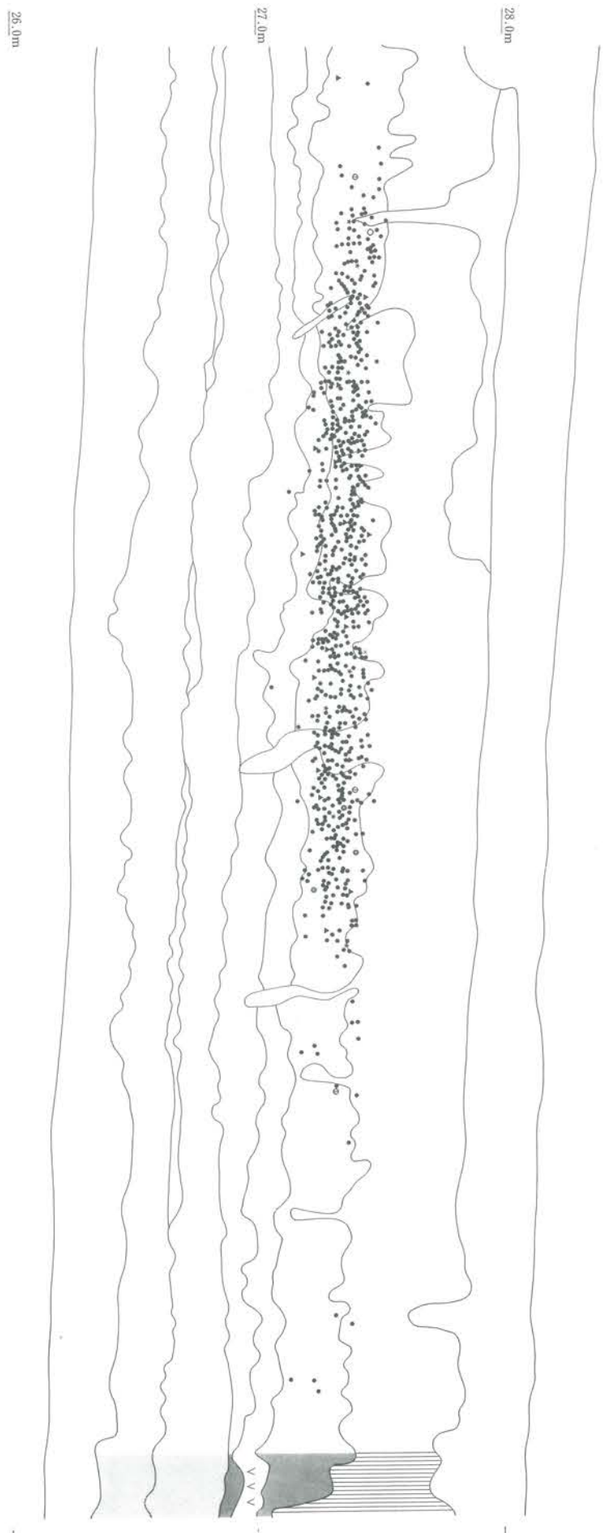
261. 6 S-20-111

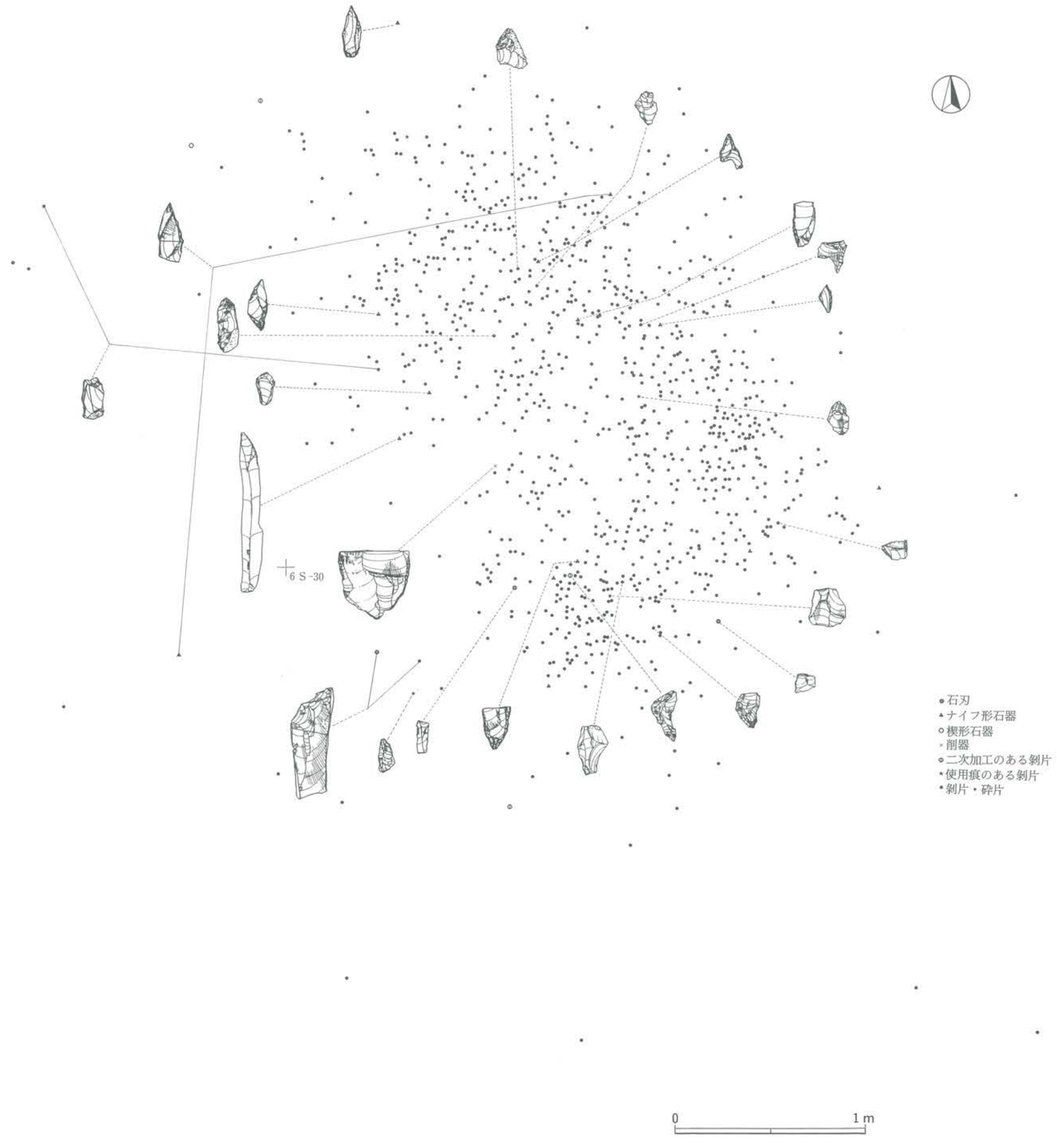


262. 6 S-30-3, 4

第98図　第３文化層集中18　出土石器（２／３）

第99図　第 3 文化層集中18　母岩別分布（1／40）





第100図　第３文化層集中18　器種別分布（１／25）

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	5S-29-3	17.3×10.6× 4.2	0.64	線	I,III				黒曜石	2
	RF	7	4.2× 6.4× 0.9	0.04	平	I				黒曜石	3
	楔形石器	8	16.0×19.5× 7.0	1.78	－					黒曜石	2
	F	10	13.0×26.2× 4.8	1.62	－					黒曜石	1
	F	11	16.9×18.0× 5.5	2.19	平	I			L	凝灰岩	1
	CH	12	2.2× 2.8× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	3
	CH	13	7.5× 3.3× 1.3	0.05	点	I				黒曜石	3
	CH	14	3.1× 2.4× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	15	3.5× 1.2× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	3
	CH	5S-39-3	9.3× 5.7× 1.1	0.07	剝	I				黒曜石	2
97-251	ナイフ形石器	4	20.2×12.5× 3.6	0.72	－				M～B	黒曜石	4
	CH	5	7.0× 3.9× 1.0	0.05	平	I				黒曜石	2
	F	6	8.6×12.5× 6.7	0.71	平	I			B	黒曜石	2
	F	6S-20-3	26.6×11.8× 4.2	0.76	欠	I,III		RM	H	黒曜石	1
	CH	4	7.4× 2.6× 0.5	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	5	3.7× 1.3× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	6	3.6× 2.1× 0.9	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	7	1.4× 5.9× 0.6	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	F	8	16.1×17.9× 2.1	0.50	線	I		B		黒曜石	3
	CH	9	13.9× 4.5× 3.4	0.16	点	I,II				黒曜石	1
	CH	10	3.7× 4.7× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	11	10.6× 6.7× 1.6	0.09	平	I				黒曜石	3
	CH	12	1.7× 1.6× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	13	4.8× 1.3× 1.1	0.01	点	I				黒曜石	2
	F	14	11.1× 5.0× 2.2	0.16	線	I			B	黒曜石	2
	CH	16	3.4× 1.5× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	17	9.3× 3.9× 0.9	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	18	5.2× 1.9× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	F	19	19.6×10.0× 4.5	0.60	欠	I,III				黒曜石	2
	CH	20	3.3× 1.7× 0.9	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	21	3.0× 1.1× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	22	3.9× 1.3× 0.5	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	23	2.2× 1.9× 0.2	<0.01	欠					黒曜石	2
	CH	24a	4.2× 3.0× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	24b	2.6× 5.7× 0.9	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	24c	2.2× 1.0× 0.7	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	25	3.9× 3.1× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	26	1.7× 4.0× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	27	2.2× 1.2× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	28	4.1× 8.7× 1.3	0.07	線	I			M～B	黒曜石	3
	CH	29	3.3× 5.8× 1.0	0.03	線	I			M～B	黒曜石	2
	CH	30	4.3× 4.1× 1.0	0.03	点	I				黒曜石	3
	CH	31	3.3× 1.9× 1.7	<0.01	平	I				黒曜石	2
	CH	32	2.5× 5.1× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	34	3.9× 3.0× 0.8	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	36	4.0× 1.9× 1.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	F	37	14.7×18.5× 4.7	1.30	平	I	LM		M～B	黒曜石	2
	CH	38	2.5× 3.0× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	39	2.7× 1.5× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
97-249	ナイフ形石器	40	26.0×10.5× 5.5	0.99	－					黒曜石	1
	CH	41	3.4× 3.1× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	42	3.0× 3.1× 1.0	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	43	11.8× 4.1× 1.3	0.05	線	I				黒曜石	3
	CH	44	3.5× 2.5× 0.6	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	46	4.5×11.8× 2.8	0.13	線	I				黒曜石	3
	CH	47	1.9× 1.8× 0.8	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	48	3.4× 5.1× 0.7	<0.01	点	I			B	黒曜石	2
	CH	49	5.0× 3.9× 0.9	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	50	5.0× 2.8× 1.1	0.02	点	I,III				黒曜石	2
	CH	51	4.7× 2.2× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	52	3.0× 5.7× 0.8	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	53	1.3× 2.5× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	54	3.8× 1.4× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	55	7.1× 2.7× 1.8	0.03	点	I II				黒曜石	3
	CH	56	4.0× 2.3× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
101-269	F	57	25.5×20.2× 5.8	1.85	点	I,IV		B		黒曜石	1
	CH	58	2.6× 4.0× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	59	2.9× 4.6× 0.6	0.01	線	I				黒曜石	2
	F	60	17.8×14.1× 3.5	0.58	欠	I,II			HB	黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	CH	6S-20-61	2.8× 1.5× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	62a	5.2× 6.5× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	62b	3.5× 4.4× 1.0	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	62c	2.5× 2.5× 0.9	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	62d	1.6× 2.2× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	63	3.9× 5.3× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	64	6.1× 2.0× 0.8	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	65	6.4× 4.3× 1.0	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	66	3.0× 2.4× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	ナイフ形石器	67	9.2×18.2× 3.9	0.35	−					黒曜石	1
	CH	68	2.5× 8.2× 1.0	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	69	5.3× 2.7× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	70a	4.0× 2.4× 0.6	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	70b	3.8× 3.2× 1.0	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	71	3.4× 5.2× 0.4	<0.01	欠	I		H		黒曜石	2
	CH	72	1.6× 2.7× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	73	2.5× 2.3× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	74	2.4× 1.3× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	75	5.2× 2.9× 0.9	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	76	3.5× 2.4× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	77	9.6×10.5× 1.1	0.11	線	I				黒曜石	3
	CH	78	2.6× 2.7× 0.8	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	79	7.2× 4.5× 0.8	0.03	点	I				黒曜石	2
	F	80	11.1× 9.2× 3.8	0.34	欠	I			H～L	黒曜石	1
	CH	81	4.2× 2.5× 0.4	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	82	9.4×11.2× 1.3	0.11	欠	I				黒曜石	3
	CH	83	6.4× 7.5× 2.4	0.11	線	I,III				黒曜石	1
	CH	84	9.9× 6.8× 1.6	0.13	点	I			H	黒曜石	3
	CH	85	8.4× 3.3× 0.6	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	86	2.8× 6.5× 0.4	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	87	3.6× 9.0× 0.7	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	88	3.6× 3.2× 0.9	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	89	12.9×10.6× 3.1	0.46	線	I,III				黒曜石	2
	CH	90	5.1× 3.0× 2.3	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	91	5.1× 5.7× 1.8	0.06	線	I				黒曜石	3
	CH	92	11.1×3.5× 1.3	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	93a	7.4× 6.9× 1.4	0.09	点	I			H～L	黒曜石	2
	CH	93b	6.1× 4.5× 1.1	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	94	3.5× 3.1× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	95	3.4× 3.3× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	96	9.5× 6.8× 1.6	0.10	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	97	2.3× 4.6× 0.7	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	F	98	9.1×16.5× 1.8	0.28	線	I				黒曜石	2
	CH	99	4.4×10.0× 2.2	0.09	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	100	2.9× 3.8× 1.1	0.03	線	I				黒曜石	3
	CH	101	3.8× 7.8× 1.8	0.05	欠	I				黒曜石	3
	CH	102	3.4× 1.7× 0.7	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	103	4.8× 8.4× 1.9	0.09	平	I				黒曜石	3
	CH	104	5.8× 3.1× 1.4	0.03	平	I				黒曜石	2
	CH	105	7.7× 8.3× 1.3	0.09	点	I				黒曜石	3
	CH	106	6.8× 3.5× 1.4	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	107	5.2× 6.0× 0.7	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	108	8.5× 3.8× 1.8	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	109	5.9× 2.9× 0.8	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	110	3.7× 2.9× 0.6	0.01	点	I				黒曜石	2
97-261	削器	111	44.6×47.4× 5.5	11.74		I	R,L		H～M	黒曜石	5
	CH	112	4.4× 4.5× 1.1	0.03	線	I				黒曜石	3
	CH	113	4.3× 6.5× 1.1	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	114	4.1× 2.7× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	115	7.3× 2.8× 1.8	0.04	欠	I			H	黒曜石	3
	F	116	11.7×12.1× 1.2	0.15	欠	I				黒曜石	3
	CH	117	2.7× 3.5× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	F	118	15.8× 5.6× 1.7	0.13	点	I			B	黒曜石	3
	CH	119	2.3× 2.2× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	120	1.6× 4.3× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	121	3.4× 4.9× 1.1	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	122	9.5× 3.6× 1.7	0.05	線	I				黒曜石	3
	CH	123	1.7× 2.8× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	124	6.0× 3.1× 0.9	0.03	欠	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	CH	6S-20-125	6.8× 6.9× 1.2	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	126	2.2× 4.5× 1.0	0.01	平	I				黒曜石	2
	CH	128	3.2× 6.7× 1.1	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	129	2.5× 3.3× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	130	2.2× 1.5× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	131	2.6× 1.8× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	132	3.0× 5.1× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	133	1.6× 2.6× 0.6	<0.01	線	I			H	黒曜石	2
	CH	134	1.3× 3.1× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	135	13.3× 5.2× 2.2	0.09	平	I				黒曜石	3
	CH	136	4.7× 9.5× 1.7	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	137	1.8× 3.9× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	138	4.8× 3.4× 0.7	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	139a	2.9× 4.2× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	139b	2.3× 1.9× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	140	4.0× 6.0× 0.8	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	141	3.5× 5.1× 1.0	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	144	5.3× 1.8× 1.8	0.03	欠	I,III			H	黒曜石	3
	CH	145	10.5× 3.8× 1.0	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	146a	7.1× 3.8× 1.0	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	146b	2.5× 2.9× 1.3	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	147	3.3× 5.5× 1.6	0.05	線	I				黒曜石	3
	CH	148	5.0× 3.1× 1.0	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	149	2.3× 6.0× 1.2	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	150	3.8× 3.4× 1.0	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	151	16.6×14.0× 2.6	0.41	線	I				黒曜石	2
	CH	152	4.9× 4.8× 1.0	0.04	点	I				黒曜石	3
	CH	153	2.5× 6.0× 0.9	0.02	線	I				黒曜石	2
	F	154	14.8× 5.4× 2.4	0.16	点	I,II				黒曜石	2
	CH	155	2.3× 3.9× 0.8	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	156	3.0× 1.1× 0.6	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	157	3.5× 1.1× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	F	158	6.7×10.7× 2.1	0.15	線	I				黒曜石	2
	CH	159	7.8× 4.7× 1.8	0.07	線	I				黒曜石	3
	CH	160	2.5× 3.9× 0.9	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	161	5.0× 4.1× 2.7	0.05	平	I				黒曜石	3
	CH	162	4.4× 5.6× 1.2	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	163	6.2× 7.1× 3.0	0.16	平	I			M～B	黒曜石	2
	CH	164	3.6× 1.8× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	165	6.8× 6.8× 0.9	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	166	3.4× 6.0× 1.3	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	167	3.7× 6.4× 2.5	0.06	線	I,III				黒曜石	3
	CH	168	6.8× 5.1× 2.7	0.09	欠	I,IV				黒曜石	3
	CH	169	3.3× 3.4× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	170	3.5× 7.6× 1.4	0.04	線	I				頁岩	1
	CH	171	3.9× 5.8× 0.9	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	172	3.2× 3.6× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	173	1.9× 3.4× 0.5	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	174	8.2× 4.9× 0.5	0.02	線	II				黒曜石	2
	CH	175	7.0× 3.0× 1.1	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	176	3.3× 1.6× 0.4	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	177	6.4× 5.7× 0.9	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	178	3.5× 2.2× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	179	8.0× 5.1× 1.2	0.05	点	I				黒曜石	2
	CH	180	3.3× 4.7× 0.8	0.02	点	I				黒曜石	3
	F	181	14.8×11.0× 1.3	0.22	欠	I			H～M	黒曜石	3
	CH	182	3.4× 6.7× 1.4	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	183	3.9× 1.7× 0.5	<0.01	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	184	5.3× 1.8× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	185	4.4× 2.8× 0.7	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	186	3.5× 4.7× 1.0	0.02	線	I				黒曜石	2
	ナイフ形石器	187	12.2× 4.5× 2.4	0.13	－	d				黒曜石	3
	CH	188	3.9× 2.8× 1.5	<0.01	点	I				黒曜石	3
	CH	189	14.4× 7.5× 2.0	0.14	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	190	2.9× 4.5× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	191	6.0× 4.6× 1.1	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	192	6.1× 3.4× 0.5	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	193	5.7× 2.4× 0.9	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	194	7.7× 2.8× 1.5	0.05	平	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6S-20-195a	6.6× 2.6× 0.9	0.02	点	I,IIIa				黒曜石	2
	CH	195b	2.5× 5.8× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	196	1.9× 3.7× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	197	7.8× 2.6× 0.9	0.02	平	I				黒曜石	2
	CH	198	7.0× 4.2× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	199	3.4× 7.9× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	200	5.2× 5.8× 0.5	0.03	線	I				黒曜石	2
	ナイフ形石器	201	11.5× 9.9× 1.7	0.33	欠	II			H	黒曜石	4
97-250	ナイフ形石器	202	26.2× 9.3× 2.7	0.65	−					黒曜石	1
	CH	203	1.6× 3.4× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	204	5.7× 1.7× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	F	205	14.3× 7.1× 2.7	0.20	剝	I				黒曜石	1
	CH	206	5.8× 4.2× 0.5	0.03	剝	I				黒曜石	2
	CH	207	0.8× 3.5× 0.1	<0.01	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	208	2.9× 1.3× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	209	3.0× 2.2× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	210	2.2× 3.5× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	211	2.1× 4.3× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	212	5.8× 5.4× 0.6	0.04	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	213	6.0× 3.8× 0.3	0.01	欠	I			H～M	黒曜石	2
97-256	ナイフ形石器	214	12.8×11.5× 4.5	0.49	−					黒曜石	1
	ナイフ形石器	215	7.3×14.3× 2.2	0.19	−					黒曜石	3
	F	216	9.4×12.5× 0.9	0.10	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	217	2.2× 4.9× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	218	2.1× 1.8× 0.1	<0.01	線					黒曜石	2
	CH	219a	8.0× 3.0× 0.4	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	219b	6.4× 4.8× 0.7	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	219c	1.2× 2.4× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	220	3.1× 3.8× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	221	3.2× 1.9× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	222	6.7× 7.5× 0.8	0.06	剝	I				黒曜石	2
	CH	223	3.7× 1.5× 0.8	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	224	2.8× 1.2× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	225	2.8× 1.8× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	226	5.0× 6.3× 0.7	0.04	点	I				黒曜石	2
97-248	ナイフ形石器	227	105.3×13.6×9.0	9.78	−					頁岩	1
	CH	228	2.7× 3.2× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	229	4.3× 3.5× 0.5	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	230	6.0× 5.3× 0.7	0.04	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	231	2.0× 1.8× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	232	3.0× 4.3× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	233	3.1× 1.0× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	234	3.7× 5.8× 1.8	0.07	平	I,III				黒曜石	3
	CH	235	1.5× 3.5× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	236	5.4× 4.8× 1.0	0.04	自					黒曜石	2
97-258	F	237	8.6×21.0× 4.9	0.85	欠	I			H	黒曜石	1
	CH	238	3.4× 2.7× 0.3	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	239	6.1× 2.0× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	240	3.2× 5.9× 0.6	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	241	4.4× 5.7× 1.2	0.04	線	I			R	黒曜石	3
	CH	242	1.3× 3.6× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	243	2.8× 4.6× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	244	2.8× 2.5× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	245	2.7× 2.3× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	246	4.7× 4.8× 3.1	0.11	平	I				黒曜石	2
	CH	247	3.0× 1.5× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	248	4.7× 5.6× 0.9	0.03	線	I				黒曜石	2
	F	249	9.7×10.9× 3.2	2.9	線	I,III				黒曜石	3
	CH	250	5.3× 6.2× 1.1	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	251	7.3× 6.7× 1.6	0.07	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	252	4.7× 5.0× 1.5	0.06	線	I				黒曜石	3
	CH	253	2.5× 2.3× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	254	2.8× 2.0× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	255	3.5× 5.7× 1.2	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	256	1.6× 4.5× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	257	2.5× 3.0× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	258	5.2× 3.8× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	259	2.6× 3.3× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	260	4.1× 3.6× 0.3	0.02	点	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	CH	6S-20-261	6.0× 5.3× 0.9	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	262	7.4× 2.8× 0.3	0.01	点	Ⅳ				黒曜石	2
	CH	263	4.8× 3.5× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	264	3.2× 1.8× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	265	3.7× 7.1× 1.3	0.05	線	I				黒曜石	3
	CH	266	4.8× 1.9× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	267	3.4× 1.9× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	268	1.8× 1.5× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	269	4.2× 6.3× 0.5	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	270	9.7× 3.0× 0.5	0.03	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	271	4.8× 5.1× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	272	1.8× 1.4×0.11	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	273	1.6× 3.0× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	274	1.7× 8.6× 1.5	0.04	欠	I			H～M	黒曜石	2
97-257	ナイフ形石器	275	14.3× 7.0× 2.1	0.21	－					黒曜石	4
	F	276	9.2×13.5× 4.0	0.38	点	I,III				黒曜石	1
	CH	277	4.7× 6.5× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	278	7.3× 7.3× 0.7	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	279	7.3× 9.4× 1.6	0.12	線	I				黒曜石	3
	CH	280	7.8× 5.5× 1.2	0.08	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	281	4.0× 2.1× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	282	5.7× 7.7× 1.6	0.10	平	I				黒曜石	3
	CH	283	5.0× 3.6× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	284	5.1× 3.4× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	285	12.3× 9.0× 1.5	0.16	剝	I				黒曜石	2
	CH	286	2.8× 1.7× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	287a	4.5× 5.0× 0.9	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	287b	5.2× 3.0× 1.2	0.01	平	I				黒曜石	2
	CH	288	3.8× 3.4× 0.4	<0.01	点	I			R	黒曜石	2
	CH	289	4.7× 9.4× 1.3	0.06	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	290	5.3× 6.5× 1.5	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	291	5.6× 1.3× 0.7	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	292	5.2× 2.5× 1.0	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	293	4.5× 6.7× 0.5	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	294	12.6× 6.4× 2.2	0.15	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	295	8.3× 7.7× 0.9	0.09	線	I				黒曜石	2
	CH	296	3.3× 2.8×0.11	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	297	5.5× 4.2× 0.8	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	298	6.7× 5.7× 0.7	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	299	6.5× 2.8× 0.4	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	300a	4.2× 2.3× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	300b	2.3× 2.0× 0.4	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	F	301	16.0× 6.1× 1.5	0.14	欠					黒曜石	3
	CH	302	5.3× 8.4× 1.7	0.05	線	I				黒曜石	3
	CH	303	6.1× 3.9× 1.7	0.06	欠	I				黒曜石	3
	CH	304	7.1× 2.4× 0.6	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	305	6.4× 3.3× 0.3	0.01	線	I				黒曜石	2
	F	306	18.3×10.0× 1.3	0.20	線	I				黒曜石	1
	CH	307	4.3× 6.8× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	308	3.3× 4.9× 0.7	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	309	4.3× 6.6× 0.9	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	310	3.2× 5.3× 0.8	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	311	4.9× 5.9× 3.1	0.07	平	I,Ⅳ				黒曜石	2
	CH	312	2.6× 2.7× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	313	3.0× 1.7× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	314	2.3× 2.3×<0.1	<0.01	－	I			H	黒曜石	2
	CH	315	5.3× 1.6× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	316	3.7× 1.7× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	317	4.2× 5.8× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	318	2.9× 2.1× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	319	1.7× 2.6× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	320	2.3× 3.4× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	321	2.0× 2.5× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	322	3.8× 7.4× 0.8	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	323	8.2× 2.7× 1.6	0.05	点	I,II				黒曜石	2
	CH	324	1.6×1.0×<0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	325	6.5× 2.5× 0.6	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	326	1.4× 2.4× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	3
	CH	327	2.6× 2.8× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No
	F	6S-20-328	20.6×16.0× 5.0	1.27	平	I,Ⅳ				黒曜石	1
	CH	329	6.2× 2.3× 0.6	0.01	線	I				黒曜石	2
101-271	F	330	35.5×13.3×10.0	3.33	平	II,Ⅳ				黒曜石	2
	CH	331	4.1× 3.5× 2.2	0.04	平	I				黒曜石	3
	CH	332	7.4× 3.4× 1.0	0.03	点	II				黒曜石	2
	CH	333	7.1× 7.6× 2.0	0.07	点	I				黒曜石	2
	CH	334	6.0× 4.5× 0.5	0.03	欠	I				黒曜石	2
	CH	325	6.3× 4.9× 0.4	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	326	2.2× 5.0× 1.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	337	2.2× 5.6× 0.4	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	338	3.5× 0.5× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	339	3.0× 2.6× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	340	3.4× 8.7× 0.7	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	341	8.2× 6.8× 0.7	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	342	3.6× 8.2× 0.8	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	343	2.2× 5.0× 1.0	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	344a	2.2× 1.9× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	344b	2.2× 2.3× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	345	5.1×10.4× 2.3	0.08	点	I				黒曜石	2
	CH	346	2.9× 2.5× 1.1	0.02	平	I				黒曜石	2
	CH	347	5.8× 2.7× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	348	2.1× 1.5× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	349	5.7× 3.3× 0.5	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	350	7.1× 6.3× 2.1	0.08	線	I				黒曜石	3
	CH	351	3.1× 4.6× 0.8	0.01	線	I				黒曜石	3
	CH	352a	2.3× 3.4× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	352b	3.0× 1.9× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	353	2.8× 2.6× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	354	3.0× 2.1× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	355	3.8× 2.8× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	356	3.9× 4.2× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	357	5.4× 1.8× 1.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	358	3.8× 3.6× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	359	2.3× 6.5× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	360	3.0× 3.0× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	361	3.1× 2.6× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	362	3.0× 2.7× 0.7	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	363	4.2× 3.2× 0.6	0.02	欠	I				黒曜石	2
	F	364	5.8×11.0× 3.7	0.58	線	I,II				黒曜石	1
	F	365	11.5× 6.7× 1.9	0.11	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	366	3.2× 5.4× 0.5	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	367	3.4× 1.6× 0.6	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	368	4.5× 4.2× 0.5	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	369	2.5× 2.1× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	370a	3.5× 4.1× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	370b	2.6× 3.5× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	371	9.2× 6.3× 0.5	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	372	9.7× 5.7× 0.7	0.04	欠	I			H	黒曜石	2
	F	373	19.9× 3.3× 0.4	0.11	点	I				黒曜石	2
	CH	374	4.5× 5.8× 1.2	0.05	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	375	7.3× 3.3× 1.3	0.04	欠	I,II			H	黒曜石	2
	CH	376	5.6× 5.2× 1.6	0.05	平	I				黒曜石	2
	CH	377	4.2× 4.2× 0.6	0.02	点	I				黒曜石	2
	F	378	6.3×10.5× 1.8	0.11	線	I				黒曜石	3
	CH	379	2.8× 3.1× 0.8	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	380	4.1× 6.9× 3.0	0.08	平	I				黒曜石	3
	CH	381	2.8× 4.2× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	F	382	12.3× 8.1× 1.7	0.23	平	I			B	黒曜石	3
	CH	383	3.4× 3.8× 0.5	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	384	4.1× 5.3× 0.8	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	385	6.1× 4.2× 0.7	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	386	7.5× 2.5× 1.6	0.03	欠	I			L	黒曜石	3
	CH	387	5.8× 7.4× 4.1	0.16	平	I				黒曜石	3
	CH	388	5.5× 4.3× 1.6	0.04	平	I II				黒曜石	2
	CH	389	5.4× 1.5× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	390	5.8× 5.3× 1.4	0.04	線	I				黒曜石	3
	CH	391	2.6× 5.0× 0.7	0.02	平	I				黒曜石	2
	CH	392	5.2× 8.5× 0.7	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	393	8.1× 5.2× 1.1	0.04	線	I II				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6S-20-394	3.5× 2.4× 0.3	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	395	3.1× 8.1× 1.3	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	396	2.3× 3.7× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	397	3.2× 9.0× 1.2	0.14	欠	I				黒曜石	3
	CH	398	2.9× 7.2× 1.4	0.05	線	I Ⅳ				黒曜石	2
	CH	399	3.6× 1.2× 1.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	400	3.8× 5.0× 0.9	0.03	平	I				黒曜石	2
	F	401	11.3× 7.3× 1.7	0.13	点	I				黒曜石	3
	CH	402	2.9× 5.3× 1.8	0.04	点	I				黒曜石	3
	CH	403	3.9× 5.7× 1.0	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	404	3.4× 2.5× 1.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	405	8.9× 3.8× 1.1	0.04	点	I				黒曜石	3
	CH	406	4.2× 5.1× 0.8	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	407	4.1× 2.8× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	408	3.9× 3.5× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	409	2.8× 4.8× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	410a	4.3× 3.6× 0.8	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	410b	2.6× 1.4× 1.2	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	412	5.0× 8.1× 1.0	0.06	線	I				黒曜石	3
	CH	413	5.5× 9.7× 1.4	0.09	点	I				黒曜石	2
	CH	414	4.2× 5.2× 0.1	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	415	3.6× 4.6× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	416	6.2× 2.8× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	417	5.2× 3.5× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	418	4.8× 2.5× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	419	9.5×17.5× 2.0	0.24	線	I				黒曜石	3
	CH	420	4.5× 2.4× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	421	2.9× 4.5× 1.7	0.04	平	I				黒曜石	3
	CH	422	4.5× 0.9× 0.5	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	ナイフ形石器	423	23.2× 1.6× 3.1	0.91	—					黒曜石	4
	CH	424a	6.6× 3.9× 1.1	0.05	平	I				黒曜石	2
	CH	424b	4.4× 2.9× 1.2	0.03	平	I				黒曜石	2
	CH	424c	1.3× 3.5× 1.0	<0.01	欠	I				黒曜石	3
	CH	425	3.2× 1.3× 1.0	<0.01	平	I				黒曜石	3
	CH	426	1.0× 2.7× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	427	7.2× 4.0× 0.9	0.04	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	428	4.5× 1.9× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	429a	3.3× 5.0× 0.4	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	429b	1.6× 2.7× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	430	10.1× 9.9× 1.1	0.13	点	I				黒曜石	3
	CH	431a	4.1× 4.9× 0.9	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	431b	4.3× 3.3× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	432	11.1× 3.4× 1.8	0.06	欠	I,Ⅲ				黒曜石	2
97-254	ナイフ形石器	433	2.9×12.8× 4.8	0.15	欠	I			H～M	黒曜石	3
	CH	434	3.9× 2.1× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	F	435	11.0×10.7× 5.5	0.25	平	I,Ⅲ				黒曜石	2
	CH	436	4.8× 2.0× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	437	3.2× 6.0× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	438	4.8× 3.2× 0.7	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	439	4.2× 4.8× 0.4	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	440	4.0× 3.0× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	441	5.1× 3.2× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	442	3.5× 4.4× 0.9	0.02	平	I				黒曜石	2
	CH	443	1.1× 2.5× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	444	4.9× 2.6× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	445	5.5× 5.0× 0.8	0.02	平	I				黒曜石	2
	CH	446	1.8× 5.8× 0.2	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	447	2.4× 1.8× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
101-270	F	448	21.3×19.8× 2.7	0.65	欠	I				黒曜石	1
	CH	449	2.2× 3.5× 0.9	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	450	1.3× 3.0× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	451	3.7× 2.2× 1.7	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	452	8.6× 4.6× 3.0	0.12	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	453	5.5× 3.3× 0.8	0.03	欠	I				黒曜石	2
	CH	454	4.2× 2.5× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	455	2.7× 4.9× 0.4	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	456	2.2× 3.9× 1.0	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	457	2.5× 3.2× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	458	2.5× 3.3× 0.2	<0.01	平	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6S-20-459	4.0× 5.1× 1.0	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	460	3.3× 7.0× 1.0	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	461	1.7× 1.9× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	462	4.8× 1.9× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	463	5.3× 1.4× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	464	5.1× 4.2× 0.3	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	465	3.1× 4.7× 0.4	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	466	8.5× 6.2× 0.7	0.05	欠	I,Ⅳ				黒曜石	2
	CH	467	2.5× 3.2× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	468	2.0× 3.6× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	469	3.9× 1.7× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	470	2.4× 1.8× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	471	3.1× 1.9× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	472	4.9× 1.7× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	473	3.9× 9.4× 1.1	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	474	3.8× 3.8× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	475	5.8× 4.3× 1.5	0.04	点	I				黒曜石	3
	UF	476	12.1×13.0× 2.8	0.31	線	I			L	黒曜石	2
	CH	477	5.6× 8.6× 0.5	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	478	5.1× 2.5× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	479	5.3× 3.2× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	480a	3.8× 5.7× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	480b	4.0× 1.9× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	481	3.0× 4.0× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	482	2.5× 3.8× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	483	1.6× 7.3× 1.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	484	1.4× 3.7× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	3
	CH	485	3.9× 2.5× 0.5	0.02	線	I				黒曜石	2
	F	486	8.2×10.2× 2.8	0.21	平	I				黒曜石	3
	CH	487	1.5× 2.4× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	488	3.8× 1.1× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	489	4.6× 2.0× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	490	2.3× 4.0× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	491	3.2× 0.8× 0.1	<0.01	－	I				黒曜石	2
	CH	492	1.3× 1.2× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	493	5.2× 3.2× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	494	5.4× 2.5× 0.7	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	495	4.1× 4.7× 1.3	0.03	点	I				黒曜石	3
	CH	496	3.7× 2.5× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	497	4.9× 5.5× 1.3	0.05	線	II				黒曜石	2
	CH	498	3.8× 2.3× 0.6	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	499	4.4× 6.8× 1.7	0.05	平	I				黒曜石	3
	CH	500	2.1× 0.8× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	501	2.4× 6.1× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	502	3.3× 9.5× 1.5	0.04	点	I,II				黒曜石	3
	CH	503	3.5× 2.4× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	504	3.5× 1.1× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	505	3.1× 2.5× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	506	4.2× 2.6× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	507	6.8× 2.8× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	508	5.5× 2.2× 1.9	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	509	2.0× 1.8× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	510	3.8× 1.7× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	511	5.6× 2.5× 0.5	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	512	4.9× 1.8× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	513	2.1× 2.6× 0.5	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	514	2.3× 2.8× 0.3	<0.01	平	I				黒曜石	2
	CH	515	4.9× 4.6× 0.5	0.02	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	516	2.0× 3.1× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	517	8.3× 5.6× 0.2	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	518	1.3× 0.7×<0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	519	2.2× 2.8× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	520	4.3× 2.2× 0.5	<0.01	欠	I II				黒曜石	2
	F	521	11.6× 3.2× 1.7	0.10	平	I				黒曜石	2
	F	522	9.7×12.2× 3.1	0.16	点	I				黒曜石	3
	CH	523	2.4× 3.8× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	524	2.5× 3.9× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	525	1.9× 2.6× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	526	2.7× 5.5× 0.6	0.01	線	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6S-20-527	4.8× 2.4× 0.9	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	528	2.6× 1.2× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	529	4.1× 7.1× 1.5	0.05	線	I				黒曜石	3
	F	530	10.6× 9.5× 2.4	0.25	平	I				黒曜石	3
	CH	531	5.0× 5.2× 0.8	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	532	2.4× 3.5× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	533	3.3× 8.7× 1.1	0.04	線	I				頁岩	1
	CH	534	4.9× 1.8× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	535	1.6× 2.6× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	536	5.3× 7.2× 1.0	0.05	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	537	2.7× 3.8× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	538	14.2× 8.7× 1.6	0.22	線	I				黒曜石	3
	CH	539	6.3× 3.4× 0.3	0.02	線	I				黒曜石	2
	F	540	12.5× 5.9× 1.5	0.08	線	I				黒曜石	3
	CH	541	1.7× 1.5× 2.0	<0.01	点	I				黒曜石	2
	UF	542	7.1× 7.9× 1.0	0.11	欠	I,III				黒曜石	3
	CH	543	2.7× 3.8× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	544	4.3× 1.8× 0.2	<0.01	欠	C				黒曜石	2
	CH	545	3.5× 5.2× 0.8	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	546	3.2× 4.8× 0.3	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	547	5.5× 3.8× 0.8	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	548	3.8× 7.2× 3.6	0.08	平	I				黒曜石	3
	F	549	11.8× 6.1× 1.2	0.08	欠	I				黒曜石	3
	F	550	12.3×10.6× 1.6	0.20	平	I				黒曜石	3
	CH	551	5.5× 3.5× 1.2	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	552	5.1× 3.1× 0.5	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	553	2.9× 3.7× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	554	4.5× 3.4× 0.7	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	555	4.7× 2.6× 0.6	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	556	7.4× 3.0× 0.9	0.02	欠	I			H	黒曜石	3
101-265	UF	557	21.6×13.9× 2.8	0.65	線	I				黒曜石	1
	CH	558	2.0× 5.4× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	559	5.1× 0.9× 0.3	<0.01	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	560	2.2× 3.5× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	561	2.6× 4.5× 1.2	0.02	線	I				黒曜石	3
	CH	562	4.1× 3.7× 0.3	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	563	4.0× 5.7× 0.7	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	564	2.0× 3.0× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	565a	2.6× 5.3× 1.2	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	565b	1.5× 1.6× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	566	2.6× 4.0× 0.6	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	567	3.7× 1.3× 0.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	568	4.8× 8.2× 2.9	0.10	平	I,III				黒曜石	3
	CH	569	1.5× 2.4× 0.4	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	ナイフ形石器	570	7.6× 7.7× 1.8	0.13	平	I		R	M～B	黒曜石	2
	CH	571	3.8× 1.8× 0.8	<0.01	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	572	4.4× 4.7× 1.4	0.04	平	I				黒曜石	2
	CH	573	5.0× 6.8× 3.0	0.10	線	I				黒曜石	3
	CH	574	1.8× 2.3× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	575	1.0× 5.5× 0.4	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	576	3.5× 3.8× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	577	16.5× 7.8× 4.0	0.46	欠	I				黒曜石	1
	CH	578	5.2× 5.9× 1.5	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	579	5.4× 2.7× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	580	3.5× 2.1× 0.7	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	581	2.3× 1.5× 0,3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	582a	3.6× 9.4× 2.1	0.08	線	I				黒曜石	2
	CH	582b	2.4× 2.9× 1.0	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	582c	1.3× 3.8× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	3
	CH	582d	2.2× 2.0× 0.8	<0.01	点	I				黒曜石	3
	CH	582e	1.6× 1.1× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	3
	CH	582f	0.7× 1.3× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	583	2.6× 4.8× 0.5	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	584	3.0× 5.5× 0.7	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	585	9.0× 4.1× 1.3	0.06	線	I				黒曜石	3
	CH	586	3.9× 5.6× 0.6	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	587	1.0× 0.8× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	588	2.2× 4.6× 0.4	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	589	1.2× 2.6× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	3

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6S-20-590a	3.0× 3.7× 0.9	0.02	欠	I			H～M	黒曜石	3
	CH	590b	3.2× 3.2× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	3
	CH	591	2.6× 5.9× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
97-252	ナイフ形石器	592	18.4×10.6× 3.2	0.49	平	I				黒曜石	2
	CH	593	3.5× 2.7× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	594	4.2× 3.8× 0.9	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	595	6.0× 3.5× 0.7	0.04	欠	I				黒曜石	2
	CH	596	2.9× 2.7× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	597	3.1× 1.1× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	598	4.5×10.5× 2.6	0.13	線	I				黒曜石	3
	CH	599	2.9× 4.7× 0.7	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	600	3.7× 1.7× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	601	3.0× 2.9× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	602	2.2× 3.4× 0.4	<0.01	欠	I				黒曜石	3
	CH	603a	4.2× 7.2× 1.2	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	603b	1.4× 3.6× 0.8	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	604	1.2× 3.1× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	605	4.4× 1.5× 2.0	0.11	欠	I			H～M	黒曜石	3
	CH	606	2.1× 1.3× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	607	3.0× 4.8× 0.7	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	608	1.5× 2.4× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	609	5.1× 6.1× 1.3	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	610	3.6× 5.3× 0.9	0.03	欠	I				黒曜石	2
	CH	611	1.2× 2.3× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	612	6.7× 3.3× 1.0	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	613	6.4× 3.1× 2.0	0.04	平	II				黒曜石	3
	CH	614	1.6× 2.8× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	615a	1.9× 4.7× 1.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	615b	2.5× 0.5× 0.5	<0.01	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	616	9.0× 4.6× 2.6	0.07	平	I				黒曜石	3
	CH	617	3.9× 2.0× 0.6	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	618	4.5× 7.8× 1.0	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	619	2.4× 3.5× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	620	4.3× 4.2× 1.1	0.03	平	I				黒曜石	2
	CH	621	5.8× 3.8× 0.4	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	622	5.9× 2.3× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	623	6.3× 5.2× 1.7	0.06	線	I				黒曜石	3
	CH	624	3.2× 4.1× 0.7	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	625	3.5× 4.9× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	626	2.5× 2.5× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	627	4.2× 3.8× 1.4	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	628	3.3× 7.5× 1.6	0.04	点	I,II				黒曜石	2
	CH	629	8.8× 9.5× 0.9	0.10	線	I				黒曜石	2
	CH	630	3.4× 4.0× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	631	6.3×15.9× 3.8	0.22	線	IV				黒曜石	3
	CH	632	9.5× 3.5× 0.8	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	633	12.8× 4.1× 1.1	0.06	線	I				黒曜石	3
	CH	634	2.9× 2.3× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	635	3.8× 1.9× 0.5	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	636	7.5× 6.3× 0.7	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	637	3.5× 2.8× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	638	2.3× 3.0× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	639	5.4× 3.7× 0.7	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	640	3.6× 3.0× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	641	4.8× 3.3× 0.9	0.03	点	I				黒曜石	3
	CH	642	3.0× 1.0× 0.5	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	643	3.5× 5.1× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	644	3.7× 5.8× 0.8	0.03	線	I				黒曜石	3
	CH	645	4.5× 3.5× 1.2	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	646	4.8× 2.5× 1.5	0.03	−	I				黒曜石	3
	CH	647	3.9× 1.3× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	648	5.0× 3.4× 0.4	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	649	2.3× 3.9× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	650	2.3× 2.0× 0.6	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	651	3.7× 2.5× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	652	3.4× 2.3× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	653	5.0× 7.3× 1.7	0.09	点	I				黒曜石	3
	F	654	10.6×10.1× 1.2	0.17	欠	I			H,B	黒曜石	3
	CH	655	2.6× 1.0× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6S-20-656	9.7× 6.8× 1.3	0.10	点	I				黒曜石	3
	CH	657	1.6× 1.6× 0.1	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	658	4.4× 2.0× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	659	2.9× 8.5× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	660	2.9× 3.9× 0.4	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	661	6.9× 6.2× 2.9	0.15	線	I,II				黒曜石	3
	CH	662	2.9× 5.5× 1.0	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	663	5.3× 5.7× 1.8	0.05	点	I				黒曜石	3
	CH	664	5.1× 1.7× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	665	5.9× 4.1× 0.7	0.02	欠	I				黒曜石	2
	F	666	10.4×14.0× 2.4	0.43	線	I				黒曜石	1
	CH	667a	4.9× 4.3× 0.3	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	667b	4.8× 1.2× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	668	5.2× 6.7× 0.5	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	669	3.3× 8.2× 0.9	0.07	点	I				黒曜石	2
	CH	670	3.3× 6.2× 0.5	0.02	線	I				黒曜石	2
	F	671	5.5×13.6× 2.1	0.19	線	I			H,B	黒曜石	3
	CH	672	2.3× 4.5× 0.7	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	673	4.9× 6.0× 0.6	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	674	4.0× 2.8× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	675	2.5× 3.0× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	676	1.6× 2.7× 0.9	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	677	3.1× 3.9× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	678	4.3× 2.5× 0.1	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	679	4.8×10.4× 1.1	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	680	4.2× 2.3× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	681	6.1× 2.0× 0.1	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	682	3.0× 2.2× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	683	8.4× 8.2× 1.2	0.12	線	I,IV				黒曜石	2
	CH	684	1.4× 5.3× 0.9	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	685	8.0× 3.0× 1.6	0.05	平	I				黒曜石	2
	CH	686	3.1× 3.8× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	687	9.7× 3.6× 2.8	0.11	平	I				黒曜石	3
	CH	688	7.3× 2.0× 0.9	0.02	点	I,II				黒曜石	2
	CH	689	5.8× 4.8× 1.0	0.03	線	I				黒曜石	3
	CH	690	6.5× 0.6× 1.5	0.11	平	I				黒曜石	3
	CH	691	1.9× 3.3× 0.7	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	692	4.9× 2.6× 0.8	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	693	2.5× 2.5× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	694	6.3× 2.5× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	695	2.5× 4.6× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	696	5.3× 2.3× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	697	1.2× 2.2× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	698	1.5× 3.7× 0.4	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	699	3.4× 1.8× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	700	7.5×13.5× 3.8	0.15	欠	I			H～L	黒曜石	2
	CH	701	5.3× 6.1× 1.8	0.07	平	I				黒曜石	2
	CH	702	2.6× 3.6× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	703	4.8× 5.9× 1.1	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	704	3.1× 4.1× 0.4	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	705	1.7× 3.0× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	706	4.6× 3.8× 0.9	0.02	線	I				黒曜石	2
	F	707	14.9×16.0× 3.7	0.85	線	I,IV				黒曜石	2
	CH	708	6.0× 6.1× 2.5	0.10	平	I,IV				黒曜石	2
	CH	709	2.7× 2.4× 1.0	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	710	4.1× 6.3× 0.4	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	711	3.2× 3.6× 0.3	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	712	3.2× 3.6× 1.0	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	713	3.3× 6.4× 0.9	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	714	2.5× 1.6× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	715	3.3× 7.2× 1.2	0.04	点	I				黒曜石	3
	CH	716	4.5× 4.6× 1.5	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	717	3.1× 6.9× 0.4	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	718	3.5× 7.1× 1.5	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	719	5.5× 4.1× 2.3	0.05	欠	I				黒曜石	2
	CH	720	7.9× 3.5× 0.9	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	721	7.0× 3.7× 1.4	0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	722	5.5× 6.6× 0.9	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	723	5.5× 3.7× 0.4	0.01	線	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	CH	6S-20-724	1.3× 9.3× 1.9	0.02	欠				H～M	黒曜石	2
	CH	725	8.0× 3.3× 2.0	0.05	線	I				黒曜石	3
	CH	726	3.9× 3.0× 0.9	<0.01	線	I				黒曜石	2
	ナイフ形石器	727	1.2× 0.6× 0.3	0.10	－					黒曜石	1
	CH	728	7.8× 2.7× 0.8	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	729	2.2× 3.7× 0.5	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	730	7.0× 6.5× 0.7	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	731	1.1× 1.0× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	732	7.1× 1.4× 0.5	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	733	1.9× 2.5× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	734	1.1× 4.3× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	735	3.9× 3.6× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	736	3.7× 5.5× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	737	3.3× 4.0× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	738	4.0× 6.2× 1.6	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	739	3.0× 4.1× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	740	2.6× 2.8× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	741	2.9× 4.6× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	742	1.6× 0.4× 0.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	743a	3.0× 2.9× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	743b	2.5× 2.4× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	744	4.9×12.8× 1.7	0.10	線	I			B	黒曜石	3
	F	745	11.9× 6.2× 2.8	0.13	点	I				黒曜石	3
	CH	746	5.4× 5.0× 3.4	0.08	点	I,Ⅳ				黒曜石	2
	CH	747	3.1× 5.8× 1.3	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	748	3.3× 3.8× 0.5	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	F	749	11.0×11.1× 1.9	0.18	線	I				黒曜石	3
	CH	750	3.1× 5.1× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	751	4.1× 3.0× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	752	3.3× 6.5× 0.5	0.02	線	I				黒曜石	2
97-253	ナイフ形石器	753	22.5×15.4× 7.6	1.86	－					黒曜石	1
	CH	754	5.7× 5.9× 0.7	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	755	2.6× 4.1× 1.3	<0.01	平	I				黒曜石	2
	CH	756	1.2× 3.4× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	757	1.9× 4.7× 0.8	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	758	6.9× 2.0× 0.9	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	759	2.1× 3.9× 1.8	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	760	5.3× 3.2× 0.6	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	F	761	11.6×10.3× 1.7	0.18	欠	I				黒曜石	2
	CH	762	3.2× 1.3× 1.3	0.04	欠	I				黒曜石	2
	F	763	16.9×11.3× 2.1	0.43	平	I,Ⅳ				黒曜石	1
	CH	764	3.4× 1.5× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	UF	765	5.4× 6.6× 2.7	0.12	平	I				黒曜石	3
	CH	766	3.6× 7.7× 0.6	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	767	2.4× 2.0× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	768	1.3× 5.7× 0.4	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	769	3.4× 3.8× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	770	3.6× 0.7× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	771	3.0× 5.1× 1.0	0.01	平	I				黒曜石	2
	CH	772	6.1× 5.8× 1.0	0.03	線					黒曜石	2
101-272	F	773	22.4×15.0× 1.8	0.47	自					黒曜石	4
	CH	774	2.3× 5.0× 1.1	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	775	2.1× 2.7× 0.5	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	776	3.3× 4.2× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	777	10.4×12.2× 2.8	0.15	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	778	4.8× 4.7× 0.7	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	779	1.6× 4.3× 1.0	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	780	5.0× 5.4× 2.8	0.06	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	781	5.1× 3.1× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	782	2.0× 4.6× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	783	8.6× 5.0× 1.7	0.07	点	II,III				黒曜石	3
	CH	784	2.3× 2.8× 0.7	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	785	1.8× 3.0× 0.4	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	786	4.9× 4.1× 0.6	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	787	2.8× 3.3× 1.1	0.01	点	II				黒曜石	2
	CH	788	2.3× 4.7× 0.5	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	789	11.1× 2.4× 0.5	0.01	欠	I			H～M	黒曜石	2
	F	790a	9.3×13.0× 3.0	0.33	点	I,II				黒曜石	2
	CH	790b	3.0× 2.5× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6S-20-791	3.1× 4.1× 0.6	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	792	8.2× 4.9× 0.4	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	793	2.4× 2.6× 2.2	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	794	3.1× 0.8× 0.3	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	795	5.3× 3.8× 0.8	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	796	3.4× 4.9× 0.7	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	797	3.5× 6.3× 0.2	0.11	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	798	4.3× 1.9× 0.8	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	799	4.9× 8.6× 1.3	0.06	線	I				黒曜石	3
	CH	800	3.6× 2.7× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	801	4.7× 3.9× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	802	2.9× 2.2× 0.6	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	803	4.3× 7.0× 1.2	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	804	4.8× 6.5× 1.8	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	805	4.9× 3.8× 0.6	0.02	欠	I				黒曜石	2
	F	806	11.3×11.8× 2.4	0.30	線	I				黒曜石	1
	CH	807	2.4× 2.0× 0.1	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	808	1.7× 2.5× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	809	9.1× 5.2× 1.5	0.07	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	810	3.8× 5.9× 0.7	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	811	8.0× 6.0× 1.1	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	812	5.3× 4.4× 0.4	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	813	2.4× 3.8× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	814	5.8× 7.3× 0.7	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	815	4.6× 5.8× 0.9	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	816	6.4× 4.0× 1.2	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	817	9.6× 5.6× 1.0	0.06	線	I				黒曜石	2
	F	818	14.1×13.2× 1.2	0.14	線	I				黒曜石	2
	CH	819	4.0× 5.7× 1.7	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	820	3.5× 2.1× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	821	17.5×11.0× 4.7	0.66	欠	I,III	H			黒曜石	1
	CH	822	2.8× 6.9× 0.8	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	823	3.3× 6.1× 1.1	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	824	5.1× 5.8× 1.3	0.03	線	I				黒曜石	2
	F	825	12.3×13.2× 3.0	0.64	平	I				黒曜石	1
	CH	826	3.7× 2.5× 0.5	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	827	7.3× 6.1× 1.5	0.07	自	I				黒曜石	3
	F	828	15.7× 5.0× 1.4	0.12	点	I				黒曜石	3
97-255	ナイフ形石器	829	21.3×11.7× 4.4	1.09	−					黒曜石	2
	CH	830	5.1× 2.4× 0.9	0.01	線	I				黒曜石	2
97-262	石刃	6S-30-3	29.7×27.4× 9.7	7.34	剝	I,IV			R−B	黒曜石	5
	F	4	46.8×25.5× 9.5	10.19	欠	I			R−B	黒曜石	5
101-268	UF	5	21.1×10.2× 1.9	0.36	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	6	6.3× 6.5× 0.8	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	7	5.2× 3.5× 1.0	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	8	8.9× 5.5× 1.2	0.07	線	I				黒曜石	2
97-260	石刃	9	21.1× 7.7× 3.0	0.42	線	I,II			B	黒曜石	1
	CH	10	2.4× 7.6× 1.0	0.03	欠	I			H～M	黒曜石	2
	F	11	15.2×10.6× 3.7	0.36	欠	IV			H	黒曜石	3
	F	12	13.5× 6.3× 1.8	0.14	線	I,III				黒曜石	2
	CH	13	3.7× 2.8× 0.8	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	14	5.3× 5.6× 1.2	0.05	点	I				黒曜石	2
	F	15	10.8× 3.5× 0.5	0.02	線	I,IV				黒曜石	2
	CH	16	4.8× 4.6× 1.3	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	17	4.5× 1.3× 0.1	<0.01	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	18	4.3× 7.6× 1.6	0.05	欠	d			H	黒曜石	2
	CH	19a	9.0× 8.9× 0.7	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	19b	2.7× 9.7× 2.2	0.05	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	19C	3.6× 5.9× 1.3	0.03	点	I			H	黒曜石	2
97-251	ナイフ形石器	20	15.9×17.0× 2.0	0.48	平	I				黒曜石	3
101-264	F	21	32.7×20.4× 9.5	3.76	−					黒曜石	1
	CH	22	5.2× 4.3× 0.9	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	23	3.0× 5.2× 0.9	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	24	5.3× 7.3× 0.4	0.03	欠	I				黒曜石	2
	CH	25	9.1× 3.8× 0.4	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	26	4.8× 5.3× 1.2	0.03	欠	I				黒曜石	3
	CH	27	4.4× 2.0× 0.8	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	28	12.6×13.5× 4.0	0.34	平	I				黒曜石	2
	F	29	15.0×10.1× 2.0	0.19	平	I				黒曜石	3

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	F	6S-30-30	10.7× 6.0× 1.6	0.10	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	31	10.0× 2.6× 1.4	0.03	平	I,III				黒曜石	2
97-259	石刃	32	10.2×11.1× 2.5	0.24	線	I,III				黒曜石	1
	CH	33	5.3× 2.8× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	34	3.5× 2.2× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	35	7.9× 4.5× 0.6	0.03	点	I				黒曜石	2
	CH	36	6.7× 2.6× 1.4	0.03	欠	I				黒曜石	2
	F	38	11.2×15.2× 5.0	0.58	線	I				黒曜石	1
	CH	39	5.9× 8.8× 1.6	0.12	線	I				黒曜石	1
	CH	40	4.6× 2.3× 0.6	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	41	9.1× 4.8× 2.1	0.10	欠	I,IV			H,B	黒曜石	2
	F	42	11.9× 7.4× 1.9	0.18	線	I			B	黒曜石	2
	CH	43	9.7× 6.7× 1.0	0.07	欠	I				黒曜石	2
	CH	44	3.8× 3.0× 0.2	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	RF	45	8.4× 6.4× 2.1	0.10	欠	I			H～M	黒曜石	3
	CH	46	4.9× 7.3× 1.9	0.08	欠	I				黒曜石	3
	F	47	13.7×14.7× 3.1	0.47	剝	I				黒曜石	3
	CH	48	3.8× 4.4× 0.9	0.03	欠	I				黒曜石	2
	CH	49	5.5× 2.3× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	50	4.2× 3.0× 0.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	F	51	12.9× 6.2× 2.4	0.20	欠	I			H,B	黒曜石	3
	CH	52	3.8× 4.8× 0.7	0.03	平	I				黒曜石	2
	CH	53	5.6× 4.5× 0.2	0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	54	2.3× 4.5× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	55	7.9× 4.8× 0.5	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	F	56	19.0×10.0× 4.1	0.68	欠	I				黒曜石	1
	CH	57	10.2× 2.4× 1.1	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	58	6.5× 8.1× 0.8	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	59	7.5× 4.8× 0.3	0.03	欠	I				黒曜石	2
	CH	60	6.9× 7.6× 0.9	0.08	欠	I				黒曜石	3
	CH	61	5.3× 3.7× 0.4	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	62	1.9× 3.0× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	63	2.7× 3.0× 0.7	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	64	5.4× 6.1× 1.4	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	66	6.2× 3.4× 0.4	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	67	7.0× 7.7× 2.2	0.08	平	I			H	黒曜石	3
	CH	68	4.8×12.6× 2.3	0.13	欠	I				黒曜石	3
	CH	69	10.0× 6.2× 3.1	0.15	平	I,III				黒曜石	3
	CH	70	3.3× 3.5× 0.7	0.01	点(線)	I				黒曜石	2
	CH	71	2.2× 2.8× 0.3	<0.01	点	I			H	黒曜石	2
	CH	72	1.9× 3.7× 0.4	<0.01	点	I			H	黒曜石	2
	CH	73	7.5× 8.2× 1.3	0.09	平	I				黒曜石	3
	CH	74	3.3× 3.9× 0.8	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	75	4.1× 6.1× 0.3	0.01	欠	I				黒曜石	2
	ナイフ形石器	76	6.9×12.0× 2.6	0.15	−					黒曜石	3
	CH	77	10.5× 5.1× 0.6	0.04	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	78a	4.2× 3.5× 0.5	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	78b	2.6× 4.2× 0.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	79	1.4× 2.9× 0.1	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	F	80	14.3× 5.5× 1.7	0.10	点	I				黒曜石	3
	CH	81	4.9× 2.4× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	82a	3.2× 4.9× 0.7	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	82b	1.8× 5.2× 0.3	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	83	2.3× 3.0× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	84	11.0× 3.6× 0.3	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	85	2.9× 2.3× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	F	86	10.7× 6.0× 3.6	0.17	欠	I,II,IV				黒曜石	3
	CH	87	2.5× 3.1× 1.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	88	3.0× 4.6× 0.4	0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	89	9.1× 8.0× 0.8	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	90	2.0× 3.2× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
101-266	F	91	22.9×15.2× 5.7	2.04	平	I,III				黒曜石	2
	CH	92	2.9× 1.5× 0.8	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	93	7.0× 4.0× 1.0	0.03	点	I			H～M	黒曜石	2
	CH	94	6.4× 3.3× 1.0	0.03	欠	I				黒曜石	2
	CH	95	2.7× 2.4× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	96	3.0× 1.4× 0.1	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	97a	3.9× 6.4× 0.7	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	97b	2.7× 2.9× 0.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重　量 (g)	打　面	背面構成	調　整	使用痕の有無	折れ面の有無	石　材	母岩No.
	CH	6S-30-98	12.1× 5.6× 1.5	0.08	線	I				黒曜石	3
	CH	99	6.4× 7.2× 0.3	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	100	4.7× 2.0× 1.3	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	101	7.9× 5.8× 0.9	0.05	欠	I				黒曜石	2
	CH	102	3.7× 1.6× 0.2	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	103	2.9× 6.7× 0.4	0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	104	6.6× 6.6× 0.8	0.04	線	I				黒曜石	2
	F	105	15.6×12.6× 4.2	0.57	平	I				黒曜石	1
	CH	106a	6.3× 2.8× 0.6	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	106b	3.0× 0.6× 0.4	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	107a	4.3× 4.8× 0.2	0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	107b	3.8× 5.2× 0.2	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	108	9.2× 2.1× 0.5	0.02	点	I				黒曜石	2
	CH	109	5.4× 2.9× 0.5	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	110	4.1× 5.3× 0.4	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	111	4.5× 2.7× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	112	2.9× 3.5× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	113	2.6× 2.1× 0.6	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	114	2.2× 5.6× 1.8	0.02	欠	I			H～M	黒曜石	2
	CH	115	2.6× 4.0× 0.5	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	116	4.8× 7.8× 1.0	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	117	3.4× 5.5× 0.8	0.03	平	I				黒曜石	2
	CH	118	9.3× 4.8× 1.0	0.03	欠	I				黒曜石	2
101-263	UF	119	25.4×24.1× 7.3	4.10	平	I,III			B	黒曜石	1
	CH	120	4.8× 7.1× 1.7	0.05	線	I				黒曜石	2
101-267	UF	121	33.0×20.4× 7.0	2.33	平	I,III				黒曜石	1
	CH	122	4.9× 8.3× 1.3	0.06	線	I				黒曜石	2
	CH	123	6.8× 4.7× 0.5	0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	124	3.0× 1.2× 0.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	125	7.0× 5.1× 1.7	0.04	欠	I				黒曜石	2
	CH	126	6.3× 3.3× 0.4	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	127	5.6× 4.8× 1.0	0.03	欠	I				黒曜石	2
	CH	128	2.0× 2.2× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	129	2.5× 3.1× 1.0	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	130	8.3× 5.4× 1.0	0.07	欠	I				黒曜石	2
	CH	131	4.7× 2.1× 0.7	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	132	1.7× 3.3× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	133	1.9× 1.8× 0.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	134	3.0× 1.9× 0.3	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	135	3.1× 2.8× 1.5	<0.01	平	I				黒曜石	2
	F	136	11.1× 4.9× 1.2	0.08	線	I				黒曜石	2
	F	137	11.5× 7.2× 1.2	0.08	線	I				黒曜石	2
	CH	138	4.1× 3.7× 0.5	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	139	2.0× 5.1× 0.9	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	140	3.2× 4.1× 0.9	0.01	線	I				黒曜石	3
	CH	141	2.5× 2.1× 0.7	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	142	2.3× 3.1× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	143	2.8× 6.2× 1.0	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	144	6.3× 7.1× 0.4	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	145a	8.5× 8.7× 0.7	0.04	点	I				黒曜石	2
	CH	145b	0.9× 1.8× 0.5	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	146	5.0× 1.1× 0.4	<0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	147	11.0× 5.1× 1.5	0.07	線	I				黒曜石	2
	CH	148	2.2× 1.9× 0.3	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	149	5.1× 3.4× 0.4	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	150	2.2× 3.8× 0.9	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	151	5.9× 5.6× 0.8	0.03	欠	I			H～M	黒曜石	3
	CH	152	5.0× 2.6× 1.0	0.02	欠	I				黒曜石	2
	CH	153	3.0× 4.2× 1.7	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	154	3.3× 3.3× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	F	155	11.5× 2.8× 1.1	0.04	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	156	5.2× 2.4× 0.8	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	157	2.7× 2.1× 0.4	<0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	F	158	16.3× 8.4× 2.2	0.17	線	I				黒曜石	3
	CH	159	3.5× 2.5× 0.2	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	160	5.6× 7.9× 0.7	0.04	欠	I			H	黒曜石	2
	F	161	16.9×10.0× 1.2	0.22	欠	I				黒曜石	3
	CH	162	4.6× 7.3× 1.1	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	163	7.1× 8.7× 1.6	0.06	欠	I				黒曜石	2

第35表　第３文化層集中18　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6S-30-164	5.8× 4.6× 0.7	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	165	4.1× 5.1× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	166	3.1× 1.7× 0.5	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	167	2.5× 2.0× 0.2	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	168	3.3× 4.2× 0.7	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	169	4.3× 3.8× 1.2	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	170	5.6× 4.2× 1.6	0.03	欠	I			H	黒曜石	3
	CH	171	6.3× 3.6× 1.5	0.04	線	I				黒曜石	2
	CH	172	2.0× 3.1× 1.0	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	173	3.2× 4.0× 0.4	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	174	3.0× 4.3× 0.5	<0.01	欠	I				黒曜石	2
	CH	175	3.2× 4.7× 0.6	<0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	176	6.1× 3.0× 0.7	0.02	線	I				黒曜石	2
	CH	177	5.6× 5.8× 1.4	0.05	線	I				黒曜石	2
	CH	178	7.6× 4.2× 1.2	0.04	欠	I				黒曜石	2
	CH	179	4.3× 7.3× 0.8	0.03	線	I				黒曜石	2
	CH	180	4.4× 6.9× 1.5	0.04	欠	I				黒曜石	2
	CH	181	4.6× 7.3× 1.1	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	F	182a	12.9× 8.2× 2.0	0.17	欠	I				黒曜石	3
	F	182b	7.7×11.6× 1.2	0.11	欠	I			H	黒曜石	2
	F	183c	16.1× 7.3× 2.1	0.16	欠	I, Ⅳ			H	黒曜石	2

第36表　第３文化層集中18　石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
頁岩 1			1															2		3	9.86
黒曜石 1			6										3					2	25		36	29.30
2			3	1									3						845		852	34.37
3			5									2	4						145		156	15.33
4			4																1		5	2.64
5																		1	2		3	29.27
凝灰岩 1																			1		1	2.19
総計	0	0	19	1	0	0	0	0	0	0	0	2	10	0	0	0	0	3	1021		1056	122.96
%	0	0	1.8	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.9	0	0	0	0	0.3	96.7		100	

2．集中19（第101～104図　第37、38表）

位　置

第4調査区の、舌状台地から東に谷を挟んで南東に150mほど離れた広い平坦面をもつ台地上に位置しており、8U—75,76,85,95グリッドの東西8m、南北12mほどの範囲に分布する。

遺物分布状況

遺物は8U—75・76・85・86・95グリッドの東西8m、南北12mほどの範囲に分布し、8U—75・76グリッドと8U—95グリッドの二か所に遺物が集中する傾向が見られる。

母岩別分布

黒曜石1が8U—76グリッドで13点分布して出土している他はほとんど単体での出土であり、チャート製の石核が1点8U—76グリッドで検出されたが、剥片は検出されなかった。この集中は黒曜石1の剥片剥離作業が行われた場としての見方ができるが、集中内では8U—95グリッド出土の安山岩（砂岩）の剥片が1点接合した。

石　材

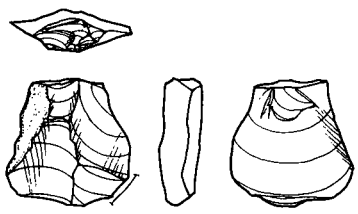
チャート1種1点、頁岩4種4点、安山岩5種9点、黒曜石5種20点から構成される。このうち黒曜石1は黒色で明褐色不純物をごま塩状に混入する特徴的な石材である。

器　種（第38表）

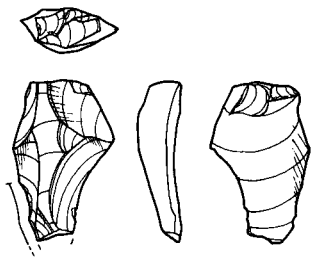
石核1点、剥片・砕片33点である。石核はチャート製であるがチャートはこの石核のみ出土している。

集中19の石器（第98、102図　図版30）

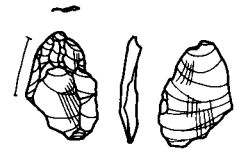
273,274は集中19から出土した資料で、273は細粒砂岩製の横長剥片の接合資料である。274はチャート製の非常に小型の円礫を素材にした石核である。



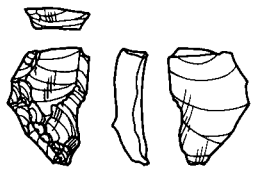
263. 6 S-30-119



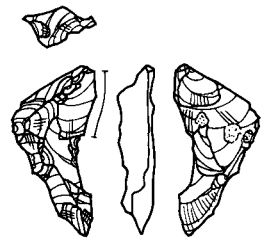
264. 6 S-30-21



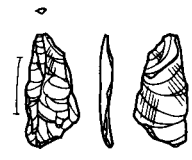
265. 6 S-20-557



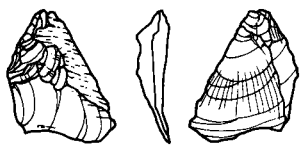
266. 6 S-30-91



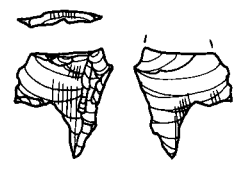
267. 6 S-30-121



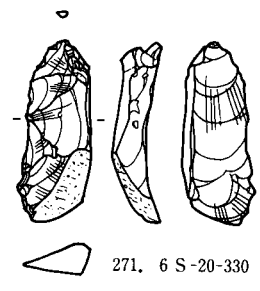
268. 6 S-30-5



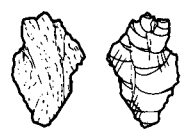
269. 6 S-20-57



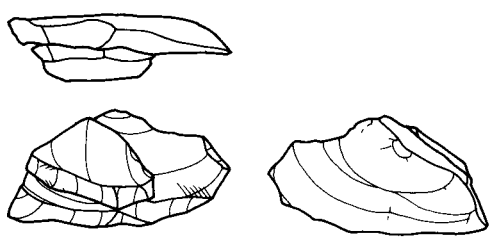
270. 6 S-20-448



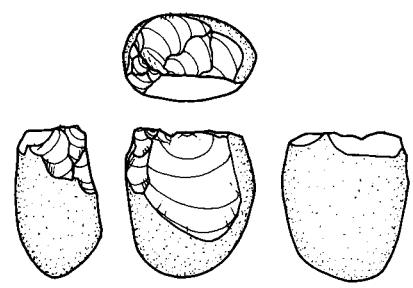
271. 6 S-20-330



272. 6 S-20-773



273. 8 U-95-16

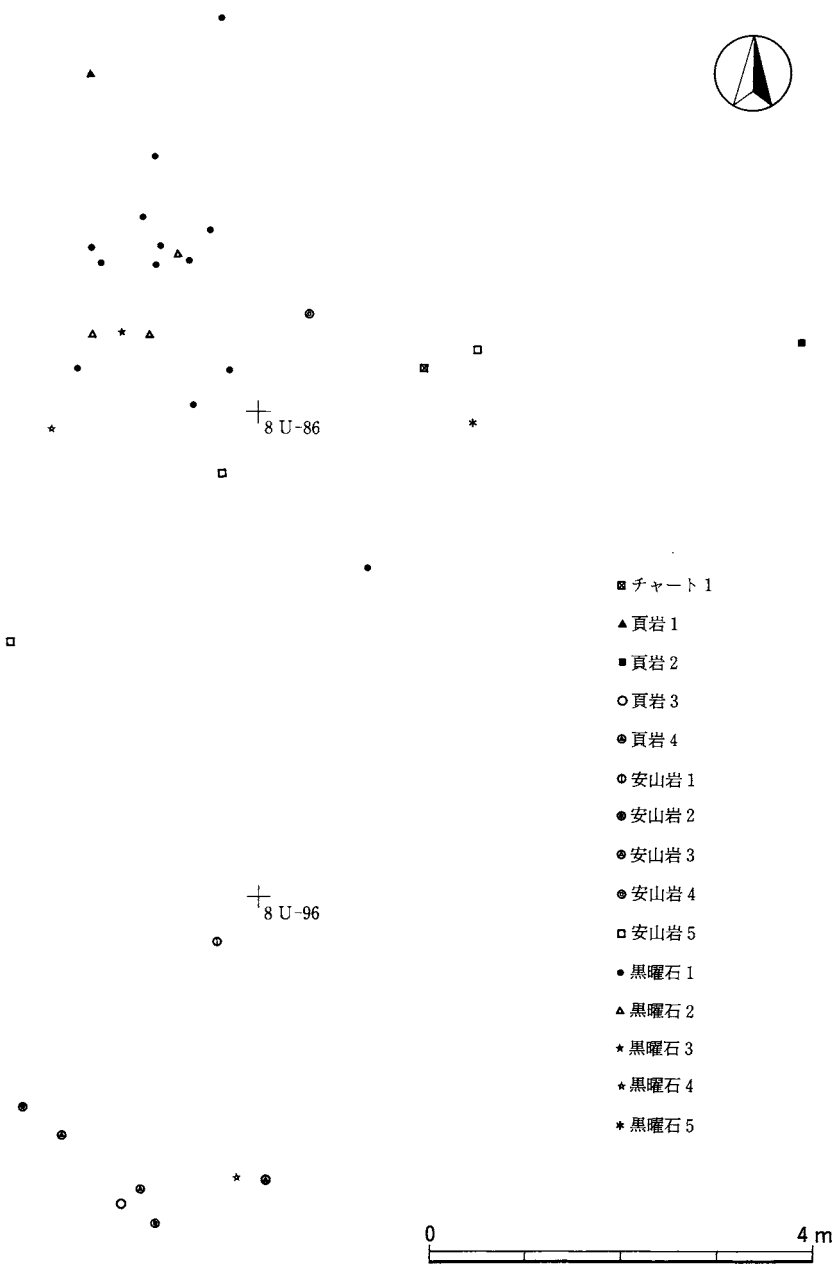


274. 8 U-76-3

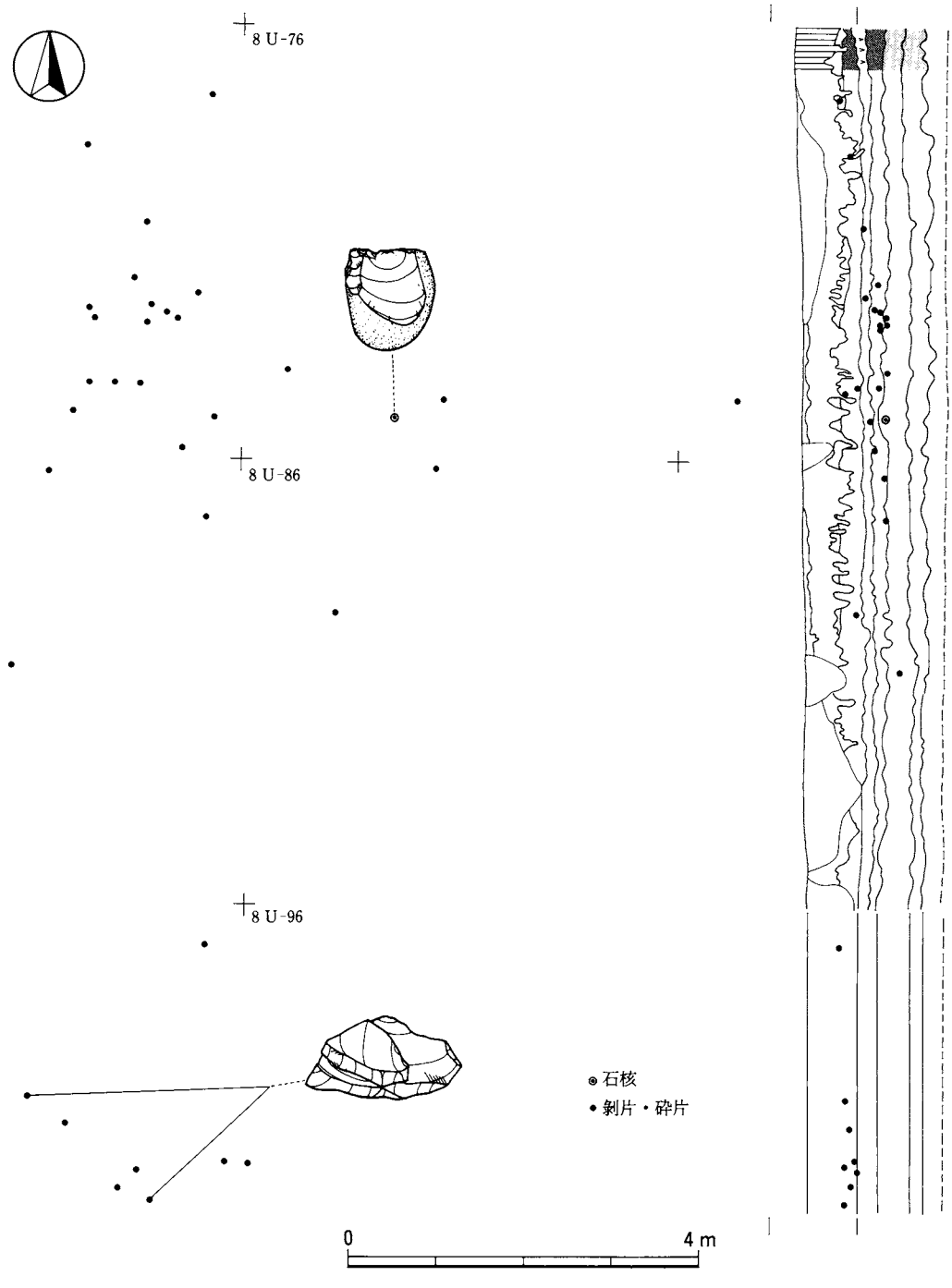
23

0 5 cm

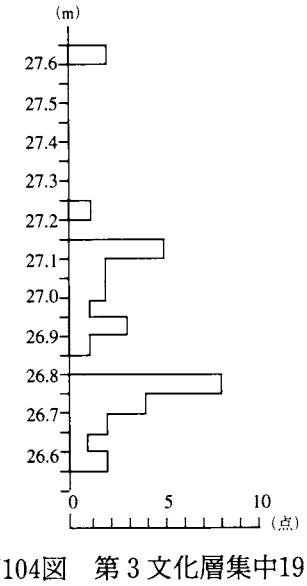
第101図　第３文化層集中18・19　出土石器（２／３）



第102図　第３文化層集中19　母岩別分布（１／80）



第103図　第３文化層集中19　器種別分布（１／80）



第104図　第３文化層集中19
遺物垂直分布図

第37表　第３文化層集中19　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	8U-75-1	10.5×18.7×11.3	1.44	欠	I			H	黒曜石	1
	F	3	30.2×12.9× 4.2	1.44	平	I,II				頁岩	1
	F	4	15.9×15.8× 5.8	1.34	平	I			B	黒曜石	1
	F	5	12.8× 3.2× 3.3	0.13	欠	I			H	黒曜石	1
	F	6	22.0× 9.4× 5.5	0.74	欠	I,IV			H	黒曜石	1
	F	7	15.6× 8.2× 2.3	0.31	平	I			B	黒曜石	1
	F	8	7.8×11.0× 3.6	0.17	欠	II			H～M	黒曜石	1
	F	9	13.7× 7.9× 3.8	0.39	点	I				黒曜石	1
	CH	10	7.1× 4.8× 2.3	0.05	平	I				黒曜石	1
	CH	11	5.8× 5.1× 1.1	0.04	欠	I			H	黒曜石	1
	F	12	15.1× 6.9× 1.6	0.15	線	I				黒曜石	2
	F	13	6.0×12.5× 1.9	0.10	平	III				黒曜石	3
	CH	14	9.3× 7.8× 1.3	0.09	線	I				黒曜石	2
	F	15	11.5×16.6× 3.5	0.53	線	I				黒曜石	1
	CH	16	7.0× 6.6× 2.0	0.09	欠	I			H	黒曜石	1
	CH	17	9.3× 9.0× 2.2	0.11	平	I				黒曜石	1
	F	18	8.6×11.3× 3.1	0.23	欠	I			H	黒曜石	2
101-274	石核	8U-76-3	29.4×25.9×17.5	18.49	−					チャート	1
	CH	5	8.9× 6.0× 2.3	0.12	線	I				安山岩	5
	CH	6	10.1× 6.6× 3.5	0.23	欠	I				安山岩	4
	F	8U-77-5	27.3×37.0× 6.7	4.83	平	I,IV				頁岩	2
	CH	8U-85-5	5.9× 2.5× 1.3	0.02	点	I				安山岩	5
	CH	6	6.1× 3.4× 1.0	0.02	平	I				黒曜石	4
	CH	7	4.4× 3.3× 1.6	0.03	平	I				安山岩	5
	F	8U-86-3	15.1× 8.1× 2.6	0.26	平	I				黒曜石	1
	F	19	11.8×20.8× 8.2	1.11	欠	I			H～M	黒曜石	5
	F	8U-95-5	39.7×46.2×13.7	18.10	平	I				安山岩	1
	F	14	11.9×16.3× 7.0	0.98	平	I,II,III				安山岩	3
101-273	F	16	26.0×41.3× 6.7	6.18	平	I				安山岩	2
	F	17	26.8×30.3× 8.3	5.28	平	I II				頁岩	3
	F	18	12.1×23.3× 4.4	0.82	欠	I IV			H～M	安山岩	3
101-273	F	23	21.5×18.7× 6.8	2.60	平	I				安山岩	2
	F	25	12.8×18.0× 3.1	0.55	線	I				黒曜石	4
	F	8U-96-5	10.9×15.9× 3.7	0.42	線	I				頁岩	4

第38表　第３文化層集中19　石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート	1	1																				1	18.49
頁岩	1																			1		1	1.44
	2																			1		1	4.83
	3																			1		1	5.28
	4																			1		1	0.42
安山岩	1																			1		1	18.10
	2																			2		2	8.78
	3																			2		2	1.80
	4																			1		1	0.23
	5																			3		3	0.17
黒曜石	1																			13		13	5.60
	2																			3		3	0.47
	3																			1		1	0.10
	4																			2		2	0.57
	5																			1		1	1.11
総計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33		34	67.39
%		2.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97.1		100	

7　第4文化層　（第105～108図　第39、40表）

第4文化層は、武蔵野台地IV層下部文化層に相当する。用いられる石材を見ると、黒曜石に次いでチャートの割合が高い。図の276の剥片のみが安山岩製である。本遺跡では1か所の集中地点（集中20）が検出された。

1．集中20（第106～108図　第39、40表）

位　置

第1調査区の舌状台地基部の東側の谷に寄った平坦部の5Q—94グリッドの4m×4mほどの範囲から出土した。黒曜石が主体の集中である。

遺物分布状況

第1文化層集中3の北部に重複して検出された集中で、5Q—94グリッドの東西4m、南北1mほどの範囲から検出された。器種では角錐状石器、鋸歯縁石器、削器が各1点含まれる。接合関係では隣接して出土した凝灰岩1が接合したが被熱して赤褐色化している。

母岩別分布

黒曜石2が2m×0.5mほどの範囲から剥片が40点ほど集中して出土していることから黒曜石2の剥片剥離作業が行われたと考えられる。また、黒曜石3の石核と剥片3点が含まれる。

石　材

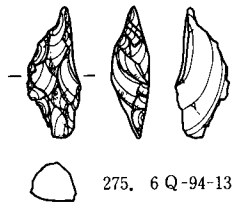
黒曜石6種58点、チャート3種14点、安山岩1種1点、凝灰岩1種2点の計75点で構成される。黒曜石1は黒色で不純鉱物を含むものである。

器　種（第40表）

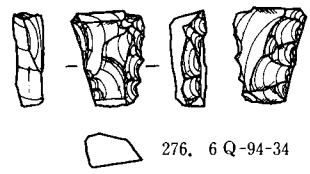
石核2点、ナイフ形石器1点、掻器1点、鋸歯縁石器1点、角錐状石器2点、礫2点、剥片・砕片66点で構成される。

1．集中20の石器（第105図　図版30）

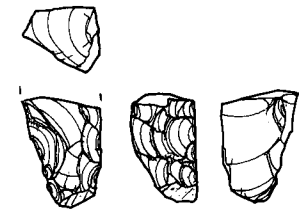
275は黒曜石の角錐状石器である。横長剥片を用い、急角度の剥離で全体の形状を整形している。尖頭部が作出されている。276は黒曜石の鋸歯縁石器である。277は黒曜石の角錐状石器の断片である。背の高い縦長剥片を急角度の剥離で整形している。278は黒曜石の抉入石器若しくは石核である。分厚い剥片の両側辺に大きな剥離痕を留める。279は黒曜石の掻器あるいは小鋸歯縁状の刃部を持つ側削器である。剥片の厚い打面部分に急角度の剥離で刃付けをしている。280は黒曜石の剥片製の小型の石核である。281～286は剥片である。281～285は黒曜石、286は安山岩製である。



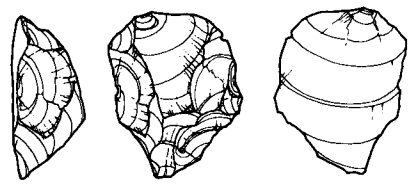
275. 6Q-94-13



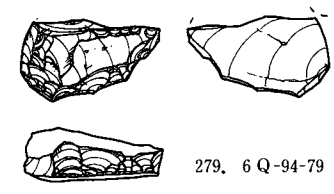
276. 6Q-94-34



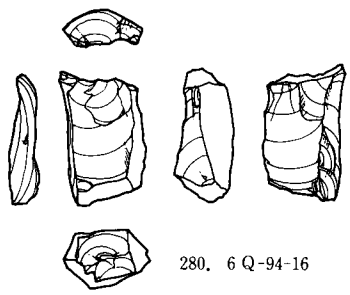
277. 6Q-94-5



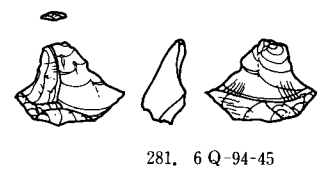
278. 6Q-94-20



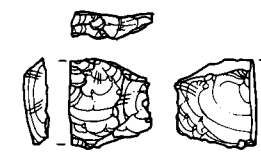
279. 6Q-94-79



280. 6Q-94-16

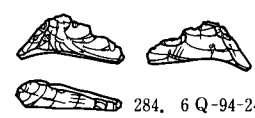


281. 6Q-94-45

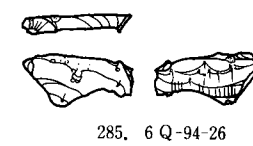


282. 6Q-94-17

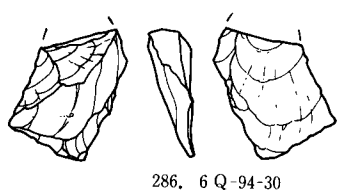
283. 6Q-94-56



284. 6Q-94-24

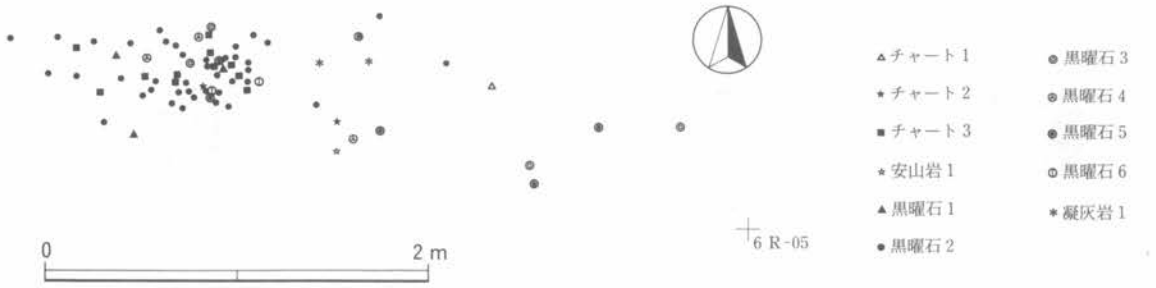


285. 6Q-94-26

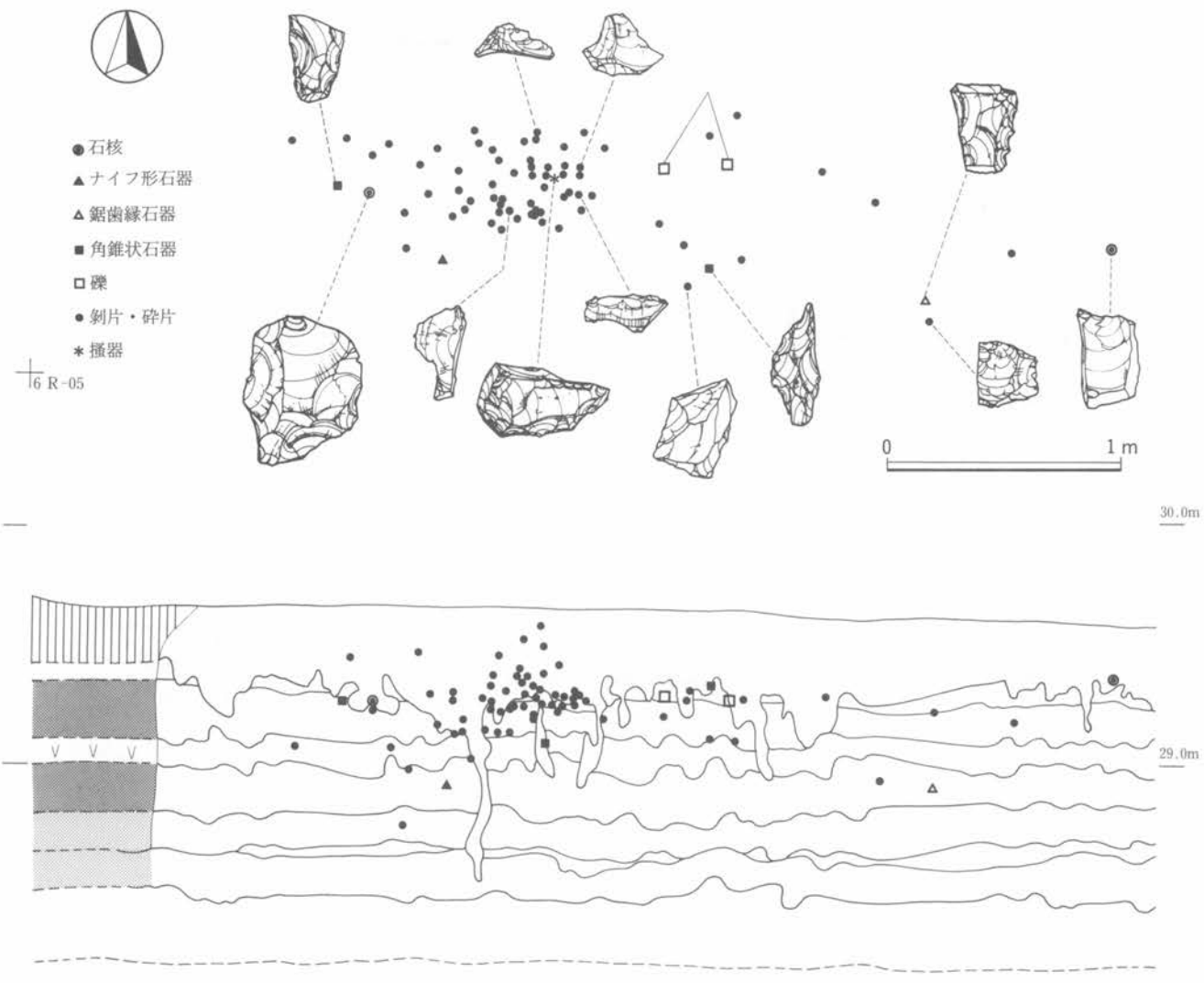


286. 6Q-94-30

第105図　第4文化層集中20　出土石器（2／3）



第106図　第4文化層集中20　母岩別分布（1／40）



第107図　第4文化層集中20　器種別分布（1／30）

第39表　第４文化層集中20　石器属性表

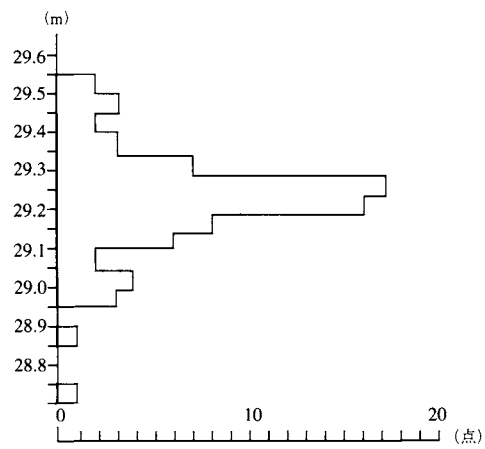
図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6Q-94-4	5.4× 8.0× 2.6	0.25	㊥	I				黒曜石	2
105-277	角錐状石器	5	22.6×15.3×12.4	3.92	−				B～M	黒曜石	2
	F	6	7.7×10.5× 3.0	0.17	平	I,Ⅳ				黒曜石	2
	F	7	12.7×17.7× 4.0	0.49	線	I				黒曜石	1
	F	8	11.0×12.5× 7.0	1.25	平	I,II				黒曜石	2
	円礫片	9	34.0×30.8×19.0	16.01	−					凝灰岩	1
	円礫	10	83.7×42.6×38.1	172.75	−					凝灰岩	1
	F	11	9.6×17.0× 5.7	0.55	欠	III			H	黒曜石	2
	F	6Q-94-12	9.1×11.1× 8.7	0.79	自	I,II				チャート	1
105-275	角錐状石器	13	26.4×10.2× 7.3	1.42	−					黒曜石	4
	ナイフ形石器	14	9.8× 8.2× 4.9	0.26	−				H～M	黒曜石	1
	F	15	28.5×13.4×11.4	2.48	−				B	黒曜石	5
105-280	石核	16	26.7×16.0×10.9	4.90	−					黒曜石	3
105-282	F	17	17.6×18.4× 5.2	1.70	平	I,II				黒曜石	3
	CH	19	3.9× 1.8× 0.5	0.01	−					チャート	3
105-278	抉入り石器もしくは石核	20	15.0×30.5×25.4	9.05	−					黒曜石	2
	CH	21	6.3× 7.5× 1.5	0.04	−	I			H	黒曜石	2
	CH	22	8.6× 2.8× 0.8	0.01	点	I				黒曜石	2
	F	23	13.7× 8.7× 3.0	0.22	平	I				黒曜石	2
105-284	F	24	9.0×20.6× 4.7	0.62	点	I			B	黒曜石	3
	CH	25	5.6×12.4× 1.4	0.07	点	II				チャート	2
105-285	F	26	10.4×22.1× 4.0	0.58	欠	III			H	黒曜石	2
	CH	27	2.4× 2.9× 0.4	0.01	線					黒曜石	2
	CH	28	8.5× 8.5× 1.8	0.05	線	I,II				黒曜石	2
	F	29	13.0×14.3× 2.5	0.31	点	I,II				チャート	2
105-286	F	30	28.0×22.9× 7.8	3.30	平	I,II				安山岩	1
	F	31	11.7× 8.1× 7.0	0.79	平	I,II				黒曜石	5
	F	32	15.3×24.9× 5.7	1.42	−					黒曜石	5
	F	33	10.9× 5.0× 1.5	0.05	点	I,III				黒曜石	2
105-276	鋸歯縁石器	34	19.2×13.8× 7.3	2.09	−					黒曜石	5
	F	35	12.5×11.0× 3.3	0.24	平					黒曜石	2
	CH	36	2.5× 4.5× 0.7	0.01	線					チャート	3
	CH	37	2.1× 3.8× 1.1	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	38	6.8× 9.4× 2.2	0.16	欠	Ⅳ			H	黒曜石	2
	F	39	14.0× 8.5× 1.7	0.14	線	I				黒曜石	4
	F	40	5.4×12.9× 5.2	0.31	欠	I				黒曜石	2
	CH	41	6.8× 9.1× 2.2	0.05	線	I				黒曜石	4
	CH	42	3.2× 4.5× 0.6	0.01	線	I				チャート	3
	F	43	12.8×12.9× 4.7	0.61	点	I,III				黒曜石	2
	F	44	17.7× 9.9× 5.2	0.54	線	I,II				黒曜石	5
105-281	F	45	17.0×21.4× 8.5	1.53	平	I,III				黒曜石	2
	CH	46	2.0× 2.9× 0.8	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	47	5.7× 5.9× 1.2	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	50	2.6× 5.9× 1.3	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	51	3.4× 5.4× 2.6	0.03	平	I				黒曜石	2
	CH	52	2.7× 1.9× 0.7	0.01	点	I				チャート	3
	CH	53	4.1× 6.0× 0.9	0.01	線	I				チャート	3
	CH	54	2.8× 2.3× 0.4	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	55	3.5× 2.9× 0.5	0.01	欠	I			H	チャート	3
105-283	F	56	13.5×25.5× 6.4	0.94	欠	III			H～M	黒曜石	2
	CH	57	3.3× 3.9× 1.8	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	58	5.7× 2.5× 0.7	0.01	線	I				チャート	3
	CH	59	1.4× 3.0× 0.4	0.01	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	60	1.8× 3.7× 0.3	0.01	欠	I			H	黒曜石	6
	CH	61	4.4× 2.5× 0.8	0.01	欠	I			H	チャート	3
	CH	62	2.0× 0.9× 0.3	0.01	欠	I			H	チャート	3
	CH	63	5.1× 1.9× 1.6	0.01	線	I				チャート	3
	CH	64	3.0× 3.3× 0.5	0.01	欠	I			H	チャート	3
	CH	65	6.9× 2.8× 1.6	0.02	平	I				黒曜石	2
	CH	66	8.0× 3.6× 1.8	0.02	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	67	2.9× 2.9× 0.3	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	68	3.0× 4.7× 0.6	0.01	点	I				黒曜石	2
	F	69	9.6×20.2× 6.4	0.69	欠	I,III			H	黒曜石	5
	CH	70	2.9× 4.0× 0.4	0.01	点	I				黒曜石	6
	CH	71	3.4× 8.0× 1.2	0.03	欠	I			H	黒曜石	2
	CH	72	2.9× 5.2× 0.7	0.01	点	I				黒曜石	2
	CH	73	4.9× 9.9× 2.6	0.07	欠	Ⅳ			H	黒曜石	2
	CH	74	5.0× 3.3× 1.2	0.01	線	I				黒曜石	2
	CH	75	2.1× 3.9× 0.7	0.01	欠	I			H	黒曜石	2

第39表　第４文化層集中20　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	CH	6Q-94-76	2.2× 2.7× 0.5	0.01	点	I				黒曜石	2
	F	77	7.5×10.5× 2.7	0.19	線	I				黒曜石	2
	F	78	11.0×10.3× 2.4	0.15	点	I，Ⅳ				黒曜石	3
105-279	掻器・側削器	79	28.8×16.3× 9.9	4.09	－					黒曜石	1
	F	80	9.8× 9.1× 4.9	0.20	剝	I				黒曜石	2
	CH	81	8.5× 8.2× 2.1	0.09	欠	I			H	黒曜石	2

第40表　第４文化層集中20　石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート 1																			1		1	0.79
2																			2		2	0.38
3																			11		11	0.11
安山岩 1																			1		1	3.30
黒曜石 1			1				1												1		3	4.84
2	1																1		38		40	20.68
3	1																		3		4	7.37
4																	1		2		3	1.61
5									1										5		6	8.01
6																			2		2	0.02
凝灰岩 1																				2	2	188.76
総計	2	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	66	2	75	235.87
%	2.6	0	1.3	0	0	0	1.3	0	1.3	0	0	0	0	0	0	0	2.7	0	88	2.7	99.9	



第108図　第４文化層集中20　遺物垂直分布図

8　第5文化層　（第109～117図　第41～46表）

ソフトローム層（III層）～ハードローム層（IV層）段階の文化層で本遺跡からは第4調査区である8Uグリッド中の隣接した3か所（集中21—（1），（2），（3））で検出された。

1．集中21

位　置

第1調査区の舌状台地とは東側に谷を隔てた南東から北西へ延びる台地の西側（舌状台地側）の谷側の縁辺部に近い平坦部にあたる位置から検出した。8U—65,66,76グリッド、8U—77,86,87グリッド、8U—95,96グリッドの3地点にまとまりがあることから1つの集中とし枝番で報告する。

集中21—（1）

遺物分布状況

8U—66グリッドを中心として東西8m、南北5mの範囲に分布する。頁岩3種、安山岩2種、流紋岩1種、凝灰岩1種の11点から構成される。全体に散漫な分布状況を呈し、尖頭器1点、加工痕のある剝片1点の他は剝片である。

母岩別分布

頁岩1、流紋岩1が近接して出土している他は単体での出土である。

石　材

集中21—（1）は頁岩3種5点、安山岩2種2点、流紋岩1種3点、凝灰岩1種1点で構成される。

頁岩1は淡灰色で暗色鉱物を含むもの、2は灰色で節理が複雑に入る石材としては悪い素材のものである。

器　種（第42表）

尖頭器1点、二次加工のある剝片1点、剝片・砕片9点である。

集中21—（2）

遺物分布状況

8U—86、87グリッドにかけての4m×4mほどの範囲で32点が出土した。接合関係では黒曜石2が3点集中内で接合した。

母岩別分布

頁岩2は集中の西側に黒曜石1は東側にかたよって分布している傾向が見られる。

石　材

黒曜石4種7点、頁岩6種12点、安山岩4種6点、チャート1種1点、砂岩3種4点、凝灰岩2種2点で構成される。黒曜石1は透明感のある石材で粟粒状に不純鉱物を含むもの、頁岩2は暗灰色で白色鉱物を霜降り状に混入するもの、6は円礫で表面は赤褐色で内面は水色がかった灰色を呈するものである。

器　種（第44表）

石核1点、掻器1点、二次加工のある剝片1点、削器1点、礫7点、剝片・砕片21点である。

集中21—（3）

遺物分布状況

8U—95グリッドを中心に東西3m、南北3mほどの範囲に分布している。

母岩別分布

安山岩が主体を占めており、安山岩2の石核に剝片2点が接合した。全体としては剝片の割合が高く、安山岩以外の石材では単体での出土が多い。

石　材

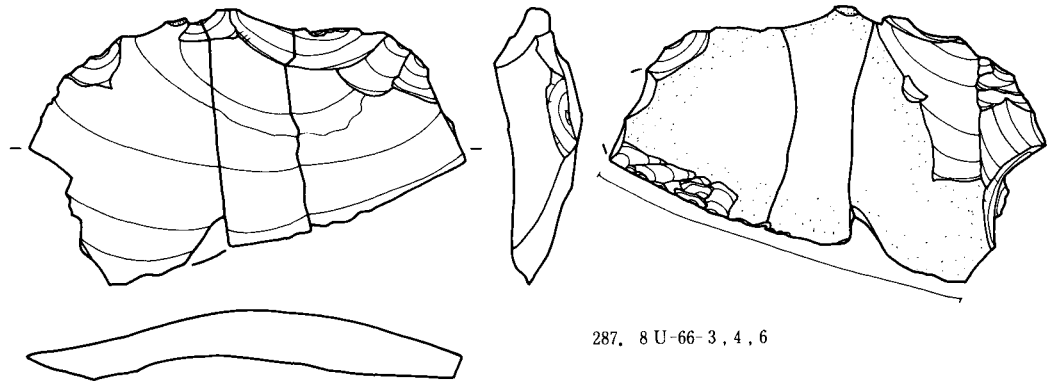
安山岩6種17点、黒曜石1種1点、頁岩2種2点、砂岩1種1点、粘板岩1種1点の22点で構成される。安山岩1は灰色で暗色鉱物を含むもの、黒曜石1は透明感のある黒色で不純物を含まないもの、砂岩1は円礫片で灰色を呈するものである。

器　種（第46表）

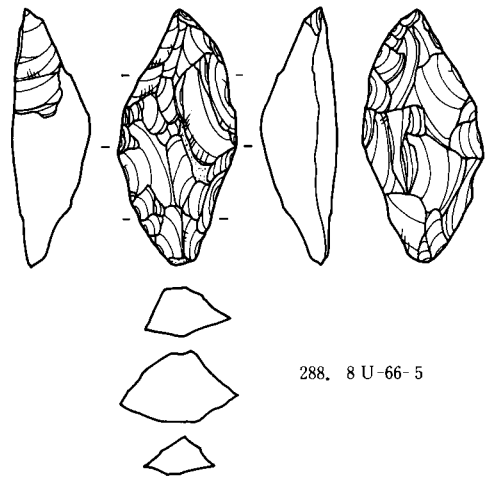
石核1点、削器2点、礫1点、敲石1点、剝片・砕片16点である。

集中21の石器（第109、110図　図版30）

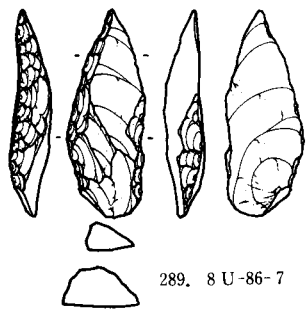
287は流紋岩製の横長剝片であるが、底辺の一部に平坦な剝離による細部加工が認められる。288は黒色緻密安山岩製の男女倉型尖頭器である。左側辺に二条の樋状剝離がはいる。289は粘板岩製のナイフ形石器である。横長剝片を素材とし、刃潰し加工で素材の打面側と反対側辺の基部に加工を施している。290は安山岩の加工痕つき剝片である。打面は折れている。291は安山岩の左側辺に急角度のノッチをいれた削器である。292は凝灰岩の円礫を一撃で分割した資料である。293は安山岩の左側辺に2か所のノッチをいれた削器である。294は安山岩の鋸歯状の刃部を持つ削器である。295は頁岩の平坦打面の縦長剝片である。296は安山岩の石核である。この石核打面部には、横長剝片が接合する。



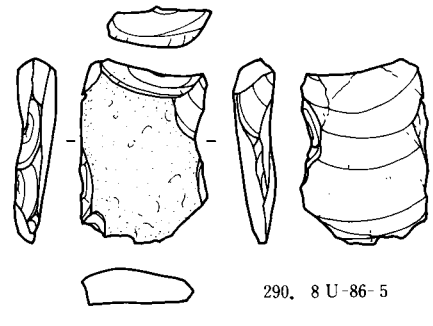
287. 8U-66-3，4，6



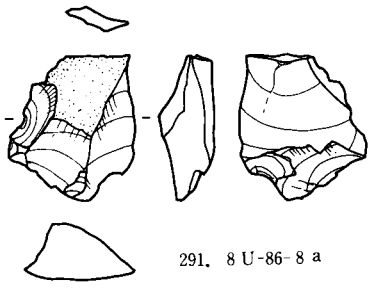
288. 8U-66-5



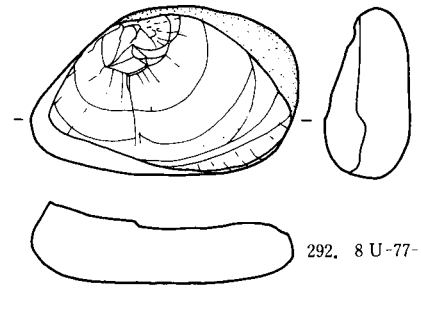
289. 8U-86-7



290. 8U-86-5

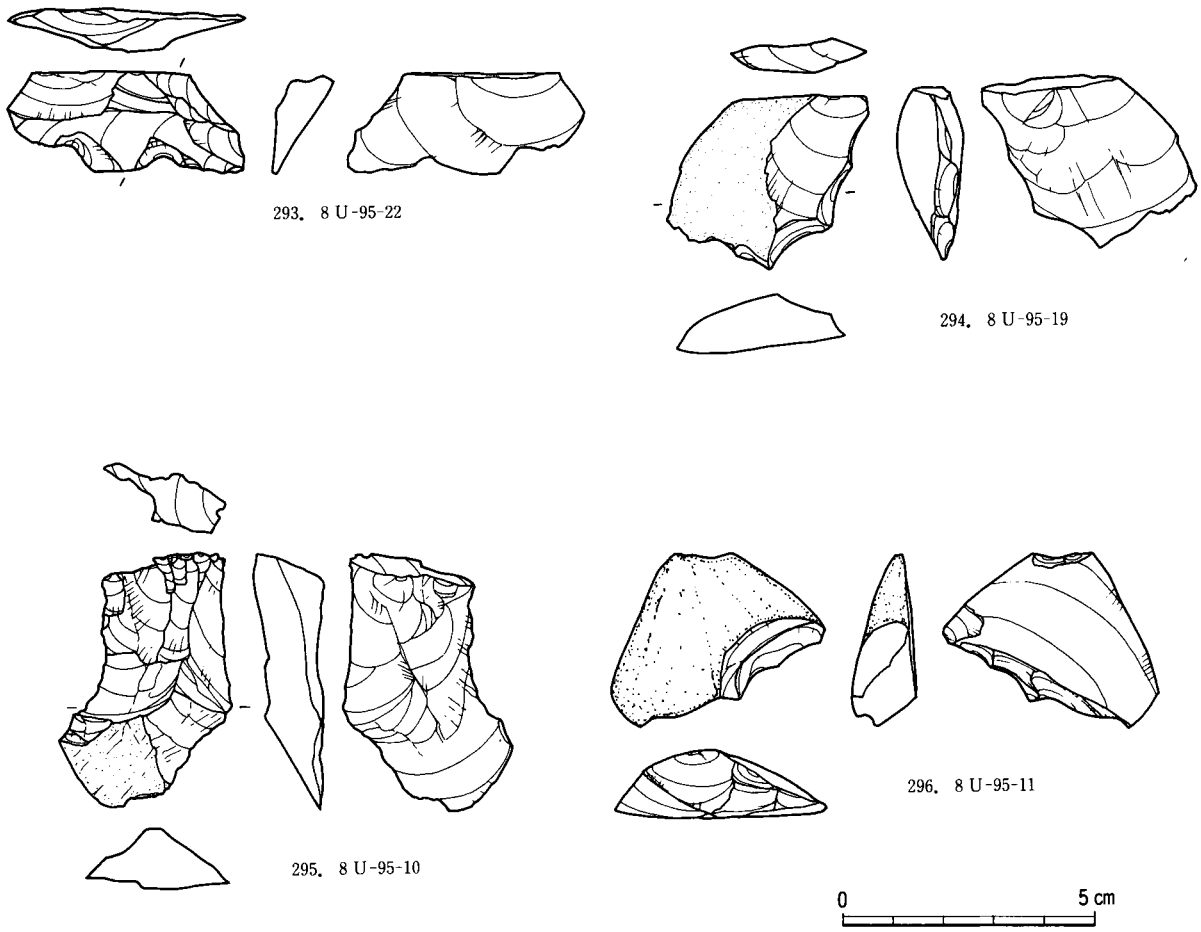


291. 8U-86-8a

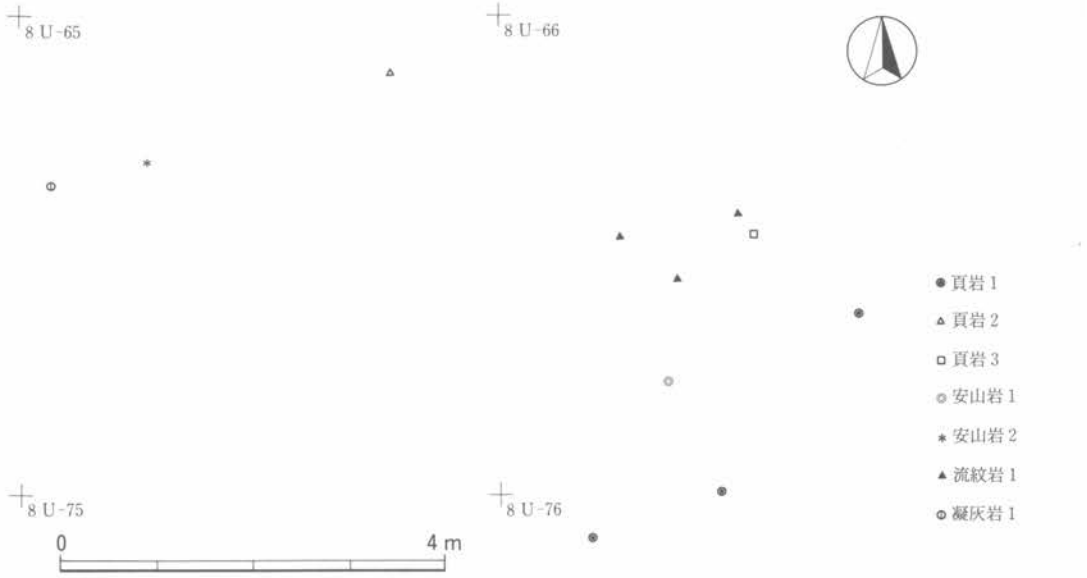


292. 8U-77-4

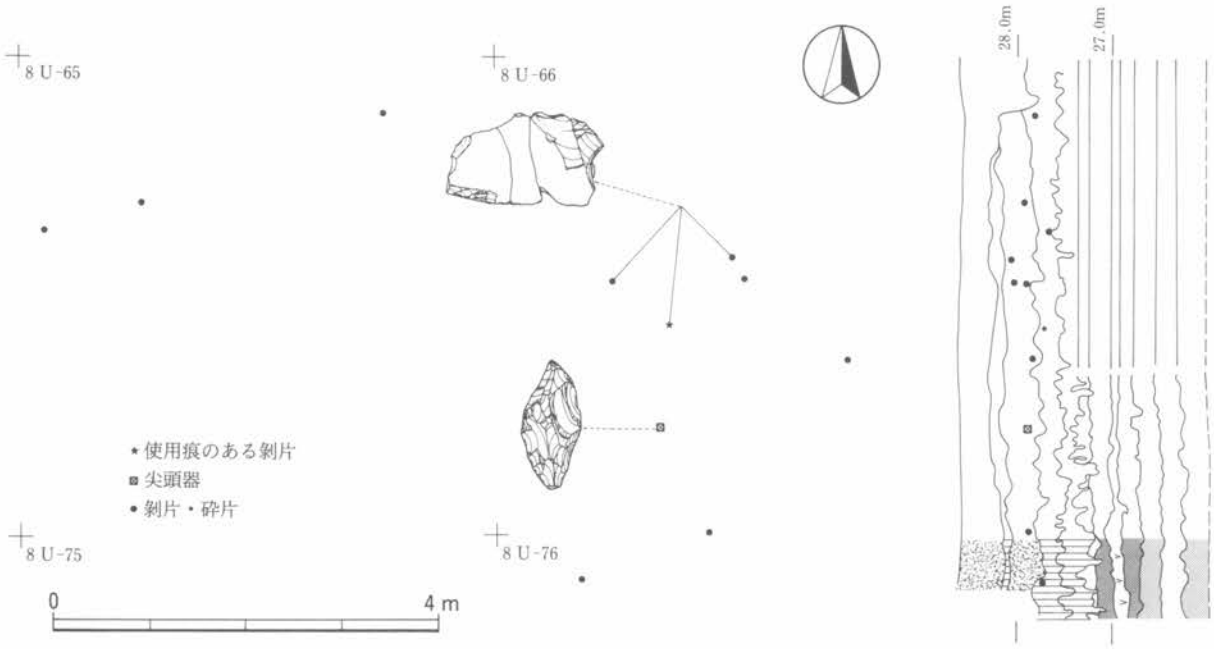
第109図　第5文化層集中21-（1）・（2）　出土石器



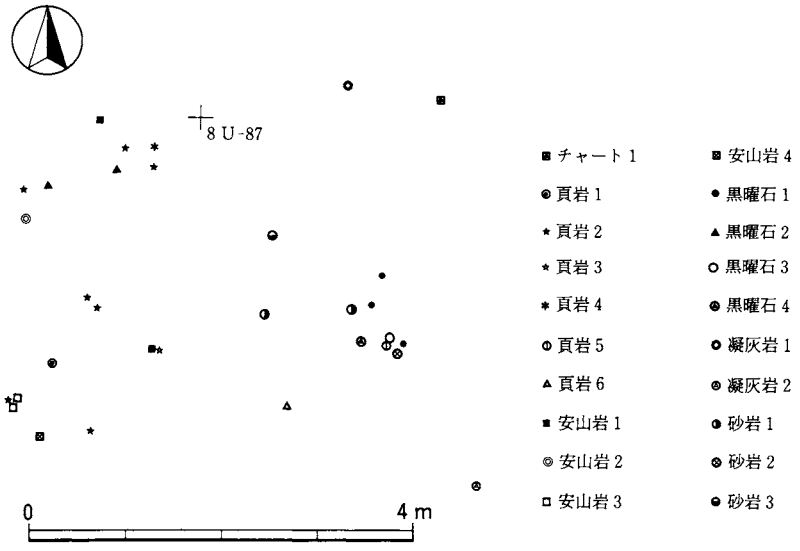
第110図　第５文化層集中21-（３）　出土石器（２／３）



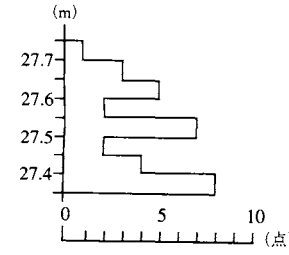
第111図　第５文化層集中21-（１）　母岩別分布（１／80）



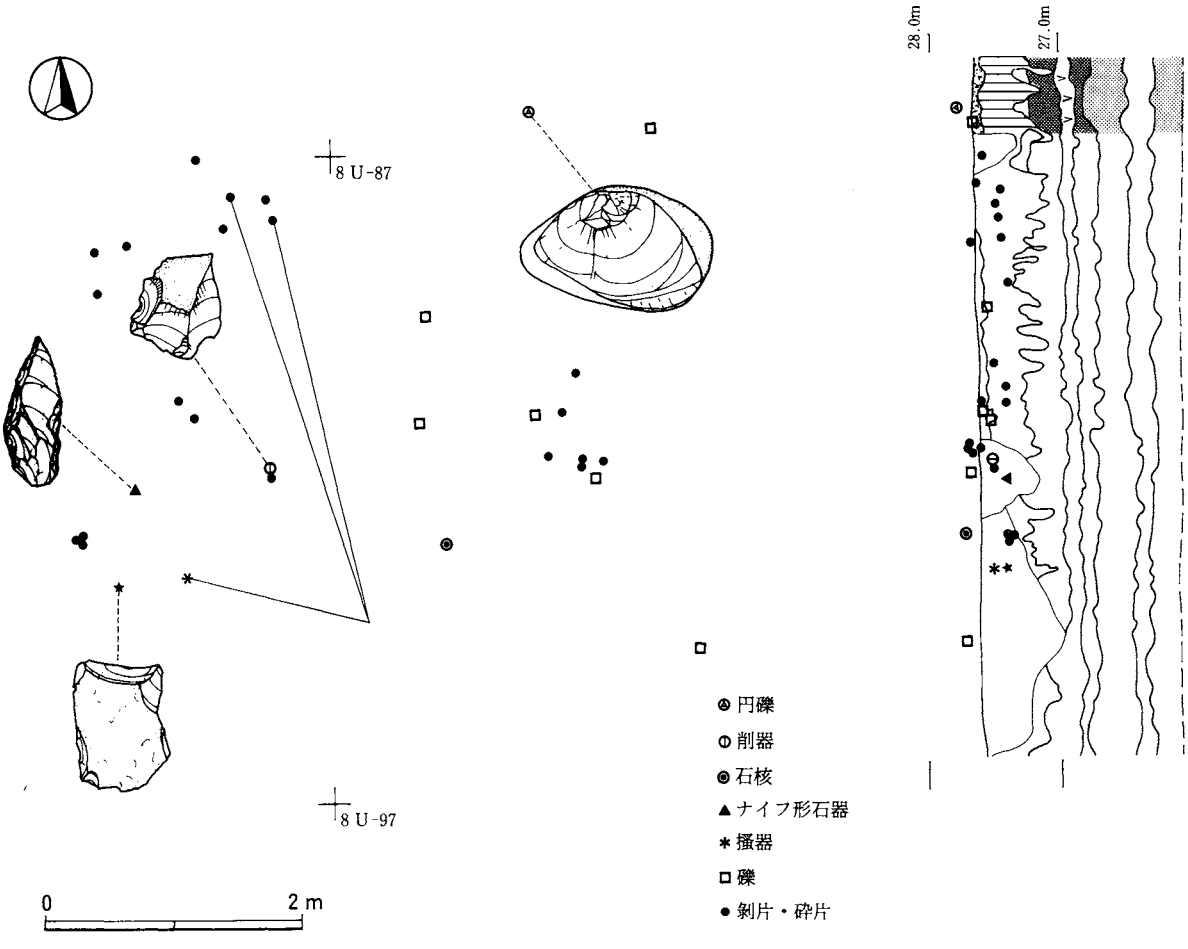
第112図　第５文化層集中21-（１）　器種別分布（１／80）



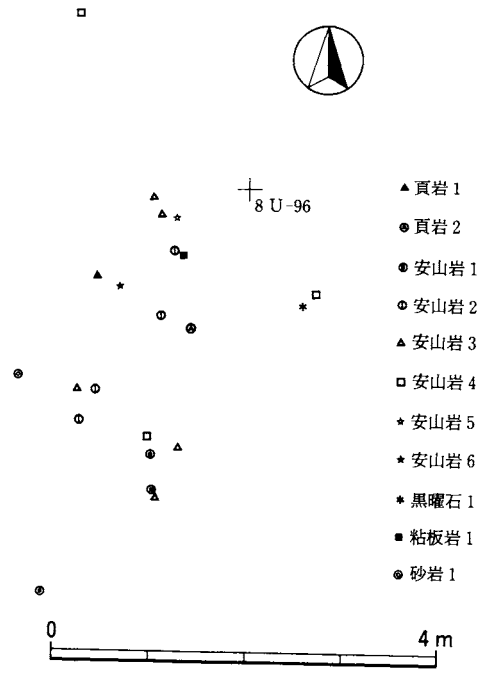
第113図　第５文化層集中21-（２）　母岩別分布（１／80）



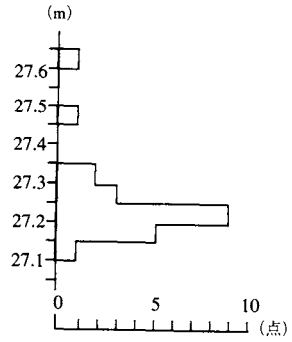
第115図　第５文化層集中21-（２）
遺物垂直分布図



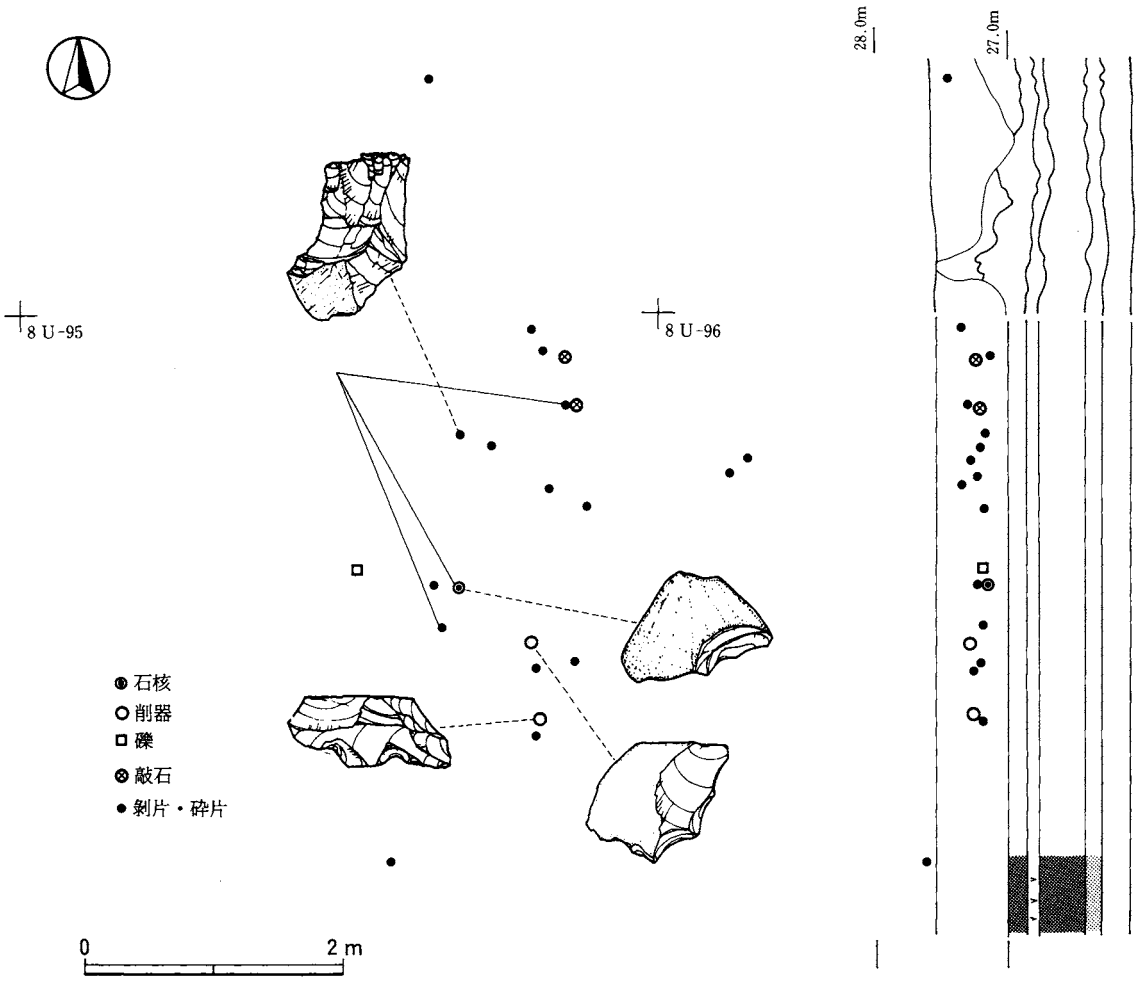
第114図　第５文化層集中21-（２）　器種別分布（１／60）



第116図　第５文化層集中21-（３）　母岩別分布（１／80）



第118図　第５文化層集中21-（３）
遺物垂直分布図



第117図　第５文化層集中21-（３）　器種別分布（１／60）

第41表　第５文化層集中21－(1)　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	8U-65-3	31.8×35.3× 9.0	7.83	点	Ⅰ,Ⅳ				頁岩	2
	F	4	21.9×27.4× 4.0	2.30	線					安山岩	2
	F	5	20.1×29.3× 7.9	4.00	自	Ⅰ			B	凝灰岩	1
109-287	F	8U-66-3	39.5×55.5× 9.8	17.59	欠	Ⅰ,Ⅱ			L	流紋岩	1
109-287	RF	4	38.2×34.0×11.7	16.50	平	Ⅰ,Ⅳ				流紋岩	1
109-288	尖頭器	5	48.9×23.3×15.7	14.43	－					安山岩	1
109-287	F	6	47.8×16.5×10.7	10.22	平				LR	流紋岩	1
	F	7	10.9×11.4× 2.6	0.27	平	Ⅰ				頁岩	3
	F	8	17.1×12.0× 3.1	0.49	線	Ⅰ,Ⅳ				頁岩	1
	F	9	20.0×28.1× 4.4	2.35	平	Ⅰ			B	頁岩	1
109-289	ナイフ形石器	8U-76-4	16.0×14.5× 3.0	0.69	欠	Ⅰ			H	頁岩	1

第42表　第５文化層集中21－(１) 石器組成表

	石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
頁岩 1																			3		3	3.53
2																			1		1	7.83
3																			1		1	0.27
安山岩 1								1													1	14.43
2																			1		1	2.30
流紋岩 1												1							2		3	44.31
凝灰岩 1																			1		1	4.00
総計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	9	0	11	76.67
%	0	0	0	0	0	0	0	9.1	0	0	0	9.1	0	0	0	0	0	0	81.8	0	100	

第43表　第５文化層集中21－(2)　石器属性表

図版No.	器　種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	円礫	8U-77-3	44.7×26.5×16.4	26.26	－					チャート	1
109-292	円礫	4	32.8×52.8×16.9	32.50	－					凝灰岩	1
	掻器	8U-86-4	40.4×43.6×12.4	23.93	－					頁岩	2
109-290	RF	5	34.2×25.1× 8.5	9.36	平	Ⅱ				安山岩	4
	F	6a	20.7×25.8× 6.3	2.56	平	Ⅰ			R	安山岩	3
	F	6b	13.1×20.6× 2.9	0.66	平	Ⅰ			B	安山岩	3
	F	6c	14.2×21.8× 6.3	0.98	欠	Ⅰ			H	頁岩	2
109-289	ナイフ形石器	7	41.0×17.8× 7.9	4.55	－					頁岩	1
109-291	削器	8a	29.2×25.5×11.0	6.75	平	Ⅰ,Ⅱ				安山岩	1
	F	8b	11.9×13.3× 7.3	0.98	欠	Ⅰ			H～M	頁岩	3
	F	9	28.0×24.8× 2.6	6.42	平	Ⅰ				頁岩	2
	F	10	26.3×21.5× 4.4	2.16	欠	Ⅰ			H～B	頁岩	2
	F	11	25.3×47.5×10.1	8.67	平	Ⅰ				安山岩	2
	F	12	27.5×14.5×17.9	5.33	平	Ⅰ,Ⅱ				頁岩	2
	F	13	19.6×14.0×10.7	2.26	欠	Ⅰ			R	黒曜石	2
	F	14	10.4×12.5× 4.4	0.58	線	Ⅰ				黒曜石	2
	F	15	16.1×22.5× 3.9	0.91	平	Ⅰ				頁岩	2
	F	16	13.8× 8.3× 3.2	0.30	欠	Ⅰ				頁岩	4
	F	17	21.1×30.1×10.5	5.99	欠	Ⅰ,Ⅳ				頁岩	2
	F	18	69.4×35.5×19.2	40.12	自	Ⅰ,Ⅱ			L	安山岩	1
	円礫片	8U-87-3	40.4×38.2×23.2	23.65	－					凝灰岩	2
	円礫片	4	23.1×22.2×16.6	7.52	－					砂岩	2
	F	5	11.5× 5.5× 2.6	0.13	平	Ⅰ				黒曜石	1
	F	6a	11.9× 5.7× 2.5	0.11	線	Ⅱ,Ⅳ				黒曜石	3
	F	6b	15.1×15.4× 3.4	0.56	平	Ⅰ				頁岩	5
	F	7	12.7×22.3×10.7	2.81	平	Ⅱ,Ⅲ				黒曜石	4
	F	8	9.5× 7.3× 4.8	0.18	点	Ⅰ				黒曜石	1
	円礫片	9	13.4×30.7×13.5	7.07	－					砂岩	1
	F	10	17.1×10.5× 5.6	0.57	平	Ⅰ,Ⅱ				黒曜石	1
	礫	11	14.2×14.0× 9.6	2.01	－					砂岩	3
	円礫片	12	22.9×20.5×15.5	6.11	－					砂岩	1
	石核	13	28.9×35.4×34.3	19.22	－					頁岩	6

第44表　第５文化層集中21－（２）石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
チャート	1																				1	1	26.26
頁岩	1																			1		1	4.55
	2							1												6		7	45.72
	3																			1		1	0.98
	4																			1		1	0.30
	5																			1		1	0.56
	6	1																				1	19.22
安山岩	1						1													1		2	46.87
	2																			1		1	8.67
	3																			2		2	3.22
	4												1									1	9.36
黒曜石	1																			3		3	0.88
	2																			2		2	2.84
	3																			1		1	0.11
	4																			1		1	2.81
凝灰岩	1																				1	1	32.50
	2																				1	1	23.65
砂岩	1																				2	2	13.18
	2																				1	1	7.52
	3																				1	1	2.01
総計		1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	21	7	32	251.21
%		3.1	0	0	0	0	3.1	3.1	0	0	0	0	3.1	0	0	0	0	0	0	65.6	21.9	99.9	

第45表　第５文化層集中21－(3)　石器属性表

図版No.	器種	遺物番号	長×幅×厚 (mm)×(mm)×(mm)	重量 (g)	打面	背面構成	調整	使用痕の有無	折れ面の有無	石材	母岩No.
	F	8U-85-4	26.8×22.7×10.3	4.60	線	I				安山岩	4
	F	8U-95-3	29.0×23.7×26.4	12.92	－	I，III，IV				安山岩	3
	敲石	4	63.1×44.8×34.2	126.31	－					安山岩	5
	敲石	6	49.4×36.6×23.8	71.81	－					粘板岩	1
	F	7	21.9×12.3× 3.3	0.59	欠	I，IV			H	頁岩	2
	F	8	20.0×30.7× 6.6	4.22	平	I，IV		L		安山岩	2
	F	9	26.7×25.1× 6.9	3.86	－	I，IV				安山岩	6
110-295	F	10	55.0× 3.4×12.3	17.27	平	I				頁岩	1
110-296	石核	11	33.4×42.0×13.2	14.92	－					安山岩	2
	F	12	19.1×17.1× 4.7	1.63	平	I，II				安山岩	3
	F	13	31.8×20.5×11.1	6.57	欠	I，II			H	安山岩	2
	円礫片	15	30.7×32.2×17.8	25.42	－					砂岩	1
110-294	削器	19	35.0×44.8×13.8	16.56	平	I		R～B		安山岩	4
	F	20	21.2×42.8× 7.0	4.33	線	I，IV				安山岩	1
	F	21	36.6×28.8×10.5	11.03	平	I，II				安山石	3
110-293	削器	22	47.4×20.5× 7.8	7.81	平	I				安山岩	1
	F	24	39.2×26.7×10.1	7.44	点	I，III				安山岩	1
	F	26	32.8×20.5× 6.2	3.92	平	I，II				安山岩	3
	F	27	22.4×24.4× 7.2	5.05	平					安山岩	2
	F	8U-95-28	24.6×15.5× 6.3	1.61	点	I				安山岩	3
	F	8U-96-3	17.6×28.8× 6.8	3.28	平	I，IV			R	安山岩	4
	CH	4	7.6×11.3× 1.9	0.13	線	I				黒曜石	1

第46表　第５文化層集中21-(3)　石器組成表

		石核	局部磨製石斧	ナイフ形石器	楔形石器	台形石器	削器	掻器	尖頭器	鋸歯縁石器	礫器	敲石	二次加工のある剝片	使用痕のある剝片	彫刻刀型石器	斧型石器	垂飾様石製品	角錐状石器	石刃	剝片・砕片	礫	計	総重量g
頁岩	1																			1		1	17.27
	2																			1		1	0.59
安山岩	1						1													2		3	19.58
	2	1																		3		4	30.76
	3																			5		5	31.11
	4						1													2		3	24.44
	5											1										1	126.31
	6																			1		1	3.86
黒曜石	1																			1		1	0.13
粘板岩	1											1										1	71.81
砂岩	1																				1	1	25.42
総計		1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	16	1	22	35128.00
%		4.5	0	0	0	0	9.1	0	0	0	0	9.1	0	0	0	0	0	0	0	72.7	4.5	99.9	

第2節　縄　文　時　代

1　概　要

縄文時代の遺構は陥穴が3基と縄文時代後期の加曽利B式の深鉢土器が出土した土坑1基が検出された他はグリッド出土の土器が出土したのみである。出土した土器の時期は縄文早期から後期にわたるが、住居跡は検出されなかった。

2　遺構と遺物

検出された縄文時代の遺構には以下のものがある。それぞれの遺構について述べる。

（1）　陥　穴（第119図）

検出された陥穴は3基ある。検出グリッドは、7Ｓ－68、9Ｕ－60、9Ｕ－71で、いずれも調査区東側台地の縁辺部と台地平坦部の中央にあたる部分に位置する。

ＳＫ－008（023）

遺構　南から入り込んでくる谷が北東方向と北西方向に分かれる北東側の小支谷の東側台地の縁辺部に位置し、等高線に対してほぼ直交する方向に構築されている。この陥穴は、4条に重複した溝の調査中に溝（ＳＤ－006）の底面から検出されたもので掘り込み面、規模等は不明であるがその形態からいわゆるＴピットとよばれるものである。確認された規模は、上端長3.4m、下端長3.15m、上端幅0.3m、下端幅0.1m、深さは0.6mを測る。断面形はやや上の開いたU字状を呈する。底面は平坦ではあるが水平ではなく、谷に向いた西側に下がっている。

遺物　遺構内からの遺物の出土はない。

ＳＫ－009（025）

遺構　台地平坦部のほぼ中央、西側が緩やかな斜面にかかる位置に構築されている。この遺構は、ソフトローム層の調査中に検出されたもので、ハードローム層上面が確認面である。規模は、上端長3.5m、下端長3.2m、上端幅30～40cm、下端幅10～16cm、確認面からの深さは約80cm。断面形はU字状を呈する。底面は平坦ではあるが中央部から北側にかけてやや下がる。底面は固く締まっており黒色土とハードロームブロックからなる層が堆積していた。

遺物　遺構内からの遺物の出土はない。

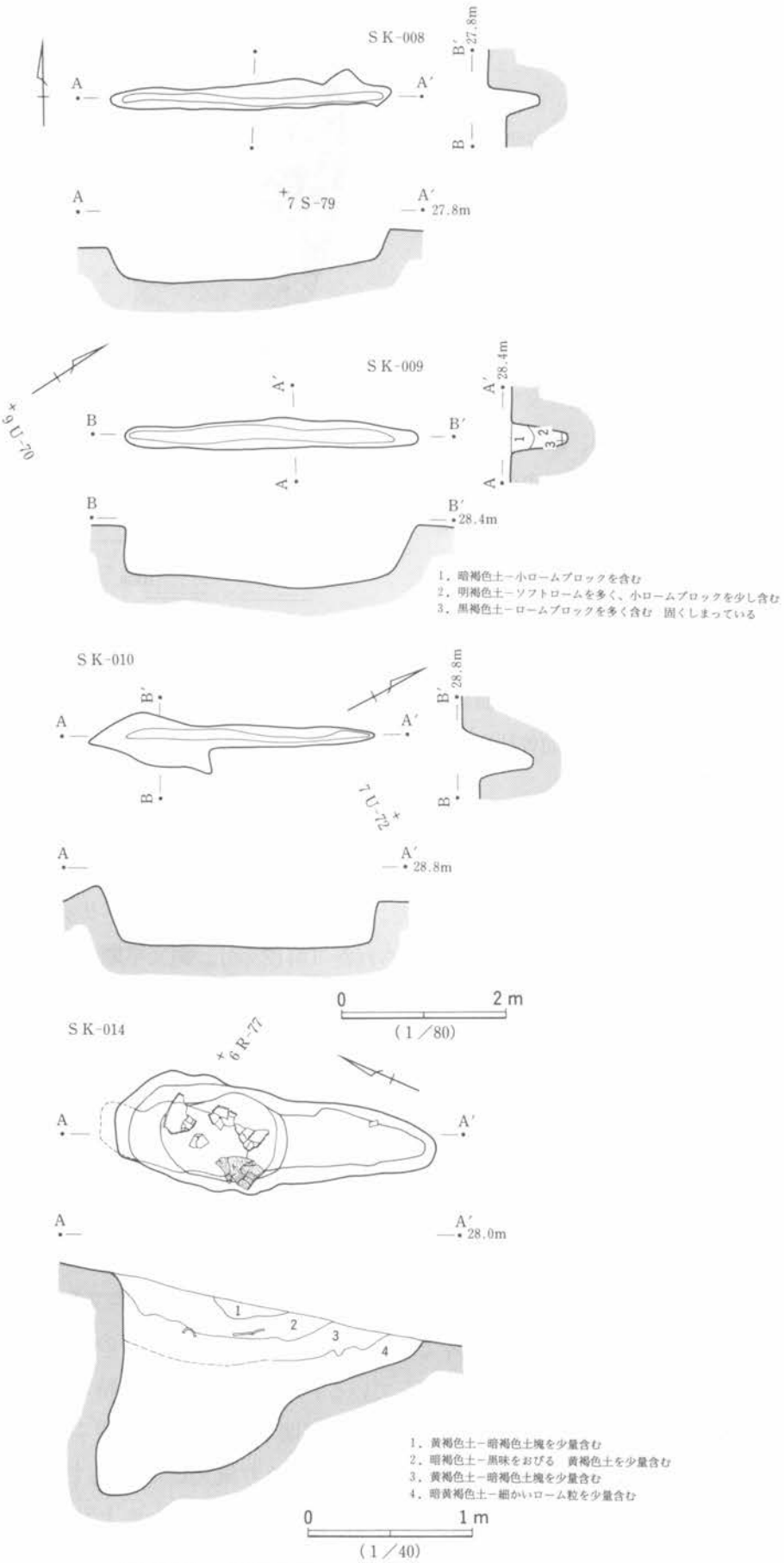
ＳＫ－010（026）

遺構　ＳＫ－009の南東に7mほど離れて、ほぼ平行した位置から検出された。この遺構もソフトローム層の調査中に検出されたもので、ハードローム層上面が確認面である。規模は、調査により一部削平されているが上端長約4m、下端長3m、上端幅0.6m、下端幅4～16cm、確認面からの深さは90cmである。断面形はU字状を呈する。

遺物　遺構内からの遺物の検出はない。

（2）　土　坑（第119図・図版7）

土坑は1基が検出されている。検出グリッドは6Ｒ－67で、小支谷の最奥部の舌状に張り出した台地の東側斜面にかかる台地縁辺部から斜面部にかかる位置に構築されている。小規模ではあるが、縄文後期の



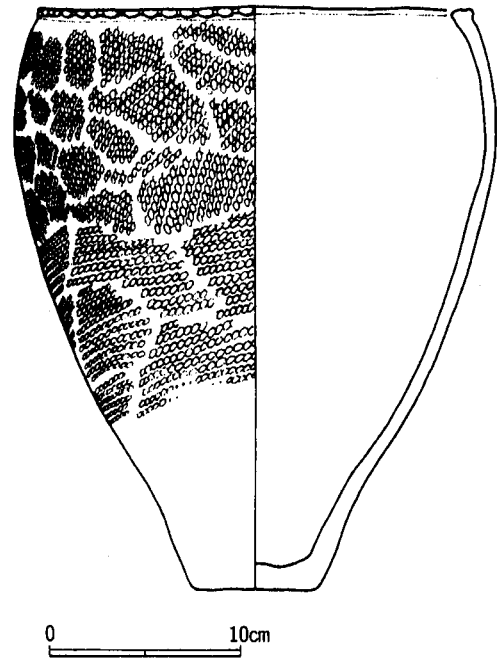
第119図　SK-008・009・010・014

粘土採掘坑の可能性もある。

ＳＫ－014（030）

遺構　ほぼ南北方向に長軸をとる。台地平坦部側の北側壁面はほぼ直に立ち上がるが谷側の南側はなだらかに立ち上がり、北側の底面は一部オーバーハングする。上端長1.95m、上端幅0.65mで３段に構築されている。

遺物　埋土上層から縄文時代後期の深鉢土器が出土した。（第120図）口縁部は全体の１／３ほどの遺存度で、全体としては80％の遺存度である。口径は復元で23.0cm、器高30.7cm、最大径は胴上部にあり25.4cm、底径6.2cmを測る。焼成は良好で胎土に乳白色の鉱物粒子を含み、内外面とも暗赤褐色から暗褐色を呈する。全体的に煤けている。口縁部には粘土帯を貼り付けて指頭で連続的に押圧している。施紋される縄文はＬＲの単節縄文で、口縁部から胴部下位にかけて斜位、横位に施紋されている。外面は施紋後に削りと磨きを加えている。内面は、ナデの後磨きを加えている。加曽利B式の土器である。



第120図　ＳＫ-014出土土器

（３）　グリッド出土遺物

縄文土器（第121～123図　図版32～35）

グリッド出土の縄文土器は1,000点ほど検出された。出土地点は５Ｒから６Ｒグリッドにかけての範囲と９Ｖグリッドの２か所に集中して検出する傾向が見られた（第123図）。縄文早期から後期に至る時期の土器が出土している。ここでは出土した土器のうちの一部について拓影及び実測図により報告する。それぞれの出土グリッドは、拓影図に示した。それ以外の土器については図（第123図）及び表（第47表）により一括で報告することとする。下記の各土器の内１～12,35は縄文時代早期中葉から早期末、13～34は縄文前期中葉～末葉、36～48は縄文中期、49～61は縄文後期前半のに比定されるものである。

１、２は４つの破片に分かれて出土したが同一個体と考えられるもので、口縁は平縁で口縁部下に２条の沈線を平行にめぐらし、三角形に区画した中を腹縁刺突で充填している。３は、１と同様の文様構成をなすものと考えられる。４は表採であり出土地点は明らかではないが、沈線により区画された文様構成をなす。上記の１～４は田戸下層式の土器である。５は５Ｒ出土、６は表採で沈線文系の土器の胴部である。７～９は条痕文系土器で、８は底部に近い破片である。10、11は条痕文系土器の底部である。12は胎土に繊維の混入がみられ、口唇部は不規則な波状を呈している。また、口縁部には粘土を帯状に貼り付け、繊維の束状のものを規則的に押し当てて文様を付けている。早期末の沈線文系土器である。13は、半裁竹管を縦方向に押し引きした後に直線、括弧状の弧線を平行沈線により施文している。浮島Ⅰ式の土器である。14は半裁竹管を押し引きして渦文としたもの、15は14と同様の文様構成をなす土器の口縁部である。14,15は諸磯ｂ式の土器である。16は、縦横の条線文に大豆ほどの粘土を貼り付けた胴部破片で諸磯ｃ式の土器

第47表　各グリッド出土縄文土器一覧表

時期 グリッド	早　期	前　期	中　期	後　期	晩　期	不　明	計
6 Q	−	2	−	1	−	3	6
5 R	15	65	40	42	4	16	182
6 R	10	82	21	68	2	81	264
5 S	28	189	38	66	2	59	382
6 S	10	46	10	31	1	16	114
8 U	8	7	−	1	−	−	16
8 V	5	7	8	23	1	18	62
9 V	10	14	19	191	−	52	286
トレンチ	9	21	32	43	−	9	114
計	95	433	168	466	10	254	
総　計							1,426

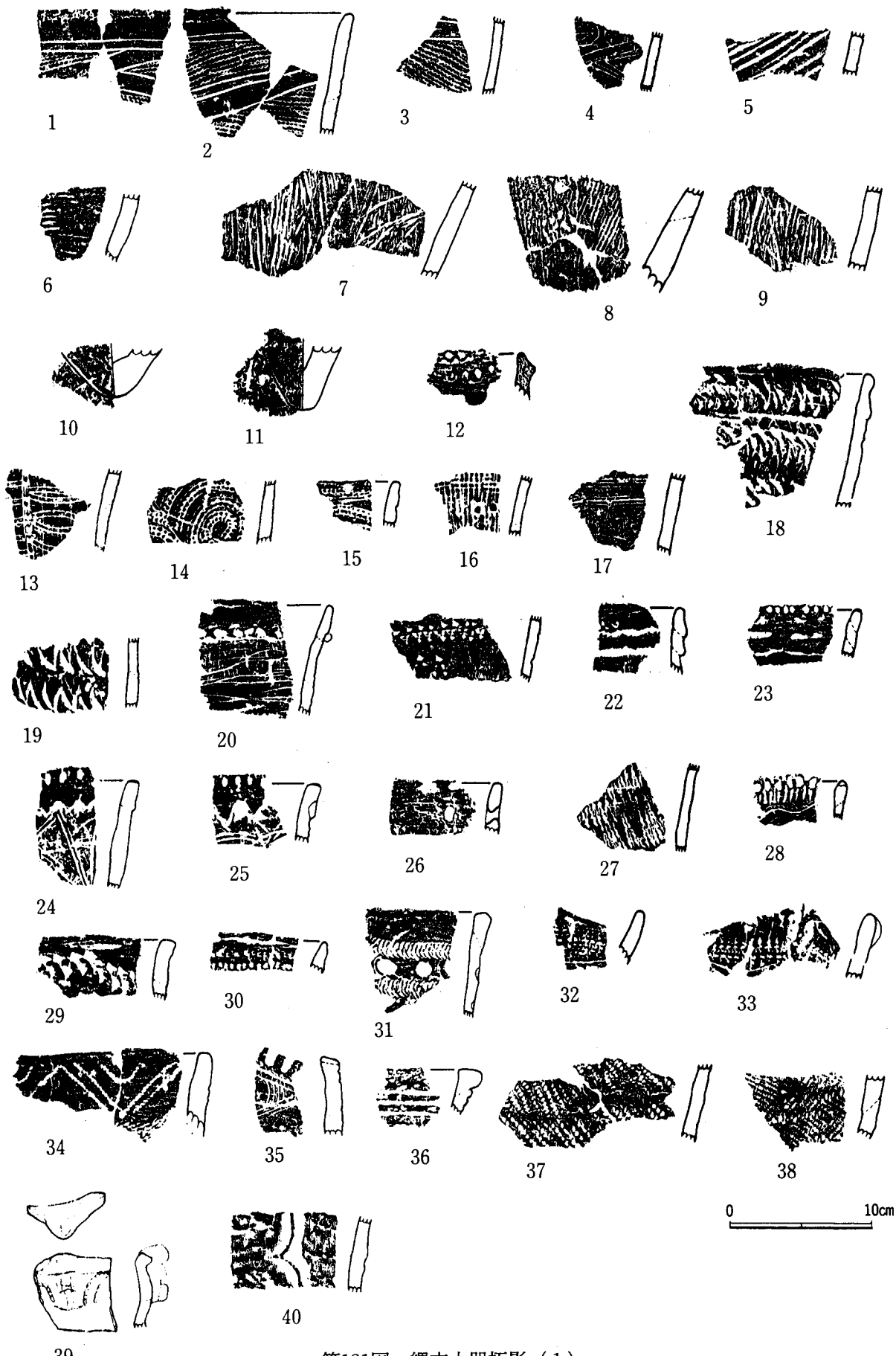
※この表中には各時期の遺構内から出土した縄文土器も加えてある。
※各グリッドからの出土状況については、別図（第123図）を参照願います。

第48表　各グリッド出土縄文石器等一覧表

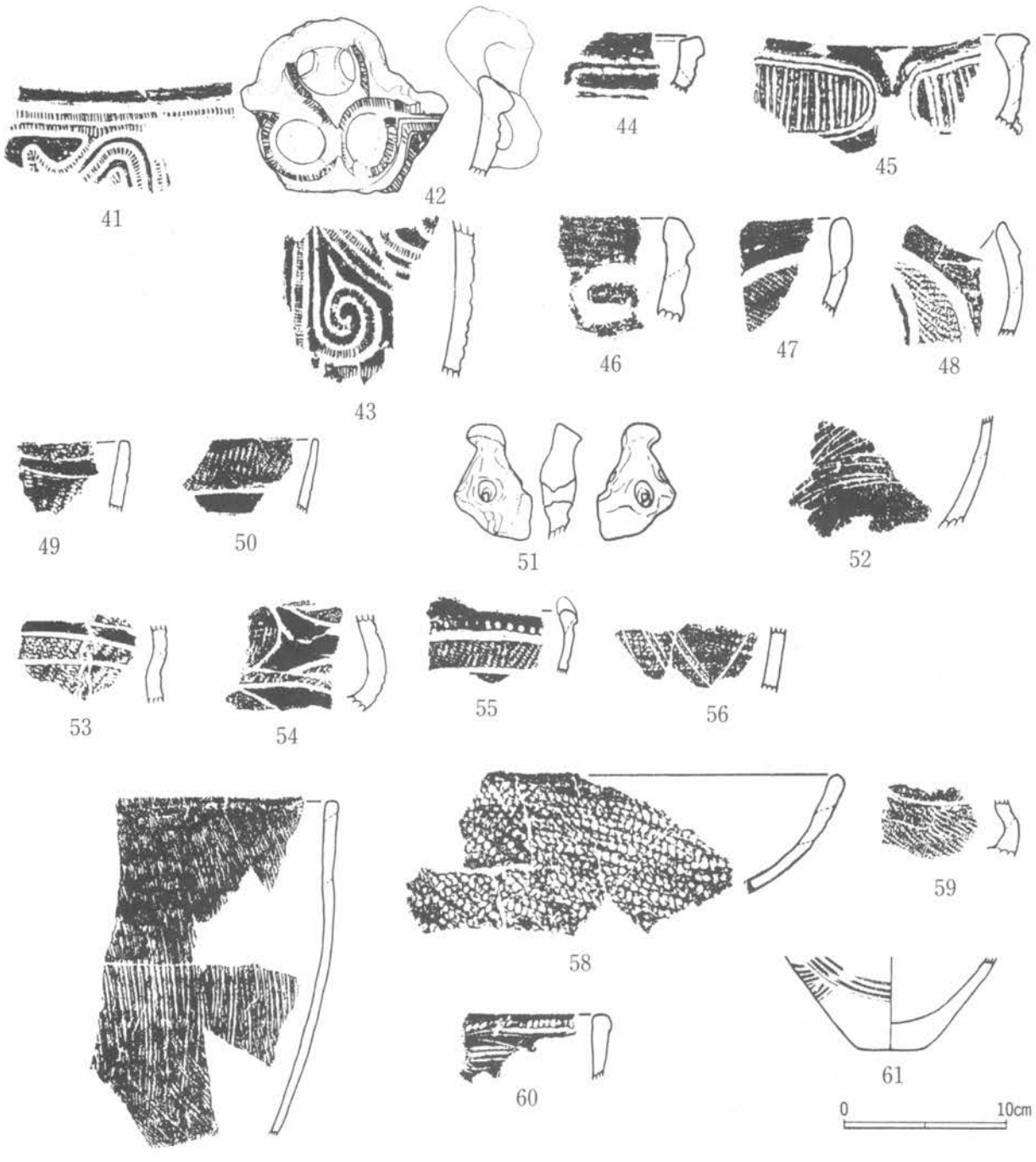
器種 グリッド	石　鏃	打製石斧	磨製石斧	敲き石 擦り石	使用痕の ある剝片	剝　片	円　礫	計
4 Q	1							1
5 R	1					1	3	5
6 R	1		1	2	1	3	6	14
6 S		1				2	2	5
8 T	1							1
8 U	1							1
8 V		1				1		2
9 V	1					2		3
計	6	2	1	2	1	9	11	
総　計								32

第49表　縄文時代石器観察表

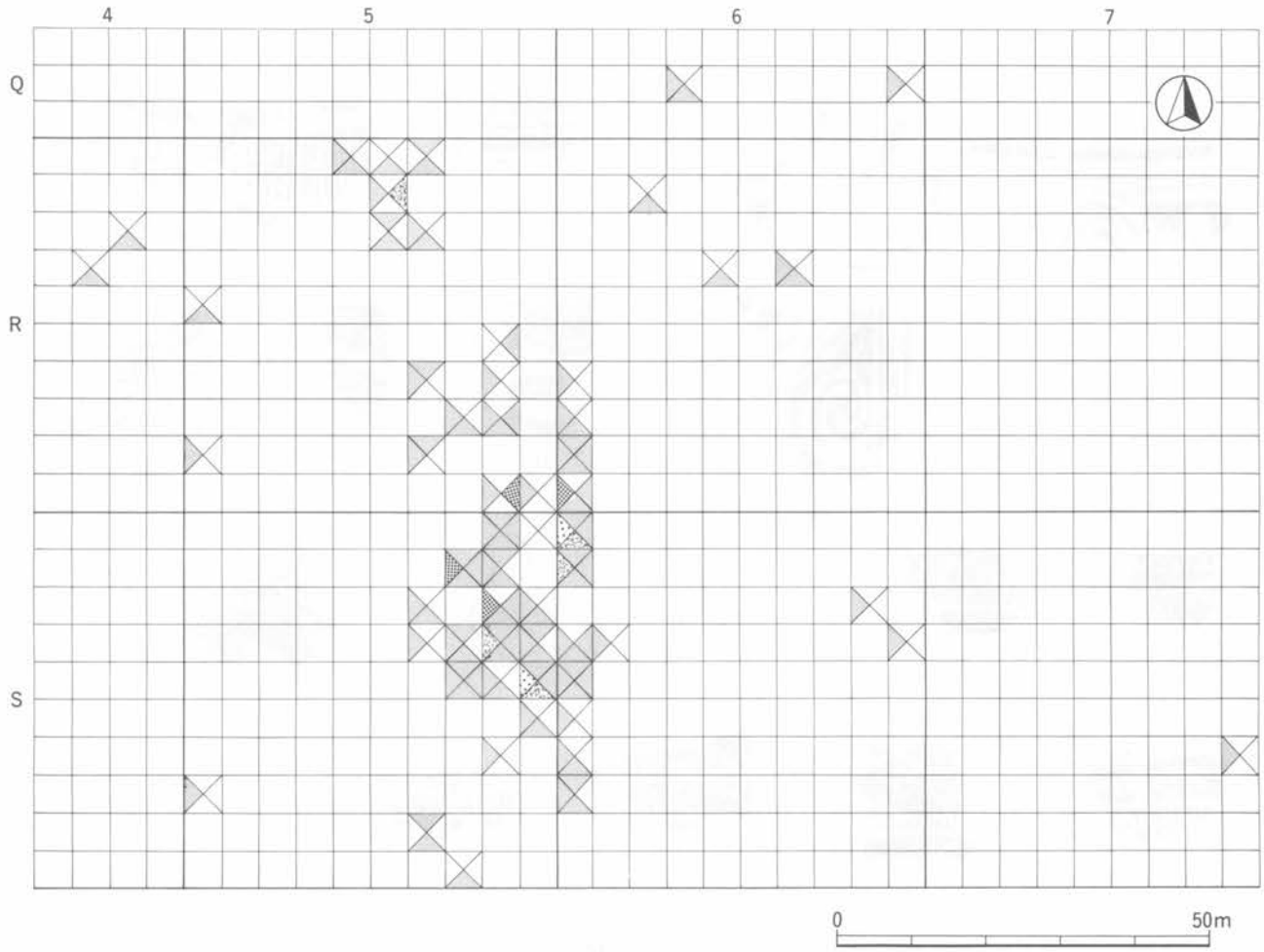
No.	器　種	石　材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	遺物番号	No.	器　種	石　材	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	遺物番号
1	石　鏃	チャート	20.0	18.0	4.0	0.64	S X-001-014	9	剝　片	黒曜石	13.5	18.5	20.0	3.91	6 S-00-2
2	石　鏃	チャート	24.0	12.0	3.5	0.64	8 T-64-1	10	打製石斧	砂　岩	85.0	65.0	24.0	157.54	6 S-20-2
3	石　鏃	頁　岩	27.5	14.0	4.0	0.88	8 U-85-3	11	円礫片	砂　岩	108.0	77.8	36.0	229.62	S X-001-5 b
4	石　鏃	黒曜石	20.5	19.0	6.0	1.36	9 V-24-2 b	12	打製石斧	安山岩	70.5	34.8	19.0	52.95	5 S-38-2 b
5	剝　片	頁　岩	18.0	21.5	6.0	1.50	9 V-62-2	13	敲　石	砂　岩	65.6	38.0	21.0	53.67	S X-001-5 a
6	剝　片	チャート	34.5	23.0	8.0	6.47	9 V-24-3	14	すり石	安山岩	74.0	67.0	33.5	269.58	S X-001-5 e
7	使用痕のある剝片	黒曜石	22.1	29.5	9.7	4.03	S X-001-2 a	15	円　礫	安山岩	62.5	50.0	13.5	61.48	S X-001-3 b
8	打製石斧片	安山岩	45.0	31.5	9.8	15.38	019-1	16	円　礫	砂　岩	89.5	61.0	28.8	202.88	S X-001-11 b

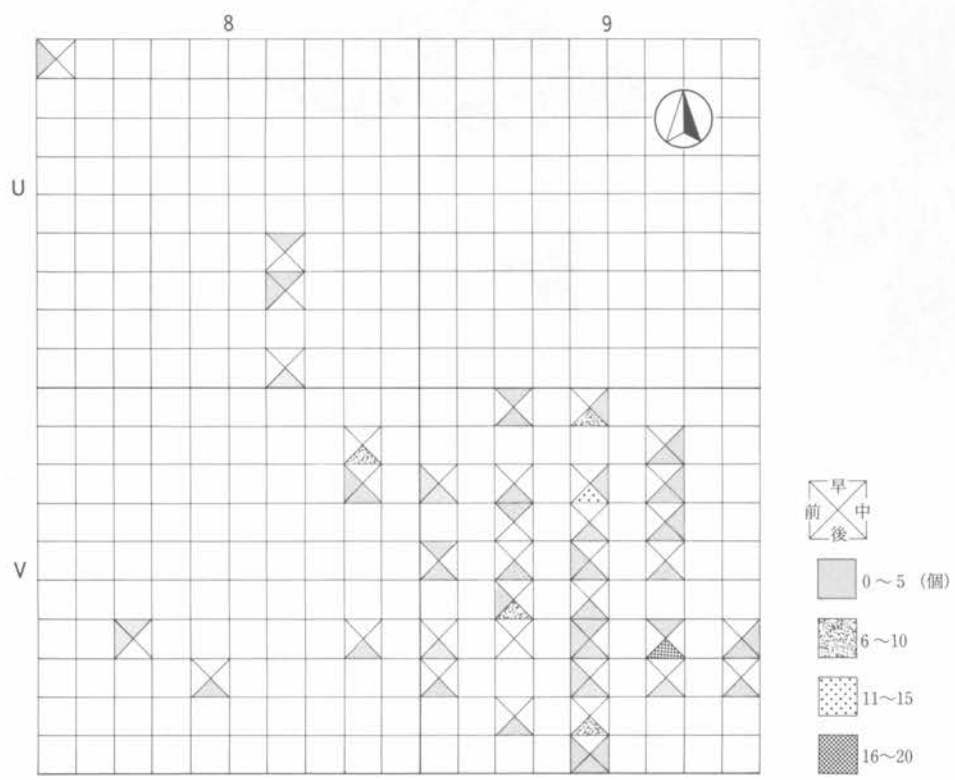


第121図　縄文土器拓影（1）



第122図　縄文土器拓影（２）





第123図　縄文土器グリッド別出土状況（1／500）

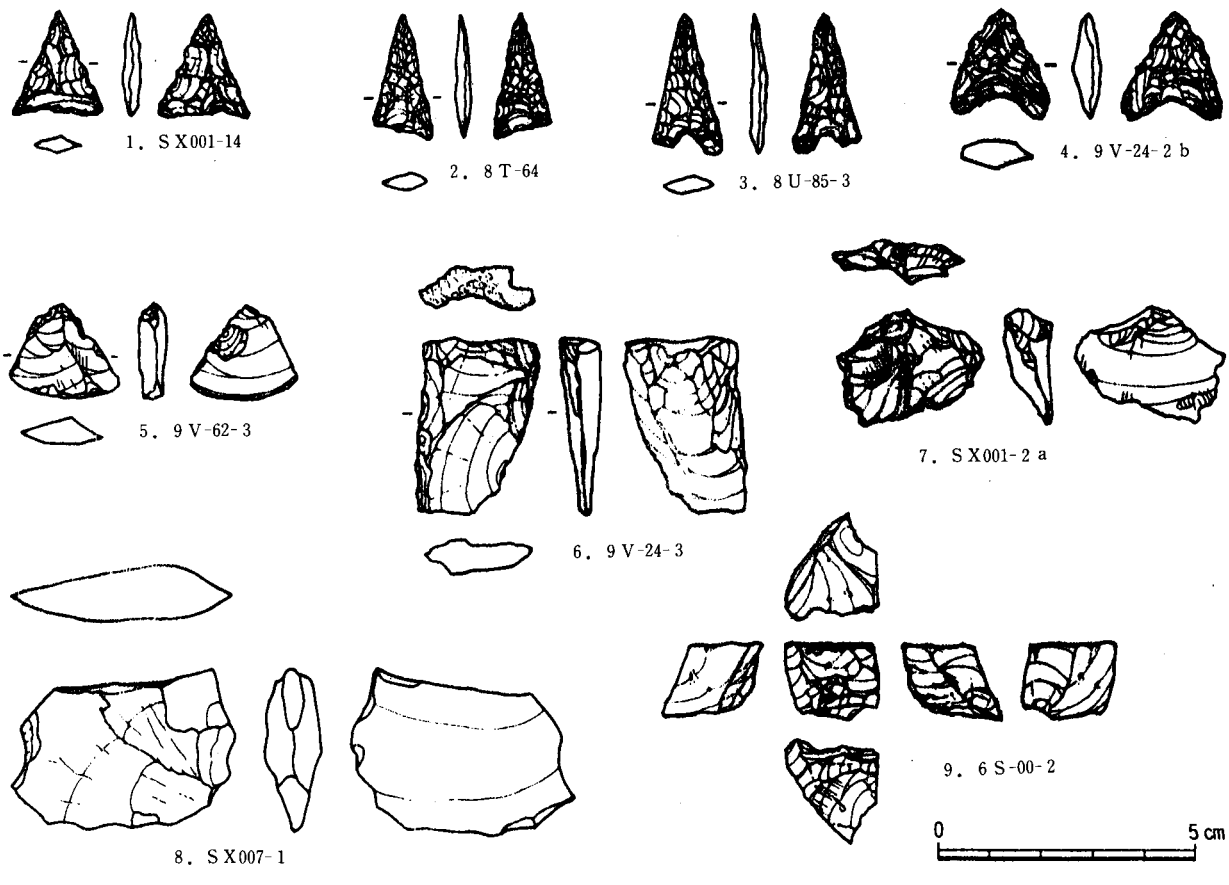
である。17は、横位に３～４条の沈線文を施した土器である。18は口縁部で、貝の腹縁をコンパスのように支点を変えながら横に移動して多段に文様を構成している。19(表採)は18と同様の文様構成をする胴部である。20は口縁部でやや外側に開く形状を呈する。口縁部の粘土帯の貼り付け部を指頭様のもので連続的につまみ上げて文様を構成した下部に、横位の細い沈線が施文される。21は胴部で、貝殻の一種と考えられる工具によりいわゆる三角文を３段に施文している。22、23は粘土帯の貼り付け部をそのまま残したもので22は平縁、23は口唇部に細い竹管状の工具を横に連続して施文している。16～23は浮島式の土器である。24、25も23と同様に口唇部に竹管状の工具により施文し、24、25は口縁部に鋸歯状に文様を配し、24ではその下部に半裁竹管による文様が付される。26も口縁部である。器面の内外から補修孔様の穿孔が斜め上向きになされており、貝殻腹縁による押圧文が縦方向にまばらになされている。27は貝殻腹縁を縦横に押圧して文様としている。28は口唇部に竹管状の工具を連続的に横位で押圧し、その直下に縦方向の沈線、さらにその下部に横に波状に沈線による文様を付している。29は口縁部で、遺存する部分からの観察では緩やかな波状を呈する口縁となる。文様は21と同様な手法を用いて施文されている。30は半裁竹管を横位に連続して施文されている。24～30は浮島式～興津式土器である。31口縁部に貝殻腹縁を連続的に数段押圧して、その間に指頭様の工具により文様を作出している興津Ⅰ式の土器である。32、33は波状口縁の一部で、横位の帯状の貝殻腹縁の押圧と沈線により文様が構成されている。32,33は興津II式土器である。34は平縁の口縁部で、ＲＬの単節縄文の原体を斜状にＶ字状に押圧して文様を構成する前期末の土器である。35は波状口縁の一部で、口唇部に刻み目を有し沈線により文様が構成される。この土器は早期の田上上層である。36は口唇部を肥厚させ、その直下に平行線文を施文する。口唇部上面に朱が塗られている五領ケ台式土器である。37は胴部破片で、ＲＬの縄文を斜位に施文する。38は羽状縄文を施文している。37,38は五領ヶ台式土器である。39（表採）は口縁部に粘土帯を貼り付けた両側に沈線を施文する土器である。40は胴部で、無文の地に細い隆起線をくの字状に配する。39,40は阿玉台Ⅰ式の土器である。41～43は出土位置や文様構成から同一個体と考えられ、口縁部に３方向から穿孔された大把手があり、器面は隆起線文と結節沈線文が施文される勝坂式土器である。44、45は口唇部が肥厚し、楕円形に区画された口縁部文様帯が施文される。胎土に雲母が混入する阿玉台II式の土器である。46は口縁部で、隆帯によって区画された内に楕円形の文様が付されている。47、48は縄文を磨り消して文様を付している。46～48は加曽利Ｅ式土器である。49は弧状の沈線を施文した後に複節のＬＲ縄文を施文している中期末から後期初頭の土器である。50は粗製土器の口縁部で、口縁部にＬＲの縄文を施文し、その下を一条の沈線によって区画している加曽利Ｂ１式土器である。51は口縁の把手部分の破片で、摩滅が著しいが器面の内外からの穿孔を有する。52は粗製土器の底部に近い破片で、斜めの沈線が施文される。53は外湾する器形の土器の胴部破片で、縄文を施文した後に横位の沈線を配しさらにその後にハの字状の施文がされている。54は注口土器の一部と考えられる。文様構成は不詳だが、沈線により区画され、縄文（ＬＲ）を充填した区画と無文の区画の構成をとる。51～54加曽利Ｂ２式土器である。55は口唇部に突帯が付きその突帯に刻目が巡り、口縁の一部が隆起する。その下部を沈線で区切り口縁部文様帯を構成し、ＬＲの縄文を施文する加曽利Ｂ３式土器である。56は縄文地文の上にまばらに条線を施す土器である。57は条線を施すものである。58は浅鉢と考えられる器形を呈する。59は小形土器の胴部で、拓影では不鮮明であるが、一条の沈線により区画された上側は無文、下側には縄文が施文されている。56～59は加曽利Ｂ式土器である。60は55と同様に口縁部の突帯に刻目を施したもので、安行式土器である。61は深鉢形土器の底部で、かなり被熱しており一

部に剝落が見られる加曽利Ｂ式土器である。

縄文時代石器類（第123～124図　図版35、36）

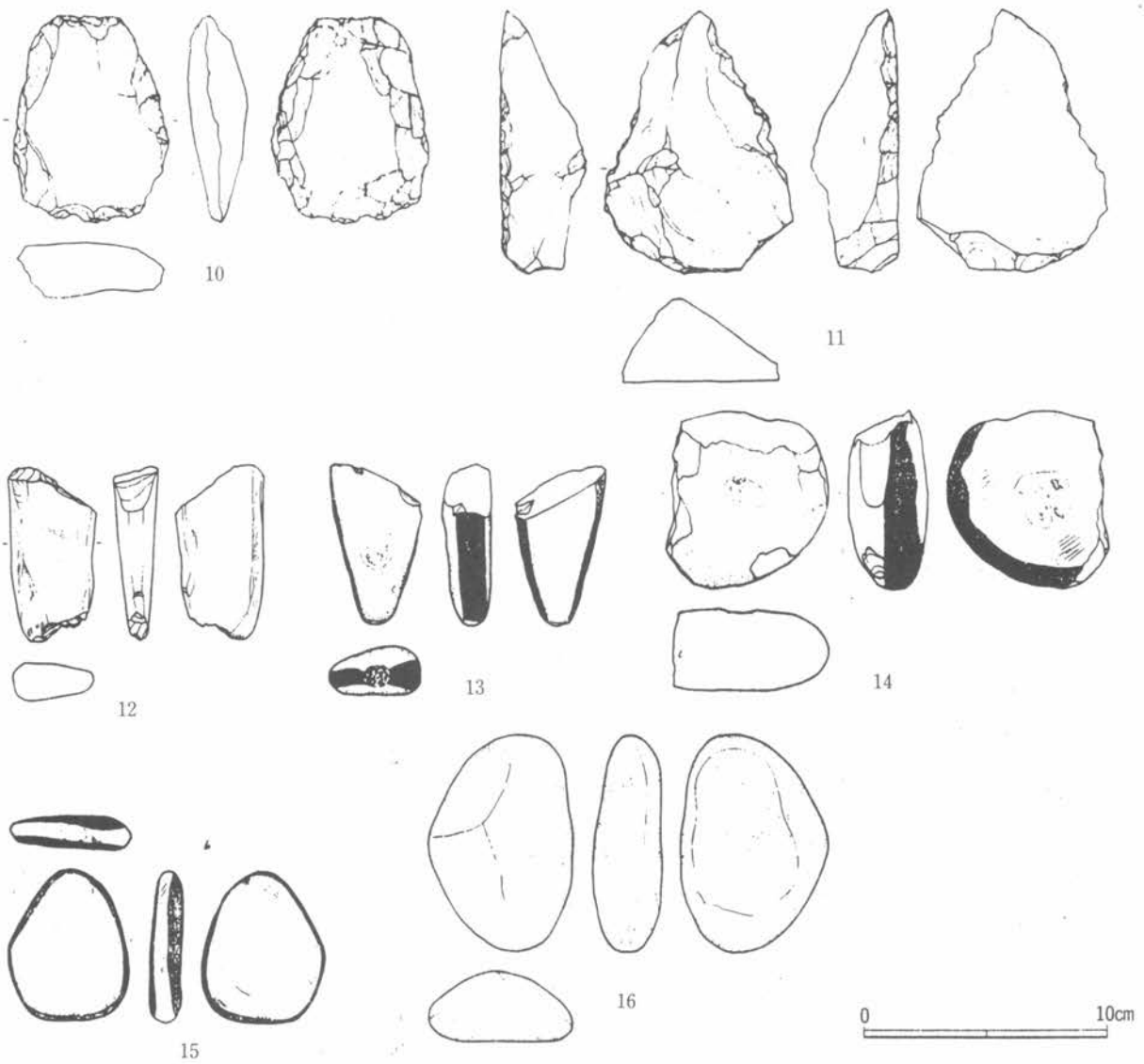
縄文時代の石器と推定されるものは32点出土した。そのうち主に特徴のある遺物について図示した。古墳の墳丘下と方形周溝遺構内で出土した石器以外はグリッド出土のものである。

１～４は石鏃である。形態的には側縁が直線的なもの（１～３）、外湾するもの（４）があり、基部が微凹基的なもの（１）や、抉りを有するもの（2,3,4）などの特徴がある。また、２は右側基部に一部欠損があり、３は脚部の両側の先端部に欠損が見られる。４は先端部に欠損が見られる。石材はチャート(1,2)、頁岩(３)、黒曜石(４)である。５は右側縁に使用によるとみられる痕が見られる剝片である。６は打面に自然面を残す剝片である。７と９石核は黒曜石の剝片である。８は破損した打製石斧の一部である。10は扁平な円礫を利用して製作した打製石斧である。11は節理面で剝がされた角礫の左右の刃部側縁に二次的に加工を加えており、チョッパーのような使い方をした石器と考えられる。12は扁平で細長い円礫で両端を欠損し表裏両面で厚さが一定ではないが、刃部には研磨による面取り痕が見られること、使用によると考えられる欠損があることから磨製石斧に分類しておく。13～16は敲石である。13は欠損があり全体は未



第124図　縄文石器（１）

詳だが、一端のとがった細長い円礫を利用しており、先端部の摩滅は著しい。14は周縁の約半分を欠損している。両面の中央部にかすかに使用による窪みが見られる。



第125図　縄文石器（２）

第３節　古墳時代及び古墳時代以降

１　概　要

出口・鐘塚遺跡では弥生時代後期の遺構・遺物は認められず、古墳時代に入っても前期のうちは遺構も認められない。６世紀の後半に至って円墳が１基築造されているのみである。この古墳群の造営に関しては、西側に谷を隔てた内黒田遺跡群中の傾向と軌を一にしたものである。８世紀に入ると、「方形周溝状遺構」が造られるようになる。本遺跡では調査区内から６基が調査されておりその立地から２群に分かれるが、時期決定可能な遺物の出土は皆無であり構築時期については未詳であるが、規模や形態が類似することから８世紀代の方形周溝状遺構ととらえ、一括して記載する。

２　古墳時代（第126・127図）

古墳（ＳＸ－001）（第126、127図　図版８、37）

調査前の状況

南に張り出した舌状台地の基部近くの、東側の谷に寄った位置に構築されている。墳丘はほとんど削平されており１ｍほどの高まりがわずかに認められたにすぎない。墳丘構築時の旧表土はほとんど遺存していなかった。

平面形及び周溝　円墳である。周溝内縁径17.9～18.4ｍ、外縁径25.0～26.6ｍを測る。周溝幅は、2.6～4.6ｍ、深さは現況で50～70cmを測る。断面形は皿状で傾斜は緩い。

埋葬施設及び付帯施設　検出されなかった。既に削平された墳丘内に構築されていたものと考えられる。

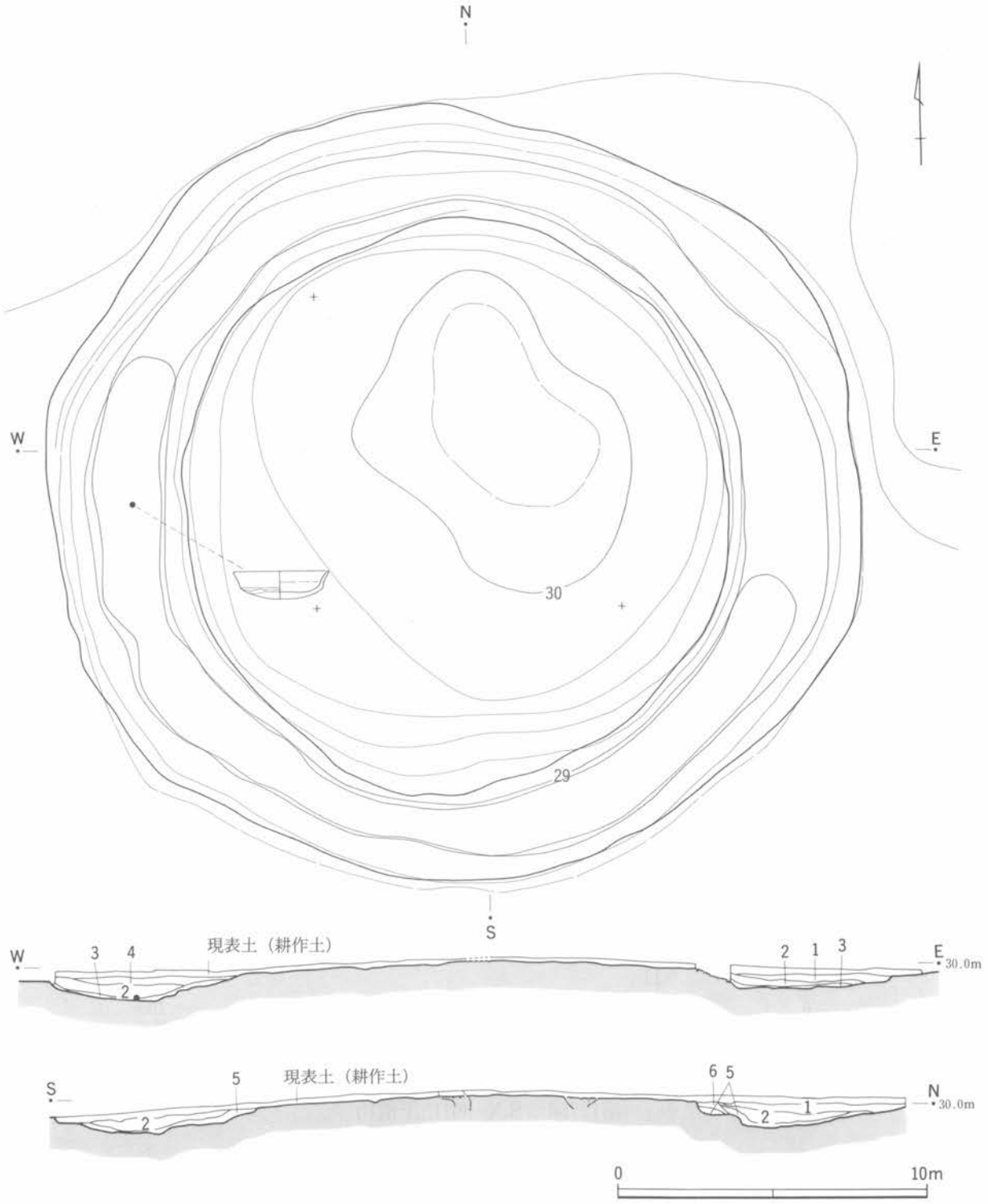
出土遺物（第127図　図版37）

出土遺物には土器、ガラス小玉等がある（第127図）。１～３は土師器の坏である。１は口径13.3cm、器高4.7cmである。内外面に赤彩されている。２は口径12.7cm、器高3.6cm、内外面に赤彩が施される。さらに内面底部には十字に赤彩が施される。出土地点は西側周溝部の周溝底である。３は口縁部の１／２程度の遺存状態で、復元で口径11.6cm、器高3.9cmを測る。４は高坏で内外面とも赤彩されている。５～７は甕で、５は口縁部の１／４程度の遺存度である。６は荒い櫛目に近いハケで調整が加えられている。８、９は甕の底部である。

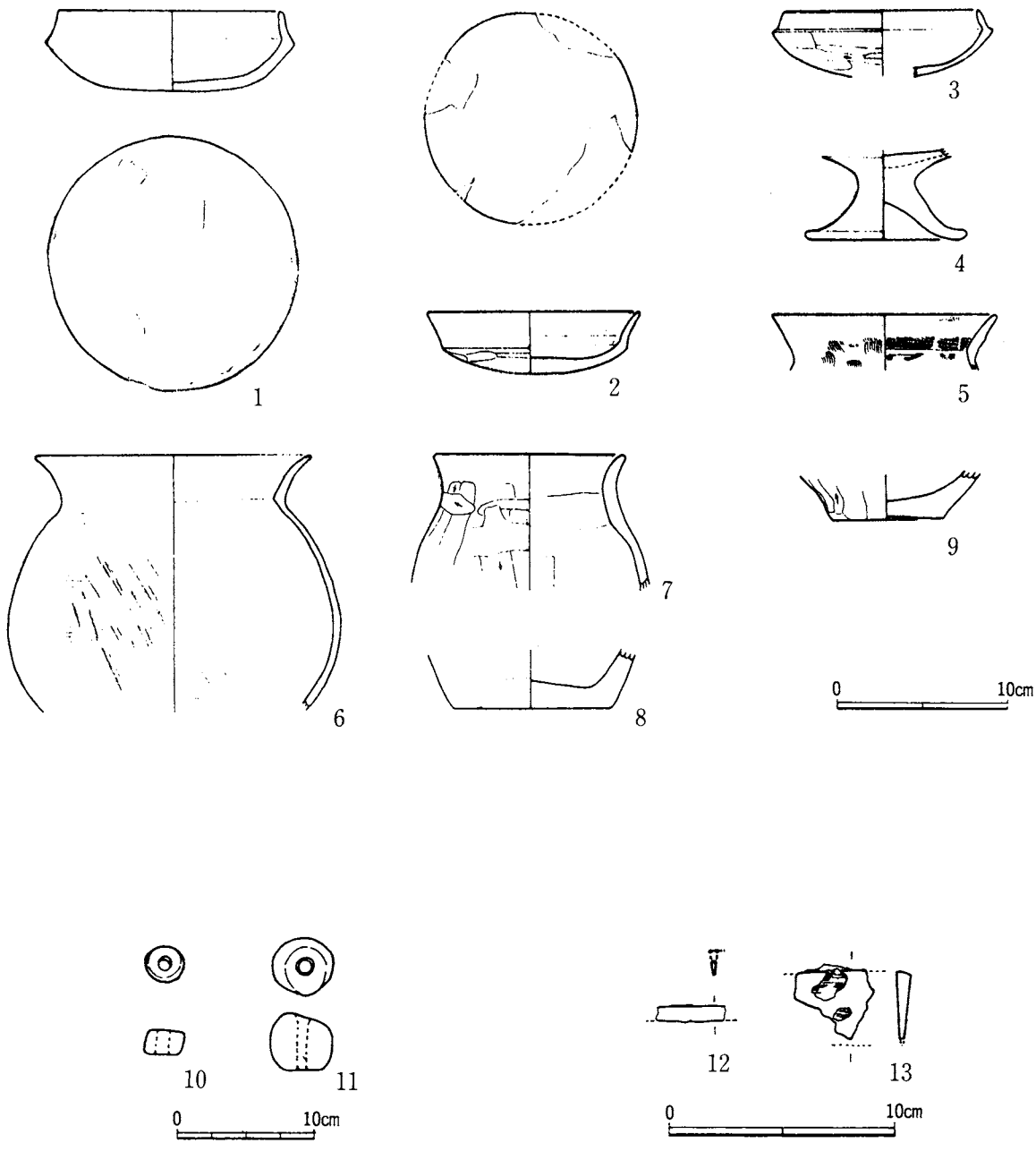
ほかにはガラス小玉が２点出土している。10は緑青色を呈し、最大径6.0㎜、最大厚3.8㎜、孔径2.0㎜で重さは0.4ｇである。11はコバルトブルーを呈するガラス製の丸玉で、最大径8.3㎜、最大厚8.2㎜、孔径2.4㎜。重さは0.86ｇである。なお２は６Ｒ－60グリッドからの出土である。

また、鉄製品も破片ではあるが２点出土している。12は、大刀の刃の部分と思われる。現長3.1cm、幅0.7cm、厚さは0.2cmを測る。13も大刀の破片で、現長3.55cm、幅3.25cm、厚さ0.65cmを測る。一部に木質部が付着して遺存している。

古墳に伴うと考えられる遺物のほとんどは周溝内からの出土である。この古墳はこれらの遺物から６世紀中葉から７世紀にかけて築造されたと判断ができるが、６の甕だけは４世紀前半に比定される要素を有しており、いかなる理由によって混入したものかは不明である。



第126図　ＳＸ-001（１／100）



第127図　ＳＸ-001出土遺物

3　古墳時代以降（第128～134図　図版９、10）

方形周溝状遺構

ＳＸ－002（005）

平面形及び周溝（第128図　図版９）

ＳＸ－001の北西に約10m離れて位置する。ほぼ正方形の整った形状を有する。規模は、周溝内縁では東西5.1m、南北4.7mであり、周溝外周では東西6.5m、南北6.0mである。周溝の幅は北西隅でやや狭くなるほかは60cm～80cmで、底面はほぼ平坦である。検出面からの深さは10cmほどしか遺存しておらず、周辺よりわずかに低いというにすぎない。土坑等の埋葬施設も検出されなかった。

出土遺物　遺構に伴うと思われる遺物は皆無であった。

ＳＸ－003（011）

平面形及び周溝（第129図　図版９）

ＳＸ－001の北側に10mほど距離を置いて位置している。東西南北方向に周溝が正対して構築されている。周溝内縁は東西4.0m、南北3.8mである。周溝外縁は東西6.0m、南北5.0mで、南北方向にややつぶれたような平面形状を示す。周溝の北西隅から東へ続く溝の外側底部は約10cmほど一段掘り窪められており、南辺周溝の中央部には40cm×50cmほどで周溝の底部から13cmほど掘り込まれた窪みも確認された。周溝の幅は南西の隅が狭くなり40cmほどで、広いところでは1.0mを測る。周溝底は鍋底状で確認面から12～20cmである。埋葬施設は検出されなかった。

出土遺物　遺構に伴うと思われる遺物は皆無であった。

ＳＸ－004（016）

平面形及び周溝（第130図　図版９）

調査区の南の台地平坦部の占地して４基（ＳＸ－004から007）が検出されたうちの１基である。北西に位置するＳＸ－005とは約５m、西に位置するＳＸ－006とは約11m離れた位置に構築されている。周溝内縁は東西で4.8m、南北で4.8mであり、周溝外縁では東西6.3m、南北6.4mで平面形がやや菱形に歪んでいる。周溝はほぼ東西南北の方位にあわせて構築されている。周溝幅は狭いところで70cm、広いところで１mほどである。周溝の深さは、確認面から20cmである。周溝の立上がりは東辺の周溝が急傾斜で周溝底面が平坦であるのに対して、他の各辺の周溝底面は鍋底状を呈する。埋葬施設は検出されなかった。

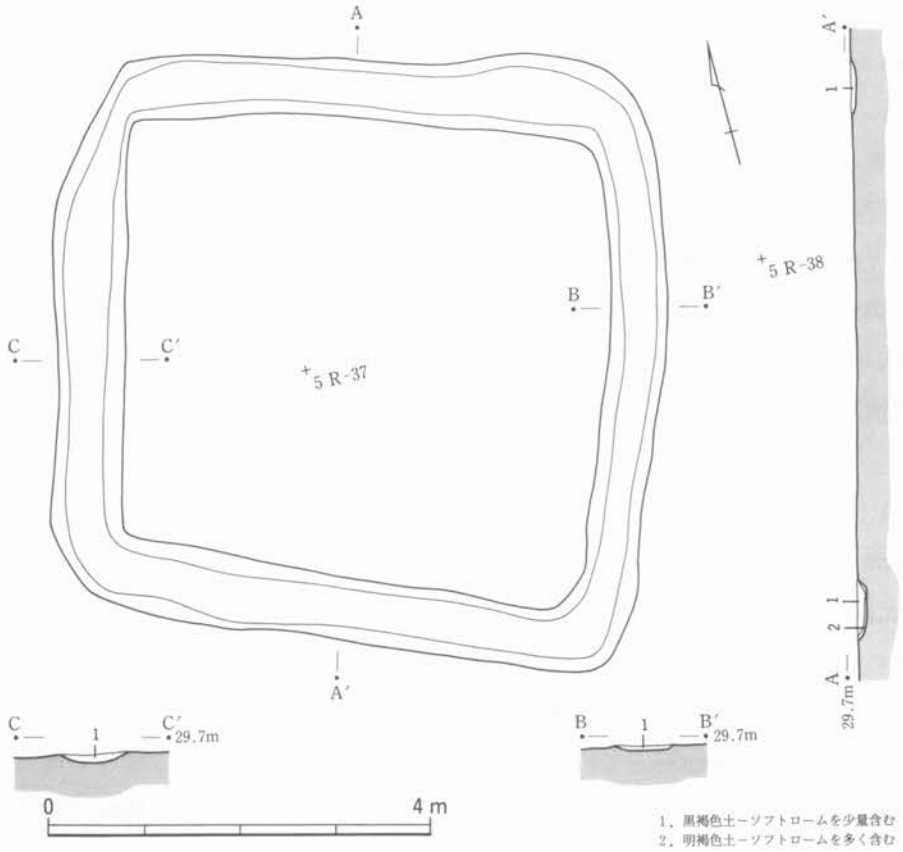
出土遺物　遺構に伴うと思われる遺物は皆無であった。

ＳＸ－005（017）

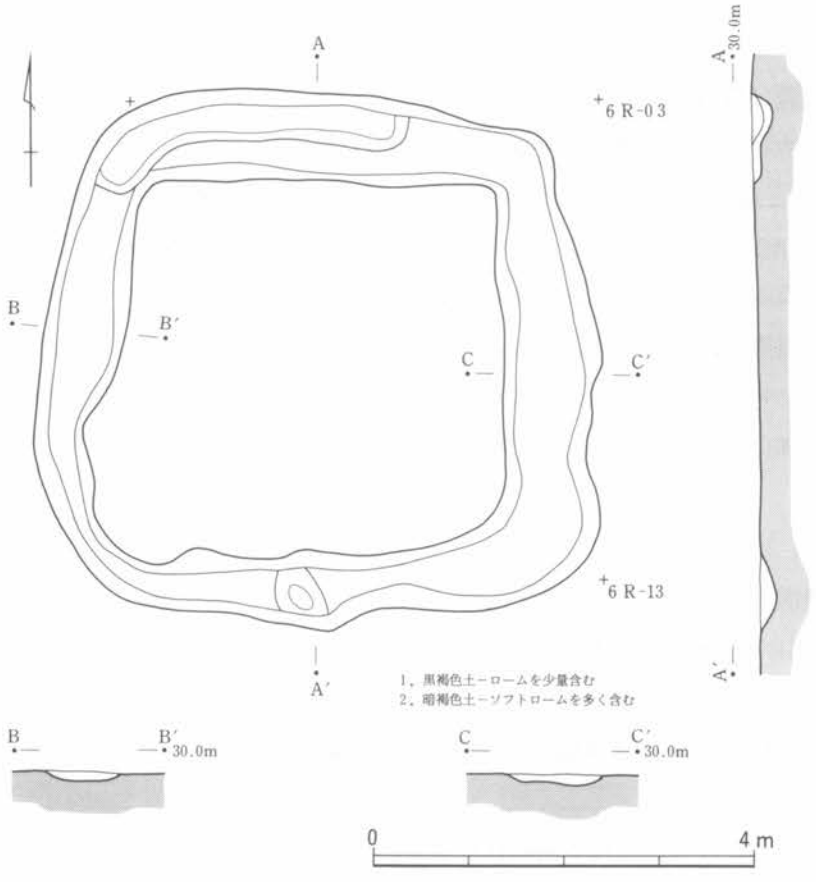
平面形及び周溝（第131図　図版10）

ＳＸ－004の北西に約５m離れて検出された。平面形状は南辺が少し短い台形状を呈する。周溝内縁は東西の広いところで5.6m、狭いところで5.1m、南北で5.1から5.2mである。周溝外縁では東西で７mから6.6m、南北方向で6.8mである。周溝幅は60cm～80cm、確認面からの深さは10cm～20cmである。埋葬施設は検出されなかった。

出土遺物　遺構に伴うと思われる遺物は皆無であった。



第128図　ＳＸ-002（１／80）



第129図　ＳＸ-003（１／80）

ＳＸ－006（018）

平面形及び周溝（第132図　図版10）

ＳＸ－004の西、ＳＸ－005の南西に位置する。周溝内縁は、東西長5.6m、南北長５m、周溝外縁は、東西長7.1m、南北長6.7mである。周溝は東辺では幅が狭く50cm、西辺は90cmである。深さは確認面から30cmである。断面形は鍋底状を呈するが、東辺のみ周溝底面が平坦で立上がりも急である。南辺の南西隅に1.6m×0.4mほどの掘り残し状のテラスを有する。埋葬施設等の検出は無い。

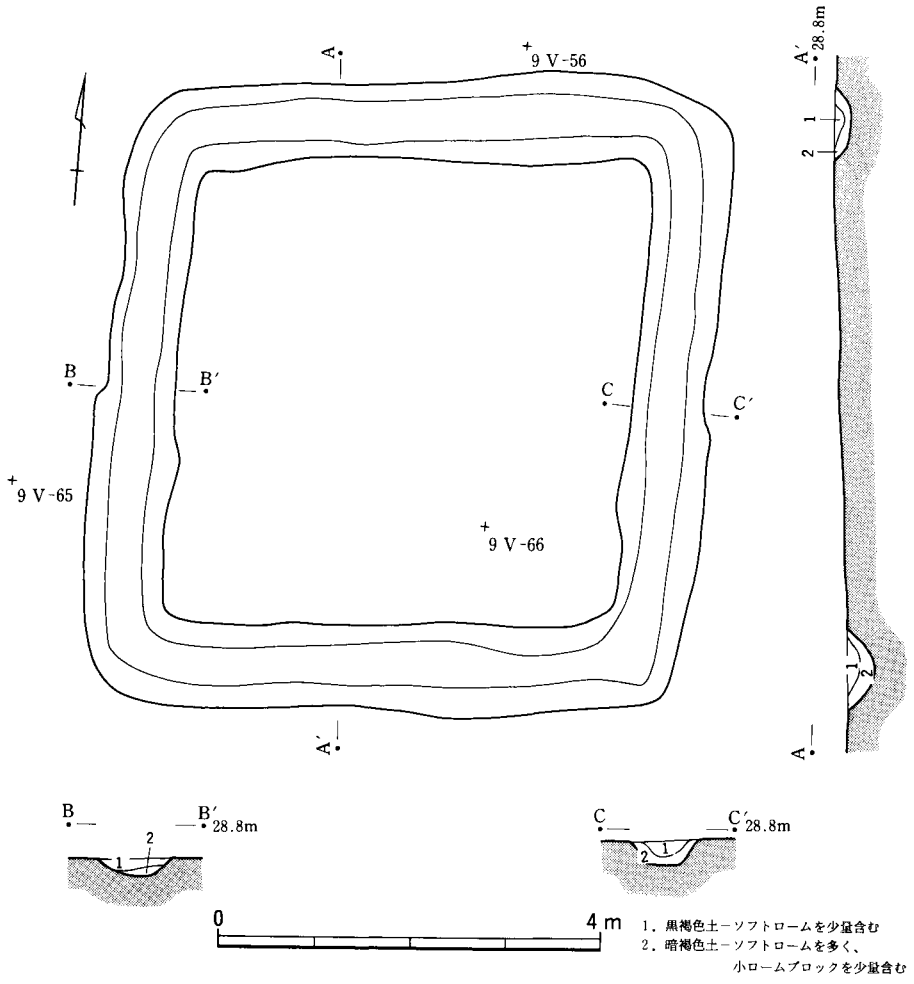
出土遺物　遺構に伴うと思われる遺物は皆無であった。ただ、北東の隅がかかる９Ｖ－52グリッドからは最大径4.0㎜、最大厚2.1㎜、孔径1.3㎜、重量0.04ｇのあざやかな緑青色のガラス小玉１点が出土している。（第133図　図版38）

ＳＸ－007（019）

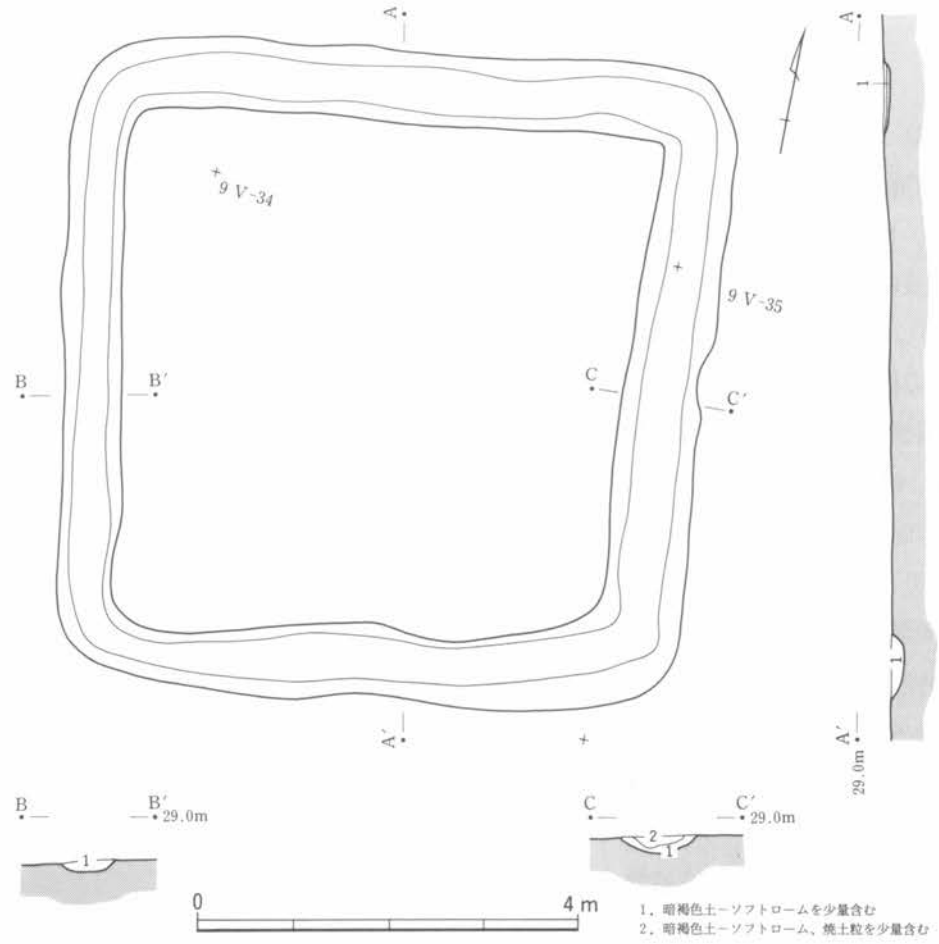
平面形及び周溝（第134図　図版10）

ＳＸ－006の西に４m離れて位置する。平面形状はほぼ正方形を呈し、周溝内縁で東西長6.4m、南北6.5mである。周溝外縁長は東西長7.6m、南北長7.6mである。のほぼ正方形を呈し、周溝の幅や深さもほぼ一定であるが、深さは確認面から20～30cmである。周溝の立ち上がりは内側でやや急傾斜をなす傾向を示す。埋葬施設等の検出はない。

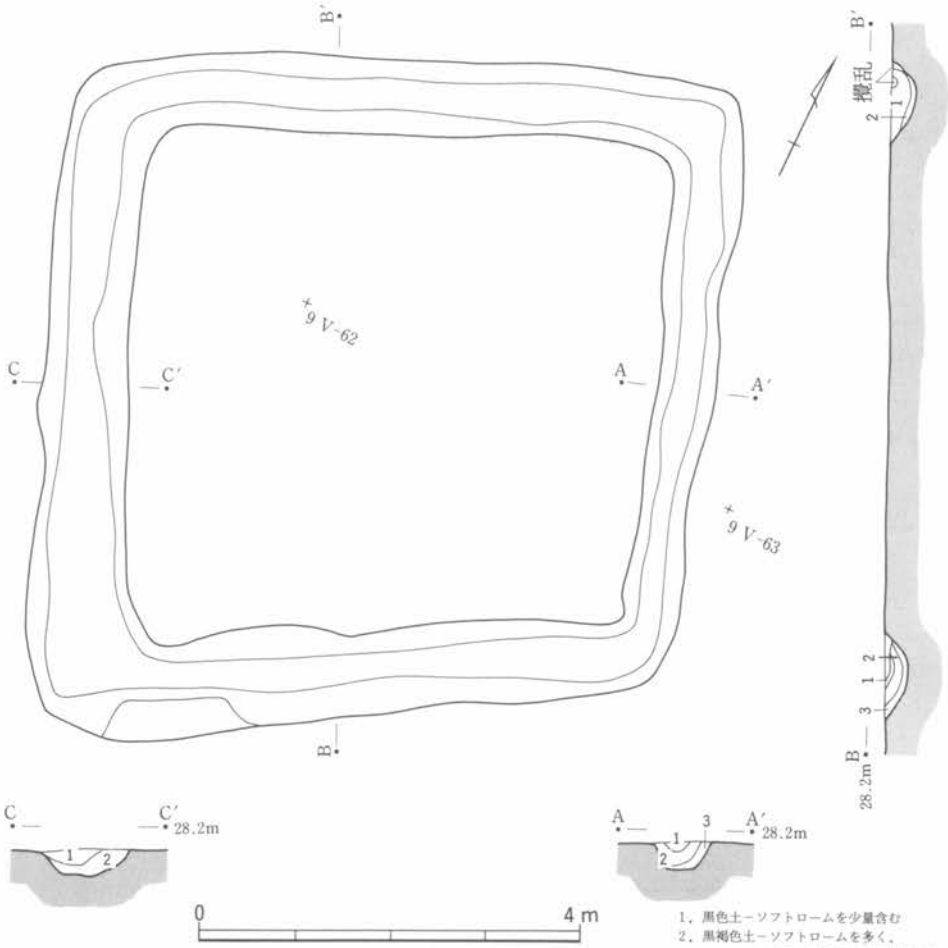
出土遺物　遺構に伴うと思われる遺物は皆無であった。



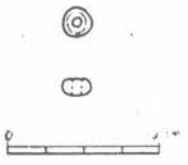
第130図　ＳＸ-004（１／80）



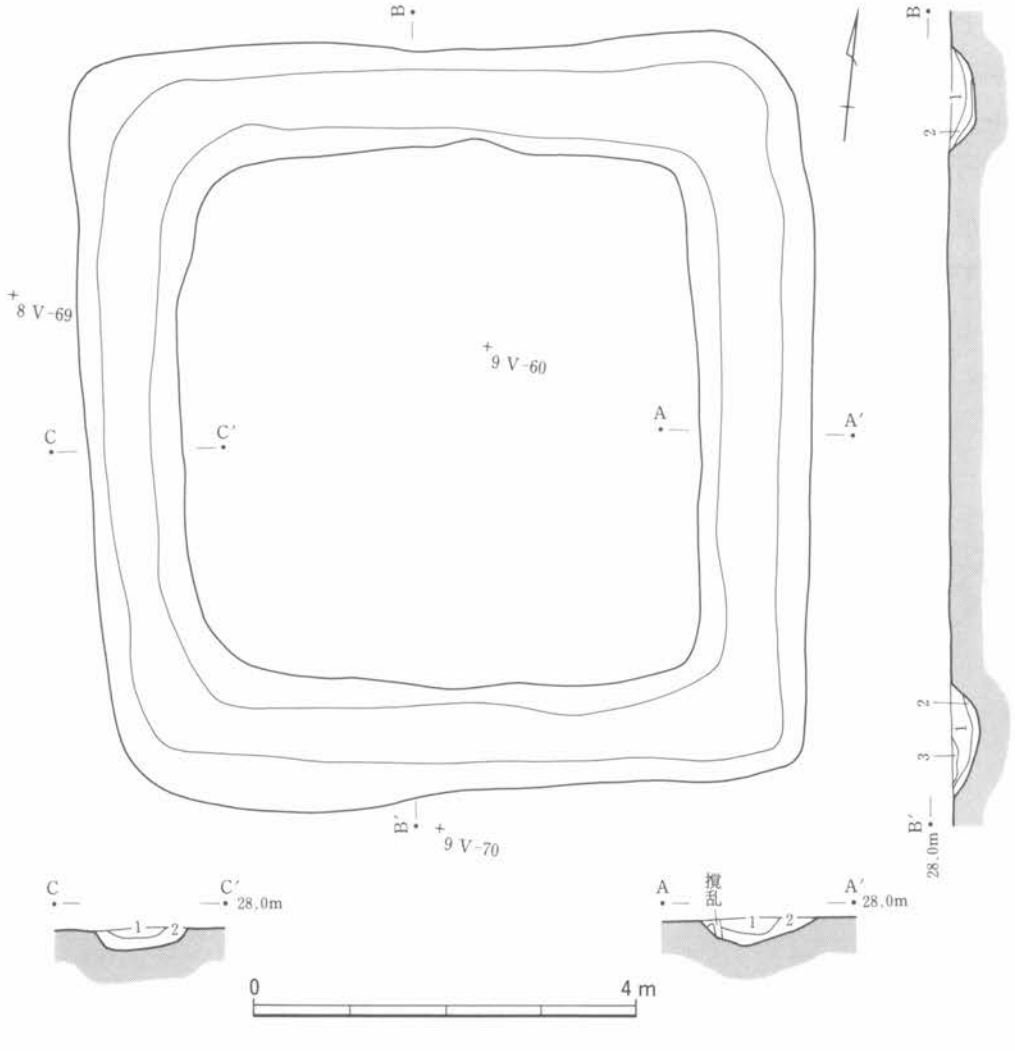
第131図　ＳＸ-005（１／80）



第132図　ＳＸ-006（１／80）



第133図　グリッド出土遺物（1）



第134図　S X-007

第4節　その他の遺構

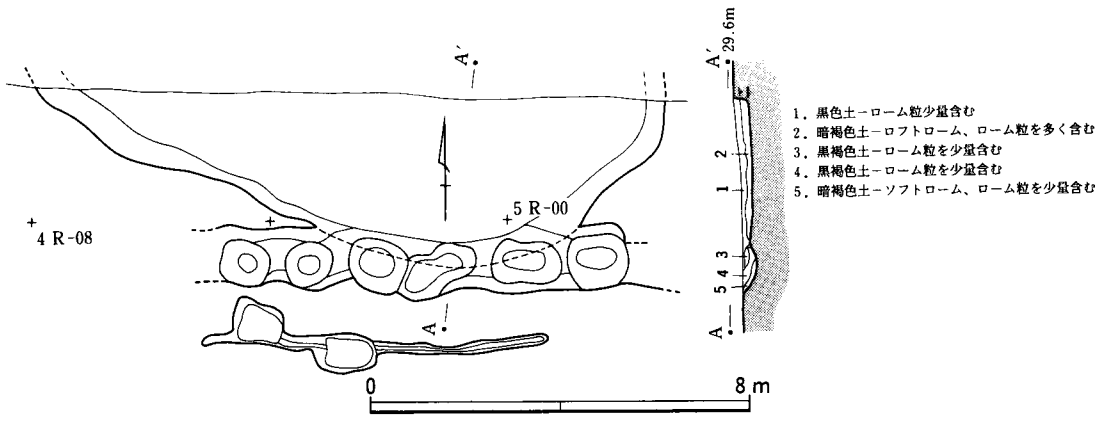
1　概　要

出口・鐘塚遺跡では明確な伴出遺物をもたない遺構がいくつか検出されている。それらの遺構には、竪穴状遺構、土坑、溝状遺構、炭窯等と分類された遺構が含まれるがその時期を明瞭に確定できない遺構がほとんどである。ただ、耳環を検出した土坑や宝永の火山灰を覆土中に認める遺構等が含まれる。ここではそうした遺構群についてまとめて報告したい。

2　遺構と遺物

（1）　竪穴状遺構（第135図　図版11）

ＳＫ－001（002）　調査区の北側境界に当たる４Ｑ－99グリッドを中心とする位置で検出された。遺構の大半が調査範囲外へのびるため全容を把握することはできなかったが、隅丸方形状の一隅を調査した。調査した範囲で遺構の規模は一辺10m以上ある。確認面からの深さは30cmほどで、底面はほぼ平坦である。調査した範囲には柱穴等の遺構は検出できなかった。南東の隅が東西に走る溝状遺構（ＳＤ－002）と重複しており、セクションの観察からはＳＤ－002のほうが古い遺構である。後述するがＳＤ－002の覆土上部には宝永年間の富士山の噴火による火山灰が遺存しており、この遺構は18世紀初頭以降に構築された遺構と考えられるが、遺構内から時期を決定できる遺物等の出土もないことから、ここではＳＫ－001を近世以降の遺構として捉えておきたい。遺構の規模・性格についてはその一部を調査できただけであり明確にはできない。



第135図　ＳＫ-001

（2）　土坑（第136～141図　図版11～13）

土坑については６基が検出された。いずれも舌状台地上で方形周溝状遺構及び円墳の周辺に集中する傾向が見られる。時期は決定できないが、耳環が出土した土坑も１基検出されており、古墳時代の埋葬遺構が含まれている可能性がある。また、覆土上層や中層に焼土粒を混入する土坑もある。これらの土坑は規模的にも類似することが指摘できるが、その性格や時期を決定する遺物は出土していない。

ＳＫ－002（006）（第136図　図版11）

ＳＸ－002の南に５ｍ離れた位置で検出された遺構である。長軸長3.4m、短軸長2.0mで、確認面からの深さは、0.4mである。底面はほぼ平坦である。この遺構の南西には斜めに1.6m×1.0mで深さが15cmほどの浅い掘込みがあるが、遺構の重複かどうかは判然としない。覆土上層は黒色土で、焼土粒を少量含んでいた。

出土遺物　遺構に伴う遺物の出土もないことから、時期・性格については未詳である。

ＳＫ－005（009）（第136図　図版11）

ＳＸ－003から西へ５ｍ離れた位置で検出された遺構である。長軸をほぼ東西に取る。長軸長は3.7m、短軸長2.0mで、確認面からの深さは40cmほどである。底面はほぼ平坦である。覆土上層は炭化粒を少量含む黒色土で、中層にはＳＫ－002と同様に焼土粒を少量混入する黒褐色土層が観察された。

出土遺物　遺構に伴う遺物は出土しなかった。

ＳＫ－006（010）（第136図　図版12）

ＳＸ－003の北西に６ｍ離れた位置から検出された。長軸を北東－南西に取る。長軸長3.3m、短軸長1.7m、確認面からの深さは40cmであり、底面は平坦である。

出土遺物　遺構に伴う遺物は検出されなかった。

ＳＫ－007（015）（第137図　図版12）

南にのびる舌状台地の東側台地縁辺部に近く、溝状遺構（ＳＤ－003）の調査時に検出した遺構である。平面形は楕円形を呈し、規模は1.4m×1.2mであり、溝底から50cmほど深く掘り込まれている。底面は平坦ではなく、東の方に約10cmほど深くなる。

出土遺物　遺構に伴う遺物は無く、時期・性格等については不明である。

ＳＫ－011（027）（第138図）

円墳（ＳＸ－001）の南西に周溝外縁から14m離れた位置で検出された遺構である。主軸を北東－南西にとる。長軸長2.30m、短軸長0.95mである。確認面からの深さは35cmほどで、底面はほぼ平坦である。

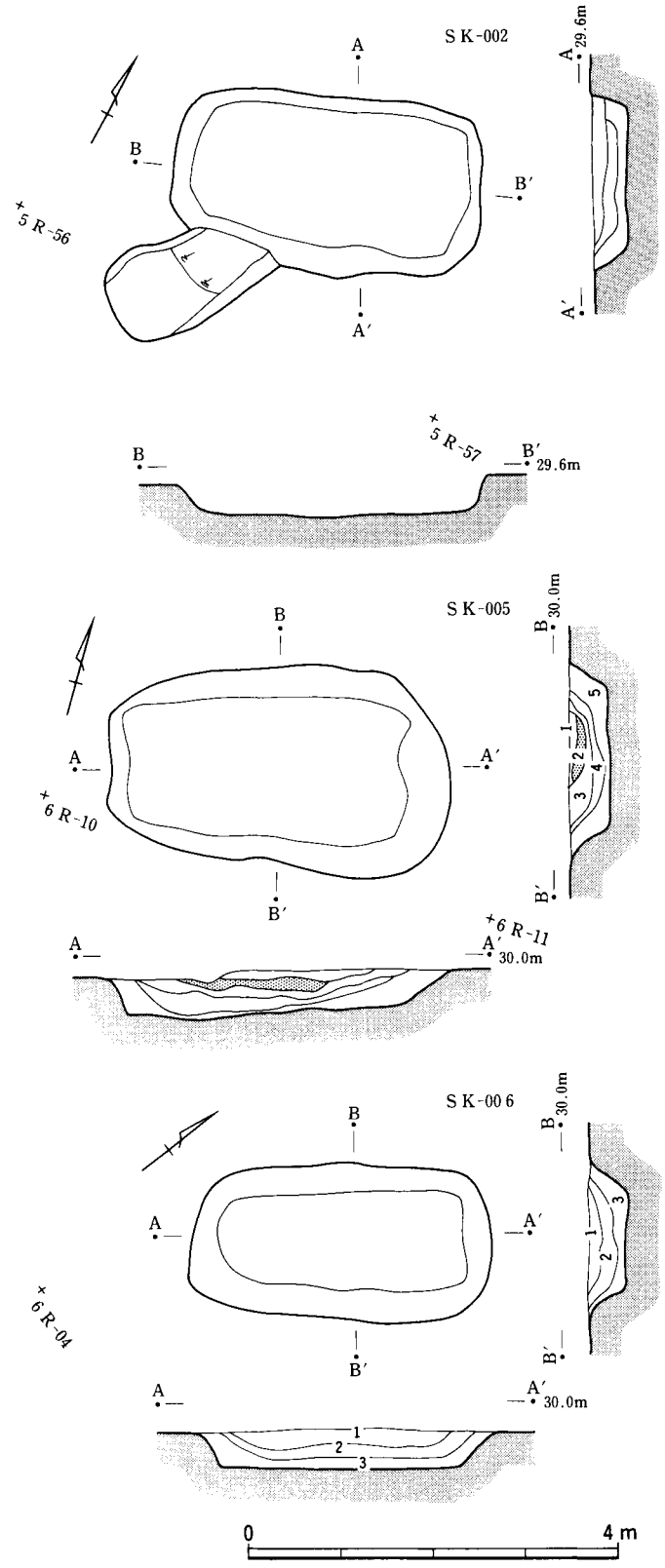
出土遺物（第139図　図版12、38）

やや東に寄った底面直上から耳環と思われる鉄製品２点が出土した。ほかに縄文土器小片１点が底面直上から出土した。耳環が出土したことから、古墳時代後期の墓坑の可能性を指摘できる。

ＳＫ－013（029）（第140図）

方形周溝状遺構（ＳＸ－003）の東側に７ｍ、円墳（ＳＸ－001）の北東に11m離れた位置で検出された。主軸を東西方向にとる。長軸長2.7m、短軸長1.4mである。確認面からの深さは18cm～30cmで、底面は平坦ではなく凹凸が著しい。

出土遺物　遺構に伴う遺物も無いことから時期・性格等については不明である。覆土は粘性、しまりのある暗褐色土であった。



第136図　SK-002・005・006（1／80）

SK-002

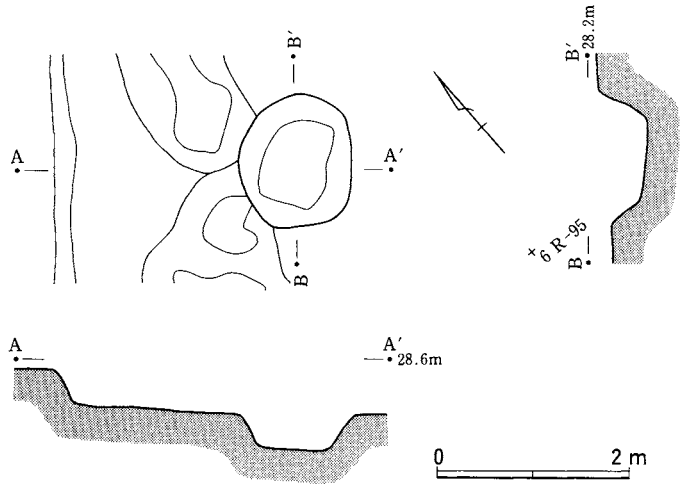
1．黒色土－焼土粒を中心分に少量含む
2．黒褐色土－ローム粒を少し、ソフトロームを含む
3．黒褐色土－ローム粒、ソフトロームを少量

SK-005

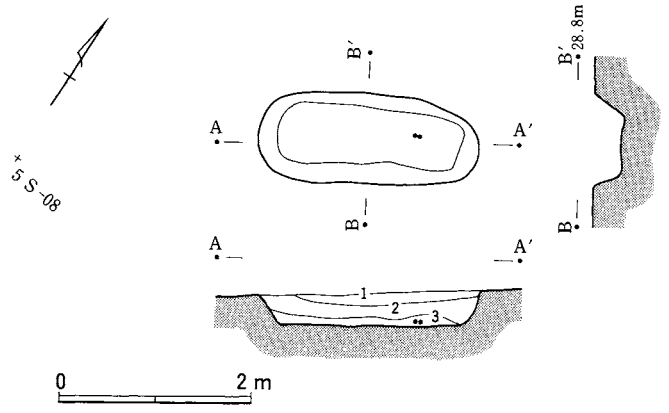
1．黒色土－炭化粒を少量含む
2．黒色土－焼土粒をきわめて多く含む
3．黒褐色土－焼土粒、ローム粒を少し含む
4．暗褐色土－ソフトローム、ローム粒を含む
5．暗褐色土－ソフトローム、ローム粒を多く、小ロームブロックを少量含む

SK-006

1．黒色土－ローム粒を少し含む
2．黒褐色土－ローム粒を少し含む
3．暗褐色土－ソフトローム、ローム粒を含む

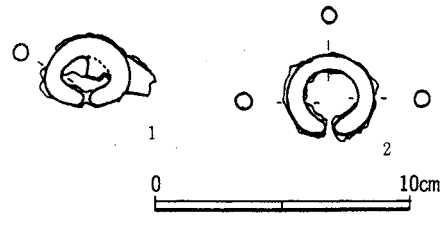


第137図　ＳＫ-007（１／80）

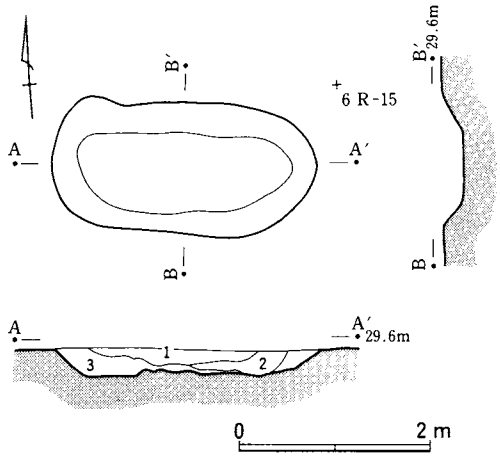


第138図　ＳＫ-011（１／80）

1．暗褐色土－ソフトロームを多く、小ロームブロックを含む
2．黒褐色土～黒色土主体、ソフトローム含む
3．暗黄褐色土－ソフトローム主体

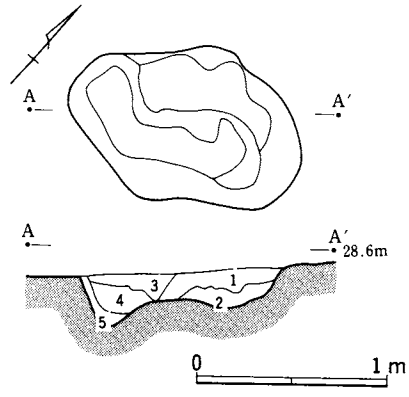


第139図　ＳＫ-011出土鉄製品



第140図　ＳＫ-013（１／80）

1．暗褐色土－黒褐色土含む、粘性しまり有り
2．暗褐色土－１層より明るい
3．暗褐色土－粘性しまり有り



第141図　ＳＫ-015（１／40）

1．暗褐色土－焼土粒を多く、炭化材含む
2．暗褐色土－やや黄味をおびる
3．暗褐色土－焼土粒、炭化材含む
4．赤褐色土－焼土粒・焼土塊で構成、炭化材含む
5．暗褐色土－焼土粒含む

ＳＫ－015（031）（第141図）

６Ｒ－82グリッドで検出された遺構である。位置的には、ＳＸ－001の南に約８ｍ離れた位置からの検出である。規模は、平面プランで1.2ｍ×0.8ｍで、確認面からの深さは0.2ｍから0.28ｍほどで不整形である。

出土遺物　遺構内からは縄文土器の小片が出土しているが時期を決定するには至らない。覆土上層からは焼土粒、炭化材が出土した。

（３）　溝状遺構（第142～145図　図版13、14）

溝状遺構は７条が検出された。

ＳＤ－001（003）（第143図）

調査区北西の南へ伸びる舌状台地の西側に、等高線に直交する方向に構築された遺構である。溝は調査範囲外の台地斜面部へさらに伸びると思われるが、調査範囲内では全長19ｍ、幅0.6ｍ、深さは0.25ｍである。溝底はほぼ平坦で部分的に溝内に１ｍ×１ｍ、深さが0.4ｍほどの掘込みを有する。壁面の立上がりは垂直に近い急傾斜である。

出土遺物　遺構内からの遺物の出土はなく、時期・性格等の詳細については不明である。

ＳＤ－002（004）（第143図　図版13）

南に伸びる舌状台地の基部を南北に分断するように東西に走る遺構である。遺構はさらに台地の東西両方向の調査範囲外へ伸びていくようである。調査範囲内で全長138ｍあり、幅は１ｍから1.35ｍ、深さは確認面から35㎝から55㎝である。遺構底面は平坦ではなく鍋底状を呈する。この遺構は溝状遺構というより

上端が１ｍ×１ｍ、下端が0.5ｍ×0.5ｍで遺構底面から20cmほど掘り込まれた円形、楕円形の柱痕状の遺構の連続したものと捉えられ、その結果として溝状を呈するに至った遺構である。しかし、柱痕を示すような痕跡はセクション図からも読みとれない。覆土上層には、部分的に宝永年間の富士山の噴火に由来すると思われるザラザラした火山灰の堆積が、層状に認められる。このことから、18世紀初頭以前に営まれた遺構であることは間違いあるまい。

出土遺物　遺構内からは構築の時期を明らかにする遺物の出土は皆無であるが、釘状鉄製品１，木質部が付着した刀子状鉄製品１点が出土している。（第142図）

ＳＤ－003（013）（第143図　図版14）

舌状台地の東側の台地縁辺部に、南北に等高線に沿うように営まれた遺構である。４Ｓ－85グリッドでＳＤ－002とほぼ直角に交差し、さらに調査範囲外の北へ向かって伸びている。南側についてもさらに遺構がのびることが想定された。ＳＤ－002との新旧関係については捉えることができなかった。調査範囲内で全長91ｍ、幅は0.6ｍから1.7ｍである。深さは確認面から25cmほどで東側の小支谷に面した方が一段深くなる。断面形は緩やかな傾斜で立ち上がる。

出土遺物　遺構の時期を明確にできる遺物の出土はなく、時期、性格等の詳細については不明である。

ＳＤ－004（020）、005（021）、006（022）、007（024）（第144図　図版15）　８Ｑ－60から８Ｓ－60グリッドにかけて検出された遺構である。位置的には鹿島川の支流小名木川に開析された支谷の最奥部に近く、台地平坦部の幅が30ｍほどに最も狭まった部分を東西に縦断するように走る、溝状に掘り込まれた遺構である。道路を挟んで隣接する出口遺跡側でも、これらの遺構の続きと考えられる遺構が調査されている。

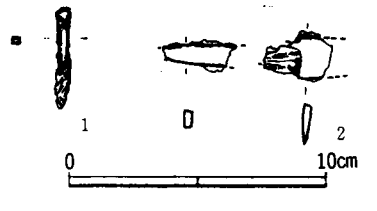
検出された遺構は、東西に24ｍ、幅は6.3ｍから9.7ｍであり、全体として蛇行している。これらの遺構は複雑な重複状況を呈しており、いくつかの時期に少しずつ位置を変えて構築されているようである。また、北側に構築された遺構ほど深さが増す傾向が読みとれる。また、各遺構の時期を決定するには至らないが、近世初頭から中葉にかけて構築された遺構と思われる。

ＳＤ－004

確認された規模は幅が約2.5ｍ、確認面からの深さ0.6ｍを測り、薬研堀に近い断面形を呈し、底面は平坦である。また、底面は硬化しており、道又は通路等の用途が想定される。この遺構の北側は、部分的にこの遺構よりも新しく構築された遺構により切られている。底面から馬の歯と考えられる動物骨が出土した。また陶器の底部が１点出土した。（第146図）

ＳＤ－005

幅が５ｍ、確認面からの深さは浅いところで0.2ｍ、深いところで0.8ｍを測る。また、この遺構の片側には1.5ｍ×1.0ｍ、0.4ｍ×0.6ｍ位のピットが不規則な間隔をあけて列状に検出されている。このため底面は平坦ではない。また、ＳＤ－004と



第142図　ＳＤ-002出土鉄製品

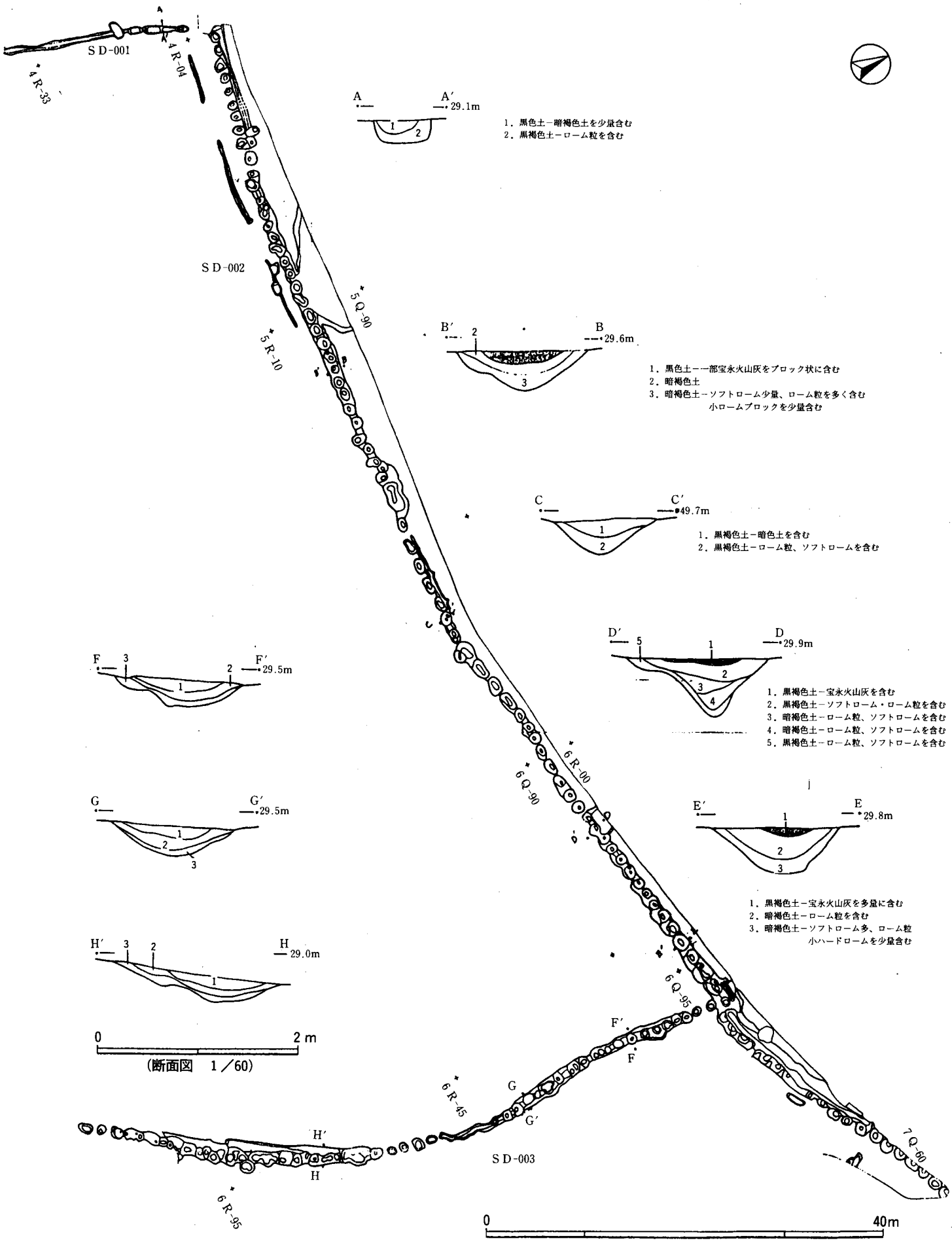
ＳＤ－005の遺構の間にはもう１条の遺構があったことがセクションから確認される。この遺構はＳＤ－004よりも新しく、ＳＤ－005よりも古い時期に構築されているが、ＳＤ－005によりその大部分が壊されている。幅は不明であるが、深さは確認面から0.5mを測り、底面は平坦である。遺構の時期を明確にできる遺物の出土はなく、時期、性格等の詳細については不明である。

ＳＤ－006

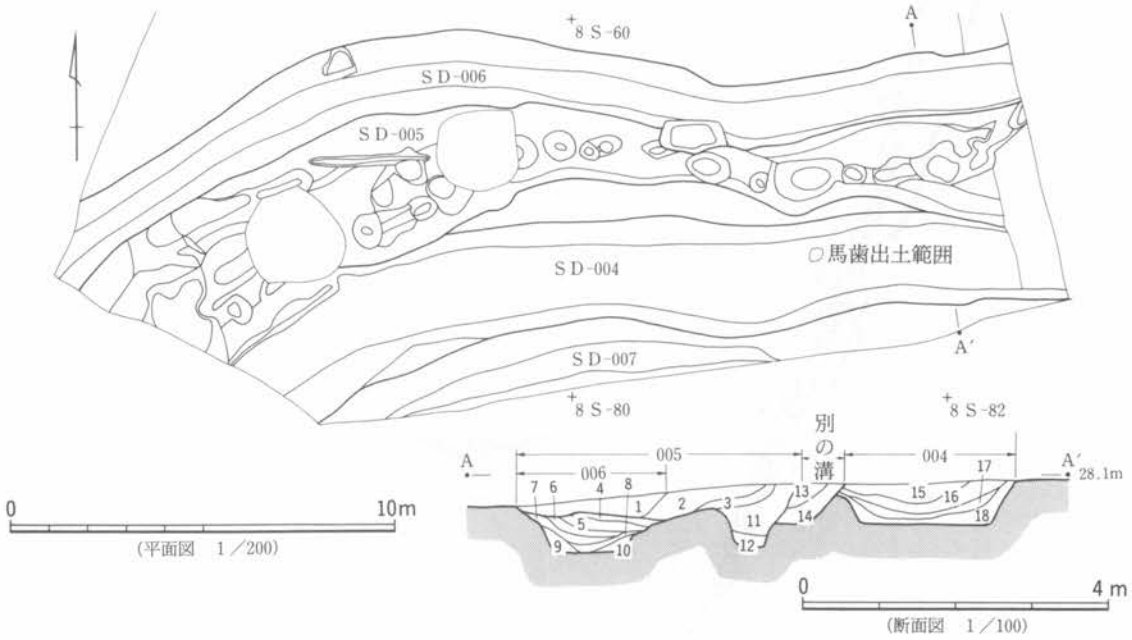
ＳＤ－005の底面の下から検出された遺構で、幅は推定で2.5m、深さは、0.7mである。断面形は北側では急傾斜、南側では中段から傾斜が緩やかとなるが、上部をＳＤ－005により壊されているので詳細については不明である。各遺構とも底面は固く締まっており何らかの共通した使用目的が考えられる。遺構内から時期を決定できる遺物等の出土はなかった。

ＳＤ－007

ＳＤ－004の南側に沿って検出された遺構で、長さ11mにわたって検出された。幅は広いところで0.8m、深さは確認面から８cmから13cmと浅く断面形は鍋底状を呈する。遺物の出土もなく時期、性格については不明である。

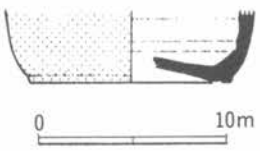


第143図　溝状遺構（SD-001・002・003）

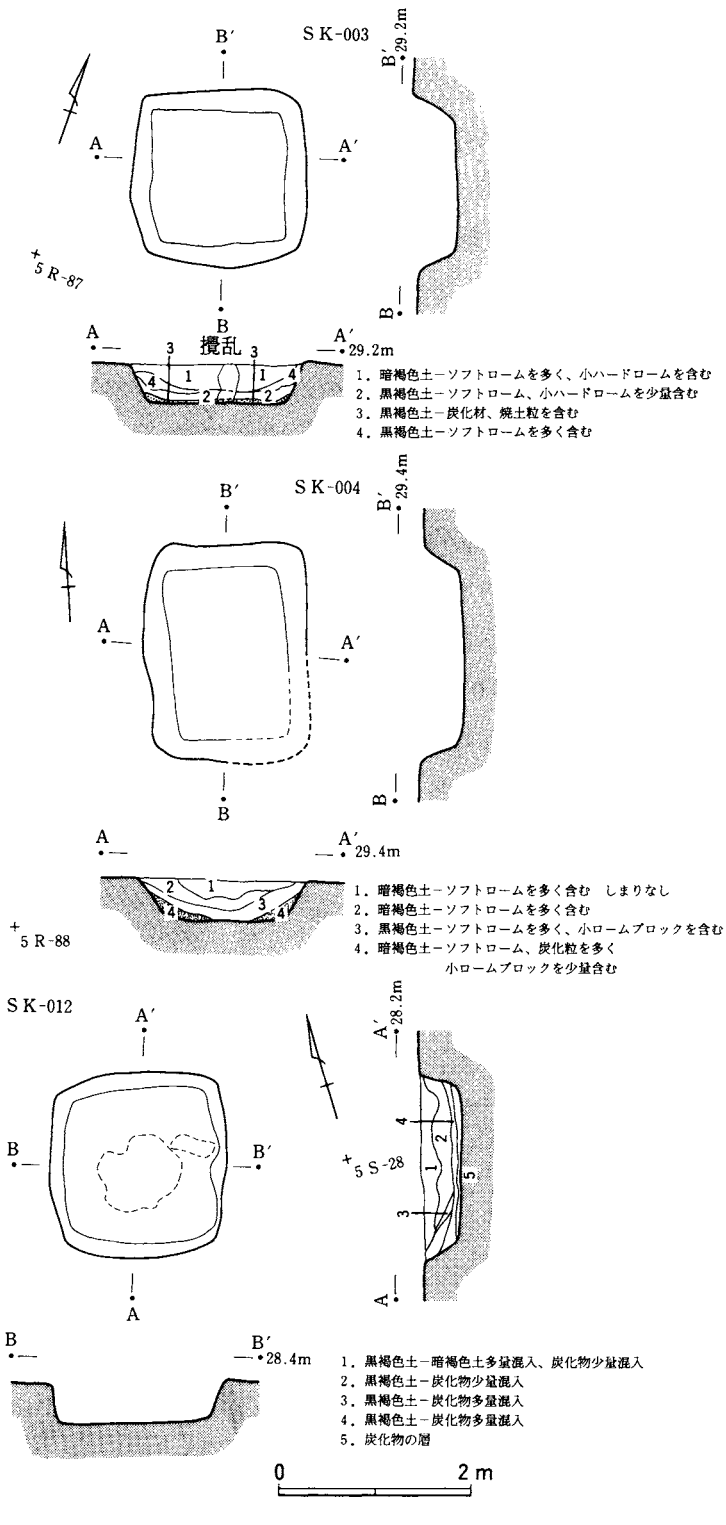


第144図　溝状遺構（SD-004・005・006・007）

1．黒褐色土－ソフトロームをやや多く、小ロームブロックを少量含む
2．黒褐色土－ローム粒を少量含む
3．黒色土－ローム粒、白色粘土を少量含む
4．黒褐色土－黒色土を少しブロック状に、小ロームブロックを含む
5．黒褐色土－ローム粒を少量含む
6．暗褐色土－小ロームブロック、ローム粒を多く含む
7．黒褐色土－ローム粒を少量含む
8．黒褐色土－ローム粒を多く、ソフトロームを少量含む
9．暗褐色土－ソフトロームをやや多く、ローム粒を少量含む
10．暗褐色土－小ロームブロックをやや多く、ローム粒を多く含む
11．黒褐色土－小ロームブロック、ローム粒を多く含む
12．明褐色土－ソフトロームとロームブロックの層
13．黒色土－ローム粒を少量含む
14．黒褐色土－黒色土をブロック状に、小ロームブロック・ローム粒を少量含む
15．黒褐色土－ソフトローム、ローム粒を少量含む
16．黒褐色土－ソフトローム、ローム粒を少量含む
17．暗褐色土－ソフトロームをやや多く、ローム粒を少量含む
18．暗褐色土－ソフトロームを多く、小ロームブロック・ローム粒を多量に含む



第145図　SD-004出土遺物



第146図　SK-003・004・012（1／80）

（4）　炭窯（第146図　図版15）

土坑と分類された遺構のうち、覆土に炭化材や焼土を多量に含み明らかに炭を焼くのに使用したと思われる遺構が3基検出されている。これらの炭窯とした遺構については時期を特定はできないが、近世から近代の構築と思われる。

SK－003（007）　5R－77グリッドで検出された。舌状に張り出した台地平坦部の西にやや偏った位置に当たり、東に約6m離れてもう1基所在している。平面形は正方形に近く、規模は確認面で1.8m×1.9mであり、深さは0.4mほどである。底面直上の覆土には炭化材、焼土粒が多量に含まれている。ほかには遺物の出土はない。

SK－004（008）　5R－78グリッドで検出された。東南の隅側1／4は撹乱により壊されていた。平面形は長方形で、規模は1.76m×2.2m、深さは0.4mである。底面に近い覆土下層には、底面から立ち上がりの壁にかけてレンズ状に炭化粒を多量に含む層が検出された。

SK－012（028）　舌状台地の先端部、平坦部が最も張り出したあたりの斜面部にかかる付近に所在する。平面の規模は、1.92m×1.96mでほぼ正方形を呈する。覆土には炭化粒が含まれており、特に底面に近い下部には炭そのものといった炭化物も含まれていた。

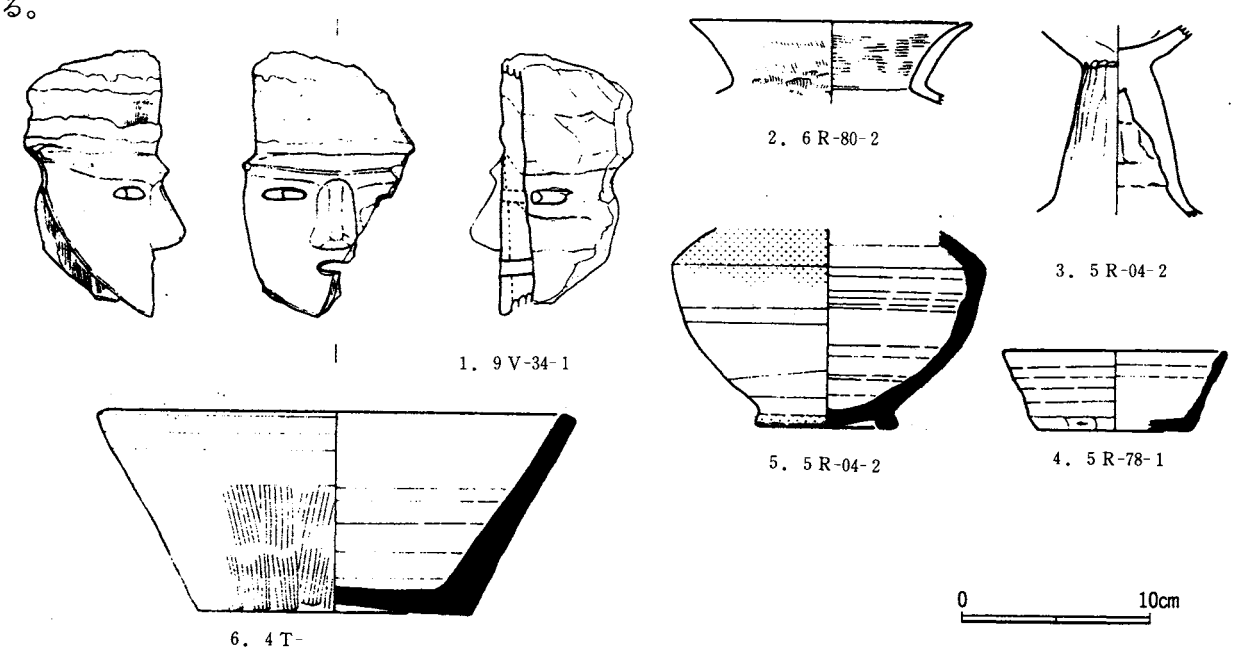
3　グリッド出土遺物

出口・鐘塚遺跡から出土した遺物のうち、遺構に伴わない特徴的な遺物を取り上げる。

（1）　古墳時代及び古墳時代以降（第147図　図版16、38）

埴輪・土器等

1は、9Ⅴ－94グリッド出土の冠帽を被った人物（男子）埴輪の顔面の一部分である。埴輪はこの1点のみの出土である。この埴輪は丁寧な仕上がりを見せており、6世紀中葉ころに製作されたものと考えられる。調査区内の古墳（円墳）及びその周辺から埴輪の破片すら検出されていないことを考え合わせると、帰属する古墳が同じ台地上に展開する同時期の古墳のいずれにあたるものか、今後の調査の進捗が待たれるところである。2は、6Ｒ－80グリッド出土の甕の口縁部である。1／4ほどの遺存であるが、復元で口径14.8cm、頸径10.2cm、現存器高4.3cmを測る。胎土には乳白色の粒子、砂粒を含む。内外面ともにハケによる調整後ナデを加え、頸部との接合部付近は縦にハケ調整後に軽くナデを加える。3は、5Ｒ－04グリッド出土の土師器の高坏の脚部で、40％ほどの遺存度である。坏部の内面には赤彩の跡がわずかに認められる。脚部は縦のヘラケズリの後にナデを加える。4は、5Ｒ－78グリッド出土の須恵器の坏で、1／4ほど遺存している。復元で、口径11.8cm、底径8.2cmを測り、器高は4.1cmである。体部下端に近い部位に横に手持ちヘラケズリを加え、整形している。胎土には砂粒、白色粒のほかに少量の雲母を含む。8世紀末から9世紀初頭ころの新治窯の所産と考えられる。5は、長頸瓶の一部で、同一個体と思われる破片が3片出土したが、接合はしない。肩部と底部の高台に灰釉がかかっている。復元ではあるが、最大径は肩部にあり、16.6cm、底径7.5cm、現存器高は10.2cmである。その特徴から8世紀初めころの所産と考えられる。6は、常滑の鉢である。底部の1／6、口縁部のごく一部が遺存していた。復元で口径25.4cm、底径14.6cmである。器高は10.4cmを測る。胎土に砂粒、白色の1㎜から10㎜の小石を含む。色調は暗赤褐色を呈し、内面には底面から中段にかけて自然釉が掛かり、使用によると思われる磨耗痕を顕著に残している。



第147図　グリッド出土遺物（1）

金属製品（第148図、図版38）

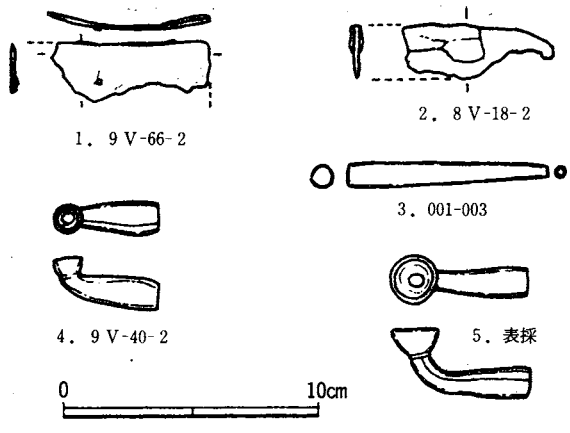
1は9Ⅴ－66グリッドで出土した鉄製品である。このグリッドには方形周溝状遺構（ＳＸ－004）の溝の南東の隅がかかる。現状で厚さ2㎜、両端が欠損しているので全体は確認できないが、現状で最大長6.2cm、最大幅2.2cmであり、緩やかなカーブを描くように曲がっている。一方側には鋲状の突起が残り、突起が飛び出している側には部分的にわずかに鍍金の痕が残る。用途等は不明である。

2は8Ⅴ－18グリッド出土の鉄製品である。現況で長さ6.0cm、幅2.1cm、最大厚は3㎜を測る。下端に行くに従い厚さが減じ両刃状を呈することから、小刀又は刀子の基部の可能性を残す製品である。3は銅製の煙管の吸口である。肩をもたない形式のもので、口唇部からラウ接合部へのふくらみが比較的ゆるやかに移行している。吸口内部にラウと思われる残滓が遺存している。口唇部から1cmのところは上下から押し潰されたように少しへこんでいる。

4、5は煙管の雁首である。5は、表採品である。火皿径1.9cm、火皿高1.0cm、首部長4.7cmである。火皿と首部の接合部に幅1.2㎜の補強帯がつく。脂返しが大きく湾曲するいわゆる河骨形を呈する銅製の雁首である。18世紀前半ころの所産と考えられる。4は火皿が比較的小さく、脂返しの湾曲もきわめて小さい銅製の煙管の雁首である。火皿小型化の現象は、タバコの葉の刻み方が細かくなることによって起こったとされることから、5よりも時代が下がって18世紀後半から19世紀前半にかけての所産と考えられる。首部の合わせ目は背面側にある。火皿径1.2cm、火皿高0.7cm、首部長3.9cmである。

石製品

砥石が13点出土しているが、ほとんどが小破片で図示できる遺物は皆無である。



第148図　グリッド出土遺物（2）

第3章　ま　と　め

1　本遺跡で検出された旧石器時代の各集中の特徴とその相互関係について

（1）　各集中の石材組成およびその相互関係について

各集中については、既に石器属性表及び石器組成表を添えて報告した。ここでは各集中内に占める各石材組成比をその重量比に基づいて述べてみたい。各集中を上記の基準で概観すると223頁以降の各石材組成比表のようなグラフが描ける。各集中の石材組成の内容については石器・剝片類の多寡はあるにしてもある程度の傾向を読みとることができよう。また、各集中間の関係については接合資料をもとに述べてみたい（第149・150図）。以下に各文化層の集中ごとにその概要について述べる。

・第１文化層

第１文化層は１～14の14の集中としたがこれらの集中には次のような特徴がみられる。

①頁岩は、集中１では50.6%、集中２では38%、集中３では36%、集中４では26.5%、集中５では65.6%、集中６では26.3.%、集中８では71.6%、集注11では50.1%、集中12では55.6%、集中14では38.9%というように頁岩を主体もしくはそれに準ずる程度に含む集中が第１文化層内の14の集中のうちの10の集中に見られ、第１文化層中の石材の主体をなしている。

②チャートは、集中２では35.8%、集中10では68.9%、集中11では43.0%のようにチャートを多く含む集中があるのと対照的にごく僅かかまったく含まない集中が存在する。

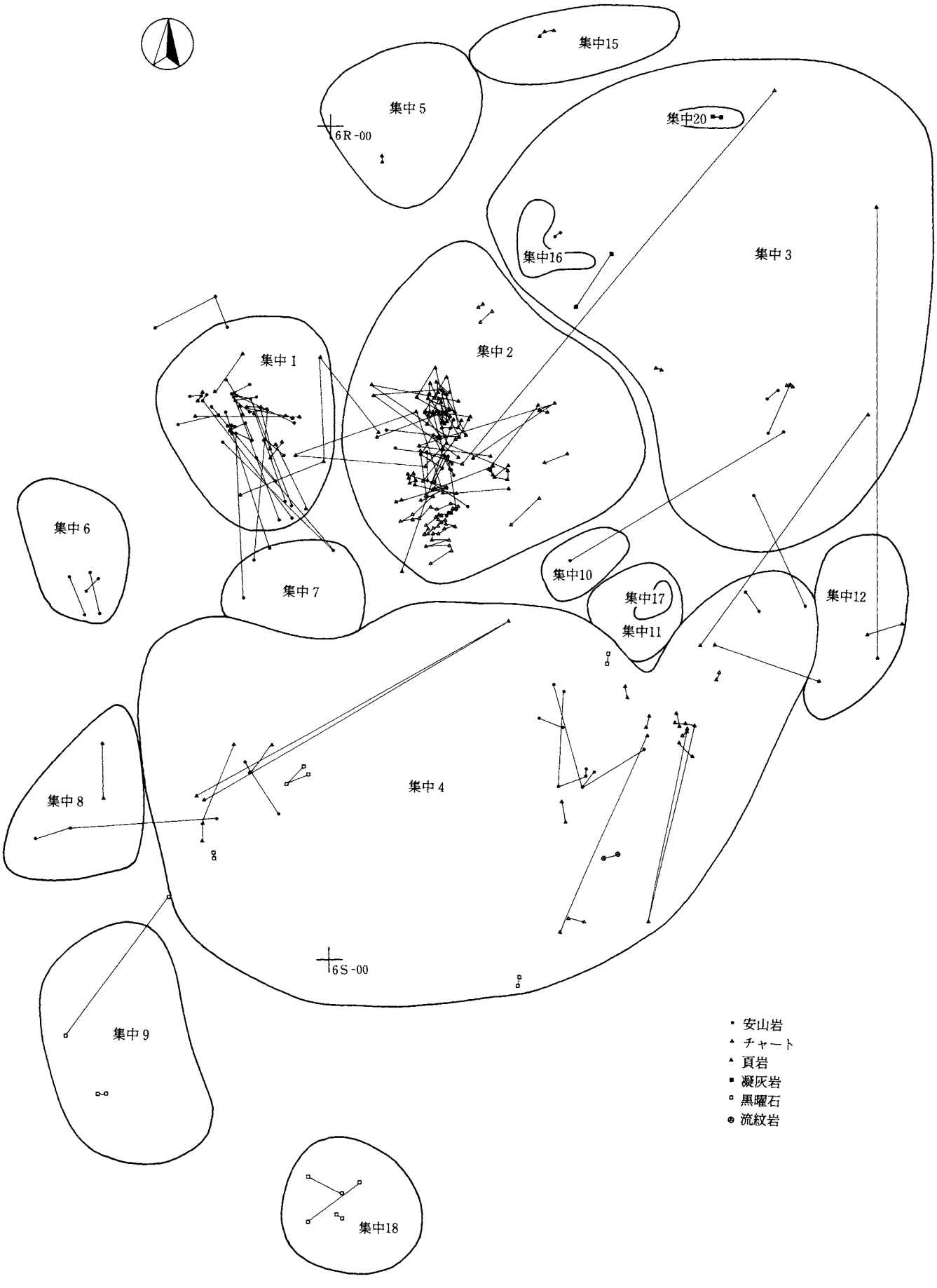
③安山岩は、集中６で66.7%、集中７で77.8%、集中13で81.5%、集中14で46.5%というように集中の主体を安山岩が占めるものがある。

④砂岩は、集中９で77.8%という高い組成比を示すが、他の集中では砂岩はほとんど含まれない。

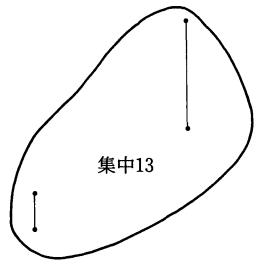
⑤黒曜石は集中７で10.5%、集中８で8.2%、集中９で34.9%の組成比を示すが、それ以外の集中ではごく僅かか全く含まない。

第１文化層では石材的にはIX層段階の石材利用の特徴を良く反映しているが、各集中間では石材組成比に差異が存在する。この差異は特定石材が異所的に消費された結果と考えられるが、石材管理の実態についてはよく分からない。

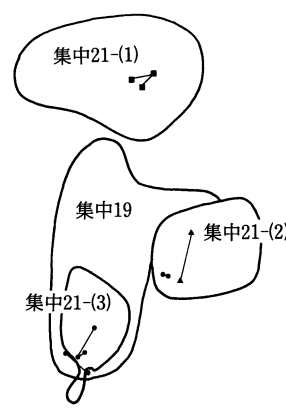
集中間の関係を接合関係からみると、集中１とその東側に隣接する集中２及び南側の集中７との間、集中２と３、集中３と４、10、12、集中４と８、12との間に接合関係が見られる（第149・150図）が、多くは各集中内で完結する様子が看取できる。時期的には集中1.2.3、４、７、810,12の間での同時性を証左するとも考えることもできない訳ではないが、積極的に消費石材のやりとりを窺うことは困難である。各集中間の関係を考える一つの手がかりを知る手掛かりにはなろう。また、集中間での接合関係を有しない集中を時間的な差として、言い換えれば数次に亘る活動の痕跡として捉えるか、各集中を形成した集団間の関係の反映として捉えるのかということもこれからの検討課題である。



第149図　各集中接合関係

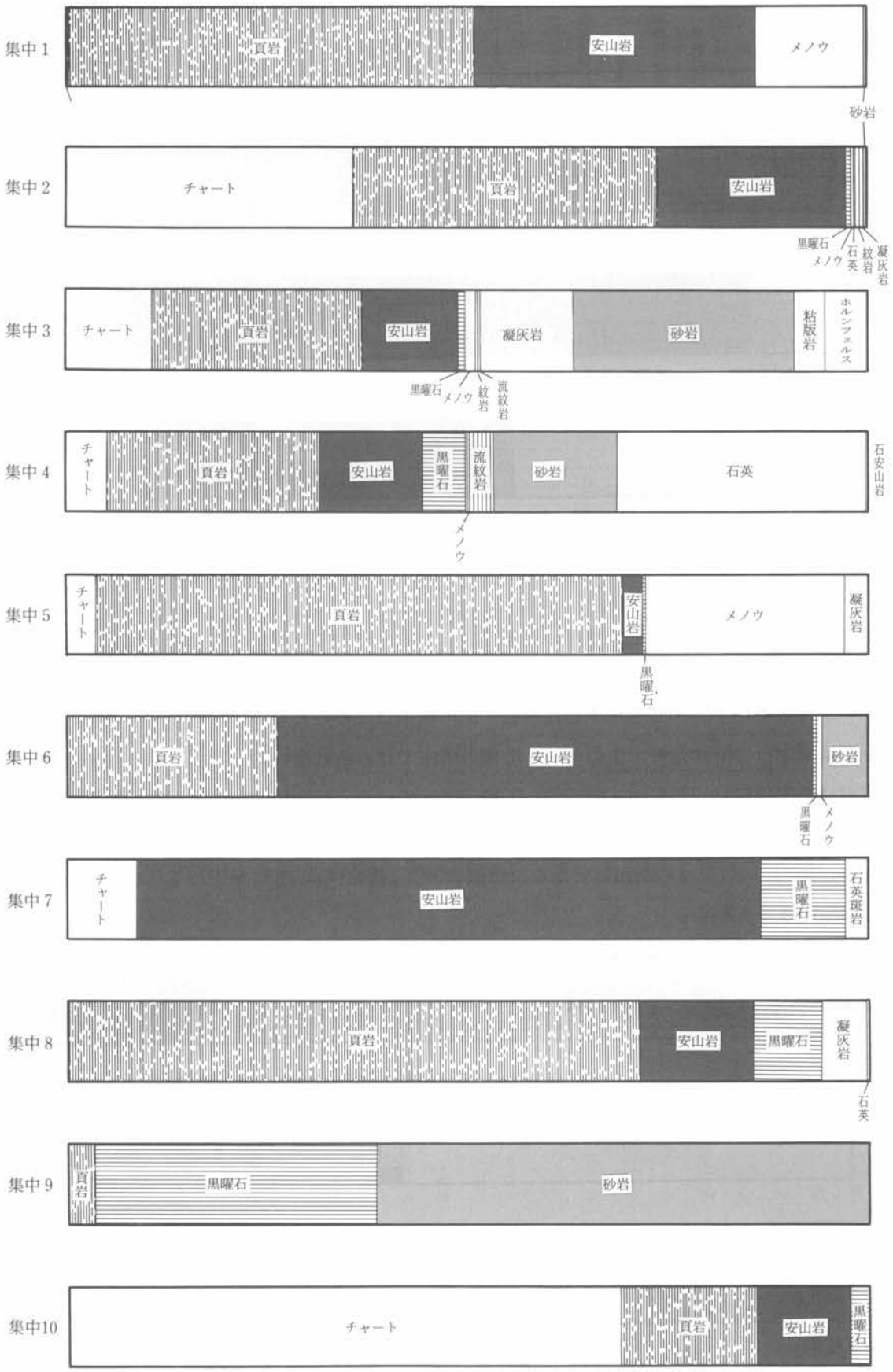


• 安山岩
▲ 頁岩
■ 凝灰岩

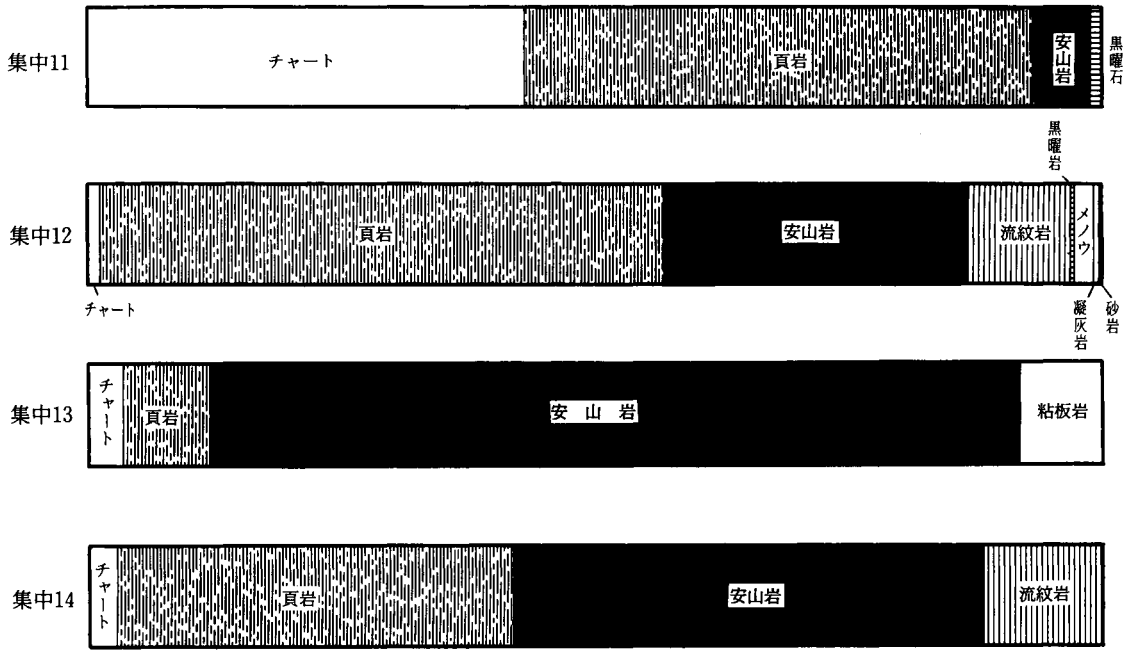


第150図　各集中間の石器接合関係

石材組成比表


集中1
頁岩
安山岩
メノウ
砂岩
集中2
チャート
頁岩
安山岩
黒曜石
メノウ
石英
紋岩
凝灰岩
集中3
チャート
頁岩
安山岩
凝灰岩
砂岩
粘版岩
ホルンフェルス
黒曜石
メノウ
紋岩
流紋岩
集中4
チャート
頁岩
安山岩
黒曜石
流紋岩
砂岩
石英
石安山岩
メノウ
集中5
チャート
頁岩
安山岩
メノウ
凝灰岩
黒曜石
集中6
頁岩
安山岩
砂岩
黒曜石
メノウ
集中7
チャート
安山岩
黒曜石
石英斑岩
集中8
頁岩
安山岩
黒曜石
凝灰岩
石英
集中9
頁岩
黒曜石
砂岩
集中10
チャート
頁岩
安山岩
黒曜石

石材組成比表



・第2文化層

第2文化層は集中15～17の3個の集中である。これらの集中内における石材組成比は、それぞれに異なる特徴的な組成比を示している。

①頁岩は、集中15では80.3%という高い比率で含まれるのに対して集中17では33.0%にとどまり、集中16ではみられない。

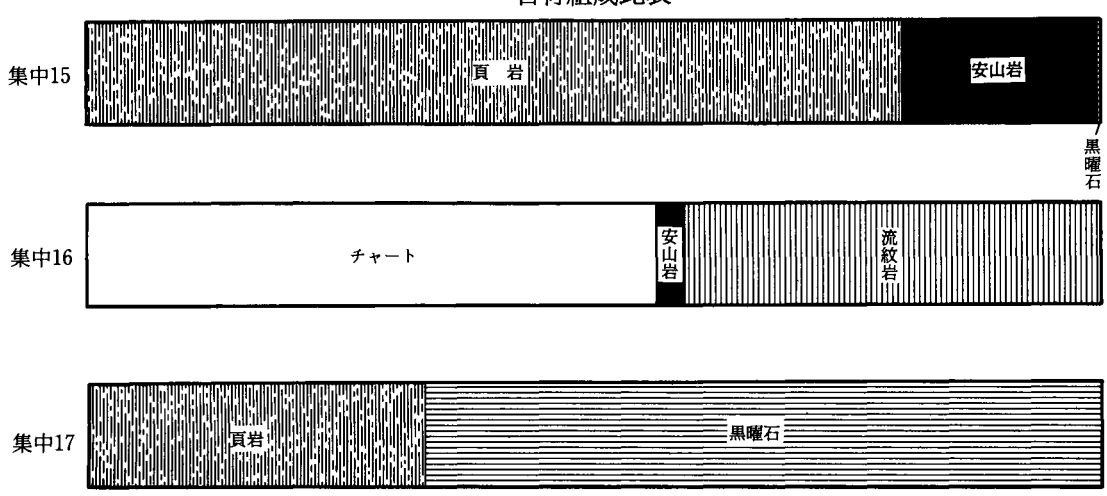
②チャートは集中16で56.0%を示すのに対して他の集中ではみられない。

③黒曜石は集中17で67.0%を示すのに対して他の集中ではみられない。

④流紋岩は集中16で41.2%を示すのに対して他の集中ではみられない。

第2文化層では占地的には台地の東側の谷を意識した占地を指摘できる。各集中間の距離は集中15と16では約20m、集中16と17では約30mほど離れた位置にあり、接合関係では,集中15で3点の接合が認められるが集中内での接合である。

石材組成比表



・第3文化層

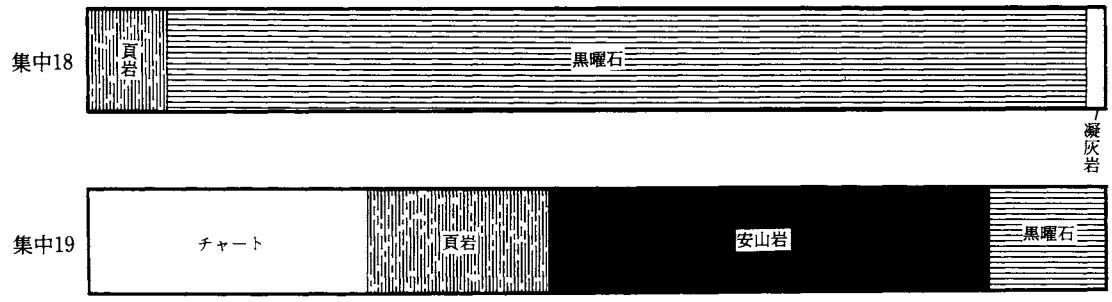
第3文化層には集中18、19の集中がある。

①黒曜石は集中18では90.2%と集中の主体を占めているのに対して、集中19では11.6%と占有率では逆転している。

②チャートと安山岩については、集中19には存在するが集中18には認められず、集中19ではチャートが27.4%、安山岩が43.2%と頁岩の17.8%を加えて集中の主体をなす。

集中18と19は、台地の東側の谷を挟んだ位置に占地する。集中18は黒曜石を主体とし本文でも触れたが、ナイフ形石器の製作跡と考えられる舌状台地の先端部に占地するのに対して、集中19は台地の縁辺部に占地するという占地上の差異とともに、上記①、②に記述したように、石材構成及び器種構成にも全く異なる特徴を看取することができる。集中19では接合資料は確認できないものの、石核1点の他は剥片類で構成されることから、性格的には集中19も石器製作跡と考えられる。

石材組成比表



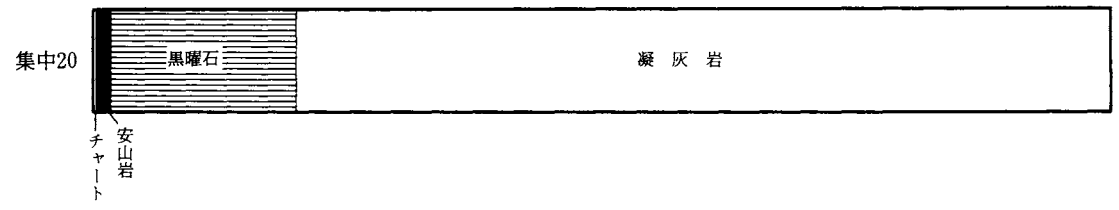
・第4文化層

第4文化層は集中20とした集中が1地点ある。

①凝灰岩が80.0%と集中の主体を占めており、黒曜石が18.1%で凝灰岩と黒曜石で構成されている。他には客体的にチャートが0.5%、安山岩が1.4%含まれている。

本遺跡ではこの一か所でのみ検出された。凝灰岩の内で接合関係がみられた資料については、被熱した痕跡が認められるが焼土遺構は検出されていない。

石材組成比表



・第5文化層

第5文化層には集中21—(1)、(2)、(3)とした集中があり、それぞれの遺物が集中する3地点で以下のような特徴がみられる。

①チャートは、(2)で10.5%含まれるが他にはみられない。

②頁岩は(1)では15.2%、(2)では28.4%、(3)では5.1%含まれている。

③安山岩は、(1)では21.8%、(2)では27.1%、(3)では67.2%含まれており、(3)での占有率が高い値を示す。

④流紋岩は(1)で57.8%を占めており、(2)、(3)にはみられない。

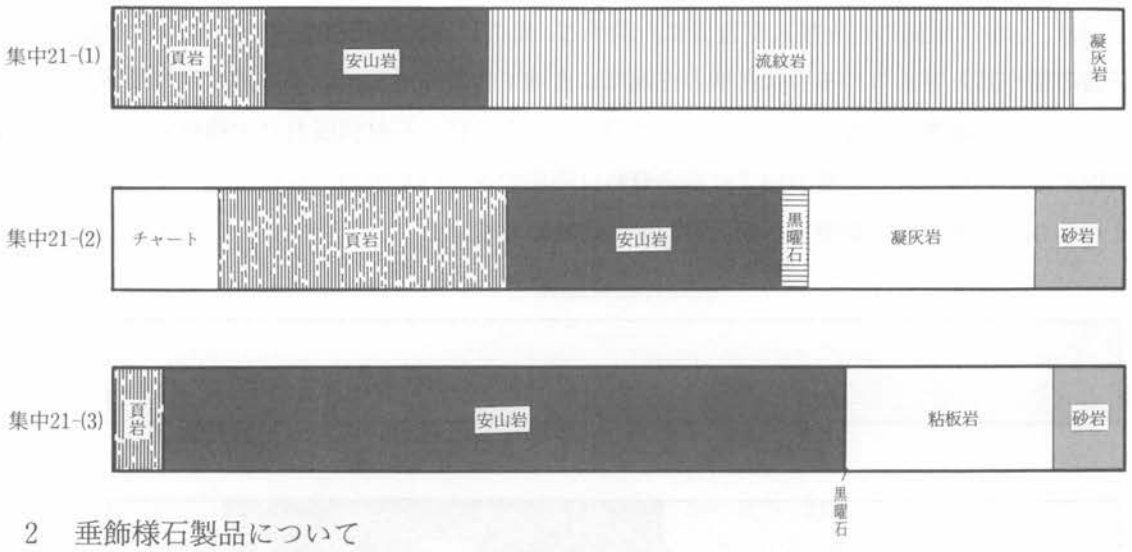
⑤凝灰岩は(1)では5.2%、(2)で22.4%含まれる。

⑥粘版岩は(3)で20.5%含まれるが、他ではみられない。

⑦砂岩は(2)で9.0%、(3)で7.2%みられるが、小円礫がほとんどである。

このように枝番で報告したこの集中での石材構成はそれぞれに特徴的であるが、特に集中21—(3)では安山岩が70%を占める。

石材組成比表



2　垂飾様石製品について

垂飾様石製品とした遺物は集中6として報告した中から2点が出土した。この遺物を検出した集中6は台地西側縁辺部のやや斜面にかかる位置に分布し、他の集中とやや離れて位置している。この集中からは垂飾様石製品としたもののほかに安山岩の石核1点、頁岩製のナイフ形石器1点、台形石器1点等が出土した。垂飾様石製品の出土層位はIXa層からIXc層にかけてである。他の遺物の出土層位はX層からの出土も見られるが、分布の中心はIXa層からIXc層である。

垂飾様石製品は、小型の方を1号(第47図164),大型の方を2号と呼称しているので(註1)それを踏襲して記述を行うこととする。1号は5R—57グリッドの集中のなかの遺物が集中して検出された部分から出土した。径約3mmほどの孔部の中ほどから欠損しているため本来の形態は不明だが、現存部は三角形の扁平な板状で、表面にY字状の稜線がある。両側面には平滑な面取が見られる。表裏及び側面は全面にわたり良く研磨されており部分的に光沢を帯びている。穿孔部には縦方向に密に平行した条線状の痕跡がみられるが光沢があり紐ずれの可能性も考えられる。全体に黒色を呈しているが表面の一部に茶褐色の部分があるので原礫の風化面に近い部分を素材としている可能性がある。2号は1号から北へ2.6m離れて出土した。1号と同じ形態の石製品であるが、1号と比較して粗雑な作りとなっているが形状及び形態、製作技法等は1号と同様な特徴を有している。裏面の先端部は面取とは言えないまでも厚さが減じており、断面でみるとやや尖ったような形状を示す。1号は明らかに穿孔部から破損しているが2号については表裏両面からの加工痕はうかがえるが穿孔とは断じがたいほどに摩滅して端部が丸みを帯びており、破損痕を留めているとは言いがたい。ただ単に刻み目を付したものか、破損後に二次的な加工が加えられたとも考えられる。また、素材がやや粗粒の石材であるため、表面の風化がすすんでいる可能性も指摘される。装身具が出土した例としては北海道では湯の里4遺跡(註2)、美利河I遺跡(註3)、柏台1遺跡(註4)などが挙げられる。湯の里4遺跡は墓坑からの出土であり、汎世界的に墓坑から垂飾品が出土する例が多いことから、本遺跡についても遺構の検出につとめたが確認できなかった。湯の里4遺跡出土の装飾品にはビーズ状の玉3点と、穿孔の痕跡が見られる垂飾品2点が出土しているが年代的には12,000年から13,000

年前と推定されており、本遺跡の出土層位であるIX層の年代（27,000～30,000年前）とは大きな時間的な差がある。この他には長野県信濃町に所在する日向林B遺跡（註５）や岩手県和賀群湯田町の峠山牧場Ⅰ遺跡（註６）からも装飾品として分類された石製品が出土している。これらの内で日向林B遺跡例は直径４m程度のブロックが環状に配列し環状ブロック群をなし、直径約25mで中央に直径10m程度の密度の高いブロックが存在することが知られている。層準的には「武蔵野台地IX・X層段階に相当することが確実と思われる」とされ、本遺跡例と時間的には最も近接した時期の所産と考えられる。詳細は不明だが、有孔石製品として分類され、用途としては装飾品と考えられている。

現在のところ、上記の遺跡出土資料はビーズ状の玉や円礫に穿孔を施した資料、条線と刻み目を入れた装飾品等で、本遺跡出土の資料と比較するには形態や技法等の点で類似した資料に乏しく、その形態や用途については更なる類例の増加が待たれる。

3　旧石器時代の環状ブロックについて

環状ブロックについては、近年特に注目されて来たところであるが、既に橋本・須田により「環状ブロック群＝（環状ユニット）」として着目され（註７）その後、佐藤（註８）、橋本（註９）らによる論考や栗島（註10）、安蒜（註11）、須藤（註12）、白石（註13）らの研究が続き、シンポジュームも開催された（註14）。ここではこうした資料を参考として物井地区及び隣接する内黒田地区で検出された環状ブロックについて述べてみたい。

（１）　環状ブロックの規模について

環状ブロックについては既に栗島氏による分類がある（註15）。栗島氏は形状及びその規模によって環状ブロックを３類に分類した。さらに小菅将夫氏は４類に分類している（註16）。

環状ブロックの県内検出例のうち、その平面の規模については白鳥がかつて発表したことがある（註17）。第153図はその際の資料をもとに本報告の遺跡を加えて作成したものであるが、物井地区での検出例としては（１）御山遺跡では径22mのほぼ円形、（２）小屋の内遺跡では、東西約40m、南北50mで馬蹄形を呈し、規模的には群馬県下触牛伏遺跡と並ぶ規模の例が発見されている。物井地区の北西に隣接する内黒田地区で検出された（３）池花南遺跡の規模は径約30mである。

また、最近の調査では印西市泉北側第３遺跡での部分的な外環を併せもつ環状ブロックの存在も知られるようになってきているが、調査中のためその詳細については未詳である。

環状ブロックの構造については既に論じられているところであるが、物井地区で検出された遺跡の中にも以下のような構造を有するものの存在が知られる。

① 環状に巡る石器群の内側にも石器の集中して検出される構造を有するもの

② 環状に巡る石器群の内側にも石器が疎らに散在するが特に集中しないもの

また、環状ブロックと隣接して石器群が分布する構造を有する遺跡のあることも見のがすことはできない。このような遺跡のありかたは中山新田Ⅰ遺跡（註18）でも知られている。

さらに炭化物の検出という点からは、環状に巡る石器群の内側から炭化物が検出されるものと、炭化物等の検出を見ないもの、環状に巡る石器群の外側で炭化物の集中箇所が検出されるものに分類できそうであるが、炭化物については、以下の生成過程a～dが想定されたことがある。（註19）

ａ．燃料として利用された残品

b．居住のため用いられた木材の炭

c．野火又は必要があって行われた野焼

d．環境条件による泥炭化

このように、成因については多岐にわたることが想定され、遺跡から検出される炭化物の分布の傾向からそれが人為的なものか自然的要因で生成されたものかを判断することを困難にしている。

本遺跡からも6R—42グリッドを中心とした地点で石器群が検出された層序と同レベルのIX層～X層で炭化物が集中して検出されているが、その要因についてはよくわからない。

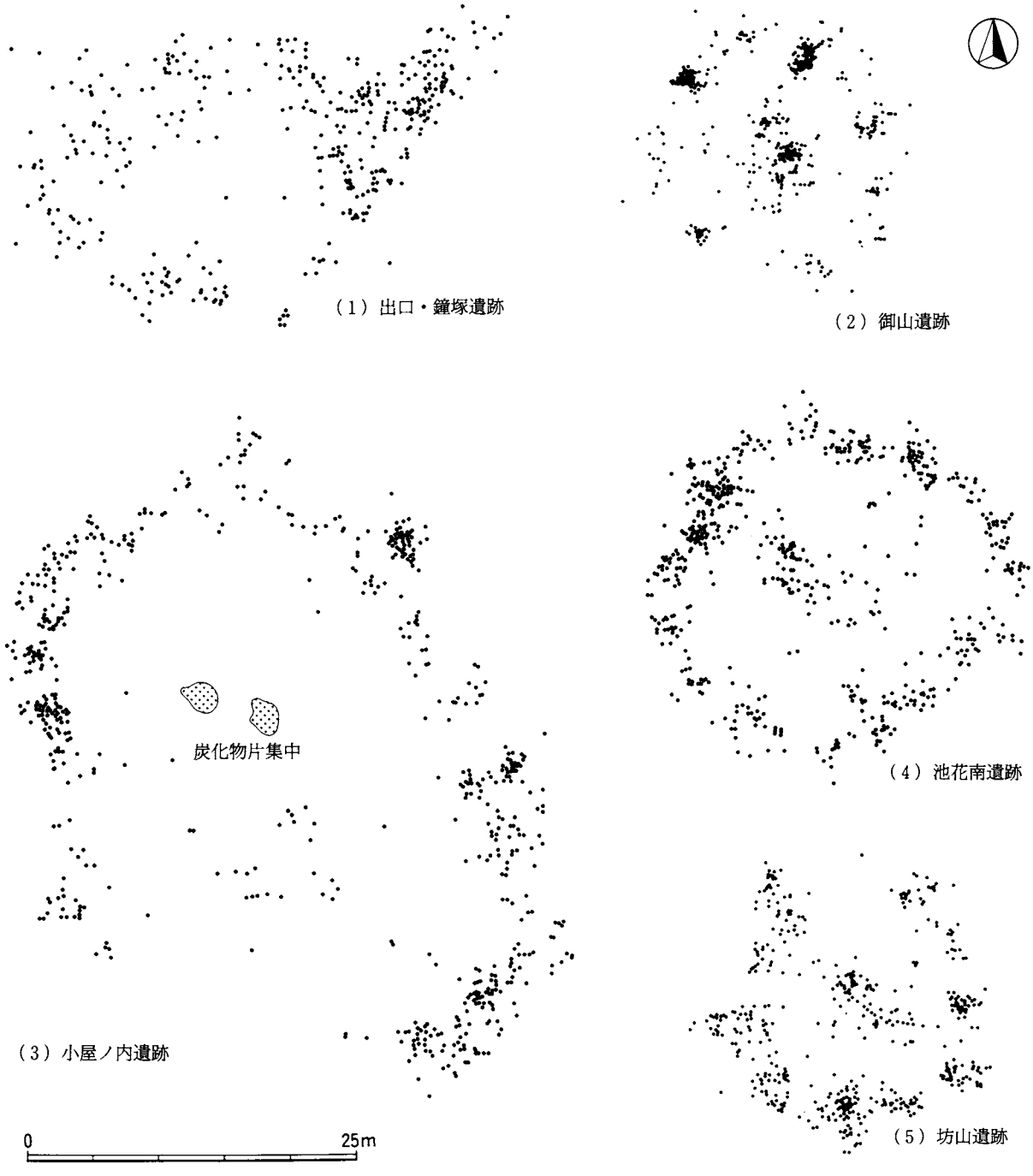
ちなみに御山遺跡では環状ブロック内（報告書ではユニットという用語で呼称している。）の南に寄った箇所で、また小屋ノ内遺跡でも環状ブロック内の2か所で炭化物の集中する箇所が検出されている。

（2）　物井地区で検出された各環状ブロックの地理的関係について（第151図）

旧石器時代の環状ブロックと呼称される石器群は、IX層のものが県内でも未報告を含めると20か所以上の遺跡で検出されており、全国的にも近年報告例が増えている。

物井地区では、これまでの調査で3か所の遺跡から環状に巡る遺物群が確認されており、その一部については既に『四街道市御山遺跡Ⅰ』（註20）として報告書が刊行されている。また、隣接する内黒田地区の池花南遺跡（註21）を入れると4か所ということになる。

第151図　物井地区環状ブロック検出遺跡



第152図　環状を構成する遺構の規模（1／250）

これらの遺跡のうち物井地区内の遺跡を、本書で報告した出口・鐘塚遺跡との地理的関係で見ると、御山遺跡までは直線距離で約700m、小屋ノ内遺跡までは約600m、内黒田遺跡群の池花南遺跡までは約700mと各遺跡間の距離が至近であり、直径1㎞の範囲内に時期的な差はあるものの環状に巡る遺構が3地点で検出されたこととなり、このような例はまれではなかろうか。

また、御山遺跡で検出された石斧と確実に同一個体と考えられる局部磨製石斧の刃部破片が、直線距離で約580m離れた同じ尾根すじにあり、御山遺跡とは谷を挟んで所在する清水遺跡から検出されるなどの事

例もあり、今後は環状を構成する遺構の構造の分析とともに、各遺跡間の関係及び関連性についても検討することが要求されてこよう。この清水遺跡（未整理）と本報告の出口・鐘塚遺跡とは500mと離れていない距離にある。

また、物井地区及び物井周辺で検出された遺跡には、地形の上からは次のような特徴を挙げることができる。

出口・鐘塚遺跡をのせた台地は東側を流れる幅250m～700mの広い谷の平坦な沖積地をもつ鹿島川と、北東方から入り込んだ幅40m～100mの沖積地のある手繰川の複雑に樹枝状に開析された支谷に挟まれ、この部分だけが狭い、いわば回廊状になった両河川の分水嶺に近い位置に立地している点を指摘できる。出口・鐘塚遺跡の検出された台地はいわゆる舌状台地上で、これは田村の指摘した（註18に同じ）馬背部立地型の範疇に含められる立地条件を満たしていると言える。他の遺跡例えば、御山遺跡は鹿島川水系の北東に開口する支谷の最奥部から300mほど開口部に近い、樹枝状に開析された西側の台地の谷頭に検出されている。この遺跡の立地は谷頭部立地型と言えようか。検出された層序はX層上部としてとらえられている。また、未整理ではあるが出口・鐘塚遺跡とは東側に台地一つを隔てて立地する小屋ノ内遺跡も、同じ水系の支谷の最奥部の東側に立地する、銀杏の葉を広げたような形状の台地の平坦部中央のIX層から1,700点余りの遺物が検出されており、このうち環状ブロックからは約650点の石器類が出土している。また、遺物分布状況から、二つの環が重複している可能性が高い。小屋ノ内遺跡の立地は台地平坦部立地型と呼称されようか。

手繰川水系の池花南遺跡は、北方から入りこむ支谷の西側の最奥部から約500m開口部に近い台地状から検出されている。

このように物井地区及び周辺遺跡の立地は分けられるが、立地の一つの自然的条件として、今も湧き出ている水に近い位置に営まれたと言えそうである。各遺跡とも台地の下には湧き水があることが指摘できる。

（3）　出口・鐘塚遺跡の第1文化層集中4について

出口鐘塚遺跡で検出された第1文化層集中4として報告したものについてその構造について通観しておく。集中4は本文中でも述べたように舌状台地の先端部近くに占地し、見かけ上は不規則な楕円形を呈する遺構である。記述をわかりやすくする関係でここでの記述に当たっては、遺物の分布にまとまりのある部分と疎に分布する部分があることから、便宜的に「クラスター」(cluster)という用語を用いて集中内での遺物の各々のまとまりについて記述する。クラスターとﾊﾞﾗ房ﾞという意味であり、隣接するクラスターは明確に区切れないことからこの用語を用いて記述を行うこととする。記述に際しては、AからJまでの10のクラスターに分けた（第153図）。これらの母岩別全資料の分布状況を一覧表にしたのが第50表である。母岩数は165種に及び、頁岩の57種をはじめ黒曜石18種、チャート15種、砂岩8種などが含まれる。

層準については、第42図に示した垂直分布図では最大1.5mほどの遺物の浮き沈みがあり、VI層からX層以下の層にまで遺物の出土が見られるが、台地先端部に近い位置での出土であり、遺物検出の層としてはIX層下部での検出としておきたい。

石材ではクラスターIのように黒曜石のみで構成されるもの、隣接したクラスターに分布するものが多いが、ここでは特徴的な分布を示す石材について第40図及び第50表を参照して記述する。

チャート　チャートは15種の母岩に分けたが、そのうちのチャート5はクラスターHに、15はクラスター

Fにのみ分布するが、それ以外のチャートについてはクラスターFにのみ分布する傾向が見て取れる。接合関係をもつ剝片も見られることからクラスターFは石器製作の場、母岩消費の場との見方もできよう。

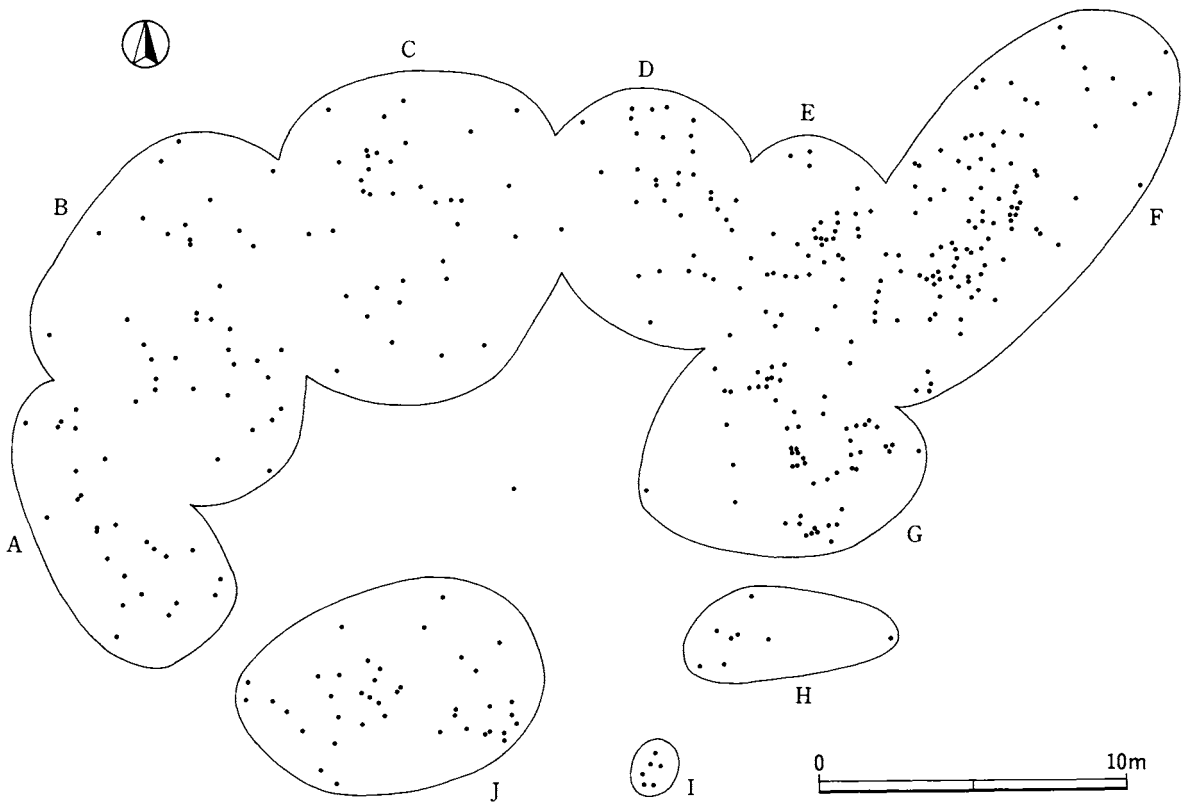
頁岩　頁岩についてもクラスターFに集中して分布する傾向が見られる。石核も2点(頁岩18、22)出土しているが、この母岩から剝がされたと考えられる剝片類が遺存していないことも指摘できる。

安山岩　安山岩はクラスターDとGに集中して分布する傾向が見られる。石核はクラスターDにあり、Gとの間に接合関係が見られる。

黒曜石　黒曜石2はクラスターHを除くすべてのクラスターからの出土が見られる。Iは3母岩からなる黒曜石6点のみで構成されている。

これらのクラスターのうち、接合関係で傾向をみると、東側にあたるクラスターD、E、F、Gでは頁岩と安山岩の接合関係が多く見られること、剝片類の占める割合が高いことなどを挙げることができる。これらは母岩消費の場との見方ができようか。また、西側に当たるクラスターA、Bでも頁岩、黒曜石の接合関係がみられる。接合関係からは、東西の2地点で母岩消費が活発に行われたと解することができよう。また、石材分布の上からは、概して黒曜石の分布が西側の各クラスターに多く分布する傾向のあること、チャート、頁岩が東側のクラスターに分布する傾向のあることが指摘できよう。

石器類の分布では、局部磨製石斧がCで1点、Jで1点の計2点出土しているほか、台形様石器は、Aで1点、Eで1点、Gで2点の計4点が出土している。



第153図　第1文化層集中4　遺物出土状況に基くクラスターの設定（1／250）

また、本遺跡の特徴としてこの遺物集中の北側の台地基部側に分布する集中の存在することを挙げることができる。しかし母岩分類を各集中で行ったため、これらの集中との関係についてはここでは具体的な言及はできない。

この集中4については、「1）石器製作にかかわる単位性と普遍性、2）石器の交換等を巡る単位的自立性と関与性、3）上記現象の複数ブロックでの共通性と均一性、4）以上の属性を持つ複数のブロックの同時性(環状の軌跡上に展開する配置性)」(註22)といった属性を有する遺構を環状ブロックと呼称するとすれば、これらの条件を満たしているとは言いがたい。このように考えると本遺跡におけるこの遺物分布をいわゆる環状ブロックと把握することは困難であると言わざるを得ない。

第50表　出口・鐘塚遺跡第1文化層集中4母岩別資料分布

個体番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	接合
チャート 1	−	1	−	−	−	5	−	−	−	−	
チャート 2	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	F
チャート 4	−	−	−	−	−	5	1	−	−	−	
チャート 5	−	−	−	−	−	−	−	3	−	−	G
チャート 6	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	
チャート 8	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	F
チャート 15	−	3	−	−	−	−	−	−	−	−	
チャート単体	−	−	1	−	1	4(1)	2	−	−	−	
頁岩 1	−	5	−	−	−	−	−	−	−	−	B
頁岩 2	−	−	2	−	−	2	−	−	−	−	
頁岩 3	2(1)	1(1)	−	−	−	−	−	−	−	−	A-B
頁岩 4	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	
頁岩 5	−	−	−	−	−	3	−	−	−	−	
頁岩 6	−	−	1	−	−	−	11	−	−	−	
頁岩 7	−	−	−	1	−	11	−	1	−	−	F F-H
頁岩 8	−	−	1	1	−	1	−	−	−	−	
頁岩 9	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	
頁岩 10	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	
頁岩 11	−	−	−	1	−	4	2	−	−	−	
頁岩 12	6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
頁岩 13	−	−	−	−	−	1	3	1	−	−	F-G
頁岩 14	−	−	−	−	1	1	1	−	−	−	
頁岩 15	−	−	−	−	−	−	4	−	−	−	
頁岩 16	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	
頁岩 17	−	−	1	−	−	1	−	−	−	−	
頁岩 18	−	−	−	−	−	3(1)	−	−	−	−	F
頁岩 19	−	1	−	1	−	1	−	−	−	−	
頁岩 20	−	−	−	−	−	1	−	−	−	1	
頁岩 21	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1	
頁岩 22	−	−	−	−	−	1(1)	−	−	−	1	
頁岩 23	−	−	−	−	−	7	−	−	−	1	
頁岩 24	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	
頁岩 29	−	−	−	−	−	−	2(1)	−	−	−	G
頁岩 35	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	F
頁岩 48	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	
頁岩 55	−	1	−	1	1	−	2	−	−	−	
頁岩 56	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	F
頁岩 57	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	
頁岩単体	−	1	7(1)	2	1	9	5	2	−	1	
安山岩 1	−	5	−	−	−	−	−	−	−	−	B
安山岩 2	4(1)	1	−	−	−	−	−	−	−	−	
安山岩 3	−	−	−	−	−	4	−	−	−	−	
安山岩 4	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−	
安山岩 5	−	−	−	−	1	1	1	−	−	−	
安山岩 6	−	−	−	3(1)	−	1	5	−	−	−	D-G
安山岩 7	−	−	−	2(1)	−	−	3	−	−	−	D-G
安山岩 8	−	−	−	3	2	−	3	−	−	−	E-G
安山岩 9	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	
安山岩 10	1	−	−	−	−	−	2	−	−	−	
安山岩 20	−	2	3	−	2	9	1	−	−	−	
安山岩単体	−	−	2	−	1	3(1)	2(1)	1	−	−	
石英 1	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	
石英 2	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	
流紋岩 1	−	−	1	3	2	−	−	−	−	−	
流紋岩 2	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	
流紋岩 3	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	H
流紋岩 4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	

個体番号	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	接合
凝灰岩 1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	
凝灰岩 2	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
凝灰岩 3	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
凝灰岩 4						1					
黒曜石 1	1	1	—	—	1	1	—	—	—	3	
黒曜石 2	7	1	4(1)	1	7(1)	1	1	—	3(1)	6(1)	
黒曜石 3	2	1	5	4	4	—	1	—	1	5	
黒曜石 4	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	
黒曜石 6	1	7(1)	1	2	—	—	—	—	—	—	B
黒曜石 7	1	1	—	1	—	—	—	—	—	1	
黒曜石 8	5	—	1	—	2	1	—	—	—	7	A
黒曜石 9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	
黒曜石 10	1	—	1	1	—	—	—	—	—	—	
黒曜石 13	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	
黒曜石 15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	
黒曜石 18	1	2	1	1	3	1	—	—	2	4	
黒曜石単体	—	1	2	—	1	—	—	—	—	2	
瑪瑙 1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	
瑪瑙 2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
輝石安山岩 1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	
砂岩 1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	
砂岩 2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	
砂岩 3	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	
砂岩 4	—	—	—	—	—	2	—	—	—	1	
砂岩 5	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	
砂岩 6	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
砂岩 7	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	
砂岩 8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	

※表の内、単体出土としたものについては頁岩は28種、安山岩は9種、黒曜石は6種に母岩分類したが1点のみの出土のためまとめて表にした。接合関係については、クラスター間の接合についてはA-Cのように表記した。クラスター内の接合についてはAのように表記した。
※数字は遺物総点数であるが括弧内には石核点数を示した。

註1　渡辺政治1990「物井地区出口・鐘塚遺跡出土の垂飾様石製品について」『研究連絡誌』第24号　千葉県文化財センター

註2　（財）北海道埋蔵文化財センター1985『湯の里遺跡群』

註3　（財）北海道埋蔵文化財センター1985『今金町美利河遺跡』

註4　（財）北海道埋蔵文化財センター1999『千歳市柏台1遺跡』

註5　（財）長野県埋蔵文化財センター1998『長野県埋蔵文化財センター年報14』

註6　（財）岩手県埋蔵文化財事業団埋蔵文化財センター1999『峠山牧場Ⅰ遺跡A地区発掘調査報告書』

註7　橋本勝雄・須田良平1987「旧石器時代—1986年の動向—」『考古学ジャーナル』NO. 277

註8　佐藤宏之1988「台形様石器研究序論」『考古学雑誌』第73巻第3号

註9　橋本勝雄1989「AT降灰以前における特殊な遺物分布の様相—いわゆる「環状ユニットについて（その1）—」『考古学ジャーナル』NO. 309

註10　栗島義明1990「遺物分布からみる遺跡の構成」『石器文化研究　2　第2回研究討論会　AT降灰以前の石器文化PARTⅡ』

註11　安蒜政雄1990「先土器時代の生活空間—先土器時代のムラ—」『日本村落史講座2　景観Ⅰ　原始・古代・中

世』

註12　須藤隆司1991「先土器時代集落の成り立ち」『信濃』第43巻第4号

註13　白石浩之1992「旧石器時代後期から縄文時代草創期の集落」『かながわの考古学2』

註14　笠懸野　岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会1993『環状ブロック群—岩宿時代の集落の実像にせまる—資料集』

註15　栗島義明1991「AT降灰以前の石器文化の諸問題—人と社会—」『石器文化研究』3

註16　小菅将夫「環状ブロック群の分析と評価」(『考古学雑誌』第73巻第3号に掲載)

註17　白鳥　章1994「四街道市小屋ノ内遺跡—旧石器時代の環状ブロック—」千葉県遺跡調査研究発表会要旨

註18　田村　隆1986『中山新田Ⅰ遺跡—常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』千葉県文化財センター

註19　庄司太郎1977「炭化物分析」『中山谷遺跡』

註20　渡辺修一1994『四街道市御山遺跡Ⅰ』(財)千葉県文化財センター調査報告 第242集

註21　渡辺修一1991『四街道市内黒田遺跡群』(財)千葉県文化財センター調査報告 第200集

註22　栗島義明1993第1回岩宿フォーラム/シンポジウム「環状ブロックの構成」『環状ブロック群』

写真図版

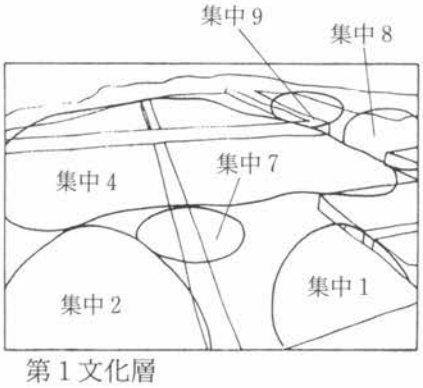
出口・鐘塚遺跡周辺航空写真

図版 2

調査前風景
（東より）

調査前風景
（西より）

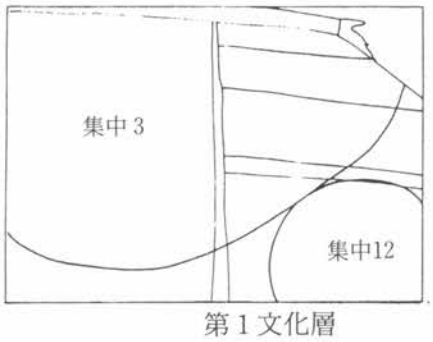
調査前風景
（南東より）



第1文化層
集中1．2．4．7．8．9（北より）

1

2

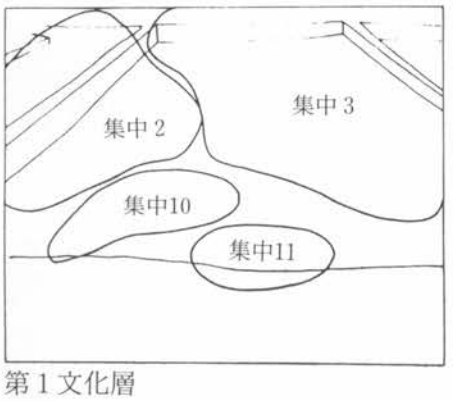


第1文化層
集中4（南西より）

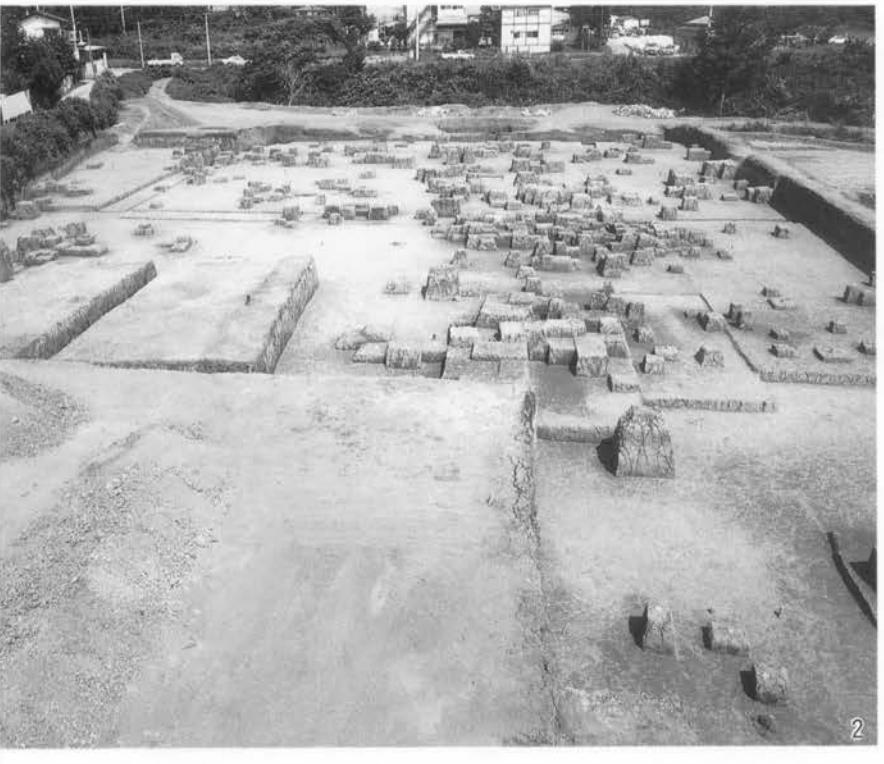
3

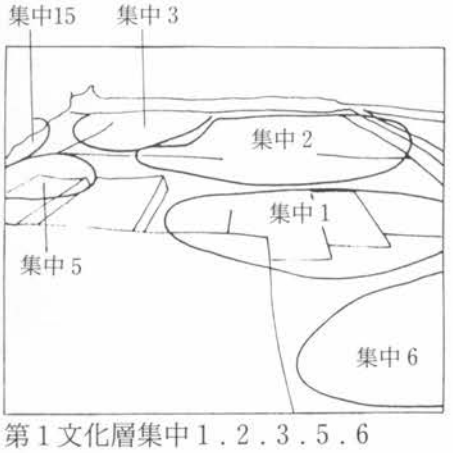
第1文化層
集中3．12

図版4



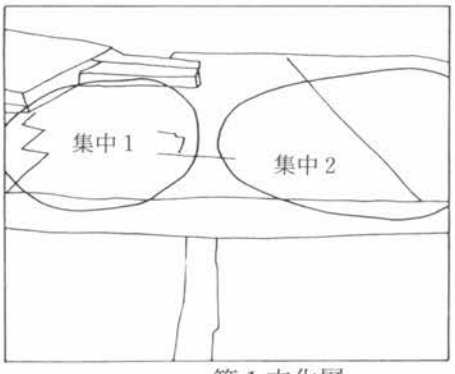
第1文化層
集中2．3．10.11（南より）



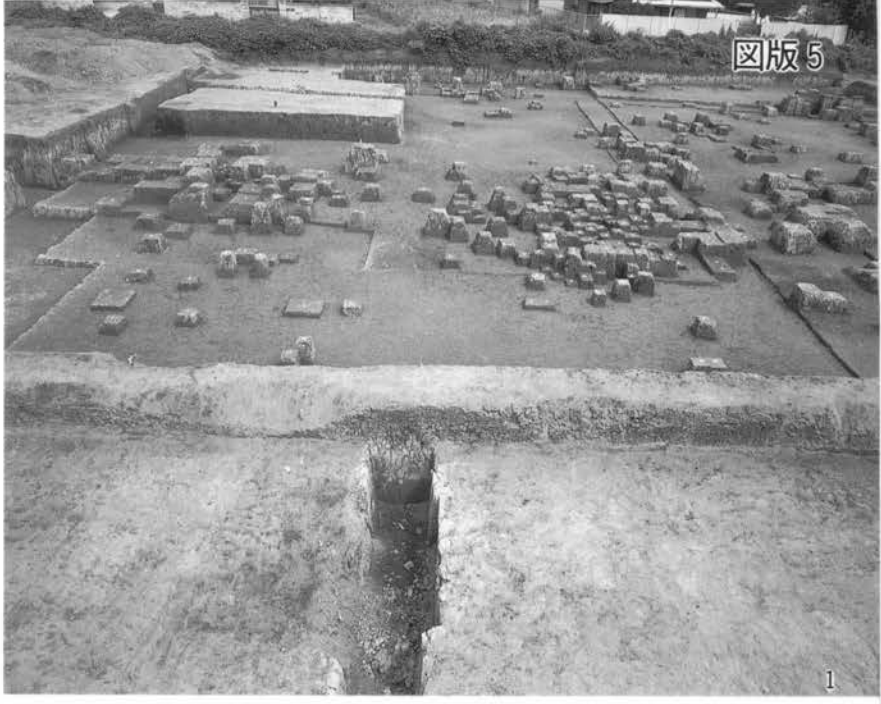


第1文化層集中1．2．3．5．6
第2文化層集中15（南より）

第2文化層
集中15（南より）



第1文化層
集中1．2（南より）

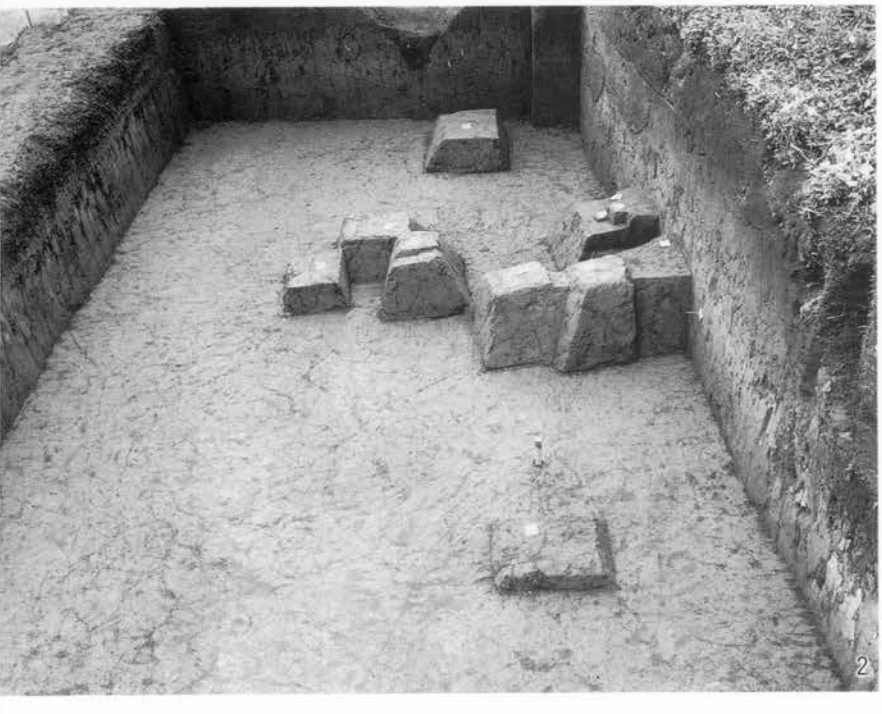


第1文化層
集中4（南より）

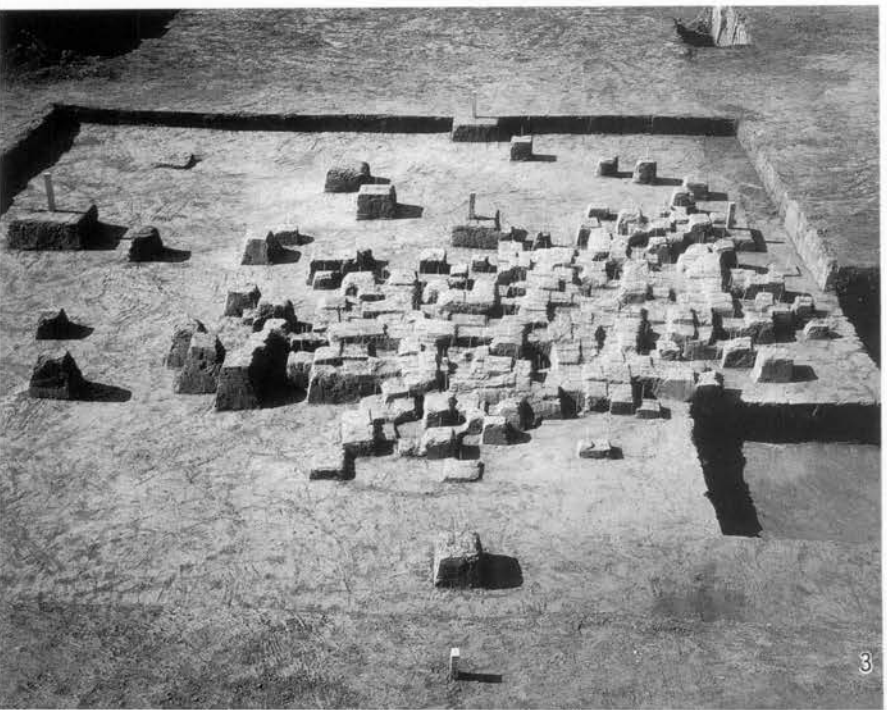
第1文化層
集中6

図版 6

第 1 文化層
集中13（南より）



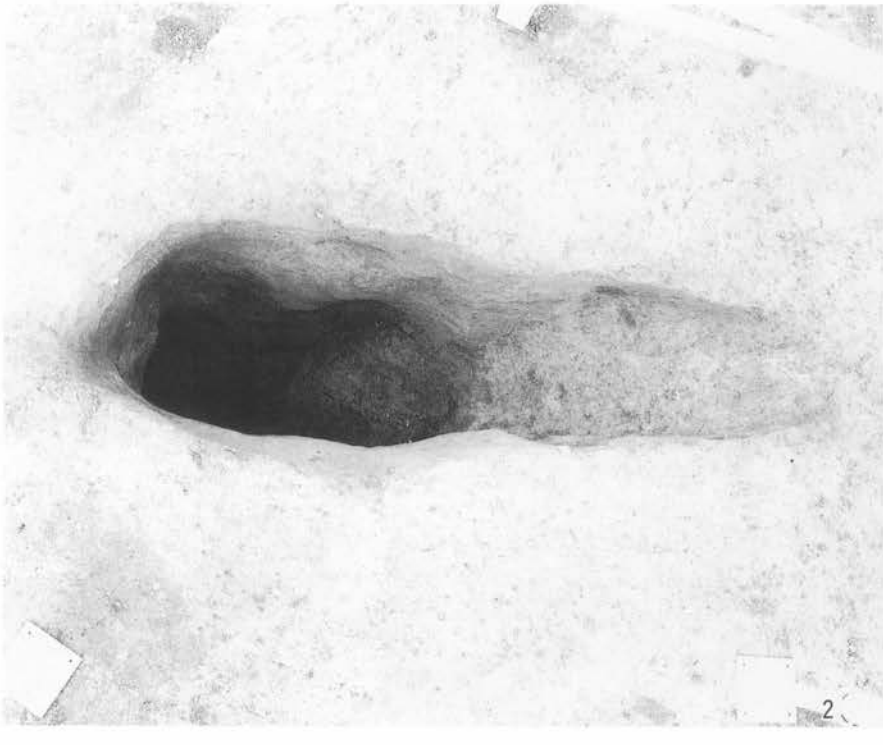
第 2 文化層
集中15（東より）



第 3 文化層
集中18（南より）

SK－014
遺物出土状況

1



SK－014
全景

2

SK－014
出土土器

3

図版 8

ＳＸ―001　南北セクション（南側）

ＳＸ―001　南北セクション（北側）

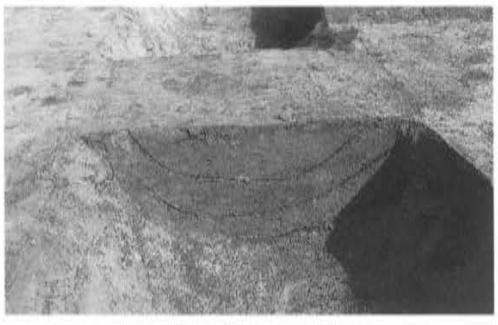
ＳＸ―001　東西セクション（西側）

ＳＸ―001　東西セクション（東側）

ＳＸ―001　全景

SX－002　全景

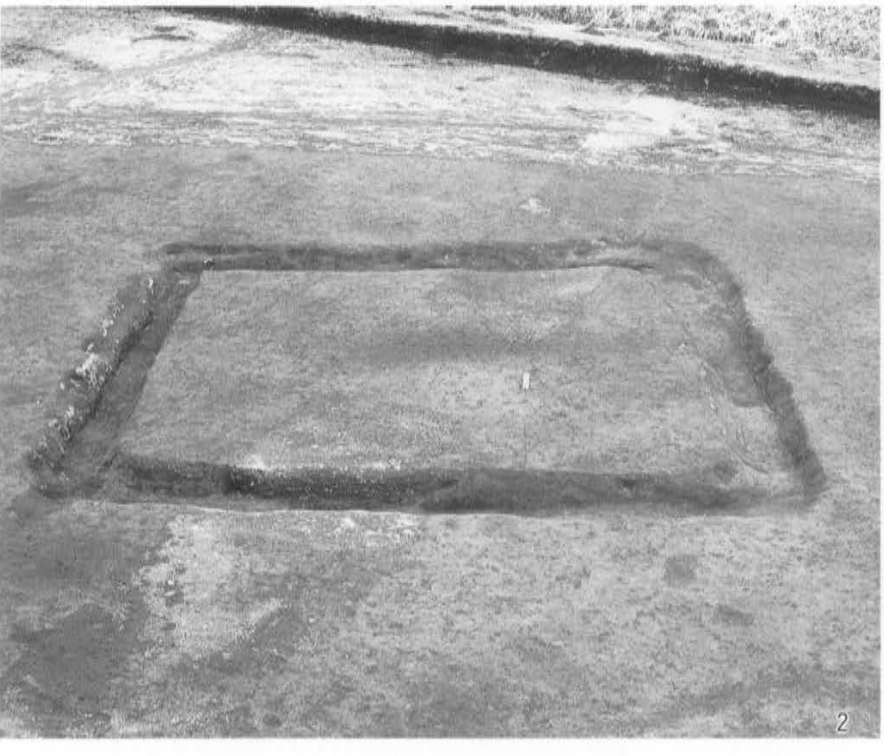
SX－003　全景



SX－004　全景・断面

図版10

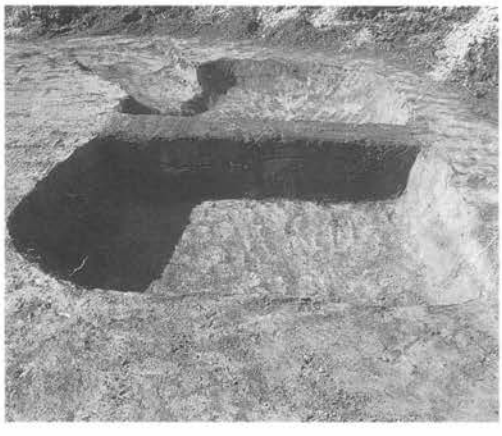
SX－005　全景・断面



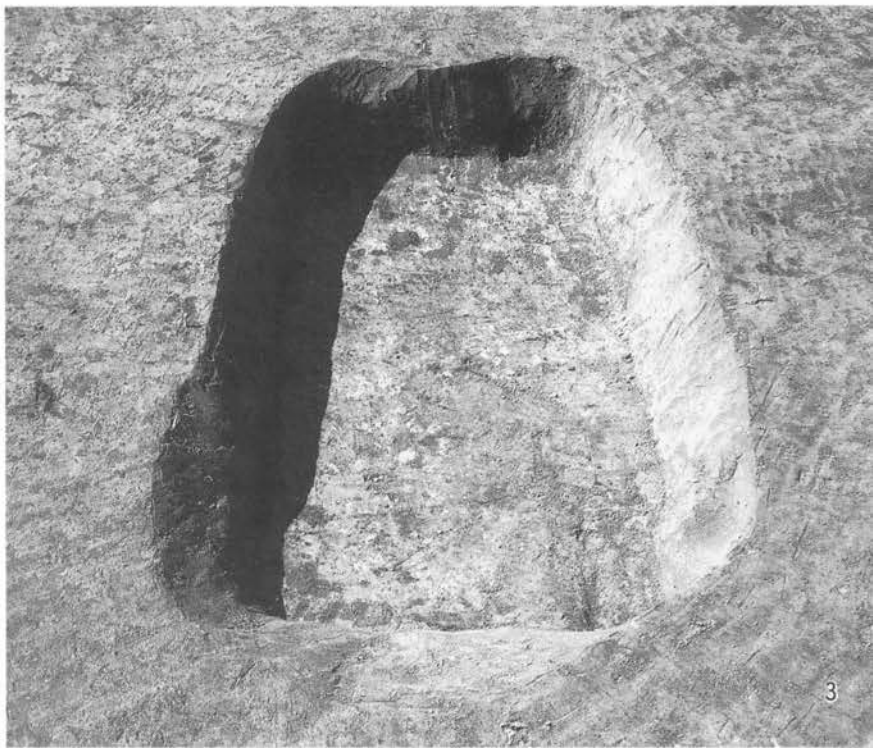
SX－006　全景・断面

SX－007　全景・断面

ＳＫ－001　全景・断面



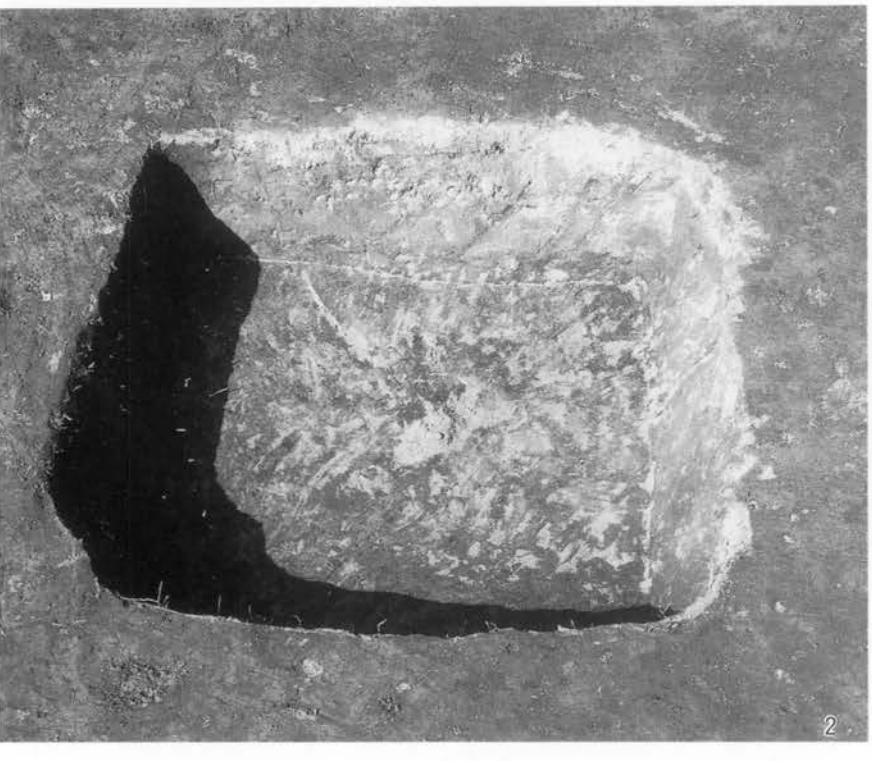
ＳＫ－002　全景・断面



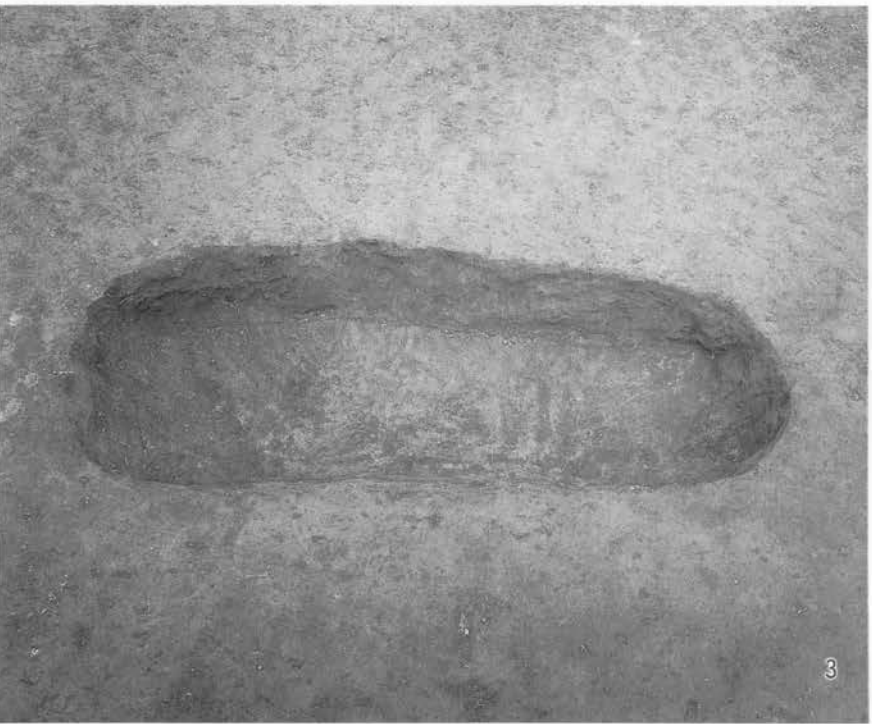
ＳＫ－005　全景・断面

図版12

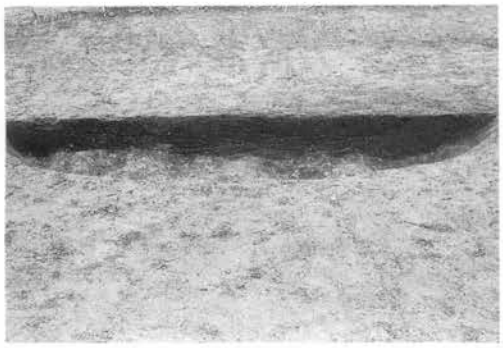
ＳＫ－006　全景・断面



ＳＫ－007　全景・断面



ＳＫ－011　全景
遺物出土状況



SK－013　全景・断面

SD－002　全景・断面

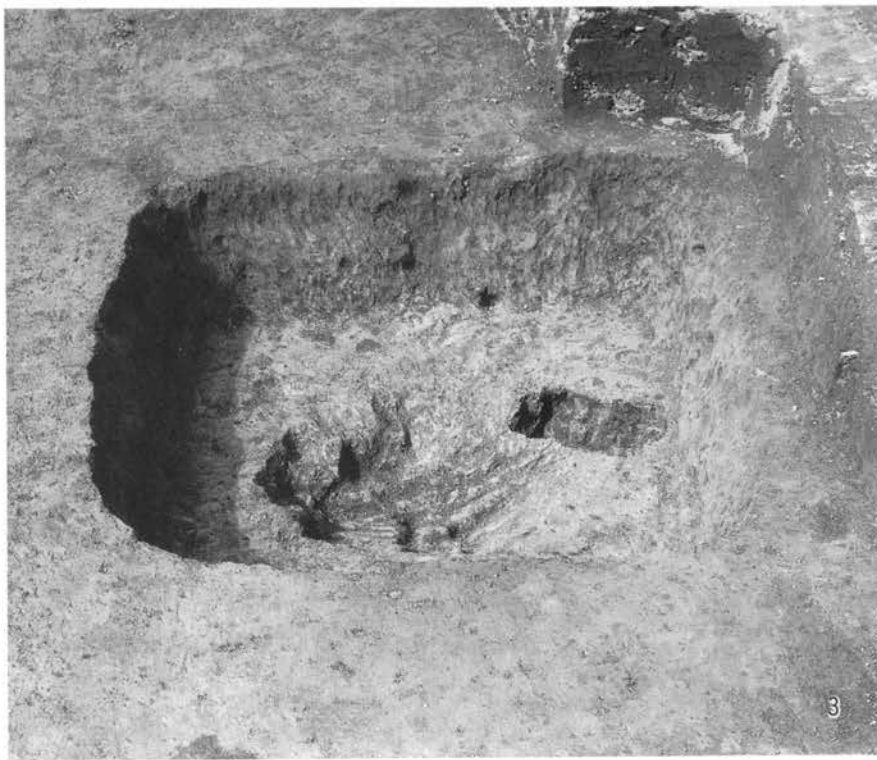
ＳＤ－003　全景・断面

ＳＤ－004・005
006全景東より

同上　北より

ＳＤ－004・005
006断面西より

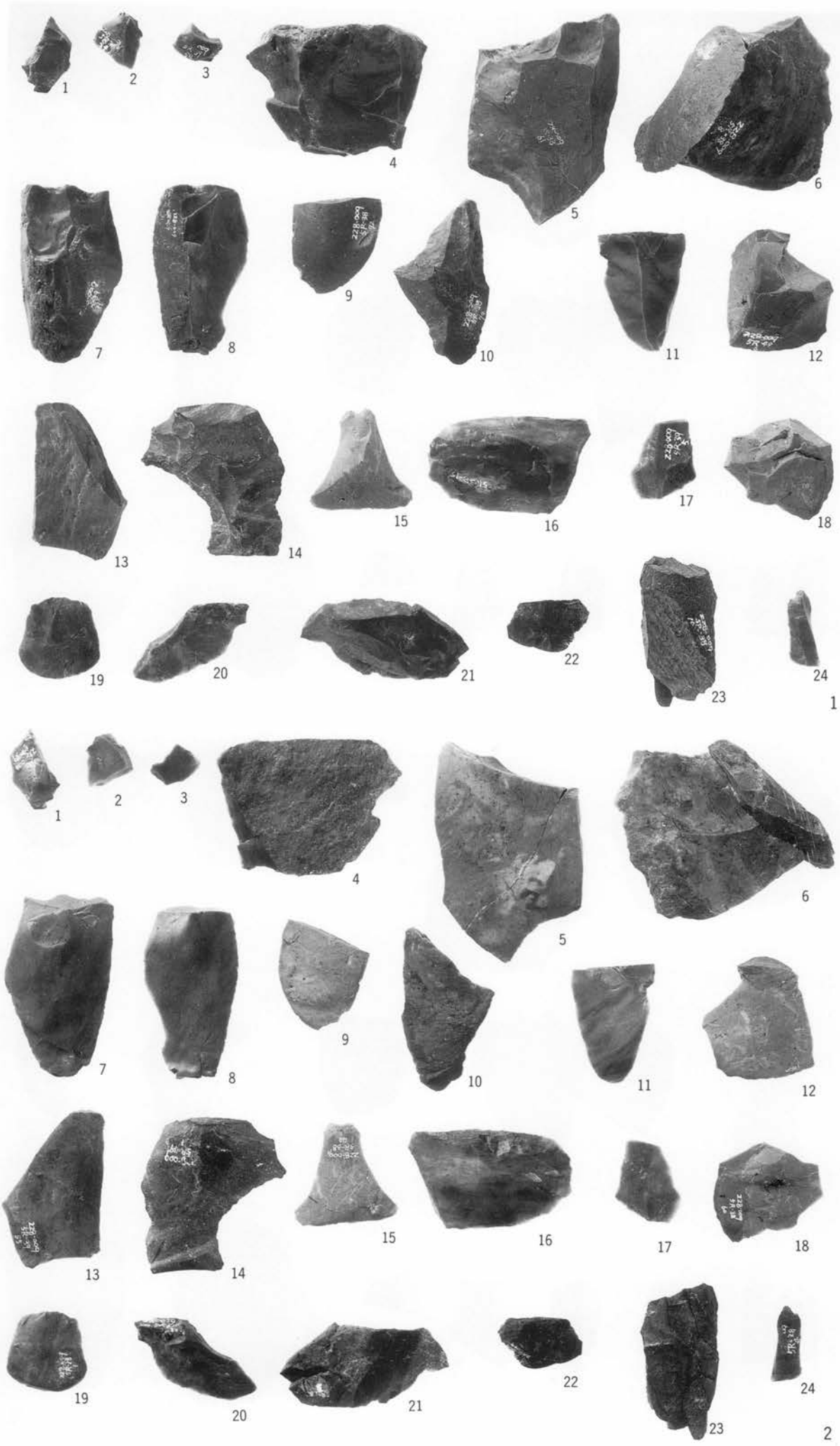
ＳＫ－004　全景・断面



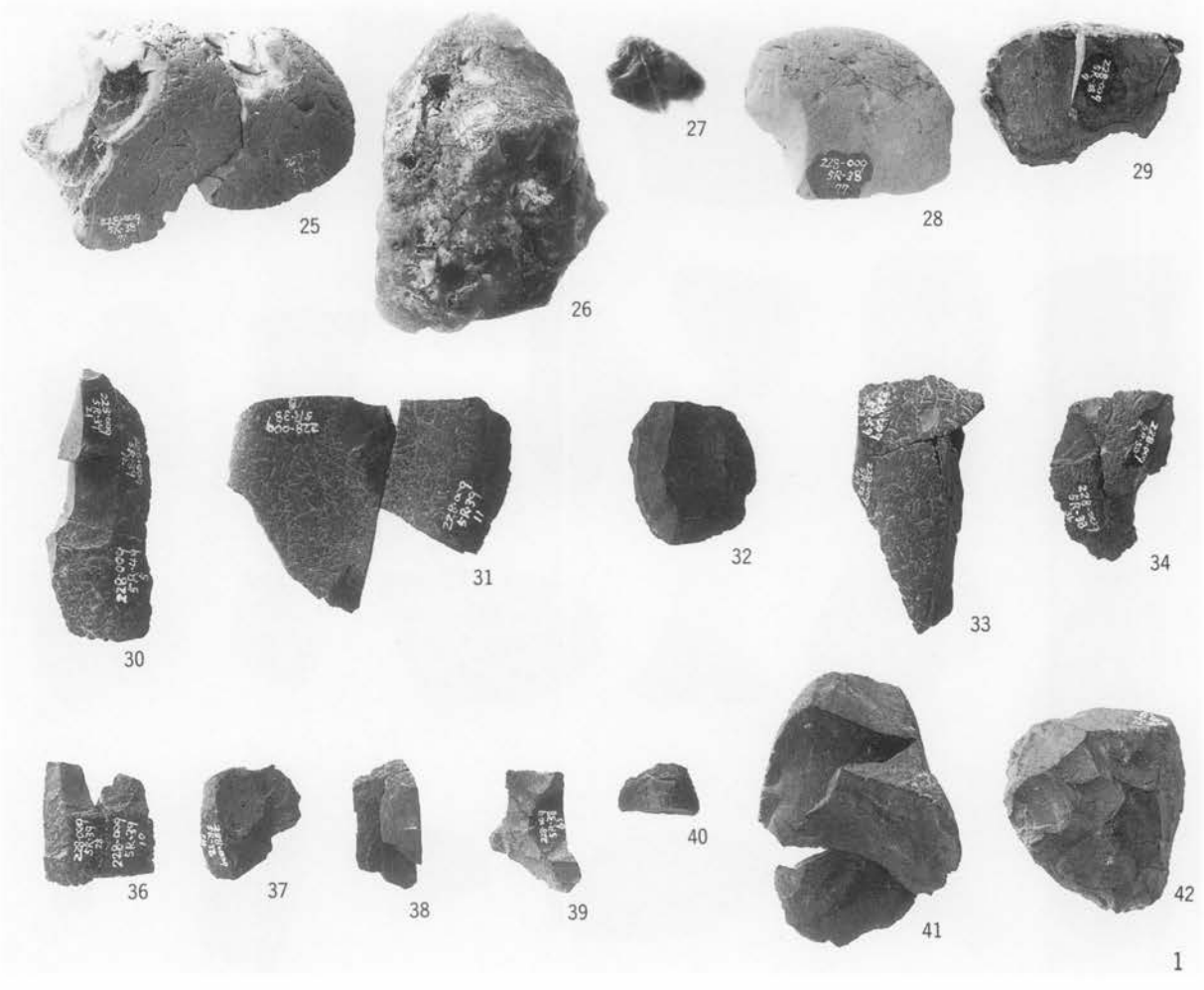
ＳＫ－012　全景・断面

図版16

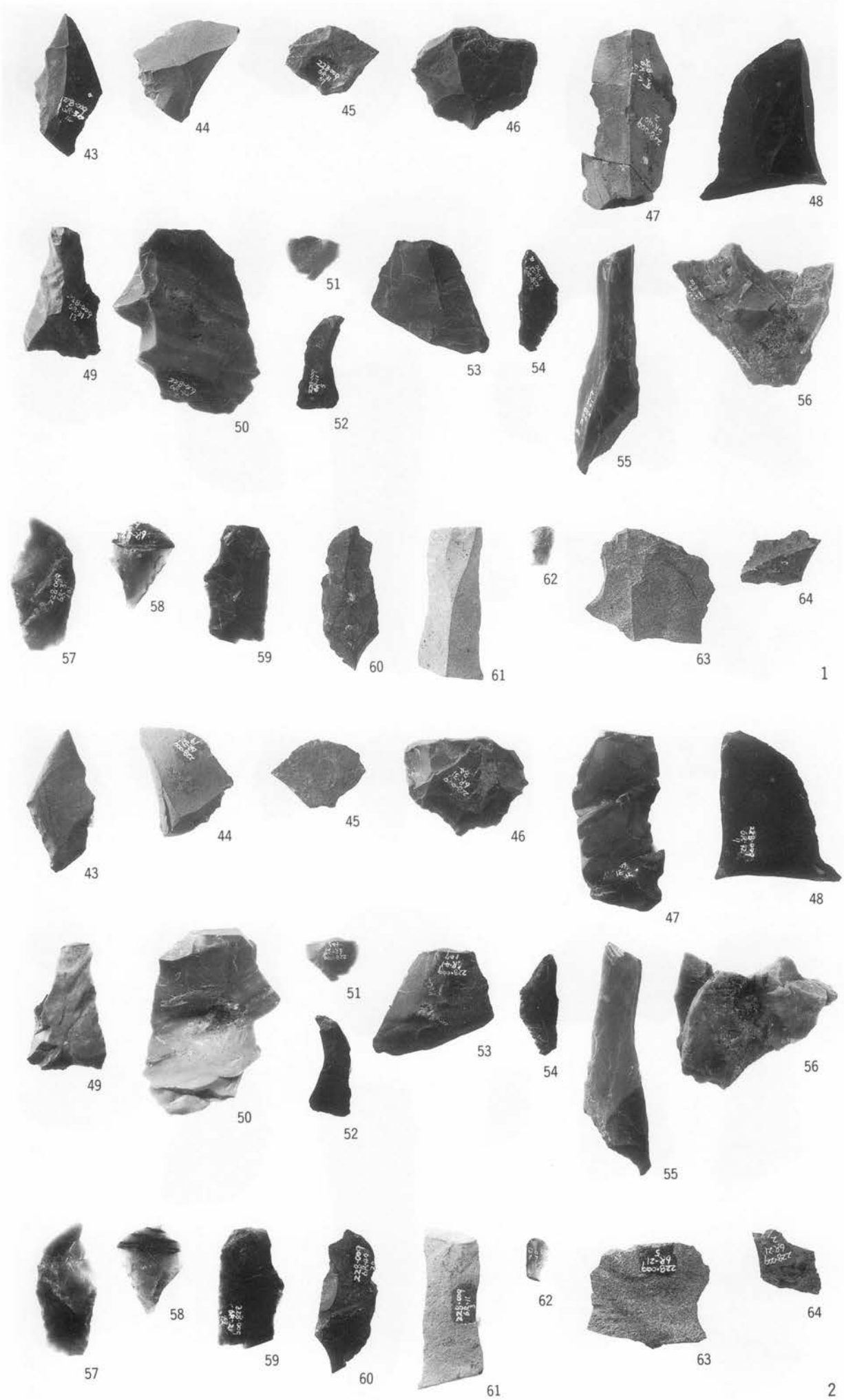
グリッド
遺物出土状況



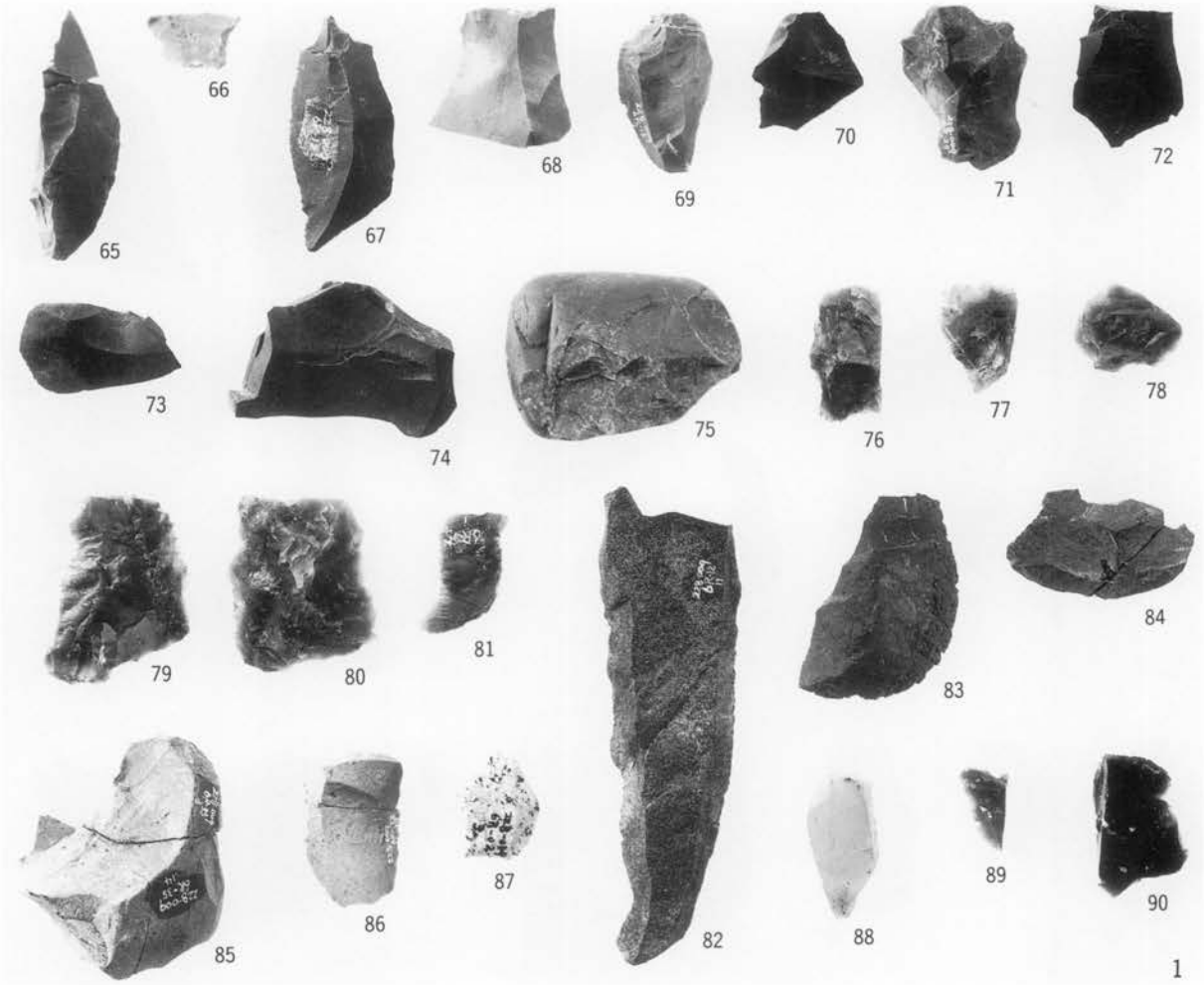
第１文化層 集中１出土石器（１）

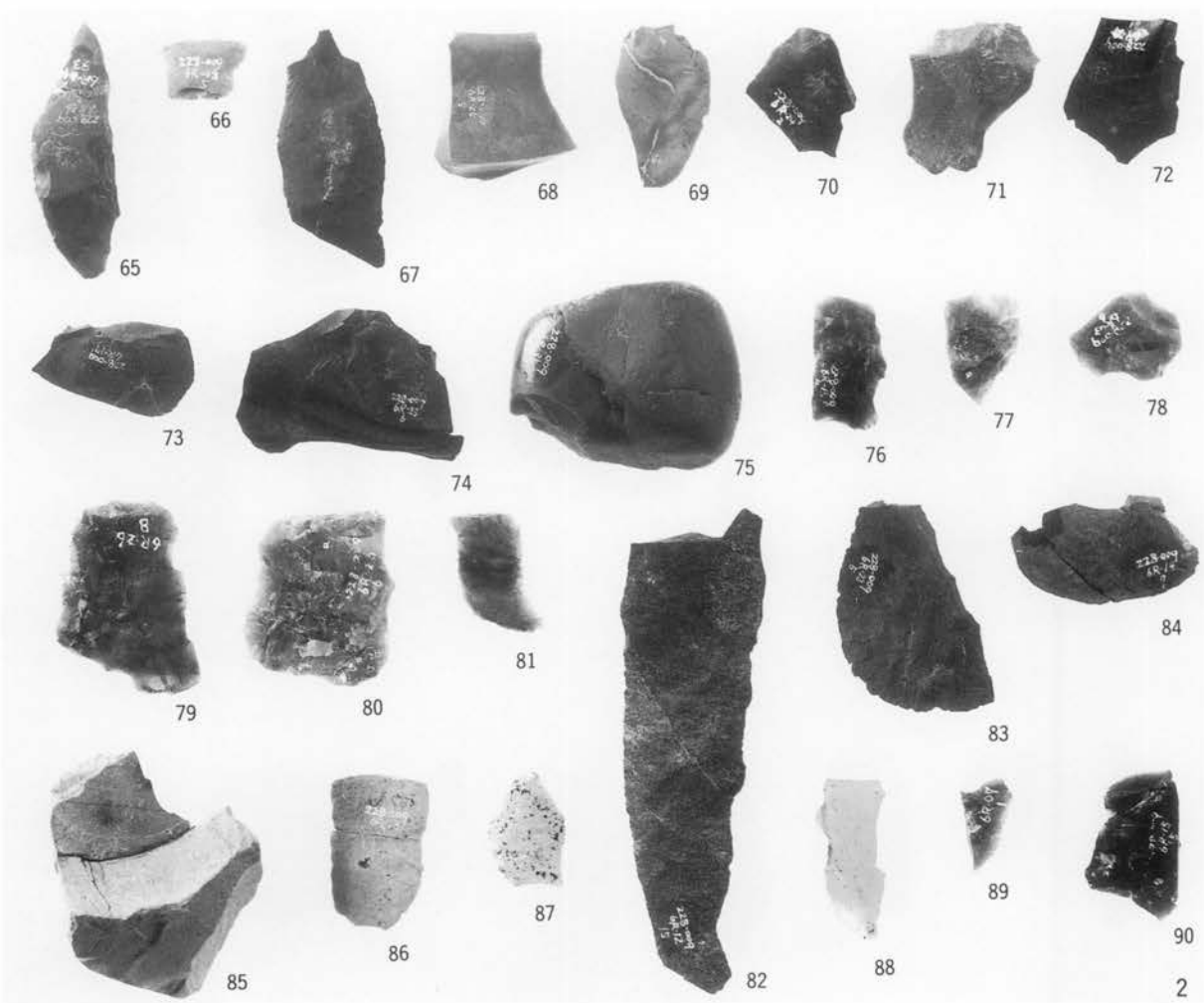


第１文化層 集中１出土石器（２）

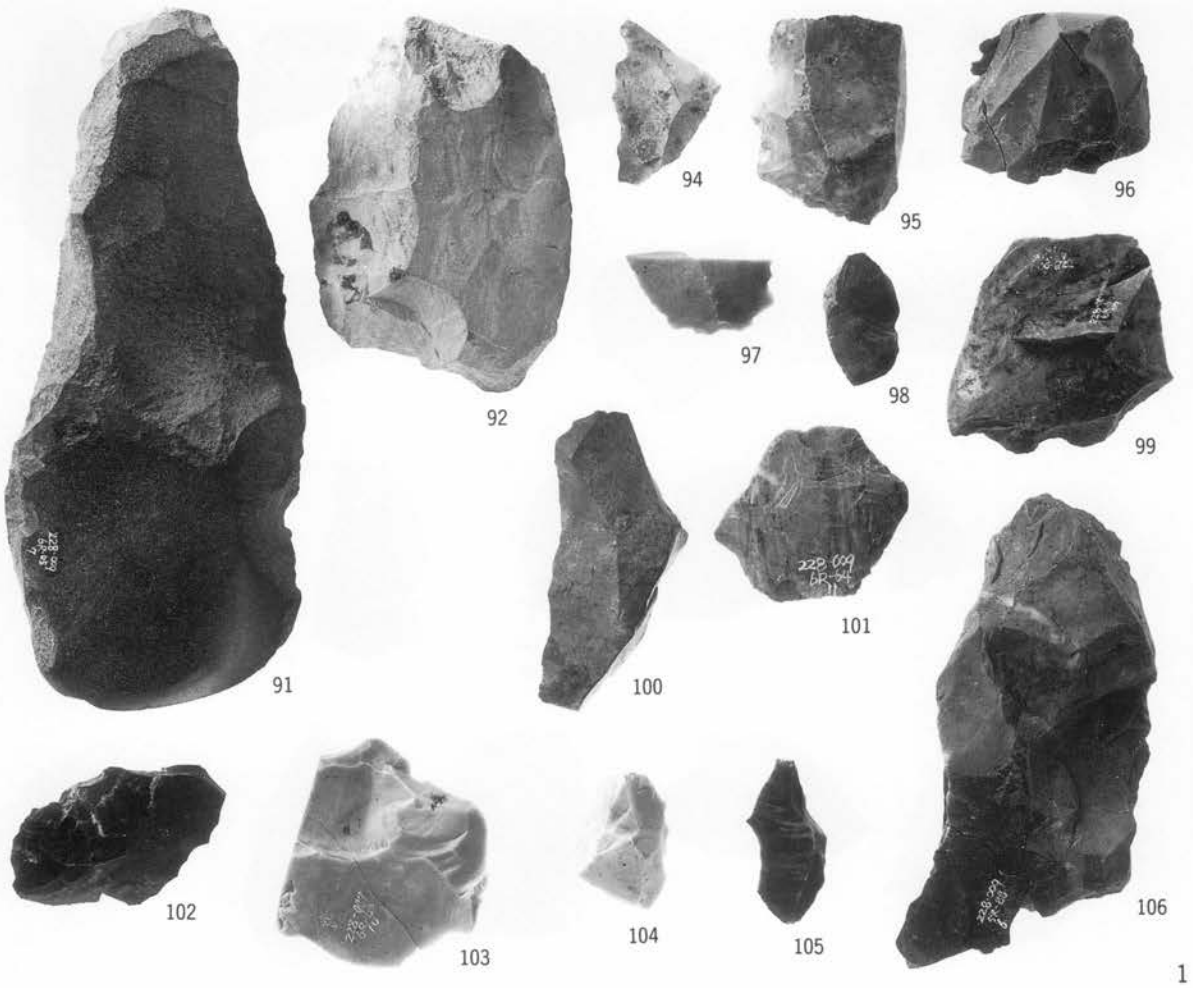


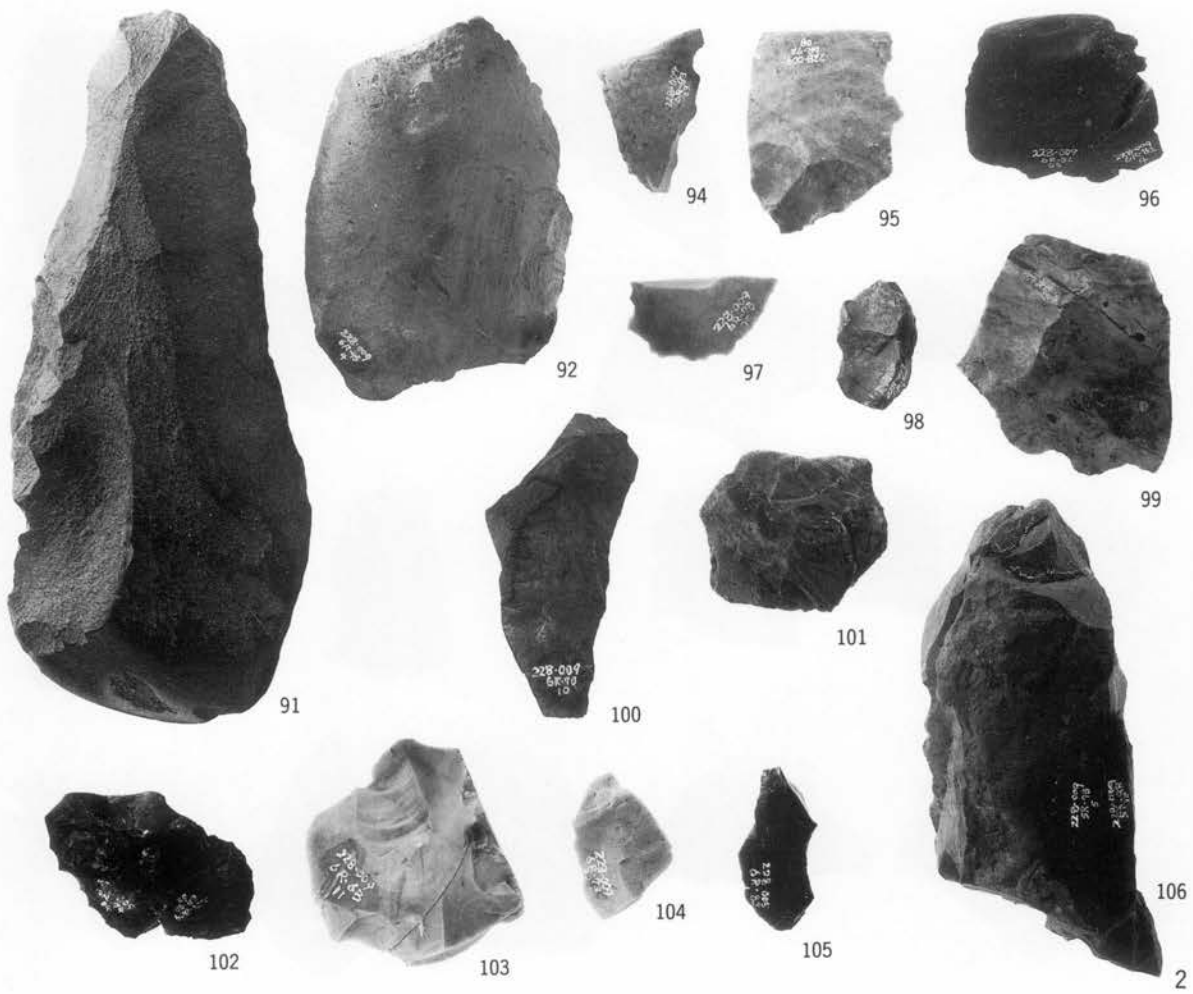
第1文化層 集中2出土石器



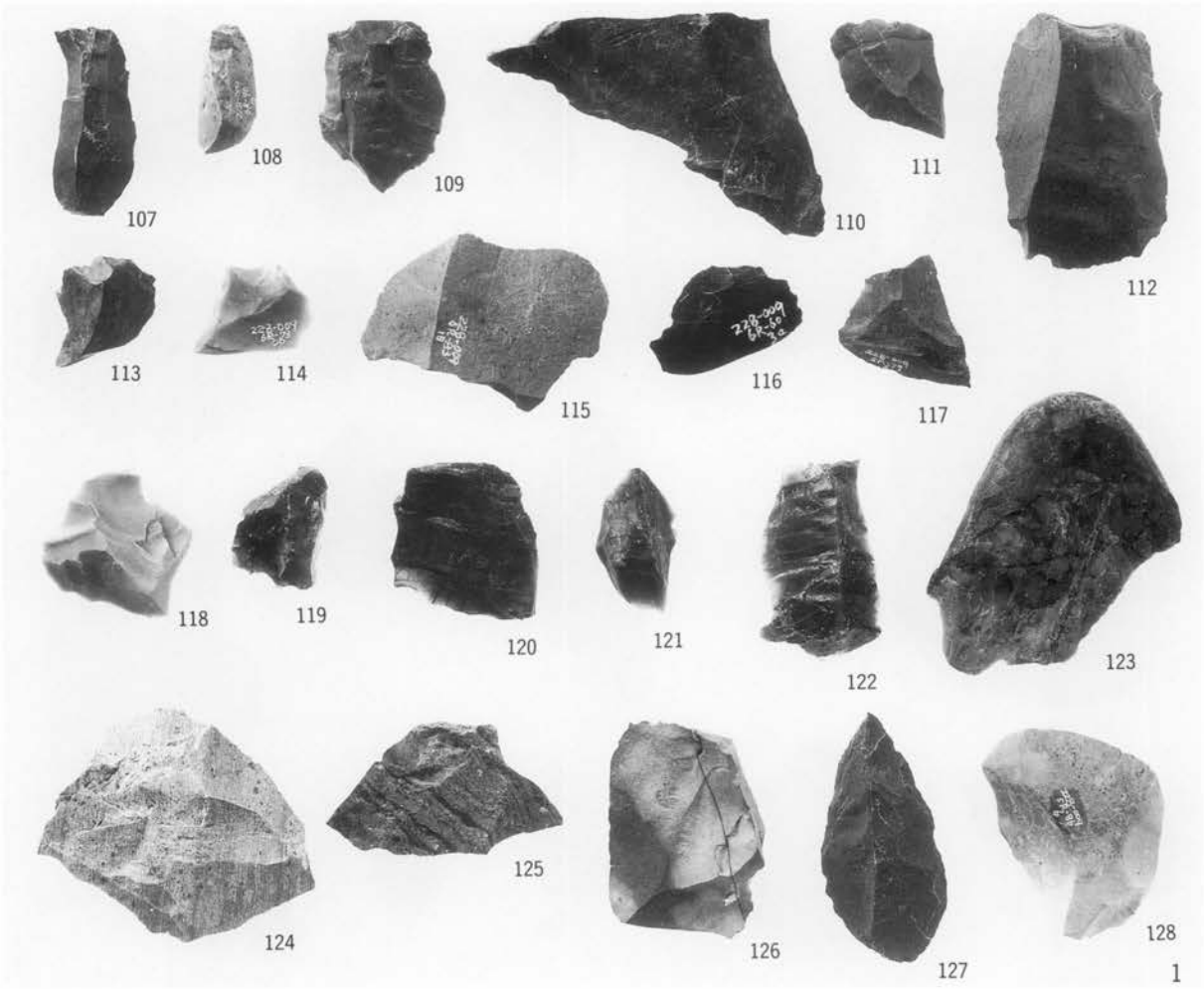


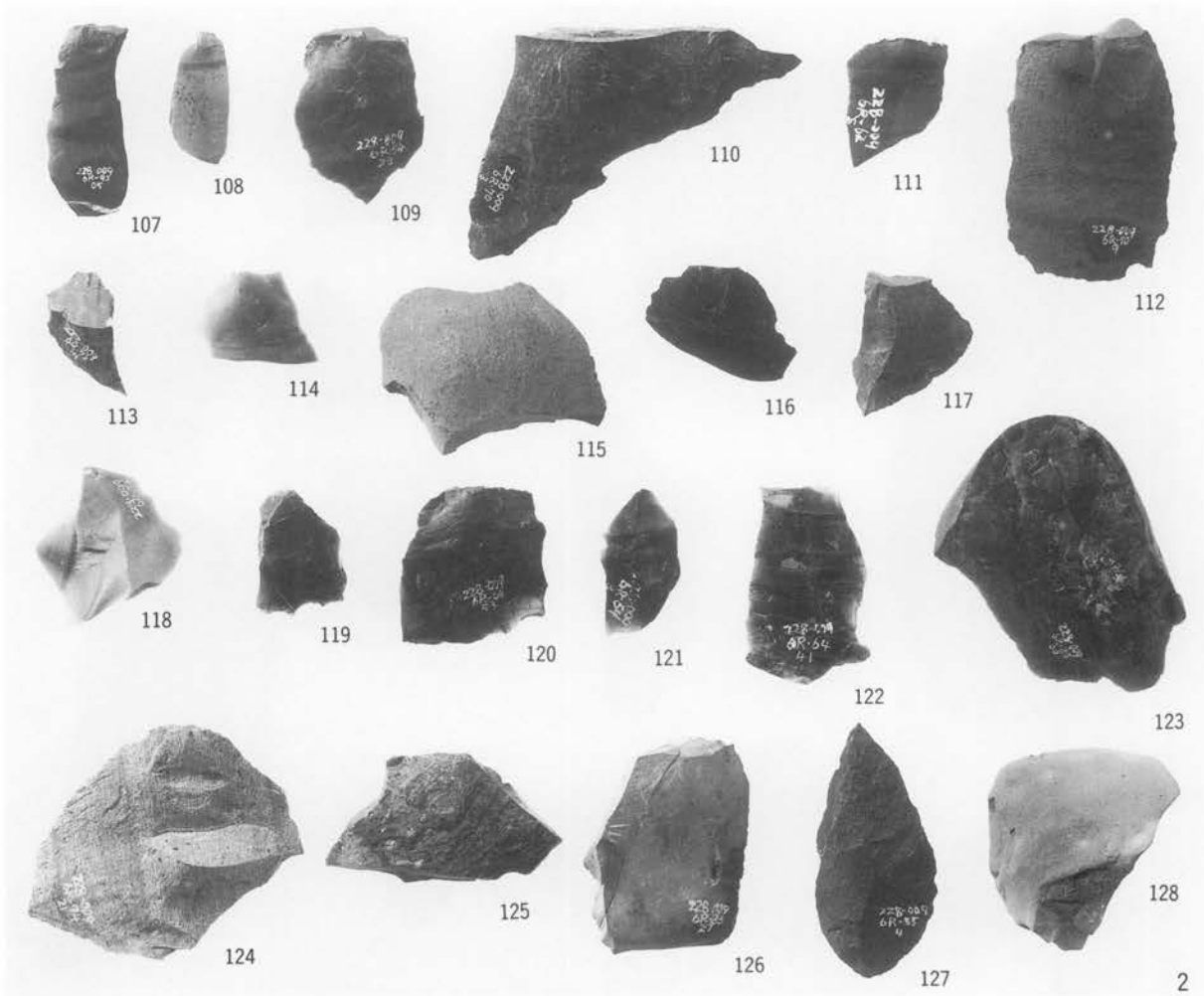
第1文化層 集中3出土石器（1）



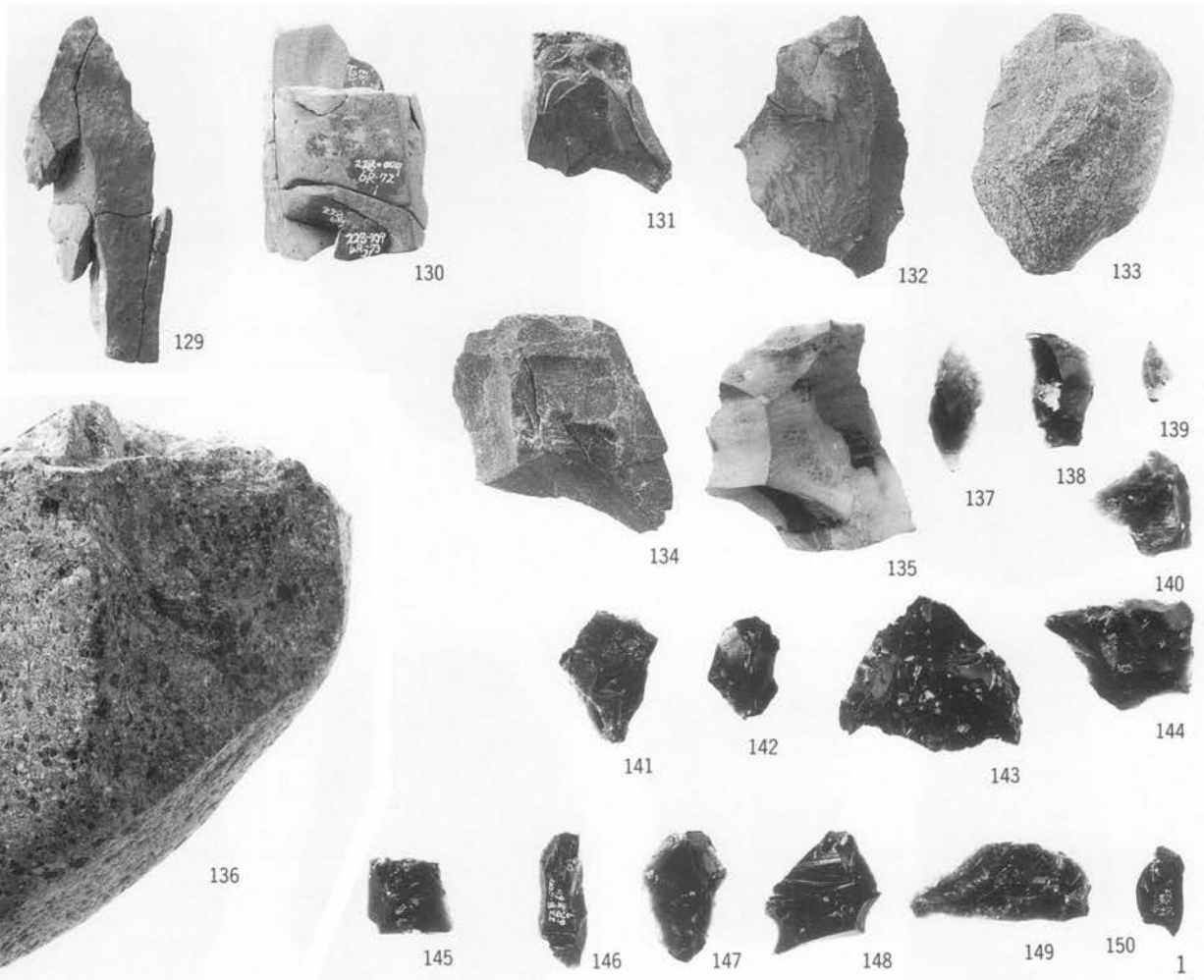


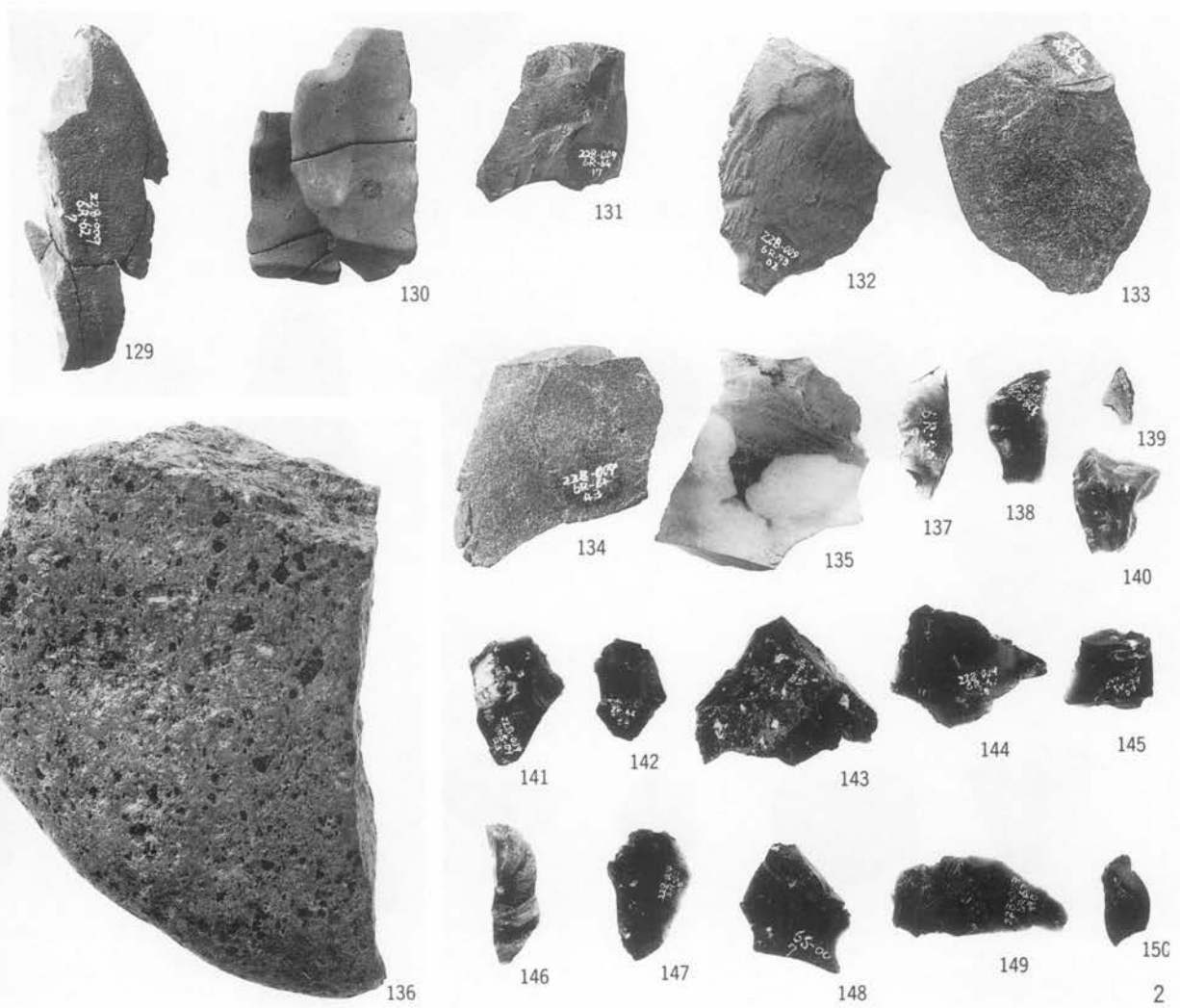
第1文化層 集中3（2）・集中4（1）出土石器





第1文化層 集中4出土石器（2）





第1文化層 集中4出土石器（3）

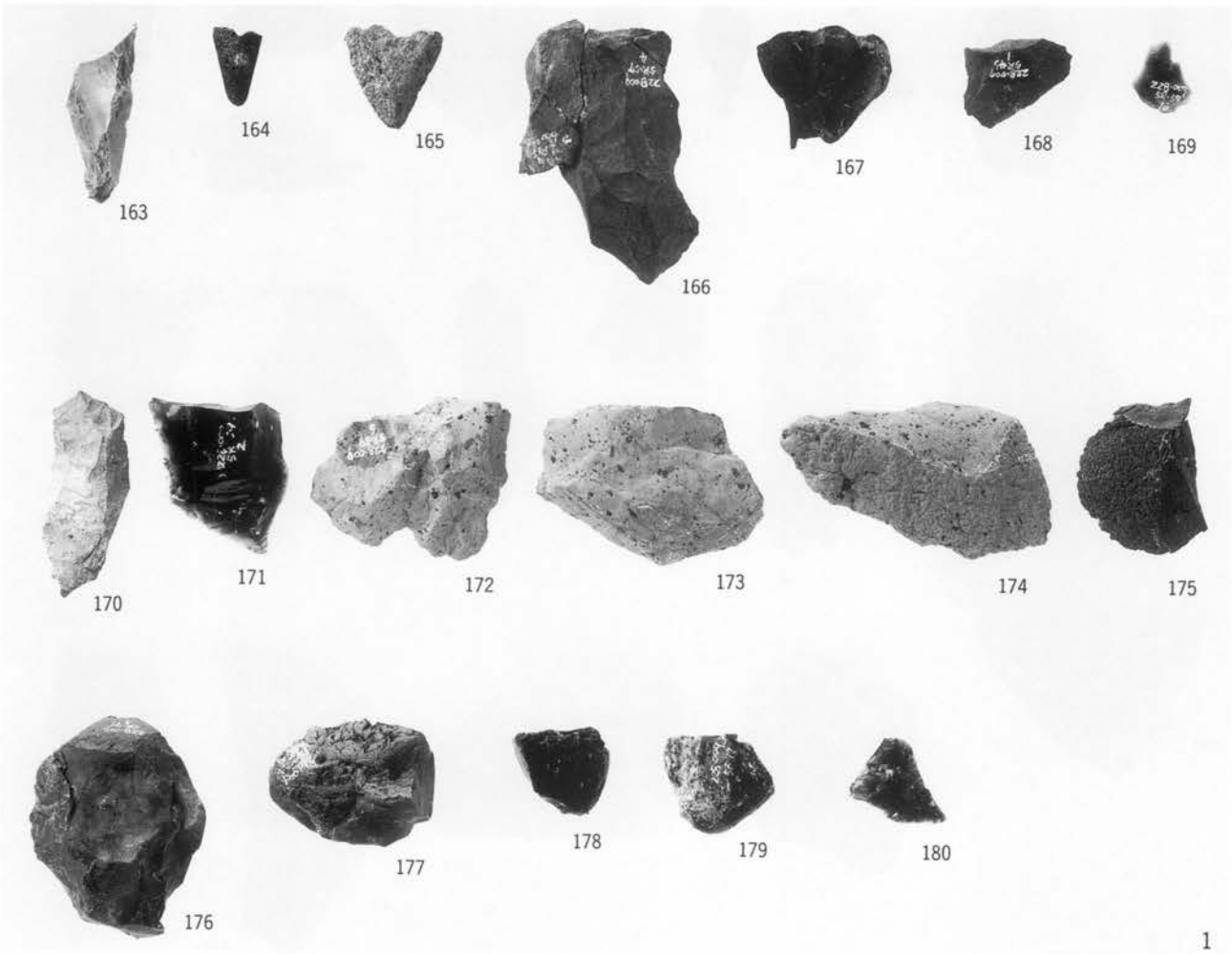
図版24

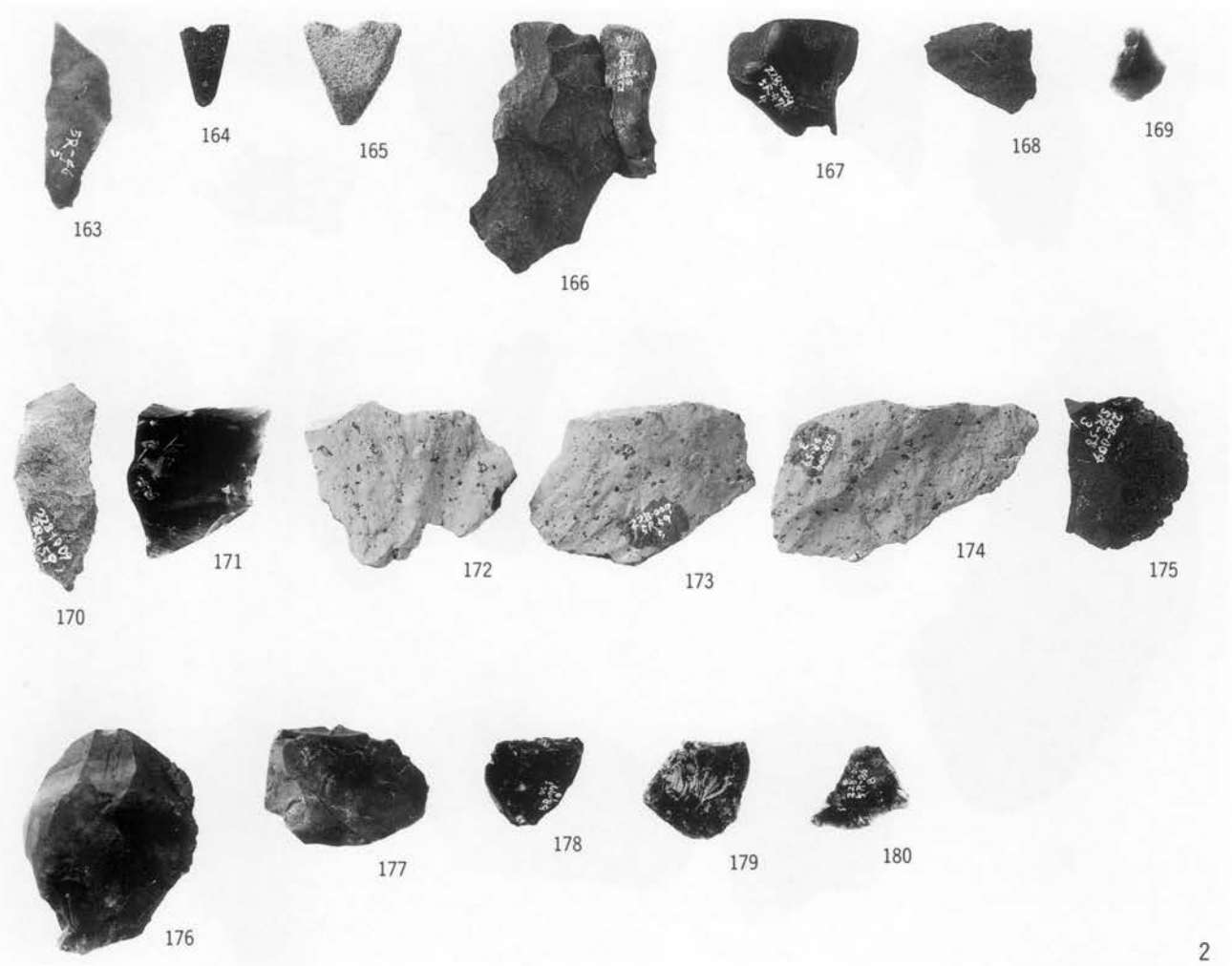
151
152
153
154
1

151
152
153
154
第1文化層 集中4 （4）
2

155
156
157
158
159
160
161
162
3

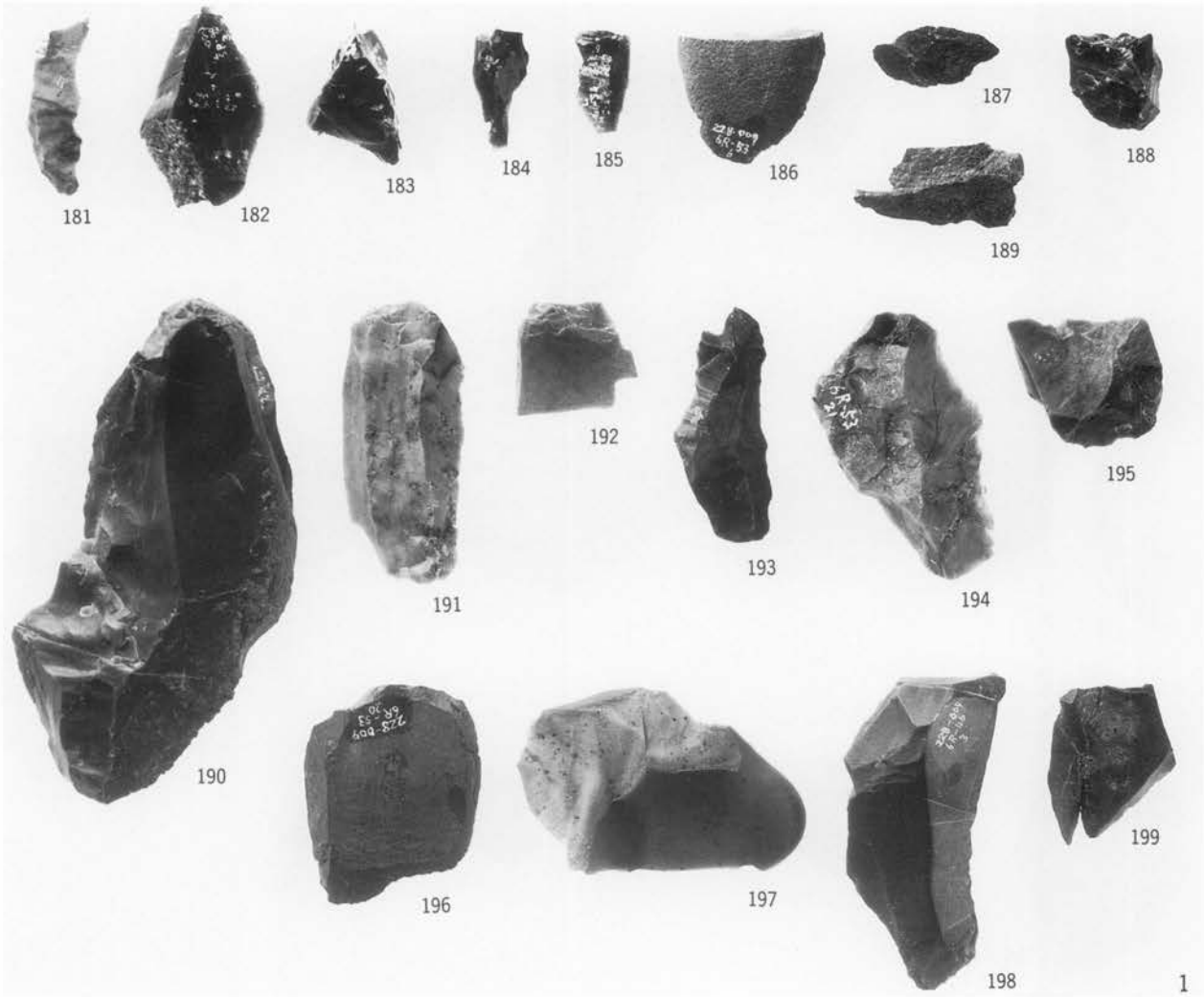
155
156
157
158
159
160
161
162
第1文化層 集中5出土石器
4

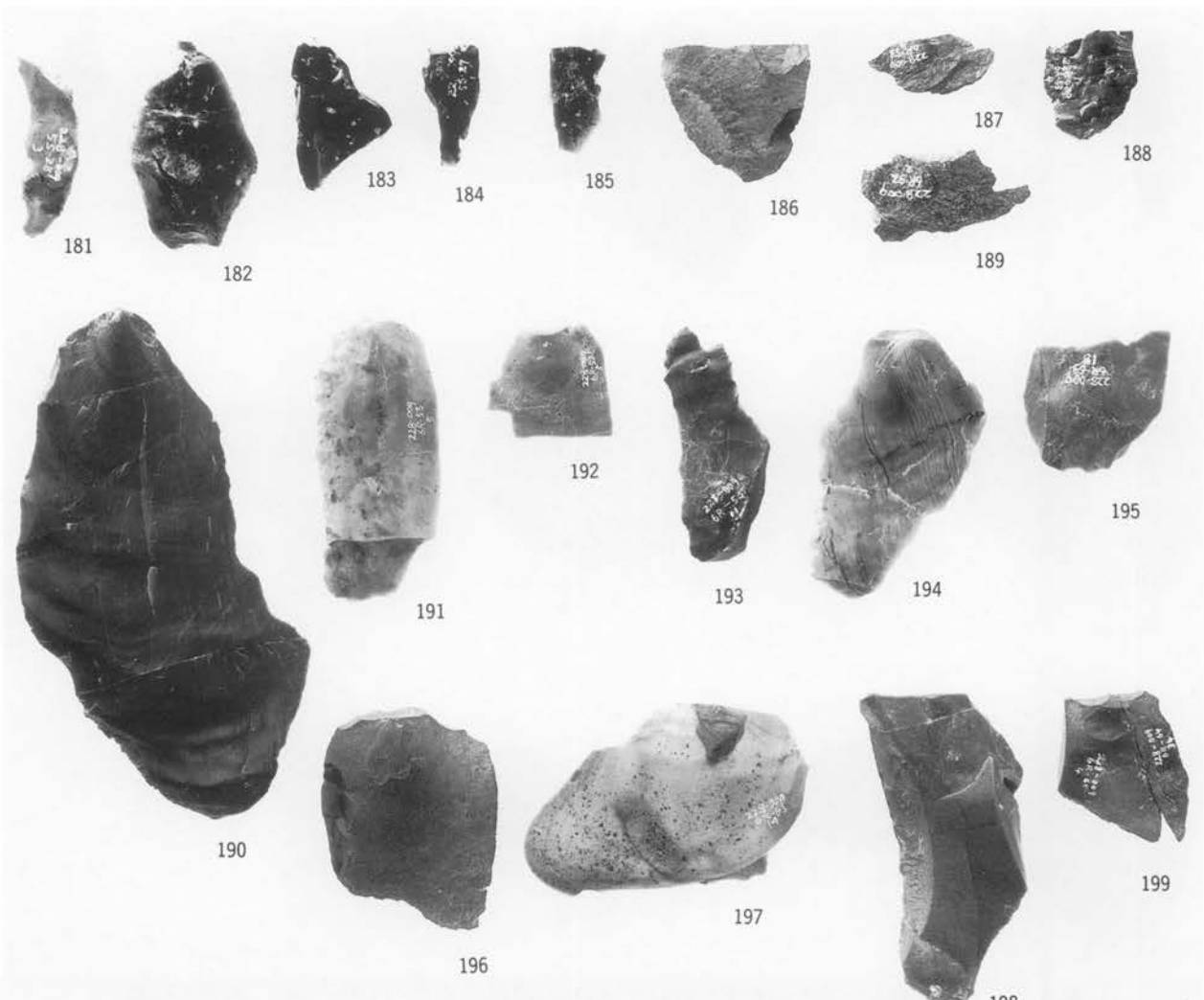




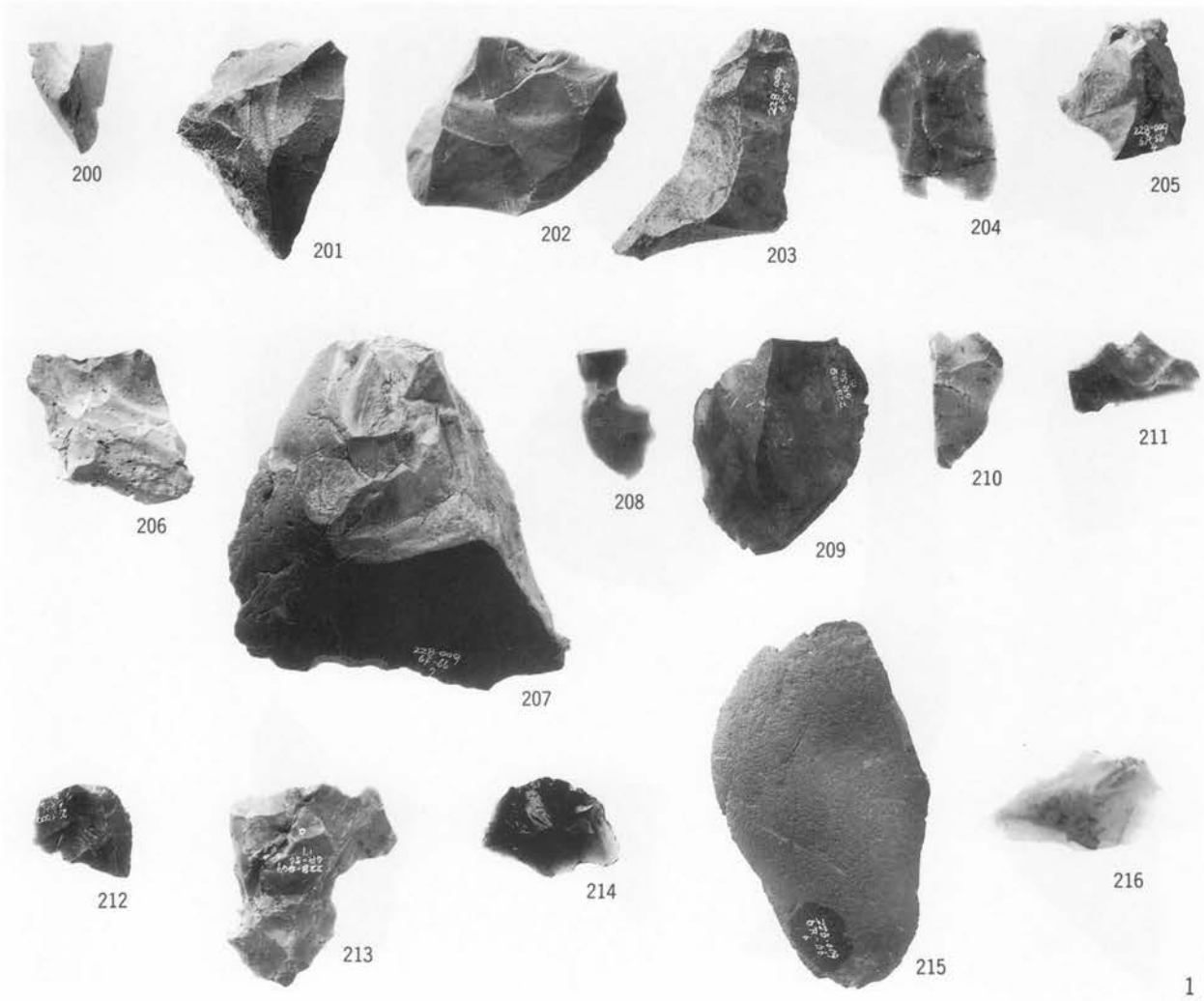
第1文化層 集中6 (163～169)・集中7 (170～175)・集中 (176～180) 8出土石器

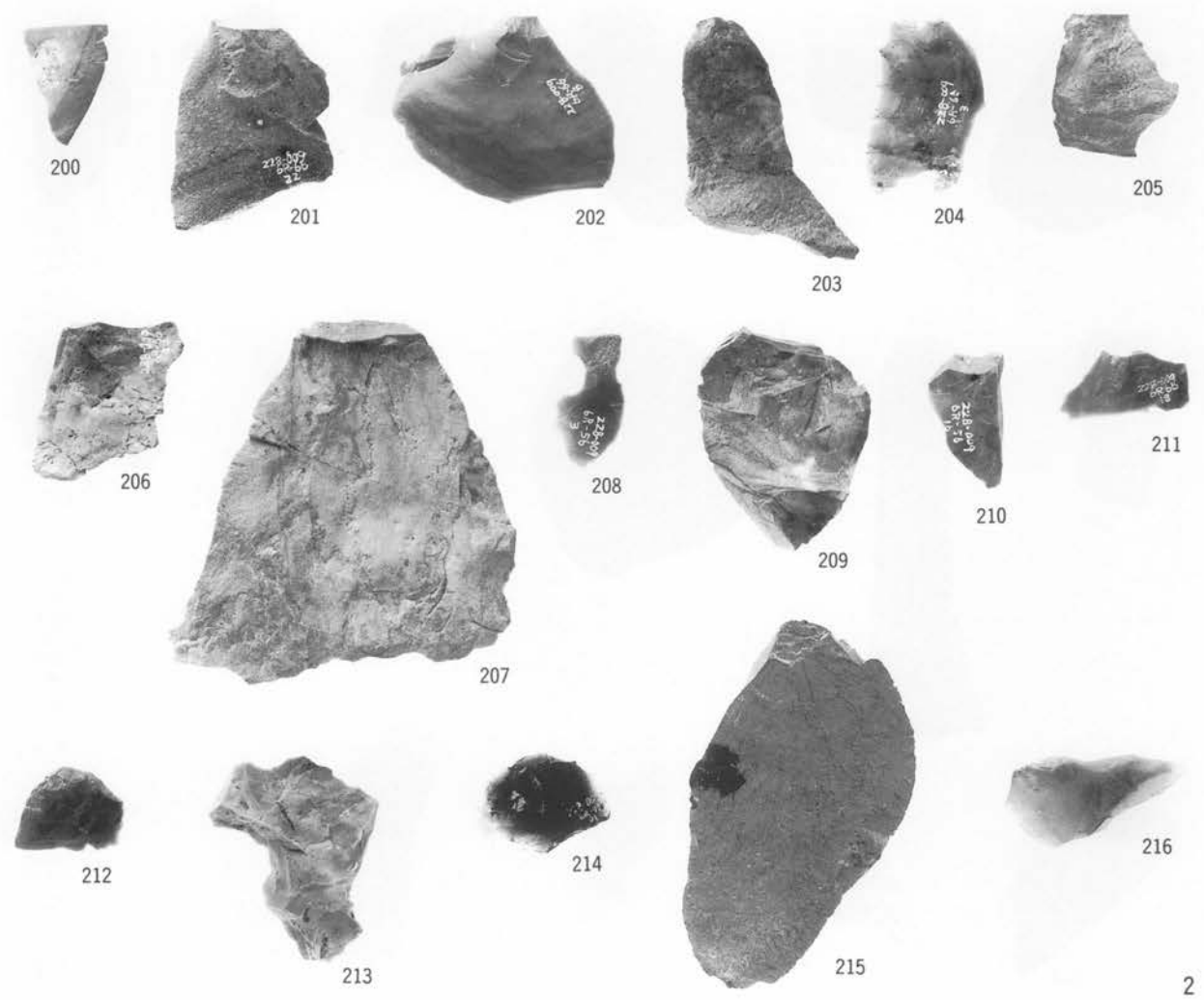
図版26





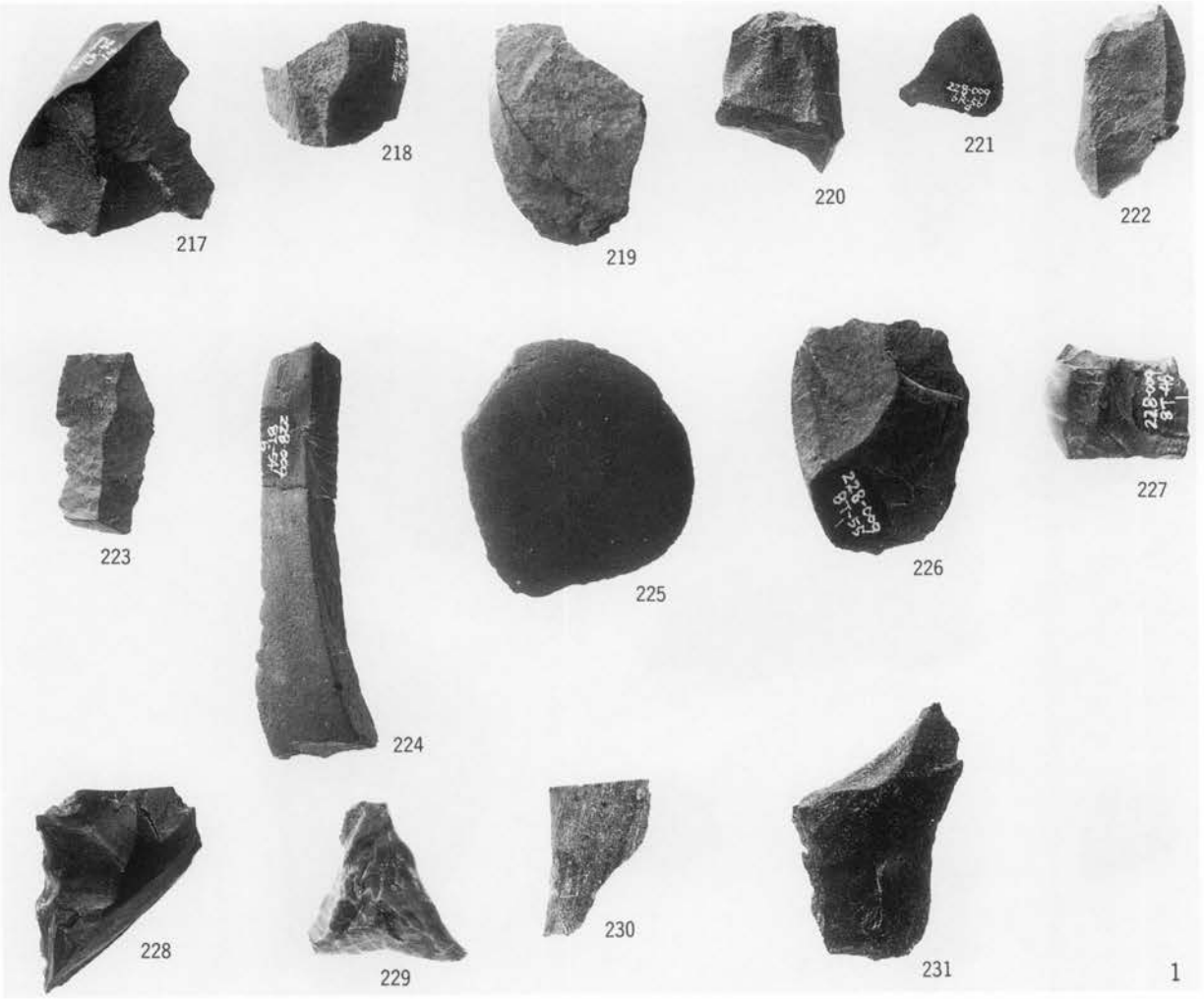
第1文化層 集中9（181～185）・集中10（186～192）・集中11（193～197）・集中12（198・199）出土石器

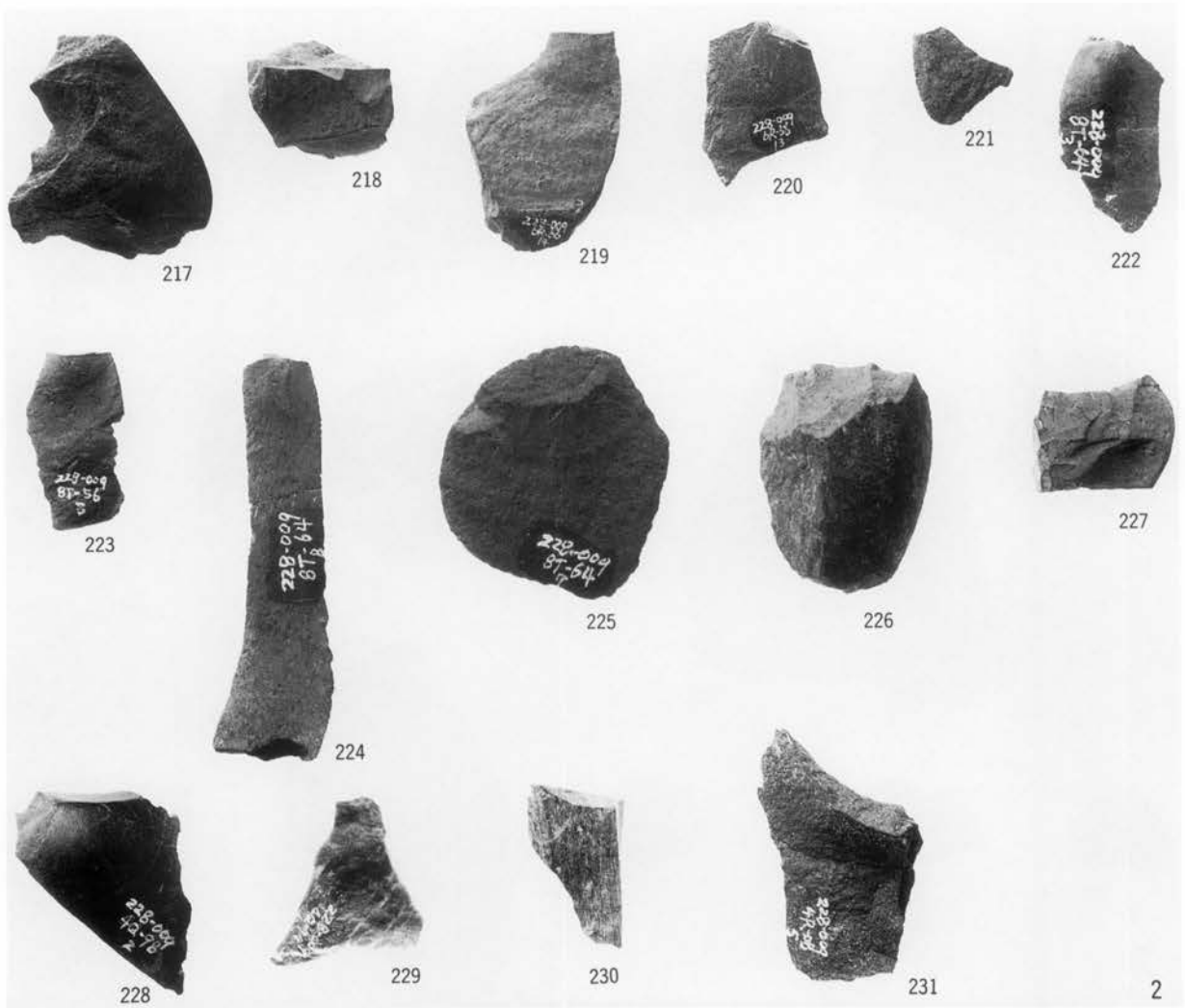




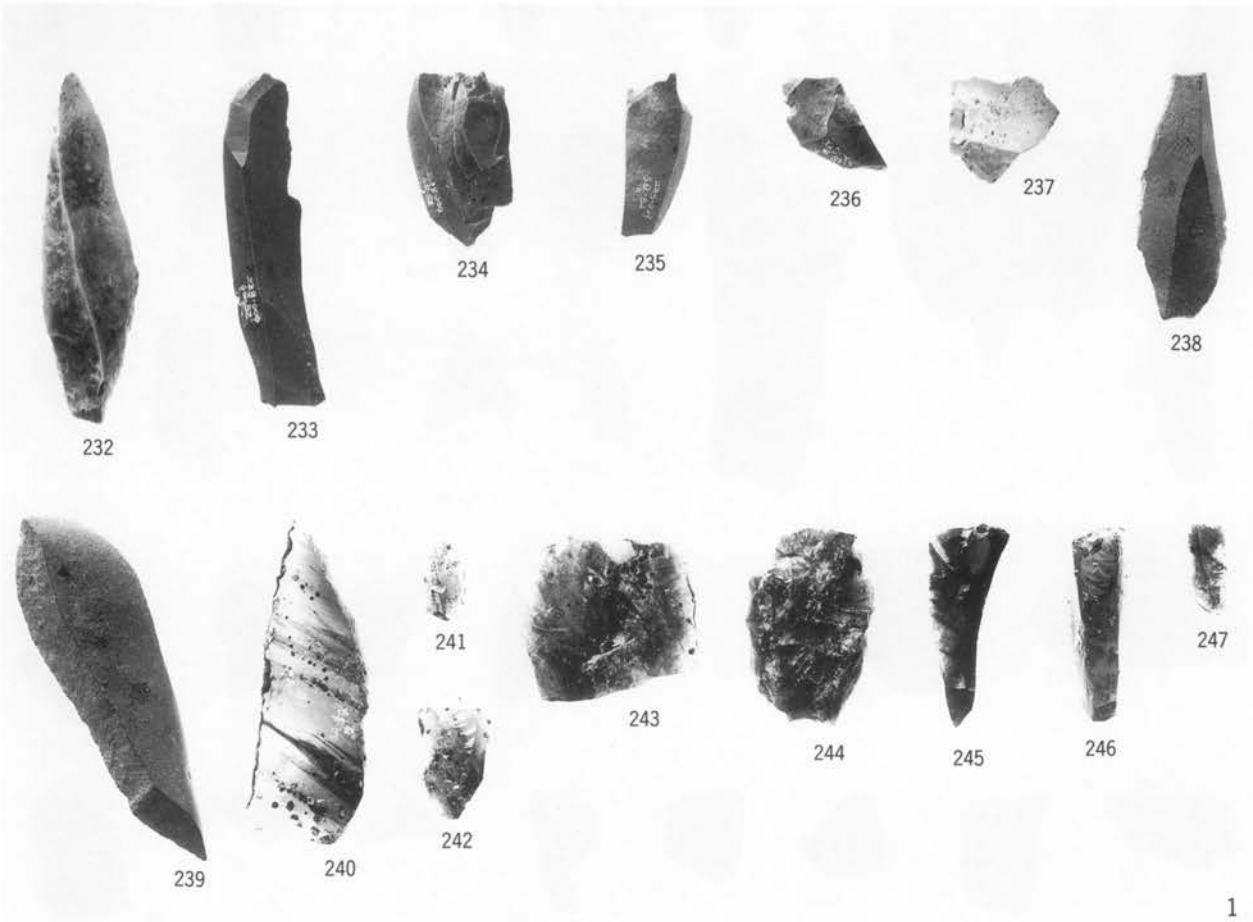
第１文化層 集中12出土石器（２）

図版28

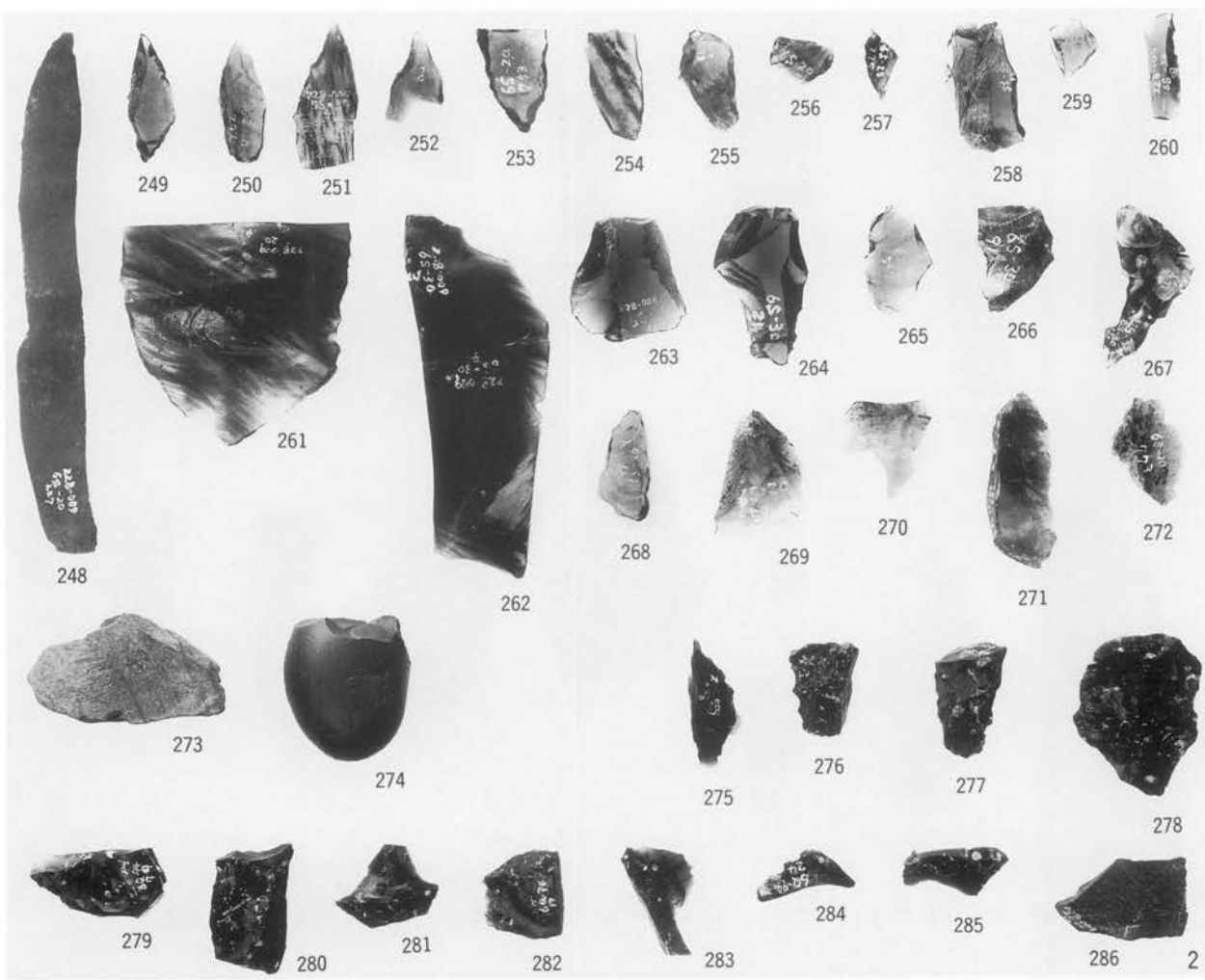




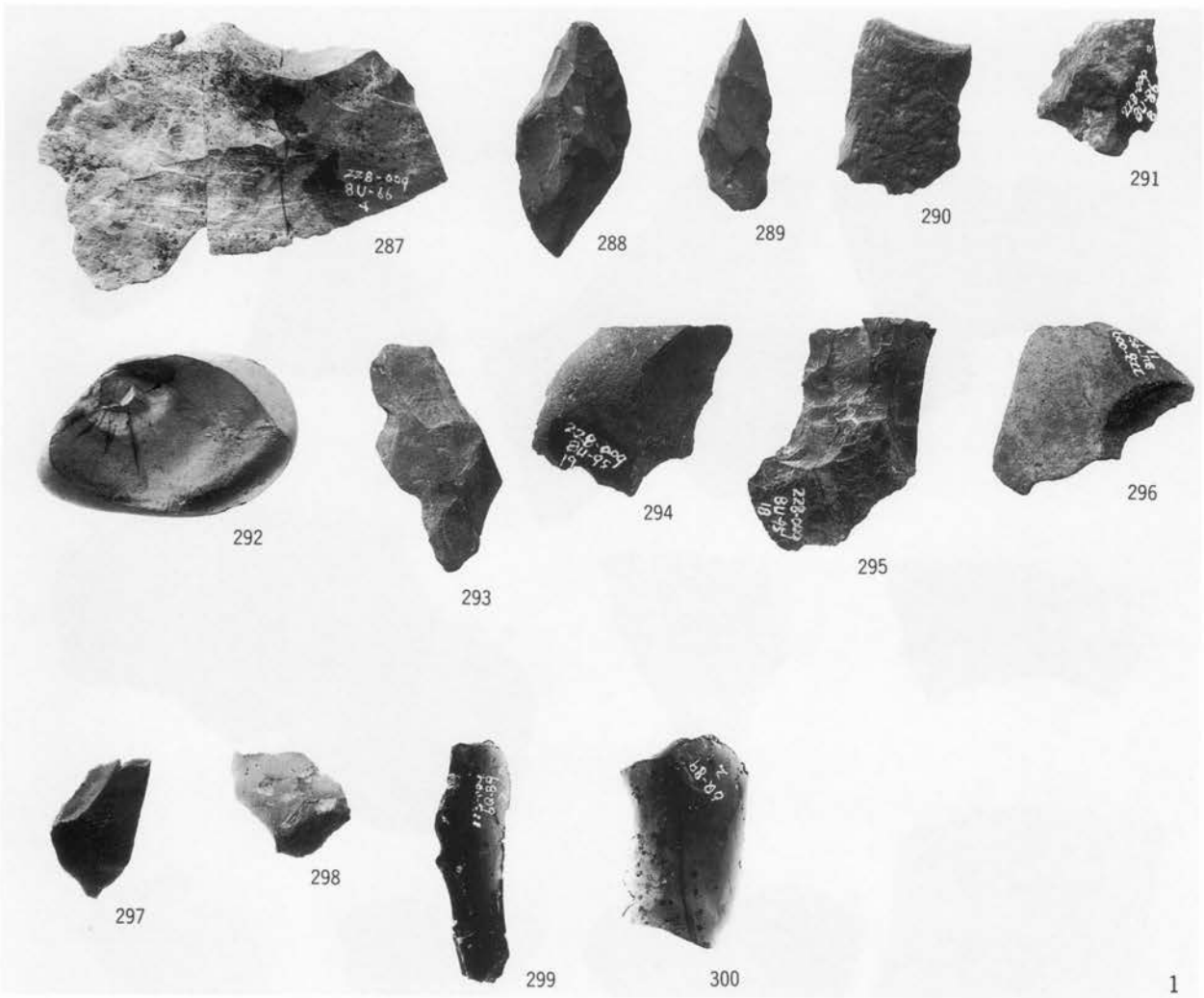
第1文化層 集中12（217～221）・集中13（222～227）・集中14（228～231）出土石器

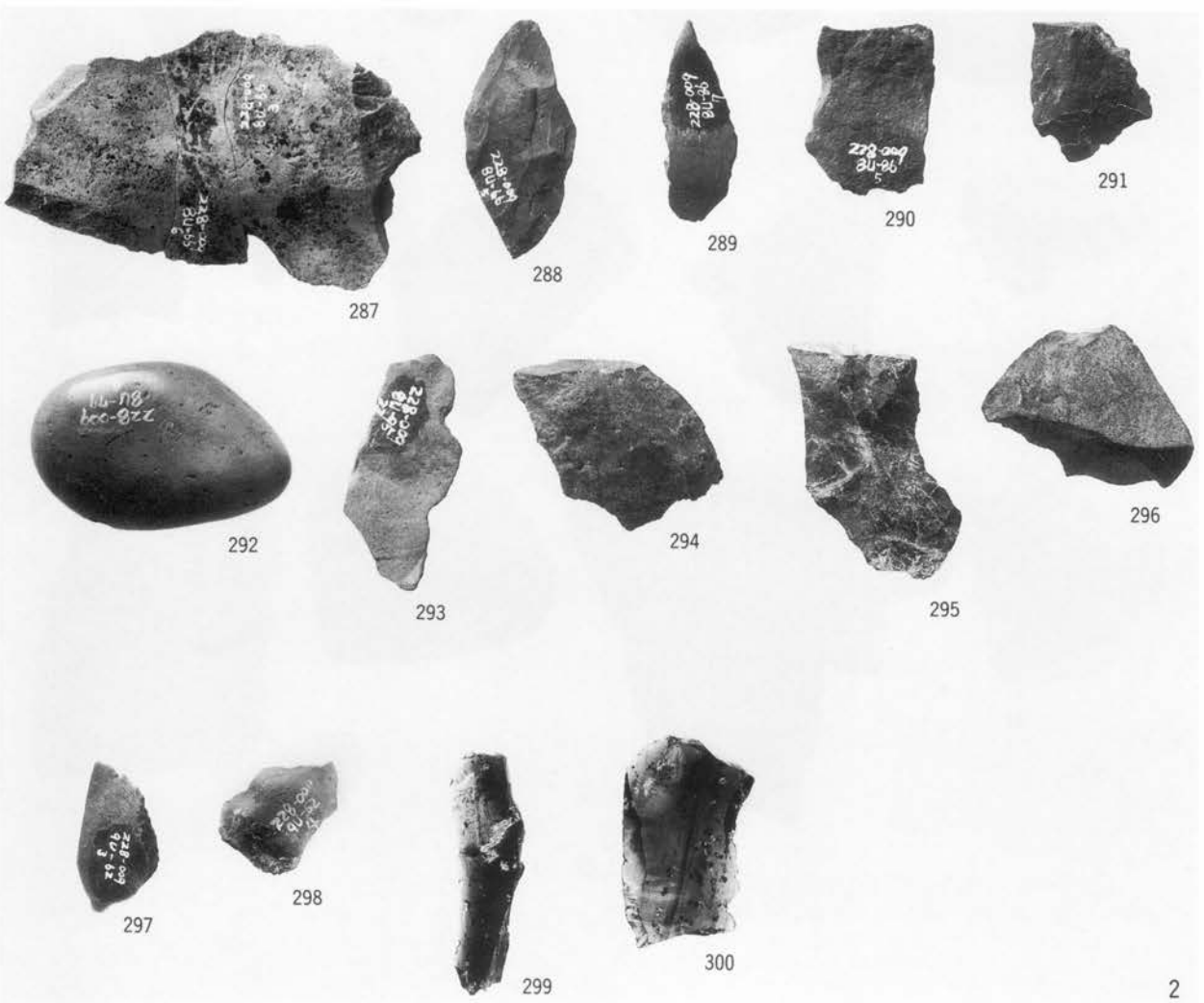


第２文化層 集中15（232～236）・集中16（237）・ 集中17（237～247）出土石器

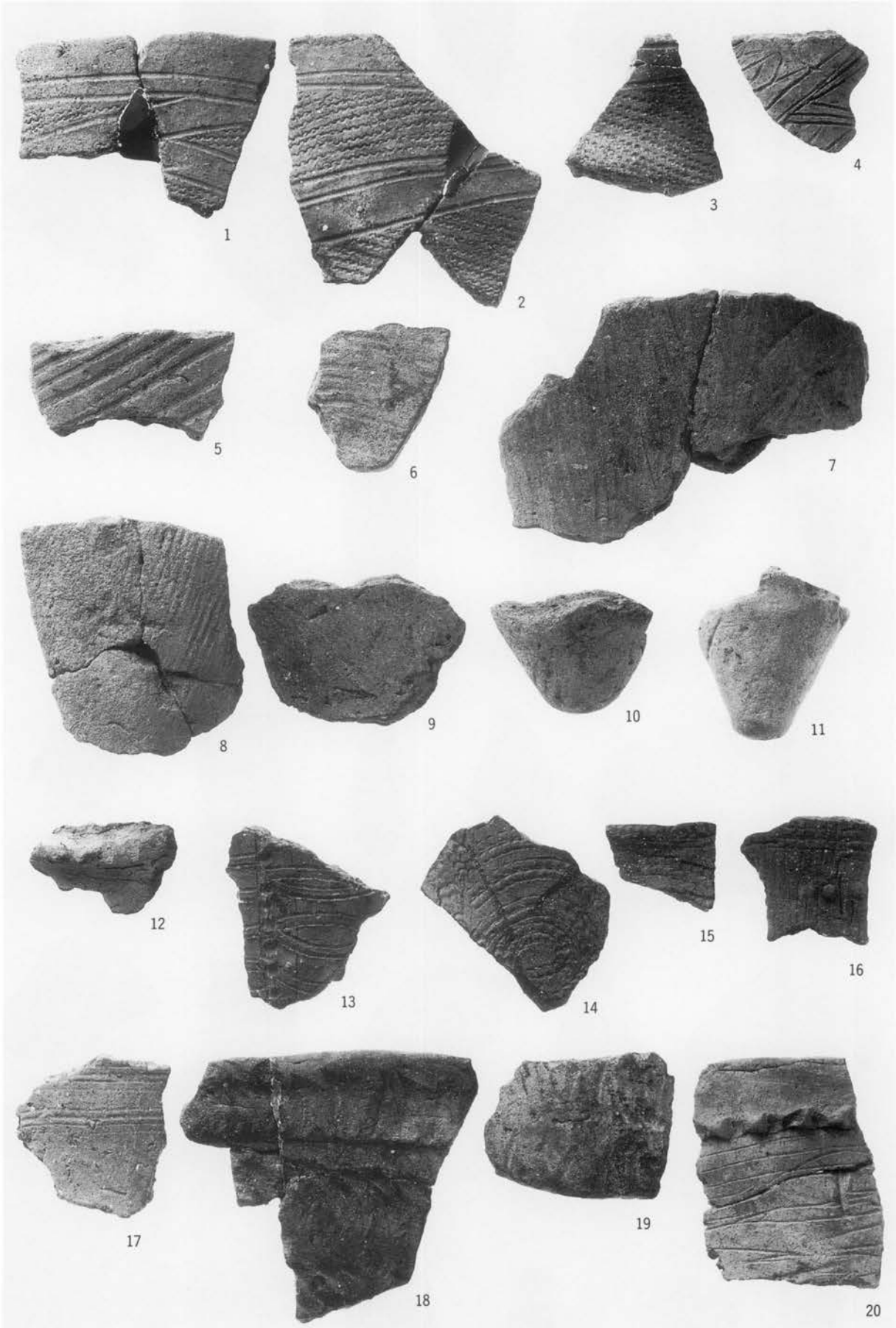


第 3 文化層 集中18（248～272）・集中19（273・274）・第 4 文化層 集中20（275～286）出土石器

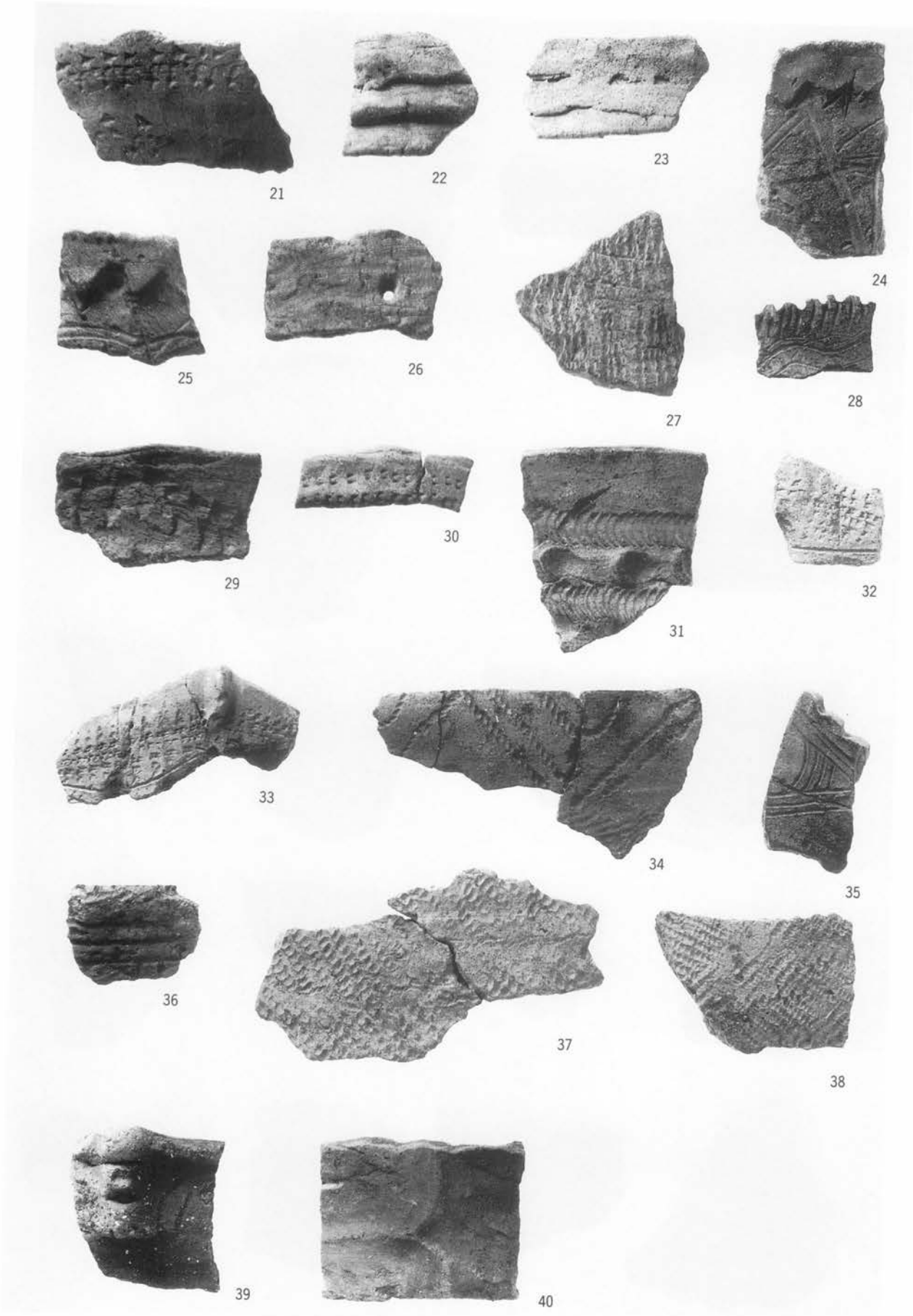




第５文化層 集中21－(１)・(２)・(３)出土石器他

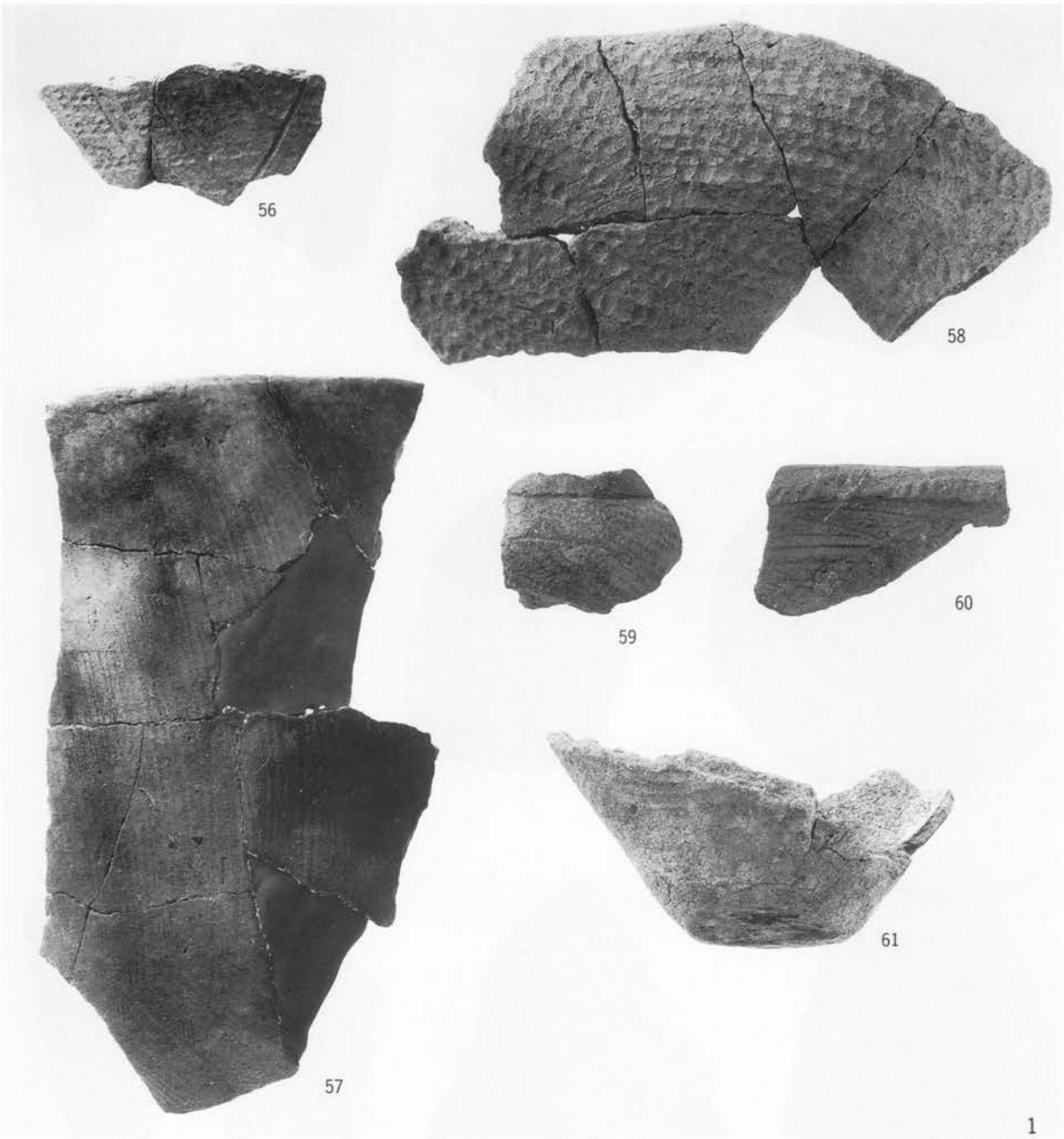


縄文土器（1）

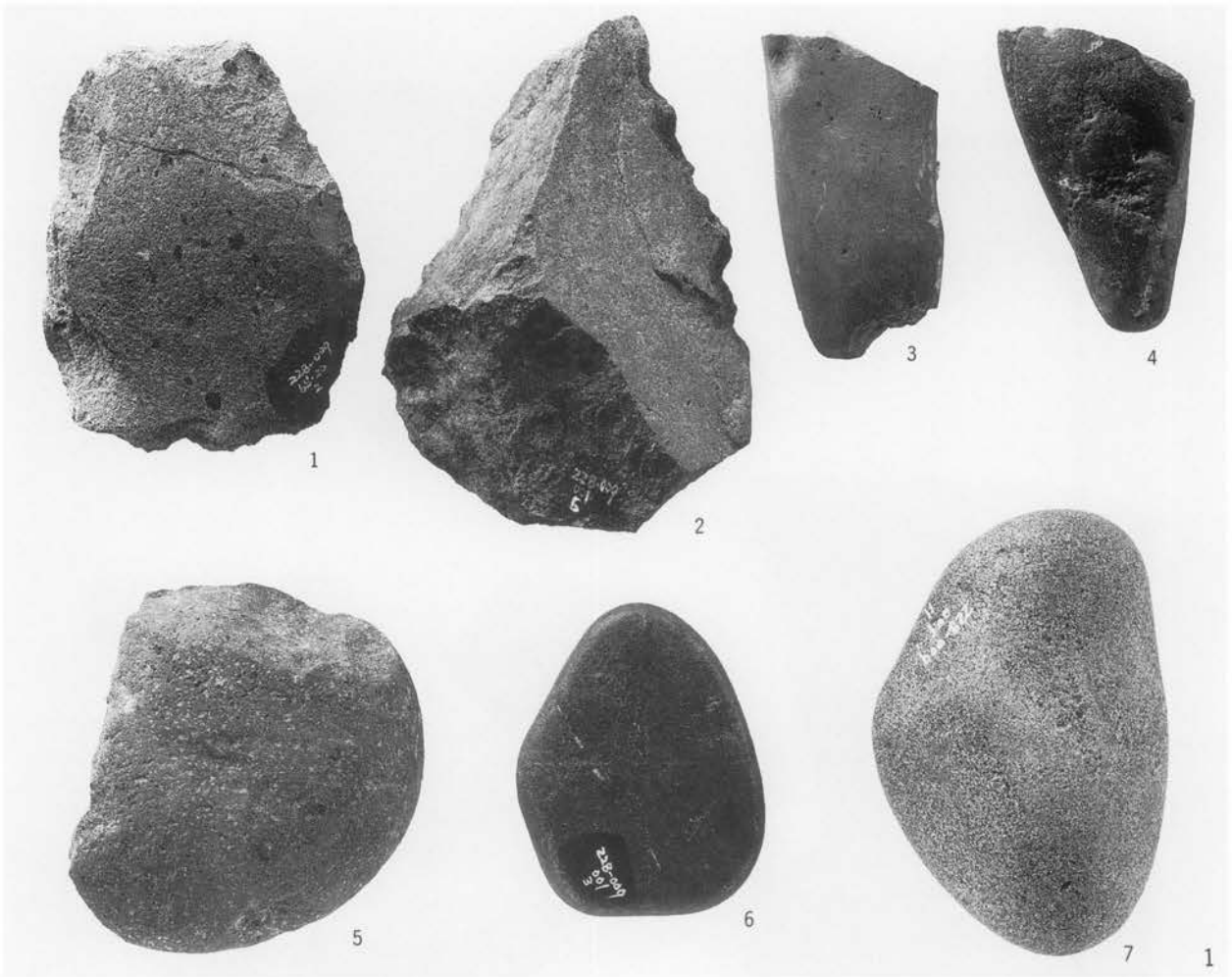


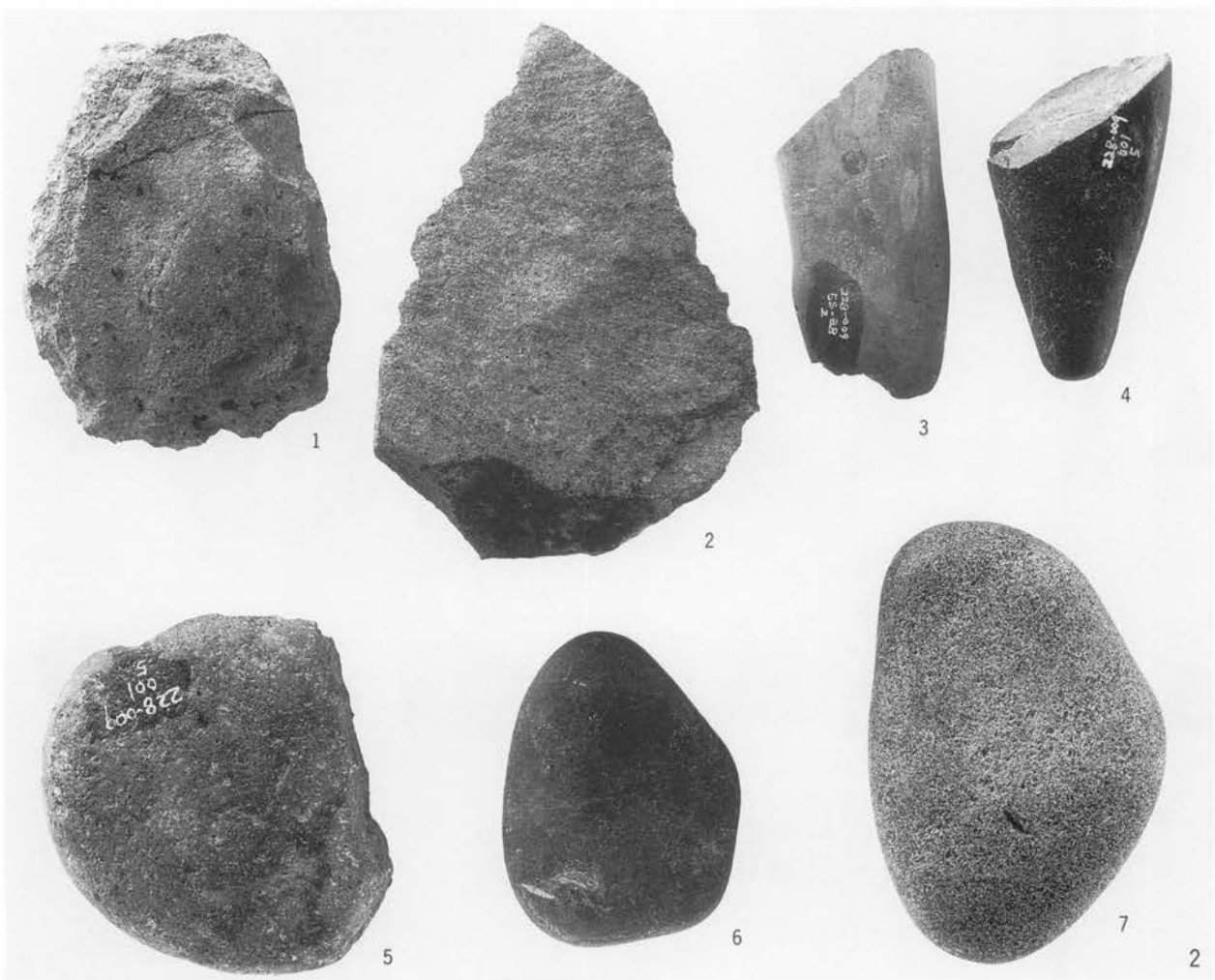
縄文土器（2）

縄文土器（3）



縄文土器（4）　縄文石器（1）





縄文石器（2）

1

2

3

4

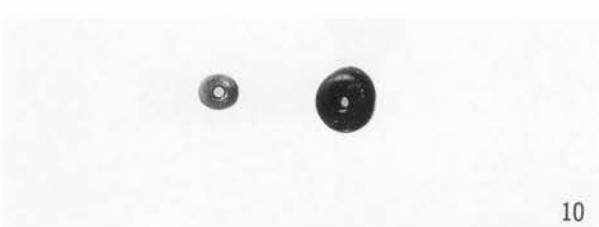
5

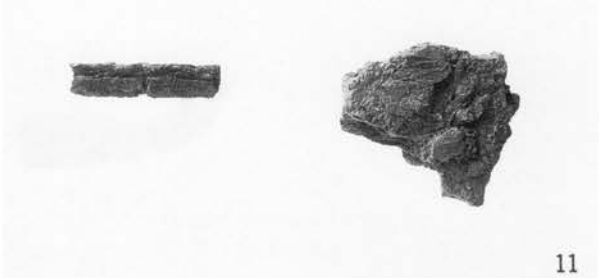
6

7

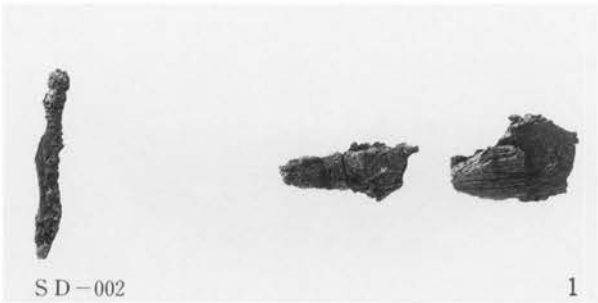
9

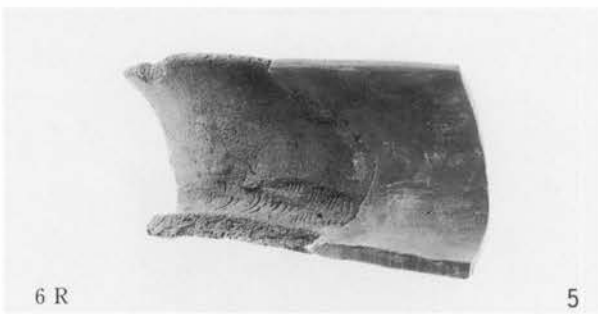
8


10


11

S X001 出土遺物





SD－002・004、SK－011　グリッド出土遺物

報告書抄録

ふりがな	よつかいどうしでぐちかねづかいせき
書名	四街道市出口・鐘塚遺跡
副書名	物井地区埋蔵文化財調査報告書
巻次	II
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第357集
編著者名	岡田誠造
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番の2　☎043-422-8811
発行	西暦　1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
出口(でぐち)・鐘塚(かねづか)遺跡(いせき)	千葉県(ちばけん)四街道市(よつかいどうし)物井(ものい)字出口(あざでぐち)1404-1他	228	009	35度 40分 58秒	140度 11分 08秒	19860801～ 19870120	19,700m²	住宅・都市整備公団物井地区区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
出口・鐘塚	集落跡 古墳	旧石器時代	石器集中地点　22地点	垂飾様石製品、ナイフ形石器、局部磨製石斧、剝片	旧石器時代の石器群は、5枚の文化層から成ることがが確認された。この中で特に第1文化層からは多量の石器群とともに、垂飾様石製品が2点出土した。
		縄文時代	土坑1基	縄文土器(早期～後期)、石器	
		古墳時代～奈良・平安時代	円墳1基 方形周溝状遺構6基	埴輪片	
		中・近世	溝状遺構		

千葉県文化財センター調査報告第357集

四街道市出口・鐘塚遺跡

—物井地区埋蔵文化財調査報告書II—

平成11年3月31日　発行

編　　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　　行　住宅・都市整備公団千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1－3幕張テクノガーデンD棟

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印　　刷　株式会社　集　　賛　　舎